

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2003-171381

(43)Date of publication of application : 20.06.2003

(51)Int.Cl.

C07D491/048

A61K 31/4741

A61K 31/497

A61K 31/501

A61K 31/506

A61K 31/55

A61P 31/18

A61P 43/00

(21)Application number : 2002-278590

(71)Applicant : TAKEDA CHEM IND LTD

(22)Date of filing : 25.09.2002

(72)Inventor : KAWANO YASUHIKO

FUJII NOBUHIRO

KANZAKI NAOYUKI

IIZAWA YUJI

(30)Priority

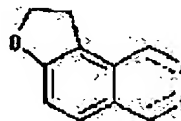
Priority number : 2001290675 Priority date : 25.09.2001 Priority country : JP

(54) ENTRY INHIBITORY AGENT

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To obtain an entry inhibitory agent having a new chemical structure, acting on a viral envelope to inhibit its membrane fusion with a cell membrane and expected to exhibit a prevention and treatment effectiveness against HIV infection, especially AIDS.

SOLUTION: This entry inhibitory agent contains a compound having a partial structure expressed by the formula (wherein either one of A and B is N and another one is C; and dotted line denotes a single bond or double bond).



BEST AVAILABLE COPY

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2003-171381

(P2003-171381A)

(43) 公開日 平成15年6月20日 (2003.6.20)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テマコード* (参考)
C 0 7 D 491/048		C 0 7 D 491/048	4 C 0 5 0
A 6 1 K 31/4741		A 6 1 K 31/4741	4 C 0 8 6
31/497		31/497	
31/501		31/501	
31/506		31/506	
審査請求 未請求 請求項の数18 O L (全 289 頁) 最終頁に続く			

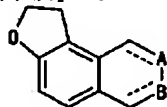
(21) 出願番号	特願2002-278590 (P2002-278590)	(71) 出願人	000002934 武田薬品工業株式会社 大阪府大阪市中央区道修町四丁目1番1号
(22) 出願日	平成14年9月25日 (2002.9.25)	(72) 発明者	川野 泰彦 大阪府吹田市檜切山21番D-402号
(31) 優先権主張番号	特願2001-290675 (P2001-290675)	(72) 発明者	藤井 伸寛 大阪府茨木市三島丘2丁目30番1-606号
(32) 優先日	平成13年9月25日 (2001.9.25)	(72) 発明者	神崎 直之 大阪府茨木市大正町2番15-203
(33) 優先権主張国	日本 (J P)	(74) 代理人	100114041 弁理士 高橋 秀一 (外1名)
		最終頁に続く	

(54) 【発明の名称】 エントリー阻害剤

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 新規な化学構造を有し、ウイルスエンベロープに作用して細胞膜との膜融合を阻害しH I V感染症、特にA I D Sの予防・治療効果が期待できるエントリー阻害剤の提供。

【解決手段】 式

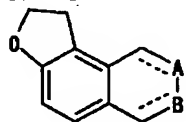


〔式中、A、Bのいずれか一方は窒素原子を他方は炭素原子を示し、--- は単結合または二重結合を示す〕で表わされる部分構造を有する化合物またはその塩を含有してなるエントリー阻害剤。

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 式

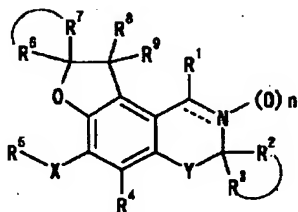
【化 1】



〔式中、A、Bのいずれか一方は窒素原子、他方は炭素原子を示し、--- は単結合または二重結合を示す〕で表

【請求項 2】 式

【化 2】



〔式中、R¹は(1)水素原子、(2)置換基を有していてもよい炭化水素基、(3)置換基を有していてもよい複素環基または(4)置換基を有していてもよいアミノ基を、R²およびR³はそれぞれ(1)水素原子、(2)置換基を有していてもよい炭化水素基または(3)アシル基を示し、R²とR³は隣接する炭素原子と共に置換基を有していてもよい3ないし8員環を形成してもよく、R⁴は(1)水素原子、(2)シアノ基、(3)置換基を有していてもよい炭化水素基、(4)アシル基または(5)置換基を有していてもよいヒドロキシ基を、R⁵は(1)水素原子、(2)置換基を有していてもよい炭化水素基、(3)アシル基、(4)置換基を有していてもよい複素環基または(5)ハロゲン原子を、R⁶およびR⁷はそれぞれ(1)水素原子または(2)置換基を有していてもよい炭化水素基を示し、R⁶とR⁷は隣接する炭素原子と共に置換基を有していてもよい3ないし8員環を形成してもよく、R⁸およびR⁹はそれぞれ(1)水素原子または(2)置換基を有していてもよい炭化水素基を、Xは(1)結合手、(2)酸素原子、(3)酸化されていてもよい硫黄原子または置換基を有していてもよい窒素原子を、Yは置換基を有していてもよいメチレン基を、nは0または1を、--- は単結合または二重結合を示す〕で表される化合物もしくはその塩またはそのプロドラッグを含有してなる請求項 1 記載の剤。

【請求項 3】 R¹が以下の(i)~(iii)のいずれかを示す：

- (i) (1)ハロゲン原子、(2)C₁₋₃ アルケンジオキシ基、(3)ニトロ基、(4)シアノ基、(5)ハロゲン化されていてもよいC₁₋₆ アルキル基、(6)ハロゲン化されていてもよいC₂₋₆ アルケニル基、(7)ハロゲン化されていてもよいC₂₋₆ アルキニル基、(8)C₃₋₆ シクロアルキル基、(9)C₆₋₁₄ アリール基、(10)ハロゲン化されていてもよいC₁₋₆ アル

- コキシ基、(11)ハロゲン化されていてもよいC₁₋₆ アルキルチオ基、(12)ヒドロキシ基、(13)アミノ基、(14)モノ-C₁₋₆ アルキルアミノ基、(15)モノ-C₆₋₁₄ アリールアミノ基、(16)ジ-C₁₋₆ アルキルアミノ基、(17)ジ-C₆₋₁₄ アリールアミノ基、(18)ホルミル、カルボキシ、カルバモイル、C₁₋₆ アルキル-カルボニル、C₃₋₆ シクロアルキル-カルボニル、C₁₋₆ アルコキシ-カルボニル、C₆₋₁₄ アリール-カルボニル、C₇₋₁₆ アラルキル-カルボニル、C₆₋₁₄ アリールオキシ-カルボニル、C₇₋₁₆ アラルキルオキシ-カルボニル、炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子および酸素原子から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する5または6員複素環カルボニル、モノ-C₁₋₆ アルキル-カルバモイル、ジ-C₁₋₆ アルキル-カルバモイル、C₆₋₁₄ アリール-カルバモイル、炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子および酸素原子から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する5または6員複素環カルバモイル、C₁₋₆ アルキル-チオカルボニル、C₃₋₆ シクロアルキル-チオカルボニル、C₁₋₆ アルコキシ-チオカルボニル、C₆₋₁₄ アリール-チオカルボニル、C₇₋₁₆ アラルキル-チオカルボニル、C₆₋₁₄ アリールオキシ-チオカルボニル、C₇₋₁₆ アラルキルオキシ-チオカルボニル、炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子および酸素原子から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する5または6員複素環チオカルボニル、チオカルバモイル、モノ-C₁₋₆ アルキル-チオカルバモイル、ジ-C₁₋₆ アルキル-チオカルバモイル、C₆₋₁₄ アリール-チオカルバモイル、炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子および酸素原子から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する5または6員複素環チオカルバモイル、モノ-C₁₋₆ アルキルスルファモイル、ジ-C₁₋₆ アルキルスルファモイル、C₆₋₁₄ アリールスルファモイル、C₁₋₆ アルキルスルホニル、C₆₋₁₄ アリールスルホニル、C₁₋₆ アルキルスルフィニル、C₆₋₁₄ アリールスルフィニル、スルフィノ、スルホ、C₁₋₆ アルコキシスルフィニル、C₆₋₁₄ アリールオキシスルフィニル、C₁₋₆ アルコキシスルホニルおよびC₆₋₁₄ アリールオキシスルホニルから選ばれるアシル基、(19)ホルミルアミノ、C₁₋₆ アルキル-カルボキサミド、C₆₋₁₄ アリール-カルボキサミド、C₁₋₆ アルコキシ-カルボキサミド、C₁₋₆ アルキルスルホニルアミノおよびC₆₋₁₄ アリールスルホニルアミノから選ばれるアシルアミノ基、(20)C₁₋₆ アルキル-カルボニルオキシ、C₆₋₁₄ アリール-カルボニルオキシ、C₁₋₆ アルコキシ-カルボニルオキシ、モノ-C₁₋₆ アルキル-カルバモイルオキシ、ジ-C₁₋₆ アルキル-カルバモイルオキシ、C₆₋₁₄ アリール-カルバモイルオキシおよびニコチノイルオキシから選ばれるアシルオキシ基、(21)炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子および酸素原子から選ばれる1ないし4個のヘテロ原子を含有する4ないし14員複素環基、(22)ホスホノ基、(23)C₆₋₁₄ アリールオキシ基、(24)ジ-C₁₋₆ アルコキシ-ホスホリル基、(25)C₆₋₁₄ アリールチオ基、(26)ヒドラジノ基、(27)イミノ基、(2

8) オキソ基、(29) ウレイド基、(30) C_{1-6} アルキル-ウレイド基、(31) ジ- C_{1-6} アルキル-ウレイド基、(32) オキシド基および(33) 前記(1)～(32)の基から選ばれる2ないし3個が結合してできる基などからなる群（以下、置換基A群と略記する）から選ばれる置換基を1ないし5個それぞれ有していてもよい C_{1-6} アルキル基、 C_{2-6} アルケニル基、 C_{2-6} アルキニル基、 C_{3-6} シクロアルキル基、 C_{3-6} シクロアルケニル基、 C_{6-14} アリール基または C_{7-16} アラルキル基、(ii) 前記置換基A群から選ばれる置換基を1ないし5個有していてもよい炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子および酸素原子から選ばれるヘテロ原子を1ないし4個含む5ないし14員複素環基、(iii) 以下の(ia)～(iiia)から選ばれる1または2個の置換基を有していてもよいアミノ基：

(ia) 水素原子、(iia) 前記置換基A群から選ばれる置換基を1ないし5個それぞれ有していてもよい C_{1-6} アルキル基、 C_{2-6} アルケニル基、 C_{2-6} アルキニル基、 C_{3-6} シクロアルキル基、 C_{3-6} シクロアルケニル基、 C_{6-14} アリール基または C_{7-16} アラルキル基、(iia) 前記置換基A群から選ばれる置換基を1ないし5個有していてもよい、ホルミル、カルボキシ、カルバモイル、 C_{1-6} アルキル-カルボニル、 C_{3-6} シクロアルキル-カルボニル、 C_{1-6} アルコキシ-カルボニル、 C_{6-14} アリール-カルボニル、 C_{7-16} アラルキル-カルボニル、 C_{6-14} アリールオキシ-カルボニル、 C_{7-16} アラルキルオキシ-カルボニル、炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子および酸素原子から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する5または6員複素環カルボニル、モノ- C_{1-6} アルキル-カルバモイル、ジ- C_{1-6} アルキル-カルバモイル、 C_{6-14} アリール-カルバモイル、炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子および酸素原子から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する5または6員複素環カルバモイル、 C_{1-6} アルキル-チオカルボニル、 C_{3-6} シクロアルキル-チオカルボニル、 C_{1-6} アルコキシ-チオカルボニル、 C_{6-14} アリール-チオカルボニル、 C_{7-16} アラルキル-チオカルボニル、 C_{6-14} アリールオキシ-チオカルボニル、 C_{7-16} アラルキルオキシ-チオカルボニル、炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子および酸素原子から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する5または6員複素環チオカルボニル、チオカルバモイル、モノ- C_{1-6} アルキル-チオカルバモイル、ジ- C_{1-6} アルキル-チオカルバモイル、 C_{6-14} アリール-チオカルバモイル、炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子および酸素原子から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する5または6員複素環チオカルバモイル、モノ- C_{1-6} アルキルスルファモイル、ジ- C_{1-6} アルキルスルファモイル、 C_{6-14} アリールスルファモイル、 C_{1-6} アルキルスルホニル、 C_{6-14} アリールスルホニル、 C_{1-6} アルキルスルフィニル、 C_{6-14} アリールスルフィニル、スルフィノ、スルホ、 C_{1-6} アルコキシスルフィニル、 C_{6-14} アリールオキシスルフィニル、 C_{1-6} アルコキシスルホニルお

10

20

30

40

50

よび C_{6-14} アリールオキシスルホニルから選ばれるアシル基； R^2 および R^3 がそれぞれ以下の(i)～(iii)のいずれかを示す：

(i) 水素原子、(ii) 前記置換基A群から選ばれる置換基を1ないし5個それぞれ有していてもよい C_{1-6} アルキル基、 C_{2-6} アルケニル基、 C_{2-6} アルキニル基、 C_{3-6} シクロアルキル基、 C_{3-6} シクロアルケニル基、 C_{6-14} アリール基または C_{7-16} アラルキル基、(iii) 前記置換基A群から選ばれる置換基を1ないし5個有していてもよい、ホルミル、カルボキシ、カルバモイル、 C_{1-6} アルキル-カルボニル、 C_{3-6} シクロアルキル-カルボニル、 C_{1-6} アルコキシ-カルボニル、 C_{6-14} アリール-カルボニル、 C_{7-16} アラルキル-カルボニル、 C_{6-14} アリールオキシ-カルボニル、 C_{7-16} アラルキルオキシ-カルボニル、炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子および酸素原子から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する5または6員複素環カルボニル、モノ- C_{1-6} アルキル-カルバモイル、ジ- C_{1-6} アルキル-カルバモイル、 C_{6-14} アリール-カルバモイル、炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子および酸素原子から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する5または6員複素環カルバモイル、 C_{1-6} アルキル-チオカルボニル、 C_{3-6} シクロアルキル-チオカルボニル、 C_{1-6} アルコキシ-チオカルボニル、 C_{6-14} アリール-チオカルボニル、 C_{7-16} アラルキル-チオカルボニル、 C_{6-14} アリールオキシ-チオカルボニル、 C_{7-16} アラルキルオキシ-チオカルボニル、炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子および酸素原子から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する5または6員複素環チオカルボニル、チオカルバモイル、モノ- C_{1-6} アルキル-チオカルバモイル、ジ- C_{1-6} アルキル-チオカルバモイル、 C_{6-14} アリール-チオカルバモイル、炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子および酸素原子から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する5または6員複素環チオカルバモイル、モノ- C_{1-6} アルキルスルファモイル、ジ- C_{1-6} アルキルスルファモイル、 C_{6-14} アリールスルファモイル、 C_{1-6} アルキルスルホニル、 C_{6-14} アリールスルホニル、 C_{1-6} アルキルスルフィニル、 C_{6-14} アリールスルフィニル、スルフィノ、スルホ、 C_{1-6} アルコキシスルフィニル、 C_{6-14} アリールオキシスルフィニル、 C_{1-6} アルコキシスルホニルおよび C_{6-14} アリールオキシスルホニルから選ばれるアシル基； R^2 と R^3 は隣接する炭素原子と共に、 C_{1-6} アルキル、 C_{6-14} アリール、 C_{7-16} アラルキル、アミノ、モノ- C_{1-6} アルキルアミノ、モノ- C_{6-14} アリールアミノ、ジ- C_{1-6} アルキルアミノ、ジ- C_{6-14} アリールアミノおよび4ないし10員芳香族複素環基から選ばれる置換基を1ないし3個それぞれ有していてもよい C_{3-6} シクロアルカンまたは3ないし8員複素環を形成してもよく； R^4 が(i) 水素原子、(ii) シアノ基、(iii) 前記置換基A群から選ばれる置換基を1ないし5個それぞれ有していてもよい C_{1-6} アルキル基、 C_{2-6} アルケニル基、 C_{2-6} アルキニル基、 C

50

炭素原子、硫黄原子および酸素原子から選ばれる 1 ないし 3 個のヘテロ原子を含有する 5 または 6 員複素環カルバモイル、 C_{1-6} アルキル-チオカルボニル、 C_{3-6} シクロアルキル-チオカルボニル、 C_{1-6} アルコキシ-チオカルボニル、 C_{6-14} アリール-チオカルボニル、 C_{7-16} アラルキル-チオカルボニル、 C_{6-14} アリールオキシ-チオカルボニル、 C_{7-16} アラルキルオキシ-チオカルボニル、炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子および酸素原子から選ばれる 1 ないし 3 個のヘテロ原子を含有する 5 または 6 員複素環チオカルボニル、チオカルバモイル、モノ- C_{1-6} アルキル-チオカルバモイル、ジ- C_{1-6} アルキル-チオカルバモイル、 C_{6-14} アリール-チオカルバモイル、炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子および酸素原子から選ばれる 1 ないし 3 個のヘテロ原子を含有する 5 または 6 員複素環チオカルバモイル、モノ- C_{1-6} アルキルスルファモイル、ジ- C_{1-6} アルキルスルファモイル、 C_{6-14} アリールスルファモイル、 C_{1-6} アルキルスルホニル、 C_{6-14} アリールスルホニル、 C_{1-6} アルキルスルフィニル、 C_{6-14} アリールスルフィニル、スルフィノ、スルホ、 C_{1-6} アルコキシスルフィニル、 C_{6-14} アリールオキシスルフィニル、 C_{1-6} アルコキシスルホニルおよび C_{6-14} アリールオキシスルホニルから選ばれるアシル基を示す) で表される基を； R^5 が以下の(i)～(v)のいずれかを示す：

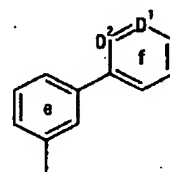
(i) 水素原子、(ii) 前記置換基A群から選ばれる置換基を 1 ないし 5 個それぞれ有していてもよい C_{1-6} アルキル基、 C_{2-6} アルケニル基、 C_{2-6} アルキニル基、 C_{3-6} シクロアルキル基、 C_{3-6} シクロアルケニル基、 C_{6-14} アリール基または C_{7-16} アラルキル基、(iii) 前記置換基A群から選ばれる置換基を 1 ないし 5 個有していてもよい、ホルミル、カルボキシ、カルバモイル、 C_{1-6} アルキル-カルボニル、 C_{3-6} シクロアルキル-カルボニル、 C_{1-6} アルコキシ-カルボニル、 C_{6-14} アリール-カルボニル、 C_{7-16} アラルキル-カルボニル、 C_{6-14} アリールオキシ-カルボニル、 C_{7-16} アラルキルオキシ-カルボニル、炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子および酸素原子から選ばれる 1 ないし 3 個のヘテロ原子を含有する 5 または 6 員複素環カルボニル、モノ- C_{1-6} アルキル-カルバモイル、ジ- C_{1-6} アルキル-カルバモイル、 C_{6-14} アリール-カルバモイル、炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子および酸素原子から選ばれる 1 ないし 3 個のヘテロ原子を含有する 5 または 6 員複素環カルバモイル、 C_{1-6} アルキル-チオカルボニル、 C_{3-6} シクロアルキル-チオカルボニル、 C_{1-6} アルコキシ-チオカルボニル、 C_{6-14} アリール-チオカルボニル、 C_{7-16} アラルキル-チオカルボニル、 C_{6-14} アリールオキシ-チオカルボニル、 C_{7-16} アラルキルオキシ-チオカルボニル、炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子および酸素原子から選ばれる 1 ないし 3 個のヘテロ原子を含有する 5 または 6 員複素環チオカルボニル、チオカルバモイル、モノ- C_{1-6} アルキル-チオカルバモイル、ジ- C_{1-6} アルキル-チオカルバモイル、 C_{6-14} アリール-チオカル

ルバモイル、炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子および酸素原子から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する5または6員複素環チオカルバモイル、モノ-C₁₋₆ アルキルスルファモイル、ジ-C₁₋₆ アルキルスルファモイル、C₆₋₁₄ アリールスルファモイル、C₁₋₆ アルキルスルホニル、C₆₋₁₄ アリールスルホニル、C₁₋₆ アルキルスルフィニル、C₆₋₁₄ アリールスルフィニル、スルフィノ、スルホ、C₁₋₆ アルコキシスルフィニル、C₆₋₁₄ アリールオキシスルフィニル、C₁₋₆ アルコキシスルホニルおよびC₆₋₁₄ アリールオキシスルホニルから選ばれるアシル基、(iv)前記置換基A群から選ばれる置換基を1ないし5個有していてもよい炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子および酸素原子から選ばれるヘテロ原子を1ないし4個含む5ないし14員複素環、(v)ハロゲン原子；R⁶およびR⁷がそれぞれ(i)水素原子または(ii)前記置換基A群から選ばれる置換基を1ないし5個それぞれ有していてもよいC₁₋₆ アルキル基、C₂₋₆ アルケニル基、C₂₋₆ アルキニル基、C₃₋₆ シクロアルキル基、C₃₋₆ シクロアルケニル基、C₆₋₁₄ アリール基またはC₇₋₁₆ アラルキル基を示し、R⁶とR⁷は隣接する炭素原子と共に、C₁₋₆ アルキル、C₆₋₁₄ アリール、C₇₋₁₆ アラルキル、アミノ、モノ-C₁₋₆ アルキルアミノ、モノ-C₆₋₁₄ アリールアミノ、ジ-C₁₋₆ アルキルアミノ、ジ-C₆₋₁₄ アリールアミノおよび4ないし10員芳香族複素環基から選ばれる置換基を1ないし3個それぞれ有していてもよいC₃₋₆ シクロアルカンまたは3ないし8員複素環を形成してもよく；R⁸およびR⁹がそれぞれ(i)水素原子または(ii)前記置換基A群から選ばれる置換基を1ないし5個それぞれ有していてもよいC₁₋₆ アルキル基、C₂₋₆ アルケニル基、C₂₋₆ アルキニル基、C₃₋₆ シクロアルキル基、C₃₋₆ シクロアルケニル基、C₆₋₁₄ アリール基またはC₇₋₁₆ アラルキル基を；Xが(i)結合手、(ii)酸素原子、(iii)酸化されていてもよい硫黄原子、(iv)前記置換基A群から選ばれる置換基を1ないし5個それぞれ有していてもよいC₁₋₆ アルキル基、C₂₋₆ アルケニル基、C₂₋₆ アルキニル基、C₃₋₆ シクロアルキル基、C₃₋₆ シクロアルケニル基、C₆₋₁₄ アリール基またはC₇₋₁₆ アラルキル基を有していてもよい窒素原子、(v)前記置換基A群から選ばれる置換基を1ないし5個有していてもよい、ホルミル、カルボキシ、カルバモイル、C₁₋₆ アルキル-カルボニル、C₃₋₆ シクロアルキル-カルボニル、C₁₋₆ アルコキシ-カルボニル、C₆₋₁₄ アリール-カルボニル、C₇₋₁₆ アラルキル-カルボニル、C₆₋₁₄ アリールオキシ-カルボニル、C₇₋₁₆ アラルキルオキシ-カルボニル、炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子および酸素原子から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する5または6員複素環カルボニル、モノ-C₁₋₆ アルキル-カルバモイル、ジ-C₁₋₆ アルキル-カルバモイル、C₆₋₁₄ アリール-カルバモイル、炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子および酸素原子から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する5または6員複素環カルバモイル、C₁₋₆ ア

ルキル-チオカルボニル、C₃₋₆ シクロアルキル-チオカルボニル、C₁₋₆ アルコキシ-チオカルボニル、C₆₋₁₄ アリール-チオカルボニル、C₇₋₁₆ アラルキル-チオカルボニル、C₆₋₁₄ アリールオキシ-チオカルボニル、C₇₋₁₆ アラルキルオキシ-チオカルボニル、炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子および酸素原子から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する5または6員複素環チオカルボニル、チオカルバモイル、モノ-C₁₋₆ アルキル-チオカルバモイル、ジ-C₁₋₆ アルキル-チオカルバモイル、C₆₋₁₄ アリール-チオカルバモイル、炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子および酸素原子から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する5または6員複素環チオカルバモイル、モノ-C₁₋₆ アルキルスルファモイル、ジ-C₁₋₆ アルキルスルファモイル、C₆₋₁₄ アリールスルファモイル、C₁₋₆ アルキルスルホニル、C₆₋₁₄ アリールスルホニル、C₁₋₆ アルキルスルフィニル、C₆₋₁₄ アリールスルフィニル、スルフィノ、スルホ、C₁₋₆ アルコキシスルフィニル、C₆₋₁₄ アリールオキシスルフィニル、C₁₋₆ アルコキシスルホニルおよびC₆₋₁₄ アリールオキシスルホニルから選ばれるアシル基を有する窒素原子または(vi)前記置換基A群から選ばれる置換基を1ないし5個有していてもよい炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子および酸素原子から選ばれるヘテロ原子を1ないし4個含む5ないし14員複素環基を有する窒素原子を；Yが前記置換基A群から選ばれる置換基を有していてもよいメチレン基を；nが0または1を示す請求項2記載の剤。

【請求項4】R¹が式

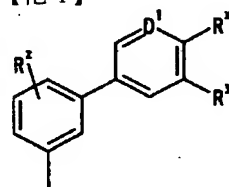
【化3】



【式中、環eおよび環fは置換基を有していてもよく、D¹およびD²は、ともにメチンまたは一方がメチン、他方が窒素原子を示す】で表される基である請求項2記載の剤。

【請求項5】R¹が式

【化4】

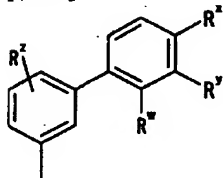


【式中、D¹はメチンまたは窒素原子を、R²は(1)アミノ基、(2)式-NHCOR² (R²は、(1')水素原子、(2')C₇₋₁₆ アラルキル基または(3')モノC₁₋₆ アシルアミノで置換されていてもよいC₁₋₆ アルキル基を示す) または

(3)式-COR^z (R^z は、(1')C₁₋₆ アルコキシ基、(2')ヒドロキシ基または(3')C₁₋₆ アルキルで置換されていてもよいアミノ基を示す)を、R¹は(1)水素原子、(2)ハロゲン原子または(3)C₁₋₆ アルキルでエステル化されていてもよいカルボキシ基を、R²は(1)水素原子、(2)ヒドロキシ基、(3)アミノ基、(4)C₁₋₆ アルコキシカルボニルまたはカルボキシで置換されていてもよいC₁₋₆ アルコキシ基を示す]で表される基、R³が水素原子またはC₁₋₆ アルキル基、R⁴が水素原子またはC₁₋₆ アルキル基、R⁵が水素原子、R⁶が(1)水素原子、(2)C₁₋₆ アルキル基、(3)C₆₋₁₄ アリール基または(4)ハロゲン化されていてもよいC₁₋₆ アルキルスルホニル基、R⁷が水素原子またはC₁₋₆ アルキル基、R⁸が水素原子またはC₁₋₆ アルキル基、R⁹が水素原子、Xが(1)結合手、(2)酸素原子または(3)硫黄原子、Yがメチレン基、-C(CH₃)₂-, -CH(OCH₃)-, -CH(OH)-またはカルボニル基、nが0または1である請求項2記載の剤。

【請求項6】R¹が式

【化5】



【式中R^zは水素原子またはC₁₋₆ アルキルでエステル化されていてもよいカルボキシ基を、R²は(1)アミノ基、(2)式-NHCOR^z (R^z は、(1')水素原子、(2')C₁₋₁₆ アルキル、(3')モノC₁₋₆ アシルアミノで置換されていてもよいC₁₋₆ アルキル基を示す)、(3)モノC₁₋₆ アルキルカルバモイル基、(4)ヒドロキシ基または(5)(1')カルボキシ、(2')C₁₋₆ アルコキシカルボニルまたは(3')モノC₁₋₆ アルキルカルバモイルで置換されていてもよいC₁₋₆ アルコキシ基を、R³は(1)水素原子、(2)ハロゲン原子または(3)C₁₋₆ アルコキシカルボニル基を、R⁴は(1)水素原子、(2)ヒドロキシ基、(3)アミノ基、(4)C₁₋₆ アルコキシカルボニルまたはカルボキシで置換されていてもよいC₁₋₆ アルコキシ基、(5)シアノ基、(6)C₁₋₆ アルキルでエステル化されていてもよいカルボキシ基または(7)カルバモイル基を示す]で表される基、R⁵が水素原子またはC₁₋₆ アルキル基、R⁶が水素原子またはC₁₋₆ アルキル基、R⁷が(1)水素原子または(2)(1')シアノ、(2')カルボキシ、または(3')C₁₋₆ アルコキシカルボニルで置換されていてもよいC₁₋₆ アルキル基、R⁸が(1)水素原子、(2)C₁₋₆ アルキル基または(3)C₆₋₁₄ アリール基、R⁹が(1)水素原子または(2)C₁₋₆ アルキル基、R¹⁰が水素原子、Xが結合手、酸素原子または硫黄原子、Yがメチレン基、-C(CH₃)₂-, -CH(OCH₃)-, -CH(OH)-またはカル

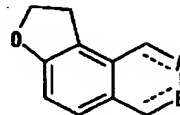
ボニル基、nが0または1である請求項2記載の剤。

【請求項7】HIV感染症の予防・治療剤である請求項1記載の剤。

【請求項8】AIDSの予防・治療剤である請求項1記載の剤。

【請求項9】哺乳動物に対して式

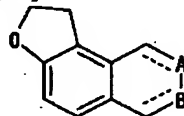
【化6】



【式中、A、Bのいずれか一方は窒素原子、他方は炭素原子を示し、--- は単結合または二重結合を示す]で表わされる部分構造を有する化合物またはその塩の有効量を投与することを特徴とするHIV感染症の予防・治療方法。

【請求項10】哺乳動物に対して式

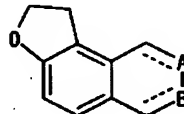
【化7】



【式中、A、Bのいずれか一方は窒素原子、他方は炭素原子を示し、--- は単結合または二重結合を示す]で表わされる部分構造を有する化合物またはその塩の有効量を投与することを特徴とするAIDSの予防・治療方法。

【請求項11】HIV感染症の予防・治療剤を製造するための式

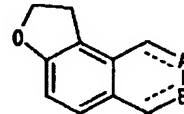
【化8】



【式中、A、Bのいずれか一方は窒素原子、他方は炭素原子を示し、--- は単結合または二重結合を示す]で表わされる部分構造を有する化合物またはその塩の使用。

【請求項12】AIDSの予防・治療剤を製造するための式

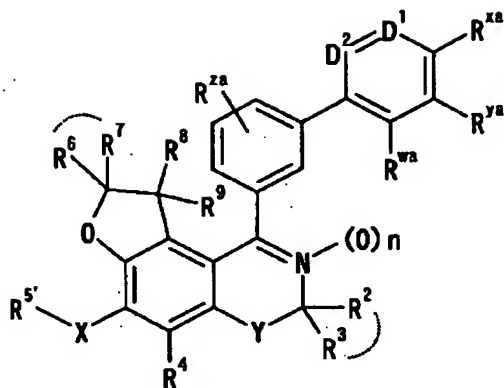
【化9】



【式中、A、Bのいずれか一方は窒素原子、他方は炭素原子を示し、--- は単結合または二重結合を示す]で表わされる部分構造を有する化合物またはその塩の使用。

【請求項13】式

【化10】

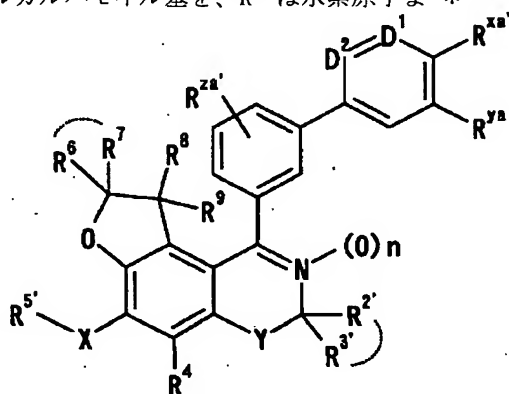


〔式中、 D^1 および D^2 は、ともにメチンまたは一方がメチン、他方が窒素原子を、 R^2 および R^3 はそれぞれ水素原子、置換基を有していてもよい炭化水素基またはアシル基を示し、 R^2 と R^3 は隣接する炭素原子と共に置換基を有していてもよい3ないし8員環を形成してもよく、 R^4 は水素原子、シアノ基、置換基を有していてもよい炭化水素基、アシル基または置換基を有していてもよいヒドロキシ基を、 R^5 は置換基を有していてもよい C_{1-3} アルキル基、置換基を有していてもよい C_{6-11} アリール基、置換基を有していてもよい複素環基またはハロゲン原子を、 R^6 および R^7 はそれぞれ水素原子または置換基を有していてもよい炭化水素基を示し、 R^6 と R^7 は隣接する炭素原子と共に置換基を有していてもよい3ないし8員環を形成してもよく、 R^8 および R^9 はそれぞれ水素原子または置換基を有していてもよい炭化水素基を、 X は結合手、酸素原子、酸化されていてもよい硫黄原子または置換基を有していてもよい窒素原子を、 Y は置換基を有していてもよいメチレン基を、 R^{2a} は水素原子または C_{1-6} アルキルでエステル化されていてもよいカルボキシ基を、 R^{2a} は(1)アミノ基、(2)式- $NHCO R^{2a}$ (R^{2a} は鎖状 C_{1-6} アルキル基または C_{7-16} アラルキル基を示す)、(3)ヒドロキシ基、(4)(1')カルボキシ、(2') C_{1-6} アルコキシカルボニルまたは(3')モノ C_{1-6} アルキルカルバモイルで置換されていてもよい C_{1-6} アルコキシまたは(5)モノ C_{1-6} アルキルカルバモイル基を、 R^{3a} は水素原子ま

またはハロゲン原子を、 R^{3a} は(1)水素原子、(2)ヒドロキシ基、(3)アミノ基、(4) C_{1-6} アルコキシカルボニルまたはカルボキシで置換されていてもよい C_{1-6} アルコキシ基、(5)シアノ基、(6)カルボキシ基、(7) C_{1-6} アルコキシカルボニル基または(8)カルバモイル基を、 n は0または1を示す(但し、3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-アミン、N-[3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-イル]アセトアミド、N-[3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-イル]プロパンアミド、N-メチル-3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-カルボキサミド、3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-4,4,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-アミンおよびN-[3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-4,4,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-イル]アセトアミドを除く)〕で表される化合物またはその塩。

【請求項14】式

【化11】



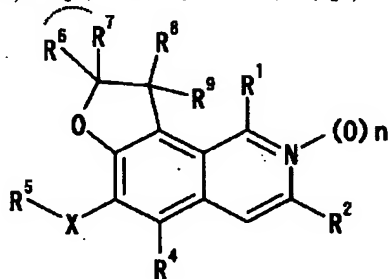
〔式中、 D^1 および D^2 は、ともにメチンまたは一方がメチン、他方が窒素原子を、 R^2 および R^3 はそれぞれ置換基を有していてもよい炭化水素基またはアシル基を示し、 R^2 と R^3 は隣接する炭素原子と共に置換基を有していてもよい3ないし8員環を形成してもよく、 R^4 は水素原子、シアノ基、置換基を有していてもよい炭化水素

基、 R^5 は置換基を有していてもよい C_{1-3} アルキル基、置換基を有していてもよい C_{6-11} アリール基、置換基を有していてもよい複素環基またはハロゲン原子を、 R^6 および R^7 はそれぞれ水素原子または置換基を有していてもよい炭化水素基を示し、 R^6 と R^7 は隣接する炭素原子と共に置換基を有していてもよい3ないし8員環を形成してもよく、 R^8 および R^9 はそれぞれ水素原子または置換基を有していてもよい炭化水素基を、 X は結合手、酸素原子、酸化されていてもよい硫黄原子または置換基を有していてもよい窒素原子を、 Y は置換基を有していてもよいメチレン基を、 R^{2a} は水素原子または C_{1-6} アルキルでエステル化されていてもよいカルボキシ基を、 R^{2a} は(1)アミノ基、(2)式- $NHCO R^{2a}$ (R^{2a} は鎖状 C_{1-6} アルキル基または C_{7-16} アラルキル基を示す)、(3)ヒドロキシ基、(4)(1')カルボキシ、(2') C_{1-6} アルコキシカルボニルまたは(3')モノ C_{1-6} アルキルカルバモイルで置換されていてもよい C_{1-6} アルコキシまたは(5)モノ C_{1-6} アルキルカルバモイル基を、 R^{3a} は水素原子ま

基、アシル基または置換基を有していてもよいヒドロキシ基を、 R^5 は置換基を有していてもよい C_{1-3} アルキル基、置換基を有していてもよい C_{6-14} アリール基、置換基を有していてもよい複素環基またはハロゲン原子を、 R^6 および R^7 はそれぞれ水素原子または置換基を有していてもよい炭化水素基を示し、 R^6 と R^7 は隣接する炭素原子と共に置換基を有していてもよい3ないし8員環を形成してもよく、 R^8 および R^9 はそれぞれ水素原子または置換基を有していてもよい炭化水素基を、Xは結合手、酸素原子、酸化されていてもよい硫黄原子または置換基を有していてもよい窒素原子を、Yは置換基を有していてもよいメチレン基を、 R^{10} はアミノ基または式-NHCOR¹⁰

(R^{10} は鎖状 C_{1-6} アルキル基または C_{7-16} アラルキル基を示す)を、 R^{11} は水素原子またはハロゲン原子を、 R^{12} は水素原子、ヒドロキシ基、アミノ基、 C_{1-6} アルコキシカルボニルまたはカルボキシで置換されていてもよい C_{1-6} アルコキシ基を、nは0または1を示す

(但し、3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1' *



[式中、 R^1 は(1)水素原子、(2)置換基を有していてもよい炭化水素基、(3)置換基を有していてもよい複素環基または(4)置換基を有していてもよいアミノ基を、 R^2 は(1)水素原子、(2)置換基を有していてもよい炭化水素基または(3)アシル基を、 R^3 は(1)水素原子、(2)シアノ基、(3)置換基を有していてもよい炭化水素基、(4)アシル基または(5)置換基を有していてもよいヒドロキシ基を、 R^4 は(1)水素原子、(2)置換基を有していてもよい炭化水素基、(3)アシル基、(4)置換基を有していてもよい複素環基または(5)ハロゲン原子を、 R^5 および R^6 はそれぞれ水素原子または置換基を有していてもよい炭化水素基を示し、 R^6 と R^7 は隣接する炭素原子と共に置換基を有していてもよい3ないし8員環を形成してもよく、 R^8 および R^9 はそれぞれ水素原子または置換基を有していてもよい炭化水素基を、Xは(1)結合手、(2)酸素原子、(3)酸化されていてもよい硫黄原子または(4)置換基を有していてもよい窒素原子を、nは0または1を示す]で表される化合物またはその塩。

【請求項17】 R^1 が(1)ハロゲン、(2)アミノ、(3) C_{1-6} アシルアミノ、(4)(1')アミノまたは(2') C_{1-6} アシルアミノで置換されていてもよいフェニルおよび(5)ジ C_{1-6} アルキルホスホノ- C_{1-6} アルキルで置換されていても

*-ビフェニル]-4-アミン、N-[3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-イル]アセトアミドおよびN-[3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-イル]プロパンアミドを除く)で表される化合物またはその塩。

【請求項15】 D^1 および D^2 がともにメチン、 R^2 および R^3 はそれぞれ水素原子または C_{1-6} アルキル基、 R^4 が(1)水素原子、(2)シアノ、(3)カルボキシまたは(4) C_{1-6} アルコキシカルボニルで置換されていてもよい C_{1-6} アルキル基、 R^5 が(1) C_{1-3} アルキル基または(2) C_{6-14} アリール、 R^6 および R^7 がそれぞれ水素原子または C_{1-6} アルキル基、 R^8 および R^9 がそれぞれ水素原子、Xが結合手、酸素原子または硫黄原子、Yがメチレン基、 $-C(CH_3)_2-$ 、 $-CH(OCH_3)-$ 、 $-CH(OH)-$ またはカルボニル基である請求項13記載の化合物。

【請求項16】式

【化12】

よいベンズアミドから選ばれる置換基を有していてもよいフェニル基、 R^2 が、(1)水素原子、(2)(1')ヒドロキシ基、(2')ハロゲン原子、(3')アミノ、(4') C_{1-6} アルコキシカルボニルアミノ、(5')ジ- C_{1-6} アルキルアミノおよび(6')フタルイミドから選ばれる置換基を有していてもよい C_{1-6} アルキル、(3)カルボキシ、(4) C_{1-6} アルコキシカルボニル、(5)カルバモイル、(6)ジ- C_{1-6} アルキルカルバモイルまたは(7)ピリジルカルバモイル、 R^4 が水素原子、 R^5 が C_{1-6} アルキル、 R^6 および R^7 が C_{1-6} アルキル、 R^8 および R^9 が水素原子、Xが酸素原子、nが0である請求項16記載の化合物。

【請求項18】請求項16記載の化合物またはその塩もしくはそのプロドラッグを含有してなる医薬。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、優れたエントリー阻害剤などに関する。

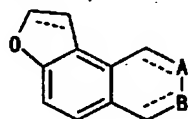
【0002】

【従来の技術】現在の AIDS (後天性免疫不全症候群) 治療は強力な抗 HIV (ヒト免疫不全ウイルス) 併用療法 (HAART) が主流になっている。本法は HIV 逆転写酵素阻害剤2剤とプロテアーゼ阻害剤との組み合わせによる

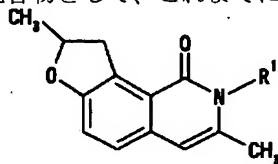
治療であり、AIDS 治療に大きな進展を与えた。しかしながらこれらの薬剤をもってしても HIV の感染を完全に抑制することはできず、新たな機序によるエイズ治療薬の開発が囑望されている。HIV の感染はウイルスエンベロープ (Env) の gp120 が標的細胞膜上の CD4分子に結合することにより開始される。この結合の結果、gp120 のコンフォメーション変化が起こり、コレセプターであるケモカインレセプター CCR5 あるいは CXCR4 との複合体を形成し、さらなる gp120 の構造変化を起こす。その後 gp120 に隠されていた gp41 が露出し、gp41 の N 末端の疎水性アミノ酸領域を細胞膜に挿入して Env と細胞膜との融合が起こり、ウイルスの侵入に至ることが明らかとなっている。近年、ケモカインレセプターあるいは Env を標的とした薬剤の開発が活発に進められており、新規作用機序の抗 HIV 薬として求められている。

10

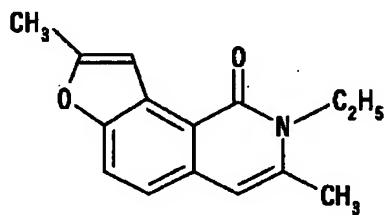
*



〔式中、A、Bのいずれか一方は窒素原子、他方は炭素原子を示し、--- は単結合または二重結合を示す〕で表わされる部分構造を有する化合物として、これまでに以※

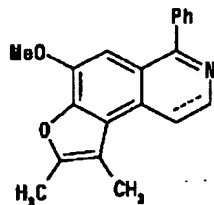


〔R¹ はエチル基またはフェニル基を示す〕で表される化合物の合成法が開示されている。非特許文献 6 には、式【化 15】



で表される抗菌作用を有する化合物が開示されている。また、非特許文献 7 には、式

【化 16】



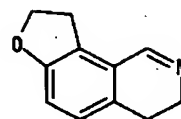
〔--- は単結合または二重結合を示す〕で表される化合物の合成法が開示されている。特許文献 1 には、式【化 17】

40

* る。ケモカインレセプターを作用標的とした化合物として、例えば CCR5 に作用する N,N-ジメチル-N-[4[[[2-(4-メチルフェニル)-6,7-ジヒドロ-5H-ベンゾシクロヘプテン-8-イル]カルボニル]アミノ]ベンジル]テトラヒドロ-2H-ピラン-4-アミニウム クロリド (例えば、非特許文献 1 参照) などや、CXCR4 に作用する AMD-3100 (例えば、非特許文献 2 参照) などがある。また Env を作用標的とした化合物として、例えば、gp120 に結合する FP-21399 (例えば、非特許文献 3 参照) や gp41 に結合する 36 アミノ酸からなる合成ペプチド T-20 (例えば、非特許文献 4 参照) などがある。しかしながら Env を作用標的とする化合物で、経口剤として開発されている化合物の報告はない。一方、式

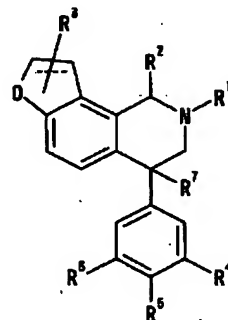
【化 13】

※下に挙げる報告がなされている。非特許文献 5 には、式【化 14】



で表される部分構造を有する化合物またはその塩がホスホジエステラーゼ IV 阻害作用を有することが開示されている。特許文献 2 には、ノルエピネフリントランスポーター蛋白質の再取り込み阻害作用に基づいた神経・心神欠陥症の治療剤として式

【化 18】



50 〔式中、R¹ は C₁₋₆ アルキル、C₂₋₆ アルケニル、C₂₋₆ アル

キニル、C₃₋₆ シクロアルキル、C₄₋₇ シクロアルキルアルキルまたはベンジル（これらは特定の置換基を有していてもよい）、R² は水素原子、C₁₋₆ アルキル、C₂₋₆ アルケニル、C₂₋₆ アルキニル、C₃₋₆ シクロアルキル、C₄₋₇ シクロアルキルアルキルまたはC₁₋₆ ハロアルキル、R³ は水素原子、ハロゲン原子、C₁₋₆ アルキル、C₁₋₆ ハロアルキルまたはC₃₋₆ シクロアルキル（該C₁₋₆ アルキル、C₁₋₆ ハロアルキル、C₃₋₆ シクロアルキルは特定の置換基を有していてもよい）、R⁴、R⁵ およびR⁶ はそれぞれ独立して水素原子、ハロゲン原子、ニトロ等を、R⁷ は水素原子、ハロゲン原子等を示す] で表される化合物が開示されている。

【0003】

【特許文献1】国際公開第W001/70746号パンフレット

【特許文献2】国際公開第W002/04455号パンフレット

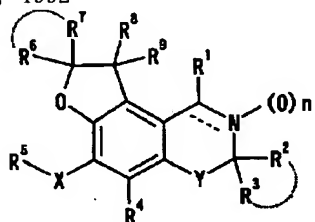
【非特許文献1】Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America 1999, 96, 5698

【非特許文献2】The Journal of Experimental Medicine 1997, 186, 1383

【非特許文献3】The Journal of Infectious Diseases 2000, 182, 607

【非特許文献4】Nature Medicine 1998, 4, 1302

【非特許文献5】Indian Journal of Chemistry, Section B, 31B, 578, 1992



(I')

または

【式中、R¹ は(1)水素原子、(2)置換基を有していてもよい炭化水素基、(3)置換基を有していてもよい複素環基または(4)置換基を有していてもよいアミノ基を、R² およびR³ はそれぞれ(1)水素原子、(2)置換基を有していてもよい炭化水素基または(3)アシル基を示し、R² とR³ は隣接する炭素原子と共に置換基を有していてもよい3ないし8員環を形成してもよく、R⁴ は(1)水素原子、(2)シアノ基、(3)置換基を有していてもよい炭化水素基、(4)アシル基または(5)置換基を有していてもよいヒドロキシ基を、R⁵ は(1)水素原子、(2)置換基を有していてもよい炭化水素基、(3)アシル基、(4)置換基を有していてもよい複素環基または(5)ハロゲン原子を、R⁶ およびR⁷ はそれぞれ(1)水素原子または(2)置換基を有していてもよい炭化水素基を示し、R⁶ とR⁷ は隣接する炭素原子と共に置換基を有していてもよい3ないし8員環を形成してもよく、R⁸ およびR⁹ はそれぞれ(1)水素原子または(2)置換基を有していてもよい炭化水素基を、Xは(1)結合手、(2)酸素原子、(3)酸化されていてもよい硫黄原子または(4)置換基を有していてもよい窒素原子を、Yは置換基を有していてもよいメチレン基を、nは0または1を、—は単結合または二重結合を示す] で表される化合物（以下、化合物(I')または化合物(I'')と略記する場合がある）もしくはその塩またはそのプロドラッグあるいはそれらの水和物；および式

* 【非特許文献6】Indian Journal of Chemistry, Section B, 33B, 552, 1994

【非特許文献7】Bulletin De La Societe Chimique De France, 4201, 1972

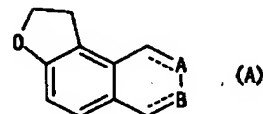
【0004】

【発明が解決しようとする課題】新規な化学構造を有し、Envに作用して細胞膜との膜融合を阻害する薬剤はHIV感染症、特にAIDSの予防・治療効果が期待でき、その開発が求められている。本発明はエントリー阻害作用を有する経口吸収性に優れた新規複素環化合物を提供することにある。

【0005】

【課題を解決するための手段】本発明者らは、種々鋭意研究を行った結果、式

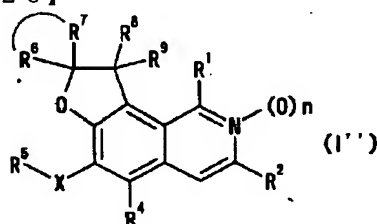
【化19】



(A)

20 【式中、A、Bのいずれか一方は窒素原子、他方は炭素原子を示し、—は単結合または二重結合を示す] で表わされる部分構造を有する新規なフロイソキノリン化合物（以下、化合物(A)と略記する場合がある）、特に、式

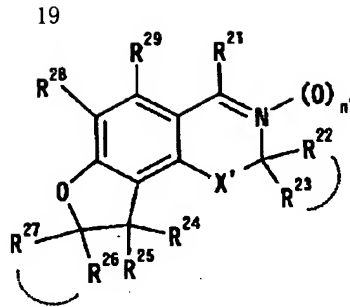
【化20】



(I'')

い炭化水素基を示し、R⁶ とR⁷ は隣接する炭素原子と共に置換基を有していてもよい3ないし8員環を形成してもよく、R⁸ およびR⁹ はそれぞれ(1)水素原子または(2)置換基を有していてもよい炭化水素基を、Xは(1)結合手、(2)酸素原子、(3)酸化されていてもよい硫黄原子または(4)置換基を有していてもよい窒素原子を、Yは置換基を有していてもよいメチレン基を、nは0または1を、—は単結合または二重結合を示す] で表される化合物（以下、化合物(I')または化合物(I'')と略記する場合がある）もしくはその塩またはそのプロドラッグあるいはそれらの水和物；および式

【化21】

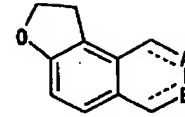


(1a')

〔式中、 R^{21} は(1)水素原子、(2)置換基を有していてもよい炭化水素基または(3)置換基を有していてもよい複素環基を、 R^{22} および R^{23} はそれぞれ(1)水素原子、(2)置換基を有していてもよい炭化水素基または(3)アシル基を示し、 R^{22} と R^{23} は隣接する炭素原子と共に置換基を有していてもよい3ないし8員環を形成してもよく、 R^{24} および R^{25} はそれぞれ(1)水素原子または(2)置換基を有していてもよい炭化水素基を、 R^{26} および R^{27} はそれぞれ(1)水素原子または(2)置換基を有していてもよい炭化水素基を示し、 R^{26} と R^{27} は隣接する炭素原子と共に置換基を有していてもよい3ないし8員環を形成してもよく、 R^{28} は(1)水素原子、(2)置換基を有していてもよい炭化水素基、(3)アシル基、(4)置換基を有していてもよい複素環基、(5)ハロゲン原子、(6)式-OR³⁰ (R^{30} は、水素原子、置換基を有していてもよい炭化水素基、アシル基または置換基を有していてもよい複素環基を示す)、(7)式-SR³¹ (R^{31} は、水素原子、置換基を有していてもよい炭化水素基、アシル基または置換基を有していてもよい複素環基を示す)、(8)式-S(O)R³² (R^{32} は、置換基を有していてもよい炭化水素基または置換基を有していてもよい複素環基を示す)、(9)式-S(O)₂R³³ (R^{33} は、置換基を有していてもよい炭化水素基または置換基を有していてもよい複素環基を示す) または(10)式-NR³⁴R³⁵ (R^{34} および R^{35} はそれぞれ水素原子、置換基を有していてもよい炭化水素基、アシル基または置換基を有していてもよい複素環基を示す) を、 R^{29} は(1)水素原子、(2)シアノ基、(3)置換基を有していてもよい炭化水素基、(4)アシル基または(5)置換基を有していてもよいヒドロキシ基を、 X' は置換基を有していてもよいメチレン基を、 n' は0または1を示す〕で表される化合物(以下、化合物(1a'))と略記する場合がある)もしくはその塩またはそのプロドラッグあるいはそれらの水和物がそれらの特異な化学構造に基づいて、予想外にも優れたエンタリー阻害作用を有することを見出した。本発明者らは、これらの知見に基づき、さらに検討を重ねた結果、本発明を完成するに至った。

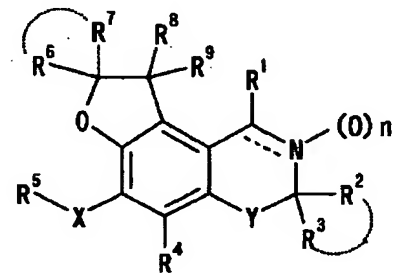
【0006】すなわち、本発明は、〔1〕式

〔化22〕



〔式中、A、Bのいずれか一方は窒素原子、他方は炭素原子を示し、--- は単結合または二重結合を示す〕で表わされる部分構造を有する化合物またはその塩を含有してなるエンタリー阻害剤、〔2〕式

【化23】



〔式中、 R^1 は(1)水素原子、(2)置換基を有していてもよい炭化水素基、(3)置換基を有していてもよい複素環基または(4)置換基を有していてもよいアミノ基を、 R^2 および R^3 はそれぞれ(1)水素原子、(2)置換基を有していてもよい炭化水素基または(3)アシル基を示し、 R^2 と R^3 は隣接する炭素原子と共に置換基を有していてもよい3ないし8員環を形成してもよく、 R^4 は(1)水素原子、(2)シアノ基、(3)置換基を有していてもよい炭化水素基、(4)アシル基または(5)置換基を有していてもよいヒドロキシ基を、 R^5 は(1)水素原子、(2)置換基を有していてもよい炭化水素基、(3)アシル基、(4)置換基を有していてもよい複素環基または(5)ハロゲン原子を、 R^6 および R^7 はそれぞれ(1)水素原子または(2)置換基を有していてもよい炭化水素基を示し、 R^6 と R^7 は隣接する炭素原子と共に置換基を有していてもよい3ないし8員環を形成してもよく、 R^8 および R^9 はそれぞれ(1)水素原子または(2)置換基を有していてもよい炭化水素基を、 X は(1)結合手、(2)酸素原子、(3)酸化されていてもよい硫黄原子または置換基を有していてもよい窒素原子を、 Y は置換基を有していてもよいメチレン基を、 n は0または1を、--- は単結合または二重結合を示す〕で表される化合物もしくはその塩またはそのプロドラッグを含有してなる前記〔1〕記載の剤、〔3〕 R^1 が以下の(i)~(iii)のいずれかを示す：

(i) (1) ハロゲン原子、(2) C_{1-3} アルキレンジオキシ基、(3) ニトロ基、(4) シアノ基、(5) ハロゲン化されていてもよい C_{1-6} アルキル基、(6) ハロゲン化されていてもよい C_{2-6} アルケニル基、(7) ハロゲン化されていてもよい C_{2-6} アルキニル基、(8) C_{3-6} シクロアルキル基、(9) C_{6-14} アリール基、(10) ハロゲン化されていてもよい C_{1-6} アルコキシ基、(11) ハロゲン化されていてもよい C_{1-6} アルキルチオ基、(12) ヒドロキシ基、(13) アミノ基、(14) モノ- C_{1-6} アルキルアミノ基、(15) モノ- C_{6-14} アリールアミノ基、(16) ジ- C_{1-6} アルキルアミノ基、(17) ジ- C_{6-14} アリールアミノ基、(18) ホルミル、カルボキシ、カルバモイル、 C_{1-6} アルキル-カルボニル、 C_{3-6} シクロアルキル-カルボニル、 C_{1-6} アルコキシ-カルボニル、 C_{6-14} アリール-カルボニル、 C_{7-16} アラルキル-カルボニル、 C_{6-14} アリールオキシ-カルボニル、 C_{7-16} アラルキルオキシ-カルボニル、炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子および酸素原子から選ばれる 1 ないし 3 個のヘテロ原子を含有する 5 または 6 員複素環カルボニル、モノ- C_{1-6} アルキル-カルバモイル、ジ- C_{1-6} アルキル-カルバモイル、 C_{6-14} アリール-カルバモイル、炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子および酸素原子から選ばれる 1 ないし 3 個のヘテロ原子を含有する 5 または 6 員複素環カルバモイル、 C_{1-6} アルキル-チオカルボニル、 C_{3-6} シクロアルキル-チオカルボニル、 C_{1-6} アルコキシ-チオカルボニル、 C_{6-14} アリール-チオカルボニル、 C_{7-16} アラルキル-チオカルボニル、 C_{6-14} アリールオキシ-チオカルボニル、 C_{7-16} アラルキルオキシ-チオカルボニル、炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子および酸素原子から選ばれる 1 ないし 3 個のヘテロ原子を含有する 5 または 6 員複素環チオカルボニル、チオカルバモイル、モノ- C_{1-6} アルキル-チオカルバモイル、ジ- C_{1-6} アルキル-チオカルバモイル、 C_{6-14} アリール-チオカルバモイル、炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子および酸素原子から選ばれる 1 ないし 3 個のヘテロ原子を含有する 5 または 6 員複素環チオカルバモイル、モノ- C_{1-6} アルキル-スルファモイル、ジ- C_{1-6} アルキル-スルファモイル、 C_{6-14} アリール-スルファモイル、 C_{1-6} アルキル-スルホニル、 C_{6-14} アリール-スルホニル、 C_{1-6} アルキル-スルフィニル、 C_{6-14} アリール-スルフィニル、スルフィノ、スルホ、 C_{1-6} アルコキシスルフィニル、 C_{6-14} アリールオキシスルフィニル、 C_{1-6} アルコキシスルホニルおよび C_{6-14} アリールオキシスルホニルから選ばれるアシル基、(19) ホルミルアミノ、 C_{1-6} アルキル-カルボキサミド、 C_{6-14} アリール-カルボキサミド、 C_{1-6} アルコキシ-カルボキサミド、 C_{1-6} アルキル-スルホニルアミノおよび C_{6-14} アリール-スルホニルアミノから選ばれるアシルアミノ基、(20) C_{1-6} アルキル-カルボニルオキシ、 C_{6-14} アリール-カルボニルオキシ、 C_{1-6} アルコキシ-カルボニルオキシ、モノ- C_{1-6} アルキル-カルバモイルオキシ、ジ- C_{1-6} アルキル-カルバモイルオキシ、 C_{6-14} アリール-カルバモイルオキシおよびニコチノ

イルオキシから選ばれるアシルオキシ基、(21) 炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子および酸素原子から選ばれる 1 ないし 4 個のヘテロ原子を含有する 4 ないし 14 員複素環基、(22) ホスホノ基、(23) C_{6-14} アリールオキシ基、(24) ジ- C_{1-6} アルコキシ-ホスホリル基、(25) C_{6-14} アリールチオ基、(26) ヒドラジノ基、(27) イミノ基、(28) オキソ基、(29) ウレイド基、(30) C_{1-6} アルキル-ウレイド基、(31) ジ- C_{1-6} アルキル-ウレイド基、(32) オキシド基および (33) 前記 (1) ~ (32) の基から選ばれる 2 ないし 3 個が結合してできる基などからなる群 (以下、置換基 A 群と略記する) から選ばれる置換基を 1 ないし 5 個それぞれ有していてもよい C_{1-6} アルキル基、 C_{2-6} アルケニル基、 C_{2-6} アルキニル基、 C_{3-6} シクロアルキル基、 C_{3-6} シクロアルケニル基、 C_{6-14} アリール基または C_{7-16} アラルキル基、(ii) 前記置換基 A 群から選ばれる置換基を 1 ないし 5 個有していてもよい炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子および酸素原子から選ばれるヘテロ原子を 1 ないし 4 個含む 5 ないし 14 員複素環基、(iii) 以下の (ia) ~ (iia) から選ばれる 1 または 2 個の置換基を有していてもよいアミノ基：(ia) 水素原子、(iia) 前記置換基 A 群から選ばれる置換基を 1 ないし 5 個それぞれ有していてもよい C_{1-6} アルキル基、 C_{2-6} アルケニル基、 C_{2-6} アルキニル基、 C_{3-6} シクロアルキル基、 C_{3-6} シクロアルケニル基、 C_{6-14} アリール基または C_{7-16} アラルキル基、(iia) 前記置換基 A 群から選ばれる置換基を 1 ないし 5 個有していてもよい、ホルミル、カルボキシ、カルバモイル、 C_{1-6} アルキル-カルボニル、 C_{3-6} シクロアルキル-カルボニル、 C_{1-6} アルコキシ-カルボニル、 C_{6-14} アリール-カルボニル、 C_{7-16} アラルキル-カルボニル、 C_{6-14} アリールオキシ-カルボニル、 C_{7-16} アラルキルオキシ-カルボニル、炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子および酸素原子から選ばれる 1 ないし 3 個のヘテロ原子を含有する 5 または 6 員複素環カルボニル、モノ- C_{1-6} アルキル-カルバモイル、ジ- C_{1-6} アルキル-カルバモイル、 C_{6-14} アリール-カルバモイル、炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子および酸素原子から選ばれる 1 ないし 3 個のヘテロ原子を含有する 5 または 6 員複素環カルバモイル、 C_{1-6} アルキル-チオカルボニル、 C_{3-6} シクロアルキル-チオカルボニル、 C_{1-6} アルコキシ-チオカルボニル、 C_{6-14} アリール-チオカルボニル、 C_{7-16} アラルキル-チオカルボニル、炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子および酸素原子から選ばれる 1 ないし 3 個のヘテロ原子を含有する 5 または 6 員複素環チオカルボニル、チオカルバモイル、モノ- C_{1-6} アルキル-チオカルバモイル、ジ- C_{1-6} アルキル-チオカルバモイル、 C_{6-14} アリール-チオカルバモイル、炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子および酸素原子から選ばれる 1 ないし 3 個のヘテロ原子を含有する 5 または 6 員複素環チオカルバモイル、モノ- C_{1-6} アルキル-スルファモイル、

ル、ジ-C₁₋₆ アルキルスルファモイル、C₆₋₁₄ アリールスルファモイル、C₁₋₆ アルキルスルホニル、C₆₋₁₄ アリールスルホニル、C₁₋₆ アルキルスルフィニル、C₆₋₁₄ アリールスルフィニル、スルフィノ、スルホ、C₁₋₆ アルコキシスルフィニル、C₆₋₁₄ アリールオキシスルフィニル、C₁₋₆ アルコキシスルホニルおよびC₆₋₁₄ アリールオキシスルホニルから選ばれるアシル基；R² およびR³ がそれぞれ以下の(i)～(iii)のいずれかを示す：

(i) 水素原子、(ii) 前記置換基A群から選ばれる置換基を1ないし5個それぞれ有していてもよいC₁₋₆ アルキル基、C₂₋₆ アルケニル基、C₂₋₆ アルキニル基、C₃₋₆ シクロアルキル基、C₃₋₆ シクロアルケニル基、C₆₋₁₄ アリール基またはC₇₋₁₆ アラルキル基、(iii) 前記置換基A群から選ばれる置換基を1ないし5個有していてもよい、ホルミル、カルボキシ、カルバモイル、C₁₋₆ アルキル-カルボニル、C₃₋₆ シクロアルキル-カルボニル、C₁₋₆ アルコキシ-カルボニル、C₆₋₁₄ アリール-カルボニル、C₇₋₁₆ アラルキル-カルボニル、C₆₋₁₄ アリールオキシ-カルボニル、C₇₋₁₆ アラルキルオキシ-カルボニル、炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子および酸素原子から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する5または6員複素環カルボニル、モノ-C₁₋₆ アルキル-カルバモイル、ジ-C₁₋₆ アルキル-カルバモイル、C₆₋₁₄ アリール-カルバモイル、炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子および酸素原子から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する5または6員複素環カルバモイル、C₁₋₆ アルキル-チオカルボニル、C₃₋₆ シクロアルキル-チオカルボニル、C₁₋₆ アルコキシ-チオカルボニル、C₆₋₁₄ アリール-チオカルボニル、C₇₋₁₆ アラルキル-チオカルボニル、C₆₋₁₄ アリールオキシ-チオカルボニル、C₇₋₁₆ アラルキルオキシ-チオカルボニル、炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子および酸素原子から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する5または6員複素環チオカルボニル、チオカルバモイル、モノ-C₁₋₆ アルキル-チオカルバモイル、ジ-C₁₋₆ アルキル-チオカルバモイル、C₆₋₁₄ アリール-チオカルバモイル、炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子および酸素原子から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する5または6員複素環チオカルバモイル、モノ-C₁₋₆ アルキルスルファモイル、ジ-C₁₋₆ アルキルスルファモイル、C₆₋₁₄ アリールスルファモイル、C₁₋₆ アルキルスルホニル、C₆₋₁₄ アリールスルホニル、C₁₋₆ アルキルスルフィニル、C₆₋₁₄ アリールスルフィニル、スルフィノ、スルホ、C₁₋₆ アルコキシスルフィニル、C₆₋₁₄ アリールオキシスルフィニル、C₁₋₆ アルコキシスルホニルおよびC₆₋₁₄ アリールオキシスルホニルから選ばれるアシル基；R² とR³ は隣接する炭素原子と共に、C₁₋₆ アルキル、C₆₋₁₄ アリール、C₇₋₁₆ アラルキル、アミノ、モノ-C₁₋₆ アルキルアミノ、モノ-C₆₋₁₄ アリールアミノ、ジ-C₁₋₆ アルキルアミノ、ジ-C₆₋₁₄ アリールアミノおよび4ないし10員芳香族複素環基から選ばれる置換基を1な

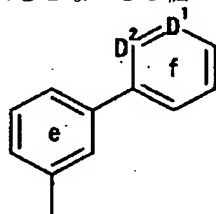
いし3個それぞれ有していてもよいC₃₋₈ シクロアルカンまたは3ないし8員複素環を形成してもよく；R⁴ が(i) 水素原子、(ii) シアノ基、(iii) 前記置換基A群から選ばれる置換基を1ないし5個それぞれ有していてもよいC₁₋₆ アルキル基、C₂₋₆ アルケニル基、C₂₋₆ アルキニル基、C₃₋₆ シクロアルキル基、C₃₋₆ シクロアルケニル基、C₆₋₁₄ アリール基またはC₇₋₁₆ アラルキル基、(iv) 前記置換基A群から選ばれる置換基を1ないし5個有していてもよい、ホルミル、カルボキシ、カルバモイル、C₁₋₆ アルキル-カルボニル、C₃₋₆ シクロアルキル-カルボニル、C₁₋₆ アルコキシ-カルボニル、C₆₋₁₄ アリール-カルボニル、C₇₋₁₆ アラルキル-カルボニル、C₆₋₁₄ アリールオキシ-カルボニル、C₇₋₁₆ アラルキルオキシ-カルボニル、炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子および酸素原子から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する5または6員複素環カルボニル、モノ-C₁₋₆ アルキル-カルバモイル、ジ-C₁₋₆ アルキル-カルバモイル、C₆₋₁₄ アリール-カルバモイル、炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子および酸素原子から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する5または6員複素環カルバモイル、C₁₋₆ アルキル-チオカルボニル、C₃₋₆ シクロアルキル-チオカルボニル、C₁₋₆ アルコキシ-チオカルボニル、C₆₋₁₄ アリール-チオカルボニル、C₇₋₁₆ アラルキル-チオカルボニル、C₆₋₁₄ アリールオキシ-チオカルボニル、C₇₋₁₆ アラルキルオキシ-チオカルボニル、炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子および酸素原子から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する5または6員複素環チオカルボニル、チオカルバモイル、モノ-C₁₋₆ アルキル-チオカルバモイル、ジ-C₁₋₆ アルキル-チオカルバモイル、C₆₋₁₄ アリール-チオカルバモイル、炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子および酸素原子から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する5または6員複素環チオカルバモイル、モノ-C₁₋₆ アルキルスルファモイル、ジ-C₁₋₆ アルキルスルファモイル、C₆₋₁₄ アリールスルファモイル、C₁₋₆ アルキルスルホニル、C₆₋₁₄ アリールスルホニル、C₁₋₆ アルキルスルフィニル、C₆₋₁₄ アリールスルフィニル、スルフィノ、スルホ、C₁₋₆ アルコキシスルフィニル、C₆₋₁₄ アリールオキシスルフィニル、C₁₋₆ アルコキシスルホニルおよびC₆₋₁₄ アリールオキシスルホニルから選ばれるアシル基、または(v) 式-OR⁴、(R⁴ は①水素原子、②前記置換基A群から選ばれる置換基を1ないし5個それぞれ有していてもよいC₁₋₆ アルキル基、C₂₋₆ アルケニル基、C₂₋₆ アルキニル基、C₃₋₆ シクロアルキル基、C₃₋₆ シクロアルケニル基、C₆₋₁₄ アリール基またはC₇₋₁₆ アラルキル基、または③前記置換基A群から選ばれる置換基を1ないし5個有していてもよい、ホルミル、カルボキシ、カルバモイル、C₁₋₆ アルキル-カルボニル、C₃₋₆ シクロアルキル-カルボニル、C₁₋₆ アルコキシ-カルボニル、C₆₋₁₄ アリール-カルボニル、C₇₋₁₆ アラルキル-カルボニル、C₆₋₁₄ アリールオキシ-カルボニル、C₇₋₁₆

アラルキルオキシ-カルボニル、炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子および酸素原子から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する5または6員複素環カルボニル、モノ-C₁₋₆ アルキル-カルバモイル、ジ-C₁₋₆ アルキル-カルバモイル、C₆₋₁₄ アリール-カルバモイル、炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子および酸素原子から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する5または6員複素環カルバモイル、C₁₋₆ アルキル-チオカルボニル、C₃₋₆ シクロアルキル-チオカルボニル、C₁₋₆ アルコキシ-チオカルボニル、C₆₋₁₄ アリール-チオカルボニル、C₇₋₁₆ アラルキル-チオカルボニル、C₆₋₁₄ アリールオキシ-チオカルボニル、C₇₋₁₆ アラルキルオキシ-チオカルボニル、炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子および酸素原子から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する5または6員複素環チオカルボニル、チオカルバモイル、モノ-C₁₋₆ アルキル-チオカルバモイル、ジ-C₁₋₆ アルキル-チオカルバモイル、C₆₋₁₄ アリール-チオカルバモイル、炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子および酸素原子から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する5または6員複素環チオカルバモイル、モノ-C₁₋₆ アルキル-スルファモイル、ジ-C₁₋₆ アルキル-スルファモイル、C₆₋₁₄ アリール-スルファモイル、C₁₋₆ アルキル-スルホニル、C₆₋₁₄ アリール-スルホニル、C₁₋₆ アルキル-スルフィニル、C₆₋₁₄ アリール-スルフィニル、スルフィノ、スルホ、C₁₋₆ アルコキシ-スルフィニル、C₆₋₁₄ アリール-オキシ-スルフィニル、C₁₋₆ アルコキシ-スルホニルおよびC₆₋₁₄ アリール-オキシ-スルホニルから選ばれるアシル基を示す)で表される基を; R⁵が以下の(i)~(v)のいずれかを示す:

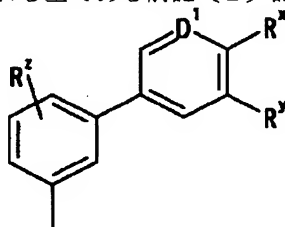
(i)水素原子、(ii)前記置換基A群から選ばれる置換基を1ないし5個それぞれ有していてもよいC₁₋₆ アルキル基、C₂₋₆ アルケニル基、C₂₋₆ アルキニル基、C₃₋₆ シクロアルキル基、C₃₋₆ シクロアルケニル基、C₆₋₁₄ アリール基またはC₇₋₁₆ アラルキル基、(iii)前記置換基A群から選ばれる置換基を1ないし5個有していてもよい、ホルミル、カルボキシ、カルバモイル、C₁₋₆ アルキル-カルボニル、C₃₋₆ シクロアルキル-カルボニル、C₁₋₆ アルコキシ-カルボニル、C₆₋₁₄ アリール-カルボニル、C₇₋₁₆ アラルキル-カルボニル、C₆₋₁₄ アリールオキシ-カルボニル、C₇₋₁₆ アラルキルオキシ-カルボニル、炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子および酸素原子から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する5または6員複素環カルボニル、モノ-C₁₋₆ アルキル-カルバモイル、ジ-C₁₋₆ アルキル-カルバモイル、C₆₋₁₄ アリール-カルバモイル、炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子および酸素原子から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する5または6員複素環カルバモイル、C₁₋₆ アルキル-チオカルボニル、C₃₋₆ シクロアルキル-チオカルボニル、C₁₋₆ アルコキシ-チオカルボニル、C₆₋₁₄ アリール-チオカルボニル、C₇₋₁₆ アラルキル-チオカルボニル、C₆₋₁₄ アリール

ルオキシ-チオカルボニル、C₇₋₁₆ アラルキルオキシ-チオカルボニル、炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子および酸素原子から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する5または6員複素環チオカルボニル、チオカルバモイル、モノ-C₁₋₆ アルキル-チオカルバモイル、ジ-C₁₋₆ アルキル-チオカルバモイル、C₆₋₁₄ アリール-チオカルバモイル、炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子および酸素原子から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する5または6員複素環チオカルバモイル、モノ-C₁₋₆ アルキル-スルファモイル、ジ-C₁₋₆ アルキル-スルファモイル、C₆₋₁₄ アリール-スルファモイル、C₁₋₆ アルキル-スルホニル、C₆₋₁₄ アリール-スルホニル、C₁₋₆ アルキル-スルフィニル、C₆₋₁₄ アリール-スルフィニル、スルフィノ、スルホ、C₁₋₆ アルコキシ-スルフィニル、C₆₋₁₄ アリール-オキシ-スルフィニル、C₁₋₆ アルコキシ-スルホニルおよびC₆₋₁₄ アリール-オキシ-スルホニルから選ばれるアシル基、(iv)前記置換基A群から選ばれる置換基を1ないし5個有していてもよい炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子および酸素原子から選ばれるヘテロ原子を1ないし4個含む5ないし14員複素環、(v)ハロゲン原子; R⁶およびR⁷がそれぞれ(i)水素原子または(ii)前記置換基A群から選ばれる置換基を1ないし5個それぞれ有していてもよいC₁₋₆ アルキル基、C₂₋₆ アルケニル基、C₂₋₆ アルキニル基、C₃₋₆ シクロアルキル基、C₃₋₆ シクロアルケニル基、C₆₋₁₄ アリール基またはC₇₋₁₆ アラルキル基を示し、R⁶とR⁷は隣接する炭素原子と共に、C₁₋₆ アルキル、C₆₋₁₄ アリール、C₇₋₁₆ アラルキル、アミノ、モノ-C₁₋₆ アルキルアミノ、モノ-C₆₋₁₄ アリールアミノ、ジ-C₁₋₆ アルキルアミノ、ジ-C₆₋₁₄ アリールアミノおよび4ないし10員芳香族複素環基から選ばれる置換基を1ないし3個それぞれ有していてもよいC₃₋₈ シクロアルカンまたは3ないし8員複素環を形成してもよく; R⁸およびR⁹がそれぞれ(i)水素原子または(ii)前記置換基A群から選ばれる置換基を1ないし5個それぞれ有していてもよいC₁₋₆ アルキル基、C₂₋₆ アルケニル基、C₂₋₆ アルキニル基、C₃₋₆ シクロアルキル基、C₃₋₆ シクロアルケニル基、C₆₋₁₄ アリール基またはC₇₋₁₆ アラルキル基を; Xが(i)結合手、(ii)酸素原子、(iii)酸化されていてもよい硫黄原子、(iv)前記置換基A群から選ばれる置換基を1ないし5個それぞれ有していてもよいC₁₋₆ アルキル基、C₂₋₆ アルケニル基、C₂₋₆ アルキニル基、C₃₋₆ シクロアルキル基、C₃₋₆ シクロアルケニル基、C₆₋₁₄ アリール基またはC₇₋₁₆ アラルキル基を有していてもよい窒素原子、(v)前記置換基A群から選ばれる置換基を1ないし5個有していてもよい、ホルミル、カルボキシ、カルバモイル、C₁₋₆ アルキル-カルボニル、C₃₋₆ シクロアルキル-カルボニル、C₁₋₆ アルコキシ-カルボニル、C₆₋₁₄ アリール-カルボニル、C₇₋₁₆ アラルキル-カルボニル、C₆₋₁₄ アリールオキシ-カルボニル、C₇₋₁₆ アラルキルオキシ-カルボニル、炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子および酸素原子

子から選ばれる 1 ないし 3 個のヘテロ原子を含有する 5 または 6 員複素環カルボニル、モノ- C_{1-6} アルキル-カルバモイル、ジ- C_{1-6} アルキル-カルバモイル、 C_{6-14} アリール-カルバモイル、炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子および酸素原子から選ばれる 1 ないし 3 個のヘテロ原子を含有する 5 または 6 員複素環カルバモイル、 C_{1-6} アルキル-チオカルボニル、 C_{3-6} シクロアルキル-チオカルボニル、 C_{1-6} アルコキシ-チオカルボニル、 C_{6-14} アリール-チオカルボニル、 C_{7-16} アラルキル-チオカルボニル、 C_{6-14} アリールオキシ-チオカルボニル、 C_{7-16} アラルキルオキシ-チオカルボニル、炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子および酸素原子から選ばれる 1 ないし 3 個のヘテロ原子を含有する 5 または 6 員複素環チオカルボニル、チオカルバモイル、モノ- C_{1-6} アルキル-チオカルバモイル、ジ- C_{1-6} アルキル-チオカルバモイル、 C_{6-14} アリール-チオカルバモイル、炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子および酸素原子から選ばれる 1 ないし 3 個*



〔式中、環 e および環 f は置換基を有していてもよく、 D^1 および D^2 は、ともにメチンまたは一方がメチン、他方が窒素原子を示す〕で表される基である前記〔2〕記載の※



〔式中、 D^1 はメチンまたは窒素原子を、 R^z は (1) アミノ基、(2) 式- $NH-COR^x$ (R^x は、(1') 水素原子、(2') C_{7-16} アラルキル基または (3') モノ- C_{1-6} アシルアミノで置換されていてもよい C_{1-6} アルキル基を示す) または (3) 式- COR^x (R^x は、(1') C_{1-6} アルコキシ基、(2') ヒドロキシ基または (3') C_{1-6} アルキルで置換されていてもよいアミノ基を示す) を、 R^y は (1) 水素原子、(2) ハロゲン原子または (3) C_{1-6} アルキルでエステル化されていてもよいカルボキシ基を、 R^z は (1) 水素原子、(2) ヒドロキシ基、(3) アミノ基、(4) C_{1-6} アルコキシカルボニルまたはカルボキシで置換されていてもよい C_{1-6} アル

* のヘテロ原子を含有する 5 または 6 員複素環チオカルバモイル、モノ- C_{1-6} アルキルスルファモイル、ジ- C_{1-6} アルキルスルファモイル、 C_{6-14} アリールスルファモイル、 C_{1-6} アルキルスルホニル、 C_{6-14} アリールスルホニル、 C_{1-6} アルキルスルフィニル、 C_{6-14} アリールスルフィニル、スルフィノ、スルホ、 C_{1-6} アルコキシスルフィニル、 C_{6-14} アリールオキシスルフィニル、 C_{1-6} アルコキシスルホニルおよび C_{6-14} アリールオキシスルホニルから選ばれるアシル基を有する窒素原子、または (vi) 前記置換基 A 群から選ばれる置換基を 1 ないし 5 個有していてもよい炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子および酸素原子から選ばれるヘテロ原子を 1 ないし 4 個含む 5 ないし 14 員複素環基を有する窒素原子を；Y が前記置換基 A 群から選ばれる置換基を有していてもよいメチレン基を；n が 0 または 1 を示す前記〔2〕記載の剤、〔4〕 R^1 が式

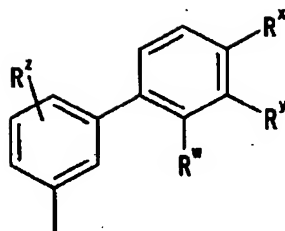
【化 2 4】

※剤、〔5〕 R^1 が式

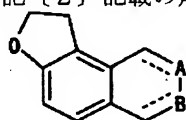
【化 2 5】

コキシ基を示す〕で表される基、 R^2 が水素原子または C_{1-6} アルキル基、 R^3 が水素原子または C_{1-6} アルキル基、 R^4 が水素原子、 R^5 が (1) 水素原子、(2) C_{1-6} アルキル基、(3) C_{6-14} アリール基または (4) ハロゲン化されていてもよい C_{1-6} アルキルスルホニル基、 R^6 が水素原子または C_{1-6} アルキル基、 R^7 が水素原子または C_{1-6} アルキル基、 R^8 が水素原子、 R^9 が水素原子、X が (1) 結合手、(2) 酸素原子または (3) 硫黄原子、Y がメチレン基、 $-C(CH_3)_2-$ 、 $-CH(OCH_3)-$ 、 $-CH(OH)-$ またはカルボニル基、n が 0 または 1 である前記〔2〕記載の剤、〔6〕 R^1 が式

【化 2 6】

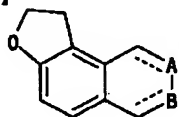


〔式中 R^z は水素原子または C_{1-6} アルキルでエステル化されていてもよいカルボキシ基を、 R^x は(1)アミノ基、(2)式-NHCOR^x (R^x は、(1')水素原子、(2') C_{1-6} アルキル、(3')モノ C_{1-6} アシルアミノで置換されていてもよい C_{1-6} アルキル基を示す)、(3)モノ C_{1-6} アルキルカルバモイル基、(4)ヒドロキシ基または(5)(1')カルボキシ、(2') C_{1-6} アルコキシカルボニルまたは(3')モノ C_{1-6} アルキルカルバモイルで置換されていてもよい C_{1-6} アルコキシ基を、 R^y は(1)水素原子、(2)ハロゲン原子または(3) C_{1-6} アルコキシカルボニル基を、 R^w は(1)水素原子、(2)ヒドロキシ基、(3)アミノ基、(4) C_{1-6} アルコキシカルボニルまたはカルボキシで置換されていてもよい C_{1-6} アルコキシ基、(5)シアノ基、(6) C_{1-6} アルキルでエステル化されていてもよいカルボキシ基または(7)カルバモイル基を示す〕で表される基、 R^2 が水素原子または C_{1-6} アルキル基、 R^3 が水素原子または C_{1-6} アルキル基、 R^4 が(1)水素原子または(2)(1')シアノ、(2')カルボキシ、または(3') C_{1-6} アルコキシカルボニルで置換されていてもよい C_{1-6} アルキル基、 R^5 が(1)水素原子、(2) C_{1-6} アルキル基または(3) C_{6-14} アリール基、 R^6 が(1)水素原子または(2) C_{1-6} アルキル基、 R^7 が(1)水素原子または(2) C_{1-6} アルキル基、 R^8 が水素原子、 R^9 が水素原子、Xが結合手、酸素原子または硫黄原子、Yがメチレン基、 $-C(CH_3)_2-$ 、 $-CH(OCH_3)-$ 、 $-CH(OH)-$ またはカルボニル基、nが0または1である前記〔2〕記載の剤、*



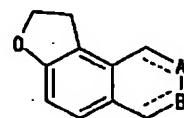
〔式中、A、Bのいずれか一方は窒素原子、他方は炭素原子を示し、 $---$ は単結合または二重結合を示す〕で表わされる部分構造を有する化合物またはその塩の使用、
〔12〕 AIDSの予防・治療剤を製造するための式

【化30】

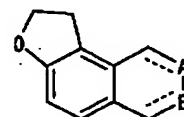


〔式中、A、Bのいずれか一方は窒素原子、他方は炭素原子を示し、 $---$ は単結合または二重結合を示す〕で表わされる部分構造を有する化合物またはその塩の使用、
〔13〕 式
【化31】

* 〔7〕 HIV感染症の予防・治療剤である前記〔1〕記載の剤、〔8〕 AIDSの予防・治療剤である前記〔1〕記載の剤、〔9〕 哺乳動物に対して式
【化27】

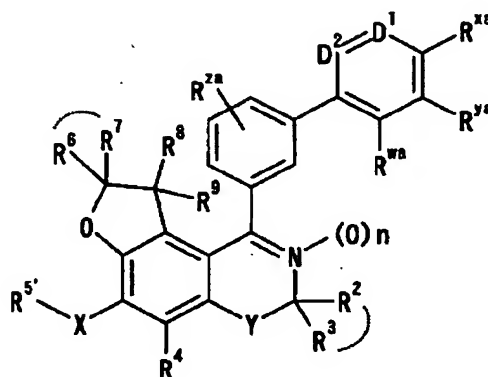


〔式中、A、Bのいずれか一方は窒素原子、他方は炭素原子を示し、 $---$ は単結合または二重結合を示す〕で表わされる部分構造を有する化合物またはその塩の有効量を投与することを特徴とするHIV感染症の予防・治療方法、〔10〕 哺乳動物に対して式
【化28】



〔式中、A、Bのいずれか一方は窒素原子、他方は炭素原子を示し、 $---$ は単結合または二重結合を示す〕で表わされる部分構造を有する化合物またはその塩の有効量を投与することを特徴とするAIDSの予防・治療方法、
〔11〕 HIV感染症の予防・治療剤を製造するための式
【化29】

40

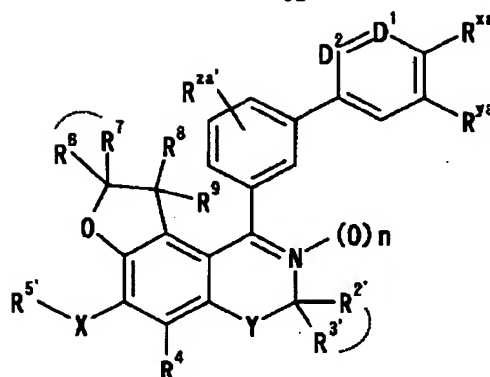


50

〔式中、 D^1 および D^2 は、ともにメチンまたは一方がメチン、他方が窒素原子を、 R^2 および R^3 はそれぞれ水素原子、置換基を有していてもよい炭化水素基またはアシル

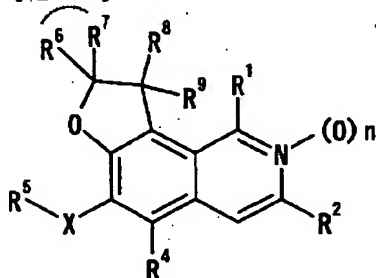
基を示し、 R^2 と R^3 は隣接する炭素原子と共に置換基を有していてもよい3ないし8員環を形成してもよく、 R^4 は水素原子、シアノ基、置換基を有していてもよい炭化水素基、アシル基または置換基を有していてもよいヒドロキシ基を、 R^5 は置換基を有していてもよい C_{1-3} アルキル基、置換基を有していてもよい C_{6-14} アリール基、置換基を有していてもよい複素環基またはハロゲン原子を、 R^6 および R^7 はそれぞれ水素原子または置換基を有していてもよい炭化水素基を示し、 R^6 と R^7 は隣接する炭素原子と共に置換基を有していてもよい3ないし8員環を形成してもよく、 R^8 および R^9 はそれぞれ水素原子または置換基を有していてもよい炭化水素基を、Xは結合手、酸素原子、酸化されていてもよい硫黄原子または置換基を有していてもよい窒素原子を、Yは置換基を有していてもよいメチレン基を、 R^{10} は水素原子または C_{1-6} アルキルでエステル化されていてもよいカルボキシ基を、 R^{11} は(1)アミノ基、(2)式-NHCOR¹² (R^{12} は鎖状 C_{1-6} アルキル基または C_{7-16} アラルキル基を示す)、(3)ヒドロキシ基、(4)(1')カルボキシ、(2') C_{1-6} アルコキシカルボニルまたは(3')モノ C_{1-6} アルキルカルバモイルで置換されていてもよい C_{1-6} アルコキシまたは(5)モノ C_{1-6} アルキルカルバモイル基を、 R^{13} は水素原子またはハロゲン原子を、 R^{14} は(1)水素原子、(2)ヒドロキシ基、(3)アミノ基、(4) C_{1-6} アルコキシカルボニルまたはカルボキシで置換されていてもよい C_{1-6} アルコキシ基、(5)シアノ基、(6)カルボキシ基、(7) C_{1-6} アルコキシカルボニル基または(8)カルバモイル基を、nは0または1を示す(但し、3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-アミン、N-[3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-イル]アセトアミド、N-[3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-イル]プロパンアミド、N-メチル-3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-カルボキサミド、3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-4,4,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-アミンおよびN-[3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-4,4,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-イル]アセトアミドを除く)で表される化合物またはその塩、〔14〕式

〔化32〕

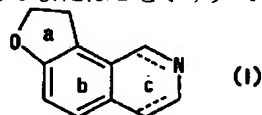


〔式中、 D^1 および D^2 は、ともにメチンまたは一方がメチン、他方が窒素原子を、 R^2 および R^3 はそれぞれ置換基を有していてもよい炭化水素基またはアシル基を示し、 R^2 と R^3 は隣接する炭素原子と共に置換基を有していてもよい3ないし8員環を形成してもよく、 R^4 は水素原子、シアノ基、置換基を有していてもよい炭化水素基、アシル基または置換基を有していてもよいヒドロキシ基を、 R^5 は置換基を有していてもよい C_{1-3} アルキル基、置換基を有していてもよい C_{6-14} アリール基、置換基を有していてもよい複素環基またはハロゲン原子を、 R^6 および R^7 はそれぞれ水素原子または置換基を有していてもよい炭化水素基を示し、 R^6 と R^7 は隣接する炭素原子と共に置換基を有していてもよい3ないし8員環を形成してもよく、 R^8 および R^9 はそれぞれ水素原子または置換基を有していてもよい炭化水素基を、Xは結合手、酸素原子、酸化されていてもよい硫黄原子または置換基を有していてもよい窒素原子を、Yは置換基を有していてもよいメチレン基を、 R^{10} はアミノ基または式-NHCOR¹¹ (R^{11} は鎖状 C_{1-6} アルキル基または C_{7-16} アラルキル基を示す)を、 R^{12} は水素原子またはハロゲン原子を、 R^{13} は水素原子、ヒドロキシ基、アミノ基、 C_{1-6} アルコキシカルボニルまたはカルボキシで置換されていてもよい C_{1-6} アルコキシ基を、nは0または1を示す(但し、3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-アミン、N-[3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-イル]アセトアミドおよびN-[3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-イル]プロパンアミドを除く)で表される化合物またはその塩、〔15〕 D^1 および D^2 がともにメチン、 R^2 および R^3 はそれぞれ水素原子または C_{1-6} アルキル基、 R^4 が(1)水素原子、(2)シアノ、(3)カルボキシまたは(4) C_{1-6} アルコキシカルボニルで置換されていてもよい C_{1-6} アルキル基、 R^5 が(1) C_{1-3} アルキル基または(2) C_{6-14} アリール、 R^6 および R^7 がそれぞれ水素原子または C_{1-6} アルキル基、 R^8 および R^9 がそれぞれ水素原子、Xが結合手、酸素原子または硫黄原子、Yがメチレ

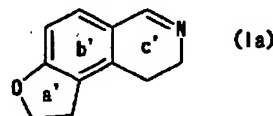
ン基、 $-\text{C}(\text{CH}_3)_2-$ 、 $-\text{CH}(\text{OCH}_3)-$ 、 $-\text{CH}(\text{OH})-$ またはカルボニル基である前記〔13〕記載の化合物、〔16〕式



〔式中、 R^1 は(1)水素原子、(2)置換基を有していてもよい炭化水素基、(3)置換基を有していてもよい複素環基または(4)置換基を有していてもよいアミノ基を、 R^2 は(1)水素原子、(2)置換基を有していてもよい炭化水素基または(3)アシル基を、 R^3 は(1)水素原子、(2)シアノ基、(3)置換基を有していてもよい炭化水素基、(4)アシル基または(5)置換基を有していてもよいヒドロキシ基を、 R^4 は(1)水素原子、(2)置換基を有していてもよい炭化水素基、(3)アシル基、(4)置換基を有していてもよい複素環基または(5)ハロゲン原子を、 R^5 および R^6 はそれぞれ水素原子または置換基を有していてもよい炭化水素基を示し、 R^7 と R^8 は隣接する炭素原子と共に置換基を有していてもよい3ないし8員環を形成してもよく、 R^9 および R^{10} はそれぞれ水素原子または置換基を有していてもよい炭化水素基を、 X は(1)結合手、(2)酸素原子、(3)酸化されていてもよい硫黄原子または(4)置換基を有していてもよい窒素原子を、 n は0または1を示す〕で表さ *



または



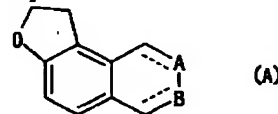
〔式中、 a 環、 b 環、 c 環、 a' 環、 b' 環および c' 環はそれぞれ置換基を有していてもよく、 $---$ は単結合または二重結合を示す〕で表される化合物(以下、化合物(I)または化合物(Ia)と略記する場合がある)もしくははそのプロドラッグまたはその塩を含有してなる。

【0008】上記式中、 a 環、 b 環、 c 環、 a' 環、 b' 環および c' 環は、置換可能な位置に置換可能な数の置換基を有していてもよい。 a 環、 b 環、 c 環、 a' 環、 b' 環および c' 環の置換基としては、それぞれ(1)置換基を有していてもよい炭化水素基、(2)置換基を有していてもよい複素環基、(3)置換基を有していてもよいアミノ基、(4)アシル基、(5)置換基を有していてもよいヒドロキシ基、(6)置換基を有していてもよいメルカプト基、(7)ハロゲン原子(例えば、フッ素、塩素、臭素、ヨウ素)、(8)低級アルキレンジオキシ基(例えば、メチレンジオキシ、エチレンジオキシなどの C_{1-3} アルキレンジ

* れる化合物またはその塩、〔17〕 R^1 が(1)ハロゲン、(2)アミノ、(3) C_{1-6} アシルアミノ、(4)(1')アミノまたは(2') C_{1-6} アシルアミノで置換されていてもよいフェニルおよび(5) ジC_{1-6} アルキルホスホノ $-\text{C}_{1-6}$ アルキルで置換されていてもよいベンズアミドから選ばれる置換基を有していてもよいフェニル基、 R^2 が、(1)水素原子、(2)(1')ヒドロキシ基、(2')ハロゲン原子、(3')アミノ、(4') C_{1-6} アルコキシカルボニルアミノ、(5') ジC_{1-6} アルキルアミノおよび(6')フタルイミドから選ばれる置換基を有していてもよい C_{1-6} アルキル、(3)カルボキシ、(4) C_{1-6} アルコキシカルボニル、(5)カルバモイル、(6) ジC_{1-6} アルキルカルバモイルまたは(7)ピリジルカルバモイル、 R^4 が水素原子、 R^5 が C_{1-6} アルキル、 R^6 および R^7 が C_{1-6} アルキル、 R^8 および R^9 が水素原子、 X が酸素原子、 n が0である前記〔16〕記載の化合物、〔18〕前記〔16〕記載の化合物またはその塩もしくははそのプロドラッグを含有してなる医薬等に関する。

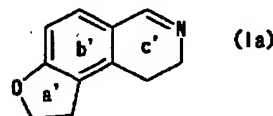
【0007】本発明の剤は、式

【化34】



〔式中、 A 、 B のいずれか一方は窒素原子、他方は炭素原子を示し、 $---$ は単結合または二重結合を示す〕で表される部分構造を有する化合物もしくははその塩またはそのプロドラッグを含有してなる。具体的には、式

【化35】



オキシ基など)、(9)ニトロ基、(10)シアノ基、(11)置換基を有していてもよいイミノ基、(12)オキソ基、(13)置換基を有していてもよいウレイド基、(14)アジド基、(15)置換基を有していてもよいアミジノ基、(16)置換基を有していてもよいグアニジノ基、(17)置換基を有していてもよいヒドラジノ基、(18)オキシド基などが用いられる。

【0009】 a 環、 b 環、 c 環、 a' 環、 b' 環および c' 環の置換基として用いられる「置換基を有していてもよい炭化水素基」の炭化水素基としては、例えば、アルキル基、アルケニル基、アルキニル基、シクロアルキル基、アリール基、アラールキル基などの鎖状または環状炭化水素基が用いられ、なかでも炭素数1ないし16個の鎖状(直鎖状あるいは分枝状)または環状炭化水素基(例、芳香族炭化水素基、脂肪族環状炭化水素基)などが好ましい。具体的には、以下のものが用いられる。

(1)鎖状炭化水素基:

a)アルキル基〔好ましくは、低級アルキル基(例えば、メチル、エチル、プロピル、イソプロピル、ブチル、イソブチル、sec-ブチル、tert-ブチル、ペンチル、ヘキシルなどの C_{1-6} アルキル基など)〕、

b)アルケニル基〔好ましくは、低級アルケニル基(例えば、ビニル、アリル、イソプロペニル、2-ブテニル、2-メチル-2-プロペニル、4-ペンテニル、5-ヘキセニルなどの C_{2-6} アルケニル基など)〕、

c)アルキニル基〔好ましくは、低級アルキニル基(例えば、プロパルギル、エチニル、2-ブチニル、2-ヘキシニルなどの C_{2-6} アルキニル基など)〕

(2)脂肪族環状炭化水素基:

a)シクロアルキル基〔好ましくは、低級シクロアルキル基(例えば、シクロプロピル、シクロブチル、シクロペンチル、シクロヘキシルなどの C_{3-6} シクロアルキル基)であり、ベンゼン環と縮合していてもよい〕、

b)シクロアルケニル基〔好ましくは、低級シクロアルケニル基(例えば、1-シクロプロペニル、1-シクロブテニル、1-シクロペンテニル、1-シクロヘキセニルなどの C_{3-6} シクロアルケニル基)であり、ベンゼン環と縮合していてもよい〕

(3)芳香族炭化水素基:アリール基(例えば、フェニル、1-ナフチル、2-ナフチル、1-アントリル、2-アントリル、9-アントリル、1-フェナントリル、2-フェナントリル、3-フェナントリル、4-フェナントリルまたは9-フェナントリルなどの C_{6-14} アリール基など、好ましくはフェニル基)

(4)アラルキル基:低級アラルキル基(例えば、ベンジル、フェネチル、ジフェニルメチル、1-ナフチルメチル、2-ナフチルメチル、2-フェネチル、2,2-ジフェニルエチル、1-フェニルプロピル、2-フェニルプロピル、3-フェニルプロピル、4-フェニルブチル、5-フェニルペンチルなどの C_{7-16} アラルキル基など、好ましくはベンジル基)。

【0010】これら炭化水素基の置換基としては、例えば、(1)ハロゲン原子(例えば、フッ素、塩素、臭素、ヨウ素)、(2)低級アルキレンジオキシ基(例えば、メチレンジオキシ、エチレンジオキシなどの C_{1-3} アルキレンジオキシ基など)、(3)ニトロ基、(4)シアノ基、(5)ハロゲン化されていてもよい低級アルキル基、(6)ハロゲン化されていてもよい低級アルケニル基、(7)ハロゲン化されていてもよい低級アルキニル基、(8)低級シクロアルキル基(例えば、シクロプロピル、シクロブチル、シクロペンチル、シクロヘキシルなどの C_{3-6} シクロアルキル基など)、(9) C_{6-14} アリール基(例、フェニル、2-ナフチルなど)、(10)ハロゲン化されていてもよい低級アルコキシ基、(11)ハロゲン化されていてもよい低級アルキルチオ基、(12)ヒドロキシ基、(13)アミノ基、(14)モノ-低級アルキルアミノ基(例、メチルアミ

ノ、エチルアミノ、プロピルアミノ、イソプロピルアミノ、ブチルアミノなどのモノ- C_{1-6} アルキルアミノ基など)、(15)モノ- C_{6-14} アリールアミノ基(例、フェニルアミノ、2-ナフチルアミノなど)、(16)ジ-低級アルキルアミノ基(例、ジメチルアミノ、ジエチルアミノ、ジプロピルアミノ、ジブチルアミノ、エチルメチルアミノなどのジ- C_{1-6} アルキルアミノ基など)、(17)ジ- C_{6-14} アリールアミノ基(例、ジフェニルアミノ、ジ(2-ナフチル)アミノなど)、(18)アシル基、(19)アシルアミノ基、(20)アシルオキシ基、(21)4ないし14員複素環基(好ましくは4ないし10員、より好ましくは4ないし7員複素環、特に好ましくは5または6員複素環基)(例、4-ピリジル、2-チエニル、2-フリル、2-チアゾリル、3-インドリル、モルホリノ、1-ピペラジニル、ピペリジノ、1-ピロリジニル、2-イソインドリニルなどの炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれる1ないし4個のヘテロ原子を含有する4ないし14員、好ましくは4ないし7員、より好ましくは5または6員複素環基など)、(22)ホスホノ基、(23) C_{6-14} アリールオキシ基(例、フェノキシ)、(24)ジ- C_{1-6} アルコキシ-ホスホリル基(例、ジメトキシホスホリル、ジエトキシホスホリル)、(25) C_{6-14} アリールチオ基(例、フェニルチオ)、(26)ヒドラジノ基、(27)イミノ基、(28)オキソ基、(29)ウレイド基、(30) C_{1-6} アルキル-ウレイド基(例、メチルウレイド、エチルウレイドなど)、(31)ジ- C_{1-6} アルキル-ウレイド基(例、ジメチルウレイド、ジエチルウレイドなど)、(32)オキシド基、(33)前記(1)~(32)の基から選ばれる2ないし3個が結合してできる基などからなる群(置換基A群)から選ばれる1ないし5個、好ましくは1ないし3個が用いられる。但し、オキシ基が炭化水素基と結合して、「置換基を有していてもよい炭化水素基」がアシル基を形成する場合を除く。

【0011】前記置換基A群中の「ハロゲン化されていてもよい低級アルキル基」としては、例えば、1ないし3個のハロゲン原子(例えば、フッ素、塩素、臭素、ヨウ素)を有していてもよい低級アルキル基(例えば、メチル、エチル、プロピル、イソプロピル、ブチル、イソブチル、sec-ブチル、tert-ブチル、ペンチル、ヘキシルなどの C_{1-6} アルキル基など)などが用いられ、具体例としては、メチル、クロロメチル、ジフルオロメチル、トリクロロメチル、トリフルオロメチル、エチル、2-プロモエチル、2,2,2-トリフルオロエチル、プロピル、3,3,3-トリフルオロプロピル、イソプロピル、ブチル、4,4,4-トリフルオロブチル、イソブチル、sec-ブチル、tert-ブチル、ペンチル、イソペンチル、ネオペンチル、5,5,5-トリフルオロペンチル、ヘキシル、6,6,6-トリフルオロヘキシルなどが挙げられる。前記置換基A群中の「ハロゲン化されていてもよい低級アルケニル基」としては、例えば、1ないし3個のハロゲン原子(例えば、

フッ素、塩素、臭素、ヨウ素)を有していてもよい低級アルケニル基(例えば、ビニル、アリル、イソプロペニル、2-ブテニル、2-メチル-2-プロペニル、4-ペンテニル、5-ヘキセニルなどの C_{2-6} アルケニル基)などが用いられる。前記置換基A群中の「ハロゲン化されていてもよい低級アルキニル基」としては、例えば、1ないし3個のハロゲン原子(例えば、フッ素、塩素、臭素、ヨウ素)を有していてもよい低級アルキニル基(例えば、プロパルギル、エチニル、2-ブチニル、2-ヘキシニルなどの C_{2-6} アルキニル基など)などが用いられる。前記置換基A群中の「ハロゲン化されていてもよい低級アルコキシ基」としては、例えば、1ないし3個のハロゲン原子(例、フッ素、塩素、臭素、ヨウ素)を有していてもよい低級アルコキシ基(例えば、メトキシ、エトキシ、プロポキシ、イソプロポキシ、ブトキシ、イソブトキシ、sec-ブトキシ、tert-ブトキシ、ペンチルオキシ、イソペンチルオキシ、ネオペンチルオキシなどの C_{1-6} アルコキシ基など)などが用いられ、具体例としては、メトキシ、エトキシ、プロポキシ、イソプロポキシ、ブトキシ、イソブトキシ、sec-ブトキシ、tert-ブトキシ、トリクロロメトキシ、3,3,3-トリフルオロプロポキシ、4,4,4-トリフルオロブトキシ、5,5,5-トリフルオロペンチルオキシ、6,6,6-トリフルオロヘキシルオキシなどが用いられる。前記置換基A群中の「ハロゲン化されていてもよい低級アルキルチオ基」としては、例えば、1ないし3個のハロゲン原子(例、フッ素、塩素、臭素、ヨウ素)を有していてもよい C_{1-6} アルキルチオ基(例えば、メチルチオ、エチルチオ、プロピルチオ、イソプロピルチオ、ブチルチオ、イソブチルチオ、sec-ブチルチオ、tert-ブチルチオなどの C_{1-6} アルキルチオ基)などが用いられ、具体例としては、メチルチオ、ジフルオロメチルチオ、トリフルオロメチルチオ、エチルチオ、プロピルチオ、イソプロピルチオ、ブチルチオ、4,4,4-トリフルオロブチルチオ、ペンチルチオ、ヘキシルチオなどが挙げられる。

【0012】前記置換基A群中の「アシル基」としては、例えば、ホルミル、カルボキシ、カルバモイル、 C_{1-6} アルキル-カルボニル(例、アセチル、プロピオニルなど)、 C_{3-6} シクロアルキル-カルボニル(例、シクロペンチルカルボニル、シクロヘキシルカルボニルなど)、 C_{1-6} アルコキシ-カルボニル(例、メトキシカルボニル、エトキシカルボニル、イソプロポキシカルボニル、tert-ブトキシカルボニルなど)、 C_{6-14} アリール-カルボニル(例、ベンゾイル、2-ナフトイルなど)、 C_{7-16} アラールキル-カルボニル(例、フェニルアセチル、3-フェニルプロピオニルなど)、 C_{6-14} アリールオキシ-カルボニル(例、フェノキシカルボニル、2-ナフチルオキシカルボニルなど)、 C_{7-16} アラールキルオキシ-カルボニル(例、ベンジルオキシカルボニル、2-ナフチルメチルオキシカルボニルなど)、5または6員複素環カルボ

10

20

30

40

50

ニル(例、1-ピロリジニルカルボニル、4-ピペリジルカルボニル、1-ピペラジニルカルボニル、2-モルホリニルカルボニル、4-ピリジルカルボニル、3-チエニルカルボニル、2-フリルカルボニル、2-チアゾリルカルボニルなどの炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する5または6員複素環カルボニルなど)、モノ- C_{1-6} アルキル-カルバモイル(例、メチルカルバモイル、エチルカルバモイルなど)、ジ- C_{1-6} アルキル-カルバモイル(例、ジメチルカルバモイル、ジエチルカルバモイルなど)、 C_{6-14} アリール-カルバモイル(例、フェニルカルバモイル、2-ナフチルカルバモイルなど)、5または6員複素環カルバモイル(例、1-ピロリジニルカルバモイル、4-ピペリジルカルバモイル、1-ピペラジニルカルバモイル、2-モルホリニルカルバモイル、4-ピリジルカルバモイル、3-チエニルカルバモイル、2-フリルカルバモイル、2-チアゾリルカルバモイルなどの炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する5または6員複素環カルバモイルなど)、 C_{1-6} アルキル-チオカルボニル(例、メチルチオカルボニルなど)、 C_{3-6} シクロアルキル-チオカルボニル(例、シクロペンチルチオカルボニル、シクロヘキシルチオカルボニルなど)、 C_{1-6} アルコキシ-チオカルボニル(例、メトキシチオカルボニル、エトキシチオカルボニル、プロポキシチオカルボニル、ブトキシチオカルボニルなど)、 C_{6-14} アリール-チオカルボニル(例、フェニルチオカルボニル、2-ナフチルチオカルボニルなど)、 C_{7-16} アラールキル-チオカルボニル(例、ベンジルチオカルボニル、フェネチルチオカルボニルなど)、 C_{6-14} アリールオキシ-チオカルボニル(例、フェノキシチオカルボニル、2-ナフチルオキシチオカルボニルなど)、 C_{7-16} アラールキルオキシ-チオカルボニル(例、ベンジルオキシチオカルボニル、2-ナフチルメチルオキシチオカルボニルなど)、5または6員複素環チオカルボニル(例、1-ピロリジニルチオカルボニル、4-ピペリジルチオカルボニル、1-ピペラジニルチオカルボニル、2-モルホリニルチオカルボニル、4-ピリジルチオカルボニル、3-チエニルチオカルボニル、2-フリルチオカルボニル、2-チアゾリルチオカルボニルなどの炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する5または6員複素環チオカルボニルなど)、チオカルバモイル、モノ- C_{1-6} アルキル-チオカルバモイル(例、メチルチオカルバモイル、エチルチオカルバモイルなど)、ジ- C_{1-6} アルキル-チオカルバモイル(例えば、ジメチルチオカルバモイル、ジエチルチオカルバモイルなど)、 C_{6-14} アリール-チオカルバモイル(例、フェニルチオカルバモイル、2-ナフチルチオカルバモイルなど)、スルファモイル、モノ- C_{1-6} アルキル-スルファモイル(例、メチルスルファモイル、エチルスルファモイルなど)、ジ- C_{1-6}

アルキル-スルファモイル (例、ジメチルスルファモイル、ジエチルスルファモイルなど)、 C_{6-14} アリール-スルファモイル (例、フェニルスルファモイルなど)、 C_{1-6} アルキルスルホニル (例、メチルスルホニル、エチルスルホニルなど)、 C_{6-14} アリールスルホニル (例、フェニルスルホニル、2-ナフチルスルホニルなど)、 C_{1-6} アルキルスルフィニル (例、メチルスルフィニル、エチルスルフィニルなど)、 C_{6-14} アリールスルフィニル (例、フェニルスルフィニル、2-ナフチルスルフィニルなど)、スルフィノ、スルホ、 C_{1-6} アルコキシスルフィニル (例、メトキシスルフィニル、エトキシスルフィニル)、 C_{6-14} アリールオキシスルフィニル (例、フェノキシスルフィニル)、 C_{1-6} アルコキシスルホニル (例、メトキシスルホニル、エトキシスルホニル) および C_{6-14} アリールオキシスルホニル (例、フェノキシスルホニル) などが用いられる。なかでも、ホルミル、カルボキシ、 C_{1-6} アルキル-カルボニル、 C_{1-6} アルコキシ-カルボニル、カルバモイル、モノ- C_{1-6} アルキルカルバモイルなどの C_{1-7} アシル基、モノ- C_{1-6} アルキル-スルファモイルまたはスルファモイルが好ましい。

【0013】前記置換基A群中の「アシルアミノ基」としては、例えば、ホルミルアミノ、ハロゲン化されていてもよい C_{1-6} アルキル-カルボキサミド (例、アセトアミド、プロピオンアミド、2-クロロアセトアミド、2,2-ジクロロアセトアミド、2,2,2-トリクロロアセトアミドなど)、 C_{6-14} アリール-カルボキサミド (例、ベンズアミド、2-ナフチルカルボキサミドなど)、 C_{7-16} アラルキルカルボキサミド (例、フェニルアセトアミドなど)、 C_{1-6} アルコキシ-カルボキサミド (例、メトキシカルボキサミド、エトキシカルボキサミド、イソプロポキシカルボキサミド、tert-ブトキシカルボキサミドなど)、 C_{1-6} アルキルスルホニルアミノ (例、メチルスルホニルアミノ、エチルスルホニルアミノなど)、ビス (C_{1-6} アルキルスルホニル) アミノ (例、ビス (メチルスルホニル) アミノ、ビス (エチルスルホニル) アミノなど)、 C_{6-14} アリールスルホニルアミノ (例、フェニルスルホニルアミノ、2-ナフチルスルホニルアミノなど) などが用いられる。なかでも、ホルミルアミノ、ハロゲン化されていてもよい C_{1-6} アルキル-カルボキサミド、 C_{1-6} アルコキシ-カルボキサミド、 C_{1-6} アルキルスルホニルアミノ、ビス (C_{1-6} アルキルスルホニル) アミノなどの C_{1-7} アシルアミノ基が好ましい。前記置換基A群中の「アシルオキシ基」としては、例えば、 C_{1-6} アルキル-カルボニルオキシ (例、アセチルオキシ、プロピオニルオキシなど)、 C_{6-14} アリール-カルボニルオキシ (例、ベンゾイルオキシ、2-ナフトイルオキシなど)、 C_{1-6} アルコキシ-カルボニルオキシ (例、メトキシカルボニルオキシ、エトキシカルボニルオキシ、イソプロポキシカルボニルオキシ、tert-ブトキシカルボニルオキシなど)、モノ- C_{1-6} アルキル-カルバモイルオキシ

(例、メチルカルバモイルオキシ、エチルカルバモイルオキシなど)、ジ- C_{1-6} アルキル-カルバモイルオキシ (例、ジメチルカルバモイルオキシ、ジエチルカルバモイルオキシなど)、 C_{6-14} アリール-カルバモイルオキシ (例、フェニルカルバモイルオキシ、2-ナフチルカルバモイルオキシなど) などが用いられる。なかでも、 C_{1-6} アルキル-カルボニルオキシ、 C_{1-6} アルコキシ-カルボニルオキシなどの C_{2-7} アシルオキシ基が好ましい。

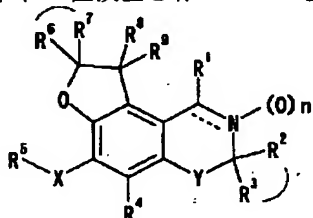
【0014】前記置換基A群において、前記(1)~(32)の基から選ばれる2ないし3個が結合してできる基としては、例えば、(33a)置換 C_{1-6} アルキル基 [この C_{1-6} アルキル基は、シアノ、カルバモイル、 C_{1-6} アルキル-カルバモイル、 C_{1-6} アルキル-カルボニルオキシ、 C_{1-6} アルコキシ-カルボニル- C_{1-6} アルキル-カルバモイル、5または6員複素環 (例、ピリジルなどの炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する5または6員複素環) - C_{1-6} アルキル-カルバモイル、 C_{1-6} アルキルスルホニルアミノ、 C_{1-6} アルコキシ-カルボニル、カルボキシなどから選ばれる置換基を有する]、(33b)置換 C_{6-14} アリール基 [この C_{6-14} アリール基は、アミノ、ハロゲン化されていてもよい C_{1-6} アルキル-カルボニルアミノ、ウレイド、 C_{1-6} アルキルスルホニルアミノ、(C_{1-6} アルキル) (C_{1-6} アルキルスルホニル) アミノ、 C_{1-6} アルコキシ-カルボニル- C_{1-6} アルキルアミノなどから選ばれる置換基を有する]、(33c) C_{1-6} アルコキシ- C_{6-14} アリール- C_{1-6} アルコキシ基、(33d)置換基を有する炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれる1ないし4個のヘテロ原子を含有する5ないし14員複素環基 [この複素環基は、オキソ、カルボキシ- C_{1-6} アルキル、 C_{1-6} アルキル-カルボニルオキシ- C_{1-6} アルキル、 C_{1-6} アルキル、 C_{1-6} アルコキシ-カルボニル- C_{1-6} アルキル、 C_{1-6} アルキル-カルバモイル- C_{1-6} アルキルなどから選ばれる置換基を有する]、(33e)式-NR¹²R¹³で表わされる基 [R¹² および R¹³ はそれぞれ (i) 5または6員複素環 (例、炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する5または6員複素環) - C_{1-6} アルキル、(ii) C_{1-6} アルコキシ-カルボニル- C_{1-6} アルキル、(iii) ジ- C_{1-6} アルキルアミノ-メチレン-スルファモイル- C_{1-6} アルキル、(iv) カルバモイル- C_{1-6} アルキル、(v) スルファモイル- C_{1-6} アルキル、(vi) C_{1-6} アルキル-スルホニル、(vii) C_{1-6} アルコキシ-カルボニル、(viii) ジ- C_{1-6} アルコキシ-カルボニル- C_{2-6} アルケニル、(ix) 5または6員複素環基 (例、炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する5または6員複素環基) [この5または6員複素環基は、アミノ、 C_{1-6} アルキル-カルボキサミド、 C_{1-6} アルキル-スルホニルアミノなどから選ばれる置換基を有していてもよい]、(x) ハロゲン化されていてもよい C_{1-6} アルキル-

カルボニル、(xi)C₁₋₆ アルキルチオ-C₁₋₆ アルキル-カルボニル、(xii)C₁₋₆ アルキルスルフィニル-C₁₋₆ アルキル-カルボニル、(xiii)C₁₋₆ アルキルスルホニル-C₁₋₆ アルキル-カルボニル、(xiv)アミノ-C₁₋₆ アルキル-カルボニル、(xv)ハロゲン化されていてもよいC₁₋₆ アルキル-カルボニル-アミノ-C₁₋₆ アルキル-カルボニル、(xvi)C₆₋₁₄ アリール-カルボニル、(xvii)カルボキシ-C₆₋₁₄ アリール-カルボニル、(xviii)C₁₋₆ アルキルでエステル化されていてもよいホスホノ-C₁₋₆ アルキル-C₆₋₁₄ アリール-カルボニル、(xix)C₁₋₆ アルコキシ-カルボニルを有していてもよい5または6員複素環（例、炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する5または6員複素環）-カルボニル、(xx)5または6員複素環（例、炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する5または6員複素環）-C₁₋₆ アルキル-カルボニル、(xxi)C₆₋₁₄ アリール-オキシ-カルボニル、(xxii)カルボキシ-C₁₋₆ アルキル、(xxiii)カルバモイルなどを示す]、(33f)式-CO-Hal (Halはハロゲン原子を示す) で表される基、(33g)置換スルファモイル基 [このスルファモイル基は、カルバモイル-C₁₋₆ アルキル、5または6員複素環-C₁₋₆ アルキルなどから選ばれる置換基を有する]、(33h)式-C(=O)NR¹⁴R¹⁵ で表わされる基 [R¹⁴ およびR¹⁵ はそれぞれ(i) 5または6員複素環（例、ピリジル、イミダゾリルなどの炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する5または6員複素環）-C₁₋₆ アルキル、(ii)カルボキシ-C₁₋₆ アルキル、(iii)C₁₋₆ アルコキシ-カルボニル-C₁₋₆ アルキル、(iv)ジ-C₁₋₆ アルキルアミノ-C₁₋₆ アルキル、(v)カルバモイル-C₁₋₆ アルキル、(vi)C₁₋₆ アルキルカルバモイル-C₁₋₆ アルキル、(vii)5または6員複素環（例、ピリジルなどの炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する5または6員複素環）-C₁₋₆ アルキルカルバモイル-C₁₋₆ アルキル、(viii)5または6員複素環（例、ピリジルなどの炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する5または6員複素環）-アミノ-C₁₋₆ アルキル、(ix)スルファモイル-C₆₋₁₄ アリール-C₁₋₆ アルキル、(x)C₁₋₆ アルコキシを有していてもよいC₆₋₁₄ アリール、(xi)C₁₋₆ アルキルでエステル化されていてもよいホスホノ-C₁₋₆ アルキル-C₆₋₁₄ アリール、(xii)4ないし10員複素環基（例、炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する4ないし10員複素環） [この4ないし10員複素環基は、ハロゲン原子、C₁₋₆ アルキル、オキノなどから選ばれる置換基を1ないし2個有していてもよい]、(xiii)C₆₋₁₄ アリール-カルバモイル-C₁₋₆ アルキルなどを示す。R¹⁴ としては水素原子が好ましい。] などが用いられる。

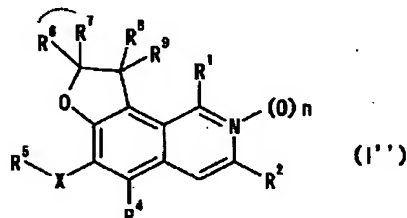
【0015】a環、b環、c環、a' 環、b' 環およびc' 環の置換基として用いられる「置換基を有していてもよい複素環基」としては、例えば、炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれるヘテロ原子を1ないし4個含む（好ましくは1ないし3個）4ないし14員複素環基などが用いられ、具体的には、(a) 4ないし14員芳香族複素環基、(b) 4ないし14員脂肪族複素環基、(c) 4ないし14員複素環とベンゼン環との2または3環性縮合環基などが用いられる。該4ないし14員芳香族複素環基としては、例えば、炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれるヘテロ原子を1ないし4個含む（好ましくは1ないし3個）4ないし14員芳香族複素環基などが用いられ、具体的には、チオフエン、フラン、インドリジン、ピロール、イミダゾール、トリアゾール、チアゾール、オキサゾール、ピラゾール、ピリジン、N-オキシド化ピリジン、ピラジン、ピリミジン、ピリダジン、プリン、4H-キノリジン、ナフチリジン、イソチアゾール、イソオキサゾール、フラザンなどが挙げられる。なかでも、ピリジン、チオフエン、フランなどが好ましく用いられる。該4ないし14員脂肪族複素環基としては、炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれるヘテロ原子を1ないし4個（好ましくは1ないし3個）を含む4ないし14員脂肪族複素環基などが用いられ、具体的には、ピロリジン、ピペリジン、ピペラジン、モルホリン、チオモルホリン、1,2-ジヒドロピリジン、イミダゾリジンなどが挙げられる。該4ないし14員複素環とベンゼン環との2または3環性縮合環基としては、炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子から選ばれるヘテロ原子を1ないし4個（好ましくは1ないし3個）を含む複素環とベンゼン環との2または3環性縮合環基などが用いられ、具体的には、ベンゾ [b] チオフエン、ベンゾフラン、1H-ベンズイミダゾール、ベンズオキサゾール、ベンズチアゾール、1,2-ベンズイソチアゾール、ナフト [2,3-b] チオフエン、チアントレン、キサテン、フェノキサチン、インドール、イソインドール、1H-インダゾール、イソキノリン、キノリン、フタラジン、キノキサリン、キナゾリン、シンノリン、カルバゾール、β-カルボリン、フェナントリジン、アクリジン、フェナジン、フェノチアジン、フェノキサジン、イソクロマン、ジヒドロベンゾフランなどが挙げられる。これら複素環基の置換基としては、前記置換基A群から選ばれる1ないし5個、好ましくは1ないし3個が用いられる。

【0016】a環、b環、c環、a' 環、b' 環およびc' 環の置換基として用いられる「置換基を有していてもよいアミノ基」としては、上記「置換基を有していてもよい炭化水素基」、上記「置換基を有していてもよい複素環基」、置換基A群中の「アシル基」（この「アシル基」は、さらに置換基A群から選ばれる1ないし5個、好ま

しくは1ないし3個の置換基を有していてもよい) などから選ばれる置換基を1ないし2個有していてもよいアミノ基などが用いられる。a環、b環、c環、a'環、b'環およびc'環の置換基として用いられる「アシル基」としては、前記した置換基A群中の「アシル基」と同様のものが用いられる。この「アシル基」は、さらに置換基A群から選ばれる1ないし5個、好ましくは1ないし3個の置換基を有していてもよい。a環、b環、c環、a'環、b'環およびc'環の置換基として用いられる「置換基を有していてもよいヒドロキシ基」、「置換基を有していてもよいメルカプト基」、「置換基を有していてもよいイミノ基」、「置換基を有していてもよいウレイド*



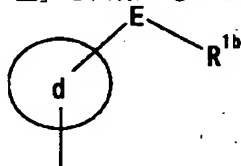
(I') または



(I'')

〔式中、各記号は前記と同意義を示す〕で表される化合物などが用いられる。

【0018】上記式中、 R^1 は(1)水素原子、(2)置換基を有していてもよい炭化水素基、(3)置換基を有していてもよい複素環基または(4)置換基を有していてもよいアミノ基を示す。 R^1 で示される「置換基を有していてもよい炭化水素基」としては、a環の置換基として例示した「置換基を有していてもよい炭化水素基」と同様のものが用いられる。 R^1 で示される「置換基を有していてもよい複素環基」としては、a環の置換基として例示した「置換基を有していてもよい複素環基」と同様のものが用いられる。 R^1 で示される「置換基を有していてもよいアミノ基」としては、a環の置換基として例示した「置換基を有していてもよいアミノ基」と同様のものが用い※



〔式中、 R^{1b} は水素原子、置換基を有していてもよい炭化水素基または置換基を有していてもよい複素環基を、d環は置換基を有していてもよい芳香族炭化水素環または置換基を有していてもよい複素環を、Eは結合手、メチレン基、酸素原子、酸化されていてもよい硫黄原子、置換基を有していてもよい窒素原子または式-CS-O-、-C O-O-、-S-CO-、-(CH₂)_k-CO-、-NR^{1c}-CO-(CH₂)_m-、-NR^{1c}

*基」、「置換基を有していてもよいアミノ基」、「置換基を有していてもよいグアニジノ基」および「置換基を有していてもよいヒドラジノ基」の置換基としては、上記「置換基を有していてもよい炭化水素基」、上記「置換基を有していてもよい複素環基」、置換基A群中の「アシル基」(この「アシル基」は、さらに置換基A群から選ばれる1ないし5個、好ましくは1ないし3個の置換基を有していてもよい)などが用いられる。

【0017】a環、b環およびc環がそれぞれ置換基を有する化合物としては、具体的には、式

【化36】

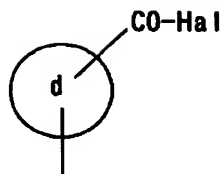
20※られる。 R^1 としては、(1)置換基を有していてもよい芳香族炭化水素基、(2)置換基を有していてもよい複素環基、(3)置換基を有していてもよい脂肪族環状炭化水素基、(4)式-L- R^{1a} 〔式中、Lはメチレン基、カルボニル基または置換基を有していてもよい窒素原子を、 R^{1a} は水素原子、置換基を有していてもよい芳香族基、置換基を有していてもよいヒドロキシ基または置換基を有していてもよいアミノ基を示す〕で表わされる基などが好ましく、なかでも置換基を有していてもよい芳香族炭化水素基が好ましい。

【0019】また、この「置換基を有していてもよい芳香族炭化水素基」および「置換基を有していてもよい複素環基」としては、式

【化37】

40 -SO₂-(CH₂)_a-、-SO₂-NR^{1c}-(CH₂)_a-、-O-CS-NR^{1c}-(CH₂)_a-、-NR^{1c}-CO-NR^{1c}-(CH₂)_a-、-NR^{1c}-CO-CH₂-(CH₂)_a-NR^{1c}-〔式中、 R^{1c} は水素原子、置換基を有していてもよいアルキル基またはアシル基を、kは0または1を、mは0ないし3の整数を示す〕で表される基、式

【化38】



〔式中、Halはハロゲン原子を、d環は前記と同意義を示す〕で表される基などが好ましく用いられる。

【0020】 R^1 の好ましい基である「芳香族炭化水素基」としては、例えば、炭素数6ないし14員の単環式あるいは縮合多環式芳香族炭化水素基 (C_{6-14} アリール基) などが用いられる。 C_{6-14} アリール基としては、例えば、フェニル、1-ナフチル、2-ナフチル、1-アントリル、2-アントリル、9-アントリル、1-フェナントリル、2-フェナントリル、3-フェナントリル、4-フェナントリル、9-フェナントリルなどが用いられ、なかでも、フェニル、1-ナフチル、2-ナフチルなどが好ましく、特にフェニルなどが好適である。この「芳香族炭化水素基」の置換基としては、前記した置換基A群から選ばれる1ないし5個、好ましくは1ないし3個が用いられる。これら置換基の中でも、(1)ハロゲン原子、(2)ニトロ基、(3) C_{1-6} アルキル基 (メチル、イソプロピル、tert-ブチルなど) [この C_{1-6} アルキル基は、ハロゲン原子、シアノ、カルバモイル、 C_{1-6} アルキル-カルバモイル、 C_{1-6} アルキル-カルボニルオキシ、 C_{1-6} アルコキシ-カルボニル- C_{1-6} アルキル-カルバモイル、5または6員複素環 (例、ピリジルなどの炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する5または6員複素環) - C_{1-6} アルキル-カルバモイル、 C_{1-6} アルキルスルホニルアミノ、 C_{1-6} アルコキシ-カルボニル、カルボキシなどから選ばれる置換基を有していてもよい]、(4) C_{3-6} シクロアルキル基 (例、シクロヘキシル)、(5) C_{6-14} アリール基 (例、フェニル) [この C_{6-14} アリール基は、アミノ、カルボキシ、 C_{1-6} アルコキシ-カルボニル、カルバモイル、モノ-またはジ- C_{1-6} アルキルカルバモイル、ホルミルアミノ、ハロゲン原子またはカルボキシを有していてもよい C_{1-6} アルキル-カルボニルアミノ (例、アセチルアミノ、プロピオニルアミノ、トリフルオロアセチルアミノ、ピバロイルアミノ)、 C_{6-14} アリール-カルボニルアミノ (例、ベンゾイルアミノ)、 C_{1-6} アルコキシ-カルボニルアミノ (例、メトキシカルボニルアミノ)、ウレイド、モノ-またはジ- C_{1-6} アルキルウレイド、 C_{1-6} アルキルスルホニルアミノ (例、メチルスルホニルアミノ)、(C_{1-6} アルキル) (C_{1-6} アルキルスルホニル) アミノ (例、メチル (メチルスルホニル) アミノなど)、(C_{1-6} アルキル) (C_{1-6} アルキル-カルボニル) アミノ (例、メチル (アセチル) アミノなど)、 C_{1-6} アルコキシ-カルボニル- C_{1-6} アルキルアミノ (例、2-エトキシカルボニル-2-プロピルアミノなど)、 C_{7-15} アラルキルオキシ-カルボ

ニルアミノ (例、ベンジルオキシカルボニルアミノ)、 C_{1-6} アルキル-カルボニルアミノ- C_{1-6} アルキル-カルボニルアミノ (例、アセチルアミノアセチルアミノ)、 C_{1-6} アルキルチオ- C_{1-6} アルキル-カルボニルアミノ (例、メチルチオアセチルアミノ)、 C_{1-6} アルキル-スルフィニル- C_{1-6} アルキル-カルボニルアミノ (例、メチルスルフィニルアセチルアミノ)、 C_{1-6} アルキル-スルホニル- C_{1-6} アルキル-カルボニルアミノ (例、メチルスルホニルアセチルアミノ)、 C_{6-14} アリールオキシ-カルボニルアミノ (例、フェノキシカルボニルアミノ)、ヒドロキシ- C_{1-6} アルキル-カルバモイル (例、ヒドロキシメチルカルバモイル、ヒドロキシエチルカルバモイル) などから選ばれる置換基を有していてもよく、特にアミノ、カルボキシ、 C_{1-6} アルコキシ-カルボニル、カルバモイル、モノ-またはジ- C_{1-6} アルキルカルバモイル、ホルミルアミノ、ハロゲン原子またはカルボキシを有していてもよい C_{1-6} アルキル-カルボニルアミノ (例、アセチルアミノ、プロピオニルアミノ、トリフルオロアセチルアミノ、ピバロイルアミノ)、 C_{1-6} アルコキシ-カルボニルアミノ (例、メトキシカルボニルアミノ)、ウレイド、 C_{1-6} アルキルスルホニルアミノ (例、メチルスルホニルアミノ)、(C_{1-6} アルキル) (C_{1-6} アルキルスルホニル) アミノ (例、メチル (メチルスルホニル) アミノなど)、(C_{1-6} アルキル) (C_{1-6} アルキル-カルボニル) アミノ (例、メチル (アセチル) アミノなど)、 C_{1-6} アルコキシ-カルボニル- C_{1-6} アルキルアミノ (例、2-エトキシカルボニル-2-プロピルアミノなど)、 C_{7-15} アラルキルオキシ-カルボニルアミノ (例、ベンジルオキシカルボニルアミノ) などから選ばれる置換基を有していてもよい]、

【0021】(6)ハロゲン原子または C_{1-6} アルコキシ- C_{6-14} アリールを有していてもよい C_{1-6} アルコキシ基 (例、メトキシ、トリフルオロメトキシ、イソプロポキシ、2-(4-メトキシフェニル) エトキシなど)、(7) C_{6-14} アリールオキシ基 (例、フェノキシ)、(8)カルバモイルを有していてもよい C_{1-6} アルキルチオ基 (例、メチルチオ、カルバモイルメチルチオ)、(9)カルバモイルを有していてもよい C_{1-6} アルキルスルフィニル基 (例、メチルスルフィニル、カルバモイルメチルスルフィニル)、(10) C_{6-14} アリールチオ基 (例、フェニルチオ)、(11)ヒドロキシ基、(12)炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれる1ないし4個のヘテロ原子を含有する4ないし14員複素環基 (例、ピロリジニル、ピペリジル、イソインドリニル、フリル、

チエニル、ピリジル、キノリル、ベンゾフラニル、ピリミジニル、テトラゾリル、イミダゾリジニル、イソチアゾリジニル、チアジアゾリジニル、アゼチニルなど)

【この複素環基は、オキシ、カルボキシ-C₁₋₆ アルキル、C₁₋₆ アルキル-カルボニルオキシ-C₁₋₆ アルキル、C₁₋₆ アルキル、C₁₋₆ アルコキシ-カルボニル-C₁₋₆ アルキル、C₁₋₆ アルコキシ-カルボニル、カルバモイル-C₁₋₆ アルキル、C₁₋₆ アルキル-カルバモイル-C₁₋₆ アルキルなどから選ばれる置換基を有していてもよい】、(13)カルボキシ基、(14)式-CO-Hal (Halはハロゲン原子を示す) で表される基 (例、クロロホルミル)、(15)C₁₋₆ アルキル-カルボニル基 (例、アセチルなど)、(16)C₁₋₆ アルキル-スルホニル基 (例、メチルスルホニルなど)、(17)C₁₋₆ アルコキシ-カルボニル基 (例、メトキシカルボニルなど)、(18)スルファモイル基 [このスルファモイル基は、C₁₋₆ アルキル、カルバモイル-C₁₋₆ アルキル、C₁₋₆ アルコキシ-カルボニル-C₁₋₆ アルキル、オキシ基を有していてもよい5ないし7員複素環基 (例、ピリジル、ピロリジニル、ヘキサヒドロアゼピニルなどの炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する5ないし7員複素環基) -C₁₋₆ アルキル、C₁₋₆ アルキル-カルボニルアミノ-C₆₋₁₄ アリールなどから選ばれる置換基を1または2個有していてもよい]、

【0022】(19)式-NR^aR^bで表わされる基 [R^aおよびR^bはそれぞれ(i)水素原子、(ii)C₁₋₆ アルキル、(iii)5または6員複素環 (例、ピリジルなどの炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する5または6員複素環) -C₁₋₆ アルキル、(iv)C₁₋₆ アルコキシ-カルボニル-C₁₋₆ アルキル、(v)ジ-C₁₋₆ アルキルアミノ-メチレン-スルファモイル-C₁₋₆ アルキル、(vi)カルバモイル-C₁₋₆ アルキル、(vii)スルファモイル-C₁₋₆ アルキル、(viii)C₁₋₆ アルキル-スルホニル、(ix)C₁₋₆ アルコキシ-カルボニル、(x)ジ-C₁₋₆ アルコキシ-カルボニル-C₂₋₆ アルケニル、(xi)C₆₋₁₄ アリール、(xii)5または6員複素環基 (例、ピリジルなどの炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する5または6員複素環基) [この5または6員複素環基は、アミノ、C₁₋₆ アルキル-カルボキサミド、C₁₋₆ アルキル-スルホニルアミノなどから選ばれる置換基を有していてもよい]、(xiii)ハロゲン化されていてもよいC₁₋₆ アルキル-カルボニル、(xiv)C₁₋₆ アルキルチオ-C₁₋₆ アルキル-カルボニル、(xv)C₁₋₆ アルキルスルフィニル-C₁₋₆ アルキル-カルボニル、(xvi)C₁₋₆ アルキルスルホニル-C₁₋₆ アルキル-カルボニル、(xvii)アミノ-C₁₋₆ アルキル-カルボニル、(xviii)ハロゲン化されていてもよいC₁₋₆ アルキル-カルボニル-アミノ-C₁₋₆ アルキル-カルボニル、(xix)C₆₋₁₄ アリール-カルボニル、(xx)カルボキシ-C₆₋₁₄ アリール-カルボニル、(xxi)C₁₋₆ アルキルでエ

ステル化されていてもよいホスホノ-C₁₋₆ アルキル-C₆₋₁₄ アリール-カルボニル、(xxii)ハロゲン原子、オキシまたはC₁₋₆ アルコキシ-カルボニルを有していてもよい5または6員複素環 (例、ピロリジニル、ピリジルなどの炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する5または6員複素環) -カルボニル、(xxiii)5または6員複素環 (例、ピリジルなどの炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する5または6員複素環) -C₁₋₆ アルキル-カルボニル、(xxiv)C₆₋₁₄ アリール-オキシ-カルボニル、(xxv)カルボキシ-C₁₋₆ アルキル、(xxvi)カルバモイル、(xxvii)ハロゲン化されていてもよいC₁₋₆ アルキルカルバモイル、(xxviii)C₁₋₆ アルキル-カルボニルアミノを有していてもよいC₆₋₁₄ アリールカルバモイル、(xxix)5または6員複素環 (例、ピリジルなどの炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する5または6員複素環) -カルバモイル、(xxx)C₂₋₆ アルケニル-カルボニル、(xxxi)オキシ基を有していてもよい5または6員複素環

(例、ピロリジニルなどの炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する5または6員複素環) -アミノ-C₁₋₆ アルキル-カルボニル、(xxxii) (オキシ基を有していてもよい5または6員複素環 (例、ピロリジニルなどの炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する5または6員複素環)) (C₁₋₆ アルキル) アミノ-C₁₋₆ アルキル-カルボニル、(xxxiii) (オキシ基を有していてもよい5または6員複素環 (例、ピロリジニルなどの炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する5または6員複素環)) (C₁₋₆ アルキルカルボニル) アミノ-C₁₋₆ アルキル-カルボニル、(xxxiv)C₁₋₆ アルキルチオ-C₁₋₆ アルキルカルボニル (硫黄原子は酸化されていてもよい)、(xxxv)ハロゲン化されていてもよいC₁₋₆ アルキルスルホニル、(xxxvi)スルファモイル、(xxxvii)C₁₋₆ アルキルスルファモイルなどを示す]、

【0023】(20)式-C(=O)NR^cR^dで表わされる基 [R^cおよびR^dはそれぞれ(i)水素原子、(ii)C₁₋₆ アルキル、(iii)5または6員複素環 (例、ピリジル、イミダゾリルなどの炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する5または6員複素環) -C₁₋₆ アルキル、(iv)カルボキシ-C₁₋₆ アルキル、(v)C₁₋₆ アルコキシ-カルボニル-C₁₋₆ アルキル、(vi)ジ-C₁₋₆ アルキルアミノ-C₁₋₆ アルキル、(vii)カルバモイル-C₁₋₆ アルキル、(viii)C₁₋₆ アルキルカルバモイル-C₁₋₆ アルキル、(ix)5または6員複素環

(例、ピリジルなどの炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子

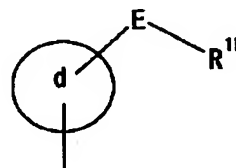
を含有する5または6員複素環) -C₁₋₆ アルキルカルバモイル-C₁₋₆ アルキル、(x) 5または6員複素環 (例、ピリジルなどの炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する5または6員複素環) -アミノ-C₁₋₆ アルキル、(xi) スルファモイル-C₆₋₁₄ アリール-C₁₋₆ アルキル、(xii) C₁₋₆ アルコキシを有していてもよいC₆₋₁₄ アリール、(xiii) C₁₋₆ アルキルでエステル化されていてもよいホスホノ-C₁₋₆ アルキル-C₆₋₁₄ アリール、(xiv) 4ないし10員複素環基 (例、アゼチニル、ピロリジニル、ピペリジニル、ヘキサヒドロアゼピニル、ピリジル、ピリミジニル、ピラジニル、ピリダジニル、1-アザビシクロ[2.2.2]オクト-3-イルなどの炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する4ないし10員複素環) [この4ないし10員複素環基は、ハロゲン原子、C₁₋₆ アルキル、オキソなどから選ばれる置換基を1ないし2個有していてもよい]、(xv) C₆₋₁₄ アリール-カルバモイル-C₁₋₆ アルキル、(xvi) ヒドロキシ-C₁₋₆ アルキル、(xvii) オキソ基を有していてもよい5または6員複素環 (例、ピロリニル、ピリジルなどの炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する5または6員複素環) -カルバモイル-C₁₋₆ アルキルなどを示す。R^fとしては水素原子が好ましい。]、(21) シアノ基、(22) モノ-またはジ-C₁₋₆ アルキルカルバモイルチオ基 (例、ジメチルカルバモイルチオ)、(23) モノ-またはジ-C₁₋₆ アルキルチオカルバモイルオキシ基 (例、ジメチルチオカルバモイルオキシ) などが好ましい。

【0024】Rⁱの好ましい基として示される「複素環基」としては、ピリジル、チエニル、フリル、イミダゾリル、チアゾリル、キノリル、1,2-ジヒドロピリジル、ジヒドロベンゾフラニル、ベンゾジオキサリル、ベンゾチアゾリル、ピペリジル、ピペラジニルなどが好ましく、特にピリジル、1,2-ジヒドロピリジルなどが好適である。この「複素環基」の置換基としては、(1) ハロゲン原子、(2) C₁₋₆ アルキル基 (例、メチル、エチルなど) [このアルキルは、カルボキシ、C₁₋₆ アルコキシ、C₁₋₆ アルコキシ-カルボニル、モノ-C₁₋₆ アルキル-アミノ、ジ-C₁₋₆ アルキル-アミノ、カルバモイル、ヒドロキシを有していてもよいC₁₋₆ アルキル-カルバモイル、オキソを有していてもよい4ないし10員複素環基 (例、ピリジル、キノリルなどの炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する4ないし10員複素環) -カルバモイル、カルバモイル-C₁₋₆ アルキル-カルバモイルなどから選ばれる置換基を有していてもよい] (3) C₁₋₆ アルコキシ基 (例、メトキシ)、(4) C₆₋₁₄ アリ

ール基 (例、フェニル)、(5) C₇₋₁₆ アラルキル基 (例、ベンジル) [このC₇₋₁₆ アラルキルは、カルボキシ、C₁₋₆ アルコキシ-カルボニル、カルバモイル、ヒドロキシを有していてもよいC₁₋₆ アルキル-カルバモイル、4ないし10員複素環 (例、ピリジルなどの炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する4ないし10員複素環) -カルバモイルなどから選ばれる置換基を有していてもよい]、(6) 4ないし10員複素環基 (例、ピリジル、キノリル、イソキノリルなどの炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する4ないし10員複素環基) [この4ないし10員複素環基は、C₁₋₆ アルキル、C₁₋₆ アルコキシ-カルボニル、カルバモイル、オキソ、4ないし10員複素環基 (例、ピリジルなどの炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する4ないし10員複素環基) などから選ばれる置換基を有していてもよい]、(7) オキソ基、(8) オキシド基などから選ばれる1ないし5個、好ましくは1ないし3個の置換基が好ましい。

【0025】Rⁱがオキシド基を有する複素環基としては、例えば、N-オキシド化ピリジルなどが好ましい。Rⁱの好ましい基として示される「脂肪族環状炭化水素基」としては、例えば、シクロプロピル、シクロブチル、シクロペンチル、シクロヘキシルなどのC₃₋₆ シクロアルキル基などが用いられ、特にシクロペンチル、シクロヘキシルが好ましい。この「脂肪族環状炭化水素基」は前記したRⁱで示される炭化水素基が有していてもよい置換基と同様の置換基を有していてもよい。Rⁱの好ましい基として例示される「置換基を有していてもよい芳香族炭化水素基」および「置換基を有していてもよい複素環基」としては、式

【化39】



【各記号は前記と同意義を示す】で表わされる基が好ましく用いられる。

【0026】R^{1b}で示される「置換基を有していてもよい炭化水素基」としては、a環の置換基として例示した「置換基を有していてもよい炭化水素基」と同様のものが用いられる。なかでも、(1) C₁₋₆ アルキル基 (メチル、イソプロピル、tert-ブチルなど) [このC₁₋₆ アルキル基は、ハロゲン原子、シアノ、ヒドロキシ、C₁₋₆ アルコキシ-カルボニル、ジ-C₁₋₆ アルキルアミノ、ハロゲン化されていてもよいC₁₋₆ アルキル-カルボニル-アミノ、カルボキシ、カルバモイル、C₁₋₆ アルキル-カルバ

モイル、 C_{1-6} アルキル-カルボニルオキシ、 C_{1-6} アルコキシ-カルボニル- C_{1-6} アルキル-カルバモイル、5または6員複素環（例、ピリジル、イミダゾリルなどの炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する5または6員複素環）- C_{1-6} アルキル-カルバモイル、 C_{1-6} アルキルチオ、 C_{1-6} アルキルスルフィニル、 C_{1-6} アルキルスルホニルアミノ、5または6員複素環（例、ピリジルなどの炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する5または6員複素環）- C_{1-6} アルキルカルバモイル、5または6員複素環（例、ピリジルなどの炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する5または6員複素環）-アミノ、スルファモイル- C_{6-14} アリール、カルボキシ- C_{6-14} アリール、 C_{1-6} アルコキシ-カルボニル- C_{6-14} アリール、カルバモイル- C_{6-14} アリール、ヒドロキシを有していてもよい C_{1-6} アルキル-カルバモイル- C_{6-14} アリール、4ないし10員複素環（例、ピリジルなどの炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する4ないし10員複素環）-カルバモイル- C_{6-14} アリールなどから選ばれる置換基を有していてもよい]、(2) C_{3-6} シクロアルキル基（例、シクロヘキシル）、(3) C_{6-14} アリール基（例、フェニル）[この C_{6-14} アリール基は、 C_{1-6} アルコキシ（例、メトキシ）、アミノ、カルボキシ、ハロゲン化されていてもよい C_{1-6} アルキル-カルボニルアミノ（例、アセチルアミノ、トリフルオロアセチルアミノ）、 C_{1-6} アルコキシ-カルボニルアミノ（例、メトキシカルボニルアミノ）、ホルミルアミノ、ウレイド、 C_{1-6} アルキルスルホニルアミノ（例、メチルスルホニルアミノ）、(C_{1-6} アルキル)(C_{1-6} アルキルスルホニル)アミノ（例、メチル(メチルスルホニル)アミノなど)、 C_{1-6} アルコキシ-カルボニル- C_{1-6} アルキルアミノ（例、2-エトキシカルボニル-2-プロピルアミノなど）、 C_{1-6} アルキルでエステル化されていてもよいホスホ- C_{1-6} アルキル、モノまたはジ- C_{1-6} アルキル-カルバモイル、 C_{7-16} アラルキルオキシ-カルボニルアミノ（例、ベンジルオキシカルボニルアミノなど）、 C_{7-16} アラルキル-カルボニルアミノ（例、フェニルアセチルアミノなど）などから選ばれる置換基を有していてもよい]、(4) C_{2-6} アルケニル基などが好ましい。

【0027】 R^{1b} で示される「置換基を有していてもよい複素環基」としては、a環の置換基として例示した「置換基を有していてもよい複素環基」と同様のものが用いられる。なかでも、ハロゲン原子、 C_{1-6} アルキル、カルボキシ- C_{1-6} アルキル、 C_{1-6} アルコキシ-カルボニル- C_{1-6} アルキル、 C_{1-6} アルコキシ-カルボニル、カルバモイル、オキソ、4ないし10員複素環基（例、ピリジルなどの炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等

から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する4ないし10員複素環基）などから選ばれる1または2個の置換基で置換されていてもよい、炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれる1ないし4個のヘテロ原子を含有する5ないし14員複素環基（例、アゼチニル、ピロリジニル、ピペリジニル、イソチアゾリジニル、チアジアゾリジニル、ヘキサヒドロアゼピニル、フリル、チエニル、ピリジル、キノリル、イソキノリル、ベンゾフラニル、ピリミジニル、テトラゾリル、イミダゾリニル、ピラジニル、ピリダジニルなど）が好ましい。d環で示される芳香族炭化水素環としては、例えば、炭素数6ないし14員の単環式あるいは縮合多環式芳香族炭化水素環（ C_{6-14} アリール環）などが用いられる。 C_{6-14} アリール環としては、例えば、ベンゼン環、ナフタレン環、アントラセン環、フェナントレン環などが用いられ、なかでも、ベンゼン環、ナフタレン環などが好ましく、特に好ましくはベンゼン環が好適である。これら芳香族炭化水素環は、前記した置換基A群から選ばれる置換基を1ないし5個、好ましくは1ないし3個有していてもよい。d環で示される複素環としては、例えば、炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれるヘテロ原子を1ないし4個（好ましくは1ないし3個）含む5ないし14員複素環などが用いられ、具体的には、(a) 5ないし14員芳香族複素環、(b) 5ないし14員脂肪族複素環、(c) 5ないし14員複素環とベンゼン環との2または3環性縮合環などが用いられる。該5ないし14員芳香族複素環としては、例えば、炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれるヘテロ原子を1ないし4個（好ましくは1ないし3個）含む5ないし14員芳香族複素環などが用いられ、具体的には、チオフェン、フラン、インドリジン、ピロール、イミダゾール、トリアゾール、チアゾール、オキサゾール、ピラゾール、ピリジン、N-オキシド化ピリジン、ピラジン、ピリミジン、ピリダジン、プリン、4H-キノリジン、ナフチリジン、イソチアゾール、イソオキサゾール、フラザンなどが挙げられる。なかでも、ピリジン、チオフェン、フランなどが好ましく用いられる。該5ないし14員脂肪族複素環としては、炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれるヘテロ原子を1ないし4個（好ましくは1ないし3個）を含む5ないし14員脂肪族複素環などが用いられ、具体的には、ピロリジン、ピペリジン、ピペラジン、モルホリン、チオモルホリン、1,2-ジヒドロピリジン、イミダゾリジンなどが挙げられる。該5ないし14員複素環とベンゼン環との2または3環性縮合環としては、炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子から選ばれるヘテロ原子を1ないし4個（好ましくは1ないし3個）を含む複素環とベンゼン環との2または3環性縮合環などが用いられ、具体的には、ベンゾ[b]チオフェン、ベンゾフラン、1H-ベンズイミダゾール、ベン

ズオキサゾール、ベンゾチアゾール、1,2-ベンズイソチアゾール、ナフト [2,3-b] チオフェン、チアントレン、キサンテン、フェノキサチン、インドール、イソインドール、1H-インダゾール、イソキノリン、キノリン、フタラジン、キノキサリン、キナゾリン、シンノリン、カルバゾール、β-カルボリン、フェナントリジン、アクリジン、フェナジン、フェノチアジン、フェノキサジン、イソクロマン、ジヒドロベンゾフランなどが挙げられる。なかでもd環で示される複素環としては、ピリジン、チオフェン、フラン、イミダゾール、チアゾール、キノリン、N-オキシド化ピリジン、1,2-ジヒドロピリジン、ジヒドロベンゾフラン、ベンゾジオキサール、ベンゾチアゾール、ピペリジン、ピペラジンなどが好ましく、特にピリジン、1,2-ジヒドロピリジンなどが好適である。これら複素環は、前記した置換基A群から選ばれる置換基を1ないし5個、好ましくは1ないし3個有していてもよい。

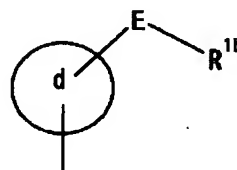
【0028】Eで示される「酸化されていてもよい硫黄原子」としては、S、SO、SO₂が用いられる。Eで示される置換基を有していてもよい窒素原子としては、例えば、(i)水素原子、(ii)置換基を有していてもよい炭化水素基、(iii)アシル基などを1ないし2個有していてもよい窒素原子などが用いられる。該「置換基を有していてもよい炭化水素基」としては、a環の置換基として例示した「置換基を有していてもよい炭化水素基」と同様のものが用いられる。該「アシル基」としては、a環の置換基として例示した「アシル基」と同様のものが用いられ、このアシル基はさらに置換基A群から選ばれる置換基を1ないし5個、好ましくは1ないし3個有していてもよい。Eで示される式-CS-O-、-CO-O-、-S-CO-、-(CH₂)_k-CO-、-NR^{ic}-CO-(CH₂)_n-、-NR^{ic}-SO₂-(CH₂)_n-、-SO₂-NR^{ic}-(CH₂)_n-、-O-CS-NR^{ic}-(CH₂)_n-、-NR^{ic}-CO-NR^{ic}-(CH₂)_n-、-NR^{ic}-CO-CH₂-(CH₂)_n-NR^{ic}- [式中、R^{ic}は水素原子、置換基を有していてもよいアルキル基またはアシル基を、kは0または1を、mは0ないし3の整数を示す] で表わされる基において、R^{ic}で示されるアルキル基としては、例えば、メチル、エチル、プロピル、イソプロピル、ブチル、イソブチル、sec-ブチル、tert-ブチル、ペンチル、ヘキシルなどのC₁₋₆アルキル基などが用いられる。R^{ic}で示されるアルキル基は、前記した置換基A群から選ばれる置換基を1ないし5個、好ましくは1ないし3個有していてもよい。R^{ic}で示されるアシル基としては、a環の置換基として例示した「アシル基」と同様のものが用いられ、このアシル基はさらに置換基A群から選ばれる置換基を1ないし5個、好ましくは1ないし3個有していてもよい。kは0または1を示

し、特に0が好ましい。mは0ないし3の整数を示し、なかでも0または1が好ましい。

【0029】上記した中でも、Eとしては、(i)結合手、(ii)メチレン、(iii)O、(iv)S、(v)SO、(vi)SO₂、(vii)-NH-、(viii)-N (C₁₋₆アルキル)- (例、-N (メチル)- など)、(ix)-N (C₁₋₆アルキル-カルボニル)- (例、-N (アセチル)- など)、(x)-N (C₁₋₆アルコキシ-カルボニル)- (例、-N (エトキシカルボニル)- など)、(xi)-N (C₁₋₆アルキル-スルホニル)- (例、-N (メチルスルホニル)- など)、(xii)-CO-O-、(xiii)-S-CO-、(xiv)-(CH₂)_k-CO- [式中、kは0または1を示す] で表される基、(xv)-NR^f-CO-(CH₂)_m- [式中、R^fは水素原子またはC₁₋₆アルコキシ-カルボニル (例、メトキシカルボニル) または炭素原子以外に窒素原子、酸素原子、硫黄原子等から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する複素環基 (例、ピリジル) で置換されていてもよいC₁₋₆アルキル基を、m1は0ないし3の整数を示す] で表される基、(xvi)-NR^f-SO₂-(CH₂)_{m2}- [式中、R^fは水素原子またはC₁₋₆アルキル-スルホニル基 (例、メチルスルホニル) を、m2は0を示す] で表される基、(xvii)-SO₂-NR^h-(CH₂)_{m3}- [式中、R^hは水素原子またはC₁₋₆アルキル基 (例、メチル) を、m3は0または1を示す] で表される基、(xviii)-O-CS-NRⁱ-(CH₂)_{m4}- [式中、Rⁱは水素原子またはC₁₋₆アルキル基 (例、メチル) を、m4は0または1を示す] で表される基、(xix)-NR^j-CO-NR^k-(CH₂)_{m5}- [式中、R^jは水素原子またはC₁₋₆アルキル基 (例、メチル) を、R^kは水素原子またはC₁₋₆アルキル基 (例、メチル) を、m5は0または1を示す] で表される基、(xx)-NR^l-CO-CH₂-(CH₂)_{m6}-NR^o- [式中、R^lは水素原子またはC₁₋₆アルキル基 (例、メチル) を、R^oは水素原子またはC₁₋₆アルキル基 (例、メチル) を、m6は0または1を示す] で表される基などが好ましい。

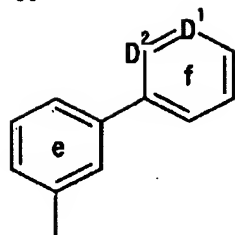
【0030】R¹の好ましい基として例示される「置換基を有していてもよい芳香族炭化水素基」および「置換基を有していてもよい複素環基」として挙げられる、式

【化40】



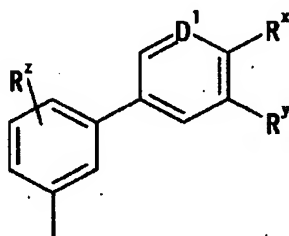
【各記号は前記と同意義を示す】で表わされる基のさらに好ましいものとして、式

【化41】

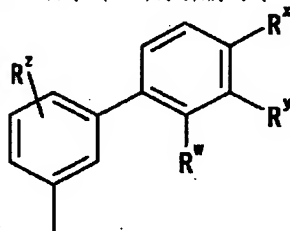


〔式中、環eおよび環fは置換基を有していてもよく、D¹およびD²は、ともにメチンまたは一方がメチン、他方が窒素原子を示す〕で表される基などが挙げられる。より

【化42】



〔式中、D¹は炭素原子または窒素原子を、R^xは(1)アミノ基、(2)式-NHCOR^x (R^xは、(1')水素原子、(2')*)



〔式中R^xは水素原子またはC₁₋₆ アルキルでエステル化されていてもよいカルボキシ基を、R^xは(1)アミノ基、(2)式-NHCOR^x (R^xは、(1')水素原子、(2')C₇₋₁₆ アラルキル、(3')モノC₁₋₆ アシルアミノで置換されていてもよいC₁₋₆ アルキル基を示す)、(3)モノC₁₋₆ アルキルカルバモイル基、(4)ヒドロキシ基または(5)(1')カルボキシ、(2')C₁₋₆ アルコキシカルボニルまたは(3')モノC₁₋₆ アルキルカルバモイルで置換されていてもよいC₁₋₆ アルコキシ基を、R^yは(1)水素原子、(2)ハロゲン原子または(3)C₁₋₆ アルコキシカルボニル基を、R^zは(1)水素原子、(2)ヒドロキシ基、(3)アミノ基、(4)C₁₋₆ アルコキシカルボニルまたはカルボキシで置換されていてもよいC₁₋₆ アルコキシ基、(5)シアノ基、(6)C₁₋₆ アルキルでエステル化されていてもよいカルボキシ基または(7)カルバモイル基を示す〕で表される基も挙げられる。

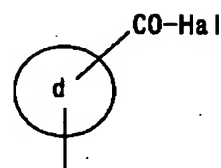
【0032】R¹の好ましい基として例示される「置換基を有していてもよい芳香族炭化水素基」および「置換基を有していてもよい複素環基」としては、式

【化44】

*C₇₋₁₆ アラルキル基または(3')モノC₁₋₆ アシルアミノで置換されていてもよいC₁₋₆ アルキル基を示す) または(3)式-COR^x (R^xは、(1')C₁₋₆ アルコキシ基、(2')ヒドロキシ基または(3')C₁₋₆ アルキルで置換されていてもよいアミノ基を示す) を、R^yは(1)水素原子、(2)ハロゲン原子または(3)C₁₋₆ アルキルでエステル化されていてもよいカルボキシ基を、R^zは(1)水素原子、(2)ヒドロキシ基、(3)アミノ基、(4)C₁₋₆ アルコキシカルボニルまたはカルボキシで置換されていてもよいC₁₋₆ アルコキシ基を示す〕で表される基などが挙げられる。

【0031】また、R¹の好ましい基の具体例としては、式

【化43】



〔各記号は前記と同意義を示す〕で表わされる基も好ましく用いられる。Halで示されるハロゲン原子としては、フッ素原子、塩素原子、臭素原子、ヨウ素原子などが用いられ、なかでも塩素原子が好ましい。d環としては、前記と同様のものが用いられる。

【0033】R¹の好ましい基として例示される式-L-R^{1a}

〔式中、各記号は前記と同意義を示す〕で表わされる基において、Lで示される「置換基を有していてもよい窒素原子」としては、Eで示される「置換基を有していてもよい窒素原子」と同様のものが用いられる。Lとして、メチレン基、カルボニル基、-NH-などが好ましい。R^{1a}で示される芳香族基としては、例えば、(1)単環式あるいは縮合多環式芳香族炭化水素基、より具体的にはフェニル、1-ナフチル、2-ナフチル、1-アントリル、2-アントリル、9-アントリル、1-フェナントリル、2-フェナントリル、3-フェナントリル、4-フェナントリルまたは

9-フェナントリルなどの C_{6-14} アリール基（好ましくは、フェニル、1-ナフチルまたは2-ナフチルなど、特に好ましくはフェニル）などの6ないし14員の単環式あるいは縮合多環式芳香族炭化水素基、(2)炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれる1種または2種のヘテロ原子を1個以上（例えば、1ないし4個、好ましくは1ないし3個）を含む4ないし14員芳香族複素環基などが用いられる。この4ないし14員芳香族複素環基としては、炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれる1種または2種のヘテロ原子を1個以上（例えば、1ないし4個、好ましくは1ないし3個）を含む単環複素環基（好ましくは5ないし8員）またはその縮合芳香族複素環基、より具体的には、チオフェン、ベンゾ [b] チオフェン、ベンゾフラン、1H-ベンズイミダゾール、ベンズオキサゾール、ベンゾチアゾール、1,2-ベンズイソチアゾール、ナフト [2,3-b] チオフェン、チアントレン、フラン、インドリジン、キサンテン、フェノキサチン、ピロール、イミダゾール、トリアゾール、チアゾール、オキサゾール、ピラゾール、ピリジン、ピラジン、ピリミジン、ピリダジン、インドール、イソインドール、1H-インダゾール、プリン、4H-キノリジン、イソキノリン、キノリン、フタラジン、ナフチリジン、キノキサリン、キナゾリン、シンノリン、カルバゾール、 β -カルボリン、フェナントリジン、アクリジン、フェナジン、イソチアゾール、フェノチアジン、イソオキサゾール、フラザン、フェノキサジン、イソクロマンなどの芳香族複素環（好ましくは、ピリジン、チオフェンまたはフランなど、より好ましくはピリジン）またはこれらの環（好ましくは、単環複素環）が1個あるいは複数個（好ましくは1または2個、さらに好ましくは1個）と芳香環（例えば、上記した芳香族炭化水素基など、好ましくはベンゼン環）との縮合環基などが用いられる。該芳香族基の置換基としては、前記した置換基A群から選ばれる1ないし5個、好ましくは1ないし3個の置換基が用いられる。 R^{1a} で示される置換基を有していてもよい芳香族基としては、 C_{1-6} アルキル、 C_{1-6} アルコキシなどの置換基を1ないし5個有していてもよい C_{6-14} アリール基（例、フェニル）などが好ましい。

【0034】 R^{1a} で示される「置換基を有していてもよいヒドロキシ基」としては、前記したa環の置換基として例示される「置換基を有していてもよいヒドロキシ基」と同様のものが用いられ、なかでも C_{1-6} アルキル基（例、メチル）を有していてもよいヒドロキシ基が好ましい。 R^{1b} で示される「置換基を有していてもよいアミノ基」としては、a環の置換基として例示した「置換基を有していてもよいアミノ基」と同様のものが用いられる。 R^{1c} で示される「置換基を有していてもよいアミノ基」としては、例えば、置換基を有していてもよいアルキル基や置換基を有していてもよいアリール基などを1

または2個有していてもよいアミノ基が好ましく、特に、(1)4ないし10員複素環基（炭素原子以外に窒素原子、酸素原子、硫黄原子などから選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を有する4ないし10員複素環基、例、ピリジル）で置換されていてもよい C_{1-6} アルキル-アミノ基、(2) C_{6-14} アリール-アミノ基、(3)4ないし10員複素環（炭素原子以外に窒素原子、酸素原子、硫黄原子などから選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を有する4ないし10員複素環、例、ピリジル）-アミノ基などが好ましい。

【0035】 R^2 および R^3 で示される「置換基を有していてもよい炭化水素基」としては、a環の置換基として例示される「置換基を有していてもよい炭化水素基」と同様のものが用いられる。この「置換基を有していてもよい炭化水素基」としては、例えば、(1)ハロゲン原子、(2)置換基を有していてもよいヒドロキシ基（例えば、 C_{1-6} アルキル、 C_{1-6} アルキル-カルボニル、 C_{1-6} アルキルスルホニル、 C_{7-16} アラルキルなどで置換されていてもよいヒドロキシ基など）、(3)置換基を有していてもよいアミノ基（例えば、1または2個の C_{1-6} アルキル、 C_{1-6} アルキル-カルボニル、 C_{6-14} アリール-カルボニルなどで置換されていてもよいアミノ基）、(4)置換基を有していてもよい4ないし10員複素環基（例えば、オキソ基を有していてもよい、炭素原子以外に窒素原子、酸素原子、硫黄原子などから選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を有する4ないし10員複素環基（例、フタルイミド、イミダゾリニル、ピペリジニル、ピロリジニル））、(5)置換基を有していてもよいメルカプト基（例えば、 C_{1-6} アルキルなどで置換されていてもよいメルカプト基）、(6) C_{1-6} アルキル-スルフィニル基、(7) C_{1-6} アルキル-スルホニル基などで置換されていてもよい炭化水素基（特に、 C_{1-6} アルキル基）が用いられる。なかでも、(1)ハロゲン原子（特に、臭素原子）、(2)ヒドロキシ、(3) C_{1-6} アルキル-カルボニルオキシ（例、アセトキシ）、(4)アミノ、(5)オキソ基を有していてもよい4ないし10員複素環基（炭素原子以外に窒素原子、酸素原子、硫黄原子などから選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を有する4ないし10員複素環基（例、フタルイミド、イミダゾリニル、ピペリジニル、ピロリジニル））などで置換されていてもよい C_{1-6} アルキル基などが好ましく、さらにはハロゲン原子（特に、臭素原子）を有していてもよい C_{1-6} アルキル基（例、メチル、エチルなど）などが好ましく、特にメチル基が好適である。

【0036】 R^2 および R^3 で示される「アシル基」としては、a環の置換基として例示される「アシル基」と同様のものが用いられ、なかでも C_{1-6} アルコキシ-カルボニル基が好ましく、特にメトキシカルボニル基が好適である。 R^2 と R^3 が隣接する炭素原子と共に形成する3ないし8員環としては、例えば、3ないし8員同素環または複素環が用いられる。 R^2 と R^3 が隣接する炭素原子と共に形

成する 3 ないし 8 員同素環としては、炭素原子からなる 3 ないし 8 員の環状炭化水素が用いられ、具体的には、 C_{3-8} シクロアルカン（例えば、シクロプロパン、シクロブタン、シクロペンタン、シクロヘキサン、シクロヘプタン、シクロオクタン）、 C_{3-8} シクロアルケン（例えば、シクロブテン、シクロペンテン、シクロヘキセン、シクロヘプテン、シクロオクテン）などが挙げられる。なかでも C_{3-8} シクロアルカンが好ましく、特にシクロペンタン、シクロヘキサンなどの 5 または 6 員の同素環（特に、シクロヘキサン）が好ましい。 R^2 と R^3 が隣接する炭素原子と共に形成する 3 ないし 8 員複素環としては、炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子および酸素原子から選ばれた 1 種または 2 種のヘテロ原子を 1 個以上（例えば、1 個ないし 4 個、好ましくは 1 個ないし 3 個）含む 5 ないし 8 員の脂肪族複素環（好ましくは 5 または 6 員の脂肪族複素環）などが用いられる。より具体的には、例えば、ピペリジン、ピペラジン、モルホリン、チオモルホリン、ピロリジン、イミダゾリジン環などの炭素原子および窒素原子以外に、窒素原子、酸素原子および硫黄原子から選ばれたヘテロ原子を 1 個ないし 3 個含む 5 ないし 8 員（好ましくは 5 または 6 員）の脂肪族複素環などが用いられる。これらの R^2 と R^3 が隣接する炭素原子と共に形成する 3 ないし 8 員同素または複素環は、前記した R^1 で示される複素環が有しているもよい置換基と同様の置換基を 1 ないし 5 個、好ましくは 1 ないし 3 個有しているもよい。置換基としては、 C_{1-6} アルキル、 C_{6-14} アリール、 C_{7-16} アラルキル、アミノ、モノ- C_{1-6} アルキルアミノ、モノ- C_{6-14} アリールアミノ、ジ- C_{1-6} アルキルアミノ、ジ- C_{6-14} アリールアミノ、4 ないし 10 員複素環基（例、炭素原子以外に、窒素原子、酸素原子および硫黄原子から選ばれたヘテロ原子を 1 個ないし 3 個含む 4 ないし 10 員（好ましくは 5 または 6 員）の複素環）などから選ばれる 1 ないし 3 個が好ましい。上記した中でも、 R^2 および R^3 としては、それぞれハロゲン原子などで置換されていてもよい C_{1-6} アルキル基、 C_{1-6} アルコキシカルボニル基が好ましく、特にメチル基、メトキシカルボニル基が好適である。さらに、 R^2 と R^3 が隣接する炭素原子と共に C_{3-8} シクロアルカン、好ましくはシクロペンタン、シクロヘキサンなどの 5 または 6 員の同素環（特に、シクロヘキサン）を形成する場合も好ましい。

【0037】 R^4 で示される「置換基を有しているもよい炭化水素基」としては、a 環の置換基として例示した「置換基を有しているもよい炭化水素基」と同様のものが用いられる。 R^4 で示される炭化水素基としては、 C_{1-6} アルキル基（例、メチル、エチル、プロピル、イソプロピルなど）、 C_{2-6} アルケニル基（例、2-メチル-2-プロペニルなど）が好ましく、特にメチル、イソプロピルなどの C_{1-3} アルキル基が好ましい。該炭化水素基の置換基としては、(1) ハロゲン原子（例えば、フッ素、塩素、

臭素、ヨウ素）、(2) シアノ基、(3) 低級アルコキシ基（例、メトキシ、エトキシなどの C_{1-6} アルコキシなど）、(4) ヒドロキシ基、(5) アミノ基、(6) モノ-低級アルキルアミノ基（例、メチルアミノ、エチルアミノなどのモノ- C_{1-6} アルキルアミノ基など）、(7) ジ-低級アルキルアミノ基（例、ジメチルアミノ、ジエチルアミノなどのジ- C_{1-6} アルキルアミノ基など）、(8) オキシを有しているもよい炭素原子以外に、窒素原子、酸素原子および硫黄原子から選ばれたヘテロ原子を 1 個ないし 3 個含む 4 ないし 10 員複素環（例、ピペリジン、2-イソインドリニルなど）、(9) C_{6-14} アリールチオ（例、フェニルチオなど）、(10) ウレイド、(11) カルボキシ、(12) カルバモイル、(13) C_{1-6} アルコキシカルボニル（例、メトキシカルボニル、エトキシカルボニルなど）、(14) モノ- C_{1-6} アルキルカルバモイル（例、メチルカルバモイル、エチルカルバモイルなど）、(15) ホルミルアミノ、(16) C_{1-6} アルキルカルボキサミド（例、アセトアミド、プロピオンアミドなど）などが好ましい。 R^4 で示される「アシル基」としては、a 環の置換基として例示した「アシル基」と同様のものが用いられ、具体的には、(1) ホルミル、(2) C_{1-6} アルキルカルボニル基（例、アセチル、プロピオニルなど）、(3) C_{6-14} アリールカルボニル基（例、ベンゾイルなど）、(4) C_{7-16} アラルキルカルボニル基（例、フェニルアセチルなど）、(5) C_{1-6} アルコキシカルボニル基（例、メトキシカルボニル、エトキシカルボニルなど）、(6) カルバモイル基、(7) モノ-またはジ- C_{1-6} アルキルカルバモイル基（例、メチルカルバモイル、ジメチルカルバモイルなど）、(8) モノ-またはジ- C_{1-6} アルキルチオカルバモイル基（例、メチルチオカルバモイル、ジメチルチオカルバモイルなど）、(9) C_{1-6} アルキルスルホニル基（例、メチルスルホニルなど）、(10) C_{1-6} アルキルスルフィニル基（例、メチルスルフィニルなど）などが用いられ、なかでもホルミルが好ましい。

【0038】 R^4 で示される「置換基を有しているもよいヒドロキシ基」としては、例えば、式-OR^{4'}（ $R^{4'}$ は水素原子、置換基を有しているもよい炭化水素基またはアシル基を示す）で表される基などが用いられる。 R^4 で示される置換基を有しているもよい炭化水素基としては、a 環の置換基として例示した「置換基を有しているもよい炭化水素基」と同様のものが用いられ、なかでも C_{1-6} アルキルなどが好ましい。 $R^{4'}$ で示されるアシル基としては、a 環の置換基として例示した「アシル基」と同様のものが用いられ、なかでも C_{1-6} アルキルカルボニルなどが好ましい。 R^4 としては、特に水素原子、シアノ基、シアノで置換されていてもよい C_{1-6} アルキル基、ホルミルなどが好ましく、特に水素原子が好ましい。

【0039】 R^5 で示される「置換基を有しているもよい炭化水素基」としては、a 環の置換基として例示した「置換基を有しているもよい炭化水素基」と同様のもの

が用いられる。 R^5 で示される炭化水素基としては、 C_{1-6} アルキル基 (例、メチル、エチルなど)、 C_{2-6} アルケニル基 (例、アリル、2-メチル-2-プロペニルなど)、 C_{2-6} アルキニル基 (例、プロパルギルなど)、 C_{3-6} シクロアルキル基 (例、シクロペンチルなど)、 C_{6-14} アリール基 (例、フェニルなど)、 C_{7-16} アラルキル基 (例、ベンジル、3-フェニルプロピル、5-フェニルペンチルなど) などが好ましく、特に C_{1-6} アルキル基 (特に、メチル) が好適である。該炭化水素基の置換基としては、(1)ハロゲン原子 (例えば、フッ素、塩素、臭素、ヨウ素)、(2)ヒドロキシ基、(3)アミノ基、(4)カルボキシ、(5)カルバモイル、(6) C_{1-6} アルコキシ-カルボニル (例、メトキシカルボニル、エトキシカルボニルなど)、(7)モノ- C_{1-6} アルキル-カルバモイル (例、メチルカルバモイル、エチルカルバモイルなど)、(8)ジ- C_{1-6} アルキル-カルバモイル (例、ジメチルカルバモイル、ジエチルカルバモイルなど)、(9)オキソを有していてもよい炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する4ないし10員複素環基 (例、ピリジル、2-イソインドリニルなど)、(10) C_{6-14} アリール基 (例、フェニルなど) などが好ましい。 R^5 で示される「アシル基」としては、a環の置換基として例示した「アシル基」と同様のものが用いられ、このアシル基はさらに置換基A群から選ばれる置換基を1ないし5個、好ましくは1ないし3個有していてもよい。なかでも、(1)ホルミル、(2) C_{1-6} アルキル-カルボニル基 (例、アセチル、プロピオニルなど)、(3) C_{6-14} アリール-カルボニル基 (例、ベンゾイルなど)、(4) C_{7-16} アラルキル-カルボニル基 (例、フェニルアセチルなど)、(5) C_{1-6} アルコキシ-カルボニル基 (例、メトキシカルボニル、エトキシカルボニルなど)、(6)カルバモイル基、(7)モノ-またはジ- C_{1-6} アルキル-カルバモイル基 (例、メチルカルバモイル、ジメチルカルバモイルなど)、(8)モノ-またはジ- C_{1-6} アルキル-チオカルバモイル基 (例、メチルチオカルバモイル、ジメチルチオカルバモイルなど)、(9) C_{1-6} アルキル-スルホニル基 (例、メチルスルホニルなど)、(10) C_{1-6} アルキル-スルフィニル基 (例、メチルスルフィニルなど) などが好ましい。 R^5 で示される「置換基を有していてもよい複素環基」としては、a環の置換基として例示した「置換基を有していてもよい複素環基」と同様のものが用いられる。なかでも、 R^5 で示される複素環基としては、炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれる1ないし4個のヘテロ原子を含有する4ないし10員芳香族複素環基 (例、テトラゾリルなど) などが好ましい。該複素環基の置換基としては、 C_{6-14} アリール基 (例、フェニルなど) などが好ましい。 R^5 で示されるハロゲン原子としては、フッ素原子、塩素原子、臭素原子、ヨウ素原子が用いられ、なかでも塩素原子などが好ましい。

【0040】 R^5 はXの種類によって、次のような場合が好ましい。

[X=酸素原子の時]

(i)水素原子、(ii) C_{1-6} アルキル基 (例、メチル、エチル、イソプロピル、ブチルなど) [この C_{1-6} アルキル基は(1)ハロゲン原子、(2)ヒドロキシ基、(3)アミノ基、(4)カルボキシ、(5)カルバモイル、(6) C_{1-6} アルコキシ-カルボニル、(7)モノ- C_{1-6} アルキル-カルバモイル、(8)ジ- C_{1-6} アルキル-カルバモイル、(9)オキソを有していてもよい炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する4ないし10員芳香族複素環基 (例、ピリジル、2-イソインドリニルなど) などから選ばれる置換基を有していてもよい]、(iii) C_{2-6} アルケニル基 (例、アリル、2-メチル-2-プロペニルなど) [この C_{2-6} アルケニル基は C_{6-14} アリール (例、フェニル) を有していてもよい]、(iv) C_{2-6} アルキニル基 (例、プロパルギルなど)、(v) C_{3-6} シクロアルキル基 (例、シクロペンチルなど)、(vi) C_{7-16} アラルキル基 (例、ベンジル、3-フェニルプロピル、5-フェニルペンチルなど)、(vii) C_{1-6} アルキル-カルボニル基 (例、アセチルなど)、(viii) C_{6-14} アリール-カルボニル基 (例、ベンゾイルなど)、(ix) C_{7-16} アラルキル-カルボニル基 (例、フェニルアセチルなど)、(x) C_{1-6} アルコキシ-カルボニル基 (例、メトキシカルボニル、エトキシカルボニルなど)、(xi)モノ-またはジ- C_{1-6} アルキル-チオカルバモイル基 (例、メチルチオカルバモイル、ジメチルチオカルバモイルなど)、(xii)ハロゲン化されていてもよい C_{1-6} アルキル-スルホニル基 (例、メチルスルホニルなど)、(xiii)炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれる1ないし4個のヘテロ原子を含有する4ないし10員芳香族複素環基 (例、テトラゾリルなど) [この複素環基は C_{6-14} アリール (例、フェニル) を有していてもよい。]

【0041】[X=窒素原子の時]

(i)水素原子、(ii) C_{1-6} アルキル基 (例、メチル、エチルなど) [この C_{1-6} アルキル基は C_{1-6} アルコキシ-カルボニルを有していてもよい。]、(iii)ホルミル、(iv) C_{1-6} アルキル-カルボニル基 (例、アセチル、プロピオニルなど)、(v) C_{1-6} アルコキシ-カルボニル基 (例、メトキシカルボニル、エトキシカルボニルなど)、(vi)カルバモイル基、(vii)モノ-またはジ- C_{1-6} アルキル-カルバモイル基 (例、メチルカルバモイル、ジメチルカルバモイルなど)、(viii) C_{1-6} アルキル-スルホニル基 (例、メチルスルホニルなど)

[X=硫黄原子の時]

(i) C_{1-6} アルキル基 (例、メチル、エチルなど)、(ii)モノ-またはジ- C_{1-6} アルキル-カルバモイル基 (例、メチルカルバモイル、ジメチルカルバモイルなど)

[X=結合手の時]

(i)水素原子、(ii) C_{1-6} アルキル基 (例、メチル)、(iii)ハロゲン原子 (例、塩素原子)、(iv) C_{6-14} アリール基 (例、フェニル)

【0042】 R^6 および R^7 で示される「置換基を有しているもよい炭化水素基」としては、a環の置換基として例示した「置換基を有しているもよい炭化水素基」と同様のものが用いられ、なかでも C_{1-6} アルキル基 (例、メチル、エチルなど) などが好ましく、特にメチル基が好適である。 R^6 と R^7 が隣接する炭素原子と共に形成する「置換基を有しているもよい3ないし8員環」としては、前記した R^2 と R^3 が隣接する炭素原子と共に形成する「置換基を有しているもよい3ないし8員環」と同様のものが用いられ、なかでも置換基を有しているもよい3ないし8員同素環が好ましく、なかでも C_{3-8} シクロアルカン

(例えば、シクロプロパン、シクロブタン、シクロペンタン、シクロヘキサン、シクロヘプタン、シクロオクタン) が好ましく、特にシクロペンタン、シクロヘキサンなどの5または6員の同素環 (特に、シクロペンタン) が好ましい。 R^8 および R^9 で示される「置換基を有しているもよい炭化水素基」としては、a環の置換基として例示した「置換基を有しているもよい炭化水素基」と同様のものが用いられる。なかでも(1)ハロゲン原子、(2)ハロゲン化されているもよい C_{1-6} アルキル、(3)ハロゲン化されているもよい C_{1-6} アルコキシ、(4)ハロゲン化されているもよい C_{1-6} アルキルチオ、(5)ヒドロキシ、(6)アミノ、(7)モノ- C_{1-6} アルキルアミノ、(8)ジ- C_{1-6} アルキルアミノなどから選ばれる置換基を1ないし5個有しているもよい C_{1-6} アルキル基、 C_{2-6} アルケニル基または C_{2-6} アルキニル基が好ましく、特に C_{1-6} アルキル基

(例、メチル、エチルなど) が好ましい。 R^8 および R^9 としては、例えば、水素原子、 C_{1-6} アルキル基 (例、メチル、エチル) などが好ましく、特に水素原子が好ましい。

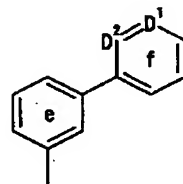
【0043】Xで示される酸化されているもよい硫黄原子としては、S、SO、 SO_2 が用いられ、なかでもS、SOが好ましい。Xで示される「置換基を有しているもよい窒素原子」としては、前記Eで示される「置換基を有しているもよい窒素原子」と同様のものが用いられ、なかでも(1)-NH-、(2)-N (C_{1-6} アルキル) - (例、-N (メチル) -、-N (エチル) -、-N (プロピル) -、-N (イソプロピル) -など)、(3)-N (C_{6-14} アリール) - (例、-N (フェニル) -、-N (2-ナフチル) -など)、(4)-N (C_{7-16} アラルキル) - (例、-N (ベンジル) -、-N (フェネチル) -など) などが好ましく、特に-NH-、-N (メチル) -などが好適である。Xとしては、結合手、O、S、SO、-NH-、-N (メチル) -などが好ましい。Yは置換基を有しているもよいメチレン基を示す。メチレン基の置換基としては、上記置換基A群から選ばれる基などが用いられ、なかでも1または2個の C_{1-6} アルキル基 (例、メチル、エチルなど)、ヒドロキシ基、 C_{1-6} アルコキシ基

(例、メトキシなど)、オキソなどが好ましい。Yとしては、(1)1または2個の C_{1-6} アルキル基 (例、メチル、エチルなど)、ヒドロキシ基または C_{1-6} アルコキシ基 (例、メトキシなど) を有しているもよいメチレン基または(2)カルボニル基が好ましく、なかでも1または2個のメチルまたはメトキシを有しているもよいメチレン基が好ましい。nは0または1を示す。

【0044】本発明のエントリー阻害剤としては、例えば次のような化合物またはその塩を含有してなるものが好ましい。

〔化合物(I')-I〕 R^1 が式

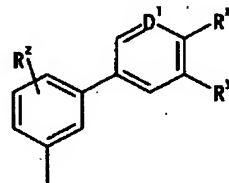
【化45】



〔式中、環eおよび環fは置換基を有しているもよく、 D^1 および D^2 は、ともにメチンまたは一方がメチン、他方が窒素原子を示す〕で表される基を、 R^2 および R^3 がそれぞれ水素原子または置換基を有しているもよい炭化水素基を示し、 R^2 と R^3 が隣接する炭素原子と共に置換基を有しているもよい3ないし8員環を形成してもよく、 R^4 が水素原子、シアノ基、置換基を有しているもよい炭化水素基、アシル基または置換基を有しているもよいヒドロキシ基を、 R^5 が水素原子、置換基を有しているもよい炭化水素基またはアシル基を、 R^6 および R^7 が水素原子またはそれぞれ置換基を有しているもよい炭化水素基を示し、 R^6 と R^7 が隣接する炭素原子と共に置換基を有しているもよい3ないし8員環を形成してもよく、 R^8 および R^9 が水素原子を、Xが結合手、酸素原子または酸化されているもよい硫黄原子を、Yが置換基を有しているもよいメチレン基を、nが0または1を示す化合物(I')。〕

【0045】〔化合物(I')-II〕 R^1 が式

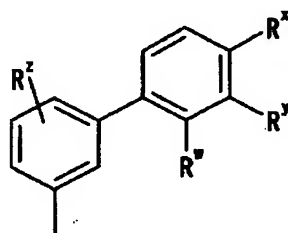
【化46】



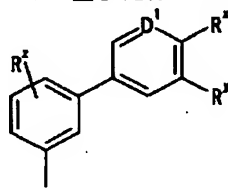
〔式中、 D^1 はメチンまたは窒素原子を、 R^2 は(1)アミノ基、(2)式-NHCOR^x (R^x は、(1')水素原子、(2') C_{7-16} アラルキル基または(3')モノ- C_{1-6} アシルアミノで置換されているもよい C_{1-6} アルキル基を示す) または式-COR^x (R^x は、(1') C_{1-6} アルコキシ基、(2')ヒドロキシ基または(3') C_{1-6} アルキルで置換されているもよいアミノ基を示す) を、 R^3 は(1)水素原子、(2)ハロゲン原子または(3) C_{1-6} アルキルでエステル化されて

いてもよいカルボキシ基を、 R^2 は(1)水素原子、(2)ヒドロキシ基、(3)アミノ基、(4) C_{1-6} アルコキシカルボニルまたはカルボキシで置換されていてもよい C_{1-6} アルコキシ基を示す]で表される基、 R^2 が水素原子または C_{1-6} アルキル基、 R^3 が水素原子または C_{1-6} アルキル基、 R^4 が水素原子、 R^5 が(1)水素原子、(2) C_{1-6} アルキル基、(3) C_{6-14} アリール基または(4)ハロゲン化されていてもよい C_{1-6} アルキルスルホニル基、 R^6 が水素原子または C_{1-6} アルキル基、 R^7 が水素原子または C_{1-6} アルキル基、 R^8 が水素原子、 R^9 が水素原子、Xが結合手、酸素原子または硫黄原子、Yがメチレン基、 $-C(CH_3)_2-$ 、 $-CH(OCH_3)-$ 、 $-CH(OH)-$ またはカルボニル基、nが0または1である化合物(I')。

【0046】〔化合物(I')-III〕 R^1 が式【化47】



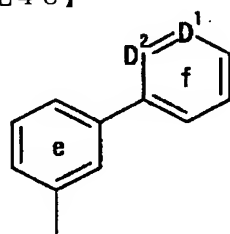
〔式中 R^1 は水素原子または C_{1-6} アルキルでエステル化されていてもよいカルボキシ基を、 R^2 は(1)アミノ基、(2)式 $-NHCOR^3$ (R^3 は、(1')水素原子、(2') C_{7-16} アラルキル、(3')モノ C_{1-6} アシルアミノで置換されていてもよい C_{1-6} アルキル基を示す)、(3)モノ C_{1-6} アルキルカルバモイル基、(4)ヒドロキシ基または(5)(1')カルボキシ、(2') C_{1-6} アルコキシカルボニルまたは(3')モノ C_{1-6} アルキルカルバモイルで置換されていてもよい C_{1-6} アルコキシ基を、 R^3 は(1)水素原子、(2)ハロゲン原子または(3) C_{1-6} アルコキシカルボニル基を、 R^4 は(1)水素原子、(2)ヒドロキシ基、(3)アミノ基、(4) C_{1-6} アルコキシカルボニルまたはカルボキシで置換されていてもよい C_{1-6} アルコキシ基、(5)シアノ基、(6) C_{1-6} アルキルでエステル化されていてもよいカルボキシ基または



〔式中、 D^1 はメチンまたは窒素原子を、 R^2 はアミノ基、式 $-NHCOR^3$ (R^3 は、水素原子、 C_{7-14} アラルキル基またはモノ C_{1-6} アシルアミノで置換されていてもよい C_{1-6} アルキル基を示す) または式 $-COR^3$ (R^3 は、 C_{1-6} アルコキシ基、ヒドロキシ基または C_{1-6} アルキルで置換されていてもよいアミノ基を示す) を、 R^4 は水素原子、ハロゲン原子または C_{1-6} アルキルでエステル化されていてもよいカルボキシ基を、 R^5 は水素原子、ヒドロキ

* (7)カルバモイル基を示す]で表される基、 R^2 が水素原子または C_{1-6} アルキル基、 R^3 が水素原子または C_{1-6} アルキル基、 R^4 が(1)水素原子または(2)(1')シアノ、(2')カルボキシ、または(3') C_{1-6} アルコキシカルボニルで置換されていてもよい C_{1-6} アルキル基、 R^5 が(1)水素原子、(2) C_{1-6} アルキル基または(3) C_{6-14} アリール基、 R^6 が(1)水素原子または(2) C_{1-6} アルキル基、 R^7 が(1)水素原子または(2) C_{1-6} アルキル基、 R^8 が水素原子、 R^9 が水素原子、Xが結合手、酸素原子または硫黄原子、Yがメチレン基、 $-C(CH_3)_2-$ 、 $-CH(OCH_3)-$ 、 $-CH(OH)-$ またはカルボニル基、nが0または1である化合物(I')。

【0047】〔化合物(I')-I〕 R^1 が式【化48】



〔式中、環eおよび環fは置換基を有していてもよく、 D^1 および D^2 は、ともにメチンまたは一方がメチン、他方が窒素原子を示す]で表される基、 R^2 が水素原子または置換基を有していてもよい炭化水素基、 R^3 が水素原子、シアノ基、置換基を有していてもよい炭化水素基、アシル基または置換基を有していてもよいヒドロキシ基、 R^5 が水素原子、置換基を有していてもよい炭化水素基またはアシル基、 R^6 および R^7 がそれぞれ水素原子または置換基を有していてもよい炭化水素基 (R^6 と R^7 が隣接する炭素原子と共に置換基を有していてもよい3ないし8員環を形成してもよい)、 R^8 および R^9 が水素原子、Xが結合手、酸素原子または酸化されていてもよい硫黄原子、nが0または1である化合物(I')。

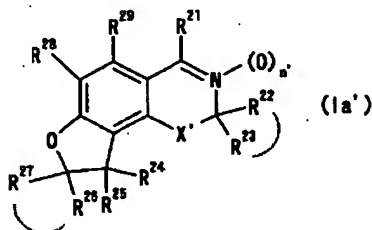
【0048】〔化合物(I')-II〕 R^1 が式【化49】

シ基、アミノ基、 C_{1-6} アルコキシカルボニルまたはカルボキシで置換されていてもよい C_{1-6} アルコキシ基を示す]で表される基、 R^2 が水素原子または C_{1-6} アルコキシカルボニル基、 R^4 が水素原子、 R^5 が水素原子、 C_{1-6} アルキルまたはハロゲン化されていてもよい C_{1-6} アルキルスルホニル基、 R^6 が水素原子または C_{1-6} アルキル基、 R^7 が水素原子または C_{1-6} アルキル基、 R^8 が水素原子、 R^9 が水素原子、Xが結合手、酸素原子または硫黄原子、nが0

または1である化合物(1')。

【0049】また、a' 環、b' 環およびc' 環がそれぞれ置換基を有する化合物としては、具体的には、式

【化50】

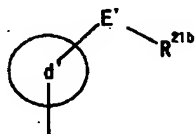


【式中、各記号は前記と同意義を示す】で表される化合物などが用いられる。

【0050】上記式中、 R^{21} は(1)水素原子、(2)置換基を有していてもよい炭化水素基または(3)置換基を有していてもよい複素環基を示す。 R^{21} で示される「置換基を有していてもよい炭化水素基」としては、a' 環の置換基として例示した「置換基を有していてもよい炭化水素基」と同様のものが用いられる。 R^{21} で示される「置換基を有していてもよい複素環基」としては、a' 環の置換基として例示した「置換基を有していてもよい複素環基」と同様のものが用いられる。 R^{21} としては、(1)置換基を有していてもよい芳香族炭化水素基、(2)置換基を有していてもよい複素環基、(3)置換基を有していてもよい脂肪族環状炭化水素基、(4)式-L'- R^{21a} 【式中、L' はメチレン基またはカルボニル基を、 R^{21a} は水素原子、置換基を有していてもよい芳香族基、置換基を有していてもよいヒドロキシ基または置換基を有していてもよいアミノ基を示す】で表わされる基などが好ましい。

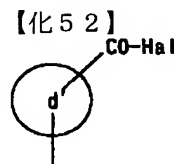
【0051】また、この「置換基を有していてもよい芳香族炭化水素基」および「置換基を有していてもよい複素環基」としては、式

【化51】



【式中、 R^{21b} は水素原子、置換基を有していてもよい炭化水素基または置換基を有していてもよい複素環基を、 d' 環は置換基を有していてもよい芳香族炭化水素環または置換基を有していてもよい複素環を、 E' は結合手、メチレン基、酸素原子、酸化されていてもよい硫黄原子、置換基を有していてもよい窒素原子または式-CS-O-、-CO-O-、-S-CO-、-(CH₂)_k-CO-、-NR^{21c}-CO-(CH₂)_a-、-NR^{21c}-SO₂-(CH₂)_a-、-SO₂-NR^{21c}-(CH₂)_a-、-O-CS-NR^{21c}-(CH₂)_a-、-NR^{21c}-CO-NR^{21c}-(CH₂)_a-、-NR^{21c}-CO-CH₂-(CH₂)_a-NR^{21c}-【式中、 R^{21c} は水素原子、置換基を有していてもよいアルキル基またはアシル基を、 k' は0または1を、 m' は0ないし3の整数を示す】で表される基、式

【化52】



【式中、Halはハロゲン原子を、 d' 環は前記と同意義を示す】で表される基などが好ましく用いられる。

- 10 【0052】 R^{21} の好ましい基である「芳香族炭化水素基」としては、例えば、炭素数6ないし14員の単環式あるいは縮合多環式芳香族炭化水素基 (C₆₋₁₄ アリール基) などが用いられる。C₆₋₁₄ アリール基としては、例えば、フェニル、1-ナフチル、2-ナフチル、1-アントリル、2-アントリル、9-アントリル、1-フェナントリル、2-フェナントリル、3-フェナントリル、4-フェナントリル、9-フェナントリルなどが用いられ、なかでも、フェニル、1-ナフチル、2-ナフチルなどが好ましく、特にフェニルなどが好適である。この「芳香族炭化水素基」の置換基としては、前記した置換基A群から選ばれる1ないし5個、好ましくは1ないし3個が用いられる。これら置換基の中でも、(1)ハロゲン原子、(2)ニトロ基、(3)C₁₋₆ アルキル基 (メチル、イソプロピル、tert-ブチルなど) 【このC₁₋₆ アルキル基は、ハロゲン原子、シアノ、カルバモイル、C₁₋₆ アルキル-カルバモイル、C₁₋₆ アルキル-カルボニルオキシ、C₁₋₆ アルコキシ-カルボニル-C₁₋₆ アルキル-カルバモイル、5または6員複素環 (例、ピリジルなどの炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する5または6員複素環) -C₁₋₆ アルキル-カルバモイル、C₁₋₆ アルキルスルホニルアミノ、C₁₋₆ アルコキシ-カルボニル、カルボキシなどから選ばれる置換基を有していてもよい】、(4)C₃₋₆ シクロアルキル基 (例、シクロヘキシル)、(5)C₆₋₁₄ アリール基 (例、フェニル) 【このC₆₋₁₄ アリール基は、アミノ、カルボキシ、C₁₋₆ アルコキシ-カルボニル、カルバモイル、モノ-またはジ-C₁₋₆ アルキルカルバモイル、ホルミルアミノ、ハロゲン原子またはカルボキシを有していてもよいC₁₋₆ アルキル-カルボニルアミノ (例、アセチルアミノ、プロピオニルアミノ、トリフルオロアセチルアミノ、ピバロイルアミノ)、C₆₋₁₄ アリール-カルボニルアミノ (例、ベンゾイルアミノ)、C₁₋₆ アルコキシ-カルボニルアミノ (例、メトキシカルボニルアミノ)、ウレイド、モノ-またはジ-C₁₋₆ アルキルウレイド、C₁₋₆ アルキルスルホニルアミノ (例、メチルスルホニルアミノ)、(C₁₋₆ アルキル) (C₁₋₆ アルキルスルホニル) アミノ (例、メチル (メチルスルホニル) アミノなど)、(C₁₋₆ アルキル) (C₁₋₆ アルキル-カルボニル) アミノ (例、メチル (アセチル) アミノなど)、C₁₋₆ アルコキシ-カルボニル-C₁₋₆ アルキルアミノ (例、2-エトキシカルボニル-2-

プロピルアミノなど)、 C_{7-15} アラルキルオキシ-カルボニルアミノ (例、ベンジルオキシカルボニルアミノ)、 C_{1-6} アルキル-カルボニルアミノ- C_{1-6} アルキル-カルボニルアミノ (例、アセチルアミノアセチルアミノ)、 C_{1-6} アルキルチオ- C_{1-6} アルキル-カルボニルアミノ

(例、メチルチオアセチルアミノ)、 C_{1-6} アルキル-スルフィニル- C_{1-6} アルキル-カルボニルアミノ (例、メチルスルフィニルアセチルアミノ)、 C_{1-6} アルキル-スルホニル- C_{1-6} アルキル-カルボニルアミノ (例、メチルスルホニルアセチルアミノ)、 C_{6-14} アリールオキシ-カルボニルアミノ (例、フェノキシカルボニルアミノ)、ヒドロキシ- C_{1-6} アルキル-カルバモイル (例、ヒドロキシメチルカルバモイル、ヒドロキシエチルカルバモイル) などから選ばれる置換基を有していてもよく、特にアミノ、カルボキシ、 C_{1-6} アルコキシ-カルボニル、カルバモイル、モノ-またはジ- C_{1-6} アルキルカルバモイル、ホルミルアミノ、ハロゲン原子またはカルボキシを有していてもよい C_{1-6} アルキル-カルボニルアミノ

(例、アセチルアミノ、プロピオニルアミノ、トリフルオロアセチルアミノ、ピバロイルアミノ)、 C_{1-6} アルコキシ-カルボニルアミノ (例、メトキシカルボニルアミノ)、ウレイド、 C_{1-6} アルキルスルホニルアミノ (例、メチルスルホニルアミノ)、(C_{1-6} アルキル) (C_{1-6} アルキルスルホニル) アミノ (例、メチル (メチルスルホニル) アミノなど)、(C_{1-6} アルキル) (C_{1-6} アルキル-カルボニル) アミノ (例、メチル (アセチル) アミノなど)、 C_{1-6} アルコキシ-カルボニル- C_{1-6} アルキルアミノ (例、2-エトキシカルボニル-2-プロピルアミノなど)、 C_{7-15} アラルキルオキシ-カルボニルアミノ (例、ベンジルオキシカルボニルアミノ) などから選ばれる置換基を有していてもよい]、

【0053】(6)ハロゲン原子または C_{1-6} アルコキシ- C_{6-14} アリールを有していてもよい C_{1-6} アルコキシ基 (例、メトキシ、トリフルオロメトキシ、イソプロポキシ、2- (4-メトキシフェニル) エトキシなど)、(7) C_{6-14} アリールオキシ基 (例、フェノキシ)、(8)カルバモイルを有していてもよい C_{1-6} アルキルチオ基 (例、メチルチオ、カルバモイルメチルチオ)、(9)カルバモイルを有していてもよい C_{1-6} アルキルスルフィニル基

(例、メチルスルフィニル、カルバモイルメチルスルフィニル)、(10) C_{6-14} アリールチオ基 (例、フェニルチオ)、(11)ヒドロキシ基、(12)炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれる1ないし4個のヘテロ原子を含有する4ないし14員複素環基 (例、ピロリジニル、ピペリジニル、イソインドリル、フリル、チエニル、ピリジニル、キノリル、ベンゾフラニル、ピリミジニル、テトラゾリル、イミダゾリジニル、イソチアゾリジニル、チアジアゾリジニル、アゼチニルなど) [この複素環基は、オキソ、カルボキシ- C_{1-6} アルキル、 C_{1-6} アルキル-カルボニルオキシ- C_{1-6} アルキル、 C_{1-6} ア

ルキル、 C_{1-6} アルコキシ-カルボニル- C_{1-6} アルキル、 C_{1-6} アルコキシ-カルボニル、カルバモイル- C_{1-6} アルキル、 C_{1-6} アルキル-カルバモイル- C_{1-6} アルキルなどから選ばれる置換基を有していてもよい]、(13)カルボキシ基、(14)式-CO-Hal (Halはハロゲン原子を示す) で表される基 (例、クロロホルミル)、(15) C_{1-6} アルキル-カルボニル基 (例、アセチルなど)、(16) C_{1-6} アルキル-スルホニル基 (例、メチルスルホニルなど)、(17) C_{1-6} アルコキシ-カルボニル基 (例、メトキシカルボニルなど)、(18)スルファモイル基 [このスルファモイル基は、 C_{1-6} アルキル、カルバモイル- C_{1-6} アルキル、 C_{1-6} アルコキシ-カルボニル- C_{1-6} アルキル、オキソ基を有していてもよい5ないし7員複素環基 (例、ピリジニル、ピロリジニル、ヘキサヒドロアゼピニルなどの炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する5ないし7員複素環基)- C_{1-6} アルキル、 C_{1-6} アルキル-カルボニルアミノ- C_{6-14} アリールなどから選ばれる置換基を1または2個有していてもよい]、

【0054】(19)式-NR^a R^b で表わされる基 [R^a およびR^b はそれぞれ(i)水素原子、(ii) C_{1-6} アルキル、(iii)5または6員複素環 (例、ピリジニルなどの炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する5または6員複素環)- C_{1-6} アルキル、(iv) C_{1-6} アルコキシ-カルボニル- C_{1-6} アルキル、(v)ジ- C_{1-6} アルキルアミノ-メチレン-スルファモイル- C_{1-6} アルキル、(vi)カルバモイル- C_{1-6} アルキル、(vii)スルファモイル- C_{1-6} アルキル、(viii) C_{1-6} アルキル-スルホニル、(ix) C_{1-6} アルコキシ-カルボニル、(x)ジ- C_{1-6} アルコキシ-カルボニル- C_{2-6} アルケニル、(xi) C_{6-14} アリール、(xii)5または6員複素環基

(例、ピリジニルなどの炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する5または6員複素環基) [この5または6員複素環基は、アミノ、 C_{1-6} アルキル-カルボキサミド、 C_{1-6} アルキル-スルホニルアミノなどから選ばれる置換基を有していてもよい]、(xiii)ハロゲン化されていてもよい C_{1-6} アルキル-カルボニル、(xiv) C_{1-6} アルキルチオ- C_{1-6} アルキル-カルボニル、(xv) C_{1-6} アルキルスルフィニル- C_{1-6} アルキル-カルボニル、(xvi) C_{1-6} アルキルスルホニル- C_{1-6} アルキル-カルボニル、(xvii)アミノ- C_{1-6} アルキル-カルボニル、(xviii)ハロゲン化されていてもよい C_{1-6} アルキル-カルボニル-アミノ- C_{1-6} アルキル-カルボニル、(xix) C_{6-14} アリール-カルボニル、(xx)カルボキシ- C_{6-14} アリール-カルボニル、(xxi) C_{1-6} アルキルでエステル化されていてもよいホスホノ- C_{1-6} アルキル- C_{6-14} アリール-カルボニル、(xxii)ハロゲン原子、オキソまたは C_{1-6} アルコキシ-カルボニルを有していてもよい5または6員複素環 (例、ピロリジニル、ピリジニルなどの炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子

等から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する5または6員複素環) -カルボニル、(xxiii) 5または6員複素環 (例、ピリジルなどの炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する5または6員複素環) -C₁₋₆ アルキルカルボニル、(xxiv) C₆₋₁₄ アリール-オキシ-カルボニル、(xxv) カルボキシ-C₁₋₆ アルキル、(xxvi) カルバモイル、(xxvii) ハロゲン化されていてもよいC₁₋₆ アルキルカルバモイル、(xxviii) C₁₋₆ アルキル-カルボニルアミノを有していてもよいC₆₋₁₄ アリールカルバモイル、(xxix) 5または6員複素環 (例、ピリジルなどの炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する5または6員複素環) -カルバモイル、(xxx) C₂₋₆ アルケニル-カルボニル、(xxxi) オキシ基を有していてもよい5または6員複素環 (例、ピロリジニルなどの炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する5または6員複素環) -アミノ-C₁₋₆ アルキル-カルボニル、(xxxii) (オキシ基を有していてもよい5または6員複素環 (例、ピロリジニルなどの炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する5または6員複素環)) (C₁₋₆ アルキル) アミノ-C₁₋₆ アルキル-カルボニル、(xxxiii) (オキシ基を有していてもよい5または6員複素環 (例、ピロリジニルなどの炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する5または6員複素環)) (C₁₋₆ アルキルカルボニル) アミノ-C₁₋₆ アルキル-カルボニル、(xxxiv) C₁₋₆ アルキルチオ-C₁₋₆ アルキルカルボニル (硫黄原子は酸化されていてもよい)、(xxxv) ハロゲン化されていてもよいC₁₋₆ アルキルスルホニル、(xxxvi) スルファモイル、(xxxvii) C₁₋₆ アルキルスルファモイルなどを示す]、

【0055】(20) 式-C(=O)NR^d R^d で表わされる基 [R^d およびR^d はそれぞれ(i)水素原子、(ii)C₁₋₆ アルキル、(iii) 5または6員複素環 (例、ピリジル、イミダゾリルなどの炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する5または6員複素環) -C₁₋₆ アルキル、(iv)カルボキシ-C₁₋₆ アルキル、(v)C₁₋₆ アルコキシ-カルボニル-C₁₋₆ アルキル、(vi)ジ-C₁₋₆ アルキルアミノ-C₁₋₆ アルキル、(vii)カルバモイル-C₁₋₆ アルキル、(viii)C₁₋₆ アルキルカルバモイル-C₁₋₆ アルキル、(ix) 5または6員複素環 (例、ピリジルなどの炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する5または6員複素環) -C₁₋₆ アルキルカルバモイル-C₁₋₆ アルキル、(x) 5または6員複素環 (例、ピリジルなどの炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する5または6員複素環) -アミノ-C₁₋₆ アルキル、(xi)ス

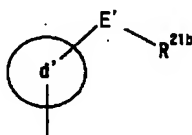
ルファモイル-C₆₋₁₄ アリール-C₁₋₆ アルキル、(xii)C₁₋₆ アルコキシを有していてもよいC₆₋₁₄ アリール、(xiii)C₁₋₆ アルキルでエステル化されていてもよいホスホノ-C₁₋₆ アルキル-C₆₋₁₄ アリール、(xiv) 4ないし10員複素環基 (例、アゼチニル、ピロリジニル、ピペリジル、ヘキサヒドロアゼピニル、ピリジル、ピリミジニル、ピラジニル、ピリダジニル、1-アザビシクロ[2.2.2]オクト-3-イルなどの炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する4ないし10員複素環) [この4ないし10員複素環基は、ハロゲン原子、C₁₋₆ アルキル、オキシなどから選ばれる置換基を1ないし2個有していてもよい]、(xv) C₆₋₁₄ アリール-カルバモイル-C₁₋₆ アルキル、(xvi) ヒドロキシ-C₁₋₆ アルキル、(xvii) オキシ基を有していてもよい5または6員複素環 (例、ピロリニジニル、ピリジルなどの炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する5または6員複素環) -カルバモイル-C₁₋₆ アルキルなどを示す。R^e としては水素原子が好ましい。]、(21) シアノ基、(22) モノ-またはジ-C₁₋₆ アルキルカルバモイルチオ基 (例、ジメチルカルバモイルチオ)、(23) モノ-またはジ-C₁₋₆ アルキルチオカルバモイルオキシ基 (例、ジメチルチオカルバモイルオキシ) などが好ましい。

【0056】R²¹ の好ましい基として示される「複素環基」としては、ピリジル、チエニル、フリル、イミダゾリル、チアゾリル、キノリル、1,2-ジヒドロピリジル、ジヒドロベンゾフラニル、ベンゾジオキサリル、ベンゾチアゾリル、ピペリジル、ピペラジニルなどが好ましく、特にピリジル、1,2-ジヒドロピリジルなどが好適である。この「複素環基」の置換基としては、(1)ハロゲン原子、(2)C₁₋₆ アルキル基 (例、メチル、エチルなど) [このアルキルは、カルボキシ、C₁₋₆ アルコキシ、C₁₋₆ アルコキシ-カルボニル、モノ-C₁₋₆ アルキル-アミノ、ジ-C₁₋₆ アルキル-アミノ、カルバモイル、ヒドロキシを有していてもよいC₁₋₆ アルキル-カルバモイル、オキシを有していてもよい4ないし10員複素環基 (例、ピリジル、キノリルなどの炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する4ないし10員複素環基)、4ないし10員複素環 (例、ピリジル、キノリルなどの炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する4ないし10員複素環) -カルバモイル、カルバモイル-C₁₋₆ アルキル-カルバモイルなどから選ばれる置換基を有していてもよい] (3)C₁₋₆ アルコキシ基 (例、メトキシ)、(4)C₆₋₁₄ アリール基 (例、フェニル)、(5)C₇₋₁₆ アラルキル基 (例、ベンジル) [このC₇₋₁₆ アラルキルは、カルボキシ、C₁₋₆ アルコキシ-カルボニル、カルバモイル、ヒドロキシを有していてもよいC₁₋₆ アルキル-カルバモイル、4ないし10員複素環 (例、ピリジルなどの炭素原子以外に

窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれる 1 ないし 3 個のヘテロ原子を含有する 4 ないし 10 員複素環) -カルバモイルなどから選ばれる置換基を有していてもよい]、(6) 4 ないし 10 員複素環基 (例、ピリジル、キノリル、イソキノリルなどの炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれる 1 ないし 3 個のヘテロ原子を含有する 4 ないし 10 員複素環基) [この 4 ないし 10 員複素環基は、 C_{1-6} アルキル、 C_{1-6} アルコキシ-カルボニル、カルバモイル、オキソ、4 ないし 10 員複素環基 (例、ピリジルなどの炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれる 1 ないし 3 個のヘテロ原子を含有する 4 ないし 10 員複素環基) などから選ばれる置換基を有していてもよい]、(7) オキソ基、(8) オキシド基などから選ばれる 1 ないし 5 個、好ましくは 1 ないし 3 個の置換基が好ましい。

【0057】 R^{21} がオキシド基を有する複素環基としては、例えば、N-オキシド化ピリジルなどが好ましい。 R^{21} の好ましい基として示される「脂肪族環状炭化水素基」としては、例えば、シクロプロピル、シクロブチル、シクロペンチル、シクロヘキシルなどの C_{3-6} シクロアルキル基などが用いられ、特にシクロペンチル、シクロヘキシルが好ましい。この「脂肪族環状炭化水素基」は前記した R^{21} で示される炭化水素基が有していてもよい置換基と同様の置換基を有していてもよい。 R^{21} の好ましい基として例示される「置換基を有していてもよい芳香族炭化水素基」および「置換基を有していてもよい複素環基」としては、式

【化 53】



【各記号は前記と同意義を示す】で表わされる基が好ましく用いられる。

【0058】 R^{21b} で示される「置換基を有していてもよい炭化水素基」としては、 a' 環の置換基として例示した「置換基を有していてもよい炭化水素基」と同様のものが用いられる。なかでも、(1) C_{1-6} アルキル基 (メチル、イソプロピル、tert-ブチルなど) [この C_{1-6} アルキル基は、ハロゲン原子、シアノ、ヒドロキシ、 C_{1-6} アルコキシ-カルボニル、ジ- C_{1-6} アルキルアミノ、ハロゲン化されていてもよい C_{1-6} アルキル-カルボニル-アミノ、カルボキシ、カルバモイル、 C_{1-6} アルキル-カルバモイル、 C_{1-6} アルキル-カルボニルオキシ、 C_{1-6} アルコキシ-カルボニル- C_{1-6} アルキル-カルバモイル、5 または 6 員複素環 (例、ピリジル、イミダゾリルなどの炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれる 1 ないし 3 個のヘテロ原子を含有する 5 または 6 員複素環) - C_{1-6} アルキル-カルバモイル、 C_{1-6} アルキルチ

オ、 C_{1-6} アルキルスルフィニル、 C_{1-6} アルキルスルホニルアミノ、5 または 6 員複素環 (例、ピリジルなどの炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれる 1 ないし 3 個のヘテロ原子を含有する 5 または 6 員複素環) - C_{1-6} アルキルカルバモイル、5 または 6 員複素環 (例、ピリジルなどの炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれる 1 ないし 3 個のヘテロ原子を含有する 5 または 6 員複素環) -アミノ、スルファモイル- C_{6-14} アリール、カルボキシ- C_{6-14} アリール、 C_{1-6} アルコキシ-カルボニル- C_{6-14} アリール、カルバモイル- C_{6-14} アリール、ヒドロキシを有していてもよい C_{1-6} アルキル-カルバモイル- C_{6-14} アリール、4 ないし 10 員複素環 (例、ピリジルなどの炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれる 1 ないし 3 個のヘテロ原子を含有する 4 ないし 10 員複素環) -カルバモイル- C_{6-14} アリールなどから選ばれる置換基を有していてもよい]、(2) C_{3-6} シクロアルキル基 (例、シクロヘキシル)、(3) C_{6-14} アリール基 (例、フェニル) [この C_{6-14} アリール基は、 C_{1-6} アルコキシ (例、メトキシ)、アミノ、カルボキシ、ハロゲン化されていてもよい C_{1-6} アルキル-カルボニルアミノ (例、アセチルアミノ、トリフルオロアセチルアミノ)、 C_{1-6} アルコキシ-カルボニルアミノ (例、メトキシカルボニルアミノ)、ホルミルアミノ、ウレイド、 C_{1-6} アルキルスルホニルアミノ (例、メチルスルホニルアミノ)、(C_{1-6} アルキル) (C_{1-6} アルキルスルホニル) アミノ (例、メチル (メチルスルホニル) アミノなど)、 C_{1-6} アルコキシ-カルボニル- C_{1-6} アルキルアミノ (例、2-エトキシカルボニル-2-プロピルアミノなど)、 C_{1-6} アルキルでエステル化されていてもよいホスホノ- C_{1-6} アルキル、モノ-またはジ- C_{1-6} アルキル-カルバモイル、 C_{7-16} アラルキルオキシ-カルボニルアミノ (例、ベンジルオキシカルボニルアミノなど)、 C_{7-16} アラルキル-カルボニルアミノ (例、フェニルアセチルアミノなど) などから選ばれる置換基を有していてもよい] または (4) C_{2-6} アルケニル基などが好ましい。

【0059】 R^{21b} で示される「置換基を有していてもよい複素環基」としては、 a' 環の置換基として例示した「置換基を有していてもよい複素環基」と同様のものが用いられる。なかでも、ハロゲン原子、 C_{1-6} アルキル、カルボキシ- C_{1-6} アルキル、 C_{1-6} アルコキシ-カルボニル- C_{1-6} アルキル、 C_{1-6} アルコキシ-カルボニル、カルバモイル、オキソ、4 ないし 10 員複素環基 (例、ピリジルなどの炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれる 1 ないし 3 個のヘテロ原子を含有する 4 ないし 10 員複素環基) などから選ばれる 1 ないし 2 個の置換基で置換されていてもよい、炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれる 1 ないし 4 個のヘテロ原子を含有する 5 ないし 14 員複素環基 (例、アゼチニル、ピロリジニル、ピペリジル、イソチアゾリジ

ニル、チアジアゾリジニル、ヘキサヒドロアゼピニル、フリル、チエニル、ピリジル、キノリル、イソキノリル、ベンゾフラニル、ピリミジニル、テトラゾリル、イミダゾリジニル、ピラジニル、ピリダジニルなど)などが好ましい。d' 環で示される芳香族炭化水素環としては、例えば、炭素数6ないし14員の単環式あるいは縮合多環式芳香族炭化水素環 (C₆₋₁₄ アリール環) などが用いられる。C₆₋₁₄ アリール環としては、例えば、ベンゼン環、ナフタレン環、アントラセン環、フェナントレン環などが用いられ、なかでも、ベンゼン環、ナフタレン環などが好ましく、特にベンゼン環が好適である。これら芳香族炭化水素環は、前記した置換基A群から選ばれる置換基を1ないし5個、好ましくは1ないし3個有していてもよい。d' 環で示される複素環としては、例えば、炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれるヘテロ原子を1ないし4個 (好ましくは1ないし3個) 含む5ないし14員複素環などが用いられ、具体的には、(a) 5ないし14員芳香族複素環、(b) 5ないし14員脂肪族複素環、(c) 5ないし14員複素環とベンゼン環との2または3環性縮合環などが用いられる。該5ないし14員芳香族複素環としては、例えば、炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれるヘテロ原子を1ないし4個 (好ましくは1ないし3個) 含む5ないし14員芳香族複素環などが用いられ、具体的には、チオフェン、フラン、インドリジン、ピロール、イミダゾール、トリアゾール、チアゾール、オキサゾール、ピラゾール、ピリジン、N-オキシド化ピリジン、ピラジン、ピリミジン、ピリダジン、プリン、4H-キノリジン、ナフチリジン、イソチアゾール、イソオキサゾール、フラザンなどが挙げられる。なかでも、ピリジン、チオフェン、フランなどが好ましく用いられる。該5ないし14員脂肪族複素環としては、炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれるヘテロ原子を1ないし4個 (好ましくは1ないし3個) を含む5ないし14員脂肪族複素環などが用いられ、具体的には、ピロリジン、ピペリジン、ピペラジン、モルホリン、チオモルホリン、1,2-ジヒドロピリジン、イミダゾリジンなどが挙げられる。該5ないし14員複素環とベンゼン環との2または3環性縮合環としては、炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子から選ばれるヘテロ原子を1ないし4個 (好ましくは1ないし3個) を含む複素環とベンゼン環との2または3環性縮合環などが用いられ、具体的には、ベンゾ [b] チオフェン、ベンゾフラン、1H-ベンズイミダゾール、ベンズオキサゾール、ベンズチアゾール、1,2-ベンズイソチアゾール、ナフト [2,3-b] チオフェン、チアントレン、キサテン、フェノキサチン、インドール、イソインドール、1H-インダゾール、イソキノリン、キノリン、フタラジン、キノキサリン、キナゾリン、シンノリン、カルバゾール、β-カルボリン、フェナントリジ

ン、アクリジン、フェナジン、フェノチアジン、フェノキサジン、イソクロマン、ジヒドロベンゾフランなどが挙げられる。なかでもd' 環で示される複素環としては、ピリジン、チオフェン、フラン、イミダゾール、チアゾール、キノリン、N-オキシド化ピリジン、1,2-ジヒドロピリジン、ジヒドロベンゾフラン、ベンズジオキソール、ベンズチアゾール、ピペリジン、ピペラジンなどが好ましく、特にピリジン、1,2-ジヒドロピリジンなどが好適である。これら複素環は、前記した置換基A群から選ばれる置換基を1ないし5個、好ましくは1ないし3個有していてもよい。

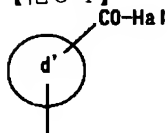
【0060】E' で示される「酸化されていてもよい硫黄原子」としては、S、SO、SO₂ が用いられる。E' で示される置換基を有していてもよい窒素原子としては、例えば、(i) 水素原子、(ii) 置換基を有していてもよい炭化水素基、(iii) アシル基などを1個有していてもよい窒素原子などが用いられる。該「置換基を有していてもよい炭化水素基」としては、a' 環の置換基として例示した「置換基を有していてもよい炭化水素基」と同様のものが用いられる。該「アシル基」としては、a' 環の置換基として例示した「アシル基」と同様のものが用いられ、このアシル基はさらに置換基A群から選ばれる置換基を1ないし5個、好ましくは1ないし3個有していてもよい。Eで示される式-CS-O-、-CO-O-、-S-CO-、-(CH₂)_k·-CO-、-NR^{21c}-CO-(CH₂)_a·-、-NR^{21c}-SO₂-(CH₂)_a·-、-SO₂-NR^{21c}-(CH₂)_a·-、-O-CS-NR^{21c}-(CH₂)_a·-、-NR^{21c}-CO-NR^{21c}-(CH₂)_a·-、-NR^{21c}-CO-CH₂-(CH₂)_a·-NR^{21c}-〔式中、R^{21c} は水素原子、置換基を有していてもよいアルキル基またはアシル基を、k' は0または1を、m' は0ないし3の整数を示す〕で表わされる基において、R^{21c} で示されるアルキル基としては、例えば、メチル、エチル、プロピル、イソプロピル、ブチル、イソブチル、sec-ブチル、tert-ブチル、ペンチル、ヘキシルなどのC₁₋₆ アルキル基などが用いられる。R^{21c} で示されるアルキル基は、前記した置換基A群から選ばれる置換基を1ないし5個、好ましくは1ないし3個有していてもよい。R^{1c} で示されるアシル基としては、a' 環の置換基として例示した「アシル基」と同様のものが用いられ、このアシル基はさらに置換基A群から選ばれる置換基を1ないし5個、好ましくは1ないし3個有していてもよい。k' は0または1を示し、特に0が好ましい。m' は0ないし3の整数を示し、なかでも0または1が好ましい。

【0061】上記したなかでも、E' としては、(i) 結合手、(ii) メチレン、(iii) O、(iv) S、(v) SO、(vi) SO₂、(vii) -NH-、(viii) -N (C₁₋₆ アルキル) - (例、-N (メチル) - など)、(ix) -N (C₁₋₆ アルキル-カルボニル) - (例、-N (アセチル) - など)、(x) -N (C₁₋₆ アルコキシ-カルボニル) - (例、-N (エトキシカルボニル) - など)、(xi) -N (C₁₋₆ アルキル-スルホニル) - (例、-N

(メチルスルホニル) -など)、(xii)-CO-O-、(xiii)-S-CO-、(xiv)-(CH₂)_k -CO- [式中、k' は0または1を示す] で表される基、(xv)-NR^f -CO-(CH₂)_{al} - [式中、R^f は水素原子またはC₁₋₆ アルコキシ-カルボニル (例、メトキシカルボニル) または炭素原子以外に窒素原子、酸素原子、硫黄原子等から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する複素環基 (例、ピリジル) で置換されていてよいC₁₋₆ アルキル基を、m1' は0ないし3の整数を示す] で表される基、(xvi)-NR^g -SO₂-(CH₂)_{a2} - [式中、R^g は水素原子またはC₁₋₆ アルキルスルホニル基 (例、メチルスルホニル) を、m2' は0を示す] で表される基、(xvii)-SO₂-NR^h -(CH₂)_{a3} - [式中、R^h は水素原子またはC₁₋₆ アルキル基 (例、メチル) を、m3' は0または1を示す] で表される基、(xviii)-O-CS-NRⁱ -(CH₂)_{a4} - [式中、Rⁱ は水素原子またはC₁₋₆ アルキル基 (例、メチル) を、m4' は0または1を示す] で表される基、(xix)-NR^j -CO-NR^k -(CH₂)_{a5} - [式中、R^j は水素原子またはC₁₋₆ アルキル基 (例、メチル) を、R^k は水素原子またはC₁₋₆ アルキル基 (例、メチル) を、m5' は0または1を示す] で表される基、(xx)-NR^l -CO-CH₂-(CH₂)_{a6} -NR^m - [式中、R^l は水素原子またはC₁₋₆ アルキル基 (例、メチル) を、R^m は水素原子またはC₁₋₆ アルキル基 (例、メチル) を、m6' は0または1を示す] で表される基などが好ましい。

【0062】R²¹ の好ましい基として例示される「置換基を有していてもよい芳香族炭化水素基」および「置換基を有していてもよい複素環基」としては、式

【化54】



[各記号は前記と同意義を示す] で表わされる基も好ましく用いられる。Halで示されるハロゲン原子としては、フッ素原子、塩素原子、臭素原子、ヨウ素原子などが用いられ、なかでも塩素原子が好ましい。d' 環としては、前記と同様のものが用いられる。

【0063】R²¹ の好ましい基として例示される式-L' -R^{21a} [式中、各記号は前記と同意義を示す] で表わされる基において、L' としては、メチレン基またはカルボニル基が好ましい。R^{21a} で示される芳香族基としては、例えば、(1)単環式あるいは縮合多環式芳香族炭化水素基、より具体的にはフェニル、1-ナフチル、2-ナフチル、1-アントリル、2-アントリル、9-アントリル、1-フェナントリル、2-フェナントリル、3-フェナントリル、4-フェナントリルまたは9-フェナントリルなどのC₆₋₁₄ アリール基 (好ましくは、フェニル、1-ナフチルまたは2-ナフチルなど、特に好ましくはフェニル) などの6な

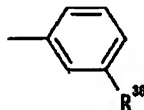
いし14員の単環式あるいは縮合多環式芳香族炭化水素基、(2)炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれる1種または2種のヘテロ原子を1個以上 (例えば、1ないし4個、好ましくは1ないし3個) を含む4ないし14員芳香族複素環基などが用いられる。この4ないし14員芳香族複素環基としては、炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれる1種または2種のヘテロ原子を1個以上 (例えば、1ないし4個、好ましくは1ないし3個) を含む単環複素環基 (好ましくは5ないし8員) またはその縮合芳香族複素環基、より具体的には、チオフエン、ベンゾ [b] チオフエン、ベンゾフラン、1H-ベンズイミダゾール、ベンズオキサゾール、ベンゾチアゾール、1,2-ベンズイソチアゾール、ナフト [2,3-b] チオフエン、チアントレン、フラン、インドリジン、キサンテン、フェノキサチン、ピロール、イミダゾール、トリアゾール、チアゾール、オキサゾール、ピラゾール、ピリジン、ピラジン、ピリミジン、ピリダジン、インドール、イソインドール、1H-インダゾール、プリン、4H-キノリジン、イソキノリン、キノリン、フタラジン、ナフチリジン、キノキサリン、キナゾリン、シンノリン、カルバゾール、β-カルボリン、フェナントリジン、アクリジン、フェナジン、イソチアゾール、フェノチアジン、イソオキサゾール、フラザン、フェノキサジン、イソクロマンなどの芳香族複素環 (好ましくは、ピリジン、チオフエンまたはフランなど、より好ましくはピリジン) またはこれらの環 (好ましくは、単環複素環) が1個あるいは複数個 (好ましくは1または2個、さらに好ましくは1個) と芳香環 (例えば、上記した芳香族炭化水素基など、好ましくはベンゼン環) との縮合環基などが用いられる。該芳香族基の置換基としては、前記した置換基A群から選ばれる1ないし5個、好ましくは1ないし3個の置換基が用いられる。R^{21a} で示される置換基を有していてもよい芳香族基としては、C₁₋₆ アルキル、C₁₋₆ アルコキシなどの置換基を1ないし5個有していてもよいC₆₋₁₄ アリール基 (例、フェニル) などが好ましい。

【0064】R^{21a} で示される「置換基を有していてもよいヒドロキシ基」としては、前記したa' 環の置換基として例示される「置換基を有していてもよいヒドロキシ基」と同様のものが用いられ、なかでもC₁₋₆ アルキル基 (例、メチル) を有していてもよいヒドロキシ基が好ましい。R^{21a} で示される「置換基を有していてもよいアミノ基」としては、a' 環の置換基として例示した「置換基を有していてもよいアミノ基」と同様のものが用いられる。R^{21a} で示される「置換基を有していてもよいアミノ基」としては、例えば、置換基を有していてもよいアルキル基や置換基を有していてもよいアリール基などを1ないし2個有していてもよいアミノ基が好ましく、特に、(1)4ないし10員複素環基 (炭素原子以外に窒素原子、酸素原子、硫黄原子などから選ばれる1ないし3

個のヘテロ原子を有する4ないし10員複素環基、例、ピリジル)で置換されていてもよい C_{1-6} アルキル-アミノ基、(2) C_{6-14} アリール-アミノ基、(3)4ないし10員複素環(炭素原子以外に窒素原子、酸素原子、硫黄原子などから選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を有する4ないし10員複素環、例、ピリジル)-アミノ基などが好ましい。

【0065】これらの中でも、 R^{21} としては、式

【化55】



【式中、 R^{36} は水素原子、置換基を有していてもよい C_{6-14} アリール基、置換基を有していてもよいアミノ基、置換基を有していてもよい複素環基またはハロゲン原子を示す】で表される基であるものが好ましい。特に R^{36} が、(1)水素原子、(2)アセチルアミノ基で置換されたフェニル、(3)(i) C_{1-6} アルキルスルホニル基、(ii)ピリジルカルボニルまたは(iii)スルファモイル- C_{1-6} アルキル

基から選ばれる置換基でモノまたはジ置換されていてもよいアミノ、(4)ピリジルまたは(5)ハロゲン原子(フッ素原子、塩素原子、臭素原子、ヨウ素原子)などであるものが好ましい。

【0066】 R^{22} および R^{23} で示される「置換基を有していてもよい炭化水素基」としては、 a' 環の置換基として例示される「置換基を有していてもよい炭化水素基」と同様のものが用いられる。この「置換基を有していてもよい炭化水素基」としては、例えば、(1)ハロゲン原子、(2)置換基を有していてもよいヒドロキシ基(例

えば、 C_{1-6} アルキル、 C_{1-6} アルキル-カルボニル、 C_{1-6} アルキルスルホニル、 C_{7-16} アラルキルなどで置換されていてもよいヒドロキシ基など)、(3)置換基を有していてもよいアミノ基(例えば、1または2個の C_{1-6} アルキル、 C_{1-6} アルキル-カルボニル、 C_{6-14} アリール-カルボニルなどで置換されていてもよいアミノ基)、(4)置換基を有していてもよい4ないし10員複素環基(例えば、オキシ基を有していてもよい、炭素原子以外に窒素原子、酸素原子、硫黄原子などから選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を有する4ないし10員複素環基(例、フタルイミド、イミダゾリル、ピペリジル、ピロリジニル))、(5)置換基を有していてもよいメルカプト基

(例えば、 C_{1-6} アルキルなどで置換されていてもよいメルカプト基)、(6) C_{1-6} アルキル-スルフィニル基、(7) C_{1-6} アルキル-スルホニル基などで置換されていてもよい炭化水素基(特に、 C_{1-6} アルキル基)が用いられる。なかでも、(1)ハロゲン原子(特に、臭素原子)、(2)ヒドロキシ、(3) C_{1-6} アルキル-カルボニルオキシ(例、アセトキシ)、(4)アミノ、(5)オキシ基を有していてもよい4ないし10員複素環基(炭素原子以外に窒素原子、酸

素原子、硫黄原子などから選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を有する4ないし10員複素環基(例、フタルイミド、イミダゾリル、ピペリジル、ピロリジニル)などで置換されていてもよい C_{1-6} アルキル基などが好ましく、さらにはハロゲン原子(特に、臭素原子)などでハロゲン化されていてもよい C_{1-6} アルキル基(例、メチル、エチルなど)などが好ましく、特にメチル基が好適である。

【0067】 R^{22} および R^{23} で示される「アシル基」としては、 a' 環の置換基として例示される「アシル基」と同様のものが用いられ、なかでも C_{1-6} アルコキシカルボニル基が好ましく、特にメトキシカルボニル基が好適である。 R^{22} と R^{23} が隣接する炭素原子と共に形成する3ないし8員環としては、例えば、3ないし8員同素環または複素環が用いられる。 R^{22} と R^{23} が隣接する炭素原子と共に形成する3ないし8員同素環としては、炭素原子からなる3ないし8員の環状炭化水素が用いられ、具体的には、 C_{3-8} シクロアルカン(例えば、シクロプロパン、シクロブタン、シクロペンタン、シクロヘキサン、シクロヘプタン、シクロオクタン)、 C_{3-8} シクロアルケン(例えば、シクロブテン、シクロペンテン、シクロヘキセン、シクロヘプテン、シクロオクテン)などが挙げられる。なかでも C_{3-8} シクロアルカンが好ましく、特にシクロペンタン、シクロヘキサンなどの5または6員の同素環(特に、シクロヘキサン)が好ましい。 R^{22} と R^{23} が隣接する炭素原子と共に形成する3ないし8員複素環としては、炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子および酸素原子から選ばれた1種または2種のヘテロ原子を1個以上(例えば、1個ないし4個、好ましくは1個ないし3個)含む5ないし8員の脂肪族複素環(好ましくは5または6員の脂肪族複素環)などが用いられる。より具体的には、例えば、ピペリジン、ピペラジン、モルホリン、チオモルホリン、ピロリジン、イミダゾリジン環などの炭素原子および窒素原子以外に、窒素原子、酸素原子および硫黄原子から選ばれたヘテロ原子を1個ないし3個含む5ないし8員(好ましくは5または6員)の脂肪族複素環などが用いられる。これらの R^{22} と R^{23} が隣接する炭素原子と共に形成する3ないし8員同素または複素環は、前記した R^{21} で示される複素環が有していてもよい置換基と同様の置換基を1ないし5個、好ましくは1ないし3個有していてもよい。置換基としては、 C_{1-6} アルキル、 C_{6-14} アリール、 C_{7-16} アラルキル、アミノ、モノ- C_{1-6} アルキルアミノ、モノ- C_{6-14} アリールアミノ、ジ- C_{1-6} アルキルアミノ、ジ- C_{6-14} アリールアミノ、4ないし10員複素環基(例、炭素原子以外に、窒素原子、酸素原子および硫黄原子から選ばれたヘテロ原子を1個ないし3個含む4ないし10員(好ましくは5または6員)の複素環)などから選ばれる1ないし3個が好ましい。上記した中でも、 R^{22} および R^{23} としては、それぞれハロゲン原子などで置換されていてもよい C_{1-6}

アルキル基、 C_{1-6} アルコキシカルボニル基が好ましく、特にメチル基、メトキシカルボニル基が好適である。さらに、 R^{22} と R^{23} が隣接する炭素原子と共に C_{3-8} シクロアルカン、好ましくはシクロペンタン、シクロヘキサンなどの5または6員の同素環（特に、シクロヘキサン）を形成する場合も好ましい。

【0068】 R^{24} および R^{25} で示される「置換基を有していてもよい炭化水素基」としては、 a' 環の置換基として例示した「置換基を有していてもよい炭化水素基」と同様のものが用いられる。なかでも(1)ハロゲン原子、(2)ハロゲン化されていてもよい C_{1-6} アルキル、(3)ハロゲン化されていてもよい C_{1-6} アルコキシ、(4)ハロゲン化されていてもよい C_{1-6} アルキルチオ、(5)ヒドロキシ、(6)アミノ、(7)モノ- C_{1-6} アルキルアミノ、(8)ジ- C_{1-6} アルキルアミノなどから選ばれる置換基を1ないし5個有していてもよい C_{1-6} アルキル基、 C_{2-6} アルケニル基または C_{2-6} アルキニル基が好ましく、特に C_{1-6} アルキル基（例、メチル、エチルなど）が好ましい。 R^{24} および R^{25} としては、例えば、水素原子、 C_{1-6} アルキル基（例、メチル、エチル）などが好ましく、特に水素原子

【0069】 R^{26} および R^{27} で示される「置換基を有していてもよい炭化水素基」としては、 a' 環の置換基として例示した「置換基を有していてもよい炭化水素基」と同様のものが用いられ、なかでも C_{1-6} アルキル基（例、メチル、エチルなど）などが好ましく、特にメチル基が好適である。 R^{26} と R^{27} が隣接する炭素原子と共に形成する「置換基を有していてもよい3ないし8員環」としては、前記した R^{22} と R^{23} が隣接する炭素原子と共に形成する「置換基を有していてもよい3ないし8員環」と同様のものが用いられ、なかでも置換基を有していてもよい3ないし8員同素環が好ましく、なかでも C_{3-8} シクロアルカン（例えば、シクロプロパン、シクロブタン、シクロペンタン、シクロヘキサン、シクロヘプタン、シクロオクタン）が好ましく、特にシクロペンタン、シクロヘキサンなどの5または6員の同素環（特に、シクロペンタン）が好ましい。

【0070】 R^{28} で示される「置換基を有していてもよい炭化水素基」としては、 a' 環の置換基として例示した「置換基を有していてもよい炭化水素基」と同様のものが用いられる。 R^{28} で示される炭化水素基としては、 C_{1-6} アルキル基（例、メチル、エチルなど）、 C_{2-6} アルケニル基（例、アリル、2-メチル-2-プロペニルなど）、 C_{2-6} アルキニル基（例、プロパルギルなど）、 C_{3-6} シクロアルキル基（例、シクロペンチルなど）、 C_{6-14} アリール基（例、フェニルなど）、 C_{7-16} アラルキル基（例、ベンジル、3-フェニルプロピル、5-フェニルペンチルなど）などが好ましく、特に C_{1-6} アルキル基（特に、メチル）が好適である。該炭化水素基の置換基としては、(1)ハロゲン原子（例えば、フッ素、塩素、

臭素、ヨウ素）、(2)ヒドロキシ基、(3)アミノ基、

(4)カルボキシ、(5)カルバモイル、(6) C_{1-6} アルコキシカルボニル（例、メトキシカルボニル、エトキシカルボニルなど）、(7)モノ- C_{1-6} アルキルカルバモイル（例、メチルカルバモイル、エチルカルバモイルなど）、(8)ジ- C_{1-6} アルキルカルバモイル（例、ジメチルカルバモイル、ジエチルカルバモイルなど）、(9)オキソを有していてもよい炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する4ないし10員複素環基（例、ピリジル、2-イソインドリルなど）、(10) C_{6-14} アリール基（例、フェニルなど）などが好ましい。 R^{28} で示される「アシル基」としては、 a' 環の置換基として例示した「アシル基」と同様のものが用いられ、このアシル基はさらに置換基A群から選ばれる置換基を1ないし5個、好ましくは1ないし3個有していてもよい。なかでも、(1)ホルミル、(2) C_{1-6} アルキルカルボニル基（例、アセチル、プロピオニルなど）、(3) C_{6-14} アリールカルボニル基（例、ベンゾイルなど）、(4) C_{7-16} アラルキルカルボニル基（例、フェニルアセチルなど）、(5) C_{1-6} アルコキシカルボニル基（例、メトキシカルボニル、エトキシカルボニルなど）、(6)カルバモイル基、(7)モノ-またはジ- C_{1-6} アルキルカルバモイル基（例、メチルカルバモイル、ジメチルカルバモイルなど）、(8)モノ-またはジ- C_{1-6} アルキルチオカルバモイル基（例、メチルチオカルバモイル、ジメチルチオカルバモイルなど）、(9) C_{1-6} アルキルスルホニル基（例、メチルスルホニルなど）または(10) C_{1-6} アルキルスルフィニル基（例、メチルスルフィニルなど）などが好ましい。 R^{28} で示される「置換基を有していてもよい複素環基」としては、 a' 環の置換基として例示した「置換基を有していてもよい複素環基」と同様のものが用いられる。なかでも、 R^{28} で示される複素環基としては、炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれる1ないし4個のヘテロ原子を含有する4ないし10員芳香族複素環基（例、テトラゾリルなど）などが好ましい。該複素環基の置換基としては、 C_{6-14} アリール基（例、フェニルなど）などが好ましい。 R^{28} で示されるハロゲン原子としては、フッ素原子、塩素原子、臭素原子、ヨウ素原子が用いられ、なかでも塩素原子などが好ましい。

【0071】 R^{29} で示される式-OR³⁰の、 R^{30} で示される「置換基を有していてもよい炭化水素基」としては、 a' 環の置換基として例示した「置換基を有していてもよい炭化水素基」と同様のものが用いられる。 R^{30} で示される炭化水素基としては、(i) C_{1-6} アルキル基（例、メチル、エチル、イソプロピル、ブチルなど）〔この C_{1-6} アルキル基は(1)ハロゲン原子、(2)ヒドロキシ基、(3)アミノ基、(4)カルボキシ、(5)カルバモイル、(6) C_{1-6} アルコキシカルボニル、(7)モノ- C_{1-6} アルキルカルバモイル、(8)ジ- C_{1-6} アルキルカルバモイル、(9)オ

キノを有していてもよい炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する4ないし10員芳香族複素環基(例、ピリジル、2-イソインドリルなど)などから選ばれる置換基を有していてもよい]、(ii)C₂₋₆ アルケニル基(例、アリル、2-メチル-2-プロペニルなど)[このC₂₋₆ アルケニル基はC₆₋₁₄ アリール(例、フェニル)を有していてもよい]、(iii)C₂₋₆ アルキニル基(例、プロパルギルなど)、(iv)C₃₋₆ シクロアルキル基(例、シクロペンチルなど)、(v)C₇₋₁₆ アラルキル基(例、ベンジル、3-フェニルプロピル、5-フェニルペンチルなど)などが好適である。

【0072】R²⁸で示される式-OR³⁰の、R³⁰で示される「アシル基」としては、例えば、ホルミル、カルバモイル、C₁₋₆ アルキル-カルボニル(例、アセチル、プロピオニルなど)、C₃₋₆ シクロアルキル-カルボニル(例、シクロペンチルカルボニル、シクロヘキシルカルボニルなど)、C₁₋₆ アルコキシ-カルボニル(例、メトキシカルボニル、エトキシカルボニル、イソプロポキシカルボニル、tert-ブトキシカルボニルなど)、C₆₋₁₄ アリール-カルボニル(例、ベンゾイル、2-ナフトイルなど)、C₇₋₁₆ アラルキル-カルボニル(例、フェニルアセチル、3-フェニルプロピオニルなど)、C₆₋₁₄ アリールオキシ-カルボニル(例、フェノキシカルボニル、2-ナフチルオキシカルボニルなど)、C₇₋₁₆ アラルキルオキシ-カルボニル(例、ベンジルオキシカルボニル、2-ナフチルメチルオキシカルボニルなど)、5または6員複素環カルボニル(例、1-ピロリジニルカルボニル、4-ピペリジニルカルボニル、1-ピペラジニルカルボニル、2-モルホリニルカルボニル、4-ピリジニルカルボニル、3-チエニルカルボニル、2-フリルカルボニル、2-チアゾリルカルボニルなどの炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する5または6員複素環カルボニルなど)、モノ-C₁₋₆ アルキル-カルバモイル(例、メチルカルバモイル、エチルカルバモイルなど)、ジ-C₁₋₆ アルキル-カルバモイル(例、ジメチルカルバモイル、ジエチルカルバモイルなど)、C₆₋₁₄ アリール-カルバモイル(例、フェニルカルバモイル、2-ナフチルカルバモイルなど)、5または6員複素環カルバモイル(例、1-ピロリジニルカルバモイル、4-ピペリジニルカルバモイル、1-ピペラジニルカルバモイル、2-モルホリニルカルバモイル、4-ピリジニルカルバモイル、3-チエニルカルバモイル、2-フリルカルバモイル、2-チアゾリルカルバモイルなどの炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する5または6員複素環カルバモイルなど)、C₁₋₆ アルキル-チオカルボニル(例、メチルチオカルボニルなど)、C₃₋₆ シクロアルキル-チオカルボニル(例、シクロペンチルチオカルボニル、シクロヘキシルチオカルボニルなど)、C₁₋₆ アルコキシ-チオ

カルボニル(例、メトキシチオカルボニル、エトキシチオカルボニル、プロポキシチオカルボニル、ブトキシチオカルボニルなど)、C₆₋₁₄ アリール-チオカルボニル(例、フェニルチオカルボニル、2-ナフチルチオカルボニルなど)、C₇₋₁₆ アラルキル-チオカルボニル(例、ベンジルチオカルボニル、フェネチルチオカルボニルなど)、C₆₋₁₄ アリールオキシ-チオカルボニル(例、フェノキシチオカルボニル、2-ナフチルオキシチオカルボニルなど)、C₇₋₁₆ アラルキルオキシ-チオカルボニル(例、ベンジルオキシチオカルボニル、2-ナフチルメチルオキシチオカルボニルなど)、5または6員複素環チオカルボニル(例、1-ピロリジニルチオカルボニル、4-ピペリジニルチオカルボニル、1-ピペラジニルチオカルボニル、2-モルホリニルチオカルボニル、4-ピリジニルチオカルボニル、3-チエニルチオカルボニル、2-フリルチオカルボニル、2-チアゾリルチオカルボニルなどの炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれる1ないし3個のヘテロ原子を含有する5または6員複素環チオカルボニルなど)、チオカルバモイル、モノ-C₁₋₆ アルキル-チオカルバモイル(例、メチルチオカルバモイル、エチルチオカルバモイルなど)、ジ-C₁₋₆ アルキル-チオカルバモイル(例えば、ジメチルチオカルバモイル、ジエチルチオカルバモイルなど)、C₆₋₁₄ アリール-チオカルバモイル(例、フェニルチオカルバモイル、2-ナフチルチオカルバモイルなど)、スルファモイル、モノ-C₁₋₆ アルキル-スルファモイル(例、メチルスルファモイル、エチルスルファモイルなど)、ジ-C₁₋₆ アルキル-スルファモイル(例、ジメチルスルファモイル、ジエチルスルファモイルなど)、C₆₋₁₄ アリール-スルファモイル(例、フェニルスルファモイルなど)、C₁₋₆ アルキルスルホニル(例、メチルスルホニル、エチルスルホニルなど)、C₆₋₁₄ アリールスルホニル(例、フェニルスルホニル、2-ナフチルスルホニルなど)、C₁₋₆ アルキルスルフィニル(例、メチルスルフィニル、エチルスルフィニルなど)、C₆₋₁₄ アリールスルフィニル(例、フェニルスルフィニル、2-ナフチルスルフィニルなど)、スルフィノ、スルホ、C₁₋₆ アルコキシスルフィニル(例、メトキシスルフィニル、エトキシスルフィニル)、C₆₋₁₄ アリールオキシスルフィニル(例、フェノキシスルフィニル)、C₁₋₆ アルコキシスルホニル(例、メトキシスルホニル、エトキシスルホニル)およびC₆₋₁₄ アリールオキシスルホニル(例、フェノキシスルホニル)が用いられ、このアシル基はさらに置換基A群から選ばれる置換基を1ないし5個、好ましくは1ないし3個有していてもよい。なかでも、(i)C₁₋₆ アルキル-カルボニル基(例、アセチルなど)、(ii)C₆₋₁₄ アリール-カルボニル基(例、ベンゾイルなど)、(iii)C₇₋₁₆ アラルキル-カルボニル基(例、フェニルアセチルなど)、(iv)C₁₋₆ アルコキシ-カルボニル基(例、メトキシカルボニル、エトキシカルボニルなど)、(v)モノ-

10

20

30

40

50

またはジ-C₁₋₆ アルキル-チオカルバモイル基 (例、メチルチオカルバモイル、ジメチルチオカルバモイルなど)、(vi)ハロゲン化されていてもよいC₁₋₆ アルキル-スルホニル基 (例、メチルスルホニルなど) などが好ましい。R²⁸ で示される式-OR³⁰ の、R³⁰ で示される「置換基を有していてもよい複素環基」としては、a' 環の置換基として例示した「置換基を有していてもよい複素環基」と同様のものが用いられる。なかでも、R³⁰ で示される複素環基としては、炭素原子以外に窒素原子、硫黄原子、酸素原子等から選ばれる1ないし4個のヘテロ原子を含む4ないし10員芳香族複素環基 (例、テトラゾリルなど) [この複素環基はC₆₋₁₄ アリール (例、フェニル) を有していてもよい。] などが好ましい。

【0073】R²⁸ で示される式-SR³¹ の、R³¹ で示される「置換基を有していてもよい炭化水素基」としては、a' 環の置換基として例示した「置換基を有していてもよい炭化水素基」と同様のものが用いられる。R³¹ で示される炭化水素基としては、C₁₋₆ アルキル基 (例、メチル、エチルなど) などが好適である。R²⁸ で示される式-SR³¹ の、R³¹ で示される「アシル基」としては、R³⁰ で示される「アシル基」と同様のものが用いられ、このアシル基はさらに置換基A群から選ばれる置換基を1ないし5個、好ましくは1ないし3個有していてもよい。R³¹ で示される「アシル基」としては、モノ-またはジ-C₁₋₆ アルキル-カルバモイル基 (例、メチルカルバモイル、ジメチルカルバモイルなど) などが好適である。R²⁸ で示される式-SR³¹ の、R³¹ で示される「置換基を有していてもよい複素環基」としては、a' 環の置換基として例示した「置換基を有していてもよい複素環基」と同様のものが用いられる。

【0074】R²⁸ で示される式-S(O)R³² の、R³² で示される「置換基を有していてもよい炭化水素基」としては、a' 環の置換基として例示した「置換基を有していてもよい炭化水素基」と同様のものが用いられる。R³² で示される炭化水素基としては、C₁₋₆ アルキル基 (例、メチル、エチルなど) などが好適である。R²⁸ で示される式-S(O)R³² の、R³² で示される「置換基を有していてもよい複素環基」としては、a' 環の置換基として例示した「置換基を有していてもよい複素環基」と同様のものが用いられる。

【0075】R²⁸ で示される式-S(O)₂R³³ の、R³³ で示される「置換基を有していてもよい炭化水素基」としては、a' 環の置換基として例示した「置換基を有していてもよい炭化水素基」と同様のものが用いられる。R³³ で示される炭化水素基としては、C₁₋₆ アルキル基 (例、メチル、エチルなど) などが好適である。R²⁸ で示される式-S(O)₂R³³ の、R³³ で示される「置換基を有していてもよい複素環基」としては、a' 環の置換基として例示した「置換基を有していてもよい複素環基」と同様のものが用いられる。

【0076】R²⁸ で示される式-NR³⁴R³⁵ の、R³⁴ およびR³⁵ で示される「置換基を有していてもよい炭化水素基」としては、a' 環の置換基として例示した「置換基を有していてもよい炭化水素基」と同様のものが用いられる。R³⁴ およびR³⁵ で示される炭化水素基としては、C₁₋₆ アルキル基 (例、メチル、エチルなど) [このC₁₋₆ アルキル基はC₁₋₆ アルコキシ-カルボニルを有していてもよい。] などが好適である。R²⁸ で示される式-NR³⁴R³⁵ の、R³⁴ およびR³⁵ で示される「アシル基」としては、R³⁰ で示される「アシル基」と同様のものが用いられ、このアシル基はさらに置換基A群から選ばれる置換基を1ないし5個、好ましくは1ないし3個有していてもよい。なかでも、ホルミル、C₁₋₆ アルキル-カルボニル基 (例、アセチル、プロピオニルなど)、C₁₋₆ アルコキシ-カルボニル基 (例、メトキシカルボニル、エトキシカルボニルなど)、カルバモイル基、モノ-またはジ-C₁₋₆ アルキル-カルバモイル基 (例、メチルカルバモイル、ジメチルカルバモイルなど)、C₁₋₆ アルキル-スルホニル基 (例、メチルスルホニルなど) などが好ましい。R²⁸ で示される式-NR³⁴R³⁵ の、R³⁴ およびR³⁵ で示される「置換基を有していてもよい複素環基」としては、a' 環の置換基として例示した「置換基を有していてもよい複素環基」と同様のものが用いられる。R²⁸ で示される式-NR³⁴R³⁵ としては、R³⁴ が(1)水素原子、(2)C₁₋₆ アルキル基 (例、メチル、エチルなど) [このC₁₋₆ アルキル基はC₁₋₆ アルコキシ-カルボニルを有していてもよい。]、(3)ホルミル、(4)C₁₋₆ アルキル-カルボニル基 (例、アセチル、プロピオニルなど)、(5)C₁₋₆ アルコキシ-カルボニル基 (例、メトキシカルボニル、エトキシカルボニルなど)、(6)カルバモイル基、(7)モノ-またはジ-C₁₋₆ アルキル-カルバモイル基 (例、メチルカルバモイル、ジメチルカルバモイルなど) または(8)C₁₋₆ アルキル-スルホニル基 (例、メチルスルホニルなど) であり、R³⁵ が(1)水素原子、(2)C₁₋₆ アルキル基 (例、メチル、エチル、プロピル、イソプロピルなど)、(3)C₆₋₁₄ アリール (例、フェニル、2-ナフチルなど) または(4)C₇₋₁₆ アラルキル (例、ベンジル、フェネチルなど) などであるものが好ましい。なかでもR³⁴ が(1)水素原子、(2)C₁₋₆ アルキル基 (例、メチル、エチルなど) [このC₁₋₆ アルキル基はC₁₋₆ アルコキシ-カルボニルを有していてもよい。]、(3)ホルミル、(4)C₁₋₆ アルキル-カルボニル基 (例、アセチル、プロピオニルなど)、(5)C₁₋₆ アルコキシ-カルボニル基 (例、メトキシカルボニル、エトキシカルボニルなど)、(6)カルバモイル基、(7)モノ-またはジ-C₁₋₆ アルキル-カルバモイル基 (例、メチルカルバモイル、ジメチルカルバモイルなど) または(8)C₁₋₆ アルキル-スルホニル基 (例、メチルスルホニルなど) であり、R³⁵ が水素原子またはメチルなどであるものが好ましい。

【0077】R²⁸ としては、水素原子または式-OR³⁰ (R

³⁰ は、水素原子、置換基を有していてもよい炭化水素基、アシル基または複素環基を示す) が好ましい。なかでも、 R^{28} としては、水素原子、ヒドロキシ基 (R^{30} が水素原子であるもの)、置換基を有していてもよい C_{1-6} アルコキシ (R^{30} が C_{1-6} アルキルであるもの) またはアシルオキシ (R^{30} がアシルであるもの) が好ましい。特に、水素原子、ヒドロキシ基 (R^{30} が水素原子であるもの)、ピリジルで置換されていてもよい C_{1-6} アルコキシ (R^{30} がピリジルで置換されていてもよい C_{1-6} アルキルであるもの) またはハロゲン原子で置換された C_{1-6} アルキルスルホニルオキシ (R^{30} がハロゲン原子で置換された C_{1-6} アルキルスルホニルであるもの) が好ましい。

【0078】 R^{29} で示される「置換基を有していてもよい炭化水素基」としては、 a' 環の置換基として例示した「置換基を有していてもよい炭化水素基」と同様のものが用いられる。 R^{29} で示される炭化水素基としては、 C_{1-6} アルキル基 (例、メチル、エチル、プロピル、イソプロピルなど)、 C_{2-6} アルケニル基 (例、2-メチル-2-プロペニルなど) が好ましく、特にメチル、イソプロピルなどの C_{1-3} アルキル基が好ましい。該炭化水素基の置換基としては、(1)ハロゲン原子 (例えば、フッ素、塩素、臭素、ヨウ素)、(2)シアノ基、(3)低級アルコキシ基 (例、メトキシ、エトキシなどの C_{1-6} アルコキシ)、(4)ヒドロキシ基、(5)アミノ基、(6)モノ-低級アルキルアミノ基 (例、メチルアミノ、エチルアミノなどのモノ- C_{1-6} アルキルアミノ基など)、(7)ジ-低級アルキルアミノ基 (例、ジメチルアミノ、ジエチルアミノなどのジ- C_{1-6} アルキルアミノ基など)、(8)オキソを有していてもよい炭素原子以外に、窒素原子、酸素原子および硫黄原子から選ばれたヘテロ原子を1個ないし3個含む4ないし10員複素環 (例、ピペリジノ、2-イソインドリルなど)、(9) C_{6-14} アリールチオ (例、フェニルチオなど)、(10)ウレイド、(11)カルボキシ、(12)カルバモイル、(13) C_{1-6} アルコキシ-カルボニル (例、メトキシカルボニル、エトキシカルボニルなど)、(14)モノ- C_{1-6} アルキル-カルバモイル (例、メチルカルバモイル、エチルカルバモイルなど)、(15)ホルミルアミノ、(16) C_{1-6} アルキル-カルボキサミド (例、アセトアミド、プロピオンアミドなど) などが好ましい。 R^{29} で示される「アシル基」としては、 a' 環の置換基として例示した「アシル基」と同様のものが用いられ、具体的には、(1)ホルミル、(2) C_{1-6} アルキル-カルボニル基 (例、アセチル、プロピオニルなど)、(3) C_{6-14} アリール-カルボニル基 (例、ベンゾイルなど)、(4) C_{7-16} アラルキル-カルボニル基 (例、フェニルアセチルなど)、(5) C_{1-6} アルコキシ-カルボニル基 (例、メトキシカルボニル、エトキシカルボニルなど)、(6)カルバモイル基、(7)モノ-またはジ- C_{1-6} アルキル-カルバモイル基 (例、メチルカルバモイル、ジメチルカルバモイルなど)、(8)モノ-またはジ- C_{1-6} アルキル-チオカルバモイル基 (例、メチ

ルチオカルバモイル、ジメチルチオカルバモイルなど)、(9) C_{1-6} アルキル-スルホニル基 (例、メチルスルホニルなど)、(10) C_{1-6} アルキル-スルフィニル基 (例、メチルスルフィニルなど) などが用いられ、なかでもホルミルが好ましい。

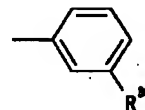
【0079】 R^{29} で示される「置換基を有していてもよいヒドロキシ基」としては、例えば、式-OR²⁹、(R^{29} は水素原子、置換基を有していてもよい炭化水素基またはアシル基を示す) で表される基などが用いられる。 R^{29} で示される置換基を有していてもよい炭化水素基としては、 a' 環の置換基として例示した「置換基を有していてもよい炭化水素基」と同様のものが用いられ、なかでも C_{1-6} アルキルなどが好ましい。 R^{29} で示されるアシル基としては、 R^{30} で示される「アシル基」と同様のものが用いられ、なかでも C_{1-6} アルキル-カルボニルなどが好ましい。 R^{29} としては、特に水素原子、シアノ基、シアノで置換されていてもよい C_{1-6} アルキル基、ホルミルなどが好ましく、特に水素原子が好ましい。

【0080】 X' は置換基を有していてもよいメチレン基を示す。メチレン基の置換基としては、上記置換基A群から選ばれる基などが用いられ、なかでも1または2個の C_{1-6} アルキル基 (例、メチル、エチルなど)、ヒドロキシ基、オキソ基などが好ましい。 X' としては、(1)1または2個の C_{1-6} アルキル基 (例、メチル、エチルなど) またはヒドロキシ基を有していてもよいメチレン基または(2)カルボニル基が好ましく、なかでも1または2個のメチルを有していてもよいメチレン基が好ましく、特にメチレン基が好ましい。 n' は0または1を示し、なかでも0が好ましい。

【0081】本発明のエントリー阻害剤としては、例えば次のような化合物またはその塩を含有してなるものが好ましい。

[化合物 (Ia') -I] R^{21} が式

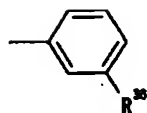
【化56】



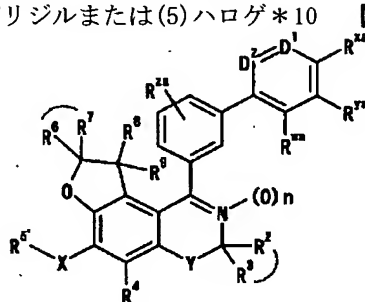
[式中、 R^{36} は水素原子、置換基を有していてもよい C_{6-14} アリール基、置換基を有していてもよいアミノ基、置換基を有していてもよい複素環基またはハロゲン原子を示す] で表される基を、 R^{22} および R^{23} がそれぞれ置換基を有していてもよい C_{1-6} アルキル基を、 R^{24} および R^{25} が水素原子を、 R^{26} および R^{27} がそれぞれ置換基を有していてもよい C_{1-6} アルキル基を、 R^{28} が水素原子または式-OR³⁰ (R^{30} は、水素原子、置換基を有していてもよい炭化水素基、アシル基または複素環基を示す) を、 R^{29} が水素原子を、 X' がメチレン基を示し、 n' が0である化合物 (Ia') またはその塩。

【0082】[化合物 (Ia') -II] R^{21} が式

【化57】



〔式中、 R^{36} は(1)水素原子、(2)アセチルアミノ基で置換されたフェニル、(3) (i) C_{1-6} アルキルスルホニル基、(ii) ピリジルカルボニルまたは(iii) スルファモイル- C_{1-6} アルキル基から選ばれる置換基でモノまたはジ置換されているもよいアミノ、(4)ピリジルまたは(5)ハロゲン*10



(I'-A)

〔式中、 D^1 および D^2 は、ともにメチンまたは一方がメチン、他方が窒素原子を、 R^2 および R^3 はそれぞれ水素原子、置換基を有しているもよい炭化水素基またはアシル基を示し、 R^2 と R^3 は隣接する炭素原子と共に置換基を有しているもよい3ないし8員環を形成してもよく、 R^4 は水素原子、シアノ基、置換基を有しているもよい炭化水素基、アシル基または置換基を有しているもよいヒドロキシ基を、 R^5 は置換基を有しているもよい C_{1-3} アルキル基、置換基を有しているもよい C_{6-14} アリール基、置換基を有しているもよい複素環基またはハロゲン原子を、 R^6 および R^7 はそれぞれ水素原子または置換基を有しているもよい炭化水素基を示し、 R^6 と R^7 は隣接する炭素原子と共に置換基を有しているもよい3ないし8員環を形成してもよく、 R^8 および R^9 はそれぞれ水素原子または置換基を有しているもよい炭化水素基を、 X は結合手、酸素原子、酸化されていてもよい硫黄原子または置換基を有しているもよい窒素原子を、 Y は置換基を有しているもよいメチレン基を、 R^{10} は水素原子または C_{1-6} アルキルでエステル化されていてもよいカルボキシ基を、 R^{11} は(1)アミノ基、(2)式- $NHCOR^{12}$ (R^{12} は鎖状 C_{1-6} アルキル基または C_{7-16} アラルキル基を示す)、(3)ヒドロキシ基、(4) (1') カルボキシ、(2') C_{1-6} アルコキシカルボニルまたは(3') モノ C_{1-6} アルキルカルバモイルで置換されているもよい C_{1-6} アルコキシまたは(5)モノ C_{1-6} アルキルカルバモイル基を、 R^{13} は水素原子またはハロゲン原子を、 R^{14} は(1)水素原子、(2)ヒドロキシ基、(3)アミノ基、(4) C_{1-6} アルコキシカルボニルまたはカルボキシで置換されているもよい C_{1-6} アルコキシ基、(5)シアノ基、(6)カルボキシ基、(7) C_{1-6} アルコキシカルボニル基または(8)カルバモイル基を、 n は0または1を示す(但し、3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メ

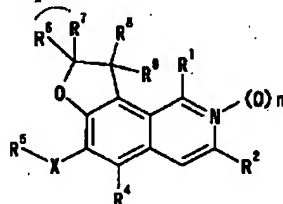
*ン原子を示す〕で表される基を、 R^{22} および R^{23} がそれぞれ C_{1-6} アルキル基を、 R^{24} および R^{25} が水素原子を、 R^{26} および R^{27} がそれぞれ C_{1-6} アルキル基を、 R^{28} が水素原子または式- OR^{30} (R^{30} は、(1)水素原子、(2)ピリジルで置換されているもよい C_{1-6} アルキル基または(3)ハロゲン原子で置換された C_{1-6} アルキルスルホニルを示す) を、 R^{29} が水素原子を、 X' がメチレン基を示し、 n' が0である化合物(Ia')。

【0083】また、化合物(I')のうち、式

【化58】

キシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-アミン、N-[3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-イル]アセトアミド、N-[3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-イル]プロパンアミド、N-メチル-3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-カルボキサミド、3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-4,4,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-アミンおよびN-[3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-4,4,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-イル]アセトアミドを除く)〕で表される化合物(以下、化合物(I'-A)と略記する)、および化合物(I''')のうち、式

【化59】



(I''-A)

〔式中、 R^1 は(1)水素原子、(2)置換基を有しているもよい炭化水素基、(3)置換基を有しているもよい複素環基または(4)置換基を有しているもよいアミノ基を、 R^2 は(1)水素原子、(2)置換基を有しているもよい炭化水素基または(3)アシル基を、 R^4 は(1)水素原子、(2)シアノ基、(3)置換基を有しているもよい炭化水素基、(4)アシル基または(5)置換基を有しているもよいヒドロキシ基

を、 R^6 は(1)水素原子、(2)置換基を有していてもよい炭化水素基、(3)アシル基、(4)置換基を有していてもよい複素環基または(5)ハロゲン原子を、 R^6 および R^7 はそれぞれ水素原子または置換基を有していてもよい炭化水素基を示し、 R^6 と R^7 は隣接する炭素原子と共に置換基を有していてもよい3ないし8員環を形成してもよく、 R^8 および R^9 はそれぞれ水素原子または置換基を有していてもよい炭化水素基を、Xは(1)結合手、(2)酸素原子、(3)酸化されていてもよい硫黄原子または(4)置換基を有していてもよい窒素原子を、nは0または1を示す]で表される化合物(以下、化合物(I' -A)と略記する)は新規化合物である。

【0084】前記式中、 $R^{5'}$ で示される「置換基を有していてもよい C_{1-3} アルキル基」としては、前記の置換基A群から選ばれる1ないし5個有していてもよい C_{1-3} アルキル基(例、メチル、エチル、プロピル、イソプロピル)が挙げられる。前記式中、 $R^{5'}$ で示される「置換基を有していてもよい C_{6-14} アリール基」としては、前記の置換基A群から選ばれる1ないし5個有していてもよい C_{6-14} アリール基(例、フェニル、ナフチル)が挙げられる。前記式中、 $R^{5'}$ で示される「置換基を有していてもよい複素環基」としては、前記の R^5 で示される「置換基を有していてもよい複素環基」と同様のものが挙げられる。前記式中、 $R^{5'}$ で示される「ハロゲン原子」としては、フッ素、塩素、臭素、ヨウ素が挙げられる。

【0085】前記式中 R^{2a} で表される「 C_{1-6} アルキルでエステル化されていてもよいカルボキシ基」としては、カルボキシル、 C_{1-6} アルコキシカルボニル(例、メトキシカルボニル、エトキシカルボニル、プロポキシカルボニル、イソプロポキシカルボニル、ブトキシカルボニル、sec-ブトキシカルボニル、tert-ブトキシカルボニル、ペンチルオキシカルボニル、ヘキシルオキシカルボニル等)が挙げられる。

【0086】式-NHCOR^{2a} (R^{2a} は鎖状 C_{1-6} アルキル基または C_{7-16} アラルキル基)で表される基の R^{2a} で示される「鎖状 C_{1-6} アルキル基」としては、例えばメチル、エチル、プロピル、ブチル、ペンチル、ヘキシルが挙げられ、「 C_{7-16} アラルキル基」としては、例えばベンジル、フェネチル、ナフチルメチル、ナフチルエチル等が挙げられる。

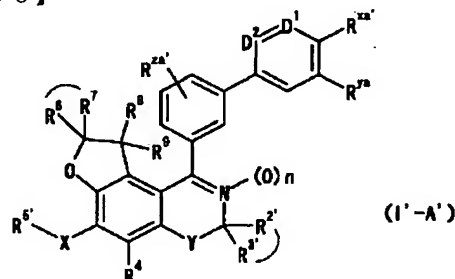
【0087】前記式中 R^{2a} で表される「(1')カルボキシ、(2') C_{1-6} アルコキシカルボニルまたは(3')モノ C_{1-6} アルキルカルバモイルで置換されていてもよい C_{1-6} アルコキシ」としては、例えば、カルボキシ、メトキシカルボニル、エトキシカルボニル、プロポキシカルボニル、イソプロポキシカルボニル、ブトキシカルボニル、ペンチルオキシカルボニル、ヘキシルオキシカルボニル、メチルカルバモイル、エチルカルバモイル、プロピルカルバモイル、イソプロピルカルバモイル、ブチルカルバモイル、sec-ブチルカルバモイル、tert-ブチルカル

ルバモイル、ペンチルカルバモイルおよびヘキシルカルバモイルから選ばれる置換基を有していてもよい C_{1-6} アルコキシ基(例えば、メトキシ、エトキシ、プロポキシ、イソプロポキシ、ブトキシ、sec-ブトキシ、tert-ブトキシ、ペンチルオキシ、ヘキシルオキシなど)が挙げられる。

【0088】前記式中 R^{2a} で表される「ハロゲン原子」としては、フッ素、塩素、臭素、ヨウ素が挙げられる。

【0089】前記式中 R^{2a} で表される「 C_{1-6} アルコキシカルボニルまたはカルボキシで置換されていてもよい C_{1-6} アルコキシ基」としては、例えば、カルボキシ、メトキシカルボニル、エトキシカルボニル、プロポキシカルボニル、イソプロポキシカルボニル、ブトキシカルボニル、ペンチルオキシカルボニルおよびヘキシルオキシカルボニルから選ばれる置換基を有していてもよい C_{1-6} アルコキシ基(例えば、メトキシ、エトキシ、プロポキシ、イソプロポキシ、ブトキシ、sec-ブトキシ、tert-ブトキシ、ペンチルオキシ、ヘキシルオキシなど)が挙げられる。前記式中 R^{2a} で表される「 C_{1-6} アルコキシカルボニル基」としては、例えば、メトキシカルボニル、エトキシカルボニル、プロポキシカルボニル、イソプロポキシカルボニル、ブトキシカルボニル、ペンチルオキシカルボニルおよびヘキシルオキシカルボニル等が挙げられる。

【0090】化合物(I' -A)のなかでも式【化60】



【式中、 D^1 および D^2 は、ともにメチンまたは一方がメチン、他方が窒素原子を、 R^2 および R^3 はそれぞれ置換基を有していてもよい炭化水素基またはアシル基を示し、 R^2 と R^3 は隣接する炭素原子と共に置換基を有していてもよい3ないし8員環を形成してもよく、 R^4 は水素原子、シアノ基、置換基を有していてもよい炭化水素基、アシル基または置換基を有していてもよいヒドロキシ基を、 R^5 は置換基を有していてもよい C_{1-3} アルキル基、置換基を有していてもよい C_{6-14} アリール基、置換基を有していてもよい複素環基またはハロゲン原子を、 R^6 および R^7 はそれぞれ水素原子または置換基を有していてもよい炭化水素基を示し、 R^6 と R^7 は隣接する炭素原子と共に置換基を有していてもよい3ないし8員環を形成してもよく、 R^8 および R^9 はそれぞれ水素原子または置換基を有していてもよい炭化水素基を、Xは結合手、酸素原子、酸化されていてもよい硫黄原子または置換基を有

していてもよい窒素原子を、Yは置換基を有していてもよいメチレン基を、 R^{3a} はアミノ基または式-NHCOR^{3a}

(R^{3a} は鎖状C₁₋₆ アルキル基またはC₇₋₁₆ アラルキル基を示す) を、 R^{3b} は水素原子またはハロゲン原子を、 R^{3c} は水素原子、ヒドロキシ基、アミノ基、C₁₋₆ アルコキシカルボニルまたはカルボキシで置換されていてもよいC₁₋₆ アルコキシ基を、nは0または1を示す

(但し、3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-アミン、N-[3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-イル]アセトアミドおよびN-[3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-イル]プロパンアミドを除く)]で表される化合物(以下、化合物(I'-A'))と略記する)が好ましく用いられる。

【0091】また、化合物(I'-A)の具体例としては、化合物(I'-A)において、D¹およびD²がともにメチン、R²およびR³はそれぞれ水素原子またはC₁₋₆ アルキル基、R⁴が(1)水素原子、(2)シアノ、(3)カルボキシまたは(4)C₁₋₆ アルコキシカルボニルで置換されていてもよいC₁₋₆ アルキル基、R⁵が(1)C₁₋₃ アルキル基または(2)C₆₋₁₄ アリール、R⁶およびR⁷がそれぞれ水素原子またはC₁₋₆ アルキル基、R⁸およびR⁹がそれぞれ水素原子、Xが結合手、酸素原子または硫黄原子、Yがメチレン基、-C(CH₃)₂-, -CH(OCH₃)-, -CH(OH)-またはカルボニル基、R¹⁰が水素原子またはC₁₋₆ アルキルでエステル化されていてもよいカルボキシ基、R¹¹が(1)アミノ基、(2)式-NHCOR¹¹

(R^{11} は鎖状C₁₋₆ アルキル基またはC₇₋₁₆ アラルキル基を示す)、(3)ヒドロキシ基、(4)(1')カルボキシ、(2')C₁₋₆ アルコキシカルボニルまたは(3')モノC₁₋₆ アルキルカルバモイルで置換されていてもよいC₁₋₆ アルコキシまたは(5)モノC₁₋₆ アルキルカルバモイル基、R¹²が水素原子またはハロゲン原子、R¹³が(1)水素原子、(2)ヒドロキシ基、(3)アミノ基、(4)C₁₋₆ アルコキシカルボニルまたはカルボキシで置換されていてもよいC₁₋₆ アルコキシ基、(5)シアノ基、(6)カルボキシ基、(7)C₁₋₆ アルコキシカルボニル基または(8)カルバモイル基、nは0または1であるものが挙げられる。より具体的には、後述の実施例9~23、50~70および72~74記載の化合物が挙げられる。

【0092】化合物(I''-A)の具体例としては、化合物(I''-A)において、R¹が(1)ハロゲン、(2)アミノ、(3)C₁₋₆ アシルアミノ、(4)(1')アミノまたは(2')C₁₋₆ アシルアミノで置換されていてもよいフェニルおよび(5)ジC₁₋₆ アルキルホスホノ-C₁₋₆ アルキルで置換されていてもよいベンズアミドから選ばれる置換基を有していてもよいフェニル基、R²が、(1)水素原子、(2)(1')ヒドロキシ基、(2')ハロゲン原子、(3')アミノ、

(4')C₁₋₆ アルコキシカルボニルアミノ、(5')ジ-C₁₋₆ アルキルアミノおよび(6')フタルイミドから選ばれる置換基を有していてもよいC₁₋₆ アルキル、(3)カルボキシ、(4)C₁₋₆ アルコキシカルボニル、(5)カルバモイル、(6)ジ-C₁₋₆ アルキルカルバモイルまたは(7)ピリジルカルバモイル、R⁴が水素原子、R⁵がC₁₋₆ アルキル、R⁶およびR⁷がC₁₋₆ アルキル、R⁸およびR⁹が水素原子、Xが酸素原子、nが0であるものが挙げられる。より具体的には、後述の実施例24~49および71記載の化合物が挙げられる。

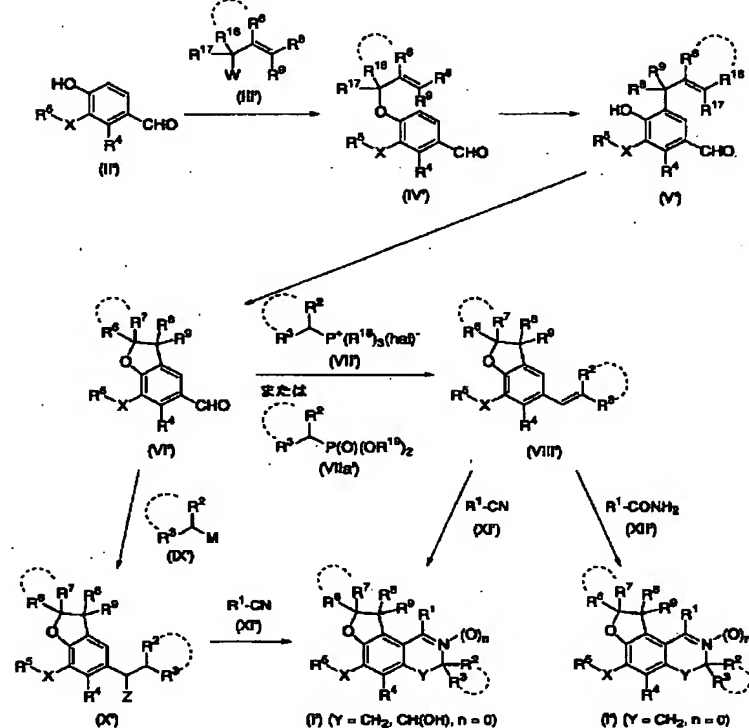
【0093】本発明の化合物(I)、(I')、(I'')、(Ia)および(Ia')の製造法について以下に述べる。なお、化合物(I-a)、(I-b)、(I-c)、(I-d)、(I-e)、(I-f)、(I-g)および(I-h)は化合物(I)に含まれる化合物であり、化合物(I-a')は化合物(I')に含まれる化合物であり、化合物(I-a'')は化合物(I'')に含まれる化合物であり、化合物(Ia-a)は化合物(Ia)に含まれる化合物である。本発明の化合物(I)および(I')は、例えば以下の反応式1~18で示される方法またはこれに準じた方法等により得られ、本発明の化合物(I'')は、例えば以下の反応式19~24で示される方法またはこれに準じた方法等により得られ、また本発明の化合物(Ia)および(Ia')は、例えば以下の反応式25および26で示される方法またはこれに準じた方法等により得られる。なお、化合物(A)も下記の製造法に準じて製造することができる。以下の反応式における略図中の化合物の各記号は特に記載のないかぎり前記と同意義を示す。反応式中の化合物(I I')~(LII')、(LIII)~(LXII)、(LXIII')~(LXIX')、(LXX)、(LXXI)、(LXXII')~(LXXX')、(LXXXI)~(LXXXV)、(IIa)~(VIa)および(VIIa')~(XIIa')は塩を形成している場合も含み、該塩としては、例えば化合物(I)、(I')、(I'')、(Ia)および(Ia')の塩と同様のもの等が挙げられる。化合物(II')、(III')、(VI')、(VI-b')、(VII')、(VII-a')、(IX')、(XI')、(XII')、(XIII')、(XVIII')、(XVIII-a')、(XIX')、(XXI')、(XXVII')、(XXIX')、(XXXI')、(XXXIII')、(XXXIII-a')、(XXXVII')、(XXXVII I')、(XL')、(XLI')、(XLVII')、(L')、(L I')、(LIII)、(LVI)、(LVIII)、(LXIII')、(LXV')、(LXVII')、(LXXII')、(LXXIV')、(LXX VI')、(XXVII-a')、(LXXX')、(IIa)、(IIIa)、(IVa)、(VIa)、(VIIa')、(VIIIa')、(XIa')および(XIIa')は市販されているものを容易に入手でき、また、自体公知の方法またはこれらに準じた方法に従って製造することもできる。以下の反応で用いられる、総称で示される溶媒としては、特に記載がないかぎり、アルコール類としてメタノール、エタノール、1-プロパノール、2-プロパノール、tert-ブチルアルコールなど、エーテル類としてジエチルエーテル、ジイソプロピルエーテル、ジフェニルエーテル、テトラヒドロフラ

ン、1,4-ジオキサン、1,2-ジメトキシエタンなど、炭化水素類としてベンゼン、トルエン、シクロヘキサン、ヘキサンなど、アミド類としてN,N-ジメチルホルムアミド、N,N-ジメチルアセトアミド、ヘキサメチルホスホリクトリアミドなど、ハロゲン化炭化水素類としてジクロロメタン、クロロホルム、四塩化炭素、1,2-ジクロロエタンなど、ニトリル類としてアセトニトリル、プロピオニトリルなど、ケトン類としてアセトン、エチルメチルケトンなど、有機酸類としてギ酸、酢酸、プロピオン酸、トリフルオロ酢酸、メタンスルホン酸など、芳香族アミン類として、ピリジン、2,6-ルチジン、キノリンなど、スルホキシド類としてジメチルスルホキシドなどを示す。以下の反応で用いられる、総称で示される塩基としては、特に記載がないかぎり、無機塩基類として水酸化ナトリウム、水酸化カリウム、水酸化リチウム、水酸化バリウムなど、塩基性塩類として炭酸ナトリウム、炭酸カリウム、炭酸セシウム、炭酸水素ナトリウム、酢酸ナトリウム、酢酸アンモニウムなど、芳香族アミン類としてピリジン、ルチジンなど、第3級アミン類としてト *

* リエチルアミン、トリプロピルアミン、トリブチルアミン、N-エチルジイソプロピルアミン、シクロヘキシルジメチルアミン、4-ジメチルアミノピリジン、N,N-ジメチルアニリン、N-メチルピペリジン、N-メチルピロリジン、N-メチルモルホリンなど、アルカリ金属水素化物類として水素化ナトリウム、水素化カリウムなど、金属アミド類としてナトリウムアミド、リチウムジイソプロピルアミド、リチウムヘキサメチルジシラジドなど、アルキル金属類としてブチルリチウム、tert-ブチルリチウムなど、アリール金属類としてフェニルリチウムなど、金属アルコキシド類としてナトリウムメトキシド、ナトリウムエトキシド、ナトリウム tert-ブトキシド、カリウム tert-ブトキシドなどを示す。生成物は反応液のまま、あるいは粗製物として次反応に用いることもできるが、常法に従って反応混合物から単離することもでき、通常分離手段（例、再結晶、蒸留、クロマトグラフィー等）により容易に精製することもできる。

【0094】反応式1

【化61】



【0095】化合物(IV')は、化合物(II')と化合物(II I')〔式中、R¹⁶ およびR¹⁷ は、R⁷の一部を形成する、置換基を有していてもよい炭化水素基で、R⁷と同様のものが挙げられ、R¹⁶がR⁶との間で同素環を形成する場合は、「3ないし8員同素環」が有していてもよい置換基と同様の置換基を有していてもよく、Wは脱離基を示す〕とを所望により塩基の存在下で反応させることにより製造される。該「脱離基」としては、例えばヒドロキシ、ハロゲン原子（例えば、フッ素、塩素、臭素、ヨウ 50

素等）、ハロゲン化されていてもよいC₁₋₆ アルキルスルホニルオキシ（例えば、メタンスルホニルオキシ、エタンスルホニルオキシ、トリクロロメタンスルホニルオキシ等）、置換基を有していてもよいC₆₋₁₀ アリールスルホニルオキシ等が挙げられる。「置換基を有していてもよいC₆₋₁₀ アリールスルホニルオキシ」としては、例えばC₁₋₆ アルキル（例、メチル、エチル等）、C₁₋₆ アルコキシ（例、メトキシ、エトキシ等）およびニトロから選ばれた置換基を1ないし3個有していてもよいC₆₋₁₀ ア

リールスルホニルオキシ（例、フェニルスルホニルオキシ、ナフチルスルホニルオキシ等）等が挙げられ、具体例としては、フェニルスルホニルオキシ、*m*-ニトロフェニルスルホニルオキシ、*p*-トルエンスルホニルオキシ等が挙げられる。化合物(III')の使用量は、化合物(II')1モルに対し約1ないし約5モル、好ましくは約1ないし約2モルである。該「塩基」としては、例えば無機塩基類、塩基性塩類、芳香族アミン類、第3級アミン類、金属水素化物類、金属アミド類、金属アルコキシド類等が挙げられる。塩基の使用量は、化合物(II')1モルに対し約1ないし約5モル、好ましくは約1ないし約2モルである。本反応は反応に不活性な溶媒を用いて行うのが有利である。このような溶媒としては反応が進行する限り特に限定されないが、例えばアルコール類、エーテル類、炭化水素類、アミド類、ハロゲン化炭化水素類、ニトリル類、ケトン類、スルホキシド類等の溶媒またはこれらの混合溶媒等が好ましい。反応時間は通常約30分ないし約48時間、好ましくは約1時間ないし約24時間である。反応温度は通常約-20ないし約150℃、好ましくは約0ないし約100℃である。前記反応に代え、光延反応（シンセシス（Synthesis）、1981年、1～27頁）を用いることもできる。該反応は、化合物(II')と化合物(III')中、WがOHである化合物とを、アゾジカルボキシラート類（例、ジエチルアゾジカルボキシラート等）およびホスフィン類（例、トリフェニルホスフィン、トリブチルホスフィン等）の存在下反応させる。化合物(III')中、WがOHである化合物の使用量は、化合物(II')1モルに対し、約1ないし約5モル、好ましくは約1ないし約2モルである。該「アゾジカルボキシラート類」および「ホスフィン類」の使用量は、それぞれ化合物(II')1モルに対し、約1ないし約5モル、好ましくは約1ないし約2モルである。本反応は反応に不活性な溶媒を用いて行うのが有利である。このような溶媒としては反応が進行する限り特に限定されないが、例えばエーテル類、炭化水素類、アミド類、ハロゲン化炭化水素類、ニトリル類、ケトン類、スルホキシド類等の溶媒またはこれらの混合溶媒等が好ましい。反応時間は通常約5分ないし約48時間、好ましくは約10分ないし約24時間である。反応温度は通常約-20ないし約200℃、好ましくは約0ないし約100℃である。

【0096】化合物(V')は、化合物(IV')をクライゼン転位させることにより製造される。本反応は、無溶媒で行うか、反応に不活性な溶媒を用いて行うのが有利である。このような溶媒としては、反応が進行する限り特に限定されないが、例えばアルコール類、炭化水素類、有機酸類、エーテル類、アニリン類（例、*N,N*-ジメチルアニリン、*N,N*-ジエチルアニリンなど）、フェノール類（例、2,6-ジメチルフェノールなど）、ハロゲン化炭化水素類またはこれらの混合溶媒などが用いられる。また、所望により酸触媒を用いて本反応を行ってもよい。酸触媒としては、塩化アルミニウム、三臭化ホウ素等の

ルイス酸類などが用いられる。酸触媒の使用量は、例えばルイス酸の場合、通常化合物(IV')1モルに対し約0.1ないし約20モル、好ましくは約0.1ないし約5モルである。反応時間は通常約30分ないし約24時間、好ましくは約1ないし約6時間である。反応温度は通常約-70ないし約300℃、好ましくは約150ないし約250℃である。化合物(VI')は化合物(V')をプロトン酸、ルイス酸またはヨウ素存在下、閉環することにより製造することができる。プロトン酸としては、例えば塩酸、臭化水素酸、硫酸等の鉱酸類やメタンスルホン酸、トリフルオロメタンスルホン酸、フルオロスルホン酸等のスルホン酸類が用いられる。ルイス酸類としては、例えば塩化アルミニウム、臭化アルミニウム、塩化チタン(IV)、塩化すず(IV)、塩化亜鉛、三塩化ホウ素、三臭化ホウ素、三フッ化ホウ素等が用いられる。通常、プロトン酸あるいはルイス酸はそれぞれ単独で用いられるが、所望により両者を組み合わせてもよい。プロトン酸を用いる場合は、化合物(V')1モルに対し約1ないし約200モル、好ましくは約1ないし約100モル用いる。ルイス酸を用いる場合は、化合物(V')1モルに対し約1ないし約5モル、好ましくは約1ないし約3モル用いる。ヨウ素を用いる場合は化合物(V')1モルに対し約0.05ないし約1モル、好ましくは約0.1ないし約0.5モル用いる。本反応は反応に不活性な溶媒を用いて行うのが有利である。このような溶媒として反応が進行する限り特に限定されないが、例えばエーテル類、炭化水素類、アミド類、ハロゲン化炭化水素類、ニトリル類、ケトン類、スルホキシド類等の溶媒またはこれらの混合溶媒等が好ましい。反応温度は通常約-20ないし約150℃、好ましくは約0ないし約120℃である。反応時間は通常約5分ないし約24時間、好ましくは約10分ないし約5時間である。

【0097】化合物(VIII')は、化合物(VI')と化合物(VII')〔式中、R¹⁸は炭化水素基、halはハロゲンを示す〕とを所望により塩基の存在下で反応させることにより製造される。該「炭化水素基」としては、例えば、鎖状または環状炭化水素基（例、C₁₋₆ アルキル（例えば、メチル、エチル、プロピル、イソプロピル、ブチル、イソブチル、*sec*-ブチル、*tert*-ブチル、ペンチル、ヘキシルなど）、C₃₋₆ シクロアルキル（例えば、シクロプロピル、シクロブチル、シクロペンチル、シクロヘキシルなど）、C₆₋₁₄ アリール（例えば、フェニル、1-ナフチル、2-ナフチル、ピフェニル、2-アンスリルなど）など）などが挙げられる。化合物(VII')の使用量は、化合物(VI')1モルに対し約1ないし約5モル、好ましくは約1ないし約2モルである。該「塩基」としては、例えば無機塩基類、塩基性塩類、芳香族アミン類、第3級アミン類、アルカリ金属水素化物類、アルキル金属類、アリール金属類、金属アミド類、金属アルコキシド類等が挙げられる。塩基の使用量は、化合物(VI')1モルに対し約1ないし約5モル、好ましくは約1ないし約2モルである。

本反応は反応に不活性な溶媒を用いて行うのが有利である。このような溶媒としては反応が進行する限り特に限定されないが、例えばアルコール類、エーテル類、炭化水素類、アミド類、ハロゲン化炭化水素類、ニトリル類、スルホキシド類、水などの溶媒またはこれらの混合溶媒などが好ましい。反応時間は通常約30分ないし約48時間、好ましくは約1時間ないし約24時間である。反応温度は通常約-100ないし約200℃、好ましくは約-80ないし約150℃である。

【0098】化合物(VIII')は、化合物(VI')と化合物(V II-a')〔式中、R¹⁹は置換基を有していてもよい炭化水素基を示す〕とを所望により塩基の存在下で反応させることによっても製造される。該「炭化水素基」としては、例えば、鎖状または環状炭化水素基（例、C₁₋₆ アルキル（例えば、メチル、エチル、プロピル、イソプロピル、ブチル、イソブチル、sec-ブチル、tert-ブチル、ペンチル、ヘキシルなど）、C₃₋₆ シクロアルキル（例えば、シクロプロピル、シクロブチル、シクロペンチル、シクロヘキシルなど）、C₆₋₁₄ アリール（例えば、フェニル、1-ナフチル、2-ナフチル、ピフェニル、2-アン

スリルなど）、C₇₋₁₆ アラルキル（例えば、ベンジル、1-ナフチルメチルなど））などが挙げられる。該「置換基を有していてもよい炭化水素基」の「置換基」としては、例えばハロゲン原子（例、フッ素、塩素、臭素、ヨウ素など）、ハロゲン化されていてもよいC₁₋₆ アルキルなどが挙げられる。化合物(VII-a')の使用量は、化合物(VI')1モルに対し約1ないし約3モル、好ましくは約1ないし約1.5モルである。該「塩基」としては、例えば無機塩基類、塩基性塩類、芳香族アミン類、第3級アミン類、金属水素化物類、アルキル金属類、アリール金属類、金属アミド類、金属アルコキシド類等が挙げられる。塩基の使用量は、化合物(VI')1モルに対し約1ないし約5モル、好ましくは約1ないし約2モルである。本反応は反応に不活性な溶媒を用いて行うのが有利である。このような溶媒としては反応が進行する限り特に限定されないが、例えばアルコール類、エーテル類、炭化水素類、アミド類、ハロゲン化炭化水素類、ニトリル類、スルホキシド類、水などの溶媒またはこれらの混合溶媒などが好ましい。反応時間は通常約30分ないし約48時間、好ましくは約1時間ないし約24時間である。反応温度は通常約-100ないし約200℃、好ましくは約-80ないし約150℃である。

【0099】化合物(X')〔式中、Zは置換基を有していてもよいヒドロキシ基あるいはハロゲンを示す〕は、化合物(VI')と化合物(IX')〔式中、Mは金属を示す。ただし、Mが多価の場合は塩を含む〕とを反応させ、所望によりアシル化あるいはハロゲン化を行うことにより製造される。該「置換基を有していてもよいヒドロキシ基」で示されるZとしては例えばヒドロキシ、ハロゲン化されていてもよいC₁₋₆ アルキルカルボニルオキシ（例、ア

セチルオキシ、トリフルオロアセチルオキシ、プロピオニルオキシ等）、ハロゲン化されていてもよいC₁₋₆ アルキルスルホニルオキシ（例、メタンスルホニルオキシ、トリフルオロメタンスルホニルオキシ、エタンスルホニルオキシ等）、置換基を有していてもよいC₆₋₁₀ アリールスルホニルオキシ等が挙げられる。「置換基を有していてもよいC₆₋₁₀ アリールスルホニルオキシ」としては、例えばハロゲン、C₁₋₆ アルキル、C₁₋₆ アルコキシおよびニトロから選ばれる置換基を1ないし3個有していてもよいC₆₋₁₀ アリールスルホニルオキシ（例、フェニルスルホニルオキシ、ナフチルスルホニルオキシ等）等が挙げられ、具体例としては、フェニルスルホニルオキシ、p-クロロフェニルスルホニルオキシ、m-ニトロフェニルスルホニルオキシ、p-トルエンスルホニルオキシ等が挙げられる。該「金属」としては、マグネシウムハライド（例、マグネシウムブロミド、マグネシウムクロリドなど）、リチウムなどが挙げられる。化合物(IX')の使用量は、化合物(VI')1モルに対し約1ないし約3モル、好ましくは約1ないし約1.5モルである。本反応は所望により添加剤を用いてもよい。該「添加剤」としては、塩化セリウム(III)、ヨウ化銅(I)などが挙げられる。添加剤の使用量は、化合物(VI')1モルに対し約0.1ないし約5モル、好ましくは約0.1ないし約2モルである。本反応は反応に不活性な溶媒を用いて行うのが有利である。このような溶媒としては反応が進行する限り特に限定されないが、例えばエーテル類、炭化水素類などの溶媒またはこれらの混合溶媒などが好ましい。反応時間は通常約10分ないし約48時間、好ましくは約30分ないし約24時間である。反応温度は通常約-100ないし約150℃、好ましくは約-80ないし約100℃である。

【0100】得られたアルコール体は必要に応じ、アシル化反応に付す。化合物(X')（式中、Zはヒドロキシ基を示す）とアシル化剤とを、所望により塩基または酸の存在下反応させる。該「アシル化剤」としては、例えば、対応するカルボン酸またはその反応性誘導体（例えば、酸ハライド、酸無水物、エステル等）等が挙げられる。化合物(X')1モルに対しアシル化剤を約1ないし約5モル、好ましくは約1ないし約2モル用いる。本反応は無溶媒または反応に不活性な溶媒を用いて行うのが有利である。このような溶媒として反応が進行する限り特に限定されないが、例えばエーテル類、炭化水素類、アミド類、ハロゲン化炭化水素類、ニトリル類、ケトン類、スルホキシド類、芳香族アミン類、水等の溶媒またはそれらの混合溶媒等が好ましい。所望により用いられる塩基としては、例えば無機塩基類、塩基性塩類、芳香族アミン類、第3級アミン類等が挙げられる。所望により用いられる酸としては、例えばメタンスルホン酸、p-トルエンスルホン酸、カンファースルホン酸等が挙げられる。反応温度は約-20ないし約200℃、好ましくは約0ないし約150℃である。反応時間は通常約5分ないし約48時間、

好ましくは約10分ないし約24時間である。

【0101】また、得られたアルコール体は必要に応じ、ハロゲン化反応に付す。化合物(X') (式中、Zはヒドロキシ基を示す) とハロゲン化剤とを、所望により塩基の存在下反応させる。該「ハロゲン化剤」としては、例えば塩化チオニル、臭化チオニル等のハロゲン化チオニル類、塩化ホスホリル、臭化ホスホリル等のハロゲン化ホスホリル類、五塩化リン、三塩化リン、五臭化リン、三臭化リン等のハロゲン化リン類、オキサリクロリド等のオキサリルハライド類、ホスゲン等が挙げられる。化合物(X') 1モルに対してハロゲン化剤を約1ないし約30モル、好ましくは約1ないし約10モル用いる。該

「塩基」としては、第3級アミン類などが挙げられる。

本反応は無溶媒で行うか、反応に不活性な溶媒を用いて行うのが有利である。このような溶媒としては反応が進行する限り特に限定されないが、例えば炭化水素類、エーテル類、アミド類、ハロゲン化炭化水素類等の溶媒またはそれらの混合溶媒等が好ましい。反応時間は通常約10分ないし約12時間、好ましくは約10分ないし約5時間である。反応温度は通常約-10ないし約200℃、好ましくは約-10ないし約120℃である。化合物(I') [式中、YはC

H₂あるいはCH(OH)を、nは0を示す] は、化合物(VIII') と化合物(XI') とを酸あるいはハロゲン化試薬の存在下反応させることにより製造される。化合物(XI') の使用量は、化合物(VIII') 1モルに対し約0.5ないし約5モル、好ましくは約0.5ないし約2モルである。なお、化合物(XI') を溶媒として用いることもでき、その場合の使用量は、化合物(VIII') 1グラムに対し約0.5ないし約10ミリリットル、好ましくは約1ないし約5ミリリットルである。該「酸」としては、硫酸、塩化水素、臭化水素、ヨウ化水素、過塩素酸等の鉱酸、三フッ化ホウ素ジエチルエーテル錯体、塩化亜鉛、塩化アルミニウム等のルイス酸等が用いられる。酸の使用量は化合物(VIII') 1モルに対し約1ないし約5モル、好ましくは約1ないし約3モルである。該「ハロゲン化試薬」としては、臭素、塩素、ヨウ素等のハロゲン類、N-プロモスクシンイミド等のイミド類、ジクロロヨウ素酸ベンジルトリメチルアンモニウ

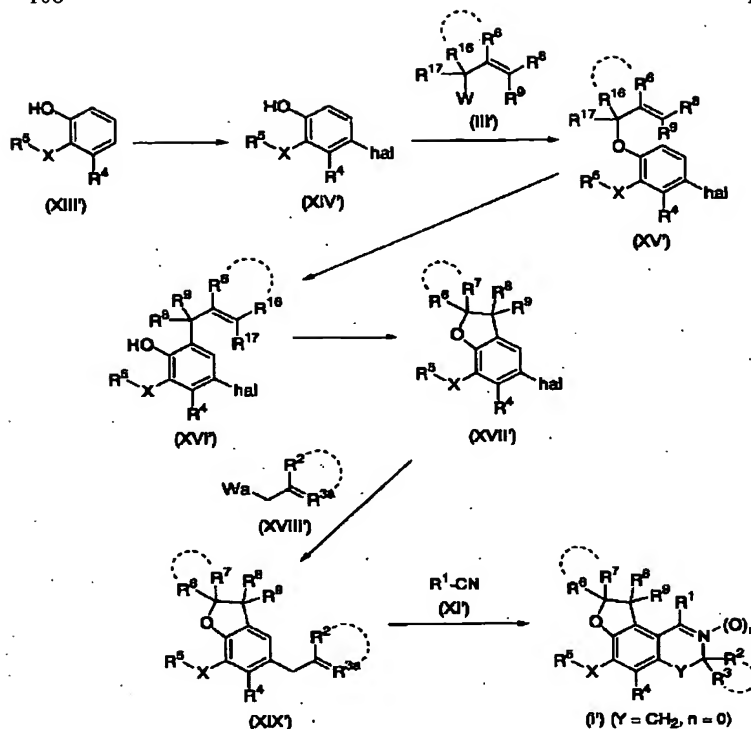
ム、三臭化ベンジルトリメチルアンモニウム等のハロゲン付加物類等が用いられる。ハロゲン化試薬の使用量は、化合物(VIII') 1モルに対し約1ないし約5モル、好ましくは約1ないし約2モルである。本反応は反応に不活性な溶媒を用いて行うのが有利である。このような溶媒としては反応が進行する限り特に限定されないが、例えば炭化水素類、有機酸類、ハロゲン化炭化水素類またはこれらの混合物等が好ましい。反応時間は通常約10分ないし約48時間、好ましくは約15分ないし約24時間である。反応温度は通常約-20ないし約150℃、好ましくは約0ないし約100℃である。

【0102】化合物(I') [式中、YはCH₂を、nは0を示す] は、化合物(VIII') と化合物(XII') とを塩化ホスホリルの存在下反応させることによっても製造される。化合物(XII') の使用量は、化合物(VIII') 1モルに対し約0.5ないし約5モル、好ましくは約0.5ないし約3モルである。塩化ホスホリルの使用量は化合物(VIII') 1モルに対し約0.5ないし約5モル、好ましくは約0.5ないし約3モルである。なお、塩化ホスホリルを溶媒として用いることもでき、その場合の使用量は、化合物(VIII') 1グラムに対し約0.5ないし約20ミリリットル、好ましくは約1ないし約10ミリリットルである。本反応は反応に不活性な溶媒を用いて行うのが有利である。このような溶媒としては反応が進行する限り特に限定されないが、例えば炭化水素類、ハロゲン化炭化水素類またはこれらの混合物等が好ましい。反応時間は通常約10分ないし約48時間、好ましくは約15分ないし約24時間である。反応温度は通常約-20ないし約150℃、好ましくは約0ないし約100℃である。化合物(I') [式中、YはCH₂あるいはCH(OH)を、nは0を示す] は、化合物(VIII') と化合物(XI') から化合物(I') を製造するときと同様にして、化合物(X') と化合物(XI') からも製造される。

【0103】化合物(I') は反応式2に示した工程によっても製造される。

反応式2

【化62】

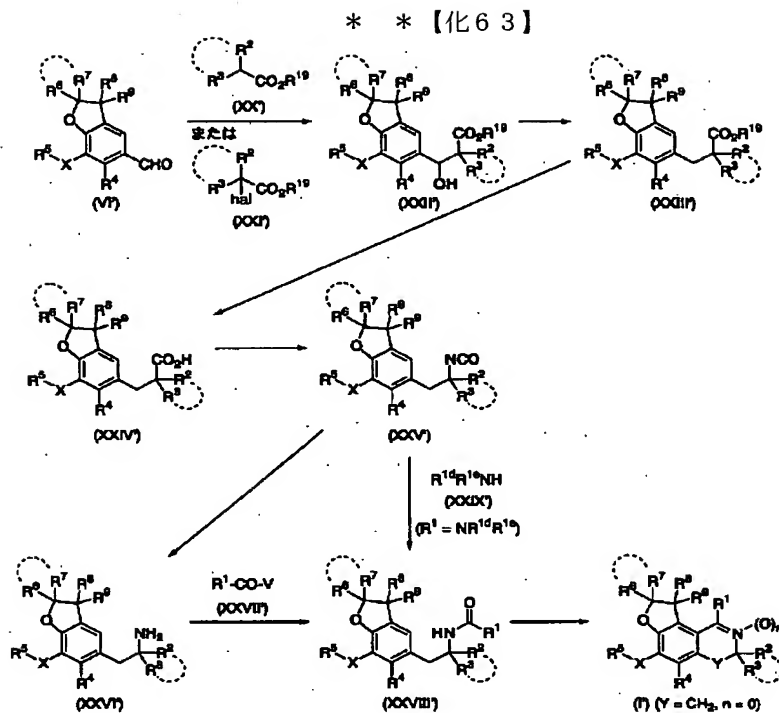


【0104】化合物(XIV')〔式中、halはハロゲンを示す〕は化合物(XIII')とハロゲン化試薬とを反応させることにより製造される。該「ハロゲン化試薬」としては、臭素、塩素、ヨウ素等のハロゲン類、N-ブロモスクシンイミド等のイミド類、ジクロロヨウ素酸ベンジルトリメチルアンモニウム、三臭化ベンジルトリメチルアンモニウム等のハロゲン付加物類等が用いられる。ハロゲン化試薬の使用量は、化合物(XIII')1モルに対し約1ないし約5モル、好ましくは約1ないし約2モルである。本反応は反応に不活性な溶媒を用いて行うのが有利である。このような溶媒としては反応が進行する限り特に限定されないが、例えば炭化水素類、有機酸類、ハロゲン化炭化水素類またはこれらの混合物等が好ましい。反応時間は通常約10分ないし約48時間、好ましくは約15分ないし約24時間である。反応温度は通常約-20ないし約150℃、好ましくは約0ないし約100℃である。化合物(XIV')から化合物(XVII')までの工程は、反応式1の化合物(I')から化合物(VI')を製造する方法に準じて行われる。化合物(XIX')は化合物(XVII')と化合物(XVIII')〔式中、R³はR³から水素原子を一つ除いた二価基、Waは脱離基を示す〕とを塩基の存在下反応させることにより製造される。化合物(XVIII')の使用量は、化合物(XVII')1モルに対し約1ないし約3モル、好ましくは約1ないし約1.5モルである。該「脱離基」としては、例えばハロゲン原子(例えば、フッ素、塩素、臭素、ヨウ素等)、ハロゲン化されていてよいC₁₋₅アルキルスルホニルオキシ(例えば、メタンスルホニルオキシ、エタンスルホニルオキシ、トリクロロメタンスルホニルオキシ等)、置換基を有していてもよいC₆₋₁₀アリールスルホニルオキ

シ等が挙げられる。「置換基を有していてもよいC₆₋₁₀アリールスルホニルオキシ」としては、例えばC₁₋₆アルキル(例、メチル、エチル等)、C₁₋₆アルコキシ(例、メトキシ、エトキシ等)およびニトロから選ばれる置換基を1ないし3個有していてもよいC₆₋₁₀アリールスルホニルオキシ(例、フェニルスルホニルオキシ、ナフチルスルホニルオキシ等)等が挙げられ、具体例としては、フェニルスルホニルオキシ、m-ニトロフェニルスルホニルオキシ、p-トルエンスルホニルオキシ等が挙げられる。該「塩基」としては、金属アミド類、アルキル金属類、アリール金属類などが挙げられる。塩基の使用量は、化合物(XVII')1モルに対し約1ないし約5モル、好ましくは約1ないし約2モルである。本反応は所望により添加剤を用いてもよい。該「添加剤」としては、塩化セリウム(III)、ヨウ化銅(I)などが挙げられる。添加剤の使用量は、化合物(XVII')1モルに対し約0.1ないし約5モル、好ましくは約0.1ないし約2モルである。本反応は反応に不活性な溶媒を用いて行うのが有利である。このような溶媒としては反応が進行する限り特に限定されないが、例えばエーテル類、炭化水素類などの溶媒またはこれらの混合溶媒などが好ましい。反応時間は通常約10分ないし約48時間、好ましくは約30分ないし約24時間である。反応温度は通常約-100ないし約150℃、好ましくは約-80ないし約100℃である。化合物(I')〔式中、YはCH₂を、nは0を示す〕は、化合物(VIII')と化合物(XI')から化合物(I')を製造するときと同様にして、化合物(XIX')と化合物(XI')からも製造される。

【0105】化合物(I')は反応式3に示した工程によっても製造される。

反応式3



【0106】化合物(XXII')は化合物(VI')と化合物(X')〔式中、 R^{19} は置換基を有してもよい炭化水素基を示す〕を塩基の存在下反応させることにより製造される。該「炭化水素基」としては、例えば、鎖状または環状炭化水素基（例、 C_{1-6} アルキル（例えば、メチル、エチル、プロピル、イソプロピル、ブチル、イソブチル、sec-ブチル、tert-ブチル、ペンチル、ヘキシルなど）、 C_{3-6} シクロアルキル（例えば、シクロプロピル、シクロブチル、シクロペンチル、シクロヘキシルなど）、 C_{6-14} アリール（例えば、フェニル、1-ナフチル、2-ナフチル、ピフェニル、2-アンズリルなど）、 C_{7-16} アラールキル（例えば、ベンジル、2-ナフチルメチルなど）など）などが挙げられる。該「置換基を有してもよい炭化水素基」の「置換基」としては、例えばハロゲン原子（例、フッ素、塩素、臭素、ヨウ素など）、ハロゲン化されていてもよい C_{1-6} アルキルなどが挙げられる。化合物(XX')の使用量は、化合物(VI')1モルに対し約1ないし約5モル、好ましくは約1ないし約2モルである。該「塩基」としては、例えばアルカリ金属水素化物類、アルキル金属類、アリール金属類、金属アミド類等が挙げられる。塩基の使用量は、化合物(VI')1モルに対し約1ないし約5モル、好ましくは約1ないし約2モルである。本反応は反応に不活性な溶媒を用いて行うのが有利である。このような溶媒としては反応が進行する限り特に限定されないが、例えばエーテル類、炭化水素類などの溶媒またはこれらの混合溶媒などが好ましい。反応時間は通常約30分ないし約48時間、好ましくは約1時間ないし約24時間である。反応温度は通常約100ないし約150℃、好ましくは約80ないし約100℃であ

る。化合物(XXII')は化合物(VI')と化合物(XXI')〔式中、 R^{19} およびhalは上記と同意義を示す〕を亜鉛の存在下反応させることにより製造される。化合物(XXI')および亜鉛の使用量は、それぞれ化合物(VI')1モルに対し約1ないし約5モル、好ましくは約1ないし約2モルである。本反応は反応に不活性な溶媒を用いて行うのが有利である。このような溶媒としては反応が進行する限り特に限定されないが、例えばエーテル類、炭化水素類、ニトリル類などの溶媒またはこれらの混合溶媒などが好ましい。反応時間は通常約30分ないし約48時間、好ましくは約1時間ないし約24時間である。反応温度は通常約100ないし約150℃、好ましくは約80ないし約100℃である。

【0107】化合物(XXIII')は化合物(XXII')を還元することにより製造される。還元を使用される還元剤としては、例えばトリエチルシランなどのシラン類、水素化トリブチルチル、水素化アルミニウム、水素化ジイソブチルアルミニウム等の金属水素化物類、水素化リチウムアルミニウム、水素化ホウ素ナトリウム等の金属水素錯化合物類、ボランテトラヒドロフラン錯体、ボランジメチルスルフィド錯体等のボラン錯体類、テキシルボラン、ジシアミルボラン等のアルキルボラン類、ジボラン、または亜鉛、アルミニウム、すず、鉄等の金属類、ナトリウム、リチウム等のアルカリ金属/液体アンモニア（バーチ還元）等が挙げられる。還元剤の使用量は、例えばシラン類、金属水素化物類、金属水素錯化合物類の場合、化合物(XXII')1モルに対してそれぞれ約1ないし約10モル、好ましくは約1ないし約3モル、ボラン錯体類、アルキルボラン類またはジボランの場合、化合物(XXII')1モルに対して約1ないし約10モル、好ましくは約1

ないし約5モル、金属類、アルカリ金属の場合それぞれ約1ないし約20当量、好ましくは約1ないし約5当量である。本反応では所望によりルイス酸類を用いてもよい。該「ルイス酸類」としては、例えば塩化アルミニウム、臭化アルミニウム、塩化チタン(IV)、塩化すず(II)、塩化亜鉛、三塩化ホウ素、三臭化ホウ素、三フッ化ホウ素等が用いられる。ルイス酸の使用量は化合物(XXII')1モルに対して約1ないし約5モル、好ましくは約1ないし約2モルである。また、水素添加反応によっても還元され、この場合、例えばパラジウム炭素、酸化白金(IV)、ラネーニッケル、ラネーコバルト等の触媒等が用いられる。触媒の使用量は化合物(XXII')に対して約5ないし約1000重量%、好ましくは約10ないし約300重量%である。本反応は反応に不活性な溶媒を用いて行うのが有利である。このような溶媒として反応が進行する限り特に限定されないが、例えばアルコール類、エーテル類、炭化水素類、ハロゲン化炭化水素類、アミド類、有機酸類等の溶媒またはそれらの混合溶媒等が好ましい。反応時間は用いる還元剤の種類や量あるいは触媒の活性および量によって異なるが、通常約1時間ないし約100時間、好ましくは約1時間ないし約50時間である。反応温度は通常約-20ないし約120℃、好ましくは約0ないし約80℃である。水素添加触媒を用いた場合、水素の圧力は通常約1ないし約100気圧である。

【0108】化合物(XXIV')は酸あるいは塩基を用いて化合物(XXIII')のエステル基を加水分解することによって製造される。酸加水分解には、一般に塩酸、硫酸などの鉱酸類や三塩化ホウ素、三臭化ホウ素などのルイス酸類、ルイス酸とチオールまたはスルフィドの併用、トリフルオロ酢酸、p-トルエンスルホン酸などの有機酸類が用いられる。塩基性加水分解には、無機塩基類、塩基性塩類、金属アルコキシドなどが用いられる。これら酸および塩基の使用量は化合物(XXIII')1モルに対して約0.5ないし約10モル、好ましくは約0.5ないし約5モルである。本反応は反応に不活性な溶媒を用いて行うのが有利である。このような溶媒としては反応が進行する限り特に限定されないが、例えばアルコール類、炭化水素類、有機酸類、エーテル類、アミド類、ハロゲン化炭化水素類、ニトリル類、ケトン類、スルホキシド類、水などの溶媒またはこれらの混合溶媒などが好ましい。反応時間は通常約10分ないし約48時間、好ましくは約15分ないし約24時間である。反応温度は通常約-20ないし約150℃、好ましくは約0ないし約100℃である。化合物(XXV')は化合物(XXIV')を直接、またはその反応性誘導体(例えば、酸ハライド、酸アミド、酸無水物、エステル等)等に変換した後、転位反応に付すことにより製造される。該「転位反応」としては、クルチウス(Curtius)転位、ホフマン(Hofmann)転位、シュミット(Schmidt)転位などが用いられる。以下にジフェニルホスホリルアジドを用いる例を挙げる。ジフェニルホスホリルアジドの使

用量は、化合物(XXIV')1モルに対し約1ないし約3モル、好ましくは約1ないし約1.5モルである。本反応は所望に応じて塩基の存在下行われる。該「塩基」としては第3級アミン類、芳香族アミン類などが好ましい。本反応は反応に不活性な溶媒を用いて行うのが有利である。このような溶媒としては反応が進行する限り特に限定されないが、例えば炭化水素類、ハロゲン化炭化水素類、エーテル類またはこれらの混合物等が好ましい。反応時間は通常約10分ないし約48時間、好ましくは約15分ないし約24時間である。反応温度は通常約-20ないし約200℃、好ましくは約0ないし約150℃である。

【0109】他の反応の条件としては、第4版実験化学講座20(日本化学会編)、304、477~479頁記載の方法およびそれに準じる方法などが用いられる。化合物(XXV I')は化合物(XXV')を酸加水分解することにより製造される。酸加水分解には、一般に塩酸、硫酸などの鉱酸類や三塩化ホウ素、三臭化ホウ素などのルイス酸類、ルイス酸とチオールまたはスルフィドの併用、トリフルオロ酢酸、p-トルエンスルホン酸などの有機酸類が用いられる。これら酸の使用量は化合物(XXV')1モルに対して約0.5ないし約10モル、好ましくは約0.5ないし約5モルである。本反応は反応に不活性な溶媒を用いて行うのが有利である。このような溶媒としては反応が進行する限り特に限定されないが、例えば炭化水素類、エーテル類、ハロゲン化炭化水素類、ケトン類、スルホキシド類、水などの溶媒またはこれらの混合溶媒などが好ましい。反応時間は通常約10分ないし約48時間、好ましくは約15分ないし約24時間である。反応温度は通常約-20ないし約200℃、好ましくは約0ないし約150℃である。

【0110】化合物(XXVIII')は化合物(XXVI')と化合物(XXVII')〔式中、Vは置換基を有していてもよいヒドロキシ基、ハロゲンなどを示す〕とを所望により塩基または酸の存在下反応させることにより製造される。該「置換基を有していてもよいヒドロキシ基」で示されるVとしては例えばヒドロキシ、ハロゲン化されていてもよいC₁₋₆アルキルカルボニルオキシ(例、アセチルオキシ、トリフルオロアセチルオキシ、プロピオニルオキシ等)、ハロゲン化されていてもよいC₁₋₆アルキルスルホニルオキシ(例、メタンスルホニルオキシ、トリフルオロメタンスルホニルオキシ、エタンスルホニルオキシ等)、置換基を有していてもよいC₆₋₁₀アリールスルホニルオキシ、あるいは式R¹-CO₂等が挙げられる。「置換基を有していてもよいC₆₋₁₀アリールスルホニルオキシ」としては、例えばハロゲン、C₁₋₆アルキル、C₁₋₆アルコキシおよびニトロから選ばれる置換基を1ないし3個有していてもよいC₆₋₁₀アリールスルホニルオキシ(例、フェニルスルホニルオキシ、ナフチルスルホニルオキシ等)等が挙げられ、具体例としては、フェニルスルホニルオキシ、p-クロロフェニルスルホニルオキシ、m-ニトロフェニルスルホニルオキシ、p-トルエンスルホ

ニルオキシ等が挙げられる。化合物(XXVII')の使用量は、化合物(XXVI')1モルに対し約1ないし約5モル、好ましくは約1ないし約2モル用いる。本反応は無溶媒または反応に不活性な溶媒を用いて行うのが有利である。このような溶媒として反応が進行する限り特に限定されないが、例えばエーテル類、炭化水素類、アミド類、ハロゲン化炭化水素類、ニトリル類、ケトン類、スルホキシド類、芳香族アミン類、水等の溶媒またはそれらの混合溶媒等が好ましい。所望により用いられる塩基としては、例えば無機塩基類、塩基性塩類、芳香族アミン類、第3級アミン類等が挙げられる。所望により用いられる酸としては、例えばメタンスルホン酸、p-トルエンスルホン酸、カンファースルホン酸等が挙げられる。反応温度は約-20ないし約200℃、好ましくは約0ないし約150℃である。反応時間は通常約5分ないし約48時間、好ましくは約10分ないし約24時間である。

【0111】化合物(XXVIII')は化合物(XXV')と化合物(XXIX')〔式中、 R^{1d} および R^{1e} は R^1 の一部を形成する置換基で、それぞれ水素原子または置換基を有していてもよい炭化水素基を示す〕とを所望により塩基または酸の存在下反応させることによって製造される。該「炭化水素基」としては、例えば、鎖状または環状炭化水素基（例、 C_{1-6} アルキル（例えば、メチル、エチル、プロピル、イソプロピル、ブチル、イソブチル、sec-ブチル、tert-ブチル、ペンチル、ヘキシルなど）、 C_{3-6} シクロアルキル（例えば、シクロプロピル、シクロブチル、シクロペンチル、シクロヘキシルなど）、 C_{6-14} アリール（例えば、フェニル、1-ナフチル、2-ナフチル、ビフェニリル、2-アンズリルなど）、 C_{7-16} アラルキル（例えば、ベンジル、1-ナフチルメチルなど））などが挙げられる。該「置換基を有していてもよい炭化水素基」の「置換基」としては、例えばハロゲン原子（例、フッ素、塩素、臭素、ヨウ素など）、ハロゲン化されていて*

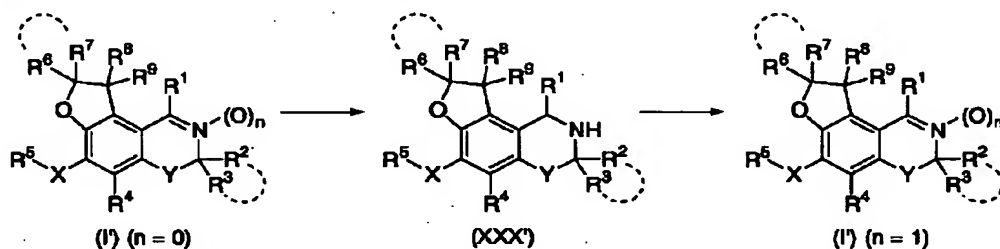
* もよい C_{1-6} アルキルなどが挙げられる。化合物(XXIX')の使用量は、化合物(XXV')1モルに対し約1ないし約3モル、好ましくは約1ないし約2モルである。本反応は反応に不活性な溶媒を用いて行うのが有利である。このような溶媒としては反応が進行する限り特に限定されないが、例えばエーテル類、炭化水素類、アミド類、ハロゲン化炭化水素類、ニトリル類、スルホキシド類などの溶媒またはこれらの混合溶媒などが好ましい。反応時間は通常約30分ないし約48時間、好ましくは約1時間ないし約24時間である。反応温度は通常約-20ないし約150℃、好ましくは約0ないし約100℃である。

【0112】化合物(I')〔式中、Yは CH_2 を、nは0を示す〕は、化合物(XXVIII')をハロゲン化剤等を用いて分子内環化させることにより製造される。該「ハロゲン化剤等」としては塩化ホスホリル、五塩化リン、五酸化ニリン、塩化アルミニウム等が挙げられる。該「ハロゲン化剤等」の使用量は化合物(XXVIII')1モルに対して約1ないし約20モル、好ましくは約1モルないし約5モルである。なお、該「ハロゲン化剤等」を溶媒として用いることもでき、その場合の使用量は、化合物(XXVIII')1グラムに対し約0.5ないし約20ミリリットル、好ましくは約1ないし約10ミリリットルである。本反応は反応に不活性な溶媒を用いて行うのが有利である。このような溶媒としては反応が進行する限り特に限定されないが、例えば炭化水素類、ニトリル類、ハロゲン化炭化水素類等の溶媒またはこれらの混合溶媒等が好ましい。反応温度は約-20ないし約200℃、好ましくは約0ないし約150℃である。反応時間は通常約5分ないし約48時間、好ましくは約10分ないし約24時間である。

【0113】化合物(I')は反応式4に示した工程によっても製造される。

反応式4

【化64】



【0114】化合物(XXX')は、化合物(I')〔式中、nは0を示す〕を還元することにより製造される。還元を使用される還元剤としては、例えば水素化トリブチルすず、水素化アルミニウム、水素化ジイソブチルアルミニウム等の金属水素化物類、水素化リチウムアルミニウム、水素化ホウ素ナトリウム等の金属水素錯化合物類、ボランテトラヒドロフラン錯体、ボランジメチルスルフィド錯体等のボラン錯体類、テキシルボラン、ジシヤミルボラン等のアルキルボラン類、ジボラン、または亜鉛、アル

ミニウム、すず、鉄等の金属類、ナトリウム、リチウム等のアルカリ金属/液体アンモニア（バーチ還元）等が挙げられる。

還元剤の使用量は、例えば金属水素化物類、金属水素錯化合物類の場合、化合物(I')1モルに対してそれぞれ約1ないし約10モル、好ましくは約1ないし約3モル、ボラン錯体類、アルキルボラン類またはジボランの場合、化合物(I')1モルに対して約1ないし約10モル、好ましくは約1ないし約5モル、金属類、アルカリ金属の場合それぞれ

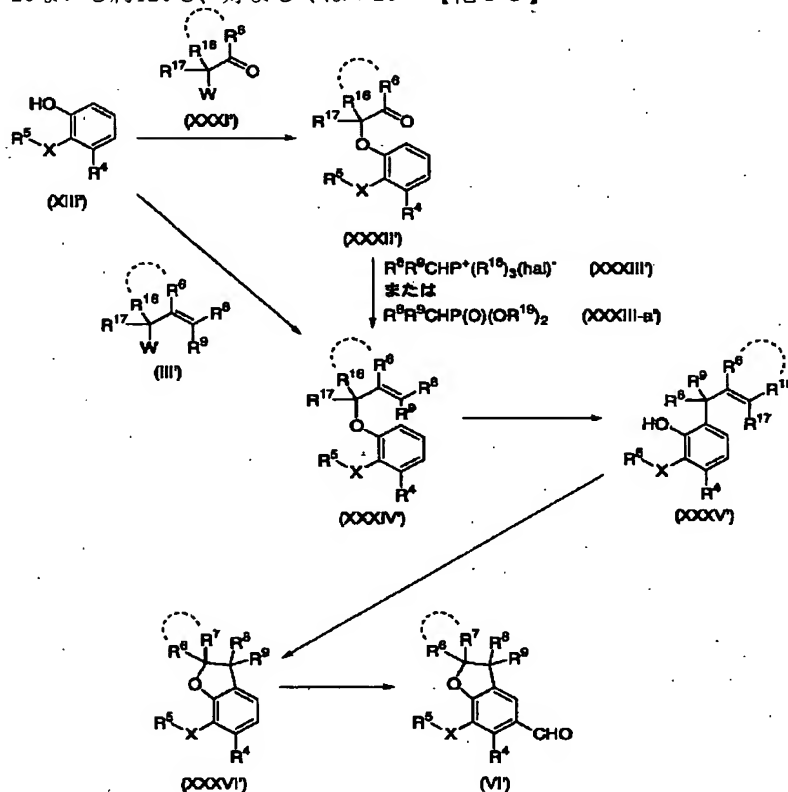
約1ないし約20当量、好ましくは約1ないし約5当量である。本反応では所望によりルイス酸類を用いてもよい。該「ルイス酸類」としては、例えば塩化アルミニウム、臭化アルミニウム、塩化チタン(IV)、塩化すず(II)、塩化亜鉛、三塩化ホウ素、三臭化ホウ素、三フッ化ホウ素等が用いられる。ルイス酸の使用量は化合物(I')1モルに対して約1ないし約5モル、好ましくは約1ないし約2モルである。また、水素添加反応によっても還元され、この場合、例えばパラジウム炭素、酸化白金(IV)、ラネーニッケル、ラネーコバルト等の触媒等が用いられる。触媒の使用量は化合物(I')に対して約5ないし約1000重量%、好ましくは約10ないし約300重量%である。本反応は反応に不活性な溶媒を用いて行うのが有利である。このような溶媒として反応が進行する限り特に限定されないが、例えばアルコール類、エーテル類、炭化水素類、アミド類、有機酸類等の溶媒またはそれらの混合溶媒等が好ましい。反応時間は用いる還元剤の種類や量あるいは触媒の活性および量によって異なるが、通常約1時間ないし約100時間、好ましくは約1時間ないし約50時間である。反応温度は通常約-20ないし約120℃、好ましくは*20

*約0ないし約80℃である。水素添加触媒を用いた場合、水素の圧力は通常約1ないし約100気圧である。

【0115】化合物(I')〔式中、nは1を示す〕は、化合物(XXX')を酸化することにより製造される。酸化に使用される酸化剤としては、例えば過酸化水素などが用いられる。酸化剤の使用量は、化合物(XXX')1モルに対し約1ないし約20モル、好ましくは約1ないし約5モルである。本反応ではタングステン(VI)酸ナトリウムなどの触媒を用いるのが好ましい。触媒の使用量は化合物(XXX')1モルに対し約0.05ないし約1モル、好ましくは約0.05ないし約0.5モルである。本反応は反応に不活性な溶媒を用いて行うのが有利である。このような溶媒としては反応が進行する限り特に限定されないが、例えばアルコール類、炭化水素類、アミド類、ハロゲン化炭化水素類、水などの溶媒またはこれらの混合溶媒などが好ましい。反応時間は通常約30分ないし約48時間、好ましくは約1時間ないし約24時間である。反応温度は通常約-20ないし約150℃、好ましくは約0ないし約100℃である。

【0116】反応式5

【化65】

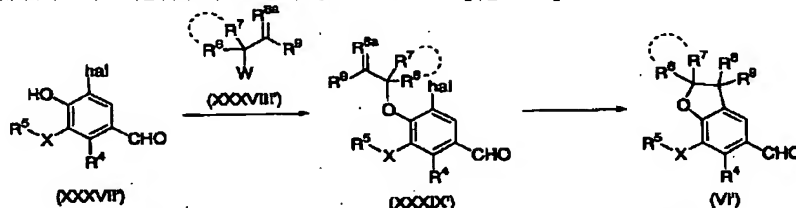


【0117】化合物(XXXII')は、化合物(II')と化合物(III')から化合物(IV')を製造するときと同様にして、化合物(XIII')と化合物(XXXI')〔式中、R¹⁶、R¹⁷およびWは上記と同意義を示す〕から製造される。化合物(XXXIV')は、化合物(VI')と化合物(VII')から化合物(VIII')を製造するときと同様にして、化合物(XXXII')と化合物(XXXIII')〔式中、R¹⁸およびhalは上記と同意義を示す〕から製造される。化合物(XXXIV')は、化合物(II')と化合物(III')から化合物(IV')を製造するときと同様にして、化合物(XI

す〕から製造される。化合物(XXXIV')は、化合物(VI')と化合物(VII-a')から化合物(VIII')を製造するときと同様にして、化合物(XXXII')と化合物(XXXIII-a')〔式中、R¹⁹は上記と同意義を示す〕からも製造される。化合物(XXXIV')は、化合物(II')と化合物(III')から化合物(IV')を製造するときと同様にして、化合物(XI

から化合物(XXXVI')までの工程は、反応式1の化合物(I V')から化合物(VI')を製造する方法に準じて行われる。化合物(VI')は、化合物(XXXVI')を酸触媒の存在下、ホルムアミド類を反応させることにより製造される。該「ホルムアミド類」としては、例えばジメチルホルムアミドやN-メチルホルムアニリド等が挙げられる。ホルムアミド類は、化合物(XXXVI')1モルに対し約1ないし約10モル、好ましくは約1ないし約5モル用いる。該「酸触媒」としては、例えば塩化ホスホリルや塩化チオニル等が挙げられる。酸触媒は通常化合物(XXXVI')1モルに対し約1ないし約10モル、好ましくは約1ないし約5モル用いる。本反応は反応に不活性な溶媒を用いて行うのが有利である。このような溶媒として反応が進行する限り特に限定されないが、例えばアミド類、エーテル類、炭化水素類、ハロゲン化炭化水素類、ニトリル類などの溶媒またはそれらの混合溶媒などが好ましい。反応時間は通常約10分ないし約48時間、好ましくは約30分ないし約24時間である。反応温度は通常約-20ないし約150℃、好ましくは約0ないし約100℃である。

【0118】また、化合物(VI')は化合物(XXXVI')をジ *20



【0120】化合物(XXXIX')は、化合物(II')と化合物(III')から化合物(IV')を製造するときと同様にして、化合物(XXXVII')〔式中、halはハロゲンを示す〕と化合物(XXXVIII')〔式中、R^{8a}はR⁸から水素原子を一つ除いた二価基を、Wは上記と同意義を示す〕から製造される。化合物(VI')は化合物(XXXIX')を触媒の存在下、あるいはラジカル開始剤の存在下、閉環することにより製造することができる。触媒を用いる閉環反応の場合、該「触媒」としては、酢酸パラジウム(II)、塩化パラジウム(II)などのパラジウム類などが挙げられる。触媒の使用量は化合物(XXXIX')1モルに対し約0.01ないし約0.5モル、好ましくは約0.01ないし約0.2モルである。本反応は添加剤を用いるのが好ましい。該「添加剤」として、例えば、塩化テトラブチルアンモニウム、塩化テトラメチルアンモニウム、塩化テトラエチルアンモニウムクロリドなどの4級アンモニウム塩、塩化リチウムなどのハロゲン化金属、トリフェニルホスフィンなどが挙げられる。添加剤の使用量は化合物(XXXIX')1モルに対し約1ないし約5モル、好ましくは約1ないし約2モルである。本反応は所望により塩基を用いるのが好ましい。該「塩基」としては、無機塩基類、塩基性塩類、芳香族アミン類、第3級アミン類、金属アルコキシド類などが挙げられる。塩基の使用量は、化合物(XXXIX')1モルに対し約1ないし約5モル、好ましくは約1ないし約2モルである。

* クロロメチルアルキルエーテル類と酸触媒の存在下で反応させることにより製造することもできる。該「ジクロロメチルアルキルエーテル類」としては、例えばジクロロメチルメチルエーテルやジクロロメチルブチルエーテル等が挙げられる。ジクロロメチルアルキルエーテル類は、化合物(XXXVI')1モルに対し約1ないし約5モル、好ましくは約1ないし約3モル用いる。該「酸触媒」としては、例えば塩化チタン(IV)、塩化アルミニウムあるいは塩化スズ(IV)等が挙げられる。酸触媒は通常化合物(XXXVI')1モルに対し約1ないし約5モル、好ましくは約1ないし約3モル用いる。本反応は反応に不活性な溶媒を用いて行うのが有利である。このような溶媒として反応が進行する限り特に限定されないが、例えばエーテル類、炭化水素類、ハロゲン化炭化水素類、ニトリル類などの溶媒またはそれらの混合溶媒などが好ましい。反応時間は通常約10分ないし約48時間、好ましくは約30分ないし約24時間である。反応温度は通常約-20ないし約100℃、好ましくは約0ないし約80℃である。

【0119】反応式6

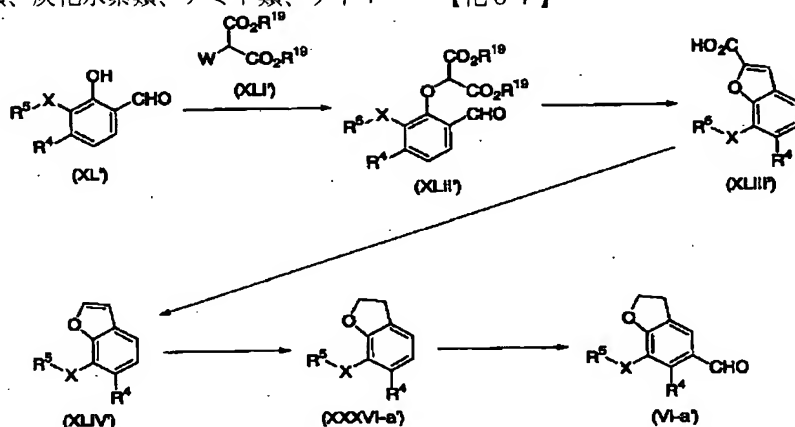
【化66】

さらに、本反応はギ酸ナトリウムなどのギ酸塩を添加するのが好ましい。ギ酸塩の使用量は化合物(XXXIX')1モルに対し約1ないし約5モル、好ましくは約1ないし約2モルである。本反応は反応に不活性な溶媒を用いて行うのが有利である。このような溶媒としては反応が進行する限り特に限定されないが、例えばアルコール類、エーテル類、炭化水素類、アミド類、ケトン類などの溶媒またはこれらの混合溶媒等が好ましい。反応時間は通常約10分ないし約48時間、好ましくは約30分ないし約24時間である。反応温度は通常約0ないし約150℃、好ましくは約0ないし約120℃である。

【0121】ラジカル開始剤を用いる閉環反応の場合、該「ラジカル開始剤」としては例えば過酸化ベンゾイル、2,2'-アゾビス(イソブチロニトリル)等が挙げられる。ラジカル開始剤の使用量は、化合物(XXXIX')1モルに対し約0.01ないし約1モル、好ましくは約0.01ないし0.1モルである。本反応ではラジカル源等が用いられる。該「ラジカル源等」として、例えば、次亜リン酸、トリス(トリメチルシリル)シラン、水素化トリブチルすずなどが挙げられる。ラジカル源等の使用量は化合物(XXXIX')1モルに対し約1ないし約100モル、好ましくは約1ないし約50モルである。本反応は所望により塩基を用いるのが好ましい。該「塩基」としては、無機塩基類、塩基性塩類、芳香族アミン類、第3級アミン類、金

115

属アルコキシド類などが挙げられる。塩基の使用量は、化合物(XXXIX')1モルに対し約1ないし約5モル、好ましくは約1ないし約2モルである。本反応は反応に不活性な溶媒を用いて行うのが有利である。このような溶媒としては反応が進行する限り特に限定されないが、例えばアルコール類、エーテル類、炭化水素類、アミド類、ケト*



【0123】化合物(XLII')は、化合物(II')と化合物(I II')から化合物(IV')を製造するときと同様にして、化合物(XL')と化合物(XLI')〔式中、R¹⁹ およびWは上記と同意義を示す〕から製造される。化合物(XLII')は、化合物(XLII')を塩基の存在下、閉環することにより製造できる。該「塩基」としては、無機塩類などが挙げられる。塩基の使用量は、化合物(XLII')1モルに対し約1ないし約10モル、好ましくは約1ないし約5モルである。本反応は反応に不活性な溶媒を用いて行うのが有利である。このような溶媒として反応が進行する限り特に限定されないが、例えばアルコール類、エーテル類、炭化水素類、水などの溶媒またはそれらの混合溶媒などが好ましい。反応時間は通常約10分ないし約48時間、好ましくは約30分ないし約24時間である。反応温度は通常約0ないし約150℃、好ましくは約0ないし約120℃である。化合物(XLIV')は、化合物(XLII')を銅の存在下脱炭酸を行うことにより製造される。銅の使用量は化合物(XLII I')1モルに対して約0.1ないし約5モル、好ましくは約0.5モルないし約3モルである。本反応は反応に不活性な溶媒を用いて行うのが有利である。このような溶媒としては反応が進行する限り特に限定されないが、例えばテトラヒドロナフタレンなどの炭化水素類、ジフェニルエーテルなどのエーテル類、キノリンなどの芳香族アミン類、N,N-ジエチルアニリンなどの第3級アミン類などの

116

*ン類などの溶媒またはこれらの混合溶媒等が好ましい。反応時間は通常約10分ないし約48時間、好ましくは約30分ないし約24時間である。反応温度は通常約0ないし約200℃、好ましくは約0ないし約150℃である。

【0122】反応式7

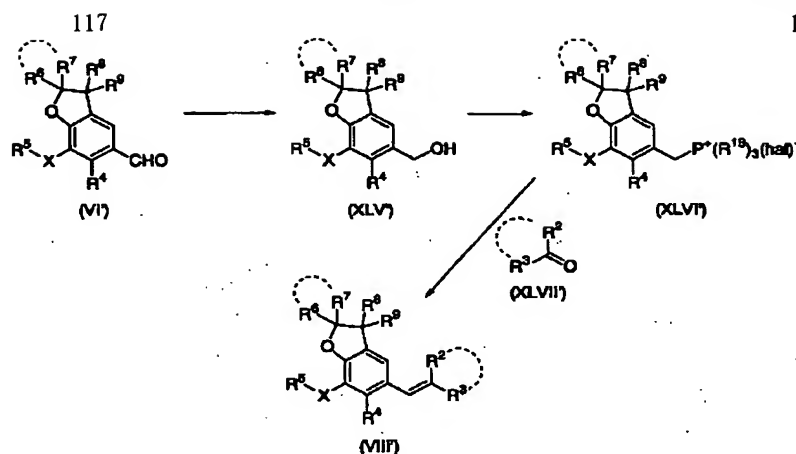
【化67】

溶媒またはこれらの混合溶媒などが好ましい。反応時間は通常約10分ないし約24時間、好ましくは約15分ないし約12時間である。反応温度は通常約100ないし約300℃、好ましくは約100ないし約250℃である。

【0124】化合物(XXXVI-a')は、化合物(XLIV')を水素添加することにより製造される。本反応では水素添加触媒として例えばパラジウム炭素、酸化白金(IV)、ラネーニッケル、ラネーコバルト等の触媒等が用いられる。触媒の使用量は化合物(XLIV')に対して約5ないし約1000重量%、好ましくは約10ないし約300重量%である。本反応は反応に不活性な溶媒を用いて行うのが有利である。このような溶媒として反応が進行する限り特に限定されないが、例えばアルコール類、エーテル類、炭化水素類、アミド類、有機酸類等の溶媒またはそれらの混合溶媒等が好ましい。反応時間は用いる触媒の活性および量によって異なるが、通常約1時間ないし約100時間、好ましくは約1時間ないし約50時間である。反応温度は通常約-20ないし約120℃、好ましくは約0ないし約80℃である。水素の圧力は通常約1ないし約100気圧である。化合物(VI-a')は、化合物(XXXVI')から化合物(VI')を製造するときと同様にして、化合物(XXXVI-a')から製造される。

【0125】反応式8

【化68】



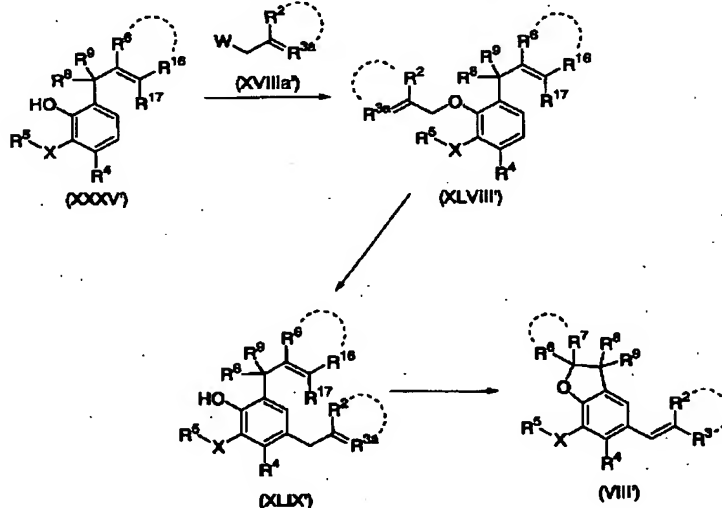
【0126】化合物(XLV')は、化合物(I')から化合物(XX')を製造するときと同様にして、化合物(VI')から製造される。化合物(XLVI')〔式中、R¹⁸ およびhalは上記と同意義を示す〕は化合物(XLV')をハロゲン化し、次いで対応するホスフィン類を反応させることにより製造される。ハロゲン化に使用されるハロゲン化剤としては、例えば塩化チオニル、臭化チオニル等のハロゲン化チオニル類、塩化ホスホリル、臭化ホスホリル等のハロゲン化ホスホリル類、五塩化リン、三塩化リン、五臭化リン、三臭化リン等のハロゲン化リン類、オキサリルクロリド等のオキサリルハライド類、ホスゲン等が挙げられる。化合物(XLV')1モルに対してハロゲン化剤を約0.1ないし約30モル、好ましくは約0.2ないし約10モル用いる。本反応は所望により塩基の存在下行われる。該「塩基」としては、第3級アミン類などが挙げられる。本反応は無溶媒で行うか、反応に不活性な溶媒を用いて行うのが有利である。このような溶媒としては反応が進行する限り特に限定されないが、例えば炭化水素類、エーテル類、アミド類、ハロゲン化炭化水素類等の溶媒またはそれらの混合溶媒等が好ましい。反応時間は通常約10分ないし約12時間、好ましくは約10分ないし約5時間であ *

* る。反応温度は通常約-10ないし約200℃、好ましくは約-10ないし約120℃である。続く、ホスフィン類との反応に使用されるホスフィン類としては、トリフェニルホスフィン、トリ-*o*-トリルホスフィン、トリブチルホスフィンなどが挙げられる。ホスフィン類は化合物(XLV')1モルに対して約1ないし約3モル、好ましくは約1ないし約1.5モル用いる。本反応は無溶媒または反応に不活性な溶媒を用いて行うのが有利である。このような溶媒として反応が進行する限り特に限定されないが、例えばエーテル類、炭化水素類、ハロゲン化炭化水素類、ニトリル類等の溶媒またはそれらの混合溶媒等が好ましい。反応温度は約-20ないし約200℃、好ましくは約0ないし約150℃である。反応時間は通常約5分ないし約48時間、好ましくは約10分ないし約24時間である。化合物(VIII')は、化合物(VI')と化合物(VII')から化合物(VIII')を製造するときと同様にして、化合物(XLVI')と化合物(XLVI I')からも製造される。

【0127】化合物(VIII')は反応式9に示した工程によっても製造される。

反応式9

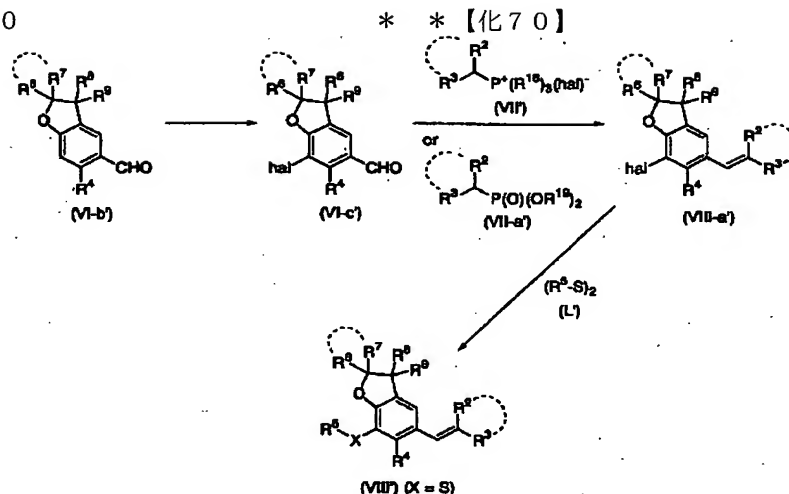
【化69】



【0128】化合物(XXXV')から化合物(VIII')までの工程〔式中、R^{3a} およびWは上記と同意義を示す〕は、反応

式1の化合物(II')から化合物(VI')を製造する方法に準じて行われる。

【0129】反応式10

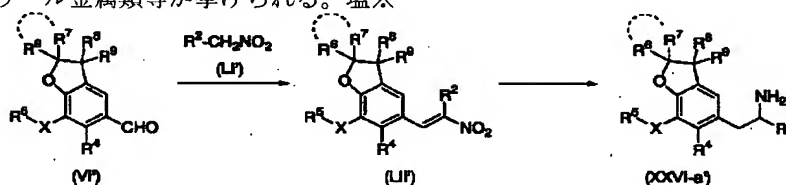


【0130】化合物(VI-c')〔式中、halはハロゲンを示す〕は、化合物(XIII')から化合物(XIV')を製造するときと同様にして、化合物(VI-b')から製造される。化合物(VIII-a')は、化合物(VI')と化合物(VII')から化合物(VIII')を製造するときと同様にして、化合物(VI-c')と化合物(VII')〔式中、R¹⁸およびhalは上記と同意義を示す〕から製造される。化合物(VIII-a')は、化合物(VI')と化合物(VII-a')から化合物(VIII')を製造するときと同様にして、化合物(VI-c')と化合物(VII-a')〔式中、R¹⁹は上記と同意義を示す〕からも製造される。化合物(VIII')〔式中、Xは硫黄原子を示す〕は化合物(VIII-a')とジスルフィド化合物(L')とを塩基の存在下反応させることによって製造される。化合物(L')の使用量は化合物(VIII-a')1モルに対し約1ないし約30モル、好ましくは約1ないし約15モルである。該「塩基」としては、例えばアルキル金属類、アリール金属類等が挙げられる。塩※

※基の使用量は、化合物(VIII-a')1モルに対し約1ないし約15モル、好ましくは約1ないし約10モルである。本反応は所望により添加剤が用いられる。該「添加剤」としては、N,N,N',N'-テトラメチルエチレンジアミンなどが挙げられる。添加剤の使用量は化合物(VIII-a')1モルに対し約1ないし約15モル、好ましくは約1ないし約10モルである。本反応は反応に不活性な溶媒を用いて行うのが有利である。このような溶媒としては反応が進行する限り特に限定されないが、例えばエーテル類、炭化水素類などの溶媒またはこれらの混合溶媒などが好ましい。反応時間は通常30分ないし48時間、好ましくは1時間ないし24時間である。反応温度は通常約-100ないし約100℃、好ましくは約-80ないし約60℃である。

【0131】反応式11

【化71】



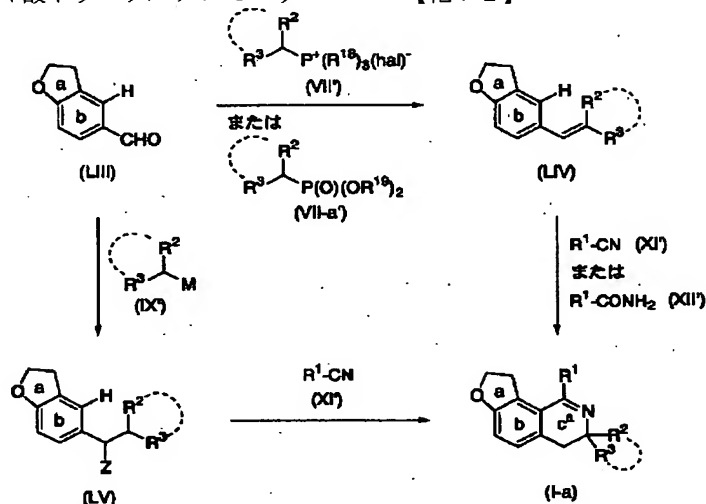
【0132】化合物(LII')は、化合物(VI')と化合物(LI')とを所望により塩基の存在下で反応させることにより製造される。化合物(LI')の使用量は、化合物(VI')1モルに対し約1ないし約5モル、好ましくは約1ないし約2モルである。なお、化合物(LI')を溶媒として用いることもでき、その場合の使用量は、化合物(VI')1グラムに対し約0.5ないし約20ミリリットル、好ましくは約1ないし約10ミリリットルである。該「塩基」としては、例えば無機塩基類、塩基性塩類、芳香族アミン類、第1級アミン類(n-ブチルアミン等)、第3級アミン類、金属水素化物類、金属アミド類、金属アルコキシド類等が挙げられる。塩基の使用量は、化合物(VI')1モルに対し約0.1ないし約10モル、好ましくは約0.5ないし約5モルであ

る。本反応は反応に不活性な溶媒を用いて行うのが有利である。このような溶媒としては反応が進行する限り特に限定されないが、例えばアルコール類、エーテル類、炭化水素類、アミド類、ハロゲン化炭化水素類、水等の溶媒またはこれらの混合溶媒等が好ましい。反応時間は通常約30分ないし約12時間、好ましくは約1時間ないし約6時間である。反応温度は通常約-20ないし約200℃、好ましくは約0ないし約150℃である。

【0133】化合物(XXVI-a')は、化合物(LII')を還元することによって製造される。還元を使用される還元剤としては、例えば水素化アルミニウム、水素化ジイソブチルアルミニウム等の金属水素化物類、水素化リチウムアルミニウム、水素化ホウ素ナトリウム等の金属水素錯

121

化合物類、亜鉛、アルミニウム、すず、鉄等の金属類等が挙げられる。還元剤の使用量は、例えば金属水素化合物類、金属水素錯化合物類の場合、化合物(LII')1モルに対してそれぞれ約1ないし約10モル、好ましくは約1ないし約5モル、金属類の場合約1ないし約20当量、好ましくは約1ないし約5当量である。本反応では所望によりルイス酸類を用いてもよい。該「ルイス酸類」としては、例えば塩化アルミニウム、臭化アルミニウム、塩化チタン(IV)、塩化すず(II)、塩化亜鉛、三塩化ホウ素、三臭化ホウ素、三フッ化ホウ素等が用いられる。ルイス酸の使用量は化合物(LII')1モルに対して約1ないし約10モル、好ましくは約1ないし約5モルである。また、水素添加反応によっても還元され、この場合、例えばパラジウム炭素、酸化白金(IV)、ラネーニッケル、ラネーコバルト等の触媒等が用いられる。触媒の使用量は化合物(LII')に対して約5ないし約1000重量%、好ましくは約10ないし約300重量%である。この場合、ガス状水素の代わりに種々の水素源を用いることもできる。該「水素源」としてはギ酸、ギ酸アンモニウム、ギ酸トリエチルアンモニウ *



【0135】化合物(LIV)は、化合物(VI')と化合物(VI I')から化合物(VIII')を製造するときと同様にして、化合物(LIII)と化合物(VII')〔式中、 R^{18} および hal は上記と同意義を示す〕から製造される。化合物(LIV)は、化合物(VI')と化合物(VII-a')から化合物(VIII')を製造するときと同様にして、化合物(LIII)と化合物(VII-a')〔式中、 R^{19} は上記と同意義を示す〕からも製造される。化合物(LV)〔式中、Z は上記と同意義を示す〕は、化合物(VI')と化合物(IX')から化合物(X')を製造するときと同様にして、化合物(LIII)と化合物(IX')〔式中、M は上記と同意義を示す〕から製造される。化合物(I-a)は、化合物(VIII')と化合物(XI')から化合物(I')を製造

122

* ム、ホスフィン酸ナトリウム、ヒドラジンなどが用いられる。水素源の使用量は、化合物(LII')1モルに対してそれぞれ約1ないし約10モル、好ましくは約1ないし約5モルである。本反応は反応に不活性な溶媒を用いて行うのが有利である。このような溶媒として反応が進行する限り特に限定されないが、例えばアルコール類、エーテル類、炭化水素類、アミド類、有機酸類等の溶媒またはそれらの混合溶媒等が好ましい。反応時間は用いる還元剤の種類や量あるいは触媒の活性および量によって異なるが、通常約1時間ないし約100時間、好ましくは約1時間ないし約50時間である。反応温度は通常約-20ないし約120℃、好ましくは約0ないし約80℃である。水素添加触媒を用いた場合、水素の圧力は通常約1ないし約100気圧である。

【0134】化合物(I-a)〔式中、 c' 環は R^1 、 R^2 および R^3 以外に置換基を有していてもよい〕は反応式12に示した工程によって製造される。

反応式12

【化72】

するときと同様にして、化合物(LIV)と化合物(XI')から製造される。化合物(I-a)は、化合物(VIII')と化合物(XII')から化合物(I')を製造するときと同様にして、化合物(LIV)と化合物(XII')からも製造される。化合物(I-a)は、化合物(X')と化合物(XI')から化合物(I')を製造するときと同様にして、化合物(LV)と化合物(XI')からも製造される。

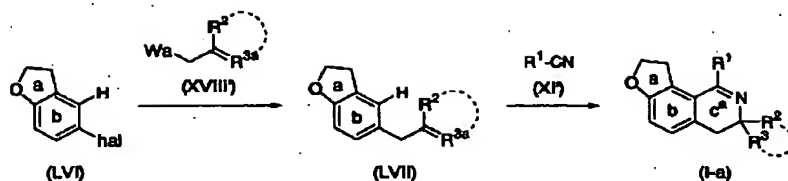
【0136】化合物(I-a)〔式中、 c' 環は上記と同意義を示す〕は反応式13に示した工程によっても製造される。

反応式13

【化73】

123

124



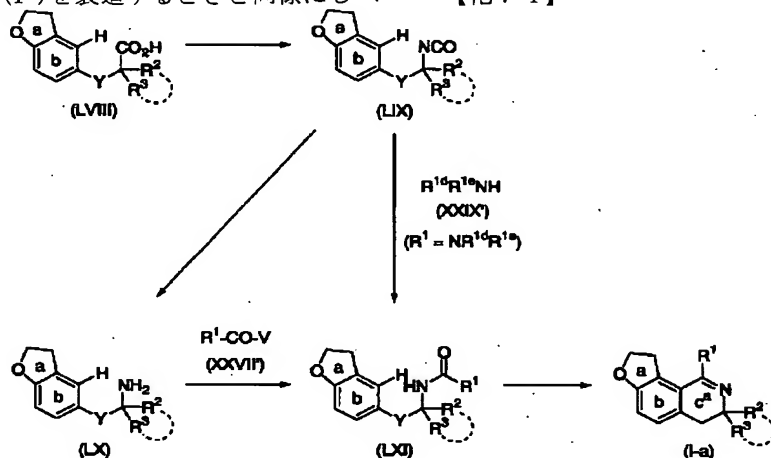
【0137】化合物(LVII)は、化合物(XVII')と化合物(XVIII')から化合物(XIX')を製造するときと同様に、化合物(LVI)〔式中、halはハロゲンを示す〕と化合物(XVIII')〔式中、R^{3a}およびWaは上記と同意義を示す〕から製造される。化合物(I-a)は、化合物(XIX')と化合物(XI')から化合物(I')を製造するときと同様にし *

* て、化合物(LVII)と化合物(XI')からも製造される。

【0138】化合物(I-a)〔式中、c^a環は上記と同意義を示す〕は反応式14に示した工程によっても製造される。

反応式14

【化74】



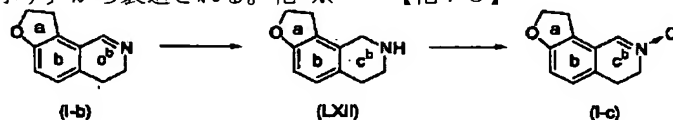
【0139】化合物(LIX)〔式中、Yは1または2個の置換基を有していてもよいメチレン基を示す〕は、化合物(XXIV')から化合物(XXV')を製造するときと同様に、化合物(LVIII)から製造される。該「置換基を有していてもよいメチレン基」の「置換基」としては、例えばC₁₋₆アルキル基などが挙げられる。化合物(LX)は、化合物(XXV')から化合物(XXVI')を製造するときと同様に、化合物(LIX)から製造される。化合物(LXI)は、化合物(XXVI')と化合物(XXVII')から化合物(XXVIII')を製造するときと同様に、化合物(LX)と化合物(XXVII')

※ 化合物(LXI)は、化合物(XXV')と化合物(XXIX')から化合物(XXVIII')を製造するときと同様に、化合物(LIX)と化合物(XXIX')〔式中、R^{1d}およびR^{1e}は上記と同意義を示す〕からも製造される。化合物(I-a)は、化合物(XXVI II')から化合物(I')を製造するときと同様に、化合物(LXI)からも製造される。

【0140】化合物(I-c)〔式中、c^b環は窒素原子を除く位置に置換基を有していてもよい〕は反応式15に示した工程によっても製造される。

反応式15

【化75】



【0141】化合物(LXII)は、化合物(I')から化合物(XXX')を製造するときと同様に、化合物(I-b)〔式中、c^b環は上記と同意義を示す〕から製造される。化合物(I-c)は、化合物(XXX')から化合物(I')を製造すると

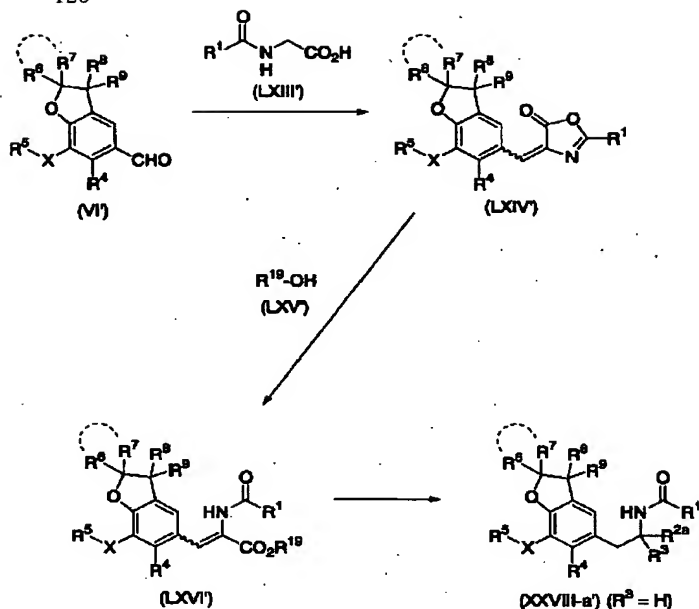
きと同様に、化合物(LXII)から製造される。

【0142】反応式16

【化76】

125

126



【0143】化合物(LXIV')は化合物(VI')と化合物(LXI
II')とを酸無水物および塩基の存在下で反応させること
により製造される。化合物(LXIII')の使用量は、化合物
(VI')1モルに対し約1ないし約5モル、好ましくは約1な
いし約2モルである。該「酸無水物」としては、例えば
無水酢酸等が挙げられる。酸無水物の使用量は、化合物
(VI')1モルに対し約1ないし約20モル、好ましくは約1な
いし約10モルである。該「塩基」としては、例えば無機
塩基類、塩基性塩類、芳香族アミン類、第3級アミン
類、フッ化カリウム／アルミナ等が挙げられる。塩基の
使用量は、化合物(VI')1モルに対し約1ないし約5モル、
好ましくは約1ないし約2モルである。本反応は無溶媒また
は反応に不活性な溶媒を用いて行うのが有利である。
このような溶媒としては反応が進行する限り特に限定され
ないが、例えば炭化水素類、ハロゲン化炭化水素類また
はこれらの混合物等が好ましい。反応時間は通常約10
分ないし約12時間、好ましくは約15分ないし約6時間
である。反応温度は通常約-20ないし約150℃、好ましくは
約0ないし約120℃である。化合物(LXVI')は化合物(LXI
V')と化合物(LXV')〔式中、 R^{19} は上記と同意義を示す〕
とを塩基の存在下で反応させることにより製造される。
化合物(LXV')の使用量は、化合物(LXIV')1モルに対し約
1ないし約10モル、好ましくは約1ないし約5モルであ
る。なお、化合物(LXV')を溶媒として用いることもでき、
その場合の使用量は、化合物(LXIV')1グラムに対し
約0.5ないし約50ミリリットル、好ましくは約1ないし約
20ミリリットルである。該「塩基」としては、例えば無
機塩基類、塩基性塩類、芳香族アミン類、第3級アミン
類等が挙げられる。塩基の使用量は、化合物(LXIV')1モ
ルに対し約0.01ないし約1モル、好ましくは約0.01ない
し約0.1モルである。本反応は無溶媒または反応に不活
性な溶媒を用いて行うのが有利である。このような溶媒

としては反応が進行する限り特に限定されないが、例え
ばアルコール類、エーテル類、炭化水素類、アミド類、
ハロゲン化炭化水素類、ニトリル類、ケトン類、スルホ
キシド類またはこれらの混合物等が好ましい。反応時間
は通常約10分ないし約12時間、好ましくは約15分ない
し約6時間である。反応温度は通常約-20ないし約150℃、
好ましくは約0ないし約100℃である。

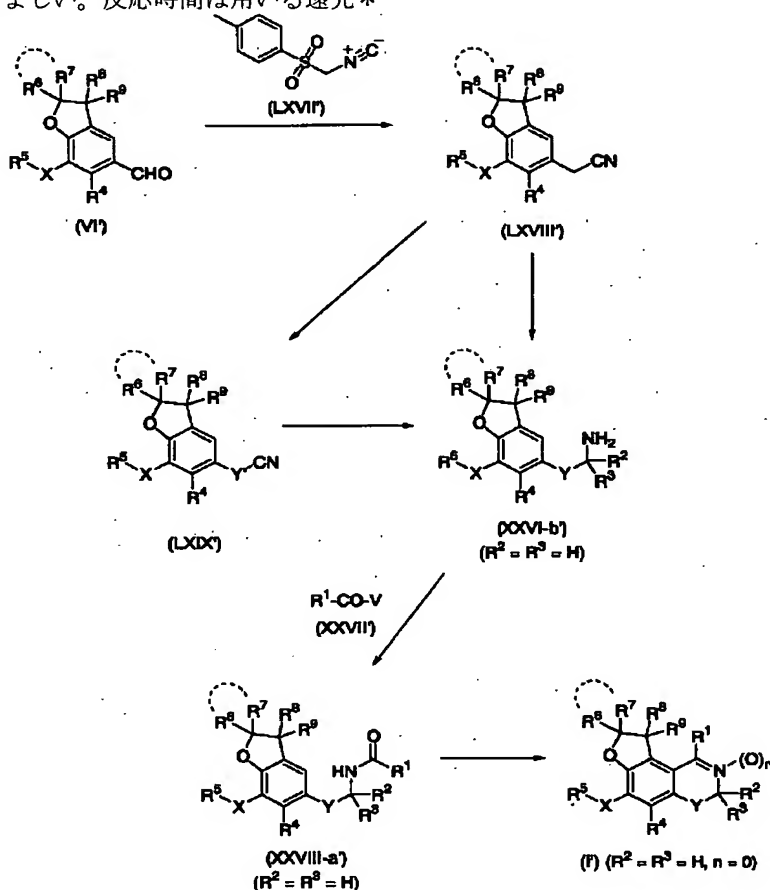
【0144】化合物(XXVIII-a')〔式中、 R^{2a} は置換基を
有していてもよい炭化水素基またはアシル基で、 R^2 と同
様のものが挙げられる〕は、化合物(LXVI')を還元する
ことにより製造される。還元を使用される還元剤として
は、例えば水素化アルミニウム、水素化ジイソブチルアル
ミニウム等の金属水素化物類、水素化リチウムアルミ
ニウム、水素化ホウ素ナトリウム等の金属水素錯化合物
類、亜鉛、アルミニウム、すず、鉄等の金属類等が挙げ
られる。還元剤の使用量は、例えば金属水素化物類、金
属水素錯化合物類の場合、化合物(LXVI')1モルに対して
それぞれ約1ないし約10モル、好ましくは約1ないし約5
モル、金属類の場合約1ないし約20当量、好ましくは約1
ないし約5当量である。本反応では所望によりルイス酸
類を用いてもよい。該「ルイス酸類」としては、例えば
塩化アルミニウム、臭化アルミニウム、塩化チタン(I
V)、塩化すず(II)、塩化亜鉛、三塩化ホウ素、三臭化ホ
ウ素、三フッ化ホウ素等が用いられる。ルイス酸の使用
量は化合物(LXVI')1モルに対して約1ないし約10モル、
好ましくは約1ないし約5モルである。また、水素添加反
応によっても還元され、この場合、例えばパラジウム炭
素、酸化白金(IV)、ラネーニッケル、ラネーコバルト等
の触媒等が用いられる。触媒の使用量は化合物(LXVI')
に対して約5ないし約1000重量%、好ましくは約10ない
し約300重量%である。この場合、ガス状水素の代わりに種
々の水素源を用いることもできる。該「水素源」として

はギ酸、ギ酸アンモニウム、ギ酸トリエチルアンモニウム、ホスフィン酸ナトリウム、ヒドラジンなどが用いられる。水素源の使用量は、化合物(LXVI')1モルに対してそれぞれ約1ないし約10モル、好ましくは約1ないし約5モルである。本反応は反応に不活性な溶媒を用いて行うのが有利である。このような溶媒として反応が進行する限り特に限定されないが、例えばアルコール類、エーテル類、炭化水素類、アミド類、有機酸類等の溶媒またはそれらの混合溶媒等が好ましい。反応時間は用いる還元*

* 剤の種類や量あるいは触媒の活性および量によって異なるが、通常約1時間ないし約100時間、好ましくは約1時間ないし約50時間である。反応温度は通常約-20ないし約120℃、好ましくは約0ないし約80℃である。水素添加触媒を用いた場合、水素の圧力は通常約1ないし約100気圧である。

【0145】反応式17

【化77】



【0146】化合物(LXVIII')は化合物(VI')と化合物(LXVII')とを塩基の存在下で反応させ、続いてアルコール類と反応させることにより製造される。化合物(LXVIII')の使用量は、化合物(VI')1モルに対し約1ないし約5モル、好ましくは約1ないし約2モルである。該「塩基」としては、例えば無機塩基類、塩基性塩類、芳香族アミン類、第3級アミン類、金属水素化物類、金属アミド類、金属アルコキシド類等が挙げられる。塩基の使用量は、化合物(VI')1モルに対し約1ないし約5モル、好ましくは約1ないし約3モルである。本反応は反応に不活性な溶媒を用いて行うのが有利である。このような溶媒としては反応が進行する限り特に限定されないが、例えばエーテル類、炭化水素類、アミド類、ハロゲン化炭化水素類、ニトリル類、スルホキシド類またはこれらの混合物等が好ましい。反応時間は通常約10分ないし約6時間、好ま

しくは約15分ないし約3時間である。反応温度は通常約-100ないし約50℃、好ましくは約-80ないし約50℃である。続いて用いられるアルコール類の使用量は化合物(VI')1グラムに対し約1ないし約30ミリリットル、好ましくは約2ないし約20ミリリットルである。反応時間は通常約10分ないし約12時間、好ましくは約15分ないし約6時間である。反応温度は通常約-100ないし約150℃、好ましくは約-80ないし約100℃である。

【0147】化合物(LXIX')〔式中、Y'は1または2個の置換基を有しているメチレン基を示す〕は化合物(LXVII')を塩基の存在下でアルキル化させることにより製造される。該「置換基を有しているメチレン基」の「置換基」としては、例えばC₁₋₆アルキル基などが挙げられる。該「塩基」としては、例えば無機塩基類、塩基性塩類、芳香族アミン類、第3級アミン類、金属水素化物

類、金属アミド類、金属アルコキシド類等が挙げられる。塩基の使用量は、化合物(LXVIII') 1モルに対し約1ないし約5モル、好ましくは約1ないし約3モルである。アルキル化剤としては脱離基を有する炭化水素が挙げられる。該「脱離基」としては、例えばハロゲン原子(例えば、フッ素、塩素、臭素、ヨウ素等)、ハロゲン化されていてよい C_{1-6} アルキルスルホニルオキシ(例えば、メタンスルホニルオキシ、エタンスルホニルオキシ、トリクロロメタンスルホニルオキシ等)、置換基を有していてもよい C_{6-10} アリールスルホニルオキシ等が挙げられる。「置換基を有していてもよい C_{6-10} アリールスルホニルオキシ」としては、例えば C_{1-6} アルキル(例、メチル、エチル等)、 C_{1-6} アルコキシ(例、メトキシ、エトキシ等)およびニトロから選ばれる置換基を1ないし3個有していてもよい C_{6-10} アリールスルホニルオキシ(例、フェニルスルホニルオキシ、ナフチルスルホニルオキシ等)等が挙げられ、具体例としては、フェニルスルホニルオキシ、*m*-ニトロフェニルスルホニルオキシ、*p*-トルエンスルホニルオキシ等が挙げられる。該「炭化水素」としては、例えば C_{1-6} アルキル基などが挙げられる。本反応で用いられるアルキル化剤の使用量は化合物(LXVIII') 1モルに対し約1ないし約10モル、好ましくは約1ないし約3モルである。本反応は反応に不活性な溶媒を用いて行うのが有利である。このような溶媒としては反応が進行する限り特に限定されないが、例えばアルコール類、エーテル類、炭化水素類、アミド類、ハロゲン化炭化水素類、ニトリル類、スルホキシド類、水などの溶媒またはこれらの混合溶媒などが好ましい。反応時間は通常約30分ないし約12時間、好ましくは約1時間ないし約6時間である。反応温度は通常約-50ないし約150℃、好ましくは約-20ないし約100℃である。

【0148】化合物(XXVI-b')〔式中、Yは1または2個の置換基を有していてもよいメチレン基を示す〕は、化合物(LXIX')のニトリルを加水分解して酸アミドとし、続いて還元することにより製造される。該「置換基を有していてもよいメチレン基」の「置換基」としては、例えば C_{1-6} アルキル基などが挙げられる。該「加水分解」反応としては、過酸化水素の存在下塩基を用いることにより行われる。過酸化水素の使用量は、化合物(LXIX') 1モルに対し約1ないし約5モル、好ましくは約1ないし約3モルである。該「塩基」としては無機塩基類、塩基性塩類等が挙げられる。塩基の使用量は、化合物(LXIX') 1モルに対し約1ないし約5モル、好ましくは約1ないし約3モルである。本反応は反応に不活性な溶媒を用いて行うのが有利である。このような溶媒としては反応が進行する限り特に限定されないが、例えばアルコール類、エーテル類、炭化水素類、アミド類、ハロゲン化炭化水素類、スルホキシド類、水などの溶媒またはこれらの混合溶媒などが好ましい。反応時間は通常約30分ないし約36時間、好ましくは約1時間ないし約24時間である。反応温度は

通常約-20ないし約100℃、好ましくは約0ないし約80℃である。他の加水分解反応の条件としては、第4版実験化学講座22(日本化学会編)、151~153頁記載の方法およびそれに準じる方法などが用いられる。続く還元反応は、還元剤として、例えば水素化アルミニウム、水素化ジイソブチルアルミニウム等の金属水素化物類、水素化リチウムアルミニウム、水素化ホウ素ナトリウム等の金属水素錯化合物類、亜鉛、アルミニウム、すず、鉄等の金属類等を用いることによって行われる。還元剤の使用量は、例えば金属水素化物類、金属水素錯化合物類の場合、化合物(LXIX') 1モルに対してそれぞれ約1ないし約10モル、好ましくは約1ないし約5モル、金属類の場合約1ないし約20当量、好ましくは約1ないし約5当量である。本反応では所望によりルイス酸類を用いてもよい。該「ルイス酸類」としては、例えば塩化アルミニウム、臭化アルミニウム、塩化チタン(IV)、塩化すず(II)、塩化亜鉛、三塩化ホウ素、三臭化ホウ素、三フッ化ホウ素等が用いられる。ルイス酸の使用量は化合物(LXIX') 1モルに対して約1ないし約10モル、好ましくは約1ないし約5モルである。本反応は反応に不活性な溶媒を用いて行うのが有利である。このような溶媒として反応が進行する限り特に限定されないが、例えばアルコール類、エーテル類、炭化水素類、アミド類、有機酸類等の溶媒またはそれらの混合溶媒等が好ましい。反応時間は用いる還元剤の種類や量によって異なるが、通常約1時間ないし約100時間、好ましくは約1時間ないし約50時間である。反応温度は通常約-20ないし約120℃、好ましくは約0ないし約80℃である。

【0149】化合物(XXVI-b')は、化合物(LXIX')を直接還元することによっても製造される。還元中使用される還元剤としては、例えば水素化アルミニウム、水素化ジイソブチルアルミニウム等の金属水素化物類、水素化リチウムアルミニウム、水素化ホウ素ナトリウム等の金属水素錯化合物類、亜鉛、アルミニウム、すず、鉄等の金属類等が挙げられる。還元剤の使用量は、例えば金属水素化物類、金属水素錯化合物類の場合、化合物(LXIX') 1モルに対してそれぞれ約1ないし約10モル、好ましくは約1ないし約5モル、金属類の場合約1ないし約20当量、好ましくは約1ないし約5当量である。本反応では所望によりルイス酸類を用いてもよい。該「ルイス酸類」としては、例えば塩化アルミニウム、臭化アルミニウム、塩化チタン(IV)、塩化すず(II)、塩化亜鉛、三塩化ホウ素、三臭化ホウ素、三フッ化ホウ素等が用いられる。ルイス酸の使用量は化合物(LXIX') 1モルに対して約1ないし約10モル、好ましくは約1ないし約5モルである。また、水素添加反応によっても還元され、この場合、例えばパラジウム炭素、酸化白金(IV)、ラネーニッケル、ラネーコバルト等の触媒等が用いられる。触媒の使用量は化合物(LXIX')に対して約5ないし約1000重量%、好ましくは約10ないし約300重量%である。本反応では所望によ

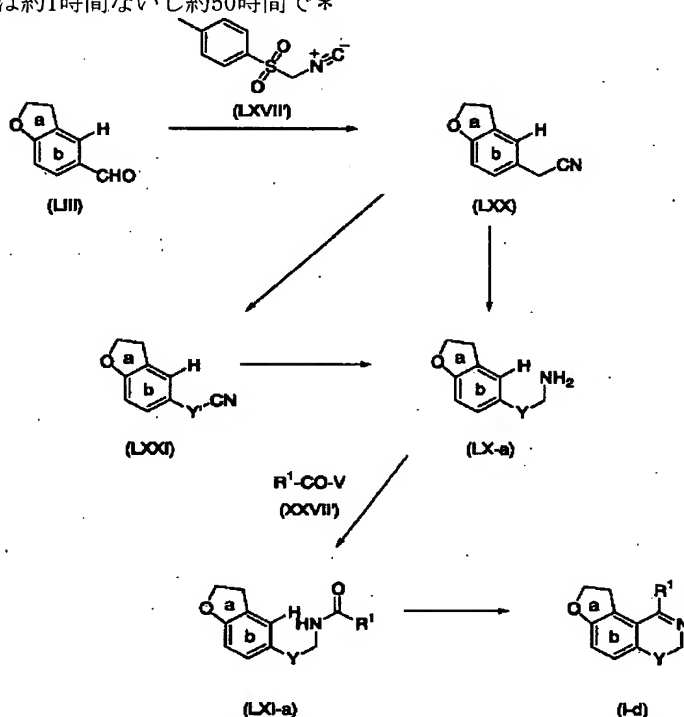
りアンモニアなどのアミン類を添加してもよい。アミン類の使用量は化合物(LXIX') 1モルに対してそれぞれ約1ないし約50モル、好ましくは約1ないし約20モルである。また、ガス状水素の代わりに種々の水素源を用いることもできる。該「水素源」としてはギ酸、ギ酸アンモニウム、ギ酸トリエチルアンモニウム、ホスフィン酸ナトリウム、ヒドラジンなどが用いられる。水素源の使用量は、化合物(LXIX') 1モルに対してそれぞれ約1ないし約10モル、好ましくは約1ないし約5モルである。本反応は反応に不活性な溶媒を用いて行うのが有利である。このような溶媒として反応が進行する限り特に限定されないが、例えばアルコール類、エーテル類、炭化水素類、アミド類、有機酸類等の溶媒またはそれらの混合溶媒等が好ましい。反応時間は用いる還元剤の種類や量あるいは触媒の活性および量によって異なるが、通常約1時間ないし約100時間、好ましくは約1時間ないし約50時間で*

* ある。反応温度は通常約-20ないし約120℃、好ましくは約0ないし約80℃である。水素添加触媒を用いた場合、水素の圧力は通常約1ないし約100気圧である。化合物(X XVI-b')は、化合物(LXIX')から化合物(XXVI-b')を製造するときと同様にして、化合物(LXVIII')からも製造される。化合物(XXVIII-a')は、化合物(XXVI')と化合物(X XVII')から化合物(XXVIII')を製造するときと同様にして、化合物(XXVI-b')と化合物(XXVII')から製造される。化合物(I-a')は、化合物(XXVIII')から化合物(I')を製造するときと同様にして、化合物(XXVIII-a')から製造される。

【0150】化合物(I-d)は反応式18に示した工程によって製造される。

反応式18

【化78】



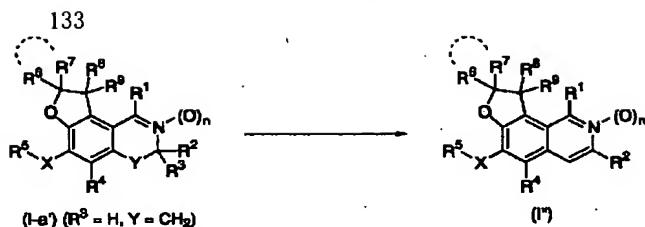
【0151】化合物(LXX)は化合物(VI')と化合物(LXVI I')から化合物(LXVIII')を製造するときと同様にして化合物(LIII)と化合物(LXVII')から製造される。化合物(L XXI)〔式中、Y'は上記と同意義を示す〕は化合物(LXVII I')から化合物(LXIX')を製造するときと同様にして化合物(LXX)から製造される。化合物(LX-a)は化合物(LXIX')から化合物(XXVI-b')を製造するときと同様にして化合物(LXXI)から製造される。化合物(LX-a)は化合物(LXVII I')から化合物(XXVI-b')を製造するときと同様にして化合物(LXX)からも製造される。化合物(LXI-a)は化合物(X

XVI-b')と化合物(XXVII')から化合物(XXVIII-a')を製造するときと同様にして化合物(LX-a)と化合物(XXVII')から製造される。化合物(I-d)は化合物(XXVIII-a')から化合物(I-a')を製造するときと同様にして化合物(LXI-a)から製造される。

【0152】化合物(I')は反応式19に示した工程によって製造される。

反応式19

【化79】



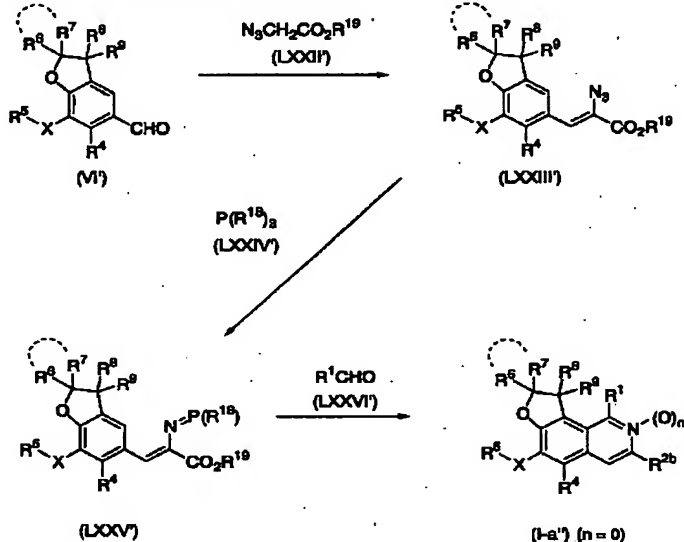
【0153】化合物(I')は化合物(I-a')を触媒存在下脱水することによって製造される。本反応に用いられる触媒としては、パラジウム炭素、酸化白金(IV)、ラネーニッケル、ラネーコバルトなどが用いられる。触媒の使用量は化合物(I-a')に対して約1ないし約1000重量%、好ましくは約5ないし約300重量%である。本反応は反応に不活性な溶媒を用いて行うのが有利である。このような溶媒として反応が進行する限り特に限定されないが、例えば、ジフェニルエーテルなどのエーテル類、キシレン、デカヒドロナフタレンなどの炭化水素類等の溶媒*

* 又はそれらの混合溶媒等が好ましい。反応時間は用いる触媒の活性および量によって異なるが、通常約1時間ないし約36時間、好ましくは約1時間ないし約24時間である。反応温度は通常約0ないし約250℃、好ましくは約20℃ないし約200℃である。

【0154】化合物(I-a'')〔式中、 R^{20} はアシル基で、 R^2 と同様のものが挙げられる〕は反応式20に示した工程によって製造される。

反応式20

【化80】



【0155】化合物(LXXIII')〔式中、 R^{19} は上記と同意義を示す〕は化合物(VI')と化合物(LXXII')を塩基の存在下反応させることにより製造される。化合物(LXXII')の使用量は、化合物(VI')1モルに対し約1ないし約20モル、好ましくは約1ないし約5モルである。該「塩基」としては、例えば無機塩基類、塩基性塩類、芳香族アミン類、第3級アミン類、金属水素化物類、金属アミド類、金属アルコキシド類等が挙げられる。塩基の使用量は、化合物(VI')1モルに対し約1ないし約10モル、好ましくは約1ないし約5モルである。本反応は反応に不活性な溶媒を用いて行うのが有利である。このような溶媒としては反応が進行する限り特に限定されないが、例えばアルコール類、エーテル類、炭化水素類、アミド類、ハロゲン化炭化水素類、ニトリル類、スルホキシド類またはこれらの混合物等が好ましい。反応時間は通常約10分ないし約12時間、好ましくは約15分ないし約6時間である。反応温度は通常約-100ないし約50℃、好ましくは約-80ないし約50℃である。化合物(LXXV')〔式中、 R^{18} は上記

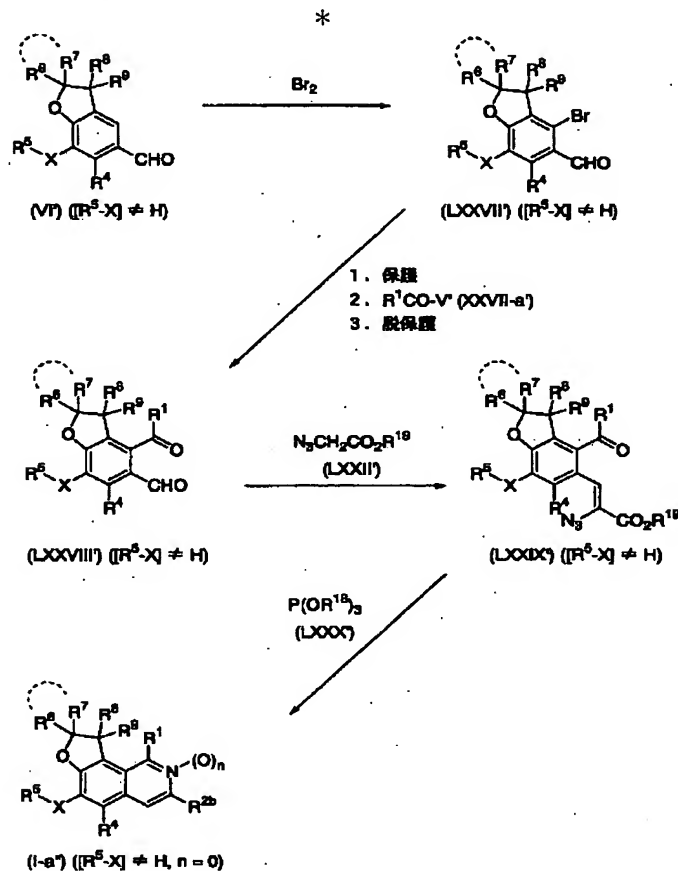
と同意義を示す〕は化合物(LXXIII')と化合物(LXXIV')を反応させることにより製造される。化合物(LXXIV')の使用量は、化合物(LXXIII')1モルに対し約0.5ないし約3モル、好ましくは約0.5ないし約2モルである。本反応は反応に不活性な溶媒を用いて行うのが有利である。このような溶媒としては反応が進行する限り特に限定されないが、例えばアルコール類、エーテル類、炭化水素類、アミド類、ハロゲン化炭化水素類、ニトリル類またはこれらの混合物等が好ましい。反応時間は通常約10分ないし約36時間、好ましくは約15分ないし約24時間である。反応温度は通常約-30ないし約100℃、好ましくは約-20ないし約70℃である。化合物(I-a'')は化合物(LXXV')と化合物(LXXVI')を反応させることにより製造される。化合物(LXXVI')の使用量は、化合物(LXXV')1モルに対し約1ないし約3モル、好ましくは約1ないし約2モルである。本反応は反応に不活性な溶媒を用いて行うのが有利である。このような溶媒としては反応が進行する限り特に限定されないが、例えばジフェニルエーテルなどのエーテ

ル類、キシレン、デカヒドロナフタレンなどの炭化水素類、アミド類、ハロゲン化炭化水素類、ニトロベンゼンまたはこれらの混合物等が好ましい。反応時間は通常約10分ないし約48時間、好ましくは約15分ないし約36時間である。反応温度は通常約0ないし約250℃、好ましくは約0ないし約200℃である。

*【0156】化合物(I-a')〔式中、R^{2b}は上記と同意義を示す〕は反応式21に示した工程によっても製造される。

反応式21

【化81】



【0157】化合物(LXXVII')は化合物(VI')を臭素化することにより製造される。臭素の使用量は、化合物(VI')1モルに対し約1ないし約5モル、好ましくは約1ないし約2モルである。本反応は反応に不活性な溶媒を用いて行うのが有利である。このような溶媒としては反応が進行する限り特に限定されないが、例えば炭化水素類、有機酸類、ハロゲン化炭化水素類またはこれらの混合物等が好ましい。反応時間は通常約5分ないし約24時間、好ましくは約10分ないし約12時間である。反応温度は通常約-20ないし約100℃、好ましくは約0ないし約70℃である。化合物(LXXVIII')は化合物(LXXVII')のアルデヒドを保護し、マグネシウムあるいは塩基を用いて有機金属化合物に変換し、化合物(XXVII-a')〔式中、V'はハロゲン、置換基を有していてもよいアミノ基などを示す〕と反応させ、脱保護することにより製造される。アルデヒドの保護基としてはアセタールなどが挙げられる。該「アセタール」は例えば化合物(LXXVII')とアルコールまたはオルトエステルを酸の存在下反応させることにより製造される。該「アルコール」としては、メタノール、エタノール、エチレングリコール、1,3-プロパンジ

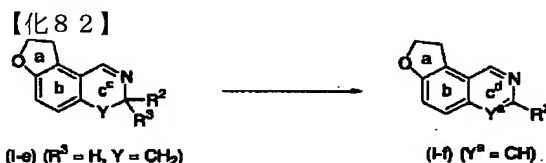
オールなどが挙げられる。該「オルトエステル」としては、オルトギ酸トリメチル、オルトギ酸トリエチルなどが挙げられる。アルコールまたはオルトエステルの使用量は、化合物(LXXVII')1モルに対し約1ないし約20モル、好ましくは約1ないし約5モルである。なお、アルコールまたはオルトエステルを溶媒として用いることもでき、その場合の使用量は、化合物(LXXVII')1グラムに対し約0.5ないし約10ミリリットル、好ましくは約1ないし約5ミリリットルである。該「酸」としては、硫酸、塩化水素、臭化水素、ヨウ化水素、過塩素酸等の鉱酸、メタンスルホン酸、p-トルエンスルホン酸などのスルホン酸類、三フッ化ホウ素ジエチルエーテル錯体、塩化亜鉛、塩化アルミニウム等のルイス酸等が用いられる。酸の使用量は化合物(LXXVII')1モルに対し約0.01ないし約2モル、好ましくは約0.02ないし約1.5モルである。本反応は反応に不活性な溶媒を用いて行うのが有利である。このような溶媒としては反応が進行する限り特に限定されないが、例えばアルコール類、エーテル類、炭化水素類などの溶媒またはこれらの混合溶媒などが好ましい。反応時間は通常約20分ないし約100時間、好ましくは約3

0分ないし約72時間である。反応温度は通常約-30ないし約150℃、好ましくは約-20ないし約120℃である。次の反応で用いられる「塩基」としては、アルキル金属類、アリール金属類などが挙げられる。マグネシウムあるいは塩基の使用量は、化合物(LXXVII') 1モルに対し約1ないし約5モル、好ましくは約1ないし約2モルである。化合物(XXVII-a')の使用量は、化合物(LXXVII') 1モルに対し約1ないし約3モル、好ましくは約1ないし約2モルである。該「置換基を有していてもよいアミノ基」で示されるV'としては例えばN, 0-ジメチルヒドロキシルアミノ、2-メチルアジリジン-1-イルなどが挙げられる。本反応は反応に不活性な溶媒を用いて行うのが有利である。このような溶媒としては反応が進行する限り特に限定されないが、例えばエーテル類、炭化水素類などの溶媒またはこれらの混合溶媒などが好ましい。反応時間は通常約10分ないし約48時間、好ましくは約20分ないし約24時間である。反応温度は通常約-100ないし約150℃、好ましくは約-80ないし約100℃である。続く脱保護は、例えば保護基がアセタールの場合、酸の存在下加水分解することにより行われる。該「酸」としては、硫酸、塩化水素、臭化水素、ヨウ化水素、過塩素酸等の鉱酸、メタンスルホン酸、p-トルエンスルホン酸などのスルホン酸類、トリフルオロ酢酸等が用いられる。酸の使用量は化合物(LXXVII') 1モルに対し約0.01ないし約2モル、好ましくは約0.02ないし約1.5モルである。本反応は反応に不活性な溶媒を用いて行うのが有利である。このような溶媒としては反応が進行する限り特に限定されないが、例えばアルコール類、エーテル類、炭化水素類、アミド類、ハロゲン化炭化水素類、スルホキシド類、酢酸エチルなどのエステル類、水などの溶媒またはこれらの混合溶媒などが好ましい。反応時間は通常約30分ないし約36時間、好ましくは約1時間ないし約24時間である。反応温度は通常約-20ないし約100℃、好ましくは約0ないし約80℃である。化合物(LXXIX') [式中、R¹⁹は上記と同

* 意義を示す] は化合物(VI')と化合物(LXXII')から化合物(LXXIII')を製造するときと同様にして、化合物(LXXVII')と化合物(LXXII')から製造される。化合物(I-a')は化合物(LXXIX')と化合物(LXXX') [式中、R¹⁸は上記と同意義を示す] を反応させることにより製造される。化合物(LXXX')の使用量は、化合物(LXXIX') 1モルに対し約1ないし約5モル、好ましくは約1ないし約3モルである。本反応は反応に不活性な溶媒を用いて行うのが有利である。このような溶媒としては反応が進行する限り特に限定されないが、例えばアルコール類、エーテル類、炭化水素類、アミド類、ハロゲン化炭化水素類、ニトリル類またはこれらの混合物等が好ましい。反応時間は通常約10分ないし約36時間、好ましくは約15分ないし約24時間である。反応温度は通常約-30ないし約150℃、好ましくは約-20ないし約120℃である。

【0158】化合物(I-f) [式中、c^d環は置換可能な位置に置換基を有していてもよい] は反応式22に示した工程によって製造される。

反応式22

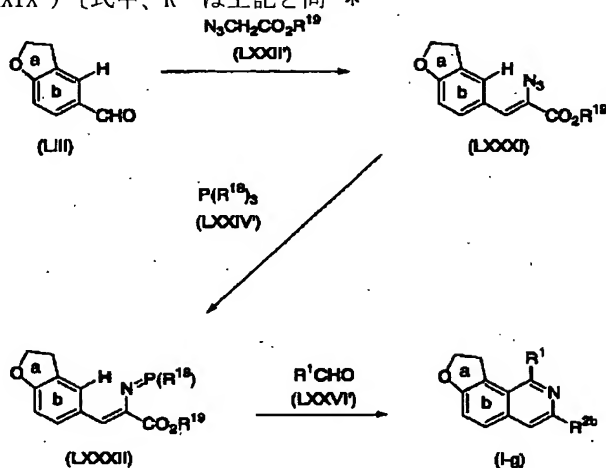


【0159】化合物(I-f)は化合物(I-a')から化合物(I'')を製造するときと同様にして(I-e) [式中、c^d環は置換可能な位置に置換基を有していてもよい] から製造される。

【0160】化合物(I-g) [式中、R^{2b}は上記と同意義を示す] は反応式23に示した工程によって製造される。

反応式23

【化83】

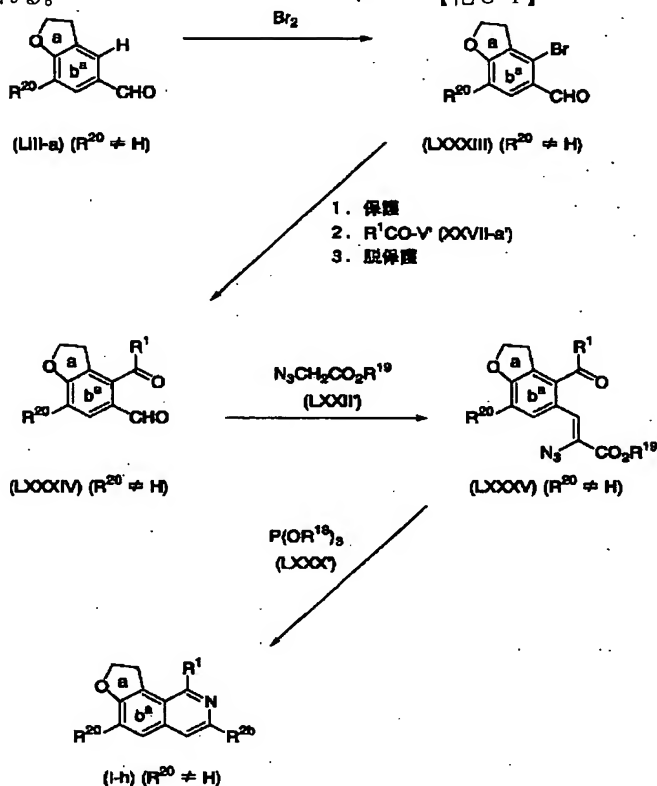


【0161】化合物(LXXXI) [式中、R¹⁹は上記と同意義を示す] は化合物(VI')と化合物(LXXII')から化合物(LX

XIII')を製造するときと同様にして化合物(LIII)と化合物(LXXII')から製造される。化合物(LXXXII)は化合物(L

139

XXIII')と化合物(LXXIV')〔式中、 R^{18} は上記と同意義を示す〕から化合物(LXXV')を製造するときと同様にして化合物(LXXXI)と化合物(LXXIV')から製造される。化合物(I-g)は化合物(LXXV')と化合物(LXXVI')から化合物(I-a')を製造するときと同様にして化合物(LXXXII)と化合物(LXXVI')から製造される。



【0163】化合物(LXXXIII)は化合物(VI')から化合物(LXXVII')を製造するときと同様にして化合物(LIII-a)から製造される。化合物(LXXXIV)は化合物(LXXVII')と化合物(XXVII-a')から化合物(LXXVIII')を製造するときと同様にして化合物(LXXXIII)と化合物(XXVII-a')から製造される。化合物(LXXXV)〔式中、 R^{19} は上記と同意義を示す〕は化合物(LXXVIII')と化合物(LXXII')から化合物(LXXIX')を製造するときと同様にして化合物(LXXXIV)と化合物(LXXII')から製造される。化合物(I-h)は化合

140

* 【0162】化合物(I-h)〔式中、 b^a 環は置換可能な位置に置換基を有していてもよく、 R^{2b} は上記と同意義を示し、 R^{20} は水素原子以外の置換基を示す〕は反応式24に示した工程によっても製造される。

反応式24

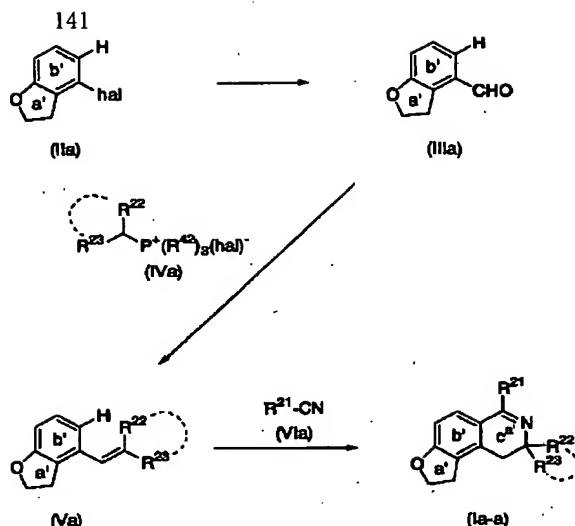
【化84】

物(LXXIX')と化合物(LXXX')〔式中、 R^{18} は上記と同意義を示す〕から化合物(I-a')を製造するときと同様にして化合物(LXXXV)と化合物(LXXX')から製造される。

【0164】化合物(Ia-a)〔式中、 c^a 環は R^{21} 、 R^{22} および R^{23} 以外に置換基を有していてもよい〕は反応式25に示した工程によって製造される。

反応式25

【化85】



化合物(IIIa)は化合物(IIa)をマグネシウムあるいは塩基を用いて有機金属化合物に変換し、ホルミル化剤と反応させることにより製造される。該「塩基」としては、アルキル金属類、アリアル金属類などが挙げられる。マグネシウムあるいは塩基の使用量は、化合物(IIa)1モルに対し約1ないし約5モル、好ましくは約1ないし約2モルである。該「ホルミル化剤」としては、N,N-ジメチルホルムアミド、1-ホルミルピペリジン、4-ホルミルモルホリン、N-メチルホルムアニリドなどが挙げられる。ホルミル化剤の使用量は、化合物(IIa)1モルに対し約1ないし約10モル、好ましくは約1ないし約5モルである。本反応は反応に不活性な溶媒を用いて行うのが有利である。このような溶媒としては反応が進行する限り特に限定されないが、例えばエーテル類、炭化水素類などの溶媒またはこれらの混合溶媒などが好ましい。反応時間は通常約10分ないし約48時間、好ましくは約30分ないし約24時間である。反応温度は通常約-100ないし約150℃、好ましくは約-80ないし約100℃である。

【0165】化合物(Va)は、化合物(IIIa)と化合物(IVa)〔式中、R⁴²は炭化水素基、halはハロゲンを示す〕とを所望により塩基の存在下で反応させることにより製造される。該「炭化水素基」としては、例えば、鎖状または環状炭化水素基（例、C₁₋₆ アルキル（例えば、メチル、エチル、プロピル、イソプロピル、ブチル、イソブチル、sec-ブチル、tert-ブチル、ペンチル、ヘキシルなど）、C₃₋₆ シクロアルキル（例えば、シクロプロピル、シクロブチル、シクロペンチル、シクロヘキシルなど）、C₆₋₁₄ アリアル（例えば、フェニル、1-ナフチル、2-ナフチル、ビフェニル、2-アンスリルなど）など）などが挙げられる。化合物(IVa)の使用量は、化合物(IIIa)1モルに対し約1ないし約5モル、好ましくは約1ないし約2モルである。該「塩基」としては、例えば無機塩基類、塩基性塩類、芳香族アミン類、第3級アミン

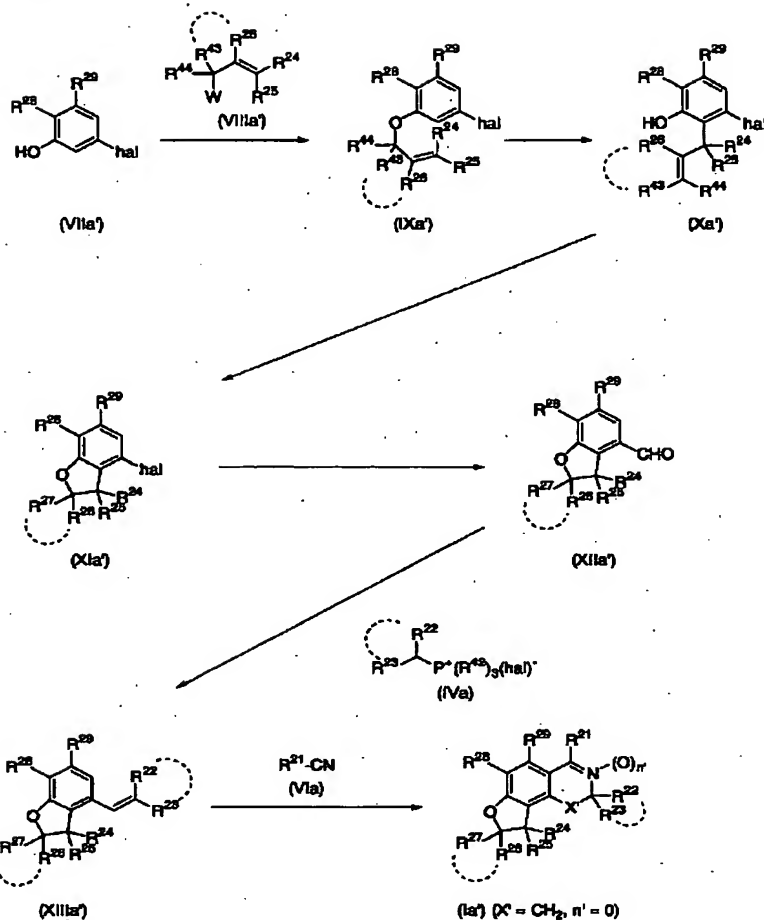
類、アルカリ金属水素化物類、アルキル金属類、アリアル金属類、金属アミド類、金属アルコキシド類等が挙げられる。塩基の使用量は、化合物(IIIa)1モルに対し約1ないし約5モル、好ましくは約1ないし約2モルである。本反応は反応に不活性な溶媒を用いて行うのが有利である。このような溶媒としては反応が進行する限り特に限定されないが、例えばアルコール類、エーテル類、炭化水素類、アミド類、ハロゲン化炭化水素類、ニトリル類、スルホキシド類、水などの溶媒またはこれらの混合溶媒などが好ましい。反応時間は通常約30分ないし約48時間、好ましくは約1時間ないし約24時間である。反応温度は通常約-100ないし約200℃、好ましくは約-80ないし約150℃である。

【0166】化合物(Ia-a)は、化合物(Va)と化合物(VIa)とを酸存在下反応させることにより製造される。化合物(VIa)の使用量は、化合物(Va)1モルに対し約0.5ないし約5モル、好ましくは約0.5ないし約2モルである。該「酸」としては、硫酸、塩化水素、臭化水素、ヨウ化水素、過塩素酸等の鉱酸、三フッ化ホウ素ジエチルエーテル錯体、塩化亜鉛、塩化アルミニウム等のルイス酸等が用いられる。酸の使用量は化合物(Va)1モルに対し約1ないし約5モル、好ましくは約1ないし約3モルである。本反応は反応に不活性な溶媒を用いて行うのが有利である。このような溶媒としては反応が進行する限り特に限定されないが、例えば炭化水素類、有機酸類、ハロゲン化炭化水素類またはこれらの混合物等が好ましい。反応時間は通常約10分ないし約48時間、好ましくは約15分ないし約24時間である。反応温度は通常約-20ないし約150℃、好ましくは約0ないし約100℃である。

【0167】化合物(Ia')は反応式26に示した工程によって製造される。

反応式26

【化86】



化合物(IXa')は、化合物(VIIa')と化合物(VIIIa')〔式中、 R^{43} および R^{44} は、 R^{27} の一部を形成する、置換基を有していてもよい炭化水素基で、 R^{27} と同様のものが挙げられ、Wは脱離基を示す〕とを所望により塩基の存在下で反応させることにより製造される。該「脱離基」としては、例えばヒドロキシ、ハロゲン原子(例えば、フッ素、塩素、臭素、ヨウ素等)、ハロゲン化されていてもよい C_{1-6} アルキルスルホニルオキシ(例えば、メタンスルホニルオキシ、エタンスルホニルオキシ、トリクロロメタンスルホニルオキシ等)、置換基を有していてもよい C_{6-10} アリールスルホニルオキシ等が挙げられる。

「置換基を有していてもよい C_{6-10} アリールスルホニルオキシ」としては、例えば C_{1-6} アルキル(例、メチル、エチル等)、 C_{1-6} アルコキシ(例、メトキシ、エトキシ等)およびニトロから選ばれる置換基を1ないし3個有していてもよい C_{6-10} アリールスルホニルオキシ(例、フェニルスルホニルオキシ、ナフチルスルホニルオキシ等)等が挙げられ、具体例としては、ベンゼンスルホニルオキシ、*m*-ニトロベンゼンスルホニルオキシ、*p*-トルエンスルホニルオキシ等が挙げられる。化合物(VIIIa')の使用量は、化合物(VIIa')1モルに対し約1ないし約5モル、好ましくは約1ないし約2モルである。該「塩基」としては、例えば無機塩基類、塩基性塩類、芳香族アミン

類、第3級アミン類、金属水素化物類、金属アミド類、金属アルコキシド類等が挙げられる。塩基の使用量は、化合物(VIIa')1モルに対し約1ないし約5モル、好ましくは約1ないし約2モルである。本反応は反応に不活性な溶媒を用いて行うのが有利である。このような溶媒としては反応が進行する限り特に限定されないが、例えばアルコール類、エーテル類、炭化水素類、アミド類、ハロゲン化炭化水素類、ニトリル類、ケトン類、スルホキシド類等の溶媒またはこれらの混合溶媒等が好ましい。反応時間は通常約15分ないし約48時間、好ましくは約30分ないし約24時間である。反応温度は通常約-20ないし約150℃、好ましくは約0ないし約100℃である。

【0168】前記反応に代え、光延反応(シンセシス(Synthesis)、1981年、1~27頁)を用いることもできる。該反応は、化合物(VIIa')と化合物(VIIIa')中、WがOHである化合物とを、アゾジカルボキシラート類(例、ジエチルアゾジカルボキシラート等)およびホスフィン類(例、トリフェニルホスフィン、トリブチルホスフィン等)の存在下反応させる。化合物(VIIIa')中、WがOHである化合物の使用量は、化合物(VIIa')1モルに対し、約1ないし約5モル、好ましくは約1ないし約2モルである。該「アゾジカルボキシラート類」および「ホスフィン類」の使用量は、それぞれ化合物(VIIa')1モルに対

し、約1ないし約5モル、好ましくは約1ないし約2モルである。本反応は反応に不活性な溶媒を用いて行うのが有利である。このような溶媒としては反応が進行する限り特に限定されないが、例えばエーテル類、炭化水素類、アミド類、ハロゲン化炭化水素類、ニトリル類、ケトン類、スルホキシド類等の溶媒またはそれらの混合溶媒等が好ましい。反応時間は通常約5分ないし約48時間、好ましくは約10分ないし約24時間である。反応温度は通常約-20ないし約200℃、好ましくは約0ないし約100℃である。

【0169】化合物(Xa')は、化合物(IXa')をクライゼン転位させることにより製造される。本反応は、無溶媒で行うか、反応に不活性な溶媒を用いて行うのが有利である。このような溶媒としては、反応が進行する限り特に限定されないが、例えばアルコール類、炭化水素類、有機酸類、エーテル類、アニリン類（例、N,N-ジメチルアニリン、N,N-ジエチルアニリンなど）、フェノール類（例、2,6-ジメチルフェノールなど）、ハロゲン化炭化水素類またはこれらの混合溶媒などが用いられる。また、所望により酸触媒を用いて本反応を行ってもよい。酸触媒としては、塩化アルミニウム、三臭化ホウ素等のルイス酸類などが用いられる。酸触媒の使用量は、例えばルイス酸の場合、通常化合物(IXa')1モルに対し約0.1ないし約20モル、好ましくは約0.1ないし約5モルである。反応時間は通常約30分ないし約24時間、好ましくは約1ないし約8時間である。反応温度は通常約-70ないし約300℃、好ましくは約150ないし約250℃である。

【0170】化合物(XIa')は化合物(Xa')をプロトン酸、ルイス酸またはヨウ素存在下、閉環することにより製造することができる。プロトン酸としては、例えば塩酸、臭化水素酸、硫酸等の鉱酸類やメタンスルホン酸、トリフルオロメタンスルホン酸、フルオロスルホン酸等のスルホン酸類が、ルイス酸類としては例えば塩化アルミニウム、臭化アルミニウム、塩化チタン(IV)、塩化スズ(IV)、塩化亜鉛、三塩化ホウ素、三臭化ホウ素、三フッ化ホウ素等が用いられる。通常、プロトン酸あるいはルイス酸はそれぞれ単独で用いられるが、所望により両者を組み合わせてもよい。プロトン酸を用いる場合は、化合物(Xa')1モルに対し約1ないし約200モル、好ましくは約1ないし約100モル用いる。ルイス酸を用いる場合は、化合物(Xa')1モルに対し約1ないし約5モル、好ましくは約1ないし約3モル用いる。ヨウ素を用いる場合は化合物(Xa')1モルに対し約0.05ないし約1モル、好ましくは約0.1ないし約0.5モル用いる。本反応は反応に不活性な溶媒を用いて行うのが有利である。このような溶媒として反応が進行する限り特に限定されないが、例えばエーテル類、炭化水素類、アルコール類、アミド類、ハロゲン化炭化水素類、ニトリル類、ケトン類、スルホキシド類等の溶媒またはこれらの混合溶媒等が好ましい。反応温度は通常約-20ないし約150℃、好ましくは約0ない

し約120℃である。反応時間は通常約5分ないし約24時間、好ましくは約10分ないし約5時間である。

【0171】化合物(XIIa')は、化合物(IIa)から化合物(IIIa)を製造するときと同様にして、化合物(XIa')から製造される。化合物(XIIIa')は、化合物(IIIa)と化合物(IVa)から化合物(Va)を製造するときと同様にして、化合物(XIIa')と化合物(IVa)〔式中、R⁴² およびhalは上記と同意義を示す〕から製造される。化合物(Ia')は、化合物(Va)と化合物(VIa)から化合物(Ia-a)を製造するときと同様にして、化合物(XIIIa')と化合物(VIa)から製造される。

【0172】上記各反応において、原料化合物が置換基としてアミノ、カルボキシ、ヒドロキシを有する場合、これらの基にペプチド化学等で一般的に用いられるような保護基が導入されたものであってもよく、反応後に必要に応じて保護基を除去することにより目的化合物を得ることができる。アミノの保護基としては、例えばホルミルまたはそれぞれ置換基を有していてもよいC₁₋₆ アルキル-カルボニル（例えば、アセチル、プロピオニル等）、ベンゾイル、C₁₋₆ アルコキシ-カルボニル（例えば、メトキシカルボニル、エトキシカルボニル等）、フェニルオキシカルボニル、C₇₋₁₀ アラルキルオキシ-カルボニル（例えば、ベンジルオキシカルボニル等）、トリチル、フタロイル等が用いられる。これらの置換基としては、ハロゲン原子（例えば、フッ素、塩素、臭素、ヨウ素等）、C₁₋₆ アルキル-カルボニル（例えば、アセチル、プロピオニル、バレリル等）、ニトロ等が用いられ、置換基の数は1ないし3個程度である。カルボキシの保護基としては、例えばそれぞれ置換基を有していてもよいC₁₋₆ アルキル（例えば、メチル、エチル、プロピル、イソプロピル、ブチル、tert-ブチル等）、フェニル、トリチル、シリル等が用いられる。これらの置換基としては、ハロゲン原子（例えば、フッ素、塩素、臭素、ヨウ素等）、ホルミル、C₁₋₆ アルキル-カルボニル（例えば、アセチル、プロピオニル、ブチルカルボニル等）、ニトロ、C₁₋₆ アルキル（例えば、メチル、エチル、tert-ブチル等）、C₆₋₁₀ アリール（例えば、フェニル、ナフチル等）等が用いられ、置換基の数は1ないし3個程度である。ヒドロキシの保護基としては、例えばホルミル、またはそれぞれ置換基を有していてもよいC₁₋₆ アルキル（例えば、メチル、エチル、プロピル、イソプロピル、ブチル、tert-ブチル等）、フェニル、C₇₋₁₁ アラルキル（例えば、ベンジル等）、C₁₋₆ アルキル-カルボニル（例えば、アセチル、プロピオニル等）、フェニルオキシカルボニル、C₇₋₁₁ アラルキルオキシ-カルボニル（例えば、ベンジルオキシカルボニル等）、テトラヒドロピラニル、テトラヒドロフラニル、シリル等が用いられる。これらの置換基としては、ハロゲン原子（例えば、フッ素、塩素、臭素、ヨウ素等）、C₁₋₆ アルキル（例えば、メチル、エチル、tert-ブチル等）、C

7-11 アラルキル (例えば、ベンジル等)、C₆₋₁₀ アリー
ル (例えば、フェニル、ナフチル等)、ニトロ等が用い
られ、置換基の数は1ないし4個程度である。また、保
護基の除去方法としては、自体公知またはそれに準じる
方法が用いられるが、例えば酸、塩基、紫外光、ヒドラ
ジン、フェニルヒドラジン、N-メチルジチオカルバミン
酸ナトリウム、テトラブチルアンモニウムフルオリド、
酢酸パラジウム(II)等で処理する方法または還元反応が
用いられる。

【0173】いずれの場合にも、さらに所望により、脱
保護反応、アシル化反応、アルキル化反応、水素添加反
応、酸化反応、還元反応、炭素鎖延長反応、置換基交換
反応を各々、単独あるいはその二つ以上を組み合わせ
て行うことにより化合物(A)、(I)、(I')、(I'')、(Ia)ま
たは(Ia')を合成することができる。これらの反応は、
例えば、新実験化学講座14、15巻、1977年(丸善出版)
等に記載の方法が採用される。上記反応により、目的物
が遊離の状態を得られる場合には、常法に従って塩に変
換してもよく、また塩として得られる場合には、常法に
従って遊離体または他の塩に変換することもできる。か
くして得られる化合物(A)、(I)、(I')、(I'')、(Ia)ま
たは(Ia')は、公知の手段例えば転溶、濃縮、溶媒抽
出、分溜、結晶化、再結晶、クロマトグラフィー等によ
り反応溶液から単離、精製することができる。化合物
(A)、(I)、(I')、(I'')、(Ia)または(Ia')が、コンフィ
ギュレーショナル アイソマー(配置異性体)、ジアス
テレオマー、コンフォーマー等として存在する場合に
は、所望により、前記の分離、精製手段によりそれぞれ
を単離することができる。また、化合物(A)、(I)、
(I')、(I'')、(Ia)または(Ia')がラセミ体である場合に
は、通常の光学分割手段によりS体およびR体に分離す
ることができる。化合物(A)、(I)、(I')、(I'')、(Ia)ま
たは(Ia')に立体異性体が存在する場合には、この異性
体が単独の場合およびそれらの混合物の場合も本発明に
含まれる。また、化合物(A)、(I)、(I')、(I'')、(Ia)
または(Ia')は、水和物または非水和物であってもよ
い。化合物(A)、(I)、(I')、(I'')、(Ia)または(Ia')は
同位元素(例えば、³H、¹⁴C、³⁵S)等で標識されてい
てもよい。

【0174】化合物(I)、(I')、(I'')、(Ia)または(I
a')のプロドラッグは、生体内における生理条件下で酵
素や胃酸等による反応により化合物(I)、(I')、(I'')、
(Ia)または(Ia')に変換する化合物、すなわち酵素的に
酸化、還元、加水分解等を受けて化合物(I)、(I')、
(I'')、(Ia)または(Ia')に変化する化合物、胃酸等によ
り加水分解等を受けて化合物(I)、(I')、(I'')、(Ia)ま
たは(Ia')に変化する化合物をいう。化合物(I)、(I')、
(I'')、(Ia)または(Ia')のプロドラッグとしては、化合
物(I)、(I')、(I'')、(Ia)または(Ia')のアミノ基がア
シル化、アルキル化、りん酸化された化合物(例えば、

化合物(I)、(I')、(I'')、(Ia)または(Ia')のアミノ基
がエイコサノイル化、アラニル化、ペンチルアミノカル
ボニル化、(5-メチル-2-オキソ-1,3-ジオキソレン-4-
イル)メトキシカルボニル化、テトラヒドロフラニル
化、ピロリジノメチル化、ピバロイルオキシメチル化、
tert-ブチル化された化合物等)；化合物(I)、(I')、
(I'')、(Ia)または(Ia')のヒドロキシ基がアシル化、ア
ルキル化、りん酸化、ホウ酸化された化合物(例えば、
化合物(I)、(I')、(I'')、(Ia)または(Ia')のヒドロキ
シ基がアセチル化、パルミトイル化、プロパノイル化、
ピバロイル化、スクシニル化、フマリル化、アラニル
化、ジメチルアミノメチルカルボニル化された化合物
等)；化合物(I)、(I')、(I'')、(Ia)または(Ia')のカル
ボキシ基がエステル化、アミド化された化合物(例
えば、化合物(I)、(I')、(I'')、(Ia)または(Ia')のカル
ボキシ基がエチルエステル化、フェニルエステル化、カル
ボキシメチルエステル化、ジメチルアミノメチルエス
テル化、ピバロイルオキシメチルエステル化、エトキシ
カルボニルオキシエチルエステル化、フタリジルエス
テル化、(5-メチル-2-オキソ-1,3-ジオキソレン-4-イ
ル)メチルエステル化、シクロヘキシルオキシカルボニ
ルエチルエステル化、メチルアミド化された化合物等)
等が挙げられる。これらの化合物は自体公知の方法によ
って化合物(I)、(I')、(I'')、(Ia)または(Ia')から製
造することができる。また、化合物(I)、(I')、(I'')、
(Ia)または(Ia')のプロドラッグは、広川書店1990
年刊「医薬品の開発」第7巻分子設計163~198頁
に記載されているような生理的条件下で化合物(I)、
(I')、(I'')、(Ia)または(Ia')に変化するものであつて
もよい。

【0175】化合物(A)、(I)、(I')、(I'')、(Ia)また
は(Ia')の塩としては、例えば薬理学的に許容される塩
等が用いられる。例えば、無機塩基との塩、アンモニウ
ム塩、有機塩基との塩、無機酸との塩、有機酸との塩、
塩基性または酸性アミノ酸との塩等が挙げられる。無機
塩基との塩の好適な例としては、例えばナトリウム塩、
カリウム塩等のアルカリ金属塩、カルシウム塩、マグネ
シウム塩等のアルカリ土類金属塩、またはアルミニウム
塩等が挙げられる。有機塩基との塩の好適な例として
は、例えばトリメチルアミン、トリエチルアミン、ピリ
ジン、ピコリン、2,6-ルチジン、エタノールアミン、ジ
エタノールアミン、トリエタノールアミン、シクロヘキ
シルアミン、ジシクロヘキシルアミン、N,N'-ジベンジ
ルエチレンジアミン等との塩が挙げられる。無機酸との
塩の好適な例としては、例えば塩酸、臭化水素酸、硝
酸、硫酸、リン酸等との塩が挙げられる。有機酸との塩
の好適な例としては、例えばギ酸、酢酸、トリフルオロ
酢酸、フタル酸、フマル酸、シュウ酸、酒石酸、マレイ
ン酸、クエン酸、コハク酸、リンゴ酸、メタンスルホン
酸、ベンゼンスルホン酸、p-トルエンスルホン酸等との

塩が挙げられる。塩基性アミノ酸との塩の好適な例としては、例えばアルギニン、リジン、オルニチン等との塩が挙げられ、酸性アミノ酸との塩の好適な例としては、例えばアスパラギン酸、グルタミン酸等との塩が挙げられる。中でも薬学的に許容可能な塩が好ましく、その例としては、化合物(I)、(I')、(I'')、(Ia)または(Ia')内に塩基性官能基を有する場合には、例えば塩酸、臭化水素酸、硝酸、硫酸、リン酸等無機酸との塩、例えば酢酸、フタル酸、フマル酸、シュウ酸、酒石酸、マレイン酸、クエン酸、コハク酸、メタンスルホン酸、p-トルエンスルホン酸等の有機酸との塩が挙げられ、酸性官能基を有する場合には、例えばナトリウム塩、カリウム塩等のアルカリ金属塩、カルシウム塩、マグネシウム塩等のアルカリ土類金属塩、アンモニウム塩等が挙げられる。

【0176】本発明の化合物(A)、(I)、(I')、(I'')、(Ia)、(Ia')またはその塩(化合物(I)、(I')、(I'')、(Ia)、(Ia')のプロドラッグを含む)(以下、本発明の化合物と略記する)は、優れたエントリー阻害作用を有しており、かつ毒性が低く、安全であるので、哺乳動物(例えば、ヒト、マウス、イヌ、ラット、ウシなど)におけるHIV感染症およびAIDSの予防・治療剤等として用いることができる。投与経路は経口、非経口のいずれでもよい。剤形の具体例としては、例えば、錠剤(糖衣錠、フィルムコーティング錠を含む)、丸剤、カプセル剤(マイクロカプセルを含む)、顆粒剤、細粒剤、散剤、シロップ剤、乳剤、懸濁剤、注射剤、吸入剤、軟膏、点眼剤、エアゾール剤、眼軟膏剤、硬膏剤、坐剤、トローチ剤、パップ剤、リニメント剤などが用いられる。これらの製剤は常法(例えば、日本薬局方記載の方法など)に従って調製される。本発明の製剤において、本発明の化合物の含有量は、製剤の形態によって相違するが、通常製剤全体に対して0.01ないし100重量%、好ましくは0.1ないし50重量%、さらに好ましくは0.5ないし20重量%程度である。具体的には、錠剤の製造法は、医薬品をそのまま、賦形剤、結合剤、崩壊剤もしくはそのほかの適当な添加剤を加えて均等に混和したものを、適当な方法で顆粒とした後、滑沢剤などを加え、圧縮成型するかまたは、医薬品をそのまま、または賦形剤、結合剤、崩壊剤もしくはそのほかの適当な添加剤を加えて均等に混和したものを、直接圧縮成型して製するか、またはあらかじめ製した顆粒にそのまま、もしくは適当な添加剤を加えて均等に混合した後、圧縮成型しても製造することもできる。また、本剤は、必要に応じて着色剤、矯味剤などを加えることができる。さらに、本剤は、適当なコーティング剤で剤皮を施すこともできる。注射剤の製造法は、医薬品の一定量を、水性溶剤の場合は注射用水、生理食塩水、リンゲル液など、非水性溶剤の場合は通常植物油などに溶解、懸濁もしくは乳化して一定量とするか、または医薬品の一定量を取り注射用の容器に密封して製することができる。経口用製剤担体として

は、例えば、デンプン、マンニト、結晶セルロース、カルボキシメチルセルロースナトリウムなどの製剤分野において常用されている物質が用いられる。注射用担体としては、例えば、蒸留水、生理食塩水、グルコース溶液、輸液剤などが用いられる。その他、製剤一般に用いられる添加剤を適宜添加することもできる。これらの製剤の投与量は、年令、体重、症状、投与経路、投与回数などにより異なるが、例えば、成人患者に対して、1日当たり有効成分(本発明の化合物)に換算して通常0.01ないし100mg/kg、好ましくは0.01ないし50mg/kg、より好ましくは0.05ないし10mg/kgを1日1または2回に分割して経口投与するのがよい。

【0177】また、本発明の化合物(I')および(I'')のうち、新規化合物である化合物(I'-A)および(I''-A)はホスホジエステラーゼ4阻害作用も有し、かつ毒性が低く、安全であるので、哺乳動物(例えば、ヒト、マウス、イヌ、ラット、ウシなど)における炎症性疾患、自己免疫疾患、糖尿病、動脈硬化、移植片対宿主疾患、多発性硬化症、敗血症、乾癬、骨粗鬆症、うつ病、脳血管閉塞後の中枢機能低下症、脳血管痴呆症、アルツハイマー型痴呆症、記憶障害、肥満、心不全、肺繊維症、アレルギー性疾患(例えば、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、蕁麻疹)、狭心症、心筋梗塞、高血圧症、肺高血圧症、腎疾患、脳機能疾患、免疫不全、眼科疾患、男性または女性の性機能障害等の予防・治療剤、ホスホジエステラーゼ阻害剤として用いることができる。とりわけ、炎症性疾患、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、喘息、慢性閉塞性肺疾患、慢性関節リウマチ、自己免疫疾患、うつ病、アルツハイマー型痴呆症、記憶障害、骨粗鬆症、糖尿病および動脈硬化などの予防・治療剤、ホスホジエステラーゼ4阻害剤として用いることができる。投与経路は経口、非経口のいずれでもよい。特にホスホジエステラーゼ4Aを阻害することにより、喘息、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、慢性閉塞性肺疾患、関節リウマチ、うつ病、アルツハイマー型痴呆症、記憶障害、多発性硬化症、骨粗鬆症の予防・治療剤として、ホスホジエステラーゼ4Bを阻害することにより、喘息、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、慢性閉塞性肺疾患、関節リウマチ、うつ病、アルツハイマー型痴呆症、記憶障害、多発性硬化症、骨粗鬆症の予防・治療剤として、ホスホジエステラーゼ4Cを阻害することにより、喘息、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、慢性閉塞性肺疾患、関節リウマチ、うつ病、アルツハイマー型痴呆症、記憶障害、多発性硬化症、骨粗鬆症の予防・治療剤として、ホスホジエステラーゼ4Dを阻害することにより、喘息、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、慢性閉塞性肺疾患、関節リウマチ、うつ病、アルツハイマー型痴呆症、記憶障害、多発性硬化症、骨粗鬆症の予防・治療剤として本発明の化合物(I'-A)および(I''-A)を用いることができる。この製剤の投与量は、年令、体重、症状、投与経

路、投与回数などにより異なるが、例えば、成人患者に対して、1日当たり有効成分（本発明の化合物）に換算して通常0.01ないし100mg/kg、好ましくは0.01ないし50mg/kg、より好ましくは0.05ないし10mg/kgを1日1または2回に分割して経口投与するのがよい。

【0178】本発明の化合物は単剤として使用しても優れたエン트리阻害作用を示すが、さらに本発明の化合物以外のHIV感染症の予防・治療剤（特にAIDSの予防・治療剤）（以下、併用薬物と略記する）と併用（多剤併用）することもできる。本発明の化合物以外のHIV感染症の予防・治療剤としては、例えばプロテアーゼ阻害剤（例えば、サキナビル（saquinavir）、リトナビル（ritonavir）、インジナビル（indinavir）、ネルフィナビル（nelfinavir）、アンブレナビル（amprenavir）、ロピナビル（lopinavir）、モゼナビル（mozenavir）、アタザナビル（atazanavir）、チプラナビル（tipranavir）、フォスアンブレナビル（fosamprenavir）、JE-2147、TMC-114、TMC-126、DPC-681、DPC-684など）、核酸系逆転写酵素阻害剤（例えば、ジドブジン（zidovudine）、ジダノシン（didanosine）、ザルシタビン（zalcitabine）、ラミブジン（lamivudine）、スタブジン（stavudine）、アバカビル（avacavir）、テノフォビル ジソプロキシル フマレート（tenofovir disoproxil fumarate）、エントリシタビン（emtricitabine）、アムドキシビル（amdoxovir）、ホスファジド（phosphazide）、アロブジン（alovudine）、DPC-817、ACH-126443、GS-7340、（-）dOTC、beta-L-5-Fddcなど）、非核酸系逆転写酵素阻害剤（例えば、ネビラピン（nevirapine）、デラビルジン（delavirdine）、エファビレンツ（efavirenz）、カブラビリン（capravirine）、エミビリン（emivirine）、DPC-083、DPC-961、DPC-963、TMC-120、TMC-125、MIV-150、カラノリドA（calanolide-A）など）、エン트리阻害剤（例えば、T-20、T-1249、FP-21399、PRO-542、PRO-2000、KD-247など）、CCR5拮抗剤（例えば、N,N-ジメチル-N-[4[[[2-(4-メチルフェニル)-6,7-ジヒドロ-5H-ベンゾシクロヘプテン-8-イル]カルボニル]アミノ]ベンジル]テトラヒドロ-2H-ピラン-4-アミニウム クロリド、SCH-C、SCH-D、UK-427,857、PRO-140など）、CXCR4拮抗剤（例えば、AMD-3100など）、インテグラーゼ阻害剤（例えば、S1360、L-870810など）などが挙げられる。なかでも、プロテアーゼ阻害剤としては、サキナビル（saquinavir）、リトナビル（ritonavir）、インジナビル（indinavir）、ネルフィナビル（nelfinavir）、アンブレナビル（amprenavir）、ロピナビル（lopinavir）などが好ましく、核酸系逆転写酵素阻害剤としては、ジドブジン（zidovudine）、ジダノシン（didanosine）、ザルシタビン（zalcitabine）、ラミブジン（lamivudine）、スタブジン（stavudine）、アバカビル（avacavir）、テノフォビル ジソプロキシル フマレート（tenofovir disoproxil fumarate）

e）などが好ましく、非核酸系逆転写酵素阻害剤としては、ネビラピン（nevirapine）、デラビルジン（delavirdine）、エファビレンツ（efavirenz）などが好ましい。また、本発明の化合物はHIV-1の表面抗原に対する抗体や、HIV-1のワクチンとも組み合わせて用いることもできる。

【0179】本発明の化合物と併用薬物との併用に際しては、本発明の化合物と併用薬物の投与時期は限定されず、本発明の化合物と併用薬物とを、投与対象に対し、同時に投与してもよいし、時間差をおいて投与してもよい。併用薬物の投与量は、臨床上用いられている投与量に準ずればよく、投与対象、投与ルート、疾患、組み合わせ等により適宜選択することができる。本発明の化合物と併用薬物の投与形態は、特に限定されず、投与時に、本発明の化合物と併用薬物とが組み合わされていればよい。このような投与形態としては、例えば、(1)本発明の化合物と併用薬物とを同時に製剤化して得られる単一の製剤の投与、(2)本発明の化合物と併用薬物とを別々に製剤化して得られる2種の製剤の同一投与経路での同時投与、(3)本発明の化合物と併用薬物とを別々に製剤化して得られる2種の製剤の同一投与経路での時間差をおいての投与、(4)本発明の化合物と併用薬物とを別々に製剤化して得られる2種の製剤の異なる投与経路での同時投与、(5)本発明の化合物と併用薬物とを別々に製剤化して得られる2種の製剤の異なる投与経路での時間差をおいての投与（例えば、本発明の化合物→併用薬物の順序での投与、あるいは逆の順序での投与）などが挙げられる。以下、これらの投与形態をまとめて、本発明の併用剤と略記する。本発明の併用剤は、毒性が低く、例えば、本発明の化合物または（および）上記併用薬物を自体公知の方法に従って、薬理学的に許容される担体と混合して医薬組成物、例えば錠剤（糖衣錠、フィルムコーティング錠を含む）、散剤、顆粒剤、カプセル剤（ソフトカプセルを含む）、液剤、注射剤、坐剤、徐放剤等として、経口的又は非経口的（例、局所、直腸、静脈投与等）に安全に投与することができる。注射剤は、静脈内、筋肉内、皮下、臓器内、鼻腔内、皮内、点眼、脳内、直腸内、腔内および腹腔内、腫瘍内部、腫瘍の近位などへの投与あるいは直接病巣に投与することができる。

【0180】本発明の併用剤の製造に用いられてもよい薬理学的に許容される担体としては、前記した本発明の医薬組成物に使用されるものと同様のものを使用することができる。本発明の併用剤における本発明の化合物と併用薬物との配合比は、投与対象、投与ルート、疾患等により適宜選択することができる。例えば、本発明の併用剤における本発明の化合物の含有量は、製剤の形態によって相違するが、通常製剤全体に対して約0.01ないし100重量%、好ましくは約0.1ないし約50重量%、さらに好ましくは約0.5ないし約20重量%程度である。本発明の併

用剤における併用薬物の含有量は、製剤の形態によって相違するが、通常製剤全体に対して約0.01ないし100重量%、好ましくは約0.1ないし約50重量%、さらに好ましくは約0.5ないし約20重量%程度である。本発明の併用剤における担体等の添加剤の含有量は、製剤の形態によって相違するが、通常製剤全体に対して約1ないし約99.99重量%、好ましくは約10ないし約90重量%程度である。また、本発明の化合物および併用薬物をそれぞれ別々に製剤化する場合も同様の含有量でよい。

【0181】これらの製剤は、製剤工程において通常一般に用いられる自体公知の方法により製造することができる。例えば、本発明の化合物または併用薬物は、分散剤（例、ツイーン（Tween）80（アトラスパウダー社製、米国）、HCO 60（日光ケミカルズ製）、ポリエチレングリコール、カルボキシメチルセルロース、アルギン酸ナトリウム、ヒドロキシプロピルメチルセルロース、デキストリンなど）、安定化剤（例、アスコルビン酸、ピロ亜硫酸ナトリウム等）、界面活性剤（例、ポリソルベート80、マクロゴール等）、可溶剤（例、グリセリン、エタノール等）、緩衝剤（例、リン酸及びそのアルカリ金属塩、クエン酸及びそのアルカリ金属塩等）、等張化剤（例、塩化ナトリウム、塩化カリウム、マンニトール、ソルビトール、ブドウ糖等）、pH調節剤（例、塩酸、水酸化ナトリウム等）、保存剤（例、パラオキシ安息香酸エチル、安息香酸、メチルパラベン、プロピルパラベン、ベンジルアルコール等）、溶解剤（例、濃グリセリン、メグルミン等）、溶解補助剤（例、プロピレングリコール、白糖等）、無痛化剤（例、ブドウ糖、ベンジルアルコール等）などと共に水性注射剤に、あるいはオリブ油、ゴマ油、綿実油、コーン油などの植物油、プロピレングリコールなどの溶解補助剤に溶解、懸濁あるいは乳化して油性注射剤に成形し、注射剤とすることができる。経口投与用製剤とするには、自体公知の方法に従い、本発明の化合物または併用薬物を例えば、賦形剤（例、乳糖、白糖、デンプンなど）、崩壊剤（例、デンプン、炭酸カルシウムなど）、結合剤（例、デンプン、アラビアゴム、カルボキシメチルセルロース、ポリビニルピロリドン、ヒドロキシプロピルセルロースなど）又は滑沢剤（例、タルク、ステアリン酸マグネシウム、ポリエチレングリコール 6000など）などを添加して圧縮成形し、次いで必要により、味のマスキング、腸溶性あるいは持続性の目的のため自体公知の方法でコーティングすることにより経口投与用製剤とすることができる。そのコーティング剤としては、例えば、ヒドロキシプロピルメチルセルロース、エチルセルロース、ヒドロキシメチルセルロース、ヒドロキシプロピルセルロース、ポリオキシエチレングリコール、ツイーン 80、ブ

ドラギット（ローム社製、ドイツ、メタアクリル酸・アクリル酸共重合）および色素（例、ベンガラ、二酸化チタン等）などが用いられる。経口投与用製剤は速放性製剤、徐放性製剤のいずれであってもよい。例えば、坐剤とするには、自体公知の方法に従い、本発明の化合物または併用薬物を油性又は水性の固状、半固状あるいは液状の坐剤とすることができる。上記組成物に用いる油性基剤としては、例えば、高級脂肪酸のグリセリド〔例、カカオ脂、ウイテプゾル類（ダイナマイトノーベル社製、ドイツ）など〕、中級脂肪酸〔例、ミグリオール類（ダイナマイトノーベル社製、ドイツ）など〕、あるいは植物油（例、ゴマ油、大豆油、綿実油など）などが挙げられる。また、水性基剤としては、例えばポリエチレングリコール類、プロピレングリコール、水性ゲル基剤としては、例えば天然ガム類、セルロース誘導体、ビニル重合体、アクリル酸重合体などが挙げられる。上記徐放性製剤としては、徐放性マイクロカプセル剤などが挙げられる。徐放型マイクロカプセルとするには、自体公知の方法を採用できるが、例えば、下記〔2〕に示す徐放性製剤に成型して投与するのが好ましい。本発明の化合物は、固形製剤（例、散剤、顆粒剤、錠剤、カプセル剤）などの経口投与用製剤に成型するか、坐剤などの直腸投与用製剤に成型するのが好ましい。特に経口投与用製剤が好ましい。併用薬物は、薬物の種類に応じて上記した剤形とすることができる。

【0182】以下に、〔1〕本発明の化合物または併用薬物の注射剤およびその調製、〔2〕本発明の化合物または併用薬物の徐放性製剤又は速放性製剤およびその調製、〔3〕本発明の化合物または併用薬物の舌下錠、パッカル又は口腔内速崩壊剤およびその調製について具体的に示す。

〔1〕注射剤およびその調製

本発明の化合物または併用薬物を水に溶解してなる注射剤が好ましい。該注射剤には安息香酸塩又は／およびサリチル酸塩を含有させてもよい。該注射剤は、本発明の化合物または併用薬物と所望により安息香酸塩又は／およびサリチル酸塩の双方を水に溶解することにより得られる。上記安息香酸、サリチル酸の塩としては、例えばナトリウム、カリウムなどのアルカリ金属塩、カルシウム、マグネシウムなどのアルカリ土類金属塩、アンモニウム塩、メグルミン塩、その他トロメタモールなどの有機酸塩などが挙げられる。注射剤中の本発明の化合物または併用薬物の濃度は約0.5～約50w/v%、好ましくは約3～約20w/v%程度である。また安息香酸塩又は／およびサリチル酸塩の濃度は約0.5～約50w/v%、好ましくは約3～約20w/v%が好ましい。また、本剤には一般に注射剤に使用される添加剤、例えば安定化剤（アスコルビン酸、ピロ亜硫酸ナトリウム等）、界面活性剤（ポリソルベート80、マクロゴール等）、可溶剤（グリセリン、エタノール等）、緩衝剤（リン酸及びそのアルカリ金属塩、クエ

ン酸及びそのアルカリ金属塩等)、等張化剤(塩化ナトリウム、塩化カリウム等)、分散剤(ヒドロキシプロピルメチルセルロース、デキストリン)、pH調節剤(塩酸、水酸化ナトリウム等)、保存剤(パラオキシ安息香酸エチル、安息香酸等)、溶解剤(濃グリセリン、メグルミン等)、溶解補助剤(プロピレングリコール、白糖等)、無痛化剤(ブドウ糖、ベンジルアルコール等)などを適宜配合することができる。これらの添加剤は一般に注射剤に通常用いられる割合で配合される。注射剤のpHは、pH調節剤の添加により2~12好ましくは2.5~8.0に調整することができる。注射剤は本発明の化合物または併用薬物と所望により安息香酸塩又は／およびサリチル酸塩の双方を、また必要により上記添加剤を水に溶解することにより得られる。これらの溶解はどのような順序で行ってもよく、従来の注射剤の製法と同様に適宜行うことができる。注射用水溶液は加温するのがよく、また通常の注射剤と同様にたとえば濾過滅菌、高圧加熱滅菌などを行うことにより注射剤として供することができる。注射用水溶液は、例えば100℃~121℃の条件で5分~30分高圧加熱滅菌するのがよい。さらに多回分割投与製剤として使用できるように、溶液の抗菌性を付与した製剤としてもよい。

【0183】〔2〕徐放性製剤又は速放性製剤およびその調製

本発明の化合物または併用薬物を含んでなる核を所望により水不溶性物質や膨潤性ポリマーなどの被膜剤で被覆してなる徐放性製剤が好ましい。例えば、1日1回投与型の経口投与用徐放性製剤が好ましい。被膜剤に用いられる水不溶性物質としては、例えばエチルセルロース、ブチルセルロースなどのセルロースエーテル類、セルロースアセテート、セルロースプロピオネートなどのセルロースエステル類、ポリビニルアセテート、ポリビニルブチレートなどのポリビニルエステル類、アクリル酸/メタクリル酸共重合体、メチルメタクリレート共重合体、エトキシエチルメタクリレート/シナモエチルメタクリレート/アミノアルキルメタクリレート共重合体、ポリアクリル酸、ポリメタクリル酸、メタクリル酸アルキルアミド共重合体、ポリ(メタクリル酸メチル)、ポリメタクリレート、ポリメタクリルアミド、アミノアルキルメタクリレート共重合体、ポリ(メタクリル酸アンヒドリド)、グリシジルメタクリレート共重合体、とりわけオイドラギットRS-100、RL-100、RS-30D、RL-30D、RL-PO、RS-PO(アクリル酸エチル・メタクリル酸メチル・メタクリル酸塩化トリメチル・アンモニウムエチル共重合体)、オイドラギットNE-30D(メタクリル酸メチル・アクリル酸エチル共重合体)などのオイドラギット類(ローム・ファーマ社)などのアクリル酸系ポリマー、硬化ヒマシ油(例、ラブリーワックス(フロイント産業)など)などの硬化油、カルナバワックス、脂肪酸グリセリンエステル、パラフィンなどのワックス類、ポリ

グリセリン脂肪酸エステル等が挙げられる。膨潤性ポリマーとしては、酸性の解離基を有し、pH依存性の膨潤を示すポリマーが好ましく、胃内のような酸性領域では膨潤が少なく、小腸や大腸などの中性領域で膨潤が大きくなる酸性の解離基を有するポリマーが好ましい。このような酸性の解離基を有しpH依存性の膨潤を示すポリマーとしては、例えばカーボマー(carbomer)934P、940、941、974P、980、1342等、ポリカーボフィル(polycarbo phil)、カルシウムポリカーボフィル(calcium polycar bophil)(前記はいずれもBFグツドリッチ社製)、ハイビスワコー103、104、105、304(いずれも和光純薬(株)製)などの架橋型ポリアクリル酸重合体が挙げられる。徐放性製剤に用いられる被膜剤は親水性物質をさらに含んでいてもよい。該親水性物質としては、例えばプルラン、デキストリン、アルギン酸アルカリ金属塩などの硫酸基を有していてもよい多糖類、ヒドロキシプロピルセルロース、ヒドロキシプロピルメチルセルロース、カルボキシメチルセルロースナトリウムなどのヒドロキシアルキル基又はカルボキシアルキル基を有する多糖類、メチルセルロース、ポリビニルピロリドン、ポリビニルアルコール、ポリエチレングリコールなどが挙げられる。徐放性製剤の被膜剤における水不溶性物質の含有率は約30ないし約90(w/w)、好ましくは約35ないし約80(w/w)、さらに好ましくは約40ないし75(w/w)、膨潤性ポリマーの含有率は約3ないし約30(w/w)、好ましくは約3ないし約15(w/w)である。被膜剤は親水性物質をさらに含んでいてもよく、その場合被膜剤における親水性物質の含有率は約50(w/w)以下、好ましくは約5~約40(w/w)、さらに好ましくは約5~約35(w/w)である。ここで上記(w/w)は被膜剤液から溶媒(例、水、メタノール、エタノール等の低級アルコール等)を除いた被膜剤組成物に対する重量%を示す。徐放性製剤は、以下に例示するように薬物を含む核を調製し、次いで得られた核を、水不溶性物質や膨潤性ポリマーなどを加熱溶解あるいは溶媒に溶解又は分散させた被膜剤液で被覆することにより製造される。

【0184】I. 薬剤を含む核の調製

被膜剤で被覆される薬物を含む核(以下、単に核と称することがある)の形態は特に制限されないが、好ましくは顆粒あるいは細粒などの粒子状に形成される。核が顆粒又は細粒の場合、その平均粒子径は、好ましくは約150ないし約2,000 μ m、さらに好ましくは約500ないし約1,400 μ mである。核の調製は通常の製造方法で実施することができる。例えば、薬物に適当な賦形剤、結合剤、崩壊剤、滑沢剤、安定化剤等を混合し、湿式押し出し造粒法、流動層造粒法などにより調製する。核の薬物含量は、約0.5ないし約95(w/w)、好ましくは約5ないし約80(w/w)、さらに好ましくは約30ないし約70(w/w)である。核に含まれる賦形剤としては、例えば白糖、乳糖、マンニトール、グルコースなどの糖類、澱粉、結晶セル

ロース、リン酸カルシウム、コーンスターチなどが用いられる。中でも、結晶セルロース、コーンスターチが好ましい。結合剤としては、例えばポリビニルアルコール、ヒドロキシプロピルセルロース、ポリエチレングリコール、ポリビニルピロリドン、プルロニックF68、アラビアゴム、ゼラチン、澱粉などが用いられる。崩壊剤としては、例えばカルボキシメチルセルロースカルシウム(ECG505)、クロスカルメロースナトリウム(Ac-Di-So 1)、架橋型ポリビニルピロリドン(クロスポビドン)、低置換度ヒドロキシプロピルセルロース(L-HPC)などが用いられる。中でも、ヒドロキシプロピルセルロース、ポリビニルピロリドン、低置換度ヒドロキシプロピルセルロースが好ましい。滑沢剤、凝集防止剤としては例えばタルク、ステアリン酸マグネシウム、また潤滑剤としてポリエチレングリコールなどが用いられる。安定化剤としては酒石酸、クエン酸、コハク酸、フマル酸、マレイン酸などの酸が用いられる。核は上記製造法以外にも、例えば核の中心となる不活性担体粒子上に水、低級アルコール(例、メタノール、エタノールなど)等の適当な溶媒に溶解した結合剤をスプレーしながら、薬物あるいはこれと賦形剤、滑沢剤などとの混合物を少量づつ添加して行う転動造粒法、パンコーティング法、流動層コーティング法や溶融造粒法によっても調製することができる。不活性担体粒子としては、例えば白糖、乳糖、澱粉、結晶セルロース、ワックス類で製造されたものが使用でき、その平均粒子径は約 $100\mu\text{m}$ ないし約 $1,500\mu\text{m}$ であるものが好ましい。核に含まれる薬物と被膜剤とを分離するために、防護剤で核の表面を被覆してもよい。防護剤としては、例えば前記親水性物質や、水不溶性物質等が用いられる。防護剤は、好ましくはポリエチレングリコールやヒドロキシアルキル基又はカルボキシアルキル基を有する多糖類、より好ましくはヒドロキシプロピルメチルセルロース、ヒドロキシプロピルセルロースが用いられる。該防護剤には安定化剤として酒石酸、クエン酸、コハク酸、フマル酸、マレイン酸等の酸や、タルクなどの滑沢剤を含んでいてもよい。防護剤を用いる場合、その被覆量は核に対して約1ないし約15%(w/w)、好ましくは約1ないし約10%(w/w)、さらに好ましくは約2ないし約8%(w/w)である。防護剤は通常のコーティング法により被覆することができ、具体的には、防護剤を例えば流動層コーティング法、パンコーティング法等により核にスプレーコーティングすることで被覆することができる。

【0185】II. 核の被膜剤による被覆

前記Iで得られた核を、前記水不溶性物質及びpH依存性の膨潤性ポリマー、および親水性物質を加熱溶解あるいは溶媒に溶解又は分散させた被膜剤液により被覆することにより徐放性製剤が製造される。核の被膜剤液による被覆方法として、例えば噴霧コーティングする方法などが挙げられる。被膜剤液中の水不溶性物質、膨潤性が

リマー又は親水性物質の組成比は、被膜中の各成分の含有率がそれぞれ前記含有率となるように適宜選ばれる。被膜剤の被覆量は、核(防護剤の被覆量を含まない)に対して約1ないし約90%(w/w)、好ましくは約5ないし約50%(w/w)、さらに好ましくは約5ないし35%(w/w)である。被膜剤液の溶媒としては水又は有機溶媒を単独であるいは両者の混液を用いることができる。混液を用いる際の水と有機溶媒との混合比(水/有機溶媒:重量比)は、1ないし100%の範囲で変化させることができ、好ましくは1ないし約30%である。該有機溶媒としては、水不溶性物質を溶解するものであれば特に限定されないが、例えばメチルアルコール、エチルアルコール、イソプロピルアルコール、n-ブチルアルコール等の低級アルコール、アセトンなどの低級アルカノン、アセトニトリル、クロロホルム、メチレンクロライドなどが用いられる。このうち低級アルコールが好ましく、エチルアルコール、イソプロピルアルコールが特に好ましい。水及び水と有機溶媒との混液が被膜剤の溶媒として好ましく用いられる。この時、必要であれば被膜剤液中に被膜剤液安定化のために酒石酸、クエン酸、コハク酸、フマル酸、マレイン酸などの酸を加えてもよい。噴霧コーティングにより被覆する場合の操作は通常のコーティング法により実施することができ、具体的には、被膜剤液を例えば流動層コーティング法、パンコーティング法等により核にスプレーコーティングすることで実施することができる。この時必要であれば、タルク、酸化チタン、ステアリン酸マグネシウム、ステアリン酸カルシウム、軽質無水ケイ酸などを滑沢剤として、グリセリン脂肪酸エステル、硬化ヒマシ油、クエン酸トリエチル、セチルアルコール、ステアリルアルコールなどを可塑剤として添加してもよい。被膜剤による被膜後、必要に応じてタルクなどの帯電防止剤を混合してもよい。速放性製剤は、液状(溶液、懸濁液、乳化物など)であっても固形状(粒子状、丸剤、錠剤など)であってもよい。経口投与剤、注射剤など非経口投与剤が用いられるが、経口投与剤が好ましい。速放性製剤は、通常、活性成分である薬物に加えて、製剤分野で慣用される担体、添加剤や賦形剤(以下、賦形剤と略称することがある)を含んでいてもよい。用いられる製剤賦形剤は、製剤賦形剤として常用される賦形剤であれば特に限定されない。例えば経口固形製剤用の賦形剤としては、乳糖、デンプン、コーンスターチ、結晶セルロース(旭化成(株)製、アビセルPH101など)、粉糖、グラニュー糖、マンニトール、軽質無水ケイ酸、炭酸マグネシウム、炭酸カルシウム、L-システインなどが挙げられ、好ましくはコーンスターチおよびマンニトールなどが挙げられる。これらの賦形剤は一種又は二種以上を組み合わせ使用できる。賦形剤の含有量は速放性製剤全量に対して、例えば約4.5~約99.4w/w%、好ましくは約20~約98.5w/w%、さらに好ましくは約30~約97w/w%である。速放性製剤における薬物の含量

は、速放性製剤全量に対して、約0.5～約95%、好ましくは約1～約60%の範囲から適宜選択することができる。速放性製剤が経口固形製剤の場合、通常上記成分に加えて、崩壊剤を含有する。このような崩壊剤としては、例えばカルボキシメチルセルロースカルシウム（五徳薬品製、ECG-505）、クロスカルメロースナトリウム（例えば、旭化成（株）製、アクジゾル）、クロスポビドン（例えば、BASF社製、コリドンCL）、低置換度ヒドロキシプロピルセルロース（信越化学（株））、カルボキシメチルスターチ（松谷化学（株））、カルボキシメチルスターチナトリウム（木村産業製、エキスプロタブ）、部分 α 化デンプン（旭化成（株）製、PCS）などが用いられ、例えば水と接触して吸水、膨潤、あるいは核を構成している有効成分と賦形剤との間にチャンネルを作るなどにより顆粒を崩壊させるものを用いることができる。これらの崩壊剤は、一種又は二種以上を組み合わせで使用できる。崩壊剤の配合量は、用いる薬物の種類や配合量、放出性の製剤設計などにより適宜選択されるが、速放性製剤全量に対して、例えば約0.05～約30w/w%、好ましくは約0.5～約15w/w%である。速放性製剤が経口固形製剤である場合、経口固形製剤の場合には上記の組成に加えて、所望により固形製剤において慣用の添加剤をさらに含んでもよい。このような添加剤としては、例えば結合剤（例えば、ショ糖、ゼラチン、アラビアゴム末、メチルセルロース、ヒドロキシプロピルセルロース、ヒドロキシプロピルメチルセルロース、カルボキシメチルセルロース、ポリビニルピロリドン、プルラン、デキストリンなど）、滑沢剤（例えば、ポリエチレングリコール、ステアリン酸マグネシウム、タルク、軽質無水ケイ酸（例えば、アエロジル（日本アエロジル））、界面活性剤（例えば、アルキル硫酸ナトリウムなどのアニオン系界面活性剤、ポリオキシエチレン脂肪酸エステルおよびポリオキシエチレンソルビタン脂肪酸エステル、ポリオキシエチレンヒマシ油誘導体等の非イオン系界面活性剤など）、着色剤（例えば、タール系色素、カラメル、ベンガラ、酸化チタン、リボフラビン類）、必要ならば、矯味剤（例えば、甘味剤、香料など）、吸着剤、防腐剤、湿潤剤、帯電防止剤などが用いられる。また、安定化剤として酒石酸、クエン酸、コハク酸、フマル酸などの有機酸を加えてもよい。上記結合剤としては、ヒドロキシプロピルセルロース、ポリエチレングリコールおよびポリビニルピロリドンなどが好ましく用いられる。速放性製剤は、通常の製剤の製造技術に基づき、前記各成分を混合し、必要により、さらに練合し、成型することにより調製することができる。上記混合は、一般に用いられる方法、例えば、混合、練合などにより行われる。具体的には、例えば速放性製剤を粒子状に形成する場合、前記徐放性製剤の核の調製法と同様の手法により、バーチカルグラニュレーター、万能練合機（畑鉄工所製）、流動層造粒機FD-5S（パウレック社製）

等を用いて混合しその後、湿式押し出し造粒法、流動層造粒法などにより造粒することにより調製することができる。このようにして得られた速放性製剤と徐放性製剤とは、そのままあるいは適宜、製剤賦形剤等と共に常法により別々に製剤化後、同時あるいは任意の投与間隔を挟んで組み合わせて投与する製剤としてもよく、また両者をそのままあるいは適宜、製剤賦形剤等と共に一つの経口投与製剤（例、顆粒剤、細粒剤、錠剤、カプセル等）に製剤化してもよい。両製剤を顆粒あるいは細粒に製して、同一のカプセル等に充填して経口投与用製剤としてもよい。

【0186】〔3〕舌下錠、バツカル又は口腔内速崩壊剤およびその調製

舌下錠、バツカル製剤、口腔内速崩壊剤は錠剤などの固形製剤であってもよいし、口腔粘膜貼付錠（フィルム）であってもよい。舌下錠、バツカル又は口腔内速崩壊剤としては、本発明の化合物または併用薬物と賦形剤とを含有する製剤が好ましい。また、滑沢剤、等張化剤、親水性担体、水分散性ポリマー、安定化剤などの補助剤を含有していてもよい。また、吸収を容易にし、生体内利用率を高めるために β -シクロデキストリン又は β -シクロデキストリン誘導体（例、ヒドロキシプロピル- β -シクロデキストリンなど）などを含有していてもよい。上記賦形剤としては、乳糖、白糖、D-マンニトール、デンプン、結晶セルロース、軽質無水ケイ酸などが挙げられる。滑沢剤としてはステアリン酸マグネシウム、ステアリン酸カルシウム、タルク、コロイドシリカなどが挙げられ、特に、ステアリン酸マグネシウムやコロイドシリカが好ましい。等張化剤としては塩化ナトリウム、グルコース、フルクトース、マンニトール、ソルビトール、ラクトース、サッカロース、グリセリン、尿素などが挙げられ、特にマンニトールが好ましい。親水性担体としては結晶セルロース、エチルセルロース、架橋性ポリビニルピロリドン、軽質無水ケイ酸、ケイ酸、リン酸二カルシウム、炭酸カルシウムなどの膨潤性親水性担体が挙げられ、特に結晶セルロース（例、微結晶セルロースなど）が好ましい。水分散性ポリマーとしてはガム（例、トラガカントガム、アカシアガム、グアーガム）、アルギン酸塩（例、アルギン酸ナトリウム）、セルロース誘導体（例、メチルセルロース、カルボキシメチルセルロース、ヒドロキシメチルセルロース、ヒドロキシプロピルセルロース、ヒドロキシプロピルメチルセルロース）、ゼラチン、水溶性デンプン、ポリアクリル酸（例、カーボマー）、ポリメタクリル酸、ポリビニルアルコール、ポリエチレングリコール、ポリビニルピロリドン、ポリカーボフィル、アスコルビン酸パルミチン酸エステルなどが挙げられ、ヒドロキシプロピルメチルセルロース、ポリアクリル酸、アルギン酸塩、ゼラチン、カルボキシメチルセルロース、ポリビニルピロリドン、ポリエチレングリコールなどが好ましい。特にヒドロキ

シプロピルメチルセルロースが好ましい。安定化剤としては、システイン、チオソルビトール、酒石酸、クエン酸、炭酸ナトリウム、アスコルビン酸、グリシン、亜硫酸ナトリウムなどが挙げられ、特に、クエン酸やアスコルビン酸が好ましい。

【0187】舌下錠、バッカル又は口腔内速崩壊剤は、本発明の化合物または併用薬物と賦形剤とを自体公知の方法により混合することにより製造することができる。さらに、所望により上記した滑沢剤、等張化剤、親水性担体、水分散性ポリマー、安定化剤、着色剤、甘味剤、防腐剤などの補助剤を混合してもよい。上記成分を同時に若しくは時間差をおいて混合した後、加圧打錠成形することにより舌下錠、バッカル錠又は口腔内速崩壊錠が得られる。適度な硬度を得るため、打錠成形の過程の前後において必要に応じ水やアルコールなどの溶媒を用いて加湿・湿潤させ、成形後、乾燥させて製造してもよい。粘膜貼付錠（フィルム）に成型する場合は、本発明の化合物または併用薬物および上記した水分散性ポリマー（好ましくは、ヒドロキシプロピルセルロース、ヒドロキシプロピルメチルセルロース）、賦形剤などを水などの溶媒に溶解させ、得られる溶液を流延させて（cast）フィルムとする。さらに、可塑剤、安定剤、酸化防止剤、保存剤、着色剤、緩衝剤、甘味剤などの添加物を加えてもよい。フィルムに適度の弾性を与えるためポリエチレングリコールやプロピレングリコールなどのグリコール類を含有させたり、口腔の粘膜ライニングへのフィルムの接着を高めるため生物接着性ポリマー（例、ポリカーボフィル、カーボポール）を含有させてもよい。流延は、非接着性表面に溶液を注ぎ、ドクターブレードなどの塗布用具で均一な厚さ（好ましくは10～1000ミクロン程度）にそれを広げ、次いで溶液を乾燥してフィルムを形成することにより達成される。このように形成されたフィルムは室温若しくは加温下乾燥させ、所望の表面積に切断すればよい。好ましい口腔内速崩壊剤としては、本発明の化合物または併用薬物と、本発明の化合物または併用薬物とは不活性である水溶性若しくは水拡散性キャリアーとの網状体からなる固体状の急速拡散投与剤が挙げられる。該網状体は、本発明の化合物または併用薬物を適当な溶媒に溶解した溶液とから構成されている固体状の該組成物から溶媒を昇華することによって得られる。該口腔内速崩壊剤の組成物中には、本発明の化合物または併用薬物に加えて、マトリックス形成剤と二次成分とを含んでいるのが好ましい。該マトリックス形成剤としてはゼラチン類、デキストリン類ならびに大豆、小麦ならびにオオバコ（psyllium）種子タンパクなどの動物性タンパク類若しくは植物性タンパク類；アラビアゴム、ガーガム、寒天ならびにキサンタンなどのゴム質物質；多糖類；アルギン酸類；カルボキシメチルセルロース類；カラゲナン類；デキストラン類；ペクチン類；ポリビニルピロリドンなどの合成ポリマー類；ゼラ

チン-アラビアゴムコンプレックスなどから誘導される物質が含まれる。さらに、マンニトール、デキストロース、ラクトース、ガラクトースならびにトレハロースなどの糖類；シクロデキストリンなどの環状糖類；リン酸ナトリウム、塩化ナトリウムならびにケイ酸アルミニウムなどの無機塩類；グリシン、L-アラニン、L-アスパラギン酸、L-グルタミン酸、L-ヒドロキシプロリン、L-イソロイシン、L-ロイシンならびにL-フェニルアラニンなどの炭素原子数が2から12までのアミノ酸などが含まれる。マトリックス形成剤は、その1種若しくはそれ以上を、固化化の前に、溶液又は懸濁液中に導入することができる。かかるマトリックス形成剤は、界面活性剤に加えて存在していてもよく、また界面活性剤が排除されて存在していてもよい。マトリックス形成剤はそのマトリックスを形成することに加えて、本発明の化合物または併用薬物の拡散状態をその溶液又は懸濁液中に維持する助けをすることができる。

【0188】保存剤、酸化防止剤、界面活性剤、増粘剤、着色剤、pH調整剤、香味料、甘味料若しくは食味マスキング剤などの二次成分を組成物中に含有してよい。適当な着色剤としては、赤色、黒色ならびに黄色酸化鉄類およびエリス・アンド・エベラールド社のFD&Cブルー2号ならびにFD&Cレッド40号などのFD&C染料が挙げられる。適当な香味料には、ミント、ラズベリー、甘草、オレンジ、レモン、グレープフルーツ、カラメル、バニラ、チェリーならびにグレープフレーバーおよびその組合せたものが含まれる。適当なpH調整剤は、クエン酸、酒石酸、リン酸、塩酸およびマレイン酸が含まれる。適当な甘味料としてはアスパルテーム、アセスルフェームKならびにタウマチンなどが含まれる。適当な食味マスキング剤としては、重炭酸ナトリウム、イオン交換樹脂、シクロデキストリン包接化合物、吸着質物質ならびにマイクロカプセル化アポモルフィンが含まれる。製剤には通常約0.1～約50重量%、好ましくは約0.1～約30重量%の本発明の化合物または併用薬物を含み、約1分～約60分の間、好ましくは約1分～約15分の間、より好ましくは約2分～約5分の間（水に）本発明の化合物または併用薬物の90%以上を溶解させることが可能な製剤（上記、舌下錠、バッカルなど）や、口腔内に入れられて約1ないし約60秒以内に、好ましくは約1ないし約30秒以内に、さらに好ましくは約1ないし約10秒以内に崩壊する口腔内速崩壊剤が好ましい。上記賦形剤の製剤全体に対する含有量は、約10～約99重量%、好ましくは約30～約90重量%である。β-シクロデキストリン又はβ-シクロデキストリン誘導体の製剤全体に対する含有量は0～約30重量%である。滑沢剤の製剤全体に対する含有量は、約0.01～約10重量%、好ましくは約1～約5重量%である。等張化剤の製剤全体に対する含有量は、約0.1～約90重量%、好ましくは、約10～約70重量%である。親水性担体の製剤全体に対する含有量は約0.1～約50重量%、好ましく

は約10～約30重量%である。水分散性ポリマーの製剤全体に対する含有量は、約0.1～約30重量%、好ましくは約10～約25重量%である。安定化剤の製剤全体に対する含有量は約0.1～約10重量%、好ましくは約1～約5重量%である。上記製剤はさらに、着色剤、甘味剤、防腐剤などの添加剤を必要に応じ含有していてもよい。

【0189】本発明の併用剤の投与量は、本発明の化合物の種類、年齢、体重、症状、剤形、投与方法、投与期間などにより異なるが、例えば、患者（成人、体重約60 kg）一人あたり、通常、本発明の化合物および併用薬物として、それぞれ1日約0.01～約1000mg/kg、好ましくは約0.01～約100mg/kg、より好ましくは約0.1～約100mg/kg、とりわけ約0.1～約50mg/kgを、なかでも約1.5～約30 mg/kgを1日1回から数回に分けて静脈投与される。もちろん、前記したように投与量は種々の条件で変動するので、前記投与量より少ない量で十分な場合もあり、また範囲を超えて投与する必要のある場合もある。併用薬物は、副作用が問題とならない範囲でどのような量を設定することも可能である。併用薬物としての一日投与量は、症状の程度、投与対象の年齢、性別、体重、感受性差、投与の時期、間隔、医薬剤の性質、調剤、種類、有効成分の種類などによって異なり、特に限定されないが、薬物の量として通常、たとえば経口投与で哺乳動物1kg体重あたり約0.001～2000mg、好ましくは約0.01～500mg、さらに好ましくは、約0.1～100mg程度であり、これを通常1日1～4回に分けて投与する。本発明の併用剤を投与するに際しては、同時期に投与してもよいが、併用薬物を先に投与した後、本発明の化合物を投与してもよいし、本発明の化合物を先に投与し、その後で併用薬物を投与してもよい。時間差を置いて投与する場合、時間差は投与する有効成分、剤形、投与方法により異なるが、例えば、併用薬物を先に投与する場合、併用薬物を投与した後1分～3日以内、好ましくは10分～1日以内、より好ましくは15分～1時間以内に本発明の化合物を投与する方法が挙げられる。本発明の化合物を先に投与する場合、本発明の化合物を投与した後、1分～1日以内、好ましくは10分～6時間以内、より好ましくは15分から1時間以内に併用薬物を投与する方法が挙げられる。

【0190】

【発明の実施の形態】本発明は、更に以下の参考例、合成例、実施例および試験例によって詳しく説明されるが、これらの例は単なる実施であって、本発明を限定するものではなく、また本発明の範囲を逸脱しない範囲で変化させてもよい。以下の参考例および合成例中の「室温」は通常約10℃ないし約35℃を示す。%は、収率はmmol/mol%を、クロマトグラフィーで用いられる溶媒は体積%を、その他は重量%を示す。また塩基性シリカゲルは、富士シリシア化学株式会社製 NH-DM1020を用いた。プロトンNMRスペクトルで、OHやNHプロトン等ブロードで確認できないものについてはデータに記載していな

い。

その他の本文中で用いられている略号は下記の意味を示す。

s : シングレット (singlet)

d : ダブルレット (doublet)

t : トリプレット (triplet)

q : クアルテット (quartet)

m : マルチプレット (multiplet)

br : ブロード (broad)

J : カップリング定数 (coupling constant)

Hz : ヘルツ (Hertz)

CDCl₃ : 重クロロホルム

DMSO-d₆ : 重ジメチルスルホキシド

¹H NMR : プロトン核磁気共鳴

【0191】試験例中、大腸菌を用いての遺伝子操作法は、モレキュラー・クローニング (Molecular cloning) に記載されている方法に従った。本明細書の配列表の配列番号は、以下の配列を示す。

【配列番号：1】試験例1において使用したプライマー1の塩基配列を示す。

【配列番号：2】試験例1において使用したプライマー2の塩基配列を示す。

【配列番号：3】試験例1において使用したプライマー3の塩基配列を示す。

【配列番号：4】試験例1において使用したプライマー4の塩基配列を示す。

【配列番号：5】試験例1において使用したプライマー5の塩基配列を示す。

【配列番号：6】試験例1において使用したプライマー6の塩基配列を示す。

【0192】

【実施例】参考例1

4-ヒドロキシ-3-メトキシ-5-(2-メチル-2-プロペニル)ベンズアルデヒド

バニリン (25.6 g, 0.168 mol) の N,N-ジメチルホルムアミド (150 mL) 溶液に3-クロロ-2-メチル-1-プロペン (19.9 mL, 0.202 mol) および炭酸カリウム (30.2 g, 0.219 mol) を加え、窒素雰囲気下 75℃ で 2.5 時間攪拌した。反応混合物に水を加え、酢酸エチルで3回抽出した。合わせた有機層を水で2回洗浄、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー（ヘキサン/酢酸エチル 5:1）に供し、3-メトキシ-4-(2-メチル-2-プロペニルオキシ)ベンズアルデヒド (35.4 g) を油状物として得た。この 34.3 g を N,N-ジエチルアニリン (80 mL) に溶解し、窒素雰囲気下、200℃ で 5 時間攪拌した。反応混合物をジイソプロピルエーテルに溶解し、1 M 塩酸 (2回)、飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸マグネシウム上で乾燥、活性炭処理、ろ過、減圧濃縮した。残渣をジイソプロピルエーテル-ヘキサンから結晶化させて表題化合物 (27.1 g、収率 79%) を

得た。

融点 53-54 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.75 (3H, s), 3.42 (2H, s), 3.97 (3H, s), 4.69-4.75 (1H, m), 4.82-4.97 (1H, m), 6.31 (1H, s), 7.31 (2H, s), 9.81 (1H, s)。

参考例 2

4-ヒドロキシ-3-エトキシ-5-(2-メチル-2-プロペニル)ベンズアルデヒド

3-エトキシ-4-ヒドロキシベンズアルデヒド (25.6 g, 0.154 mol) の N,N-ジメチルホルムアミド (150 mL) 溶液に 3-クロロ-2-メチル-1-プロペン (16.7 mL, 0.169 mol) および炭酸カリウム (24.5 g, 0.177 mol) を加え、窒素雰囲気下 80 °C で 3 時間攪拌した。反応混合物に水を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水で 2 回洗浄、減圧濃縮して、3-エトキシ-4-(2-メチル-2-プロペニルオキシ)ベンズアルデヒド (35.5 g) を油状物として得た。これを N,N-ジエチルアニリン (25 mL) に溶解し、窒素雰囲気下、210 °C で 5 時間攪拌した。反応混合物を酢酸エチルに溶解し、1 M 塩酸で 2 回、水で 2 回洗浄、減圧濃縮した。残渣をジイソプロピルエーテル-ヘキサンから結晶化させて表題化合物 (26.7 g, 収率 79%) を得た。

融点 85-86 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.48 (3H, t, J = 7.0 Hz), 1.75 (3H, s), 3.42 (2H, s), 4.20 (2H, q, J = 7.0 Hz), 4.68-4.73 (1H, m), 4.82-4.87 (1H, m), 6.34 (1H, s), 7.29 (2H, s), 9.80 (1H, s)。

【0193】参考例 3

2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフランカルボキサリド

4-ヒドロキシ-3-メトキシ-5-(2-メチル-2-プロペニル)ベンズアルデヒド (26.2 g, 0.127 mol) のトルエン (130 mL) 溶液に三フッ化ホウ素ジエチルエーテル錯体 (17.2 mL, 0.140 mol) を加え、110 °C で 1 時間攪拌した。反応混合物を水および飽和炭酸水素ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウムおよびシリカゲルを通して乾燥 (ヘキサン/酢酸エチル 3:1 で溶出)、減圧濃縮した。残渣をジイソプロピルエーテル-ヘキサンから結晶化させて表題化合物 (17.1 g, 収率 65%) を得た。

融点 58-59 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.56 (6H, s), 3.11 (2H, s), 3.94 (3H, s), 7.28-7.35 (2H, m), 9.80 (1H, s)。

(別途合成法) 4-ヒドロキシ-3-メトキシ-5-(2-メチル-2-プロペニル)ベンズアルデヒド (88.4 g, 0.429 mol) および Amberlyst 15 (商品名) (17 g) のトルエン (300 mL) 懸濁液を 100 °C で 1.5 時間攪拌した。反応混合物をろ過し、酢酸エチルで洗浄した。ろ液を 0.5 M 水酸化ナトリウム水溶液および水 (2 回) で洗浄、減圧濃縮した。残渣をジイソプロピルエーテル-ヘキサンから結晶化させて表題化合物 (72.1 g, 収率 82%) を得

た。

参考例 4

7-エトキシ-2,3-ジヒドロ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフランカルボキサリド

3-エトキシ-4-ヒドロキシ-5-(2-メチル-2-プロペニル)ベンズアルデヒド (28.9 g, 0.131 mol) のトルエン (150 mL) 溶液に三フッ化ホウ素ジエチルエーテル錯体 (17.8 mL, 0.145 mol) を加え、100 °C で 1 時間攪拌した。反応混合物を水、飽和炭酸水素ナトリウムおよび飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウムおよびシリカゲルを通して乾燥 (ヘキサン/酢酸エチル 5:1 で溶出)、減圧濃縮して表題化合物 (26.8 g, 収率 93%) を得た。

融点 33-36 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.47 (3H, t, J = 7.0 Hz), 1.56 (6H, s), 3.09 (2H, s), 4.19 (2H, q, J = 7.0 Hz), 7.26-7.35 (2H, m), 9.78 (1H, s)。

【0194】参考例 5

2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-(2-メチル-1-プロペニル)ベンゾフラン

2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフランカルボキサリド (1.50 g, 7.27 mmol) およびイソプロピルトリフェニルホスホニウムヨード (3.77 g, 8.73 mmol) のテトラヒドロフラン (20 mL) 懸濁液に水素化ナトリウム (66% 油分散物) (397 mg, 11 mmol) を加え、1.5 時間加熱還流した。反応混合物を 10% 塩化アンモニウム水溶液に注ぎ、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸マグネシウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 50:1 のあと 30:1) に供し、表題化合物 (1.22 g, 収率 72%) を得た。

油状物。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.51 (6H, s), 1.867 (3H, d, J = 1.4 Hz), 1.874 (3H, d, J = 1.4 Hz), 3.02 (2H, s), 3.85 (3H, s), 6.20 (1H, s), 6.61 (1H, s), 6.65 (1H, s)。

【別途合成法】グアヤコール (124 g, 1.00 mol) の N,N-ジメチルホルムアミド (500 mL) 溶液に 3-クロロ-2-メチル-1-プロペン (128 mL, 1.30 mol) および炭酸カリウム (166 g, 1.20 mol) を加え、窒素雰囲気下 80 °C で 5 時間攪拌した。反応混合物に水を加え、ヘキサンで 2 回抽出した。合わせた有機層を 0.5 M 水酸化ナトリウム水溶液および水でそれぞれ 2 回洗浄、減圧濃縮して 1-メトキシ-2-[(2-メチル-2-プロペニル)オキシ]ベンゼン (178 g) を油状物として得た。これを N,N-ジエチルアニリン (250 mL) に溶解し、窒素雰囲気下、205 °C で 5 時間攪拌した。反応混合物を氷冷し、2 M 塩酸 (850 mL) を加え、酢酸エチルで抽出した。有機層を水で 2 回洗浄、減圧濃縮して、2-メトキシ-6-(2-メチル

167

-2-プロペニル)フェノール (178 g) を油状物として得た。これを N,N-ジメチルホルムアミド (600 mL) に溶解し、3-クロロ-2-メチル-1-プロペン (128 mL, 1.30 mol) および炭酸カリウム (166 g, 1.20 mol) を加え、窒素雰囲気下 80 °C で 7 時間攪拌した。反応混合物に水を加え、ヘキサンで 2 回抽出した。合わせた有機層を水、0.5 M 水酸化ナトリウム水溶液および水でそれぞれ 2 回洗浄、減圧濃縮して 1-メトキシ-3-(2-メチル-2-プロペニル)-2-[(2-メチル-2-プロペニル)オキシ]ベンゼン (231 g) を油状物として得た。これを N,N-ジエチルアニリン (250 mL) に溶解し、窒素雰囲気下、205 °C で 5 時間攪拌した。反応混合物を氷冷し、2 M 塩酸 (850 mL) を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水で 2 回洗浄、減圧濃縮した。残渣を減圧蒸留して 2-メトキシ-4,6-ビス(2-メチル-2-プロペニル)フェノール (186 g、収率 80%) を得た。

沸点 104-115 °C /0.11 kPa (0.8 mmHg)。

この 164 g (0.706 mol) をエタノール (300 mL) に溶解し、濃塩酸 (75 mL) およびエタノール (75 mL) の混合物を加え、13 時間加熱還流した。反応混合物にヘキサンと水を加え、有機層を分離、水層をヘキサンで抽出した。合わせた有機層を水、5 M 水酸化ナトリウム水溶液、および水 (2 回) で洗浄、活性炭処理、ろ過、減圧濃縮して表題化合物 (163 g) を油状物として得た。このものはこれ以上精製することなく次の反応に用いた。

【0195】参考例 6

7-エトキシ-2,3-ジヒドロ-2,2-ジメチル-5-(2-メチル-1-プロペニル)ベンゾフラン

参考例 5 と同様の方法により、7-エトキシ-2,3-ジヒドロ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフランカルボキサルデヒドから表題化合物を得た。収率 91%。

油状物。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.42 (3H, t, J = 6.9 Hz), 1.51 (6H, s), 1.83-1.89 (6H, m), 3.00 (2H, s), 4.11 (2H, q, J = 6.9 Hz), 6.18 (1H, br s), 6.61 (1H, s), 6.64 (1H, s)。

参考例 7

1-(2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフランニル)-2-メチル-1-プロパノール

15% イソプロピルマグネシウムブロミド/テトラヒドロフラン溶液 (101 g, 0.10 mol) に 2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフランカルボキサルデヒド (20.2 g, 97.9 mmol) のテトラヒドロフラン (100 mL) 溶液を滴下、室温で 40 分間攪拌した。反応混合物を飽和塩化アンモニウム水溶液に注ぎ、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水で 2 回洗浄、活性炭処理、ろ過、減圧濃縮した。残渣を酢酸エチル-ヘキサンから再結晶して表題化合物 (17.4 g、収率 71%) を得た。

融点 113-116 °C。

168

¹H NMR (CDCl₃) δ 0.78 (3H, d, J = 7.0 Hz), 1.03 (3H, d, J = 6.6 Hz), 1.51 (6H, s), 1.92 (1H, sextet, J = 6.9 Hz), 3.02 (2H, s), 3.87 (3H, s), 4.23 (1H, d, J = 7.6 Hz), 6.71 (2H, s)。

参考例 8

酢酸 1-(2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフランニル)-2-メチル-1-プロピルエステル

1-(2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフランニル)-2-メチル-1-プロパノール (937 mg, 3.74 mmol) のピリジン (5 mL) 溶液に氷冷下無水酢酸 (0.35 mL, 3.7 mmol) を滴下、60 °C で 2 時間攪拌した。反応混合物をジイソプロピルエーテルに溶解し、水、1 M 塩酸 (2 回)、飽和炭酸水素ナトリウム水溶液、水で洗浄、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 20:1 の後 10:1) に供し、表題化合物 (915 mg、収率 84%) を得た。

油状物。

¹H NMR (CDCl₃) δ 0.78 (3H, d, J = 6.6 Hz), 0.98 (3H, d, J = 6.6 Hz), 1.50 (6H, s), 1.95-2.17 (1H, m), 2.06 (3H, s), 3.01 (2H, s), 3.86 (3H, s), 5.35 (1H, d, J = 8.4 Hz), 6.66 (1H, s), 6.71 (1H, s)。

【0196】参考例 9

2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-(2-メチル-2-プロペニル)ベンゾフラン

グアヤコール (12.5 g, 0.101 mol) のジクロロメタン (50 mL) 溶液に臭素 (5.3 mL, 0.10 mol) のジクロロメタン (10 mL) 溶液を -10 °C で 50 分間かけて滴下、室温で 1 時間攪拌した。反応混合物に水を加え、有機層を分離、水層をジクロロメタンで抽出した。合わせた有機層を飽和炭酸水素ナトリウム水溶液および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸マグネシウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮して油状物を得た。これを N,N-ジメチルホルムアミド (80 mL) に溶解し、3-クロロ-2-メチル-1-プロペン (11 mL, 0.11 mol) および炭酸カリウム (16.6 g, 0.120 mol) を加え、窒素雰囲気下 80 °C で 3 時間攪拌した。反応混合物に水を加え、酢酸エチル/ヘキサン (1:1) で 2 回抽出した。合わせた有機層を 0.5 M 水酸化ナトリウム水溶液および水 (2 回) で洗浄、活性炭処理、ろ過、減圧濃縮して油状物を得た。これを N,N-ジエチルアニリン (20 mL) に溶解し、窒素雰囲気下、205 °C で 5 時間攪拌した。反応混合物をジイソプロピルエーテルに溶解し、1 M 塩酸 (2 回) および水で洗浄、活性炭処理、ろ過、減圧濃縮して油状物を得た。これをエタノール (40 mL) に溶解し、濃塩酸 (10 mL) およびエタノール (10 mL) の混合物を加え、2.5 時間加熱還流した。反応混合物にヘキサンを加え、有機層を分離、水層をヘキサンおよびジイソプロピルエーテルで抽出した。合わせた有機層を 2 M 水酸化ナトリウム水溶液 (2 回) および水で洗浄し、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸

エチル 20:1) に供して油状物 (15.7 g) を得た。この 2.57 g をテトラヒドロフラン (10 mL) に溶解し、1.6 M n-ブチルリチウム/ヘキサン溶液 (7.5 mL, 12 mmol) を -40 °C で滴下、同温で 1 時間攪拌した。これにヨウ化銅(I) (1.14 g, 5.99 mmol) を加えて -40 °C で 20 分間攪拌した。得られた混合物に 3-クロロ-2-メチル-1-プロペン (1.1 mL, 11 mmol) を滴下し、室温で 1 時間攪拌した。反応混合物を氷水に注ぎ、不溶物をろ過、酢酸エチルで洗浄した。有機層を分離、水層を酢酸エチルで抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸マグネシウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 50:1) に供し、表題化合物 (1.77 g、収率 46%) を得た。

油状物。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.50 (6H, s), 1.69 (3H, s), 3.00 (2H, s), 3.24 (2H, s), 3.85 (3H, s), 4.74 (1H, br s), 4.79 (1H, br s), 6.55 (1H, s), 6.59 (1H, s)。

【0197】参考例 10

6-エトキシ-1, 2, 3, 4, 8, 9-ヘキサヒドロ-3, 3, 8, 8-テトラメチル-1-フェニルフロ[2, 3-h]イソキノリン

6-エトキシ-3, 4, 8, 9-テトラヒドロ-3, 3, 8, 8-テトラメチル-1-フェニルフロ[2, 3-h]イソキノリン (2.27 g, 6.50 mmol) のメタノール (30 mL) 溶液に 0.8 M 塩化水素/メタノール溶液 (9.7 mL) を滴下した。得られた混合物を氷冷し、水素化ホウ素ナトリウム (90%) (0.28 g, 7.8 mmol) を少しずつ加え、室温で 10 分間攪拌した。反応混合物に水を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮して表題化合物 (2.20 g、収率 96%) を得た。

ガム状。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.16 (3H, s), 1.21 (3H, s), 1.24 (3H, s), 1.34 (3H, s), 1.43 (3H, t, $J = 7.0$ Hz), 1.76 (1H, d, $J = 15.7$ Hz), 2.43 (1H, d, $J = 15.7$ Hz), 2.54 (1H, d, $J = 15.0$ Hz), 2.80 (1H, d, $J = 15.0$ Hz), 4.11 (2H, q, $J = 7.0$ Hz), 4.93 (1H, s), 6.49 (1H, s), 7.16-7.38 (5H, m)。

参考例 11

1, 2, 3, 4, 8, 9-ヘキサヒドロ-6-メトキシ-3, 3, 8, 8-テトラメチル-1-フェニルフロ[2, 3-h]イソキノリン

参考例 10 と同様の方法により 3, 4, 8, 9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3, 3, 8, 8-テトラメチル-1-フェニルフロ[2, 3-h]イソキノリンから表題化合物を得た。定量的。

非晶質。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.17 (3H, s), 1.21 (3H, s), 1.24 (3H, s), 1.34 (3H, s), 1.76 (1H, d, $J = 15.8$ Hz), 2.44 (1H, d, $J = 15.8$ Hz), 2.55 (1H, d, $J = 15.0$ Hz), 2.81 (1H, d, $J = 15.0$ Hz), 3.86 (3H, s), 4.93 (1H, s), 6.49 (1H, s), 7.13-7.38 (5H, m)。

【0198】参考例 12

4-(6-エトキシ-1, 2, 3, 4, 8, 9-ヘキサヒドロ-3, 3, 8, 8-テトラメチルフロ[2, 3-h]イソキノリン-1-イル)ベンズアミド

参考例 10 と同様の方法により 4-(6-エトキシ-3, 4, 8, 9-テトラヒドロ-3, 3, 8, 8-テトラメチルフロ[2, 3-h]イソキノリン-1-イル)ベンズアミドから表題化合物を得た。収率 96%。

融点 157-163 °C (酢酸エチル-ヘキサン)。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.17 (3H, s), 1.22 (3H, s), 1.24 (3H, s), 1.34 (3H, s), 1.43 (3H, t, $J = 7.0$ Hz), 1.76 (1H, d, $J = 15.5$ Hz), 2.42 (1H, d, $J = 15.5$ Hz), 2.54 (1H, d, $J = 15.4$ Hz), 2.82 (1H, d, $J = 15.4$ Hz), 4.11 (2H, q, $J = 7.0$ Hz), 5.00 (1H, s), 5.45-6.40 (2H, m), 6.50 (1H, s), 7.33 (2H, d, $J = 8.2$ Hz), 7.75 (2H, d, $J = 8.2$ Hz)。

参考例 13

3-(2, 3-ジヒドロ-7-メトキシ-2, 2-ジメチル-5-ベンゾフラン-1-イル)-3-ヒドロキシ-2, 2-ジメチルプロピオン酸 エチルエステル

1, 1, 1, 3, 3, 3-ヘキサメチルジシラザン (1.88 g, 11.6 mmol) のテトラヒドロフラン (40 mL) 溶液に、-78 °C で 1.53 M n-ブチルリチウム/ヘキサン溶液 (7.61 mL, 11.6 mmol) を滴下し、混合物を同温度で 15 分間攪拌した。反応混合物にイソ酪酸エチル (1.35 g, 11.6 mmol) のテトラヒドロフラン (1 mL) 溶液を滴下し、混合物を氷冷下で 30 分間攪拌した。反応混合物を再び -78 °C に冷却した後 2, 3-ジヒドロ-7-メトキシ-2, 2-ジメチル-5-ベンゾフランカルボキサルデヒド (2.00 g, 9.70 mmol) のテトラヒドロフラン (3 mL) 溶液を滴下した。反応混合物を 1 時間攪拌した後、塩化アンモニウム水溶液を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を水洗した後、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 4:1 から 13:7) に供し、表題化合物 (1.56 g、収率 50%) を得た。

油状物。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.11 (3H, s), 1.16 (3H, s), 1.28 (3H, t, $J = 7.2$ Hz), 1.50 (6H, s), 3.01 (2H, s), 3.86 (3H, s), 4.18 (2H, q, $J = 7.2$ Hz), 4.80 (1H, s), 6.70 (1H, s), 6.71 (1H, s)。

(別途合成法) 亜鉛 (粉末, 11 g, 170 mmol) とトルエン (300 mL) の混合物に 2, 3-ジヒドロ-7-メトキシ-2, 2-ジメチル-5-ベンゾフランカルボキサルデヒド (17 g, 82 mmol) と 2-プロモイソ酪酸 エチルエステル (35 g, 180 mmol) のトルエン (300 mL) 溶液を 100 °C で加えた。反応液を 3 時間加熱還流した。反応液を室温まで冷却した後、不溶物を濾別した。濾液を 1 M 塩酸ならびに飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄した後、硫酸マグネシウムで乾燥し、減圧下で溶媒を留去した。得られた残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン

/酢酸エチル 5:1)で精製して、表題化合物 (17 g、収率 62%) を得た。

【0199】参考例 14

3-(2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフラン-2,2-ジメチルプロピオン酸 エチルエステル 3-(2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフラン-3-ヒドロキシ-2,2-ジメチルプロピオン酸 エチルエステル (1.50 g、4.65 mmol) およびトリエチルシラン (0.817 mL、5.12 mmol) のジクロロメタン (15 mL) 溶液に、氷冷下で三フッ化ホウ素ジエチルエーテル錯体 (0.648 mL、5.12 mmol) を加え、混合物を氷冷下で 1 時間攪拌した。反応混合物に飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を水洗した後、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 9:1) に供し、表題化合物 (1.30 g、収率 91%) を得た。

油状物。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.17 (6H, s), 1.24 (3H, t, $J=7.4$ Hz), 1.49 (6H, s), 2.77 (2H, s), 2.98 (2H, s), 3.83 (3H, s), 4.11 (2H, q, $J=7.4$ Hz), 6.49 (1H, s), 6.52 (1H, s)。

参考例 15

3-(2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフラン-2,2-ジメチルプロピオン酸 3-(2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフラン-2,2-ジメチルプロピオン酸 エチルエステル (1.25 g、4.08 mmol) のメタノール (10 mL) 溶液に、2 M 水酸化ナトリウム水溶液を加え、混合物を 1.5 時間攪拌した。反応混合物を 1 M 塩酸で酸性にし、酢酸エチルで抽出した。抽出液を水洗した後、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 3:2) に供した後、ヘキサン-酢酸エチルから再結晶し、表題化合物 (0.87 g、収率 69%) を得た。融点 88-89 °C。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.21 (6H, s), 1.50 (6H, s), 2.81 (2H, s), 2.99 (2H, s), 3.82 (3H, s), 6.55 (2H, s)。

参考例 16

N-[2-(2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフラン-1,1-ジメチルエチル)-N'-フェニル尿素 3-(2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフラン-2,2-ジメチルプロピオン酸 (0.80 g、2.87 mmol) およびジフェニルホスホリルアジド (0.650 mL、3.01 mmol) のトルエン (5 mL) 溶液に、トリエチルアミン (0.421 mL、3.01 mmol) を加え、混合物を 70 °C で 1 時間攪拌した。反応混合物を室温に戻した後、アニリン (0.275 mL、3.01 mmol) を加え、混合物を 80 °C で 1 時間攪拌した。反応混合物を酢酸エチルで希釈し、水、1 M 塩酸、水の順で洗浄した後、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 7:3) に供し、表題化合物 (0.69 g、収率 65%)

を得た。

非晶質。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.34 (6H, s), 1.48 (6H, s), 2.96 (4H, s), 3.73 (3H, s), 4.54 (1H, br s), 6.28 (1H, br s), 6.55 (2H, s), 7.04 (1H, t, $J=7.0$ Hz), 7.18-7.30 (4H, m)。

【0200】参考例 17

N-[2-(2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフラン-1,1-ジメチルエチル)-N'-(4-メトキシフェニル)尿素

参考例 16 と同様の方法により、4-メトキシアニリンを用いて表題化合物を得た。収率 88%。

油状物。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.32 (6H, s), 1.49 (6H, s), 2.93 (2H, s), 2.97 (2H, s), 3.77 (3H, s), 3.78 (3H, s), 4.37 (1H, br s), 6.01 (1H, br s), 6.53 (2H, s), 6.80 (2H, d, $J=8.8$ Hz), 7.04 (2H, d, $J=8.8$ Hz)。

参考例 18

N-[2-(2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフラン-1,1-ジメチルエチル)-1-ピペリジンカルボキサミド

参考例 16 と同様の方法により、ピペリジンを用いて表題化合物を得た。

融点 133-134 °C (酢酸エチル-ヘキサン)。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.34 (6H, s), 1.48-1.60 (6H, m), 1.50 (6H, s), 2.93 (2H, s), 2.99 (2H, s), 3.21-3.28 (4H, m), 3.83 (3H, s), 4.11 (1H, br s), 6.53 (1H, s), 6.55 (1H, s)。

参考例 19

シクロヘキシルトリフェニルホスホニウムブロミド シクロヘキシルブロミド (10.0 g、61.3 mmol) およびトリフェニルホスフィン (16.1 g、61.3 mmol) の混合物を、140 から 150 °C で 72 時間攪拌した。反応液を冷却した後、酢酸エチルから結晶化し、表題化合物 (19.1 g、収率 73%) を得た。このものは、これ以上精製することなく次の反応に用いた。

参考例 20

5-(シクロヘキシルリデンメチル)-2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチルベンゾフラン

シクロヘキシルトリフェニルホスホニウムブロミド (7.42 g、17.4 mmol) のテトラヒドロフラン (70 mL) 懸濁液を -78 °C に冷却し、これに 1.53 M n-ブチルリチウムヘキサン溶液 (11.4 mL、17.4 mmol) を滴下し、混合物を氷冷下で 1 時間攪拌した。これに 2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフランカルボキサリデヒド (3.00 g、14.5 mmol) を加え、氷冷下でさらに 1 時間攪拌を続けた。反応液に水を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を水洗した後、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 19:1) に供し、表題化合物 (0.87 g、収率 22%)

を得た。

油状物。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.51 (6H, s), 1.59 (6H, br s), 2.20-2.26 (2H, m), 2.35-2.42 (2H, m), 3.02 (2H, s), 3.85 (3H, s), 6.16 (1H, s), 6.58 (1H, s), 6.63 (1H, s)。

【0201】参考例 2 1

3-ホルミル- α , α -ジメチルベンゼン酢酸 エチルエステル

3-メチルベンゼン酢酸 エチルエステル (10.0 g, 56.1 mmol) の N,N -ジメチルホルムアミド (80 mL) 溶液に氷冷水素化ナトリウム (66% 油分散物) (4.29 g, 118 mmol) を加え、室温で 3 時間攪拌した。氷冷下ヨードメタン (7.34 mL, 118 mmol) の N,N -ジメチルホルムアミド (20 mL) 溶液を滴下し、室温で 3.5 時間攪拌した。反応混合物に氷水を注ぎ、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を希塩化ナトリウム水溶液で 2 回および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸マグネシウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮して α , α , 3-トリメチルベンゼン酢酸 エチルエステルを含む混合物 (13.3 g) を油状物として得た。これを酢酸エチル (100 mL) に溶解し、 N -プロモスクシンイミド (10.5 g, 58.9 mmol) および 2,2'-アゾビス(イソブチロニトリル) (92 mg, 0.561 mmol) を加え、60 °C で 9 時間攪拌した。反応混合物に氷水を注ぎ、飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸マグネシウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 50:1 の後 10:1) に供し、3-(プロモメチル)- α , α -ジメチルベンゼン酢酸 エチルエステルを含む混合物 (15.6 g) を油状物として得た。これを酢酸 (35 mL) および水 (35 mL) に溶解し、ヘキサメチレンテトラミン (15.7 g, 112 mmol) を加え、90 °C で 1 時間加熱還流した。反応混合物に酢酸エチルを注ぎ、水、飽和炭酸水素ナトリウム水溶液および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸マグネシウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 50:1 の後 30:1) に供し、表題化合物 (5.84 g, 収率 47%) を得た。

油状物。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.91 (3H, t, $J = 7.1$ Hz), 1.63 (6H, s), 4.14 (2H, q, $J = 7.1$ Hz), 7.46-7.65 (2H, m), 7.74-7.89 (2H, m), 10.02 (1H, s)。

参考例 2 2

3-シアノ- α , α -ジメチルベンゼン酢酸 エチルエステル
3-ホルミル- α , α -ジメチルベンゼン酢酸 エチルエステル (5.49 g, 24.9 mmol) をエタノール (30 mL) に溶解し、ヒドロキシルアミン塩酸塩 (3.46 g, 49.9 mmol) および酢酸ナトリウム (4.09 g, 49.9 mmol) を加え、40 時間加熱還流した。エタノールを減圧留去し、残渣に酢酸エチルを注ぎ、水および飽和塩化ナトリウム水溶液

で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を無水酢酸 (30 mL) に溶解し、130 °C で 15 時間攪拌した。反応混合物に 5 M 水酸化ナトリウム水溶液を注ぎ、酢酸エチルで抽出した。有機層を飽和炭酸水素ナトリウム水溶液、水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸マグネシウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 40:1 の後 20:1) に供し、表題化合物 (4.21 g, 収率 78%) を得た。

油状物。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.19 (3H, t, $J = 7.1$ Hz), 1.59 (6H, s), 4.13 (2H, q, $J = 7.1$ Hz), 7.39-7.65 (4H, m)。

【0202】参考例 2 3

4-ヒドロキシ-3-(2-メチル-2-プロペニル)ベンズアルデヒド

参考例 1 と同様の方法により、 p -ヒドロキシベンズアルデヒドから表題化合物を得た。収率 59%。

油状物。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.75 (3H, s), 3.45 (2H, s), 4.89 (1H, s), 4.98 (1H, s), 6.19 (1H, br s), 6.96 (1H, d, $J = 8.1$ Hz), 7.70 (1H, d, $J = 8.1$ Hz), 7.74 (1H, s), 9.86 (1H, s)。

参考例 2 4

2,3-ジヒドロ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフランカルボキサルデヒド

4-ヒドロキシ-3-(2-メチル-2-プロペニル)ベンズアルデヒド (8.52 g, 4.84 mmol) のトルエン (40 mL) 溶液に三フッ化ホウ素ジエチルエーテル錯体 (6.74 mL, 53.2 mmol) を加え、110 °C で 1 時間攪拌した。反応混合物を水、飽和炭酸水素ナトリウム水溶液および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸マグネシウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 20:1 の後 10:1) に供し、表題化合物 (6.41 g, 収率 75%) を得た。

油状物。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.51 (6H, s), 3.06 (2H, s), 6.82 (1H, d, $J = 8.4$ Hz), 7.64-7.71 (2H, m), 9.82 (1H, s)。

参考例 2 5

7-ブromo-2,3-ジヒドロ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフランカルボキサルデヒド

2,3-ジヒドロ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフランカルボキサルデヒド (5.90 g, 33.5 mmol) の酢酸 (20 mL) 溶液に臭素 (2.07 mL, 40.2 mmol) の酢酸 (5 mL) 溶液を加え、室温で 5 時間攪拌した。反応混合物にチオ硫酸ナトリウム水溶液を注ぎ、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸マグネシウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル

10:1) に供し、表題化合物 (8.08g、収率 94%) を得た。

油状物。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.57 (6H, s), 3.16 (2H, s), 7.63 (1H, d, $J = 1.6$ Hz), 7.83 (1H, d, $J = 1.8$ Hz), 9.77 (1H, s)。

【0203】参考例26

7-ブロモ-2,3-ジヒドロ-2,2-ジメチル-5-(2-メチル-1-プロペニル)ベンゾフラン

参考例5と同様の方法により、5-ブロモ-2,3-ジヒドロ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフランカルボキサルデヒドから表題化合物を得た。収率 81%。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.52 (6H, s), 1.83 (3H, d, $J = 1.1$ Hz), 1.86 (3H, d, $J = 1.1$ Hz), 3.07 (2H, s), 6.12 (1H, s), 6.91 (1H, s), 7.13 (1H, s)。

参考例27

7-エチルチオ-2,3-ジヒドロ-2,2-ジメチル-5-(2-メチル-1-プロペニル)ベンゾフラン

1.54 M tert-ブチルリチウム/ペンタン溶液 (3.45 mL, 5.34 mmol) のテトラヒドロフラン (1 mL) 溶液に N,N,N',N'-テトラメチルエチレンジアミン (0.81 mL, 5.34 mmol) および7-ブロモ-2,3-ジヒドロ-2,2-ジメチル-5-(2-メチル-1-プロペニル)ベンゾフラン (300 mg, 1.07 mmol) のテトラヒドロフラン (1 mL) 溶液を加え、-78 °C で 30 分間攪拌した。ジエチルジスルフィド (1.32 mL, 10.7 mmol) のテトラヒドロフラン (1 mL) 溶液を加え、-78 °C から徐々に室温まで昇温させた後、15 時間攪拌した。反応混合物に水を注ぎ、酢酸エチルで2回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸マグネシウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサンの後ヘキサン/酢酸エチル 50:1) に供し、表題化合物 (264 mg、収率 94%) を得た。

油状物。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.26 (3H, t, $J = 7.3$ Hz), 1.50 (6H, s), 1.84 (3H, s), 1.87 (3H, s), 2.90 (2H, q, $J = 7.3$ Hz), 6.15 (1H, s), 6.89 (1H, s), 7.00 (1H, s)。

参考例28

2,3-ジヒドロ-2,2,7-トリメチルベンゾフラン

o-クレゾール (19.1 mL, 184 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (100 mL) 溶液に 3-クロロ-2-メチル-1-プロペン (20.1 mL, 203 mmol) および炭酸カリウム (30.5 g, 221 mmol) 加え、80 °C で 3 時間攪拌した。反応混合物に氷水を注ぎ、酢酸エチルで2回抽出した。合わせた有機層を水 (2回) および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸マグネシウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮して 1-メチル-2-[(2-メチル-2-プロペニル)オキシ]ベンゼン (30.8 g) を油状物として得た。これを N,N-ジエチルアニリン (27 mL) に溶解し、窒素雰囲気下、210

°C で 5 時間攪拌した。反応混合物に酢酸エチルを注ぎ、1 M 塩酸、2 M 塩酸および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸マグネシウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮して2-メチル-6-(2-メチル-2-プロペニル)フェノール (34.3 g) を油状物として得た。この 1.20 g をエタノール (6 mL) に溶解し、濃塩酸 (1.5 mL) を加え、2 時間加熱還流した。エタノールを減圧留去し、残渣に酢酸エチルを注ぎ、水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸マグネシウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン) に供し、表題化合物 (710 mg、収率 59%) を得た。油状物。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.47 (6H, s), 2.19 (3H, s), 3.00 (2H, s), 6.69-6.76 (1H, m), 6.91-6.98 (2H, m)。

【0204】参考例29

2,3-ジヒドロ-2,2,7-トリメチル-5-ベンゾフランカルボキサルデヒド

オキシ塩化リン (0.78 mL, 8.38 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (0.71 mL, 9.22 mmol) 溶液に2,3-ジヒドロ-2,2,7-トリメチルベンゾフラン (680 mg, 4.19 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (2 mL) 溶液を加え、80 °C で 15 時間攪拌した。反応混合物に氷水を注ぎ、5 M 水酸化ナトリウム水溶液で中和、酢酸エチルで2回抽出した。合わせた有機層を水 (2回) および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸マグネシウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 30:1 の後 10:1) に供し、表題化合物 (640 mg、収率 80%) を得た。油状物。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.51 (6H, s), 2.23 (3H, s), 3.05 (2H, s), 7.50 (1H, d, $J = 0.8$ Hz), 7.53 (1H, d, $J = 0.8$ Hz), 9.78 (1H, s)。

参考例30

2,3-ジヒドロ-2,2,7-トリメチル-5-(2-メチル-1-プロペニル)ベンゾフラン

参考例5と同様の方法により 2,3-ジヒドロ-2,2,7-トリメチル-5-ベンゾフランカルボキサルデヒドから表題化合物を得た。収率 93%。

油状物。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.47 (6H, s), 1.85 (6H, s), 2.17 (3H, s), 2.99 (2H, s), 6.16 (1H, s), 6.80 (1H, s), 6.85 (1H, s)。

参考例31

4-シクロヘキシルベンズアルデヒド

フェニルシクロヘキサン (24.9 g, 155 mmol) と塩化アルミニウム (20.9 g, 157 mmol) のニトロメタン (200 mL) の混合物にジクロロメチルメチルエーテル (18.0 g, 157 mmol) のニトロメタン (50 mL) 溶液を 0 °C で 40 分間かけて滴下し、0 °C で 40 分間攪拌した。反応溶液を氷冷水に注ぎ、有機物をジエチルエーテルで抽出

した。抽出液を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄した後、硫酸マグネシウムで乾燥し、減圧下で溶媒を留去して表題化合物を含む混合物 (27.8 g) を得た。このものはこれ以上精製することなく次の反応に用いた。

油状物。

参考例 3 2

4-シクロヘキシルベンゾニトリル

4-シクロヘキシルベンズアルデヒド (13.4 g, 71.1 mmol) とヒドロキシルアミン塩酸塩 (6.82 g, 98.1 mmol) のギ酸 (200 mL) 溶液を 2 時間加熱還流した。反応溶液を室温まで冷却した後、氷冷水に注ぎ、水酸化カリウムでアルカリ性にした。有機物をヘキサンで抽出した。抽出液を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄した後、硫酸ナトリウムで乾燥し、減圧下で溶媒を留去した。得られた残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 20:1 の後 10:1) で精製して、表題化合物 (5.75 g, 収率 44%) を得た。

油状物。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.26-1.52 (4H, m), 1.74-1.89 (6H, m), 2.56 (1H, br), 7.27-7.39 (2H, m), 7.50-7.62 (2H, m)。

【0205】参考例 3 3

4-フェノキシベンズアルデヒド

4-フルオロベンズアルデヒド (30.5 g, 246 mmol)、フェノール (23.5 g, 249 mmol) および炭酸カリウム (34.8 g, 252 mmol) の N,N -ジメチルホルムアミド (500 mL) 懸濁液を 11.5 時間加熱還流した。反応溶液を室温まで冷却した後、減圧下で溶媒を留去した。得られた残渣に水を加え、有機物を酢酸エチルで抽出した。抽出液を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄した後、硫酸マグネシウムで乾燥し、減圧下で溶媒を留去して表題化合物を含む混合物 (48.1 g) を得た。このものはこれ以上精製することなく次の反応に用いた。

油状物。

参考例 3 4

4-フェノキシベンゾニトリル

実施例 3 2 と同様の方法により、4-フェノキシベンズアルデヒドから表題化合物を得た。収率 80%。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 6.97-7.19 (4H, m), 7.20-7.28 (1H, m), 7.37-7.46 (2H, m), 7.57-7.64 (2H, m)。

参考例 3 5

4-(1-ピペリジニル)ベンゾニトリル

4-フルオロベンゾニトリル (6.0 g, 50 mmol)、ピペリジン (4.0 g, 47 mmol) および炭酸カリウム (8.5 g, 62 mmol) の N,N -ジメチルホルムアミド (100 mL) 懸濁液を 95 °C で 37 時間攪拌した。反応溶液を室温まで冷却した後、減圧下で溶媒を留去した。得られた残渣に水を加え、有機物を酢酸エチルで抽出した。抽出液を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄した後、硫酸マグネシウムで乾燥し、減圧下で溶媒を留去した。得られた残渣をシ

リカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 20:1 の後 5:1) で精製して、表題化合物 (8.3 g, 収率 90%) を得た。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.66 (6H, s), 3.33 (4H, s), 6.84 (2H, d, $J=8.8\text{Hz}$), 7.46 (2H, d, $J=8.8\text{Hz}$)。

参考例 3 6

3,5-ビス(1,1-ジメチルエチル)-4-ヒドロキシベンゾニトリル

実施例 3 2 と同様の方法により、3,5-ビス(1,1-ジメチルエチル)-4-ヒドロキシベンズアルデヒドから表題化合物を得た。収率 45%。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.44 (18H, s), 5.74 (1H, s), 7.47 (2H, s)。

【0206】参考例 3 7

4-メチル-2-フェニル-1H-イミダゾール-5-カルボニトリル

実施例 3 2 と同様の方法により、4-メチル-2-フェニル-1H-イミダゾール-5-カルボキサルデヒドから表題化合物を得た。収率 54%。

$^1\text{H NMR}$ ($\text{DMSO}-d_6$) δ 2.41 (3H, s), 3.19 (1H, s), 7.42-7.54 (3H, m), 7.92 (2H, dd, $J=7.8, 1.4\text{Hz}$)。

参考例 3 8

4-(1-メチルエトキシ)ベンゾニトリル

2-プロパノール (4.4 g, 73 mmol) と水素化ナトリウム (60% 油性, 2.9 g, 73 mmol) の N,N -ジメチルホルムアミド (100 mL) 溶液を 0 °C で 10 分間攪拌した。反応溶液に4-フルオロベンゾニトリル (7.1 g, 59 mmol) の N,N -ジメチルホルムアミド (25 mL) 溶液を 0 °C で加え、同温で 3 時間さらに室温で 15.5 時間攪拌した。反応液を水に注ぎ、酢酸エチルで抽出した。抽出液を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄した後、硫酸マグネシウムで乾燥し、減圧下で溶媒を留去した。得られた残渣をヘキサンから結晶化させて、表題化合物 (7.4 g, 収率 85%) を得た。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.36 (6H, d, $J=6.2\text{Hz}$), 4.52-4.64 (1H, m), 6.91 (2H, d, $J=8.6\text{Hz}$), 7.57 (2H, d, $J=8.6\text{Hz}$)。

参考例 3 9

酢酸 4-シアノベンジルエステル

4-シアノベンジルブロミド (12.6 g, 64 mmol) と酢酸ナトリウム (10.6 g, 129 mmol) の N,N -ジメチルホルムアミド (50 mL) 混合物を 80 °C で 25 時間攪拌した。減圧下で溶媒を留去し、得られた残渣に水を加え、有機物を酢酸エチルで抽出した。抽出液を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄した後、硫酸マグネシウムで乾燥し、減圧下で溶媒を留去した。得られた残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 20:1 の後 2:1) で精製して、表題化合物 (8.9 g, 収率 80%) を得た。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 2.14 (3H, s), 5.16 (2H, s), 7.47

(2H, d, J=8.4Hz), 7.68 (2H, d, J=8.4Hz)。

参考例 4 0

4-[2-(4-メトキシフェニル)エトキシ]ベンゾニトリル
参考例 3 8 と同様の方法により、4-メトキシフェネチルアルコールと4-フルオロベンゾニトリルから表題化合物を得た。収率 93%。

¹H NMR (CDCl₃) δ 3.06 (2H, t, J=7.0Hz), 3.80 (3H, s), 4.17 (2H, t, J=7.0Hz), 6.87 (2H, t, J=8.7Hz), 6.93 (2H, d, J=9.0Hz), 7.19 (2H, d, J=8.7Hz), 7.57 (2H, d, J=9.0Hz)。

【0207】参考例 4 1

2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-5-ベンゾフランカルボニトリル

参考例 3 2 と同様の方法により7-メトキシ-2,3-ジヒドロ-5-ベンゾフランカルボキサリデヒドから表題化合物を得た。収率 77%。

¹H NMR (CDCl₃) δ 3.28 (2H, t, J=8.8Hz), 3.89 (3H, s), 4.73 (2H, t, J=8.8Hz), 7.00 (1H, s), 7.16 (1H, s)。

参考例 4 2

4-[(1,3-ジヒドロ-1,3-ジオキソ-2H-イソインドール-2-イル)メチル]ベンゾニトリル

4-シアノベンジルブロミド (4.0 g, 20 mmol) とフタルイミドカリウム (3.8 g, 21 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (40 mL) 混合物を 20 時間室温で攪拌した。反応溶液を減圧下で濃縮し、得られた残渣に水を加え、有機物を酢酸エチルで抽出した。抽出液を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄した後、硫酸マグネシウムで乾燥し、減圧下で溶媒を留去して表題化合物を含む混合物 (4.6 g) を得た。このものはこれ以上精製することなく次の反応に用いた。

参考例 4 3

4-(アミノメチル)ベンゾニトリル

4-[(1,3-ジヒドロ-1,3-ジオキソ-2H-イソインドール-2-イル)メチル]ベンゾニトリル (4.6 g, 18 mmol) とヒドラジン-水和物 (8.9 g, 180 mmol) のエタノール (90 mL) 溶液を 33 時間加熱還流した。反応液を室温まで冷却し、減圧下で濃縮した。残渣に水を加え、水酸化カリウムでアルカリ性にした後ジエチルエーテルで抽出した。抽出液を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄した後、硫酸ナトリウムで乾燥し、減圧下で溶媒を留去して表題化合物 (1.9 g, 収率 81%) を得た。

油状物。

¹H NMR (CDCl₃) δ 3.96 (2H, s), 7.45 (2H, d, J=8.0Hz), 7.63 (2H, d, J=8.0Hz)。

参考例 4 4

N-[(4-シアノフェニル)メチル]メタンスルホンアミド
4-(アミノメチル)ベンゾニトリル (1.9 g, 14 mmol) とトリエチルアミン (3.0 mL, 22 mmol) のテトラヒドロフラン (30 mL) 溶液にメタンスルホンクロリド (1.1 m

L, 14 mmol) を 0 °C で滴下した。反応液を室温で 9 時間攪拌した。反応液を水に注ぎ、有機物を酢酸エチルで抽出した。抽出液を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄した後、硫酸マグネシウムで乾燥し、減圧下で溶媒を留去して粗結晶を得た。得られた粗結晶をヘキサン-ジエチルエーテルで洗浄し、表題化合物 (2.0 g, 収率 66%) を得た。

¹H NMR (CDCl₃) δ 2.94 (3H, s), 4.40 (2H, d, J=6.6Hz), 5.01 (1H, br), 7.50 (2H, d, J=8.6Hz), 7.67 (2H, d, J=8.6Hz)。

【0208】参考例 4 5

6-メトキシ-3-ピリジンカルボニトリル

ナトリウムメトキシド (2.42 g, 44.8 mmol) と 6-クロロニコチノニトリル (3.04 g, 21.9 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (50 mL) 溶液を室温で 10 時間攪拌した。反応液を水に注ぎ、有機物を酢酸エチルで抽出した。抽出液を飽和食塩水で洗浄した後、硫酸マグネシウムで乾燥し、減圧下で溶媒を留去した。得られた残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 2:1) で精製し、表題化合物 (2.28 g, 収率 78%) を得た。

¹H NMR (CDCl₃) δ 4.00 (3H, s), 6.83 (1H, dd, J=8.8, 0.8Hz), 7.78 (1H, dd, J=8.6, 2.4Hz), 8.50 (1H, d, J=1.4Hz)。

参考例 4 6

3-(1-メチルエトキシ)ベンゾニトリル

参考例 3 8 と同様の方法により、2-プロパノールと3-フルオロベンゾニトリルから表題化合物を得た。収率 78%。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.35 (6H, d, J=6.0Hz), 4.51-4.63 (1H, m), 7.07-7.13 (2H, m), 7.21 (1H, dt, J=7.6, 1.2Hz), 7.36 (1H, td, J=7.6, 1.4Hz)。

参考例 4 7

4-ピリジンカルボキサミド 1-オキシド

イソニコチンアミド (52 g, 430 mmol) と 30% 過酸化水素水 (65 mL, 570 mmol) の酢酸 (170 mL) 溶液を 80 °C で 12 時間攪拌した。反応液を室温まで冷却し、析出した結晶を濾取し、水とヘキサンで洗浄して表題化合物 (30 g, 収率 50%) を得た。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 7.66 (1H, br), 7.82-7.87 (2H, m), 8.17 (1H, br), 8.26-8.33 (2H, m)。

参考例 4 8

4-メチルキノリン 1-オキシド

参考例 4 7 と同様の方法により、4-メチルキノリンから表題化合物を得た。収率 75%。

¹H NMR (CDCl₃) δ 2.67 (3H, s), 7.14 (1H, d, J=6.2Hz), 7.65-7.84 (2H, m), 7.96-8.01 (1H, m), 8.45 (1H, d, J=6.4Hz), 8.79-8.84 (1H, m)。

参考例 4 9

3-メチルキノリン 1-オキシド

参考例 47 と同様の方法により、3-メチルキノリンから表題化合物を得た。収率 91%。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 2.46 (3H, s), 7.53-7.81 (4H, m), 8.43 (1H, s), 8.69 (1H, d, $J=8.8\text{Hz}$)。

【0209】参考例 50

7-メチルキノリン 1-オキシド

参考例 47 と同様の方法により、7-メチルキノリンから表題化合物を得た。収率 46%。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 2.61 (3H, s), 7.20-7.27 (1H, m), 7.46-7.51 (1H, m), 7.69-7.79 (2H, m), 8.50-8.56 (2 H, m)。

参考例 51

4-ピリジンカルボン酸 エチルエステル 1-オキシド

参考例 47 と同様の方法により、イソニコチン酸 エチルエステルから表題化合物を得た。収率 80%。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.39 (3H, t, $J=7.0\text{Hz}$), 4.42 (2H, q, $J=7.0\text{Hz}$), 7.92-7.97 (2H, m), 8.33-8.39 (2H, m)。

参考例 52

6-メチルキノリン 1-オキシド

参考例 47 と同様の方法により、6-メチルキノリンから表題化合物を得た。収率 87%。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 2.55 (3H, s), 7.22-7.29 (1H, m), 7.56-7.68 (3H, m), 8.47 (1H, d, $J=6.0\text{Hz}$), 8.64 (1 H, d, $J=8.8\text{Hz}$)。

参考例 53

7-メトキシ-2-ベンゾフランカルボン酸

o-バニリン (51 g, 340 mmol)、プロモマロン酸 ジエチルエステル (73 g, 310mmol) と炭酸カリウム (82 g, 590 mmol) の 2-ブタノン (200 mL) 溶液を 3.5 時間加熱還流した。反応液を室温まで冷却した後、減圧下溶媒を留去した。得られた残渣に水を加え、有機物をジエチルエーテルで抽出した。抽出液を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄した後、硫酸マグネシウムで乾燥し、減圧下で溶媒を留去した。得られた残渣と水酸化カリウム (43 g, 740 mmol) のエタノール (400mL) 溶液を 1 時間加熱還流した。反応液を室温まで冷却した後、反応液を水に注ぎ、6 M 塩酸を加えて酸性にした。有機物を酢酸エチルで抽出し、抽出液を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄した後、硫酸マグネシウムで乾燥し、減圧下で溶媒を留去した。得られた残渣をジイソプロピルエーテルから結晶化させて、表題化合物 (26 g、収率 45%) を得た。

$^1\text{H NMR}$ ($\text{DMSO}-d_6$) δ 3.97 (3H, s), 5.71 (1H, s), 7.09 (1H, dd, $J=7.4, 1.5\text{Hz}$), 7.27 (1H, t, $J=7.8\text{Hz}$), 7.33 (1H, dd, $J=7.8, 1.5\text{Hz}$), 7.65 (1H, s)。

【0210】参考例 54

7-メトキシベンゾフラン

7-メトキシ-2-ベンゾフランカルボン酸 (23 g, 120 mmol) と銅 (粉末, 5.8 g, 92 mmol) のキノリン (70 mL) 懸濁液を 12 時間加熱還流した。反応液を室温まで冷却した。不溶物を濾去し、濾液を水に注ぎ、2 M 塩酸を加

えて酸性にした。有機物を酢酸エチルで抽出し、抽出液を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄した後、硫酸マグネシウムで乾燥し、減圧下で溶媒を留去した。得られた残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 10:1) で精製して、表題化合物 (8.0 g、収率 46%) を得た。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 4.02 (3H, s), 6.77 (1H, d, $J=2.2\text{Hz}$), 6.81 (1H, dd, $J=6.8, 2.2\text{Hz}$), 7.12-7.22 (2H, m), 7.63 (1H, d, $J=2.2\text{Hz}$)。

参考例 55

2,3-ジヒドロ-7-メトキシベンゾフラン

7-メトキシベンゾフラン (8.0 g, 54 mmol) の酢酸 (55 mL) 溶液に 10% パラジウム/炭素 (3.9 g, 49% 含水品) を加え、混合物を室温で水素雰囲気下 8 時間攪拌した。反応液を濾過して触媒を除去した後、濾液を減圧下濃縮した。得られた残渣に 8 M 水酸化ナトリウム水溶液を加えて中性にした後、有機物をジエチルエーテルで抽出した。抽出液を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄した後、硫酸マグネシウムで乾燥し、減圧下で溶媒を留去して、表題化合物 (7.2 g、収率 90%) を得た。

油状物。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 3.17 (2H, t, $J=8.6\text{Hz}$), 3.82 (3H, s), 4.56 (2H, t, $J=8.6\text{Hz}$), 6.65-6.72 (1H, m), 6.72-6.78 (2H, m)。

参考例 56

2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-5-ベンゾフランカルボキサリデヒド

N,N-ジメチルホルムアミド (8.0 mL) にオキシ塩化リン (8.0 mL, 86 mmol) を 0 °C で滴下した。反応溶液に 2,3-ジヒドロ-7-メトキシベンゾフラン (6.7 g, 44 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (26 mL) 溶液を室温に加え、80 °C で 1 時間攪拌した。反応液を室温まで冷却した後、水に注いだ。8 M 水酸化ナトリウム水溶液を加えてアルカリ性にした後、ジエチルエーテルで抽出した。抽出液を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄した後、硫酸マグネシウムで乾燥し、減圧下で溶媒を留去した。得られた残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 10:1 の後 5:2) で精製して、表題化合物 (3.5 g、収率 44%) を得た。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 3.32 (2H, t, $J=8.8\text{Hz}$), 3.94 (3H, s), 4.77 (2H, t, $J=8.8\text{Hz}$), 7.32 (1H, d, $J=1.2\text{Hz}$), 7.38 (1H, d, $J=1.2\text{Hz}$), 9.82 (1H, s)。

参考例 57

2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-5-(2-メチル-1-プロペニル)ベンゾフラン

2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-5-ベンゾフランカルボキサリデヒド (3.5 g, 20 mmol) とイソプロピルトリフェニルホスホニウムヨード (10 g, 24 mmol) のテトラヒドロフラン (60 mL) 懸濁液に水素化ナトリウム (60% 油性, 1.1 g, 28 mmol) を 0 °C で加え、2.5 時間加熱還

流した。反応液を室温まで冷却し、水に注いだ。有機物を酢酸エチルで抽出し、抽出液を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄した後、硫酸マグネシウムで乾燥し、減圧下で溶媒を留去した。得られた残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー（ヘキサン/酢酸エチル 50:1の後 10:1）で精製して、表題化合物（2.0 g、収率 50%）を得た。

油状物。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.86–1.88 (6H, m), 3.22 (2H, t, J = 8.6 Hz), 3.86 (3H, s), 4.62 (2H, t, J = 8.6 Hz), 6.20 (1H, br s), 6.61 (1H, s), 6.71 (1H, s).

【0211】参考例 58

3-ヨード-5-メトキシ-4-[(2-メチル-2-プロペニル)オキシ]ベンズアルデヒド

5-ヨードバニリン (20 g, 72 mmol)、3-クロロ-2-メチル-1-プロペン (13 g, 140 mmol) と炭酸カリウム (20 g, 140 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (100 mL) 懸濁液を 80 °C で 6 時間攪拌した。反応液を室温まで冷却した後、減圧下溶媒を留去した。残渣に水を加え、有機物を酢酸エチルで抽出した。抽出液を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄した後、硫酸マグネシウムで乾燥し、減圧下で溶媒を留去した。得られた残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー（ヘキサン/酢酸エチル 10:1の後 5:1）で精製して、表題化合物 (22 g、収率 93%) を得た。

油状物。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.94 (3H, s), 3.91 (3H, s), 4.54 (2H, s), 5.01 (1H, s), 5.17 (1H, s), 7.41 (1H, d, J = 1.8 Hz), 7.87 (1H, d, J = 1.8 Hz), 9.83 (1H, s).

参考例 59

2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-3,3-ジメチル-5-ベンゾフランカルボキサリデヒド

3-ヨード-5-メトキシ-4-[(2-メチル-2-プロペニル)オキシ]ベンズアルデヒド (22 g, 66 mmol)、酢酸パラジウム(II) (0.60 g, 27 mmol)、炭酸カリウム (9.0 g, 65 mmol)、ギ酸ナトリウム (4.3 g, 63 mmol) とテトラブチルアンモニウムブロミド (18 g, 55 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (300 mL) 懸濁液を 100 °C で 2.5 時間攪拌した。反応液を室温まで冷却した後、減圧下溶媒を留去した。残渣に水を加え、有機物を酢酸エチルで抽出した。抽出液を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄した後、硫酸マグネシウムで乾燥し、減圧下で溶媒を留去した。得られた残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー（ヘキサン/酢酸エチル 10:1の後 2:1）で精製して、表題化合物 (7.7 g、収率 57%) を得た。

油状物。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.40 (6H, s), 3.95 (3H, s), 4.43 (2H, s), 7.31–7.32 (2H, m), 9.84 (1H, s).

参考例 60

2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-3,3-ジメチル-5-(2-メチル-1

-プロペニル)ベンゾフラン

参考例 57 と同様の方法により、2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-3,3-ジメチル-5-ベンゾフランカルボキサリデヒドとイソプロピルトリフェニルホスホニウムヨードから表題化合物を得た。収率 59%。

油状物。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.33 (6H, s), 1.87–1.89 (6H, m), 3.87 (3H, s), 4.29 (2H, s), 6.23 (1H, br s), 6.61 (1H, s), 6.62 (1H, s).

【0212】参考例 61

2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフランメタノール

2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフランカルボキサリデヒド (7.5 g, 36 mmol) と水素化ホウ素ナトリウム (0.72 g, 19 mmol) のメタノール (60 mL) 溶液を 0 °C で 3 時間攪拌した。反応液を減圧下濃縮し、得られた残渣に水を加えた。1 M 塩酸を加えて酸性にした後、有機物を酢酸エチルで抽出した。抽出液を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄した後、硫酸マグネシウムで乾燥し、減圧下で溶媒を留去した。得られた残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー（ヘキサン/酢酸エチル 5:1の後 2:1）で精製して、表題化合物 (5.8 g、収率 77%) を得た。

油状物

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.50 (6H, s), 2.20 (1H, br), 3.01 (2H, s), 3.86 (3H, s), 4.57 (2H, s), 6.76 (2H, s).

参考例 62

[(2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフラン)メチル]トリフェニルホスホニウムブロミド

2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフランメタノール (5.8 g, 28 mmol) のジエチルエーテル (90 mL) 溶液に三臭化リン (0.90 mL, 9.5 mmol) を 0 °C で滴下した。反応液を 0 °C で 30 分間攪拌した後、水に注いだ。有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄した後、硫酸マグネシウムで乾燥し、減圧下で溶媒を留去した。得られた残渣 (7.2 g) とトリフェニルホスフィン (7.5 g, 29 mmol) のトルエン (70 mL) 溶液を 80 °C で 10 時間攪拌した。反応液を室温まで冷却した後、析出した結晶を濾取し、ジエチルエーテルで洗浄して、表題化合物 (12 g、収率 84%) を得た。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.45 (6H, s), 2.83 (2H, s), 3.49 (3H, s), 5.33 (2H, d, J = 13.6 Hz), 6.50 (1H, s), 6.58 (1H, s), 7.59–7.81 (15H, m).

参考例 63

5-(2-エチル-1-ブテニル)-2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチルベンゾフラン

[(2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフラン)メチル]トリフェニルホスホニウムブロミド (5.6 g, 10 mmol) のテトラヒドロフラン (50 mL) 懸濁液に

カリウム tert-ブトキシド (1.3 g, 11 mmol) を 0 °C で加えた。反応溶液に3-ペンタノン (2.2 mL, 21 mmol) を加え、20 時間加熱還流した。反応液を室温まで冷却した後、水に注いだ。1 M 塩酸を加えて酸性にした後、有機物を酢酸エチルで抽出した。抽出液を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄した後、硫酸マグネシウムで乾燥し、減圧下で溶媒を留去した。得られた残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 50:1の後 5:1) で精製して、表題化合物 (2.4 g、収率 87%) を得た。

油状物。¹H NMR (CDCl₃) δ 1.09 (6H, td, J=7.6, 1.8 Hz), 1.51 (6H, s), 2.12-2.34 (4H, m), 3.02 (2H, s), 3.85 (3H, s), 6.16 (1H, s), 6.61 (1H, s), 6.64 (1H, s)。

参考例 6 4

2,3-ジヒドロ-5-ベンゾフランカルボニトリル

2,3-ジヒドロ-5-ベンゾフランカルボキサルデヒド (5.00 g, 33.7 mmol) およびヒドロキシルアミン塩酸塩 (3.52 g, 50.6 mmol) のギ酸 (70 mL) 溶液を 2 時間加熱還流した。反応混合物を氷水に注ぎ、水酸化カリウムで中和して析出した結晶を濾取した。得られた結晶を酢酸エチルに溶解し、硫酸マグネシウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を酢酸エチル-ヘキサンから再結晶して表題化合物 (3.03 g、収率 62%) を得た。

融点 69-70 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 3.26 (2H, d, J = 8.8 Hz), 4.67 (2H, d, J = 8.8 Hz), 6.82 (1H, dd, J = 8.8, 1.0 Hz), 7.42-7.46 (2H, m)。

【0213】参考例 6 5

2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフランカルボニトリル

2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフランカルボキサルデヒド (8.40 g, 40.7 mmol) およびヒドロキシルアミン塩酸塩 (4.25 g, 61.1 mmol) のギ酸 (100 mL) 溶液を 3 時間加熱還流した。反応混合物を氷水に注ぎ、水酸化カリウムで中和して析出した結晶を濾取した。得られた結晶を酢酸エチルに溶解し、硫酸マグネシウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 5:1) に供し、表題化合物 (6.73 g、収率 81%) を得た。

融点 73-74 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.54 (6H, s), 3.07 (2H, s), 3.89 (3H, s), 7.00 (1H, brs), 7.12 (1H, br s)。

参考例 6 6

4-(フェニルチオ)ベンゾニトリル

4-フルオロベンゾニトリル (5.00 g, 41.3 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (100 mL) 溶液にチオフェノール (4.55 g, 41.3 mmol) および炭酸カリウム (5.71 g, 41.3 mmol) を加え、窒素雰囲気下 150 °C で 2.5 日

間攪拌した。反応液を室温まで冷却後、反応溶媒を減圧下で濃縮留去し、残渣を水に注いだ。有機物を酢酸エチルで抽出し、抽出液を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸マグネシウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサンの後ヘキサン/酢酸エチル 20:1) に供し、表題化合物 (6.03 g、収率 69%) を得た。

油状物。

¹H NMR (CDCl₃) δ 7.15-7.20 (2H, m), 7.42-7.55 (7H, m)。

参考例 6 7

4-(1-メチルエチル)ベンゾニトリル

参考例 6 5 と同様の方法により 4-(1-メチルエチル)ベンズアルデヒドを用いて表題化合物を得た。収率 77%。

油状物。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.26 (6H, d, J = 7.0 Hz), 2.89-3.03 (1H, m), 7.00 (2H, ddd, J = 8.4, 2.0, 1.6 Hz), 7.12 (2H, ddd, J = 8.4, 2.0, 1.6 Hz)。

参考例 6 8

5-メチル-2-チオフェンカルボニトリル

参考例 6 5 と同様の方法により 5-メチル-2-チオフェンカルボキサルデヒドを用いて表題化合物を得た。収率 60%。

油状物。

¹H NMR (CDCl₃) δ 2.46 (3H, s), 6.95 (1H, d, J = 5.0 Hz), 7.47 (1H, d, J = 5.0 Hz)。

【0214】参考例 6 9

4-(トリフルオロメトキシ)ベンゾニトリル

参考例 6 5 と同様の方法により 4-(トリフルオロメトキシ)ベンズアルデヒドを用いて表題化合物を得た。収率 71%。油状物。

¹H NMR (CDCl₃) δ 7.33 (2H, d, J = 8.6 Hz), 7.76 (2H, d, J = 8.6 Hz)。

参考例 7 0

3,5-ジクロロ-4-ピリジンカルボキサルデヒド

ジイソプロピルアミン (24.9 mL, 177 mmol) のテトラヒドロフラン (150 mL) 溶液に 1.6 M n-ブチルリチウム/ヘキサン溶液 (116 mL, 186 mmol) を、窒素雰囲気下、-78 °C で 20 分間かけて滴下、ついで 3,5-ジクロロピリジン (25.0 g, 169 mmol) のテトラヒドロフラン (100 mL) 溶液を 15 分間かけて滴下し、さらに同温で 20 分間攪拌した。N,N-ジメチルホルムアミド (18.3 mL, 237 mmol) を加え、室温で 18 時間攪拌した。反応液を濃塩酸 (60 mL) の水 (400 mL) 溶液に注ぎ、室温で 24 時間攪拌した。水層を分離し、有機物をジエチルエーテルで抽出した。抽出液を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 10:1 の後 5:1) に供し、表題化合物 (7.96 g、収率 27%) を得た。

¹H NMR (CDCl₃) δ 8.64 (2H, s), 10.46 (1H, s)。

参考例 7 1

3,5-ジクロロ-4-ピリジンカルボニトリル

参考例 6 4 と同様の方法により 3,5-ジクロロ-4-ピリジンカルボキサルデヒドを用いて表題化合物を得た。収率 86%。

融点 114-115 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 8.69 (2H, s)。

参考例 7 2

3-メチル-2-チオフェンカルボニトリル

参考例 6 5 と同様の方法により 3-メチル-2-チオフェンカルボキサルデヒドを用いて表題化合物を得た。収率 59%。

¹H NMR (CDCl₃) δ 2.55 (3H, d, J = 1.0 Hz), 6.78 (1H, dd, J = 4.0, 1.0 Hz), 7.44 (1H, d, J = 4.0 Hz)。

【0215】参考例 7 3

4-(メチルスルフィニル)ベンゾニトリル

4-(メチルチオ)ベンゾニトリル (5.00 g, 33.5 mmol) のメタノール (200 mL)、テトラヒドロフラン (50 mL) および水 (50 mL) の混合溶液にメタ過ヨウ素酸ナトリウム (7.89 g, 36.9 mmol) を加え 2 時間加熱還流した。反応液を室温まで冷却後、析出した結晶をろ取、水で洗浄後、風乾して表題化合物 (4.39 g、収率79%) を得た。

融点 87-90 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 2.81 (3H, s), 7.89 (2H, dd, J = 8.4, 2.0 Hz), 8.07 (2H, dd, J = 8.4, 2.0 Hz)。

参考例 7 4

4-(メチルスルホニル)ベンゾニトリル

4-(メチルチオ)ベンゾニトリル (5.00 g, 33.5 mmol) のジクロロメタン (150 mL) 溶液に m-クロロ過安息香酸 (15.0 g, 73.7 mmol) を加え 0 °C で 30 分間攪拌し、さらに室温で 5時間攪拌した。反応液を 2 M 水酸化ナトリウム水溶液に注ぎ、ジクロロメタンで抽出した。抽出液を水酸化ナトリウム、チオ硫酸ナトリウムおよびよう化ナトリウムの混合水溶液および飽和塩化ナトリウムで洗浄、硫酸マグネシウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を酢酸エチル-ヘキサンから再結晶して、表題化合物 (4.53 g、収率 75%) を得た。

融点 142-144 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 3.10 (3H, s), 7.90 (2H, d, J = 8.8 Hz), 8.10 (2H, d, J = 8.8 Hz)。

参考例 7 5

3,4,5-トリメトキシベンゾニトリル

参考例 6 5 と同様の方法により 3,4,5-トリメトキシベンズアルデヒドを用いて表題化合物を得た。収率 60%。
融点 93-94 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 3.89 (6H, s), 3.91 (3H, s), 6.87 (2H, s)。

参考例 7 6

2,2'-ビピリジル 1-オキシド

2,2'-ビピリジル (25.0 g, 160 mmol) のクロロホルム (400 mL) 溶液に氷冷下 m-クロロ過安息香酸 (38.4 g, 160 mmol) を加え、室温で 12 時間攪拌した。反応液を 5% 炭酸ナトリウム水溶液で洗浄し、水層をジクロロメタンで抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウムで洗浄、硫酸マグネシウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 1:1 の後酢酸エチル) に供し、析出した結晶をジエチルエーテルで洗浄して、表題化合物 (16.1 g、収率 58%) を得た。

融点 58-60 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 7.45-7.52 (3H, m), 7.89-7.98 (1H, m), 8.09-8.14 (1H, m), 8.35-8.39 (1H, m), 8.73-8.78 (2H, m)。

【0216】参考例 7 7

1-[2,2'-ビピリジン]-6-イル-1,6-ジヒドロ-6-オキソ-3-ピリジンカルボキサミド

6-クロロニコチンアミド (4.70 g, 30.0 mmol) および 2,2'-ビピリジル 1-オキシド (10.3 g, 60.0 mmol) のキシレン (90 mL) および酢酸 (18 mL) 溶液に25%臭化水素/酢酸溶液 (12 mL) を加え、10 時間加熱還流した。反応混合物を水酸化ナトリウム水溶液に注ぎ、析出した結晶を濾取、風乾して、表題化合物 (3.20g、収率 36%) を得た。

¹H NMR (CDCl₃) δ 6.60 (1H, d, J = 10.0 Hz), 7.39-7.66 (3H, m), 7.83-8.03 (3H, m), 8.14-8.51 (3H, m), 8.68-8.75 (2H, m)。

30 参考例 7 8

1-[2,2'-ビピリジン]-6-イル-1,6-ジヒドロ-6-オキソ-3-ピリジンカルボニトリル

N,N-ジメチルホルムアミド (2.04 mL, 26.4 mmol) のアセトニトリル (30 mL) 溶液に氷冷下オキサリルクロリド (2.09 mL, 24.0 mmol) を滴下し、同温で 15分間攪拌した。1-[2,2'-ビピリジン]-6-イル-1,6-ジヒドロ-6-オキソ-3-ピリジンカルボキサミド (3.50 g, 12.0 mmol) を加え、さらにトリエチルアミン (7.36 mL, 52.8 mmol) を氷冷下滴下した後、室温で 24 時間攪拌した。反応溶媒を減圧下で濃縮留去し、残渣を水に注いだ。析出した結晶を濾取し、クロロホルムに溶解した。これを硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をジエチルエーテルで洗浄して、表題化合物 (2.06 g、収率 63%) を得た。

¹H NMR (CDCl₃) δ 6.69 (1H, d, J = 9.6 Hz), 7.51 (1H, ddd, J = 7.4, 4.8, 1.0 Hz), 7.82 (1H, dd, J = 9.6, 2.2 Hz), 7.83 (1H, d, J = 7.6 Hz), 7.99 (1H, td, J = 7.6, 1.8 Hz), 8.19 (1H, t, J = 7.6 Hz), 8.42 (1H, d, J = 7.6 Hz), 8.49 (1H, d, J = 7.6 Hz), 8.74 (1H, dd, J = 4.8, 0.6 Hz), 8.97 (1H, d, J = 2.2

Hz)。

参考例 7 9

1,6-ジヒドロ-1-(8-メチル-2-キノリニル)-6-オキソ-3-ピリジンカルボニトリル

6-クロロニコチンアミド (5.90 g, 37.7 mmol) および 8-メチルキノリン 1-オキシド (9.00 g, 56.5 mmol) のキシレン (90 mL) および酢酸 (18 mL) 溶液に25% 臭化水素/酢酸溶液 (12 mL) を加え、6 時間加熱還流した。反応混合物を水酸化ナトリウム水溶液に注ぎ、析出した結晶を濾取、風乾して、1,6-ジヒドロ-1-(8-メチル-2-キノリニル)-6-オキソ-3-ピリジンカルボキサミド (9.03 g, 収率86%) を得た。つぎにN,N-ジメチルホルムアミド (7.48 mL, 96.6 mmol) のアセトニトリル (200 mL) 溶液に氷冷下オキサリクロリド (8.43 mL, 96.6 mmol) を滴下し、同温で 15 分間攪拌した。1,6-ジヒドロ-1-(8-メチル-2-キノリニル)-6-オキソ-3-ピリジンカルボキサミド (9.00 g, 32.2 mmol) を加え、さらにトリエチルアミン (26.9 mL, 193 mmol) を氷冷下滴下した後、室温で 20 時間攪拌した。反応溶媒を減圧下で濃縮留去し、残渣を水酸化ナトリウム水溶液に注いだ。有機物を酢酸エチルおよびクロロホルムで抽出し、飽和塩化ナトリウムで洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 2:1) に供し、析出した結晶をジエチルエーテルで洗浄して、表題化合物 (2.04 g, 収率 25%) を得た。

融点 269-271 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 2.73 (3H, s), 6.70 (1H, dd, J = 9.6, 0.6 Hz), 7.62 (1H, dd, J = 7.6, 7.0 Hz), 7.73 (1H, d, J = 7.0 Hz), 7.84 (1H, d, J = 8.8 Hz), 7.84 (1H, dd, J = 9.6, 2.6 Hz), 7.93 (1H, d, J = 7.6 Hz), 8.55 (1H, d, J = 8.8 Hz), 8.93 (1H, d, J = 2.6 Hz)。

【0217】参考例 8 0

1,6-ジヒドロ-1-(4-メチル-2-ピリジニル)-6-オキソ-3-ピリジンカルボキサミド

6-クロロニコチンアミド (6.68 g, 42.7 mmol) および 4-メチルピリジン 1-オキシド (9.32 g, 85.4 mmol) のキシレン (120 mL) および酢酸 (25 mL) 溶液に25% 臭化水素/酢酸溶液 (15 mL) を加え、3 時間加熱還流した。反応混合物を水酸化ナトリウム水溶液に注ぎ、析出した結晶を濾取、風乾して、表題化合物 (5.14 g, 収率 56%) を得た。

¹H NMR (CDCl₃) δ 2.42 (3H, s), 6.55 (1H, d, J = 9.4 Hz), 7.33 (1H, br s), 7.36-7.40 (1H, m), 7.61-7.62 (1H, m), 7.86 (1H, br s), 7.96 (1H, dd, J = 9.4, 2.6 Hz), 8.49 (1H, d, J = 2.6 Hz), 8.51 (1H, s)。

参考例 8 1

1,6-ジヒドロ-1-(4-メチル-2-ピリジニル)-6-オキソ-3-ピリジンカルボニトリル

N,N-ジメチルホルムアミド (2.30 mL, 29.7 mmol) のアセトニトリル (70 mL) 溶液に氷冷下オキサリクロリド (2.36 mL, 27.0 mmol) を滴下し、同温で 15分間攪拌した。1,6-ジヒドロ-1-(4-メチル-2-ピリジニル)-6-オキソ-3-ピリジンカルボキサミド (2.88 g, 13.5 mmol) を加え、さらにトリエチルアミン (4.14 mL, 29.7 mmol) を氷冷下滴下した後、室温で 12 時間攪拌した。反応溶媒を減圧下で濃縮留去し、残渣を水酸化ナトリウム水溶液に注いだ。有機物を酢酸エチルで抽出し、飽和塩化ナトリウムで洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 2:1 の後 1:1) に供し、析出した結晶をジエチルエーテルで洗浄して、表題化合物 (2.02 g, 収率 71%) を得た。

融点 166-168 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 2.47 (3H, s), 6.68 (1H, dd, J = 9.4, 0.8 Hz), 7.20-7.24 (1H, m), 7.45 (1H, dd, J = 9.4, 2.6 Hz), 7.71-7.73 (1H, m), 8.43 (1H, d, J = 5.0 Hz), 8.46 (1H, d, J = 0.8 Hz)。

参考例 8 2

2-クロロシクロペンタノン

シクロペンタノン (84.1 g, 1.00 mol) およびN-クロロスクシンイミド (134 g, 1.00 mol) の四塩化炭素 (250 mL) 溶液に 2,2'-アゾビス(イソブチロニトリル) (1.64 g, 0.10 mol) を加え、光照射下 6 時間攪拌した。反応液をろ過、減圧濃縮した。残渣を減圧蒸留して、表題化合物 (59.2 g, 収率 50%) を得た。

沸点 80-86 °C /1.7 kPa (13 mmHg)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.84-2.72 (6H, m), 4.12 (1H, t, J = 6.8 Hz)。

参考例 8 3

2-(2-メトキシフェノキシ)シクロペンタノン

グアヤコール (31.0 g, 250 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (400 mL) 溶液に水素化ナトリウム (60% 油分散物) (12.0 g, 300 mmol) を加え、0 °C で 30 分間攪拌した。2-クロロシクロペンタノン (59.2 g, 499 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (100 mL) 溶液を滴下し、さらに 0 °C で 1 時間攪拌した。反応溶媒を減圧下で濃縮留去し、残渣を水に注いだ。有機物を酢酸エチルで抽出し、抽出液を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸マグネシウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 4:1) に供し、表題化合物 (28.4 g, 収率 55%) を得た。

油状物。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.62-2.51 (6H, m), 3.86 (3H, s), 4.61 (1H, td, J = 7.8, 1.4 Hz), 6.84-7.04 (4H, m)。

【0218】参考例 8 4

1-メトキシ-2-[(2-メチレンシクロペンチル)オキシ]ベンゼン

メチルトリフェニルホスホニウムブロミド (103 g, 289 mmol) のテトラヒドロフラン (600 mL) 溶液にカリウム tert-ブトキシド (30.9 g, 275 mmol) を加え 0 °C で 3 時間攪拌した。2-(2-メトキシフェノキシ)シクロペンタノン (28.4 g, 138 mmol) のテトラヒドロフラン (200 mL) 溶液を滴下し、さらに 0 °C で 1 時間攪拌した。反応液に水を加え、有機層を分離した。水層を酢酸エチルで抽出し、合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸マグネシウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 20:1) に供し、表題化合物 (2.4 g, 収率 79%) を得た。

油状物。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.60-2.55 (6H, m), 3.85 (3H, s), 4.89-4.93 (1H, m), 5.07-5.17 (2H, m), 6.83-7.00 (4H, m)。

参考例 8 5

2-(1-シクロペンテン-1-イルメチル)-6-メトキシフェノール

1-メトキシ-2-[(2-メチレンシクロペンチル)オキシ]ベンゼン (22.4 g, 110 mmol) を N,N-ジエチルアニリン (30 mL) に溶解し、窒素雰囲気下、180 °C で 3 時間攪拌した。反応混合物を氷冷し、2 M 塩酸を加え、酢酸エチルで抽出した。有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸マグネシウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 50:1) に供し、表題化合物 (19.3 g, 収率 86%) を得た。

油状物。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.78-1.94 (2H, m), 2.24-2.36 (4H, m), 3.42 (2H, s), 3.88 (3H, s), 5.30-5.32 (1H, m), 5.68 (1H, s), 6.70-6.83 (3H, m)。

参考例 8 6

7-メトキシスピロ[ベンゾフラン-2(3H),1'-シクロペンタン]

2-(1-シクロペンテン-1-イルメチル)-6-メトキシフェノール (22.4 g, 110 mmol) のメタノール (200 mL) 溶液に氷冷下濃硫酸 (20 mL) を滴下し、4 時間加熱還流した。反応溶媒を減圧下で濃縮留去し、残渣を氷水に注いだ。有機物を酢酸エチルで抽出し、飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸マグネシウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 50:1) に供し、表題化合物 (17.0 g, 収率 88%) を得た。

油状物。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.67-2.21 (8H, m), 3.19 (2H, s), 3.86 (3H, s), 6.70-6.80 (3H, m)。

参考例 8 7

7-メトキシスピロ[ベンゾフラン-2(3H),1'-シクロペンタン]-5-カルボキサルデヒド

オキシ塩化リン (15.5 mL, 166 mmol) を氷冷下 N,N-ジメチルホルムアミド (6.44 mL, 166 mmol) に滴下し、さらに 7-メトキシスピロ[ベンゾフラン-2(3H),1'-シクロペンタン] (17.0 g, 83.2 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (30 mL) 溶液を氷冷下滴下した後、80 °C で 6 時間攪拌した。反応混合物を氷水に注ぎ、8 M 水酸化ナトリウム水溶液で中和した後、酢酸エチルで抽出した。抽出液を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 10:1) に供し、ジエチルエーテル-ヘキサンから結晶化させて、表題化合物 (11.0 g, 収率 57%) を得た。融点 54 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.70-2.26 (8H, m), 3.26 (2H, s), 3.93 (3H, s), 7.31-7.34 (2H, m), 9.80 (1H, s)。

【0219】参考例 8 8

7-メトキシ-5-(2-メチル-1-プロペニル)スピロ[ベンゾフラン-2(3H),1'-シクロペンタン]

7-メトキシスピロ[ベンゾフラン-2(3H),1'-シクロペンタン]-5-カルボキサルデヒド (10.5 g, 45.2 mmol) およびイソプロピルトリフェニルホスホニウムヨード (31.4 g, 72.6 mmol) のテトラヒドロフラン (150 mL) 懸濁液に水素化ナトリウム (60% 油分散物) (3.26 g, 81.4 mmol) を加え、1 時間加熱還流した。反応混合物を 10% 塩化アンモニウム水溶液に注ぎ、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸マグネシウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 20:1) に供し、表題化合物 (11.0 g, 収率 94%) を得た。

油状物。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.54-2.20 (14H, s), 3.17 (2H, s), 3.85 (3H, s), 6.20 (1H, s), 6.60 (1H, s), 6.66 (1H, s)。

参考例 8 9

2-ブromo-3-ペンタノン

3-ペンタノン (172 g, 2.00 mol) のメタノール (500 mL) 溶液に 臭素 (51.5 mL, 1.00 mol) を滴下し、室温で 3 時間攪拌した。反応溶媒を減圧下で濃縮留去し、残渣をチオ硫酸ナトリウム水溶液で処理し、酢酸エチルで抽出した。抽出液を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸マグネシウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を減圧蒸留して、表題化合物 (72.3 g, 収率 44%) を得た。沸点 65 °C /3.3 kPa (25 mmHg)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.12 (3H, t, J = 7.4 Hz), 1.75 (3H, t, J = 7.0 Hz), 2.61 (1H, dq, J = 18.0, 7.4 Hz), 2.87 (1H, dq, J = 18.0, 7.4 Hz), 4.42 (1H, q, J = 7.0 Hz)。

参考例 9 0

2-(2-メトキシフェノキシ)-3-ペンタノン

参考例 8 3 と同様の方法により 2-ブロモ-3-ペンタノンから表題化合物を得た。定量的。

油状物。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.07 (3H, t, $J = 7.4$ Hz), 1.51 (3H, t, $J = 6.8$ Hz), 2.59 (1H, dq, $J = 18.0, 7.4$ Hz), 2.75 (1H, dq, $J = 18.0, 7.4$ Hz), 3.87 (3H, s), 4.62 (1H, q, $J = 6.8$ Hz), 6.75-6.99 (4H, m)。

参考例 9 1

1-メトキシ-2-(1-メチル-2-メチレンブトキシ)ベンゼン
参考例 8 4 と同様の方法により 2-(2-メトキシフェノキシ)-3-ペンタノンから表題化合物を得た。収率 79%。

油状物。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.07 (3H, t, $J = 7.2$ Hz), 1.50 (3H, t, $J = 6.6$ Hz), 2.13 (2H, q, $J = 7.2$ Hz), 3.86 (3H, s), 4.74 (1H, q, $J = 6.6$ Hz), 4.88 (1H, d, $J = 1.4$ Hz), 5.07-5.08 (1H, m), 6.78-6.91 (4H, m)。

参考例 9 2

2-(2-エチル-2-ブテニル)-6-メトキシフェノール

参考例 8 5 と同様の方法により 1-メトキシ-2-(1-メチル-2-メチレンブトキシ)ベンゼンから表題化合物を得た。収率 97%。

油状物。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 0.98 (3H, t, $J = 7.6$ Hz), 1.61 (3H, d, $J = 7.0$ Hz), 2.04 (2H, q, $J = 7.6$ Hz), 3.35 (2H, s), 3.88 (3H, s), 5.19 (1H, q, $J = 7.0$ Hz), 5.68 (1H, s), 6.69-6.83 (3H, m)。

参考例 9 3

2,2-ジエチル-2,3-ジヒドロ-7-メトキシベンゾフラン

参考例 8 6 と同様の方法により 2-(2-エチル-2-ブテニル)-6-メトキシフェノールから表題化合物を得た。収率 86%。

油状物。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 0.94 (6H, t, $J = 7.4$ Hz), 1.78 (4H, q, $J = 7.4$ Hz), 3.01 (2H, s), 3.87 (3H, s), 6.71-6.78 (3H, m)。

参考例 9 4

2,2-ジエチル-2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-5-ベンゾフランカルボキサリデヒド
参考例 8 7 と同様の方法により 2,2-ジエチル-2,3-ジヒドロ-7-メトキシベンゾフランから表題化合物を得た。収率 59%。

油状物。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 0.95 (6H, t, $J = 7.4$ Hz), 1.82 (4H, q, $J = 7.4$ Hz), 3.08 (2H, s), 3.93 (3H, s), 7.30 (1H, br s), 7.31 (1H, br s), 9.79 (1H, s)。

【0220】参考例 9 5

2,2-ジエチル-2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-5-(2-メチル-1-プロペニル)ベンゾフラン

参考例 8 8 と同様の方法により 2,2-ジエチル-2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-5-ベンゾフランカルボキサリデヒドから表題化合物を得た。定量的。

油状物。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 0.94 (6H, t, $J = 7.4$ Hz), 1.77 (4H, q, $J = 7.4$ Hz), 1.87 (6H, s), 2.99 (2H, s), 3.85 (3H, s), 6.19 (1H, s), 6.59 (1H, s), 6.64 (1H, s)。

参考例 9 6

2,3-ジヒドロ-7-メトキシ- $\alpha, \alpha, 2, 2$ -テトラメチル-5-ベンゾフランエタンアミン

3-(2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフラニル)-2,2-ジメチルプロピオン酸 (5.0 g, 18 mmol)、ジフェニルホスホリルアジド (5.6 g, 20 mmol) とトリエチルアミン (2.8 mL, 20 mmol) のトルエン (100 mL) 混合物を 1 時間加熱還流した。反応液を室温まで冷却した後、水ならびに飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄した後、硫酸マグネシウムで乾燥し、減圧下で溶媒を留去した。得られた残渣に 6 M 塩酸 (30 mL) を加え、60 °C で 1.5 時間攪拌した。反応液を室温まで冷却した後、8 M 水酸化ナトリウム水溶液を加えてアルカリ性にした後、有機物をジエチルエーテルで抽出した。抽出液を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄した後、硫酸マグネシウムで乾燥し、減圧下で溶媒を留去して、表題化合物 (3.6 g、収率 80%) を得た。

油状物。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.13 (6H, s), 1.51 (6H, s), 2.58 (2H, s), 3.02 (2H, s), 3.86 (3H, s), 6.55 (1H, s), 6.59 (1H, s)。

参考例 9 7

6-クロロ-N-[2-(2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフラニル)-1,1-ジメチルエチル]-3-ピリジンカルボキサミド

2,3-ジヒドロ-7-メトキシ- $\alpha, \alpha, 2, 2$ -テトラメチル-5-ベンゾフランエタンアミン (3.7 g, 15 mmol)、6-クロロニコチン酸クロリド塩酸塩 (3.9 g, 18 mmol)、炭酸水素ナトリウム (4.7 g, 56 mmol)、テトラヒドロフラン (30 mL)、トルエン (60 mL) と水 (30 mL) の混合物を室温で 14.5 時間攪拌した。反応液を減圧下濃縮し、残渣に水を加えた。有機物を酢酸エチルで抽出した。抽出液を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄した後、硫酸マグネシウムで乾燥し、減圧下で溶媒を留去した。得られた残渣を酢酸エチル-ヘキサンから再結晶して、表題化合物 (4.9 g、収率 86%) を得た。

融点 118-119 °C。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.48 (6H, s), 1.49 (6H, s), 2.97 (2H, s), 3.04 (2H, s), 3.73 (3H, s), 5.72 (1H, br), 6.51 (1H, s), 6.56 (1H, s), 7.38 (1H, d, $J = 8.4$ Hz), 7.96 (1H, dd, $J = 8.4, 2.1$ Hz), 8.62 (1H, d, $J = 2.1$ Hz)。

【0221】参考例 9 8

N-[2-(2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフラニル)-1,1-ジメチルエチル]-1,6-ジヒドロ-1-(6-

メチル-2-キノリニル)-6-オキソ-3-ピリジンカルボキサミド

6-クロロ-N-[2-(2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフラン)-1,1-ジメチルエチル]-3-ピリジンカルボキサミド (1.5 g, 3.9 mmol)、6-メチルキノリン 1-オキソ (3.9 g, 24 mmol)、25%臭化水素/酢酸溶液 (1.6 mL) および酢酸 (2.4 mL) のトルエン (13 mL) 溶液を 19.5 時間加熱還流した。反応液を室温まで冷却後、反応混合物を水に注いだ。8 M 水酸化ナトリウム水溶液を加えて弱アルカリ性にした後、有機物を酢酸エチルで抽出した。抽出液を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄した後、硫酸ナトリウムで乾燥し、減圧下で溶媒を留去した。得られた残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/クロロホルム/酢酸エチル 1:1:1 の後 1:1:2) で精製し、ヘキサソルジオプロピルエーテルより結晶化し、表題化合物 (1.2 g、収率 59%) を得た。

融点 192-193 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.45 (12H, s), 2.57 (3H, s), 2.92 (2H, s), 3.03 (2H, s), 3.75 (3H, s), 5.60 (1H, br s), 6.54 (2H, d, J=7.4Hz), 6.65 (1H, d, J=9.4Hz), 7.58-7.70 (3H, m), 7.86 (1H, d, J=8.8Hz), 7.97 (1H, d, J=8.4Hz), 8.20 (1H, d, J=8.8Hz), 8.51 (1H, d, J=2.2Hz)。

参考例 9 9

5-(3-シアノフェニル)-1H-テトラゾール-1-酢酸 メチルエステル

3-(1H-テトラゾール-5-イル)ベンゾニトリル (1.77 g, 10 mmol) を N,N-ジメチルホルムアミド (20 mL) に溶かし、氷冷下で炭酸カリウム (1.65 g, 12 mmol) とプロモ酢酸メチル (1.84 g, 12 mmol) とを加えて室温にもどし 1 時間攪拌した。反応混合物に氷水を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。抽出液を塩化ナトリウム水溶液で洗浄し、硫酸マグネシウムで乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残留物をシリカゲルカラムクロマトグラフィーに付し、ヘキサン/酢酸エチル (2:1) で溶出して目的画分を集めて濃縮し、ヘキサンから再結晶して表題化合物 (1.98 g、収率 81%) を得た。

融点 67-69 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 3.86 (3H, s), 5.51 (2H, s), 7.5-8.6 (4H, m)。

参考例 100

2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-(2-ニトロエテニル)ベンゾフラン

2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフランカルボキサリデヒド (17.5 g, 84.9 mmol)、酢酸アンモニウム (4.36 g, 56.6 mmol) のニトロメタン (85 mL) 混合物を 100-105 °C で 1.5 時間攪拌した。反応混合物を酢酸エチルに溶解し、水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸マグネシウム上で乾燥、ろ過、減

圧濃縮した。残渣を酢酸エチル-ジイソプロピルエーテルから再結晶して表題化合物 (17.1 g、収率 81%) を得た。

融点 154-156 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.55 (6H, s), 3.08 (2H, s), 3.92 (3H, s), 6.91 (1H, s), 7.04 (1H, s), 7.51 (1H, d, J = 13.6 Hz), 7.96 (1H, d, J = 13.6 Hz)。

【0222】参考例 101

N-[2-(2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフラン)エチル]ベンズアミド

2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-(2-ニトロエテニル)ベンゾフラン (16.3 g, 65.4 mmol) のテトラヒドロフラン (250 mL) 溶液に氷冷下水素化リチウムアルミニウム (7.44 g, 0.196 mol) を徐々に加え、4 時間加熱還流した。反応混合物を氷冷し、ハイドロクソセル (商品名) (37 g) を加え、酢酸エチル (100 mL)、次いで水 (15 mL) を滴下した。得られた混合物を同温で 10 分間攪拌し、ろ過、減圧濃縮して 2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフランエタンアミンを含む混合物 (12.9 g) を得た。この 2.22 g をテトラヒドロフラン (10 mL) に溶解し、炭酸ナトリウム (1.38 g, 13.0 mmol) の水 (10 mL) 溶液を加え、氷冷下ベンゾイルクロリド (1.28 mL, 11.0 mmol) を滴下、同温で 20 分間攪拌した。反応混合物に水を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 10:1 の後 3:1) に供し、酢酸エチル-ヘキサンから再結晶して表題化合物 (929 mg、収率 25%) を得た。

融点 137-138 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.51 (6H, s), 2.86 (2H, t, J = 6.8 Hz), 3.01 (2H, s), 3.61-3.75 (2H, m), 3.83 (3H, s), 6.08-6.22 (1H, m), 6.59 (1H, s), 6.65 (1H, s), 7.35-7.55 (3H, m), 7.67-7.75 (2H, m)。

参考例 102

2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-(2-ニトロ-1-プロペニル)ベンゾフラン

2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフランカルボキサリデヒド (20.0 g, 97.0 mmol)、ニトロエタン (7.70 mL, 107 mmol)、ピペリジン (2.00 mL, 20.2 mmol) と酢酸 (5.60 mL, 97.8 mmol) のトルエン (37 mL) の溶液をディーン-スターク (Dean-Stark) 水分離装置を用いて 5 時間加熱還流した。反応液を室温まで冷却した後、水と酢酸エチルに分配した。有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄した後、硫酸マグネシウムで乾燥し、減圧下溶媒を留去した。得られた残渣をジイソプロピルエーテルから結晶化して、表題化合物 (20.9 g、収率 82%) を得た。

融点 120-121 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.55 (6H, s), 2.50 (3H, s), 3.09 (2H, s), 3.91 (3H, s), 6.85 (1H, s), 6.96 (1H, s), 8.08 (1H, s)。

参考例 103

2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-α,2,2-トリメチル-5-ベンゾフランエタンアミン

2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-(2-ニトロ-1-プロペニル)ベンゾフラン (10.9 g, 41.4 mmol) のテトラヒドロフラン (150 mL) 溶液に水素化リチウムアルミニウム (3.35 g, 88.3 mmol) を 0 °C で徐々に加えた。反応液を 0 °C で 15 分間攪拌した後、1 時間加熱還流した。反応液を氷冷し、水を徐々に加え、不溶物を濾去した。濾液を硫酸ナトリウムで乾燥した後、溶媒を減圧下留去して、表題化合物 (9.00 g, 収率 92%) を得た。

油状物。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.12 (3H, d, J=6.4Hz), 1.50 (6H, s), 2.40 (1H, dd, J=13.2, 8.4Hz), 2.66 (1H, dd, J=13.2, 5.2Hz), 3.01 (2H, s), 3.07-3.17 (1H, m), 3.85 (3H, s), 6.56 (1H, s), 6.59 (1H, s)。

【0223】参考例 104

N-[2-(2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフランニル)-1-メチルエチル]ベンズアミド

2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-α,2,2-トリメチル-5-ベンゾフランエタンアミン (3.00 g, 12.7 mmol)、トリエチルアミン (2.10 mL, 15.1 mmol) のテトラヒドロフラン (50.0 mL) と酢酸エチル (50.0 mL) の溶液にベンゾイルクロリド (1.50 mL, 12.9 mmol) を 0 °C で滴下した。反応液を室温で 4 時間攪拌した後、減圧下溶媒を留去した。得られた残渣に水を加え、有機物を酢酸エチルで抽出した。抽出液を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄した後、硫酸マグネシウムで乾燥し、減圧下で溶媒を留去した。得られた残渣を酢酸エチル-ジイソプロピルエーテルから再結晶して、表題化合物 (1.94 g, 収率 45%) を得た。

融点 141-142 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.24 (3H, d, J=6.6Hz), 1.50 (6H, s), 2.76 (1H, dd, J=13.4, 7.0Hz), 2.88 (1H, dd, J=13.8, 5.6Hz), 3.00 (2H, s), 3.80 (3H, s), 4.34-4.48 (1H, m), 5.93 (1H, br), 6.58 (1H, s), 6.63 (1H, s), 7.37-7.53 (3H, m), 7.71 (2H, dd, J=8.6, 2.0Hz)。

参考例 105

N-[2-(2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフランニル)-1-メチルエチル]-4-ピリジンカルボキサミド

参考例 97 と同様の方法により、2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-α,2,2-トリメチル-5-ベンゾフランエタンアミンとイソニコチノイルクロリド塩酸塩から表題化合物を得た。収率 75%。

融点 159-160 °C (酢酸エチル-ジイソプロピルエーテル)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.26 (3H, d, J=6.6Hz), 1.51 (6H, s), 2.71-2.93 (2H, m), 3.00 (2H, s), 3.82 (3H, s), 4.34-4.47 (1H, m), 6.00 (1H, br d, J=8.4Hz), 6.56 (1H, s), 6.61 (1H, s), 7.52-7.55 (2H, m), 8.71-8.74 (2H, m)。

参考例 106

2-(ベンゾイルアミノ)-3-(2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフランニル)-2-プロペン酸 メチルエステル

2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフランカルボキサリデヒド (12.8 g, 62.1 mmol)、馬尿酸 (12.2 g, 68.1 mmol) および酢酸ナトリウム (5.60 g, 68.3 mmol) の無水酢酸 (65 mL) 懸濁液を 100 °C で 1.5 時間攪拌した。反応混合物を室温に冷却し、ジエチルエーテルを加え、結晶をろ取して 4-[(2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフランニル)メチレン]-2-フェニル-5(4H)-オキサゾロンを含む混合物 (16.9 g) を得た。また、母液を濃縮し、結晶をジイソプロピルエーテルで洗浄して同混合物 (3.72 g) を得た。これらをメタノール (100 mL) に懸濁し、炭酸ナトリウム (0.20 g, 1.9 mmol) を加え、3 時間加熱還流した。反応混合物を減圧濃縮し、残渣を酢酸エチル-水に分配した。水層を分離し、有機層を水洗、減圧濃縮した。残渣をメタノール-ジイソプロピルエーテルから結晶化させて表題化合物 (10.5 g, 収率 44%) を得た。

融点 184-186 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.50 (6H, s), 2.99 (2H, s), 3.66 (3H, s), 3.85 (3H, s), 7.00 (2H, s), 7.43-7.64 (4H, m), 7.67 (1H, br s), 7.86-7.95 (2H, m)。

【0224】参考例 107

α-(ベンゾイルアミノ)-2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフランプロパン酸 メチルエステル
2-(ベンゾイルアミノ)-3-(2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフランニル)-2-プロペン酸 メチルエステル (11.5 g, 30.2 mmol) のテトラヒドロフラン (100 mL) 溶液に 10% パラジウム/炭素 (50% 含水品) (1.2 g) を加え、水素雰囲気下、50 °C で 4 時間攪拌した。触媒をろ過し、ろ液を減圧濃縮した。得られた結晶をジイソプロピルエーテルで洗浄して、表題化合物 (10.1 g, 収率 87%) を得た。

融点 160-162 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.50 (6H, s), 2.98 (2H, s), 3.15 (1H, dd, J = 13.9, 5.1Hz), 3.23 (1H, dd, J = 13.9, 5.9 Hz), 3.75 (3H, s), 3.78 (3H, s), 5.04 (1H, dt, J = 7.5, 5.5 Hz), 6.48 (1H, s), 6.53 (1H, s), 6.59 (1H, br d, J = 7.5 Hz), 7.36-7.57 (3H, m), 7.71-7.79 (2H, m)。

50 参考例 108

2-アミノ-5-(4,4,5,5-テトラメチル-1,3,2-ジオキサボロラン-2-イル)安息香酸メチルエステル
5-ヨードアントラニル酸メチル (2.78 g, 10.0 mmol) およびトリエチルアミン (4.2 mL, 30 mmol) の 1,4-ジオキサン (20 mL) 溶液に [1,1'-ビス(ジフェニルホスフィノ)フェロセン]ジクロロパラジウム(II)ジクロロメタン錯体 (82 mg, 0.10 mmol) を加え、4,4,5,5-テトラメチル-1,3,2-ジオキサボロラン (3.7 mL, 25 mmol) を滴下した。得られた混合物を窒素雰囲気下、80 °Cで 14 時間攪拌した。反応混合物に水を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、シリカゲルを通してろ過 (酢酸エチルで溶出)、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 5:1) に供し、酢酸エチル-ヘキサンから再結晶して表題化合物 (1.45 g, 収率 52%) を得た。

融点 110-112 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.33 (12H, s), 3.86 (3H, s), 5.96 (2H, br s), 6.63 (1H, d, J = 8.3 Hz), 7.67 (1H, dd, J = 8.3, 1.5 Hz), 8.33 (1H, d, J = 1.5 Hz)。

【0225】参考例 109

4-(4,4,5,5-テトラメチル-1,3,2-ジオキサボロラン-2-イル)安息香酸 エチルエステル
4-ヨード安息香酸エチル (2.76 g, 10.0 mmol) およびトリエチルアミン (4.2 mL, 30 mmol) の 1,4-ジオキサン (20 mL) 溶液に [1,1'-ビス(ジフェニルホスフィノ)フェロセン]ジクロロパラジウム(II)ジクロロメタン錯体 (82 mg, 0.10 mmol) を加え、4,4,5,5-テトラメチル-1,3,2-ジオキサボロラン (3.2 mL, 22 mmol) を滴下した。得られた混合物を窒素雰囲気下、80 °Cで 14 時間、100 °Cで 3時間攪拌した。反応混合物に水を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム-シリカゲルを通して乾燥 (酢酸エチルで溶出)、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 20:1) に供して表題化合物 (2.26 g, 収率 82%) を得た。

油状物。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.36 (12H, s), 1.40 (3H, t, J = 7.1 Hz), 4.39 (2H, q, J = 7.1 Hz), 7.86 (2H, d, J = 8.4 Hz), 8.03 (2H, d, J = 8.4 Hz)。

参考例 110

β-(ベンゾイルアミノ)-2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフランプロパノール
α-(ベンゾイルアミノ)-2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフランプロパン酸 メチルエステル (3.84 g, 10.0 mmol) のテトラヒドロフラン (30 mL) 懸濁液に水素化ホウ素ナトリウム (90%) (1.26 g, 30 mmol) を加えた。得られた混合物を加熱還流しながらメタノール (5 mL) を 30 分間かけて滴下、さらに 5 分

間加熱還流した。反応混合物を放冷し、水を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水で 2 回洗浄、減圧濃縮した。残渣をメタノール-ジイソプロピルエーテルから再結晶して表題化合物 (2.65 g, 収率 75%) を得た。

融点 155-158 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.50 (6H, s), 2.91 (2H, d, J = 7.2 Hz), 3.00 (2H, s), 3.66-3.87 (2H, m), 3.82 (3H, s), 4.20-4.38 (1H, m), 6.37-6.48 (1H, m), 6.63 (1H, s), 6.67 (1H, s), 7.35-7.55 (3H, m), 7.65-7.73 (2H, m)。

参考例 111

酢酸 2-(ベンゾイルアミノ)-3-(2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフラン)プロピルエステル

β-(ベンゾイルアミノ)-2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフランプロパノール (3.13 g, 8.81 mmol) および 4-(ジメチルアミノ)ピリジン (108 mg, 0.884 mmol) のテトラヒドロフラン (30 mL) 懸濁液にトリエチルアミン (1.84 mL, 13.2 mmol) および無水酢酸 (1.16 mL, 12.3 mmol) を滴下し、室温で 20 分間攪拌した。反応混合物に水を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水で 2 回洗浄、減圧濃縮した。残渣をメタノール-ジイソプロピルエーテルから再結晶して表題化合物 (3.26 g, 収率 93%) を得た。

融点 141-142 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.50 (6H, s), 2.11 (3H, s), 2.79 (1H, dd, J = 13.7, 8.3 Hz), 2.93-3.05 (1H, m), 3.00 (2H, s), 3.82 (3H, s), 4.15 (1H, dd, J = 11.4, 4.1 Hz), 4.28 (1H, dd, J = 11.4, 6.2 Hz), 4.47-4.64 (1H, m), 6.43 (1H, br d, J = 8.4 Hz), 6.61 (1H, s), 6.64 (1H, s), 7.38-7.57 (3H, m), 7.70-7.78 (2H, m)。

【0226】参考例 112

N-[3'-(1,2,3,4,8,9-ヘキサヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-3-イル]アセトアミド

参考例 10 と同様の方法により N-[3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-3-イル]アセトアミドから表題化合物を得た。収率 84%。

融点 162-165 °C (酢酸エチル-ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.18 (3H, s), 1.21 (3H, s), 1.25 (3H, s), 1.34 (3H, s), 1.85 (1H, d, J = 15.8 Hz), 2.20 (3H, s), 2.47 (1H, d, J = 15.8 Hz), 2.56 (1H, d, J = 15.4 Hz), 2.83 (1H, d, J = 15.4 Hz), 3.87 (3H, s), 5.00 (1H, s), 6.50 (1H, s), 7.15-7.66 (9H, m)。

参考例 113

3-シアノ-N-(3,5-ジクロロ-4-ピリジニル)ベンズアミド

3-シアノ安息香酸 (2.71 g、18.4 mmol) および塩化チオニル (10 mL) の混合物を 1.5 時間加熱還流した。反応液を減圧濃縮し、残渣にトルエンを加えて再び減圧濃縮した。4-アミノ-3,5-ジクロロピリジン (2.50 g、15.3 mmol) のテトラヒドロフラン (30 mL) 懸濁液を氷冷し、水素化ナトリウム (66% 油分散物) (1.34 g、36.7 mmol) を加えて、さらに、先に調製した濃縮残渣を加えた。混合物を室温で 2 時間攪拌した後、氷水に注ぎ、酢酸エチルで抽出した。抽出液を水洗した後、減圧濃縮した。残渣を酢酸エチル-ヘキサンから再結晶し、表題化合物 (0.45 g、収率 11%) を得た。母液を濃縮し、残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (酢酸エチル/メタノール 19:1) に供した後、酢酸エチル-ヘキサンから再結晶し、表題化合物 (0.66 g、収率 15%) をさらに得た。

融点 242-244 °C。

¹H NMR (CDCl₃+DMSO-d₆) δ 7.65 (1H, t, J=8.0 Hz), 7.87 (1H, dd, J=1.4, 8.0 Hz), 8.34 (1H, dd, J=1.4, 8.0 Hz), 8.49 (1H, s), 8.58 (2H, s), 10.24 (1H, br s)。

参考例 114

3-シアノ-N-(3,5-ジクロロ-1-オキシド-4-ピリジニル)ベンズアミド

3-シアノ-N-(3,5-ジクロロ-4-ピリジニル)ベンズアミド (1.06 g、3.78 mmol) および m-クロロ過安息香酸 (70%) (2.80 g、11.3 mmol) の酢酸エチル (20 mL) 懸濁液を、窒素雰囲気下、50 °C で 15 時間攪拌した。反応液に水およびチオ硫酸ナトリウム水溶液を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を水洗した後、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (酢酸エチル/メタノール 49:1 から 23:2) に供した後、酢酸エチル-ヘキサンから再結晶し、表題化合物 (0.88 g、収率 79%) を得た。

融点 234-235 °C。

¹H NMR (CDCl₃+DMSO-d₆) δ 7.65 (1H, t, J=8.0 Hz), 7.87 (1H, d, J=8.0 Hz), 8.26 (2H, s), 8.32 (1H, d, J=8.0 Hz), 8.47 (1H, s), 10.16 (1H, br s)。

【0227】参考例 115

1-(7-エトキシ-2,3-ジヒドロ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフランニル)-2-メチル-1-プロパノール

7-エトキシ-2,3-ジヒドロ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフランカルボキサリデヒド (30.0 g、0.136 mol) のテトラヒドロフラン (50 mL) 溶液を氷冷し、これに 2-ブロモプロパン (25.1 g、0.204 mol) およびマグネシウム (4.97 g、0.204 mol) から調製したグリニャール試薬のテトラヒドロフラン (50 mL) 懸濁液を加え、混合物を室温で 1 時間攪拌した。反応液を氷水に注ぎ、酢酸エチルで抽出した。抽出液を水洗した後、減圧濃縮した。残渣を酢酸エチル-ヘキサンから結晶化し、表題化合物 (29.8 g、収率 83%) を得た。

融点 100-101 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 0.77 (3H, d, J=6.6 Hz), 1.02 (3H, d, J=6.6 Hz), 1.42 (3H, t, J=7.0 Hz), 1.51 (6H, s), 1.77 (1H, d, J=6.6 Hz), 1.80-1.99 (1H, m), 3.00 (2H, s), 4.12 (2H, q, J=7.0 Hz), 4.21 (1H, dd, J=2.8 Hz, 7.2 Hz), 6.70 (2H, s)。

参考例 116

1-エトキシ-2-(2-メチル-2-プロペニルオキシ)ベンゼン 2-エトキシフェノール (5.00 g、36.2 mmol)、3-クロロ-2-メチル-1-プロペン (3.93 mL、39.8 mmol)、炭酸カリウム (5.75 g、41.6 mmol) およびヨウ化カリウム (0.60 g、3.62 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (25 mL) 懸濁液を、窒素雰囲気下、90 °C で 1.5 時間攪拌した。反応液を室温に戻した後に水を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を 1 M 水酸化ナトリウム水溶液および水で洗浄した後、減圧濃縮して、表題化合物 (5.90 g、収率 85%) を得た。

油状物。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.44 (3H, t, J=6.9 Hz), 1.84 (3H, s), 4.09 (2H, q, J=6.9 Hz), 4.50 (2H, s), 4.97 (1H, s), 5.10 (1H, s), 6.88-6.91 (4H, m)。

参考例 117

2-エトキシ-6-(2-メチル-2-プロペニル)フェノール 1-エトキシ-2-(2-メチル-2-プロペニルオキシ)ベンゼン (5.80 g、30.2 mmol) の N,N-ジエチルアニリン (12 mL) 溶液を、窒素雰囲気下、205 °C で 3.5 時間攪拌した。反応液を室温に戻した後に氷冷し、2 M 塩酸 (39 mL) を加えて酢酸エチルで抽出した。抽出液を水洗した後減圧濃縮して、表題化合物 (5.60 g、収率 97%) を得た。

油状物。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.44 (3H, t, J=7.0 Hz), 1.75 (3H, s), 3.36 (2H, s), 4.10 (2H, q, J=7.0 Hz), 4.69 (1H, s), 4.80 (1H, s), 6.65-6.79 (3H, m)。

【0228】参考例 118

7-エトキシ-2,3-ジヒドロ-2,2-ジメチルベンゾフラン 2-エトキシ-6-(2-メチル-2-プロペニル)フェノール (5.50 g、28.6 mmol) のトルエン (30 mL) 溶液に三フッ化ホウ素ジエチルエーテル錯体 (3.99 mL、31.5 mmol) を加え、窒素雰囲気下、混合物を 100 °C で 1.5 時間攪拌した。反応液を室温に戻した後に 1 M 水酸化ナトリウム水溶液 (30 mL) を加え、ヘキサンで抽出した。抽出液を 1 M 水酸化ナトリウム水溶液および水で洗浄した後、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 97:3 から 19:1) に供し、表題化合物 (2.90 g、収率 53%) を得た。

油状物。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.43 (3H, t, J=7.0 Hz), 1.51 (6H, s), 3.02 (2H, s), 4.12 (2H, q, J=7.0 Hz), 6.71-6.78 (3H, m)。

参考例 1 1 9

5-ブromo-7-エトキシ-2,3-ジヒドロ-2,2-ジメチルベンゾフラン

7-エトキシ-2,3-ジヒドロ-2,2-ジメチルベンゾフラン (10.0 g, 52.0 mmol) のトルエン (50 mL) 溶液を -40 °C に冷却し、臭素 (8.72 g, 54.6 mmol) を滴下した。反応液を同温度で 20 分間攪拌した後、チオ硫酸ナトリウム水溶液を加え、ヘキサンで抽出した。抽出液を水洗した後、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 19:1) に供し、表題化合物 (13.6 g, 収率 96%) を得た。

融点 55-58 °C (ペンタン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.43 (3H, t, J=7.0 Hz), 1.50 (6H, s), 3.00 (2H, s), 4.09 (2H, q, J=7.0 Hz), 6.83-6.85 (1H, m), 6.86-6.88 (1H, m)。

参考例 1 2 0

7-エトキシ-2,3-ジヒドロ-2,2-ジメチル-5-(2-メチル-2-プロペニル)ベンゾフラン

5-ブromo-7-エトキシ-2,3-ジヒドロ-2,2-ジメチルベンゾフラン (3.60 g, 13.3 mmol) のテトラヒドロフラン (30 mL) 溶液を -78 °C に冷却し、1.57 M n-ブチルリチウムヘキサン溶液 (9.30 mL, 14.6 mmol) を滴下して、混合物を同温度で 15 分間攪拌した。これにヨウ化銅 (I) (1.39 g, 7.32 mmol) を加え、混合物を氷冷下で 15 分間攪拌した。混合物を -40 °C に冷却した後 3-クロロ-2-メチル-1-プロペン (1.44 mL, 14.6 mmol) を滴下し、氷冷下で 15 分間攪拌した。反応液に水を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を水洗した後、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 19:1) に供し、表題化合物 (2.34 g, 収率 71%) を得た。

油状物。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.41 (3H, t, J=7.0 Hz), 1.50 (6H, s), 1.68 (3H, s), 2.99 (2H, s), 3.22 (2H, s), 4.11 (2H, q, J=7.0 Hz), 4.73 (1H, s), 4.78 (1H, s), 6.56 (1H, s), 6.58 (1H, s)。

【0229】参考例 1 2 1

3-シアノ-N-メチルベンゼンスルホンアミド

塩酸メチルアミン (1.67 g, 24.8 mmol) のピリジン (6 mL) 懸濁液に氷冷下、3-シアノベンゼンスルホンクロリド (5.00 g, 24.8 mmol) を加え、室温で 3 時間攪拌した。反応混合物に氷水を注ぎ、1 M 塩酸で酸性にし、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を 1 M 塩酸、水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸マグネシウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮し、表題化合物 (4.49 g, 収率 92%) を結晶として得た。

¹H NMR (CDCl₃) δ 2.73 (3H, d, J = 5.4 Hz), 4.51 (1H, br), 7.69 (1H, t, J = 7.8 Hz), 7.88 (1H, dt, J = 7.8, 1.5 Hz), 8.00 (1H, dt, J = 7.8, 1.5 Hz), 8.17 (1H, t, J = 1.5 Hz)。

参考例 1 2 2

N-[3-[(3-シアノフェニル)スルホニル]アミノ]フェニル]アセトアミド

3'-アミノアセトアニリド (745 mg, 4.96 mmol) のテトラヒドロフラン (10 mL) 溶液に氷冷下、トリエチルアミン (0.76 mL, 5.46 mmol) および 3-シアノベンゼンスルホンクロリド (1.00 g, 4.96 mmol) を加え、室温で 3 時間攪拌した。反応混合物に水を注ぎ、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸マグネシウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 1:1 の後 1:2) に供し、表題化合物 (1.39 g, 収率 89%) を結晶として得た。

¹H NMR (CDCl₃) δ 2.23 (3H, s), 6.97-7.03 (2H, m), 7.21 (1H, d, J = 8.2 Hz), 7.51-7.64 (2H, m), 7.73-7.81 (2H, m), 7.96-8.10 (2H, m)。

参考例 1 2 3

2-[(3-シアノフェニル)スルホニル]アミノ]アセトアミド

3-シアノベンゼンスルホンクロリド (538 mg, 2.67 mmol) のピリジン (3 mL) 溶液にグリシンアミド塩酸塩 (301 mg, 2.67 mmol) を加え、室温で 1 時間、60 °C で 2 時間、90 °C で 4 時間攪拌した。反応混合物に水を注ぎ、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を 1 M 塩酸および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮し、表題化合物 (180 mg, 収率 28%) を結晶として得た。

¹H NMR (CDCl₃) δ 3.57 (2H, d, J = 5.7 Hz), 6.25 (1H, br s), 7.00 (1H, brs), 7.68 (1H, t, J = 7.8 Hz), 7.76 (1H, t, J = 5.7 Hz), 7.87 (1H, dd, J = 7.8, 1.4 Hz), 8.12 (1H, dd, J = 7.8, 1.4 Hz), 8.14 (1H, t, J = 1.4 Hz)。

【0230】参考例 1 2 4

3-シアノ-N-(ヘキサヒドロ-2-オキソ-1H-アゼピン-3-イル)ベンゼンスルホンアミド

3-アミノヘキサヒドロ-2H-アゼピン-2-オン (305 mg, 2.38 mmol) のテトラヒドロフラン (3 mL) 溶液に 1 M 水酸化ナトリウム水溶液 (2 mL) および 3-シアノベンゼンスルホンクロリド (400 mg, 1.98 mmol) を加え、室温で 3 時間攪拌した。反応混合物に水およびジイソプロピルエーテルを注ぎ、析出した結晶をろ取、水およびジイソプロピルエーテルで洗浄し、表題化合物 (360 mg, 収率 62%) を結晶として得た。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.34-1.90 (4H, m), 2.02-2.16 (2H, m), 3.11-3.25 (2H, m), 3.87-3.92 (1H, m), 5.99 (1H, br s), 6.25 (1H, br s), 7.65 (1H, dd, J = 8.4, 7.8 Hz), 7.84 (1H, ddd, J = 7.8, 1.6, 1.4 Hz), 8.04 (1H, ddd, J = 8.4, 1.6, 1.4 Hz), 8.15 (1H, dd, J = 1.6, 1.4 Hz)。

50 参考例 1 2 5

2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフランアセトニトリル

カリウム tert-ブトキシド (11.8 g, 105 mmol) をジメトキシエタン (75 mL) に懸濁して -70 °C 以下に冷やし、トルエンスルホンルメチルイソシアニド (10.2 g, 52.5 mmol) を加える。-70 °C 以下で 30 分間かき混ぜ、2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフランカルボキサルデヒド (10.4 g, 50 mmol) のジメトキシエタン (25 mL) 溶液を 10 分間で滴下した。-70 °C 以下で 30 分間かき混ぜ、メタノール (75 mL) を加えて室温までゆっくり戻し、さらに 2 時間加熱還流した。反応液を減圧濃縮し、残留物に氷水を加えて酢酸エチルで 2 回抽出した。抽出液を塩化ナトリウム水溶液で洗浄し、硫酸マグネシウムで乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残留物にジエチルエーテルを加えて、析出した結晶をろ過して集め、ジエチルエーテルで洗浄、乾燥して表記化合物 (6.85 g、収率63%) を得た。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.51 (6H, s), 3.03 (2H, s), 3.67 (2H, s), 3.87 (3H, s), 6.66 (1H, s), 6.74 (1H, s)。

参考例 1 2 6

2-(2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフラン)-2-メチルプロパンニトリル

60% 油性水素化ナトリウム (2.92 g, 73 mmol) を N,N-ジメチルホルムアミド (75 mL) に懸濁して氷冷下で 2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフランアセトニトリル (7.95 g, 36.5 mmol) を少しずつ加えた。室温で 30 分間かき混ぜ、再び氷冷下でヨードメタン (13 g, 92 mmol) を 5 分間で滴下した。室温で 3 時間かき混ぜ、反応液を氷水中に注ぎ、酢酸エチルで 2 回抽出した。抽出液を塩化ナトリウム水溶液で洗浄し、硫酸マグネシウムで乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残留物をシリカゲルカラムクロマトグラフィーに付し、ヘキサン/酢酸エチル (5:1) で溶出して目的画分を集めて濃縮して表記化合物 (8.6 g、収率96%) を得た。

油状物。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.52 (6H, s), 1.71 (6H, s), 3.04 (2H, s), 3.90 (3H, s), 6.82 (1H, s), 6.87 (1H, s)。

【0231】参考例 1 2 7

2-(2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフラン)-2-メチルプロパンアミド

2-(2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフラン)-2-メチルプロパンニトリル (8.6 g, 35 mmol) をメタノール (105 mL) に溶かし、氷冷下で 1 M 水酸化ナトリウム水溶液 (52 mL) と 30% 過酸化水素水溶液 (7.94 mL) を加えて室温で 18 時間攪拌した。減圧下メタノールを留去して、残留物を酢酸エチルで 2 回抽出した。抽出液を塩化ナトリウム水溶液で洗浄し、硫酸マグネシウムで乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残留物にジエチルエーテルを加えて結晶化させて表記化合物 (7.73 g、収率84%) を得た。

融点 112-113 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.51 (6H, s), 1.56 (6H, s), 3.03 (2H, s), 3.87 (3H, s), 5.30 (1H, br), 5.45 (1H, br), 6.73 (1H, s), 6.81 (1H, s)。

参考例 1 2 8

N-[2-(2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフラン)-2-メチルプロピル]ベンズアミド

窒素ガス気流中で水素化リチウムアルミニウム (0.285 g, 7.5 mmol) のテトラヒドロフラン (15 mL) 懸濁液に 2-(2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフラン)-2-メチルプロパンアミド (0.791 g, 3 mmol) を加える。室温で 30 分間かき混ぜ、さらに 1 時間加熱還流した。氷冷下で酢酸エチル (15 mL) を加えて 30 分間かき混ぜ、氷水 (15 mL) を加え、セライトを用いて不溶物を除き、ろ液を酢酸エチルで 2 回抽出した。抽出液を塩化ナトリウム水溶液で洗浄し、硫酸マグネシウムで乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残留物をテトラヒドロフラン (10 mL) に溶かし氷冷下でピリジン (0.73 mL, 9 mmol) とベンゾイルクロリド (0.53 mL, 4.5 mmol)

を加えて室温で 15 時間かき混ぜた。反応液に酢酸エチル (20 mL) を加えて水と塩化ナトリウム水溶液で洗浄し、硫酸マグネシウムで乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残留物をシリカゲルカラムクロマトグラフィーに付し、ヘキサン/酢酸エチル (3:1) で溶出して目的画分を集めて濃縮し表記化合物 (0.572 g、収率53%) を得た。ジエチルエーテル/ヘキサン (1:1) から再結晶した。

融点 109-110 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.38 (6H, s), 1.53 (6H, s), 3.04 (2H, s), 3.61 (2H, d, J=6 Hz), 3.88 (3H, s), 5.80 (1H, br), 6.76 (1H, s), 6.81 (1H, s), 7.3-7.7 (5H, m)。

参考例 1 2 9

3-シアノ-N-[2-(2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフラン)-2-メチルプロピル]ベンズアミド

窒素ガス気流中で水素化リチウムアルミニウム (0.475 g, 12.5 mmol) のテトラヒドロフラン (33 mL) 懸濁液に 2-(2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフラン)-2-メチルプロパンアミド (1.32 g, 5 mmol) を加える。室温で 30 分間かき混ぜ、さらに 1 時間加熱還流する。氷冷下で酢酸エチル (25 mL) を加えて 30 分間かき混ぜ、氷水 (15 mL) を加え、セライトを用いて不溶物を除き、ろ液を酢酸エチルで 2 回抽出した。抽出液を塩化ナトリウム水溶液で洗浄し、硫酸マグネシウムで乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残留物をテトラヒドロフラン (10 mL) に溶かし、テトラヒドロフラン (10 mL) 中で 3-シアノ安息香酸 (0.883 g, 6 mmol) と N,N'-カルボニルジイミダゾール (0.892 g, 5.5 mmol) とを室温で 30 分間かき混ぜて調製した活性エステル溶液に加えて室温で 15 時間かき混ぜた。反応液に酢酸エチル (33 mL) を加えて水と塩化ナトリウム水溶液で洗

浄し、硫酸マグネシウムで乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残留物をシリカゲルカラムクロマトグラフィーに付し、ヘキサン/酢酸エチル (2:1) で溶出して目的画分を集めて濃縮し表記化合物 (0.955 g、収率 50%) を得た。

油状物。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.39 (6H, s), 1.52 (6H, s), 3.06 (2H, s), 3.62 (2H, d, $J=6$ Hz), 3.88 (3H, s), 5.80 (1H, br), 6.75 (1H, s), 6.81 (1H, s), 7.4-8.0 (4H, m)。

【0232】参考例130

[2-(2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフラニル)-2-メチルプロピル]アミノ]オキソ酢酸 エチルエステル

窒素ガス気流中で水素化リチウムアルミニウム (0.285 g, 7.5 mmol) のテトラヒドロフラン (20 mL) 懸濁液に 2-(2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフラニル)-2-メチルプロパンアミド (0.791 g, 3 mmol) を加える。室温で 30 分間かき混ぜ、さらに 1 時間加熱還流した。氷冷下で酢酸エチル (15 mL) を加えて 30 分間かき混ぜ、氷水 (15 mL) を加え、セライトを用いて不溶物を除き、ろ液を酢酸エチルで 2 回抽出した。抽出液を塩化ナトリウム水溶液で洗浄し、硫酸マグネシウムで乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残留物をテトラヒドロフラン (10 mL) に溶かし氷冷下でピリジン (0.73 mL, 9 mmol) とクロログリオキシル酸エチル (0.615 g, 4.5 mmol) を加えて室温で 15 時間かき混ぜた。反応液に酢酸エチル (20 mL) を加えて水と塩化ナトリウム水溶液で洗浄し、硫酸マグネシウムで乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残留物をシリカゲルカラムクロマトグラフィーに付し、ヘキサン/酢酸エチル (2:1) で溶出して目的画分を集めて濃縮し表記化合物 (0.51 g、収率 49%) を得た。

油状物。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.26 (3H, t, $J=7$ Hz), 1.34 (6H, s), 1.52 (6H, s), 3.03 (2H, s), 3.48 (2H, d, $J=6$ Hz), 3.88 (3H, s), 4.13 (2H, q, $J=7$ Hz), 6.69 (1H, s), 6.74 (1H, s), 6.92 (1H, br)。

参考例131

3-プロモ-N-[2-(2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフラニル)-2-メチルプロピル]ベンズアミド 2-(2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフラニル)-2-メチルプロパンアミド (1.00 g, 3.80 mmol) のテトラヒドロフラン (10 mL) 溶液に氷冷下水素化リチウムアルミニウム (80%) (0.36 g, 7.6 mmol) を加え、1 時間加熱還流した。反応混合物を氷冷し、ハイフロスーパーセル (商品名) (1.5 g) を加え、酢酸エチル (1 mL) および水 (0.5 mL) をゆっくり滴下、酢酸エチルを加えて懸濁させた後ろ過、減圧濃縮して 2-(2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフラニル)-2-メチルプロパンアミンを得た。これをテトラヒドロフ

ラン (8 mL) に溶解し、トリエチルアミン (0.64 mL, 4.6 mmol) を加えた。得られた混合物を氷冷し、3-プロモベンゾイルクロリド (0.55 mL, 4.2 mmol) を滴下し、同温で 10 分間攪拌した。反応混合物に水を加え、クロロホルムで 2 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸マグネシウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をクロロホルム-ジイソプロピルエーテルから結晶化させて表題化合物 (1.41 g、収率 86%) を得た。

10 融点 157-163 °C。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.38 (6H, s), 1.53 (6H, s), 3.06 (2H, s), 3.58 (2H, d, $J=5.8$ Hz), 3.89 (3H, s), 5.65-5.80 (1H, m), 6.76 (1H, s), 6.80 (1H, s), 7.21-7.31 (1H, m), 7.51 (1H, dt, $J=7.8, 2.5$ Hz), 7.59 (1H, ddd, $J=7.8, 2.0, 1.1$ Hz), 7.73 (1H, t, $J=1.8$ Hz)。

参考例132

(4-ヨードフェニル)カルバミン酸 フェニルメチルエステル

20 4-ヨードアニリン (4.38 g, 20.0 mmol) のテトラヒドロフラン溶液に炭酸ナトリウム (2.65 g, 25.0 mmol) の水 (15 mL) 溶液を加え、氷冷下クロロギ酸ベンジル (3.1 mL, 22 mmol) を滴下、同温で 15 分間攪拌した。反応混合物に水を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸マグネシウム上で乾燥、活性炭処理、ろ過、減圧濃縮した。残渣をジイソプロピルエーテルから再結晶して表題化合物 (4.71 g、収率 67%) を得た。

融点 132-134 °C。

30 $^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 5.20 (2H, s), 6.64 (1H, br s), 7.18 (2H, d, $J=8.8$ Hz), 7.33-7.45 (5H, m), 7.60 (2H, d, $J=8.8$ Hz)。

【0233】参考例133

[4-(4,4,5,5-テトラメチル-1,3,2-ジオキサボロラン-2-イル)フェニル]カルバミン酸 フェニルメチルエステル (4-ヨードフェニル)カルバミン酸 フェニルメチルエステル (6.50 g, 18.4 mmol) およびトリエチルアミン (7.7 mL, 55 mmol) の 1,4-ジオキサン (35 mL) 溶液に [1,1'-ビス(ジフェニルホスフィノ)フェロセン]ジクロロパラジウム(II)ジクロロメタン錯体 (150 mg, 0.184 mmol) を加え、4,4,5,5-テトラメチル-1,3,2-ジオキサボロラン (5.9 mL, 41 mmol) を滴下した。得られた混合物を窒素雰囲気下、85 °C で 2.5 時間攪拌した。反応混合物を氷冷し、水を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム-シリカゲルを通して乾燥 (酢酸エチルで溶出)、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 10:1 の後 4:1) に供して表題化合物 (5.47 g、収率 84%) を得た。

50

油状物。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.33 (12H, s), 5.20 (2H, s), 6.76 (1H, br s), 7.25-7.52 (7H, m), 7.75 (2H, d, $J = 8.4$ Hz)。

参考例 1 3 4

N-[3'-(1,2,3,4,8,9-ヘキサヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-イル]アセトアミド

参考例 1 0 と同様の方法により N-[3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-イル]アセトアミドから表題化合物を得た。収率 88%。

非晶質。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.19 (3H, s), 1.20 (3H, s), 1.25 (3H, s), 1.35 (3H, s), 1.85 (1H, d, $J = 15.7$ Hz), 2.19 (3H, s), 2.48 (1H, d, $J = 15.7$ Hz), 2.57 (1H, d, $J = 15.6$ Hz), 2.83 (1H, d, $J = 15.6$ Hz), 3.87 (3H, s), 5.00 (1H, s), 6.50 (1H, s), 7.17 (1H, d, $J = 7.4$ Hz), 7.30-7.60 (8H, m)。

参考例 1 3 5

3'-(1,2,3,4,8,9-ヘキサヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-アミン

参考例 1 0 と同様の方法により 3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-アミンから表題化合物を得た。収率 91%。

非晶質。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.18 (3H, s), 1.20 (3H, s), 1.25 (3H, s), 1.34 (3H, s), 1.87 (1H, d, $J = 15.4$ Hz), 2.43-2.60 (2H, m), 2.82 (1H, d, $J = 15.4$ Hz), 3.72 (2H, br s), 3.87 (3H, s), 4.98 (1H, s), 6.49 (1H, s), 6.73 (2H, d, $J = 8.4$ Hz), 7.11 (1H, dt, $J = 7.3, 1.5$ Hz), 7.25-7.47 (5H, m)。

【0234】参考例 1 3 6

3-シアノ-N-メチルベンズアミド

3-シアノ安息香酸 (2.00 g, 13.6 mmol) のテトラヒドロフラン (10 mL) 溶液を氷冷し、これに N,N'-カルボニルジイミダゾール (2.42 g, 15.0 mmol) を加え、混合物を氷冷下で 30 分間攪拌した。混合物に 40% メチルアミン/メタノール溶液 (2 mL) を加え、さらに 30 分間攪拌した。反応液を減圧濃縮し、残渣に水を加えて酢酸エチルで抽出した。抽出液を 1 M 塩酸、1 M 水酸化ナトリウム水溶液および水で洗浄した後、減圧濃縮した。残渣を酢酸エチル-ヘキサンから結晶化し、表題化合物 (1.66 g, 収率 76%) を得た。

融点 132-133 °C。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 3.04 (3H, d, $J = 4.8$ Hz), 6.33 (1H, br s), 7.58 (1H, t, $J = 7.8$ Hz), 7.78 (1H, d, $J = 7.8$ Hz), 8.00-8.08 (2H, m)。

参考例 1 3 7

2,3-ジヒドロ-6,7-ジメトキシ-2,2-ジメチル-5-(2-メチル-1-プロペニル)ベンゾフラン

参考例 1 と同様の方法により、4-ヒドロキシ-2,3-ジメトキシベンズアルデヒドから 4-ヒドロキシ-2,3-ジメトキシ-5-(2-メチル-2-プロペニル)ベンズアルデヒドを得た。これを参考例 3 と同様の方法により、2,3-ジヒドロ-6,7-ジメトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフランカルボキサルデヒドとし、参考例 5 と同様の方法により表題化合物に導いた。収率 48%。

油状物。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.50 (6H, s), 1.79 (3H, d, $J = 1.2$ Hz), 1.89 (3H, d, $J = 1.2$ Hz), 2.97 (2H, s), 3.73 (3H, s), 3.93 (3H, s), 6.22 (1H, s), 6.69 (1H, s)。

【0235】参考例 1 3 8

1-(1,2,3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニルフロ[2,3-h]イソキノリン-2-イル)エタノン

1,2,3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニルフロ[2,3-h]イソキノリン (503 mg, 1.49 mmol) のテトラヒドロフラン (5 mL) 溶液にトリエチルアミン (0.23 mL, 1.64 mmol) およびアセチルクロリド (0.12 mL, 1.64 mmol) を加え、室温で 1 時間攪拌した。反応混合物に氷水を注ぎ、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸マグネシウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。析出した結晶をろ取、ジエチルエーテルで洗浄し、表題化合物 (380 mg, 収率 67%) を得た。

融点 193-195 °C。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.25 (3H, s), 1.59 (3H, s), 1.61 (3H, s), 1.72 (3H, s), 2.17 (1H, d, $J = 14.6$ Hz), 2.54 (1H, d, $J = 14.6$ Hz), 2.27 (3H, s), 3.12 (2H, s), 3.88 (3H, s), 5.81 (1H, br s), 6.56 (1H, s), 7.03 (5H, m)。

参考例 1 3 9

フェニル(1,2,3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニルフロ[2,3-h]イソキノリン-2-イル)メタノン

1,2,3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニルフロ[2,3-h]イソキノリン (420 mg, 1.24 mmol) のテトラヒドロフラン (5 mL) 溶液にトリエチルアミン (0.19 mL, 1.37 mmol) およびアセチルクロリド (0.16 mL, 1.37 mmol) を加え、室温で 3 時間攪拌した。反応混合物に氷水を注ぎ、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸マグネシウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。析出した結晶をろ取、ヘキサンで洗浄し、表題化合物 (415 mg, 収率 76%) を得た。

融点 190-225 °C。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.42 (3H, s), 1.50 (3H, s), 1.57 (3H, s), 1.75 (3H, s), 2.29 (1H, d, $J = 14.5$ Hz), 2.60 (1H, d, $J = 14.5$ Hz), 2.71 (2H, s), 3.92 (3H, s), 5.85 (1H, s), 6.65 (1H, s), 7.07 (2H, d, $J = 8.6$ Hz), 7.23-7.27 (3H, m), 7.36 (5H, m)。

【0236】合成例1

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニルフロ[2,3-h]イソキノリン

2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-(2-メチル-1-プロペニル)ベンゾフラン (2.09 g, 9.00 mmol) およ

びベンゾニトリル (1.24 g, 12.0 mmol) の酢酸 (3 mL) 溶液に 10 °C で濃硫酸 (1.0 mL) を滴下し、室温で 40 分間攪拌した。反応混合物を氷水に注ぎ、ジイソプロピルエーテルで洗浄した。水層を濃アンモニア水で中和、酢酸エチルで2回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 15:1 の後10:1) に供し、ヘキサンから結晶化させて表題化合物 (1.55 g、収率 51%) を得た。

融点 128-129 °C。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.25 (6H, s), 1.30 (6H, s), 2.19 (2H, s), 2.69 (2H, s), 3.92 (3H, s), 6.61 (1H, s), 7.38 (5H, s)。

合成例2

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-(1-ナフチル)フロ[2,3-h]イソキノリン

合成例1と同様の方法により 1-ナフトニトリルを用いて表題化合物を得た。収率 49%。

融点 162-164 °C (酢酸エチル-ヘキサン)。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 0.92 (3H, s), 1.17 (3H, s), 1.28 (3H, s), 1.29 (1H, d, $J = 16.3$ Hz), 1.46 (3H, s), 1.91 (1H, d, $J = 16.3$ Hz), 2.78 (1H, d, $J = 15.6$ Hz), 2.90 (1H, d, $J = 15.6$ Hz), 3.93 (3H, s), 6.65 (1H, s), 7.30-7.55 (4H, m), 7.61-7.68 (1H, m), 7.81-7.91 (2H, m)。

合成例3

4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェノール

合成例1と同様の方法により 4-シアノフェノールを用いて表題化合物を得た。収率 48%。

融点 236-239 °C (メタノール-ジイソプロピルエーテル)。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.29 (6H, s), 1.30 (6H, s), 2.26 (2H, s), 2.72 (2H, s), 3.92 (3H, s), 6.50 (2H, d, $J = 8.4$ Hz), 6.60 (1H, s), 7.05 (2H, d, $J = 8.4$ Hz)。

【0237】合成例4

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-1-(4-メトキシフェニル)-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン

合成例1と同様の方法により 4-メトキシベンゾニトリルを用いて表題化合物を得た。収率 49%。

融点 151-152 °C (酢酸エチル-ヘキサン)。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.23 (6H, s), 1.33 (6H, s), 2.28 (2H, s), 2.67 (2H, s), 3.85 (3H, s), 3.92 (3H, s), 6.60 (1H, s), 6.91 (2H, d, $J = 8.8$ Hz), 7.34 (2H, d, $J = 8.8$ Hz)。

合成例5

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-1-(2-メトキシフェニル)-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン

合成例1と同様の方法により 2-メトキシベンゾニトリルを用いて表題化合物を得た。収率 51%。

融点 124-125 °C (酢酸エチル-ヘキサン)。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.13 (3H, s), 1.27 (3H, s), 1.30 (3H, s), 1.42 (3H, s), 2.07 (1H, d, $J = 16.2$ Hz), 2.17 (1H, d, $J = 16.2$ Hz), 2.61 (1H, d, $J = 15.6$ Hz), 2.83 (1H, d, $J = 15.6$ Hz), 3.68 (3H, s), 3.91 (3H, s), 6.57 (1H, s), 6.85 (1H, d, $J = 8.0$ Hz), 7.00 (1H, td, $J = 7.5, 1.0$ Hz), 7.21-7.28 (1H, m), 7.34 (1H, ddd, $J = 8.3, 7.6, 1.9$ Hz)。

合成例6

(3,4-ジメトキシフェニル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-1-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン

合成例1と同様の方法により 3,4-ジメトキシベンゾニトリルを用いて表題化合物を得た。収率 42%。

融点 121-122 °C (ジイソプロピルエーテル-ヘキサン)。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.24 (6H, s), 1.33 (6H, s), 2.30 (2H, s), 2.68 (2H, s), 3.89 (3H, s), 3.91 (3H, s), 3.92 (3H, s), 6.61 (1H, s), 6.87 (1H, d, $J = 8.1$ Hz), 6.93 (1H, d, $J = 1.8$ Hz), 6.97 (1H, dd, $J = 8.1, 1.8$ Hz)。

【0238】合成例7

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-(フェニルメチル)フロ[2,3-h]イソキノリン

合成例1と同様の方法によりフェニルアセトニトリルを用いて表題化合物を得た。収率 16%。

融点 77-79 °C (ヘキサン)。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.25 (6H, s), 1.34 (6H, s), 2.65 (2H, s), 3.06 (2H, s), 3.87 (3H, s), 4.01 (2H, s), 6.54 (1H, s), 7.06-7.27 (5H, m)。

合成例8

フェニル(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)メタノン

合成例7において目的物をろ過した後の母液を減圧濃縮し、残渣を室温で放置後ジイソプロピルエーテル-ヘキサンから結晶化させて表題化合物を得た。収率 7.8%。

融点 135-137 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.33 (6H, s), 1.35 (6H, s), 2.66 (2H, s), 2.75 (2H, s), 3.92 (3H, s), 6.60 (1H, s), 7.42-7.53 (2H, m), 7.56-7.67 (1H, m), 7.96-8.02 (2H, m)。

合成例 9

1-[1,1'-ビフェニル]-4-イル-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン

合成例 1 と同様の方法により 4-シアノビフェニルを用いて表題化合物を得た。収率 33%。

非晶質。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.26 (6H, s), 1.33 (6H, s), 2.32 (2H, s), 2.70 (2H, s), 3.93 (3H, s), 6.63 (1H, s), 7.32-7.52 (5H, m), 7.60-7.69 (4H, m)。

合成例 10

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-(4-メチルフェニル)フロ[2,3-h]イソキノリン

合成例 1 と同様の方法により 4-メチルベンゾニトリルを用いて表題化合物を得た。収率 51%。

融点 158-161 °C (酢酸エチル-ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.23 (6H, s), 1.32 (6H, s), 2.25 (2H, s), 2.39 (3H, s), 2.67 (2H, s), 3.92 (3H, s), 6.60 (1H, s), 7.18 (2H, d, J = 8.0 Hz), 7.24-7.32 (2H, m)。

【0239】合成例 11

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-(2-メチルフェニル)フロ[2,3-h]イソキノリン塩酸塩

合成例 1 と同様の方法により 2-メチルベンゾニトリルを用いて表題化合物の遊離塩基を得た。これをメタノールに溶解し、10% 塩化水素/メタノール溶液を加え、減圧濃縮して表題化合物を得た。収率 54%。

非晶質。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.28 (3H, s), 1.30 (3H, s), 1.52 (3H, s), 1.56 (3H, s), 2.01 (2H, s), 2.21 (3H, s), 2.92 (2H, s), 3.96 (3H, s), 6.68 (1H, s), 7.15-7.48 (4H, m)。

合成例 12

1-(4-ブロモフェニル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン塩酸塩

合成例 11 と同様の方法により 4-ブロモベンゾニトリルを用いて表題化合物を得た。収率 40%。

融点 140-145 °C (酢酸エチル-ジエチルエーテル)。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.25 (6H, s), 1.43 (6H, s), 2.25 (2H, s), 3.15 (2H, s), 3.94 (3H, s), 7.10 (1H, s), 7.59 (2H, d, J = 8.6 Hz), 7.89 (2H, d, J = 8.6 Hz)。

合成例 13

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-1-(3-メトキシフェ

ニル)-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン塩酸塩

合成例 11 と同様の方法により 3-メトキシベンゾニトリルを用いて表題化合物を得た。収率 49%。

非晶質。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.34 (6H, s), 1.48 (6H, br s), 2.30 (2H, s), 2.86 (2H, br s), 3.91 (3H, s), 3.97 (3H, s), 6.67 (1H, s), 6.99-7.10 (2H, m), 7.21 (1H, br s), 7.35 (1H, t, J = 7.9 Hz)。

10 合成例 14

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-1,3,3,8,8-ペンタメチルフロ[2,3-h]イソキノリン

2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-(2-メチル-1-プロペニル)ベンゾフラン (697 mg, 3.00 mmol) のアセトニトリル (0.9 mL) 溶液に氷冷下濃硫酸 (0.45 mL) を滴下、室温で 22 時間攪拌した。反応混合物を氷に注ぎ、ジイソプロピルエーテルで洗浄した。水層を 2 M 水酸化ナトリウム水溶液で中和し酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸マグネシウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 5:1) に供し、ジイソプロピルエーテル-ヘキサンから結晶化させて表題化合物 (431 mg, 収率 53%) を得た。

融点 112-113 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.17 (6H, s), 1.53 (6H, s), 2.30 (3H, s), 2.58 (2H, s), 3.27 (2H, s), 3.90 (3H, s), 6.53 (1H, s)。

【0240】合成例 15

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-(4-ピリジニル)フロ[2,3-h]イソキノリン

4-シアノピリジン (312 mg, 3.00 mmol) のトルエン (1.5 mL) 溶液に氷冷下濃硫酸 (1.2 mL) を滴下した。氷浴を取り除き、2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-(2-メチル-1-プロペニル)ベンゾフラン (697 mg, 3.00 mmol) のトルエン (0.5 mL) 溶液を加え、80 °C で 45 分間攪拌した。反応混合物に氷を加え、水とトルエンで希釈した。有機層を分離し、水層を濃アンモニア水で中和、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 3:1) に供し、酢酸エチル-ヘキサンから結晶化させて表題化合物 (294 mg, 収率 29%) を得た。

融点 173-175 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.26 (6H, s), 1.33 (6H, s), 2.23 (2H, s), 2.70 (2H, s), 3.93 (3H, s), 6.63 (1H, s), 7.35 (2H, d, J = 6.0 Hz), 8.67 (2H, d, J = 6.0 Hz)。

合成例 16

1-(2-フルオロフェニル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン塩酸塩

合成例 15 と同様の方法により 2-フルオロベンゾニトリルを用いて表題化合物の遊離塩基を得た。これを酢酸エチルに溶解し、0.8 M 塩化水素/メタノール溶液を加え、減圧濃縮して表題化合物を得た。収率 50%。

非晶質。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.33 (3H, s), 1.38 (3H, s), 1.61 (3H, s), 1.81 (3H, s), 2.20 (1H, d, J = 17.0 Hz), 2.32-2.45 (1H, m), 2.95 (1H, d, J = 16.2 Hz), 3.18 (1H, d, J = 16.2 Hz), 4.02 (3H, s), 6.74 (1H, s), 7.15-7.28 (1H, m), 7.41 (1H, t, J = 7.7 Hz), 7.59-7.76 (2H, m)。

合成例 17

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-(3-ピリジニル)フロ[2,3-h]イソキノリン

3-シアノピリジン (312 mg, 3.00 mmol) のトルエン (1 mL) および酢酸 (1 mL) 溶液に氷冷下濃硫酸 (0.60 mL)、次いで 2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-(2-メチル-1-プロペニル)ベンゾフラン (697 mg, 3.00 mmol) のトルエン (0.5 mL) 溶液を加え、80 °C で 1 時間攪拌した。反応混合物を氷水に注ぎ、ジイソプロピルエーテルで洗浄、水層を濃アンモニア水で中和、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 5:1) に供し、ジイソプロピルエーテル-ヘキサンから結晶化させて表題化合物 (301 mg、収率 30%) を得た。

融点 113-114 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.26 (6H, s), 1.32 (6H, s), 2.21 (2H, s), 2.71 (2H, s), 3.93 (3H, s), 6.63 (1H, s), 7.34 (1H, ddd, J = 7.7, 4.9, 0.8 Hz), 7.75 (1H, dt, J = 7.7, 1.9 Hz), 8.63 (1H, d, J = 0.8 Hz), 8.65 (1H, dd, J = 4.9, 1.9 Hz)。

【0241】合成例 18

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-(2-ピリジニル)フロ[2,3-h]イソキノリン

合成例 17 と同様の方法により 2-シアノピリジンを用いて表題化合物を得た。

収率 27%。

融点 146-147 °C (ジイソプロピルエーテル-ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.28 (6H, s), 1.32 (6H, s), 2.15 (2H, s), 2.73 (2H, s), 3.91 (3H, s), 6.60 (1H, s), 7.33 (1H, ddd, J = 7.6, 4.9, 1.4 Hz), 7.56-7.63 (1H, m), 7.99 (1H, td, J = 7.6, 1.8 Hz), 8.63 (1H, ddd, J = 4.9, 1.8, 1.0 Hz)。

合成例 19

1-(4-フルオロフェニル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン
合成例 17 と同様の方法により 4-フルオロベンゾニトリルを用いて表題化合物を得た。収率 44%。

融点 131-132 °C (ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.24 (6H, s), 1.33 (6H, s), 2.22 (2H, s), 2.68 (2H, s), 3.92 (3H, s), 6.61 (1H, s), 7.08 (2H, t, J = 8.8 Hz), 7.39 (2H, dd, J = 8.8, 5.4 Hz)。

合成例 20

1-(3-ブロモフェニル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン

合成例 17 と同様の方法により 3-ブロモベンゾニトリルを用いて表題化合物を得た。収率 51%。

融点 108-109 °C (ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.24 (6H, s), 1.34 (6H, s), 2.24 (2H, s), 2.68 (2H, s), 3.92 (3H, s), 6.61 (1H, s), 7.25 (1H, t, J = 7.6 Hz), 7.34 (1H, dt, J = 7.6, 1.6 Hz), 7.52 (1H, dt, J = 7.6, 1.6 Hz), 7.57 (1H, t, J = 1.6 Hz)。

合成例 21

4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼンスルホンアミド

合成例 17 と同様の方法により 4-シアノベンゼンスルホンアミドを用いて表題化合物を得た。収率 55%。

融点 153-168 °C (分解) (酢酸エチル-ヘキサン)。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.15 (6H, s), 1.22 (6H, s), 2.2 (2H, s), 2.65 (2H, s), 3.82 (3H, s), 6.83 (1H, s), 7.54 (2H, d, J = 8.4 Hz), 7.86 (2H, d, J = 8.4 Hz)。

【0242】合成例 22

6-エトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニルフロ[2,3-h]イソキノリン

合成例 17 と同様の方法により 7-エトキシ-2,3-ジヒドロ-2,2-ジメチル-5-(2-メチル-1-プロペニル)ベンゾフランおよびベンゾニトリルから表題化合物を得た。収率 65%。

ゴム状。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.24 (6H, s), 1.30 (6H, s), 1.46 (3H, t, J = 7.0 Hz), 2.17 (2H, s), 2.67 (2H, s), 4.18 (2H, q, J = 7.0 Hz), 6.60 (1H, s), 7.38 (5H, s)。

合成例 23

6-エトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-1-(4-メトキシフェニル)-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン

合成例 17 と同様の方法により 7-エトキシ-2,3-ジヒドロ-2,2-ジメチル-5-(2-メチル-1-プロペニル)ベンゾフランおよび 4-メトキシベンゾニトリルを用いて表題化合物を得た。収率 55%。

融点 140-142 °C (ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.22 (6H, s), 1.32 (6H, s), 1.46 (3H, t, J = 7.0 Hz), 2.26 (2H, s), 2.65 (2H, s), 3.84 (3H, s), 4.18 (2H, q, J = 7.0 Hz), 6.59 (1H, s), 6.90 (2H, d, J = 8.4 Hz), 7.34 (2H, d, J = 8.4 Hz)。

合成例 2 4

3-(3, 4, 8, 9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3, 3, 8-テトラメチルフロ[2, 3-h]イソキノリン-1-イル)安息香酸 メチルエステル

3-シアノ安息香酸メチル (2.42 g, 15.0 mmol) のトルエン (15 mL) および酢酸 (8 mL) 溶液に氷冷下濃硫酸 (1.8 mL)、次いで 2, 3-ジヒドロ-7-メトキシ-2, 2-ジメチル-5-(2-メチル-1-プロペニル)ベンゾフラン (3.49 g, 15.0 mmol) のトルエン (15 mL) 溶液を加え、80 °C で 1 時間攪拌した。反応混合物を氷冷し、酢酸ナトリウム (6.69 g, 81.6 mmol) を含む水溶液を加えたあと、濃アンモニア水で中和、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水洗、1 M 塩酸で 3 回抽出した。合わせた水層を濃アンモニア水で中和、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 10:1) に供し、酢酸エチル-ヘキサンから結晶化させて表題化合物 (2.18 g、収率 37%) を得た。

融点 137-138 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.26 (6H, s), 1.30 (6H, s), 2.16 (2H, s), 2.70 (2H, s), 3.92 (3H, s), 3.93 (3H, s), 6.63 (1H, s), 7.48 (1H, t, J = 7.8 Hz), 7.62 (1H, dt, J = 7.8, 1.5 Hz), 8.05-8.12 (2H, m)。

【0243】合成例 2 5

4-(3, 4, 8, 9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3, 3, 8-テトラメチルフロ[2, 3-h]イソキノリン-1-イル)安息香酸 メチルエステル

合成例 2 4 と同様の方法により 4-シアノ安息香酸メチルを用いて表題化合物を得た。収率 48%。

融点 150-152 °C (ジイソプロピルエーテル-ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.26 (6H, s), 1.30 (6H, s), 2.17 (2H, s), 2.70 (2H, s), 3.92 (3H, s), 3.95 (3H, s), 6.62 (1H, s), 7.48 (2H, d, J = 8.6 Hz), 8.07 (2H, d, J = 8.6 Hz)。

合成例 2 6

4-(6-エトキシ-3, 4, 8, 9-テトラヒドロ-3, 3, 8-テトラメチルフロ[2, 3-h]イソキノリン-1-イル)安息香酸 メチルエステル

合成例 2 4 と同様の方法により 7-エトキシ-2, 3-ジヒドロ-2, 2-ジメチル-5-(2-メチル-1-プロペニル)ベンゾフランおよび 4-シアノ安息香酸メチルから表題化合物を

得た。収率 43%。

融点 81-85 °C (ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.25 (6H, s), 1.30 (6H, s), 1.46 (3H, t, J = 7.0 Hz), 2.15 (2H, s), 2.68 (2H, s), 3.95 (3H, s), 4.18 (2H, q, J = 7.0 Hz), 6.61 (1H, s), 7.48 (2H, d, J = 8.3 Hz), 8.07 (2H, d, J = 8.3 Hz)。

合成例 2 7

4-(3, 4, 8, 9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3, 3, 8-テトラメチルフロ[2, 3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼンアミン

N-(4-シアノフェニル)-2, 2-トリフルオロアセトアミド (6.43 g, 30.0 mmol) のトルエン (30 mL) および酢酸 (15 mL) 懸濁液に氷冷下濃硫酸 (3.6 mL)、次いで 2, 3-ジヒドロ-7-メトキシ-2, 2-ジメチル-5-(2-メチル-1-プロペニル)ベンゾフラン (10.5 g, 45.2 mmol) のトルエン (20 mL) 溶液を加え、80 °C で 1 時間攪拌した。反応混合物を氷冷し、水と少量のメタノールを加え、有機層を分離、水層をジイソプロピルエーテルで洗浄、濃アンモニア水で中和、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水洗、減圧濃縮した。残渣をエタノール (30 mL) に溶解し、2 M 水酸化ナトリウム水溶液 (15 mL, 30 mmol) を加え、40 分間加熱還流した。反応混合物を減圧濃縮し、残渣に水を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 1:1) に供し、エタノール-ジイソプロピルエーテルから再結晶して表題化合物 (6.32 g、収率 60%) を得た。

融点 192-195 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.21 (6H, s), 1.33 (6H, s), 2.36 (2H, s), 2.65 (2H, s), 3.45-3.95 (2H, br), 3.91 (3H, s), 6.59 (1H, s), 6.68 (2H, d, J = 8.5 Hz), 7.21 (2H, d, J = 8.5 Hz)。

【0244】合成例 2 8

3-(3, 4, 8, 9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3, 3, 8-テトラメチルフロ[2, 3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼンアミン

3-アミノベンズニトリル (9.48 g, 80.2 mmol) のトルエン (100 mL) および酢酸 (80 mL) 溶液を氷冷し、濃硫酸 (16 mL) を滴下、次いで 1-(2, 3-ジヒドロ-7-メトキシ-2, 2-ジメチル-5-ベンゾフラン-2-メチル-1-プロパノール (22.1 g, 88.3 mmol) を少しずつ加えた。得られた混合物を 85 °C で 1 時間攪拌した。反応混合物にエタノール (160 mL) を滴下し、同温で 45 分間攪拌した。得られた混合物を冷却し、水を加え水層を分離、有機層を水で抽出した。合わせた水層を濃アンモニア水で中和、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水洗した後、10% 酢酸水溶液で 2 回抽出した。合わ

せた水層を濃アンモニア水で中和、酢酸エチルで2回抽出した。合わせた有機層を水で2回洗浄、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー（ヘキサン/酢酸エチル 4:1の後 1:1）に供し、酢酸エチル-ヘキサンから結晶化させて表題化合物（12.7 g、収率45%）を得た。

融点 131-134 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.26 (6H, br s), 1.33 (6H, s), 2.33 (2H, s), 2.67 (2H, s), 3.69 (2H, br s), 3.91 (3H, s), 6.59 (1H, s), 6.66-6.77 (3H, m), 7.09-7.19 (1H, m)。

（別途合成法）酢酸 1-(2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフラン)-2-メチル-1-プロピルエステル（907 mg, 3.10 mmol）および 3-アミノベンゾニトリル（440 mg, 3.72 mmol）のトルエン（5 mL）溶液を 85 °C に加熱し、濃硫酸（0.56 mL）の酢酸（3 mL）溶液を滴下、同温で 1.5 時間攪拌した。反応混合物にエタノール（6 mL）を滴下し、同温で 1 時間攪拌した。得られた混合物を氷冷し、水を加え水層を分離、有機層を水で抽出した。合わせた水層を濃アンモニア水で中和、酢酸エチルで2回抽出した。合わせた有機層を水洗した後、10% 酢酸水溶液で2回抽出した。合わせた水層を濃アンモニア水で中和、酢酸エチルで2回抽出した。合わせた有機層を水で2回洗浄、減圧濃縮した。残渣をジエチルエーテル-ヘキサンから結晶化させて表題化合物（373 mg、収率 34%）を得た。

合成例 2 9

3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼンアミン二塩酸塩

3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼンアミン（351 mg, 1.00 mmol）を酢酸エチル（10 mL）に溶解し、0.8 M 塩化水素/メタノール（3 mL）を加え、減圧濃縮した。残渣をエタノール-ジイソプロピルエーテルから再結晶して表題化合物（401 mg、収率 95%）を得た。

融点 176-180 °C。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.26 (6H, br s), 1.43 (6H, s), 2.23-2.38 (2H, m), 3.15 (2H, br s), 3.94 (3H, s), 6.80-7.22 (3H, m), 7.09 (1H, s), 7.30-7.48 (1H, m)。

【0245】合成例 3 0

N-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]アセトアミド

3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼンアミン（351 mg, 1.00 mmol）およびトリエチルアミン（0.17 mL, 1.2 mmol）のテトラヒドロフラン（3 mL）溶液に

氷冷下アセチルクロリド（78 μL, 1.1 mmol）を滴下し、同温で 10 分間攪拌した。反応混合物に水および飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、酢酸エチルで2回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。得られた結晶をジイソプロピルエーテルで洗浄して表題化合物（305 mg、収率 78%）を得た。

融点 246-247 °C。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.13 (6H, s), 1.21 (6H, s), 2.02 (3H, s), 2.28 (2H, s), 2.62 (2H, s), 3.81 (3H, s), 6.80 (1H, s), 6.96-7.04 (1H, m), 7.31 (1H, t, J = 7.9 Hz), 7.55-7.67 (2H, m), 9.99 (1H, br s)。

合成例 3 1

2,2,2-トリフルオロ-N-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]アセトアミド

合成例 3 0 と同様の方法により無水トリフルオロ酢酸を用いて表題化合物を得た。収率 86%。

融点 241-242 °C（酢酸エチル-ジイソプロピルエーテル）。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.14 (6H, s), 1.21 (6H, s), 2.28 (2H, s), 2.63 (2H, s), 3.82 (3H, s), 6.82 (1H, s), 7.17-7.25 (1H, m), 7.45 (1H, t, J = 7.7 Hz), 7.65-7.78 (2H, m), 11.31 (1H, br s)。

合成例 3 2

N-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]メタンスルホンアミド

合成例 3 0 と同様の方法により 3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼンアミンおよびメタンスルホンクロリドから表題化合物を得た。収率 58%。

融点 245-247 °C（エタノール）。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.27 (6H, br s), 1.33 (6H, s), 2.24 (2H, s), 2.71 (2H, s), 2.88 (3H, s), 3.92 (3H, s), 6.61 (1H, s), 7.15 (1H, dt, J = 6.3, 1.9 Hz), 7.19-7.23 (1H, m), 7.26-7.40 (2H, m)。

合成例 3 3

2,2,2-トリフルオロ-N-[4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]アセトアミド

合成例 3 0 と同様の方法により 4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼンアミンと無水トリフルオロ酢酸から表題化合物を得た。収率 89%。

融点 117-123 °C（酢酸エチル-ジイソプロピルエーテル）。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.25 (6H, s), 1.32 (6H, s), 2.23 (2H, s), 2.69 (2H, s), 3.92 (3H, s), 6.62 (1H, s), 7.39 (2H, d, J = 8.6 Hz), 7.56 (2H, d, J = 8.6 Hz),

8.30-8.60 (1H, br)。

【0246】合成例34

N-[4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]アセトアミド

合成例30と同様の方法により 4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼンアミンとアセチルクロリドから表題化合物を得た。収率 90%。

融点 119-123 °C (酢酸エチル-ジイソプロピルエーテル)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.23 (6H, s), 1.32 (6H, s), 2.19 (3H, s), 2.27 (2H, s), 2.68 (2H, s), 3.92 (3H, s), 6.61 (1H, s), 7.35 (2H, d, J = 8.5 Hz), 7.44 (1H, br s), 7.54 (2H, d, J = 8.5 Hz)。

合成例35

3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニルカルバミド酸 フェニルエステル

合成例30と同様の方法によりクロロギ酸フェニルを用いて表題化合物を得た。収率 88%。

融点 155-164 °C (酢酸エチル-ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.26 (6H, br s), 1.32 (6H, s), 2.30 (2H, s), 2.69 (2H, br s), 3.92 (3H, s), 6.60 (1H, s), 7.05-7.11 (1H, m), 7.13-7.57 (9H, m)。

合成例36

N-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]ベンズアミド

合成例30と同様の方法によりベンゾイルクロリドを用いて表題化合物を得た。収率 93%。

融点 124-130, 174-176 °C (酢酸エチル-ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.21 (6H, br s), 1.33 (6H, s), 2.35 (2H, s), 2.65 (2H, s), 3.92 (3H, s), 6.60 (1H, s), 7.12 (1H, dt, J = 7.8, 1.3 Hz), 7.38 (1H, t, J = 7.8 Hz), 7.41-7.60 (4H, m), 7.82-7.98 (3H, m), 8.26 (1H, br s)。

合成例37

2-クロロ-N-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]アセトアミド

合成例30と同様の方法によりクロロアセチルクロリドを用いて表題化合物を得た。収率 86%。

融点 205-207 °C (酢酸エチル-ジエチルエーテル)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.24 (6H, br s), 1.32 (6H, s), 2.28 (2H, s), 2.68 (2H, s), 3.92 (3H, s), 4.18 (2H, s), 6.61 (1H, s), 7.12-7.19 (1H, m), 7.37 (1H, t, J = 7.9 Hz), 7.46 (1H, t, J = 1.7 Hz), 7.73-7.80 (1H, m), 8.37 (1H, br s)。

合成例38

2-(メチルチオ)-N-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]アセトアミド

2-クロロ-N-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]アセトアミド (2.20 g, 5.15 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (15 mL) 懸濁液に 15% メチルメルカプタンナトリウム塩水溶液 (3.1 g, 6.6 mmol) をゆっくり滴下し、60 °Cで 40 分間攪拌した。反応混合物に水を加え、酢酸エチルで2回抽出した。合わせた有機層を水で2回洗浄、減圧濃縮した。残渣を酢酸エチル-ジエチルエーテルから結晶化させて表題化合物 (1.92 g, 収率 85%) を得た。

融点 139-141 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.25 (6H, br s), 1.32 (6H, s), 2.19 (3H, s), 2.29 (2H, s), 2.69 (2H, s), 3.34 (2H, s), 3.92 (3H, s), 6.61 (1H, s), 7.12 (1H, dt, J = 7.9, 1.1 Hz), 7.36 (1H, t, J = 7.9 Hz), 7.44 (1H, t, J = 2.0 Hz), 7.84 (1H, ddd, J = 7.9, 2.0, 1.1 Hz), 8.81 (1H, br s)。

【0247】合成例39

2-(メチルスルフィニル)-N-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]アセトアミド

2-(メチルチオ)-N-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]アセトアミド (1.37 g, 3.12 mmol) のメタノール (15 mL) 懸濁液にメタ過ヨウ素酸ナトリウム (1.67 g, 7.81 mmol) の水 (10 mL) 溶液をゆっくり滴下、室温で 15 分間攪拌した。反応混合物に水および飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、酢酸エチルで2回抽出した。合わせた有機層を水で2回洗浄、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 1:1 の後酢酸エチル/メタノール 10:1) に供し、酢酸エチル-ジエチルエーテルから結晶化させて表題化合物 (1.02g, 収率 72%) を得た。

融点 198-201 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.23 (6H, br s), 1.32 (6H, s), 2.28 (2H, s), 2.68 (2H, s), 2.76 (3H, s), 3.38 (1H, d, J = 14.6 Hz), 3.87 (1H, d, J = 14.6 Hz), 3.92 (3H, s), 6.60 (1H, s), 7.12 (1H, dt, J = 7.8, 1.3 Hz), 7.33 (1H, t, J = 7.8 Hz), 7.48-7.53 (1H, m), 7.66-7.75 (1H, m), 9.21 (1H, br s)。

合成例40

2-(メチルスルホニル)-N-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]アセトアミド

2-(メチルチオ)-N-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-

イル)フェニル]アセトアミド (877 mg, 2.00 mmol) のメタノール (15 mL) 懸濁液にメタ過ヨウ素酸ナトリウム (1.43 g, 6.69 mmol) の水 (10 mL) 溶液を滴下、24 時間加熱還流した。反応混合物に水および飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、クロロホルムで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 1:1、1:3、の後 1:20) に供し、結晶を酢酸エチル-ジエチルエーテル混合物で洗浄して表題化合物 (239 mg、収率 25%) を得た。

融点 135-140 °C。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.14 (6H, s), 1.22 (6H, s), 2.29 (2H, s), 2.63 (2H, s), 3.16 (3H, s), 3.81 (3H, s), 4.27 (2H, s), 6.81 (1H, s), 7.10 (1H, d, J = 7.7 Hz), 7.38 (1H, t, J = 7.7 Hz), 7.59 (1H, d, J = 7.7 Hz), 7.66 (1H, s), 10.54 (1H, br s)。

合成例 4 1

3-(メチルチオ)-N-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]プロパンアミド

合成例 3 0 と同様の方法により 3-メチルチオプロピオニルクロリドを用いて表題化合物を得た。収率 99%。

融点 195-197 °C (酢酸エチル-ジエチルエーテル)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.25 (6H, br s), 1.32 (6H, s), 2.16 (3H, s), 2.29 (2H, s), 2.61 (2H, t, J = 7.0 Hz), 2.68 (2H, br s), 2.86 (2H, t, J = 7.0 Hz), 3.92 (3H, s), 6.60 (1H, s), 7.07 (1H, d, J = 7.4 Hz), 7.25-7.37 (1H, m), 7.42 (1H, s), 7.72 (1H, d, J = 7.6 Hz), 7.97 (1H, br s)。

【0248】合成例 4 2

3-(メチルスルフィニル)-N-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]プロパンアミド

合成例 3 9 と同様の方法により 3-(メチルチオ)-N-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]プロパンアミドから表題化合物を得た。収率 83%。

融点 178-179 °C (酢酸エチル-ジエチルエーテル)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.23 (6H, br s), 1.31 (6H, s), 2.25 (2H, s), 2.65 (3H, s), 2.67 (2H, br s), 2.87-3.03 (3H, m), 3.15-3.34 (1H, m), 3.92 (3H, s), 6.59 (1H, s), 7.03 (1H, d, J = 7.2 Hz), 7.21-7.32 (1H, m), 7.43 (1H, s), 7.72 (1H, d, J = 8.0 Hz), 9.27 (1H, br s)。

合成例 4 3

N-[4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]メタンスルホンアミド

4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラ

メチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼンアミン (1.05 g, 3.00 mmol) のピリジン (7 mL) 溶液に、氷冷下メタンスルホンクロリド (0.50 mL, 6.5 mmol) を滴下し、同温で 1 時間、室温で 80 分間攪拌した。

反応混合物に水および飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をトルエンに懸濁し、減圧濃縮した後、エタノール-ジエチルエーテルから再結晶して表題化合物 (500 mg、収率 39%) を得た。

融点 235-237 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.25 (6H, s), 1.33 (6H, s), 2.24 (2H, s), 2.69 (2H, s), 3.00 (3H, s), 3.92 (3H, s), 6.61 (1H, s), 7.21 (2H, d, J = 8.8 Hz), 7.38 (2H, d, J = 8.8 Hz)。

合成例 4 4

N-(メチルスルホニル)-N-[4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]メタンスルホンアミド

N-[4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]メタンスルホンアミド (564 mg, 1.32 mmol) およびトリエチルアミン (0.55 mL, 3.9 mmol) のテトラヒドロフラン (6 mL) 懸濁液にメタンスルホンクロリド (0.20 mL, 2.6 mmol) を滴下し、70 °C で 30 分間攪拌した。

反応混合物に水および飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水で 2 回洗浄、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 3:1 の後 1:1) に供し、酢酸エチル-ジエチルエーテルから再結晶して表題化合物 (454 mg、収率 68%) を得た。

融点 223-225 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.26 (6H, s), 1.30 (6H, s), 2.14 (2H, s), 2.70 (2H, s), 3.41 (6H, s), 3.92 (3H, s), 6.62 (1H, s), 7.39 (2H, d, J = 8.6 Hz), 7.50 (2H, d, J = 8.6 Hz)。

【0249】合成例 4 5

N-(メチルスルホニル)-N-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]メタンスルホンアミド

合成例 4 4 と同様の方法により 3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼンアミンから表題化合物を得た。収率 63%。

融点 192-195 °C (アセトン-ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.25 (6H, br s), 1.32 (6H, s), 2.05-2.55 (2H, m), 2.70 (2H, br s), 3.41 (6H, s), 3.92 (3H, s), 6.61 (1H, s), 7.29 (1H, t, J = 1.7 Hz), 7.38 (1H, dt, J = 7.5, 1.7 Hz), 7.53 (1H, t, J =

7.5 Hz), 7.61 (1H, dt, J = 7.5, 1.7 Hz)。

合成例 4 6

N-[4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]-3-ピリジンカルボキサミド

4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼンアミン (701 mg, 2.00 mmol) および 4-ジメチルホルムアミド (611 mg, 5.00 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (10 mL) 溶液にニコチノイルクロリド塩酸塩 (712 mg, 4.00 mmol) を加え、室温で 20 分間攪拌した。反応混合物に水および飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水で 2 回洗浄、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 2:1 の後 1:3) に供し、酢酸エチル-ヘキサンから結晶化させて表題化合物 (181 mg、収率 20%) を得た。

融点 130-137 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.25 (6H, s), 1.33 (6H, s), 2.31 (2H, s), 2.69 (2H, s), 3.93 (3H, s), 6.62 (1H, s), 7.38-7.51 (1H, m), 7.42 (2H, d, J = 8.6 Hz), 7.70 (2H, d, J = 8.6 Hz), 8.21 (1H, br s), 8.25 (1H, dt, J = 8.0, 2.0 Hz), 8.79 (1H, dd, J = 4.8, 1.4 Hz), 9.14 (1H, dd, J = 2.6, 0.8 Hz)。

合成例 4 7

N-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]-4-ピリジンカルボキサミド

合成例 4 6 と同様の方法により 3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼンアミンとイソニコチノイルクロリド塩酸塩から表題化合物を得た。収率 83%。

融点 233-236 °C (酢酸エチル-ジエチルエーテル)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.17 (6H, br s), 1.33 (6H, s), 2.33 (2H, s), 2.60 (2H, s), 3.92 (3H, s), 6.59 (1H, s), 7.13 (1H, d, J = 7.7 Hz), 7.36 (1H, t, J = 7.7 Hz), 7.51-7.56 (1H, m), 7.71 (2H, d, J = 6.1 Hz), 7.86-7.93 (1H, m), 8.76 (2H, d, J = 6.1 Hz), 8.98 (1H, br s)。

【0250】合成例 4 8

N-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]-2-ピリジンカルボキサミド

合成例 4 6 と同様の方法により 3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼンアミンとピコリノイルクロリド塩酸塩から表題化合物を得た。収率 86%。

融点 179-183 °C (酢酸エチル-ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.26 (6H, br s), 1.32 (6H, s), 2.32 (2H, s), 2.70 (2H, s), 3.92 (3H, s), 6.61 (1H,

s), 7.15 (1H, d, J = 7.8 Hz), 7.41 (1H, t, J = 8.1 Hz), 7.44 (1H, m), 7.71 (1H, t, J = 1.8 Hz), 7.86-7.96 (1H, m), 7.97-8.04 (1H, m), 8.26-8.32 (1H, m), 8.60 (1H, dt, J = 4.7, 0.7 Hz), 10.12 (1H, br s)。

合成例 4 9

N-[4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]-4-ピリジンカルボキサミド

合成例 4 6 と同様の方法によりイソニコチノイルクロリド塩酸塩を用いて表題化合物を得た。収率 90%。

融点 159-163 °C (酢酸エチル-ジエチルエーテル)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.25 (6H, s), 1.33 (6H, s), 2.30 (2H, s), 2.69 (2H, s), 3.93 (3H, s), 6.62 (1H, s), 7.42 (2H, d, J = 8.4 Hz), 7.69 (2H, d, J = 8.4 Hz), 7.75 (2H, d, J = 6.2 Hz), 8.21 (1H, br s), 8.81 (2H, d, J = 6.2 Hz)。

合成例 5 0

N-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]-3-ピリジンカルボキサミド

3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼンアミン (701 mg, 2.00 mmol) のテトラヒドロフラン (4 mL) 溶液に炭酸ナトリウム (466 mg, 4.40 mmol) の水 (4 mL) 溶液を加え、氷冷下、ニコチノイルクロリド塩酸塩 (392 mg, 2.20 mmol) を加え、室温で 20 分間攪拌した。これに炭酸ナトリウム (466 mg, 4.40 mmol) の水 (2 mL) 溶液およびニコチノイルクロリド塩酸塩 (392 mg, 2.20 mmol) を追加し、室温で 15 分間攪拌した。反応混合物に水を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を酢酸エチル-ヘキサンから結晶化させて表題化合物 (783 mg、収率 86%) を得た。

融点 213-219 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.16 (6H, br s), 1.33 (6H, s), 2.34 (2H, s), 2.60 (2H, br s), 3.92 (3H, s), 6.58 (1H, s), 7.09-7.18 (1H, m), 7.30-7.46 (2H, m), 7.52-7.58 (1H, m), 7.88-7.97 (1H, m), 8.19 (1H, dt, J = 7.9, 1.9 Hz), 8.75 (1H, dd, J = 5.0, 1.6 Hz), 8.88-9.10 (1H, m), 9.08 (1H, d, J = 1.6 Hz)。

【0251】合成例 5 1

N-(3-ピリジンカルボニル)-N-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]グリシン メチルエステル
N-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]-3-ピリジンカルボキサミド (1.37 g, 3.01 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (10 mL) 溶液に氷冷下水素化ナ

トリウム (66%油分散物) (0.22 g, 6.1 mmol) を加え、室温で 10 分間攪拌した。これにプロモ酢酸メチル (0.62 mL, 6.5 mmol) を加え、室温で 30 分間攪拌した。反応混合物を飽和塩化アンモニウム水溶液に注ぎ、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 2:1、1:1 の後 1:2) に供し、表題化合物 (1.12 g、収率 71%) を得た。

非晶質。

^1H NMR (CDCl_3) δ 1.23 (6H, br s), 1.36 (6H, s), 2.09 (2H, br s), 2.67 (2H, br s), 3.79 (3H, s), 3.92 (3H, s), 4.66 (2H, br s), 6.00 (1H, s), 7.10-7.30 (4H, m), 7.36 (1H, br s), 7.82 (1H, dt, $J = 8.0$, 2.0 Hz), 8.49 (1H, dd, $J = 4.9$, 1.7 Hz), 8.55 (1H, d, $J = 2.0$ Hz)。

合成例 5 2

N-メチル-N-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]-3-ピリジンカルボキサミド

合成例 5 1 と同様の方法によりヨードメタンを用いて表題化合物を得た。収率 69%。

融点 151-153 °C (酢酸エチル-ヘキサン)。

^1H NMR (CDCl_3) δ 1.23 (6H, br s), 1.36 (6H, s), 2.08 (2H, br s), 2.67 (2H, br s), 3.54 (3H, s), 3.92 (3H, s), 6.61 (1H, s), 6.99-7.07 (1H, m), 7.13-7.37 (4H, m), 7.76 (1H, dt, $J = 7.9$, 1.8 Hz), 8.47 (1H, dd, $J = 4.9$, 1.8 Hz), 8.50-8.54 (1H, m)。

合成例 5 3

N-(3-ピリジニルメチル)-N-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]ベンズアミド

合成例 5 1 と同様の方法により N-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]ベンズアミドおよび 3-クロロメチルピリジンから表題化合物を得た。収率 95 %。

融点 98-104 °C (酢酸エチル-ヘキサン)。

^1H NMR (CDCl_3) δ 1.22 (6H, br s), 1.30 (6H, s), 2.02 (2H, s), 2.65 (2H, s), 3.91 (3H, s), 5.17 (2H, br s), 6.60 (1H, s), 6.81 (1H, dt, $J = 6.4$, 2.5 Hz), 7.05-7.32 (7H, m), 7.37-7.45 (2H, m), 7.77 (1H, dt, $J = 7.9$, 1.9 Hz), 8.52 (1H, dd, $J = 4.7$, 1.9 Hz), 8.59 (1H, d, $J = 1.8$ Hz)。

【0252】合成例 5 4

N-(3-ピリジニルメチル)-3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼンアミン三塩酸塩

N-(3-ピリジニルメチル)-N-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-

6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]ベンズアミド (1.05 g, 1.92 mmol) のメタノール (5 mL) 溶液に 5 M 水酸化ナトリウム水溶液 (1.9 mL, 9.5 mmol) を加え、8 時間加熱還流した。反応混合物に水を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮して表題化合物の遊離塩基を得た。これをメタノール (5 mL) に溶解し、0.8 M 塩化水素/メタノール溶液 (10 mL) を加え、減圧濃縮した。残渣をエタノール-ジエチルエーテルから結晶化させて表題化合物 (826 mg、収率 78%) を得た。

融点 156-159 °C。

^1H NMR ($\text{DMSO}-d_6$) δ 1.23 (6H, s), 1.43 (6H, s), 2.25 (2H, s), 3.14 (2H, s), 3.93 (3H, s), 4.62 (2H, s), 6.71-6.79 (1H, m), 6.84 (1H, s), 6.98 (1H, dd, $J = 8.4$, 1.4 Hz), 7.09 (1H, s), 7.33 (1H, t, $J = 7.9$ Hz), 8.07 (1H, dd, $J = 8.0$, 5.5 Hz), 8.60 (1H, d, $J = 8.4$ Hz), 8.86 (1H, d, $J = 5.5$ Hz), 8.91 (1H, s)。

合成例 5 5

N-(メチルスルホニル)-N-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]グリシン メチルエステル

合成例 5 1 と同様の方法により N-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]メタンスルホンアミドから表題化合物を合成した。収率 98%。

非晶質。

^1H NMR (CDCl_3) δ 1.25 (6H, br s), 1.32 (6H, s), 2.23 (2H, br s), 2.70 (2H, br s), 3.16 (3H, s), 3.75 (3H, s), 3.92 (3H, s), 4.51 (2H, br s), 6.61 (1H, s), 7.39-7.58 (4H, m)。

合成例 5 6

N-[(ジメチルアミノ)メチレン]-3-[(メチルスルホニル)[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]アミノ]プロパンスルホンアミド

3-クロロ-1-プロパンスルホンアミド (788 mg, 5.00 mmol) のトルエン (10 mL) 懸濁液に N,N-ジメチルホルムアミドジメチルアセタール (0.73 mL, 5.5 mmol) を加え、60 °C で 30 分間攪拌した。反応混合物を減圧濃縮して 3-クロロ-N-[(ジメチルアミノ)メチレン]-1-プロパンスルホンアミドを含む混合物 (1.15 g) を得た。N-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]メタンスルホンアミド (757 mg, 1.77 mmol) およびヨウ化ナトリウム (69 mg, 0.46 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (4 mL) 溶液に水素化ナトリウム (66% 油分散物) (77 mg, 2.1 mmol) を加え、室温で 15 分間攪拌し

た。これに、先に得られた 3-クロロ-N-[(ジメチルアミノ)メチレン]-1-プロパンスルホンアミドを含む混合物 (528 mg) の N,N-ジメチルホルムアミド (0.5 mL) 溶液を加え、60 °C で 19 時間攪拌した。反応混合物に水を加え、酢酸エチルで 3 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (酢酸エチルの後酢酸エチル/メタノール 10:1) に供し、表題化合物 (879 mg、収率 82%) を得た。

非晶質。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.25 (6H, br s), 1.32 (6H, s), 1.91-2.08 (2H, m), 2.23 (2H, s), 2.70 (2H, s), 2.92 (3H, s), 3.02-3.13 (2H, m), 3.03 (3H, s), 3.13 (3H, s), 3.82 (2H, t, J = 6.9 Hz), 3.92 (3H, s), 6.61 (1H, s), 7.27-7.52 (4H, m), 8.00 (1H, s)。

【0253】合成例 57

3-[(メチルスルホニル)[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]アミノ]プロパンスルホンアミド塩酸塩 20
N-[(ジメチルアミノ)メチレン]-3-[(メチルスルホニル)[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]アミノ]プロパンスルホンアミド (625 mg, 1.03 mmol) を 2 M 塩酸 (2 mL) に溶解し、30 分間加熱還流した。反応混合物に炭酸水素ナトリウムを加えて中和し、水で希釈、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮して表題化合物の遊離塩基を得た。これをメタノール (2 mL) に溶解し、0.8 M 塩酸水素/メタノール溶液 (2 mL) を加え、減圧濃縮して表題化合物 (582 mg、収率 96%) を得た。

非晶質。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.20 (3H, s), 1.23 (3H, s), 1.45 (3H, s), 1.48 (3H, s), 1.70-1.90 (2H, m), 2.05 (1H, d, J = 16.6 Hz), 2.31 (1H, d, J = 16.6 Hz), 2.95-3.20 (2H, m), 3.11 (3H, s), 3.18 (2H, br s), 3.81 (2H, t, J = 6.1 Hz), 3.94 (3H, s), 6.84 (2H, br s), 7.10 (1H, s), 7.50-7.82 (4H, m), 12.80-12.95 (1H, br)。

合成例 58

2-[(メチルスルホニル)[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]アミノ]アセトアミド

N-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]メタンズルホンアミド (643 mg, 1.50 mmol) のテトラヒドロフラン (5 mL) 溶液にカリウムtert-ブトキシド (90%) (225 mg, 1.8 mmol) を加え、室温で 5 分間攪拌し

た。得られた混合物に 2-ブロモアセトアミド (290 mg, 2.10 mmol) を加え、60 °C で 1 時間攪拌した。これに室温でカリウムtert-ブトキシド (90%) (56 mg, 0.45 mmol) および 2-ブロモアセトアミド (62 mg, 0.45 mmol) を追加し、60 °C で 30 分間攪拌した。反応混合物を氷冷し、水を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (酢酸エチル) に供し、酢酸エチル-ジエチルエーテルから結晶化させて表題化合物 (469 mg、収率 64%) を得た。

融点 190-191 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.25 (6H, br s), 1.32 (6H, s), 2.26 (2H, br s), 2.70 (2H, s), 3.09 (3H, s), 3.92 (3H, s), 4.32 (2H, s), 5.36-5.58 (1H, br), 6.08-6.28 (1H, br), 6.61 (1H, s), 7.38-7.56 (4H, m)。

合成例 59

2-[[[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]アミノ]カルボニル]安息香酸

3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼンアミン (526 mg, 1.50 mmol) のテトラヒドロフラン (3 mL) 溶液に無水フタル酸 (222 mg, 1.50 mmol) のテトラヒドロフラン (2 mL) 溶液を加え、室温で 15 分間攪拌した。反応混合物にジイソプロピルエーテルを加え、結晶をろ取、エタノール-酢酸エチルから再結晶して表題化合物 (630 mg、収率 84%) を得た。

融点 194-197 °C。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.15 (6H, s), 1.24 (6H, s), 2.35 (2H, br s), 2.66 (2H, br s), 3.82 (3H, s), 6.82 (1H, s), 7.08 (1H, d, J = 7.6 Hz), 7.37 (1H, t, J = 7.7 Hz), 7.50-7.65 (3H, m), 7.67 (1H, d, J = 7.8 Hz), 7.81 (1H, s), 7.83-7.90 (1H, m), 10.46 (1H, br s)。

【0254】合成例 60

2-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]-1H-イソインドール-1,3(2H)-ジオン

3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼンアミン (491 mg, 1.40 mmol) および無水フタル酸 (208 mg, 1.40 mmol) のキシレン (3 mL) 混合物を 10 分間加熱還流した。反応混合物を酢酸エチルに溶解し、水、飽和炭酸水素ナトリウム水溶液、および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 2:1 の後 1:2) に供し、酢酸エチル-ヘキサンから結晶化させて表題化合物 (439 mg、収率 65%) を得た。

融点 162-168 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.25 (6H, s), 1.37 (6H, s), 2.10-2.80 (2H, br), 2.68 (2H, s), 3.92 (3H, s), 6.60 (1H, s), 7.44-7.61 (4H, m), 7.73-7.84 (2H, m), 7.88-7.99 (2H, m)。

合成例 6 1

6-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]-5H-ピロロ[3,4-b]ピリジン-5,7(6H)-ジオン

3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼンアミン (701 mg, 2.00 mmol) および 2,3-ピリジンジカルボン酸無水物 (298 mg, 2.00 mmol) のテトラヒドロフラン (4 mL) 混合物を室温で 15 分間攪拌した。反応混合物にジエチルエーテルを加え、結晶をろ取した。これを無水酢酸 (4 mL) に懸濁し、100 °C で 1 時間攪拌した。反応混合物を減圧濃縮し、残渣に酢酸エチルと飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、激しく攪拌し、水で希釈した後有機層を分離、水層を酢酸エチルで抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキササン/酢酸エチル 1:3) に供し、表題化合物 (724 mg, 75%) を得た。

非晶質。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.26 (6H, s), 1.38 (6H, s), 2.25-2.60 (2H, br), 2.69 (2H, s), 3.93 (3H, s), 6.61 (1H, s), 7.46-7.60 (4H, m), 7.70 (1H, dd, J = 7.7, 4.8 Hz), 8.26 (1H, dd, J = 7.7, 1.5 Hz), 9.05 (1H, d, J = 4.8, 1.5 Hz)。

合成例 6 2

2-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]-1H-ピロロ[3,4-c]ピリジン-1,3(2H)-ジオン

合成例 6 1 と同様の方法により 3,4-ピリジンジカルボン酸無水物を用いて表題化合物を得た。収率 77%。

融点 123-129 °C (分解) (酢酸エチル-ヘキササン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.26 (6H, s), 1.38 (6H, s), 2.15-2.70 (2H, br), 2.69 (2H, s), 3.92 (3H, s), 6.61 (1H, s), 7.42-7.63 (4H, m), 7.84 (1H, dd, J = 4.8, 0.8 Hz), 9.14 (1H, d, J = 4.8 Hz), 9.24 (1H, d, J = 0.8 Hz)。

合成例 6 3

4-[[[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]アミノ]カルボニル]-1-ピペリジンカルボン酸 1,1-ジメチルエチルエステル

N-(tert-ブトキシカルボニル)イソニペコチン酸 (1.01 g, 4.41 mmol) および 1-ヒドロキシ-1H-ベンゾトリアゾール-水合物 (678 mg, 4.43 mmol) の N,N-ジメチル

ホルムアミド (15 mL) 溶液に 1-エチル-3-(3-ジメチルアミノプロピル)カルボジイミド塩酸塩 (1.00 g, 5.22 mmol) を加え、室温で 1 時間攪拌した。得られた混合物に 3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼンアミン (1.41 g, 4.02 mmol) を加え、室温で 4 時間攪拌した。反応混合物に飽和炭酸水素ナトリウムおよび水を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキササン/酢酸エチル 3:1、1:1 の後 1:2) に供した。これを酢酸エチルに溶解し、2% 酢酸水溶液 (2 回)、水および飽和炭酸水素ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮して表題化合物 (1.83 g, 収率 81%) を得た。非晶質。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.23 (6H, br s), 1.32 (6H, s), 1.46 (9H, s), 1.60-1.92 (4H, m), 2.22-2.42 (1H, m), 2.30 (2H, s), 2.62-2.85 (2H, m), 2.68 (2H, br s), 3.92 (3H, s), 4.06-4.29 (2H, m), 6.60 (1H, s), 7.05 (1H, d, J = 7.6 Hz), 7.25-7.36 (1H, m), 7.48 (1H, s), 7.63-7.85 (2H, m)。

【0255】合成例 6 4

N-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]-4-ピペリジンカルボキサミド二塩酸塩

4-[[[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]アミノ]カルボニル]-1-ピペリジンカルボン酸 1,1-ジメチルエチルエステル (1.44 g, 2.56 mmol) の酢酸エチル (15 mL) 溶液に 4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液 (2.0 mL) を加え、室温で 1.5 時間、60 °C で 1 時間攪拌した。得られた混合物にエタノール (3 mL) を加え、さらに 60 °C で 1 時間攪拌した。反応混合物を冷却し、結晶をろ取して表題化合物 (774 mg, 57%) を得た。

融点 217-224 °C。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.23 (6H, s), 1.44 (6H, br s), 1.68-2.07 (4H, m), 2.10-2.50 (2H, m), 2.65-3.40 (7H, m), 3.95 (3H, s), 7.11 (1H, s), 7.31 (1H, d, J = 8.2 Hz), 7.59 (1H, t, J = 8.2 Hz), 7.86 (1H, d, J = 8.2 Hz), 8.03 (1H, s), 8.70-9.35 (2H, m), 10.78-10.90 (1H, m), 12.50-12.80 (1H, br)。

合成例 6 5

N-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]-4-ピリジンアセトアミド

3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼンアミン (701 mg, 2.00 mmol)、4-ピリジン酢酸塩酸塩 (417 mg, 2.40 mmol)、および 1-ヒドロキシ-1H-ベンゾトリア

アゾール-水和物 (368 mg, 2.40 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (10 mL) 溶液にトリエチルアミン (0.7 mL, 5.5 mmol) および 1-エチル-3-(3-ジメチルアミノプロピル)カルボジイミド塩酸塩 (537 mg, 2.80 mmol) を加え、室温で 1 時間攪拌した。反応混合物に水および飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、酢酸エチル/メタノール (5:1) 混合物で 2 回抽出した。合わせた有機層を水で 2 回洗浄、減圧濃縮した。残渣をエタノール-ジエチルエーテルから再結晶して表題化合物 (523 mg, 収率 56%) を得た。

融点 124-128 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.23 (6H, br s), 1.30 (6H, s), 2.27 (2H, s), 2.67 (2H, br s), 3.67 (2H, s), 3.92 (3H, s), 6.60 (1H, s), 7.03-7.10 (1H, m), 7.24-7.40 (4H, m), 7.67-7.74 (1H, m), 7.91 (1H, br s), 8.60 (2H, d, J = 5.8 Hz)。

合成例 6 6

N-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]-3-ピリジンアセトアミド

合成例 6 5 と同様の方法により 3-ピリジン酢酸塩酸塩を用いて表題化合物を得た。収率 70%。

融点 122-127 °C (エタノール-ジエチルエーテル)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.23 (6H, br s), 1.30 (6H, s), 2.26 (2H, s), 2.67 (2H, s), 3.67 (2H, s), 3.91 (3H, s), 6.59 (1H, s), 7.06 (1H, d, J = 7.4 Hz), 7.24-7.37 (3H, m), 7.64-7.80 (3H, m), 8.52-8.58 (2H, m)。

【0256】合成例 6 7

N-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]-2-ピリジンアセトアミド

合成例 6 5 と同様の方法により 2-ピリジン酢酸塩酸塩を用いて表題化合物を得た。収率 75%。

融点 176-177 °C (エタノール-ジエチルエーテル)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.24 (6H, br s), 1.29 (6H, s), 2.27 (2H, s), 2.68 (2H, s), 3.87 (2H, s), 3.92 (3H, s), 6.60 (1H, s), 7.07 (1H, dt, J = 7.7, 1.3 Hz), 7.21-7.37 (3H, m), 7.42 (1H, t, J = 1.6 Hz), 7.71 (1H, td, J = 7.7, 1.9 Hz), 7.80 (1H, ddd, J = 8.2, 2.0, 0.8 Hz), 8.63 (1H, ddd, J = 4.9, 1.8, 1.1 Hz), 9.82 (1H, br s)。

合成例 6 8

[[4-[[[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]アミノ]カルボニル]フェニル]メチル]ホスホン酸 ジエチルエステル塩酸塩

3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼンアミン (2.18 g, 6.22 mmol)、4-[(ジエトキシホスフィニル)メチル]安息香酸 (1.86 g, 6.83 mmol)、および 1-

ヒドロキシ-1H-ベンゾトリアゾール-水和物 (1.05 g, 6.86 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (30 mL) 溶液に 1-エチル-3-(3-ジメチルアミノプロピル)カルボジイミド塩酸塩 (1.55 g, 8.09 mmol) およびトリエチルアミン (1.0 mL, 7.2 mmol) を加え、室温で 17 時間攪拌した。反応混合物に水および飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、酢酸エチルで 3 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 2:1, 1:1, 1:3, の後 1:10) に供し、表題化合物の遊離塩基を得た。これを酢酸エチル (20 mL) に溶解し、0.8 M 塩化水素/メタノール溶液 (8.5 mL) を加え、減圧濃縮した。残渣をエタノール-酢酸エチルから再結晶して表題化合物 (3.23 g, 収率 81%) を得た。

融点 196-200 °C (分解)。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.18 (6H, t, J = 7.1 Hz), 1.25 (6H, br s), 1.37-1.58 (6H, m), 2.16-2.57 (2H, m), 3.05-3.35 (2H, m), 3.35 (2H, d, J = 22.0 Hz), 3.89-4.05 (4H, m), 3.96 (3H, s), 7.12 (1H, s), 7.34-7.48 (3H, m), 7.65 (1H, t, J = 8.1 Hz), 7.97 (2H, d, J = 8.0 Hz), 8.05-8.16 (2H, m), 10.69 (1H, br s), 12.60-12.80 (1H, br)。

合成例 6 9

[[4-[[[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]アミノ]カルボニル]フェニル]メチル]ホスホン酸 [[4-[[[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]アミノ]カルボニル]フェニル]メチル]ホスホン酸 ジエチルエステル塩酸塩 (1.60 g, 2.50 mmol) のジクロロメタン (10 mL) 溶液にトリメチルシリルプロミド (1.0 mL, 7.6 mmol) を滴下し、室温で 22 時間攪拌した。反応混合物を減圧濃縮し、残渣をメタノール (7.5 mL) およびジエチルエーテル (10 mL) に溶解した。得られた溶液にプロピレンオキシド (7.5 mL) を加え、室温で攪拌、析出した結晶をろ取して表題化合物 (1.31 g, 収率 96%) を得た。

融点 237-241 °C。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.20 (6H, s), 1.22 (6H, s), 2.34 (2H, br s), 2.73 (2H, br s), 3.00 (2H, d, J = 2.1 Hz), 3.84 (3H, s), 6.86 (1H, s), 7.11 (1H, d, J = 7.8 Hz), 7.33-7.46 (3H, m), 7.82-7.97 (4H, m), 10.32 (1H, br s)。

【0257】合成例 7 0

2-メチル-N-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]-2-[(2,2-トリフルオロアセチル)アミノ]プロパンアミド塩酸塩

合成例 6 8 と同様の方法により 2-メチル-2-[(2,2-トリ

リフルオロアセチル)アミノ]プロピオン酸を用いて表題化合物を得た。収率 89%。

融点 210-217 °C (分解) (メタノール-酢酸エチル)。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.23 (6H, s), 1.30-1.60 (6H, m), 1.53 (6H, s), 2.10-2.53 (2H, m), 3.00-3.35 (2H, m), 3.95 (3H, s), 7.11 (1H, s), 7.35 (1H, d, J = 8.0 Hz), 7.59 (1H, t, J = 8.0 Hz), 7.91 (1H, s), 7.98 (1H, d, J = 8.0 Hz), 9.44 (1H, br s), 10.16 (1H, br s), 12.60-12.80 (1H, br s)。

合成例 7 1

2-アミノ-2-メチル-N-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]プロパンアミド

3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼンアミン (7.01 g, 20.0 mmol)、2-メチル-2-[(2,2-トリフルオロアセチル)アミノ]プロピオン酸 (4.38 g, 22.0 mmol)、および 1-ヒドロキシ-1H-ベンゾトリアゾール-水合物 (3.37 g, 22.0 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (75 mL) 溶液に 1-エチル-3-(3-ジメチルアミノプロピル)カルボジイミド塩酸塩 (4.98 g, 26.0 mmol) を加え、室温で 4.5 時間、45 °C で 30 分間攪拌した。反応混合物に水および飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水で 2 回洗浄、減圧濃縮した。残渣をエタノール (40 mL) に溶解し、2 M 水酸化ナトリウム水溶液 (25 mL, 50 mmol) を加え、1.5 時間加熱還流した。反応混合物を減圧濃縮し、残渣に水を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水で 2 回洗浄、活性炭処理、ろ過、減圧濃縮した。残渣を酢酸エチル-ヘキサンから結晶化させて表題化合物 (7.28 g、収率 84%) を得た。

融点 175-177 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.24 (6H, br s), 1.32 (6H, s), 1.45 (6H, s), 2.30 (2H, s), 2.67 (2H, br s), 3.92 (3H, s), 6.60 (1H, s), 7.04-7.10 (1H, m), 7.33 (1H, t, J = 8.1 Hz), 7.55 (1H, t, J = 2.0 Hz), 7.83 (1H, ddd, J = 8.1, 2.0, 1.0 Hz), 9.93 (1H, br s)。

合成例 7 2

5,5-ジメチル-3-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]-2,4-イミダゾリジンジオン

2-アミノ-2-メチル-N-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]プロパンアミド (1.09 g, 2.50 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (10 mL) 溶液に N,N'-カルボニルジイミダゾール (426 mg, 2.63 mmol) を加え、室温で 2 時間攪拌した。反応混合物に水および飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水で 2 回洗浄、減圧濃縮した。残渣を酢酸エチル-ジエチルエーテルから結晶化さ

せて表題化合物 (686 mg、収率 59%) を得た。

融点 289-294 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.28 (6H, br s), 1.33 (12H, s), 2.36 (2H, br s), 2.70 (2H, s), 3.92 (3H, s), 6.61 (1H, s), 7.16 (1H, br s), 7.30-7.51 (3H, m), 7.56-7.60 (1H, m)。

【0258】合成例 7 3

3-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]-2,4-イミダゾリジンジオン

イソシアナト酢酸エチル (1.42 g, 11.0 mmol) のテトラヒドロフラン (15 mL) 溶液に 3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼンアミン (3.51 g, 10.0 mmol) を加え、15 分間加熱還流した。反応混合物を減圧濃縮し、残渣を 5 M 塩酸 (20 mL) に溶解した。得られた混合物を 80 °C で 2 時間攪拌した。これを氷冷し、濃アンモニア水で中和、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水で 2 回洗浄、減圧濃縮した。残渣を酢酸エチル-ヘキサンから再結晶、さらにメタノール-酢酸エチル-ヘキサンから再結晶して表題化合物 (2.50 g、収率 58%) を得た。

融点 214-216 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.25 (6H, s), 1.33 (6H, s), 2.37 (2H, br s), 2.68 (2H, s), 3.92 (3H, s), 4.04 (2H, s), 6.22 (1H, br s), 6.60 (1H, s), 7.39-7.57 (4H, m)。

合成例 7 4

1-メチル-3-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]-2,4-イミダゾリジンジオン

3-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]-2,4-イミダゾリジンジオン (867 mg, 2.00 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (4 mL) 溶液に氷冷下水素化ナトリウム (66% 油分散物) (80 mg, 2.2 mmol) を加え、室温で 15 分攪拌した。得られた混合物を氷冷し、ヨードメタン (0.19 mL, 3.1 mmol) を滴下、室温で 45 分間攪拌した。反応混合物に水を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水で 2 回洗浄、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 2:1 の後 1:2) に供し、表題化合物 (724 mg、収率 81%) を得た。

非晶質。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.24 (6H, s), 1.33 (6H, s), 2.38 (2H, br s), 2.67 (2H, s), 3.07 (3H, s), 3.91 (3H, s), 4.01 (2H, s), 6.59 (1H, s), 7.39-7.55 (4H, m)。

合成例 7 5

2,4-ジオキソ-3-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ

-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]-1-イミダゾリジン酢酸 メチルエステル
合成例 7 4 と同様の方法によりプロモ酢酸メチルを用いて表題化合物を得た。収率 77%。

非晶質。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.24 (6H, s), 1.33 (6H, s), 2.37 (2H, br s), 2.67 (2H, s), 3.79 (3H, s), 3.92 (3H, s), 4.16 (2H, s), 4.24 (2H, s), 6.60 (1H, s), 7.40-7.56 (4H, m)。

【0259】合成例 7 6

N-メチル-3-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]-2,4-ジオキソ-1-イミダゾリジンアセトアミド

3-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]-2,4-ジオキソ-1-イミダゾリジン酢酸 メチルエステル (1.87 g, 3.70 mmol) のメタノール (10 mL) 溶液に 5 M 水酸化ナトリウム水溶液 (1.5 mL) を加え、室温で 15 分間攪拌した。反応混合物に 2 M 塩酸を加え、減圧濃縮した。残渣にエタノールを加えて不溶物をろ過、減圧濃縮した。同様の操作を 2 回繰り返した後、エタノール-酢酸エチルに懸濁し、ろ過、減圧濃縮して 3-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]-2,4-ジオキソ-1-イミダゾリジン酢酸を含む非晶質 (2.08 g) を得た。この 700 mg と 1-ヒドロキシ-1H-ベンゾトリアゾール-水合物 (211 mg, 1.38 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (10 mL) 溶液に、氷冷下、1-エチル-3-(3-ジメチルアミノプロピル)カルボジイミド塩酸塩 (312 mg, 1.63 mmol) および 40% メチルアミン/メタノール溶液 (0.27 mL, 6.6 mmol) を加え、室温で 43 時間攪拌した。反応混合物に水および飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水で 2 回洗浄、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 1:1 の後酢酸エチル) に供し、表題化合物 (289 mg, 収率 46%) を得た。

非晶質。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.24 (6H, s), 1.33 (6H, s), 2.37 (2H, br s), 2.67 (2H, s), 2.81 (3H, d, J = 5.2 Hz), 3.92 (3H, s), 4.00 (2H, s), 4.18 (2H, s), 6.10-6.25 (1H, m), 6.60 (1H, s), 7.38-7.56 (4H, m)。

合成例 7 7

1-[1,1'-ビフェニル]-3-イル-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン

1-(3-ブromoフェニル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン (497 mg, 1.20 mmol) の 1,2-ジメトキシエタン (6mL) 溶

液にフェニルボロン酸 (219 mg, 1.80 mmol) のエタノール (2 mL) 溶液、炭酸ナトリウム (210 mg, 1.98 mmol) の水 (2 mL) 溶液、およびテトラキス(トリフェニルホスフィン)パラジウム(0) (58 mg, 0.050 mmol) を加え、窒素雰囲気下 80 °C で 15 時間攪拌した。反応混合物に水を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 10:1) に供し、ヘキサンから結晶化させて表題化合物 (353 mg, 収率 71%) を得た。

融点 141-142 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.27 (6H, s), 1.30 (6H, s), 2.26 (2H, s), 2.71 (2H, s), 3.93 (3H, s), 6.63 (1H, s), 7.28-7.51 (5H, m), 7.57-7.66 (4H, m)。

【0260】合成例 7 8

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-[3-(4-ピリジニル)フェニル]フロ[2,3-h]イソキノリン

合成例 7 7 と同様の方法により 4-ピリジニルボロン酸を用いて表題化合物を得た。収率 69%。

融点 148-150 °C (ジイソプロピルエーテル-ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.28 (6H, s), 1.30 (6H, s), 2.23 (2H, s), 2.72 (2H, s), 3.93 (3H, s), 6.64 (1H, s), 7.44-7.57 (4H, m), 7.64-7.72 (2H, m), 8.66 (2H, d, J = 6.2 Hz)。

合成例 7 9

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-[3-(2-キノリニル)フェニル]フロ[2,3-h]イソキノリン

1-(3-ブromoフェニル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン (1.04 g, 2.51 mmol)、トリフルオロメタンスルホン酸 2-キノリニル (731 mg, 2.64 mmol)、塩化リチウム (319 mg, 7.53 mmol)、およびテトラキス(トリフェニルホスフィン)パラジウム(0) (145 mg, 0.125 mmol) の 1,4-ジオキサン (15 mL) 懸濁液にヘキサメチルニスズ (879 mg, 2.68 mmol) を加え、窒素雰囲気下 100 °C で 15.5 時間攪拌した。反応混合物を 10%フッ化カリウム水溶液 (25 mL)/酢酸エチル (25 mL) 混合物に注ぎ、室温で 2 時間攪拌した。不溶物をろ過し、有機層を分離、水層を酢酸エチルで抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 20:1, 5:1 の後 3:1) に供し、酢酸エチル-ヘキサンから結晶化させて表題化合物 (529 mg, 収率 46%) を得た。

融点 167-169 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.28 (6H, s), 1.29 (6H, s), 2.34

(2H, s), 2.74 (2H, s), 3.94 (3H, s), 6.65 (1H, s), 7.48-7.62 (3H, m), 7.73 (1H, ddd, J = 8.4, 6.9, 1.5 Hz), 7.80-7.87 (1H, m), 7.93 (1H, d, J = 8.4 Hz), 8.13-8.26 (3H, m), 8.29 (1H, dt, J = 7.0, 1.8 Hz).

合成例 80

3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)安息香酸塩酸塩

3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)安息香酸メチルエステル (1.81 g, 4.60 mmol) のエタノール (5 mL) 懸濁液に 5 M 水酸化ナトリウム水溶液 (2.0 mL, 10 mmol) を加え、室温で 4 時間攪拌した。反応混合物に 1 M 塩酸 (10 mL, 20 mmol) を加え、得られた混合物を減圧濃縮した。残渣にエタノールを加え、不溶物をハイフラスーパーセル (商品名) を用いてろ過、減圧濃縮した。同様の操作を 2 回繰り返した後、残渣をエタノール-酢酸エチルから再結晶して表題化合物 (1.92 g、定量的) を得た。

融点 184-191 °C。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.21 (6H, br s), 1.46 (6H, br s), 2.05-2.25 (2H, m), 3.17 (2H, br s), 3.95 (3H, s), 7.11 (1H, s), 7.77 (1H, t, J = 7.6 Hz), 7.86 (1H, d, J = 7.6 Hz), 8.17 (1H, s), 8.27 (1H, s)。

【0261】合成例 81

4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)安息香酸塩酸塩

合成例 80 と同様の方法により 4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)安息香酸メチルエステルから表題化合物を得た。収率 83%。

融点 195-204 °C (エタノール-酢酸エチル)。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.31 (6H, s), 1.74 (6H, s), 2.15 (2H, s), 3.10 (2H, s), 4.03 (3H, s), 6.76 (1H, s), 7.66 (2H, d, J = 8.3 Hz), 8.11 (2H, d, J = 8.3 Hz)。

合成例 82

4-(6-エトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)安息香酸塩酸塩

合成例 80 と同様の方法により 4-(6-エトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)安息香酸メチルエステルから表題化合物を得た。収率 99%。

融点 206-217 °C (エタノール-酢酸エチル)。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.23 (6H, s), 1.37 (3H, t, J = 6.9 Hz), 1.46 (6H, s), 2.16 (2H, s), 3.17 (2H, s), 4.25 (2H, q, J = 6.9 Hz), 7.10 (1H, s), 7.75 (2H,

d, J = 8.3 Hz), 8.16 (2H, d, J = 8.3 Hz)。

合成例 83

N-(4-メトキシフェニル)-4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンズアミド

4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)安息香酸塩酸塩 (500 mg, 1.20 mmol) および 1-ヒドロキシ-1H-ベンゾトリアゾール-水合物 (202 mg, 1.32 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (3 mL) 溶液に氷冷下 1-エチル-3-(3-ジメチルアミノプロピル)カルボジイミド塩酸塩 (300 mg, 1.56 mmol) を加え、20 分間攪拌した。得られた混合物に同温で 4-メトキシアニリン (177 mg, 1.44 mmol) を加え、室温で 2 時間攪拌した。反応混合物に水を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 2:1 の後 1:1) に供し、酢酸エチル-ヘキサンから再結晶して表題化合物 (442 mg、収率 76%) を得た。

融点 120-122 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.26 (6H, s), 1.32 (6H, s), 2.22 (2H, s), 2.71 (2H, s), 3.83 (3H, s), 3.93 (3H, s), 6.63 (1H, s), 6.93 (2H, d, J = 8.8 Hz), 7.52 (2H, d, J = 8.6 Hz), 7.57 (2H, d, J = 9.2 Hz), 7.84 (1H, br s), 7.90 (2H, d, J = 8.4 Hz)。

【0262】合成例 84

4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンズアミド
合成例 83 と同様の方法により 4 M アンモニア/メタノール溶液を用いて表題化合物を得た。収率 74%。

融点 229-231 °C (酢酸エチル-ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.26 (6H, s), 1.31 (6H, s), 2.19 (2H, s), 2.70 (2H, s), 3.93 (3H, s), 5.50-6.50 (2H, m), 6.62 (1H, s), 7.49 (2H, d, J = 8.4 Hz), 7.84 (2H, d, J = 8.4 Hz)。

合成例 85

N-メチル-4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンズアミド

合成例 83 と同様の方法により 40% メチルアミン水溶液を用いて表題化合物を得た。収率 77%。

融点 168-169 °C (酢酸エチル-ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.26 (6H, s), 1.30 (6H, s), 2.17 (2H, s), 2.70 (2H, s), 3.04 (3H, d, J = 5.2 Hz), 3.92 (3H, s), 6.32-6.43 (1H, m), 6.62 (1H, s), 7.45 (2H, d, J = 8.3 Hz), 7.78 (2H, d, J = 8.3 Hz)。

合成例 86

3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8-テトラ

メチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンズアミド
合成例 83 と同様の方法により 3-(3,4,8,9-テトラヒド
ロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソ
キノリン-1-イル)安息香酸塩酸塩および 4 M アンモニ
ア/メタノール溶液から表題化合物を得た。収率 67%。
融点 219-220 °C (メタノール-ジイソプロピルエーテ
ル)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.25 (6H, br s), 1.30 (6H, s), 2.
17 (2H, s), 2.69 (2H, s), 3.93 (3H, s), 5.30-6.60
(2H, m), 6.62 (1H, s), 7.45-7.57 (2H, m), 7.84-7.8
7 (1H, m), 7.90 (1H, dt, J = 6.9, 2.1 Hz)。

【0263】合成例 87

4-(6-エトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラ
メチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンズアミド
合成例 83 と同様の方法により 4-(6-エトキシ-3,4,8,9
-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソ
キノリン-1-イル)安息香酸塩酸塩および 4 M アンモニ
ア/メタノール溶液から表題化合物を得た。収率 71%。
融点 179-182 °C (酢酸エチル-ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.25 (6H, s), 1.30 (6H, s), 1.46
(3H, t, J = 6.9 Hz), 2.17 (2H, s), 2.68 (2H, s),
4.19 (2H, q, J = 6.9 Hz), 5.50-6.50 (2H, m), 6.61
(1H, s), 7.28 (2H, d, J = 8.6 Hz), 7.84 (2H, d, J
= 8.6 Hz)。

合成例 88

N-フェニル-4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,
8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベ
ンズアミド塩酸塩

4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラ
メチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)安息香酸塩酸
塩 (500 mg, 1.20 mmol) および 1-ヒドロキシ-1H-ベン
ゾトリアゾール-水合物 (202 mg, 1.32 mmol) の N,N-ジ
メチルホルムアミド (3 mL) 溶液に氷冷下 1-エチル-
3-(3-ジメチルアミノプロピル)カルボジイミド塩酸塩
(300 mg, 1.56 mmol) を加え、25 分間攪拌した。得ら
れた混合物に同温でアニリン (0.13 mL, 1.4 mmol) を
加え、室温で 2 時間攪拌した。反応混合物に水および
飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、酢酸エチルで 2
回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリ
ウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減
圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグ
ラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 2:1 の後 1:1) に供し
て表題化合物の遊離塩基を得た。これを酢酸エチル (5
mL) に溶解し、0.8 M 塩化水素/メタノール溶液 (2.1 mL)
を加え、減圧濃縮して表題化合物 (537 mg、収率 91
%) を得た。

非晶質。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.31 (6H, s), 1.64 (6H, s), 2.24
(2H, s), 3.07 (2H, s), 4.01 (3H, s), 6.72 (1H, s),
7.11 (1H, t, J = 7.4 Hz), 7.33 (2H, t, J = 7.9 Hz), 50

7.60 (2H, d, J = 8.0 Hz), 7.92 (2H, d, J = 7.6 H
z), 8.18 (2H, d, J = 7.6 Hz), 9.96 (1H, br s)。

合成例 89

N,N-ジメチル-4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,
3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)
ベンズアミド塩酸塩

合成例 88 と同様の方法により 50% ジメチルアミン水
溶液を用いて表題化合物を得た。収率 88%。

非晶質。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.36 (6H, s), 1.69 (6H, s), 2.35
(2H, s), 3.01 (3H, brs), 3.05 (2H, s), 3.13 (3H, b
r s), 4.03 (3H, s), 6.75 (1H, s), 7.61 (2H, d, J =
8.4 Hz), 7.72 (2H, d, J = 8.4 Hz), 14.20-14.60 (1
H, br)。

【0264】合成例 90

[[4-[[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-
テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゾ
イル]アミノ]フェニル]メチル]ホスホン酸 ジエチルエ
ステル

3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラ
メチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)安息香酸塩酸
塩 (1.37 g, 3.29 mmol)、4-アミノベンジルホスホン酸
ジエチル (730 mg, 3.00 mmol)、および 1-ヒドロキシ-
1H-ベンゾトリアゾール-水合物 (506 mg, 3.30 mmol)
の N,N-ジメチルホルムアミド (15 mL) 溶液に 1-エチ
ル-3-(3-ジメチルアミノプロピル)カルボジイミド塩酸
塩 (748 mg, 3.90 mmol) およびトリエチルアミン (1.0
mL, 7.2 mmol) を加え、室温で 18 時間攪拌した。反応
混合物に水および飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加
え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水で
2 回洗浄、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカ
ラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 1:1 の後
1:5) に供し、表題化合物 (1.16 g、収率 64%) を得
た。

非晶質。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.25 (6H, s), 1.25 (6H, t, J = 7.
1 Hz), 1.31 (6H, s), 2.22 (2H, s), 2.68 (2H, s),
3.14 (2H, d, J = 21.6 Hz), 3.92-4.10 (4H, m), 3.93
(3H, s), 6.63 (1H, s), 7.24-7.34 (2H, m), 7.46-7.5
3 (2H, m), 7.64 (2H, d, J = 8.0 Hz), 7.94-8.02 (2H,
m), 8.63 (1H, br s)。

合成例 91

3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニ
ル-6-フロ[2,3-h]イソキノリノール臭化水素酸塩

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメ
チル-1-フェニルフロ[2,3-h]イソキノリン (500 mg, 1.49
mmol) に 48% 臭化水素酸 (7.5 mL) を加え、105 °C で
18 時間攪拌した。反応混合物を冷却し、析出した結晶
をろ取、水洗した後一晩風乾して表題化合物 (463 mg、
収率 77%) を得た。

融点 >300 °C。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.23 (6H, s), 1.42 (6H, s), 2.15 (2H, s), 3.09 (2H, s), 6.79 (1H, s), 7.57-7.80 (5H, m), 11.2-11.4 (1H, br), 12.1-12.4 (1H, br)。

合成例 9 2

3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニル-6-フロ[2,3-h]イソキノリノール

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニルフロ[2,3-h]イソキノリン (3.02 g, 9.00 mmol) に 48% 臭化水素酸 (45 mL) を加え、16 時間加熱還流した。反応混合物を氷冷し、濃アンモニア水で中和、水で希釈し、酢酸エチルで 3 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、活性炭処理、ろ過、減圧濃縮した。残渣を酢酸エチル-ジイソプロピルエーテルから結晶化させて表題化合物 (2.70 g、収率 93%) を得た。

融点 208-210 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.26 (6H, s), 1.28 (6H, s), 2.16 (2H, s), 2.66 (2H, s), 6.54 (1H, s), 7.38 (5H, m)。

【0265】合成例 9 3

3,4,8,9-テトラヒドロ-1-(4-ヒドロキシフェニル)-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-6-フロ[2,3-h]イソキノリノール臭化水素酸塩

合成例 9 1 と同様の方法により 3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-1-(4-メトキシフェニル)-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリンから表題化合物を得た。収率 77%。

融点 194-200 °C。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.27 (6H, s), 1.38 (6H, s), 2.34 (2H, s), 3.03 (2H, s), 6.77 (1H, s), 6.99 (2H, d, J = 8.4 Hz), 7.46 (2H, d, J = 8.4 Hz), 10.59 (1H, s), 11.17 (1H, br s), 11.80-11.95 (1H, br)。

合成例 9 4

1-(3-ブロモフェニル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-6-フロ[2,3-h]イソキノリノール

合成例 9 2 と同様の方法により 1-(3-ブロモフェニル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリンから表題化合物を得た。収率 91%。

融点 202-208 °C (酢酸エチル-ジイソプロピルエーテル)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.25 (6H, s), 1.32 (6H, s), 2.22 (2H, s), 2.63 (2H, s), 6.52 (1H, s), 7.24 (1H, t, J = 7.6 Hz), 7.34 (1H, dt, J = 7.6, 1.4 Hz), 7.47-7.54 (1H, m), 7.57 (1H, t, J = 1.4 Hz)。

合成例 9 5

トリフルオロメタンスルホン酸 (3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニルフロ[2,3-h]イソキノリン-6-イル) エステル

3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニ

ル-6-フロ[2,3-h]イソキノリノール (1.03 g, 3.20 mmol) のピリジン (10 mL) 溶液に氷冷下、トリフルオロメタンスルホン酸無水物 (0.60 mL, 3.6 mmol) を滴下、10 分間攪拌した。反応混合物に水および飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水で 2 回洗浄、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 10:1) に供し、表題化合物 (1.37 g、収率 94%) を得た。

油状物。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.25 (6H, s), 1.30 (6H, s), 2.23 (2H, s), 2.70 (2H, s), 6.94 (1H, s), 7.41 (5H, s)。

【0266】合成例 9 6

トリフルオロメタンスルホン酸 (3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-6-イル) エステル塩酸塩

合成例 2 9 と同様の方法によりトリフルオロメタンスルホン酸 (3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニルフロ[2,3-h]イソキノリン-6-イル) エステルから表題化合物を得た。収率 84%。

融点 152-160 °C (メタノール-酢酸エチル)。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.28 (6H, s), 1.43 (6H, br s), 2.32 (2H, s), 3.17 (2H, br s), 7.56 (1H, s), 7.57-7.83 (5H, m)。

合成例 9 7

3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニルフロ[2,3-h]イソキノリン塩酸塩

トリフルオロメタンスルホン酸 (3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニルフロ[2,3-h]イソキノリン-6-イル) エステル (1.00 g, 2.21 mmol)、トリエチルアミン (0.92 mL, 6.6 mmol)、酢酸パラジウム(II) (9.9 mg, 0.044 mmol)、およびトリフェニルホスフィン (23.1 mg, 0.0881 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (4 mL) 溶液にギ酸 (0.17 mL, 4.5 mmol) を加え、窒素雰囲気下 60 °C で 3.5 時間攪拌した。反応混合物に水を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を 1 M 塩酸で 2 回抽出した。合わせた水層を濃アンモニア水で中和、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 15:1) に供し、表題化合物の遊離塩基を得た。これを酢酸エチル (3 mL) に溶解し、0.8 M 塩化水素/メタノール溶液 (3.0 mL) を加えた。得られた混合物を減圧濃縮し、残渣を酢酸エチル-ジイソプロピルエーテルから結晶化させて表題化合物 (705 mg、収率 93%) を得た。

融点 167-179 °C。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.23 (6H, s), 1.46 (6H, s), 2.19 (2H, s), 3.16 (2H, s), 7.17 (1H, d, J = 8.1 Hz),

7.30 (1H, d, J = 8.1 Hz), 7.62-7.84 (5H, m)。

合成例 9 8

3, 4, 8, 9-テトラヒドロ-3, 3, 8, 8-テトラメチル-1-[3-(4-ピリジニル)フェニル]-6-フロ[2, 3-h]イソキノリノール 1-(3-ブロモフェニル)-3, 4, 8, 9-テトラヒドロ-3, 3, 8, 8-テトラメチル-6-フロ[2, 3-h]イソキノリノール (725 mg, 1.81 mmol) および 4-ピリジニルボロン酸 (334 mg, 2.72 mmol) のトルエン (10 mL) およびエタノール (3 mL) 懸濁液に炭酸ナトリウム (480 mg, 4.53 mmol) の水 (5 mL) 溶液およびテトラキス(トリフェニルホスフィン)パラジウム(0) (105 mg, 0.0909 mmol) を加え、窒素雰囲気下 90 °C で 15 時間攪拌した。反応混合物を冷却し、1 M 塩酸を加え、不溶物をろ過、有機層を分離した。水層を濃アンモニア水で中和、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (酢酸エチルの後酢酸エチル/メタノール 20:1) に供し、酢酸エチル-ジイソプロピルエーテルから結晶化させて表題化合物 (294 mg、収率 41%) を得た。

融点 141-149 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.27 (12H, s), 2.21 (2H, s), 2.67 (2H, s), 6.58 (1H, s), 7.43-7.58 (4H, m), 7.64-7.73 (2H, m), 8.66 (2H, d, J = 6.2 Hz)。

【0 2 6 7】合成例 9 9

3, 4, 8, 9-テトラヒドロ-3, 3, 8, 8-テトラメチル-6-プロボキシ-1-[3-(4-ピリジニル)フェニル]フロ[2, 3-h]イソキノリン

3, 4, 8, 9-テトラヒドロ-3, 3, 8, 8-テトラメチル-1-[3-(4-ピリジニル)フェニル]-6-フロ[2, 3-h]イソキノリノール (812 mg, 2.00 mmol) および 1-ヨードプロパン (0.59 mL, 6.0 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (4 mL) 溶液に水素化ナトリウム (66% 油分散物) (95 mg, 2.6 mmol) を加え、室温で 30 分間攪拌した。反応混合物を水に注ぎ、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 10:1 の後 2:1) に供し、酢酸エチル-ヘキサンから再結晶して表題化合物 (614mg、収率 70%) を得た。

融点 132-134 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.04 (3H, t, J = 7.5 Hz), 1.27 (6H, s), 1.30 (6H, s), 1.87 (2H, sextet, J = 7.2 Hz), 2.21 (2H, s), 2.70 (2H, s), 4.07 (2H, t, J = 6.9 Hz), 6.63 (1H, s), 7.43-7.57 (4H, m), 7.64-7.71 (2H, m), 8.66 (2H, d, J = 6.0 Hz)。

合成例 1 0 0

2-[[3, 4, 8, 9-テトラヒドロ-3, 3, 8, 8-テトラメチル-1-[3-(4-ピリジニル)フェニル]フロ[2, 3-h]イソキノリン-6-イル]オキシ]アセトアミド

合成例 9 9 と同様の方法により 2-ブロモアセトアミドを用いて表題化合物を得た。収率 63%。

融点 120-125 °C (酢酸エチル-ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.28 (6H, s), 1.30 (6H, s), 2.24 (2H, s), 2.71 (2H, s), 4.63 (2H, s), 5.55-5.85 (1H, br), 6.65 (1H, s), 6.70-6.95 (1H, br), 7.43-7.59 (4H, m), 7.64-7.73 (2H, m), 8.67 (2H, d, J = 6.4 Hz)。

合成例 1 0 1

1-(3-ブロモフェニル)-6-エトキシ-3, 4, 8, 9-テトラヒドロ-3, 3, 8, 8-テトラメチルフロ[2, 3-h]イソキノリン

合成例 9 9 と同様の方法により 1-(3-ブロモフェニル)-3, 4, 8, 9-テトラヒドロ-3, 3, 8, 8-テトラメチル-6-フロ[2, 3-h]イソキノリノールとヨードエタンから表題化合物を得た。定量的。

非晶質。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.23 (6H, s), 1.34 (6H, s), 1.46 (3H, t, J = 7.1 Hz), 2.22 (2H, s), 2.66 (2H, s), 4.18 (2H, q, J = 7.1 Hz), 6.60 (1H, s), 7.25 (1H, t, J = 7.5 Hz), 7.33 (1H, dt, J = 7.5, 1.7 Hz), 7.52 (1H, dt, J = 7.5, 1.7 Hz), 7.57 (1H, t, J = 1.7 Hz)。

【0 2 6 8】合成例 1 0 2

1-(3-ブロモフェニル)-6-エトキシ-3, 4, 8, 9-テトラヒドロ-3, 3, 8, 8-テトラメチルフロ[2, 3-h]イソキノリン塩酸塩

合成例 2 9 と同様の方法により 1-(3-ブロモフェニル)-6-エトキシ-3, 4, 8, 9-テトラヒドロ-3, 3, 8, 8-テトラメチルフロ[2, 3-h]イソキノリンから表題化合物を得た。収率 74%。

融点 219-223 °C (封管) (メタノール-酢酸エチル-ジエチルエーテル)。¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.25 (6H, s), 1.37 (3H, t, J = 7.0 Hz), 1.44 (6H, brs), 2.22 (2H, s), 3.12 (2H, br s), 4.24 (2H, q, J = 7.0 Hz), 7.08 (1H, s), 7.52-7.65 (2H, m), 7.88-7.99 (2H, m)。

合成例 1 0 3

1-(3-ブロモフェニル)-6-ブトキシ-3, 4, 8, 9-テトラヒドロ-3, 3, 8, 8-テトラメチルフロ[2, 3-h]イソキノリン

合成例 9 9 と同様の方法により 1-(3-ブロモフェニル)-3, 4, 8, 9-テトラヒドロ-3, 3, 8, 8-テトラメチル-6-フロ[2, 3-h]イソキノリノールと 1-ヨードブタンから表題化合物を得た。収率 84%。

ゴム状。

¹H NMR (CDCl₃) δ 0.98 (3H, t, J = 7.2 Hz), 1.23 (6H, s), 1.33 (6H, s), 1.38-1.59 (2H, m), 1.74-1.90 (2H, m), 2.21 (2H, s), 2.66 (2H, s), 4.10 (2H, t, J = 6.8 Hz), 6.60 (1H, s), 7.20-7.29 (1H, m), 7.34 (1H, dt, J = 7.5, 1.5 Hz), 7.48-7.55 (1H, m), 7.57 (1H, t, J = 1.5 Hz)。

合成例 104

1-(3-ブロモフェニル)-6-ブトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン塩酸塩

合成例 29 と同様の方法により 1-(3-ブロモフェニル)-6-ブトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリンから表題化合物を得た。収率 75%。

融点 201-205 °C (封管) (メタノール-酢酸エチル-ジエチルエーテル)。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 0.94 (3H, t, J = 7.2 Hz), 1.20-1.60 (8H, m), 1.25 (6H, s), 1.65-1.82 (2H, m), 2.21 (2H, s), 3.12 (2H, br s), 4.18 (2H, t, J = 6.5 Hz), 7.10 (1H, s), 7.48-7.66 (2H, m), 7.90-7.99 (2H, m), 12.50-13.00 (1H, br)。

合成例 105

6-ブトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-[3-(4-ピリジニル)フェニル]フロ[2,3-h]イソキノリン

1-(3-ブロモフェニル)-6-ブトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン (18.2 g, 39.9 mmol) および 4-ピリジニルボロン酸 (5.38 g, 43.8 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (75 mL) 懸濁液に炭酸ナトリウム (5.10 g, 48.1 mmol) の水 (45 mL) 溶液およびテトラキス(トリフェニルホスフィン)パラジウム(0) (1.69 g, 1.46 mmol) を加え、窒素雰囲気下 120 °C で 1.5 時間攪拌した。反応混合物を冷却し、水および酢酸エチルを加え有機層を分離、水層を酢酸エチルで抽出した。合わせた有機層を水で 2 回洗浄、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 10:1 の後 2:1) に供し、ジエチルエーテル-ヘキサンから再結晶して表題化合物 (9.12 g、収率 50%) を得た。

融点 114-116 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 0.98 (3H, t, J = 7.3 Hz), 1.27 (6H, s), 1.29 (6H, s), 1.39-1.60 (2H, m), 1.75-1.92 (2H, m), 2.21 (2H, s), 2.70 (2H, s), 4.11 (2H, t, J = 6.9 Hz), 6.63 (1H, s), 7.45-7.57 (4H, m), 7.64-7.72 (2H, m), 8.66 (2H, d, J = 6.2 Hz)。

【0269】合成例 106

6-エトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-[3-(4-ピリジニル)フェニル]フロ[2,3-h]イソキノリン

合成例 105 と同様の方法により 1-(3-ブロモフェニル)-6-エトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリンから表題化合物を得た。収率 59%。

融点 102-104 °C (ジエチルエーテル-ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.27 (6H, s), 1.30 (6H, s), 1.47 (3H, t, J = 7.0 Hz), 2.22 (2H, s), 2.70 (2H, s),

4.19 (2H, q, J = 7.0 Hz), 6.63 (1H, s), 7.42-7.58 (4H, m), 7.65-7.71 (2H, m), 8.66 (2H, d, J = 6.0 Hz)。

合成例 107

6-エトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニルフロ[2,3-h]イソキノリン塩酸塩

合成例 99 と同様の方法により 3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニル-6-フロ[2,3-h]イソキノリノールおよびヨードエタンから表題化合物の遊離塩基を得た。これを酢酸エチルに溶解し、0.8 M 塩化水素/メタノール溶液を加え、減圧濃縮して表題化合物を得た。定量的。

非晶質。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.33 (6H, s), 1.51 (3H, t, J = 7.0 Hz), 1.69 (6H, s), 2.23 (2H, s), 3.02 (2H, s), 4.28 (2H, q, J = 7.0 Hz), 6.73 (1H, s), 7.50-7.75 (5H, m)。

合成例 108

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニル-4-フロ[2,3-h]イソキノリノール

2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-(2-メチル-1-プロペニル)ベンゾフラン (1.17 g, 5.04 mmol) のベンズニトリル (10 mL) 溶液に -10 °C で塩化アルミニウム (0.68 g, 5.1 mmol) を加え、同温で 5 分間攪拌した。得られた混合物に臭素 (0.26 mL, 5.0 mmol) を滴下し、室温で 20 分間、60 °C で 2 時間攪拌した。反応混合物を冷却し、水およびジイソプロピルエーテルを加え攪拌後、有機層を分離した。水層を濃アンモニア水で中和、酢酸エチルを加えた後不溶物をろ過した。水層を分離、有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をテトラヒドロフラン-ジエチルエーテルから再結晶して表題化合物 (722 mg、収率 41%) を得た。

融点 207-212 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.25 (3H, s), 1.31 (6H, s), 1.32 (3H, s), 2.21 (2H, s), 3.96 (3H, s), 4.48 (1H, br s), 6.96 (1H, s), 7.40 (5H, s)。

合成例 109

3-(プロモメチル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,8,8-トリメチル-1-フェニルフロ[2,3-h]イソキノリン

2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-(2-メチル-2-プロペニル)ベンゾフラン (1.76 g, 7.58 mmol) のベンズニトリル (15 mL) 溶液に -5 °C で塩化アルミニウム (1.01 g, 7.57 mmol) を加え、同温で 5 分間攪拌した。得られた混合物に臭素 (0.39 mL, 7.6 mmol) を滴下し、室温で 25 分間、60 °C で 30 分間攪拌した。反応混合物を冷却し、水およびジイソプロピルエーテルを加え攪拌後、水層を分離、有機層を 1 M 塩酸で 2 回抽出した。合わせた水層を氷冷下濃アンモニア水で中和、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および

飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー（ヘキサン-酢酸エチル 10:1）に供し、ジエチルエーテル-ヘキサンから結晶化させて表題化合物（297 mg、収率 9.5%）を得た。

融点 108-110 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.31 (6H, s), 1.34 (3H, s), 2.20 (2H, s), 2.80 (1H, d, J = 15.8 Hz), 2.96 (1H, d, J = 15.8 Hz), 3.41 (1H, d, J = 9.9 Hz), 3.57 (1H, d, J = 9.9 Hz), 3.93 (3H, s), 6.60 (1H, s), 7.40 (5H, s)。

【0270】合成例 110

6-エトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニルフロ[2,3-h]イソキノリン 2-オキシド 6-エトキシ-1,2,3,4,8,9-ヘキサヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニルフロ[2,3-h]イソキノリン (1.65 g, 4.69 mmol) のメタノール (10 mL) 溶液にタングステン (VI) 酸ナトリウム二水和物 (310 mg, 0.940 mmol) の水 (3 mL) 溶液を加えた。これを氷冷し、30% 過酸化水素水 (1.6 g, 14 mmol) を滴下し、室温で 15 時間攪拌した。反応混合物に水を加え、酢酸エチルで 3 回抽出した。合わせた有機層を水、10% チオ硫酸ナトリウム水溶液、および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸マグネシウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー（ヘキサン/酢酸エチル 5:1 の後 1:1）に供し、ジイソプロピルエーテル-ヘキサンから結晶化させて表題化合物 (1.33 g、収率 78%) を得た。

融点 125-126 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.27 (6H, s), 1.45 (3H, t, J = 7.0 Hz), 1.48 (6H, s), 1.98 (2H, s), 3.04 (2H, s), 4.16 (2H, q, J = 7.0 Hz), 6.62 (1H, s), 7.32-7.47 (5H, m)。

合成例 111

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニルフロ[2,3-h]イソキノリン 2-オキシド 合成例 110 と同様の方法により 1,2,3,4,8,9-ヘキサヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニルフロ[2,3-h]イソキノリンから表題化合物を得た。収率 84%。

融点 177-180 °C (ジイソプロピルエーテル)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.28 (6H, s), 1.49 (6H, s), 1.99 (2H, s), 3.06 (2H, s), 3.91 (3H, s), 6.63 (1H, s), 7.27-7.47 (5H, m)。

合成例 112

4-(6-エトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-2-オキシドフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンズアミド

合成例 110 と同様の方法により 4-(6-エトキシ-1,2,3,4,8,9-ヘキサヒドロ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-

h]イソキノリン-1-イル)ベンズアミドから表題化合物を得た。収率 83%。

融点 134-136, 218-219 °C (酢酸エチル-ジイソプロピルエーテル)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.28 (6H, s), 1.46 (3H, t, J = 7.1 Hz), 1.48 (6H, s), 2.00 (2H, s), 3.06 (2H, s), 4.17 (2H, q, J = 7.1 Hz), 5.40-6.50 (2H, m), 6.64 (1H, s), 7.55 (2H, d, J = 8.4 Hz), 7.89 (2H, d, J = 8.4 Hz)。

合成例 113

5-[(ジメチルアミノ)メチル]-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニル-6-フロ[2,3-h]イソキノリノール

3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニル-6-フロ[2,3-h]イソキノリノール (1.50 g, 4.67 mmol)、パラホルムアルデヒド (94%) (0.298 g, 9.34 mmol)、2 M ジメチルアミン/テトラヒドロフラン溶液 (7.0 mL、14.0 mmol) およびエタノール (7 mL) の混合物を、60 °C で 20 分間攪拌した。反応液を減圧濃縮し、残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー（ヘキサン/酢酸エチル 3:1）に供した後、ヘキサン-酢酸エチルから再結晶し、表題化合物 (1.38 g、収率 78%) を得た。

融点 164-166 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.23 (6H, s), 1.30 (6H, s), 2.14 (2H, s), 2.38 (6H, s), 2.58 (2H, s), 3.74 (2H, s), 7.37 (5H, s)。

【0271】合成例 114

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-N,N,3,3,8,8-ヘキサメチル-1-フェニル-5-フロ[2,3-h]イソキノリンメタンアミン

5-[(ジメチルアミノ)メチル]-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニル-6-フロ[2,3-h]イソキノリノール (0.40g, 1.06 mmol)、メタノール (0.128 mL、3.18 mmol) およびトリフェニルホスフィン (0.832 g, 3.18 mmol) のテトラヒドロフラン (3 mL) 溶液に、アゾジカルボン酸ジイソプロピル (0.624mL、3.18 mmol) を氷冷下に加え、混合物を室温で 30 分間攪拌した。反応液に 1M 塩酸を加え、酢酸エチルで洗浄した。水層を 1M 水酸化ナトリウム水溶液でアルカリ性にした後、酢酸エチルで抽出した。抽出液を水洗した後、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー（ヘキサン/酢酸エチル 9:1）に供し、表題化合物 (0.40 g、収率 96%) を得た。一部をヘキサンから再結晶した。

融点 124-125 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.23 (6H, s), 1.27 (6H, s), 2.13 (2H, s), 2.25 (6H, s), 2.77 (2H, s), 3.45 (2H, s), 3.92 (3H, s), 7.38 (5H, s)。

合成例 115

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-N,N,3,3,8,8-ヘプタメチル-1-フェニル-5-フロ[2,3-h]イソキノリンメタンアミニウムヨージド

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-N,N,3,3,8,8-ヘキサメチル-1-フェニル-5-フロ[2,3-h]イソキノリンメタンアミン (1.50 g, 3.82 mmol) のトルエン (10 mL) 溶液にヨードメタン (0.309 mL, 4.97 mmol) を加え、混合物を室温で 15 時間攪拌した。反応液にヘキサンを加え、析出結晶をろ取、乾燥した後、エタノール-酢酸エチル-ヘキサンから再結晶し、表題化合物 (1.90 g、収率 93%) を得た。

融点 174-178 °C。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.17 (6H, s), 1.26 (6H, s), 2.21 (2H, s), 2.78 (2H, s), 3.07 (9H, s), 3.94 (3H, s), 4.60 (2H, s), 7.37-7.46 (5H, m)。

合成例 1 1 6

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニル-5-[(フェニルチオ)メチル]フロ[2,3-h]イソキノリン塩酸塩

チオフェノール (0.192 mL, 1.87 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (3 mL) 溶液に、氷冷下で水素化ナトリウム (66% 油分散物) (68.0 mg, 1.87 mmol) を加え、混合物を室温で 30 分間攪拌した。これに 3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-N,N,3,3,8,8-ヘプタメチル-1-フェニル-5-フロ[2,3-h]イソキノリンメタンアミニウムヨージド (0.40 g, 0.748 mmol) を加え、混合物を 70 °C で 1 時間攪拌した。反応液に水を加え、酢酸エチル抽出した。抽出液を 1 M 水酸化ナトリウム水溶液および水で洗浄した後、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 7:3) に供し、表題化合物の遊離塩基 (0.31 g、収率 91%) を油状物として得た。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.23 (6H, s), 1.28 (6H, s), 2.13 (2H, s), 2.67 (2H, s), 3.92 (3H, s), 4.24 (2H, s), 7.18-7.45 (10H, m)。

これを 4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液で塩酸塩にした後、減圧濃縮し、表題化合物 (0.31 g、収率 84%) を得た。

非晶質。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.25 (6H, s), 1.43 (6H, s), 2.15 (2H, s), 3.15 (2H, s), 3.90 (3H, s), 4.29 (2H, s), 7.25-7.45 (5H, m), 7.62-7.80 (5H, m)。

【0 2 7 2】合成例 1 1 7

6-エトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-N,N,3,3,8,8-ヘキサメチル-1-フェニル-5-フロ[2,3-h]イソキノリンメタンアミン

合成例 1 1 4 と同様の方法により、エタノールを用いて表題化合物を得た。収率 89%。

融点 106-107 °C (ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.23 (6H, s), 1.25 (6H, s), 1.36

(3H, t, J=7.2 Hz), 2.12 (2H, s), 2.25 (6H, s), 2.77 (2H, s), 3.46 (2H, s), 4.19 (2H, q, J=7.2 Hz), 7.37 (5H, s)。

合成例 1 1 8

酢酸 5-[(ジメチルアミノ)メチル]-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニルフロ[2,3-h]イソキノリン-6-イルエステル

5-[(ジメチルアミノ)メチル]-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニル-6-フロ[2,3-h]イソキノリノール (0.30 g, 0.793 mmol) のピリジン (3 mL) 溶液に無水酢酸 (82.3 μL, 0.872 mmol) を加え、混合物を室温で 1 時間攪拌した。反応液に水を加えて、酢酸エチルで抽出した。抽出液を水洗した後、減圧濃縮した。残渣をヘキサンから再結晶し、表題化合物 (0.24 g、収率 72%) を得た。

融点 125-126 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.25 (12H, s), 2.17 (2H, s), 2.21 (6H, s), 2.31 (3H, s), 2.79 (2H, s), 3.33 (2H, s), 7.38 (5H, s)。

合成例 1 1 9

3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニル-5-[(1-ピペリジニル)メチル]-6-フロ[2,3-h]イソキノリノール

合成例 1 1 3 と同様の方法により、ピペリジンを用いて表題化合物を得た。収率 85%。

融点 164-165 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.22 (6H, s), 1.29 (6H, s), 1.40-1.72 (6H, m), 2.14 (2H, s), 2.40-2.79 (4H, m), 2.56 (2H, s), 3.76 (2H, s), 5.32 (1H, br s), 7.37 (5H, s)。

合成例 1 2 0

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニル-5-[(1-ピペリジニル)メチル]フロ[2,3-h]イソキノリン二塩酸塩

合成例 1 1 4 と同様の方法により、3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニル-5-[(1-ピペリジニル)メチル]-6-フロ[2,3-h]イソキノリノールから、表題化合物の遊離塩基を油状物として得た。収率 85%。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.23 (6H, s), 1.28 (6H, s), 1.37-1.60 (6H, m), 2.13 (2H, s), 2.37-2.44 (4H, m), 2.82 (2H, s), 3.48 (2H, s), 3.89 (3H, s), 7.38 (5H, s)。

この遊離塩基を 4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液で塩酸塩にした後、減圧濃縮し、表題化合物を得た。収率 80%。

非晶質。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.27 (6H, s), 1.47 (6H, s), 1.55-1.86 (6H, m), 1.90-2.10 (2H, m), 2.19 (2H, s), 2.90-3.10 (2H, m), 3.80-3.88 (2H, m), 3.96 (3H, s), 4.37 (2H, br s), 7.60-7.82 (5H, m)。

【0 2 7 3】合成例 1 2 1

6-エトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニル-5-[(1-ピペリジニル)メチル]フロ[2,3-h]イソキノリン

合成例 1 1 4 と同様の方法により、3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニル-5-[(1-ピペリジニル)メチル]-6-フロ[2,3-h]イソキノリノールおよびエタノールから、表題化合物を得た。収率 87%。

融点 75-77 °C (酢酸エチル-ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.23 (6H, s), 1.26 (6H, s), 1.36 (3H, t, J=7.0 Hz), 1.40-1.58 (6H, m), 2.12 (2H, s), 2.37-2.43 (4H, m), 2.82 (2H, s), 3.49 (2H, s), 4.16 (2H, q, J=7.0 Hz), 7.35-7.42 (5H, m)。

合成例 1 2 2

酢酸 3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニル-5-[(1-ピペリジニル)メチル]フロ[2,3-h]イソキノリン-6-イルエステル二塩酸塩

合成例 1 1 8 と同様の方法により、3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニル-5-[(1-ピペリジニル)メチル]-6-フロ[2,3-h]イソキノリノールから、表題化合物の遊離塩基を得た。これを 4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液で塩酸塩にした後、減圧濃縮し、表題化合物を得た。収率 96%。

非晶質。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.22 (6H, s), 1.49 (6H, s), 1.61-1.82 (4H, m), 1.93-2.45 (7H, m), 2.95-3.10 (2H, m), 3.38-3.64 (4H, m), 4.40-4.48 (2H, m), 7.60-7.83 (5H, m)。

合成例 1 2 3

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-(3-ニトロフェニル)フロ[2,3-h]イソキノリン
2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-(2-メチル-1-プロペニル)ベンゾフラン (6.00 g, 25.8 mmol)、3-ニトロベンズニトリル (3.83 g, 25.8 mmol) および酢酸 (18 mL) のトルエン (24 mL) 溶液に濃硫酸 (2.75 mL, 51.6 mmol) を加え、混合物を 80 °C で 1 時間攪拌した。反応液に過剰のアンモニア水を加え、酢酸エチル抽出した。抽出液を水洗した後、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 17:3) に供し、表題化合物 (4.28 g, 収率 44%) を得た。

非晶質。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.26 (6H, s), 1.32 (6H, s), 2.19 (2H, s), 2.71 (2H, s), 3.94 (3H, s), 6.65 (1H, s), 7.59 (1H, t, J=7.8 Hz), 7.73-7.79 (1H, m), 8.22-8.32 (2H, m)。

合成例 1 2 4

3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-(3-ニトロフェニル)-6-フロ[2,3-h]イソキノリノール
窒素雰囲気下、3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-(3-ニトロフェニル)フロ[2,3-h]イ

ソキノリン (4.20 g, 11.0 mmol) および臭化水素酸 (42 mL) の混合物を、100 °C で 20 時間攪拌した。反応液を冷却した後アンモニア水を加え、酢酸エチル抽出した。抽出液を水洗した後、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 1:1) に供した後、酢酸エチル-ヘキサンから再結晶し、表題化合物 (2.50 g, 収率 62%) を得た。

融点 239-241 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.26 (6H, s), 1.30 (6H, s), 2.18 (2H, s), 2.67 (2H, s), 6.62 (1H, s), 7.58 (1H, t, J=7.8 Hz), 7.73-7.80 (1H, m), 8.22-8.31 (2H, m)。

【0 2 7 4】合成例 1 2 5

3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-(3-ニトロフェニル)-5-[(1-ピペリジニル)メチル]-6-フロ[2,3-h]イソキノリノール

合成例 1 1 3 と同様の方法により、3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-(3-ニトロフェニル)-6-フロ[2,3-h]イソキノリノールとピペリジンから表題化合物を得た。収率 78%。

非晶質。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.24 (6H, s), 1.31 (6H, s), 1.46-1.72 (6H, m), 2.13 (2H, s), 2.40-2.80 (4H, m), 2.58 (2H, s), 3.78 (2H, s), 6.30 (1H, s), 7.56 (1H, t, J=8.0 Hz), 7.72-7.78 (1H, m), 8.22-8.31 (2H, m)。

合成例 1 2 6

6-エトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-(3-ニトロフェニル)-5-[(1-ピペリジニル)メチル]フロ[2,3-h]イソキノリン

合成例 1 1 4 と同様の方法により、3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-(3-ニトロフェニル)-5-[(1-ピペリジニル)メチル]-6-フロ[2,3-h]イソキノリノールおよびエタノールから表題化合物を得た。収率 97%。

非晶質。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.24 (6H, s), 1.28 (6H, s), 1.37 (3H, t, J=7.0 Hz), 1.40-1.60 (6H, m), 2.11 (2H, s), 2.36-2.44 (4H, m), 2.84 (2H, s), 3.49 (2H, s), 4.18 (2H, q, J=7.0 Hz), 7.57 (1H, t, J=8.0 Hz), 7.78 (1H, d, J=8.0 Hz), 8.22-8.31 (2H, m)。

合成例 1 2 7

3-[6-エトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-5-[(1-ピペリジニル)メチル]フロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル]ベンゼンアミン

6-エトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-(3-ニトロフェニル)-5-[(1-ピペリジニル)メチル]フロ[2,3-h]イソキノリン (1.00 g, 2.03 mmol) の酢酸 (5 mL) 溶液に、20% 三塩化チタン水溶液 (9.13 mL, 14.2 mmol) を加え、混合物を室温で 30 分間攪拌した。反応液を過剰の飽和炭酸水素ナトリウム水溶液に注ぎ、酢酸エチルで抽出した。抽出液を水洗した後減圧濃縮し、表題化合物 (0.90 g, 収率 96%) を得た。

非晶質。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.21 (6H, s), 1.28 (6H, s), 1.36 (3H, t, J=7.2 Hz), 1.42-1.58 (6H, m), 2.27 (2H, s), 2.38-2.45 (2H, m), 2.80 (2H, s), 3.48 (2H, s), 3.77 (2H, br s), 4.16 (2H, q, J=7.2 Hz), 6.66-6.76 (3H, m), 7.13 (1H, t, J=7.4 Hz)。

【0275】合成例128

2-[[[3-[6-エトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-5-[(1-ピペリジニル)メチル]フロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル]フェニル]アミノ]カルボニル]安息香酸

3-[6-エトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-5-[(1-ピペリジニル)メチル]フロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル]ベンゼンアミン (0.98 g, 2.12 mmol) のテトラヒドロフラン (3 mL) 溶液に、無水フタル酸 (0.314 g, 2.12 mmol) のテトラヒドロフラン (3 mL) 溶液を加え、混合物を室温で 4 時間撹拌した。反応液にジイソプロピルエーテルを加え、析出結晶をろ取、乾燥し、表題化合物 (1.20 g、収率 93%) を得た。

融点 155-157 °C。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.13 (6H, s), 1.26 (6H, s), 1.28 (3H, t, J=7.0 Hz), 1.40-1.60 (6H, m), 2.34 (2H, s), 2.42-2.56 (4H, m), 2.78 (2H, s), 3.60 (2H, s), 4.12 (2H, q, J=7.0 Hz), 7.08 (1H, d, J=7.8 Hz), 7.36 (1H, t, J=7.8 Hz), 7.58-7.84 (7H, m), 10.77 (1H, br s)。

合成例129

2-[3-[6-エトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-5-[(1-ピペリジニル)メチル]フロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル]フェニル]-1H-イソインドール-1,3(2H)-ジオン

2-[[[3-[6-エトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-5-[(1-ピペリジニル)メチル]フロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル]フェニル]アミノ]カルボニル]安息香酸および無水酢酸 (5 mL) の混合物を、100 °C で 1 時間撹拌した。反応液に過剰の飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を水洗した後、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (酢酸エチル) に供した後、メタノール-ジイソプロピルエーテルから再結晶し、表題化合物 (0.50 g、収率 52%) を得た。

融点 176-177 °C。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.18 (6H, br s), 1.23 (3H, t, J=7.0 Hz), 1.27 (6H, s), 1.43 (6H, br s), 2.35 (4H, br s), 2.62-2.83 (4H, m), 3.42 (2H, s), 4.11 (2H, q, J=7.0 Hz), 7.38-7.40 (1H, m), 7.43-7.61 (3H, m), 7.84-7.96 (4H, m)。

【0276】合成例130

N-[3-[6-エトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-5-[(1-ピペリジニル)メチル]フロ[2,3-h]イソ

キノリン-1-イル]フェニル]メタンスルホンアミド

3-[6-エトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-5-[(1-ピペリジニル)メチル]フロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル]ベンゼンアミン (0.70 g, 1.52 mmol) のピリジン (4 mL) 溶液にメタンスルホンクロリド (0.352 mL, 4.56 mmol) を加え、混合物を室温で 3 時間撹拌した。反応液に過剰の飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を水洗した後、減圧濃縮した。残渣をメタノール-ジイソプロピルエーテルから再結晶し、表題化合物 (0.52 g、収率 63%) を得た。

融点 230-231 °C。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.12 (6H, s), 1.24 (6H, s), 1.28 (3H, t, J=7.0 Hz), 1.42 (6H, br s), 2.22 (2H, s), 2.34 (4H, br s), 2.74 (2H, s), 2.99 (3H, s), 3.44 (2H, br s), 4.09 (2H, q, J=7.0 Hz), 7.10-7.15 (2H, m), 7.28-7.43 (2H, m), 9.72 (1H, br s)。

合成例131

N-[3-[6-エトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-5-[(1-ピペリジニル)メチル]フロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル]フェニル]-N-(メチルスルホニル)メタンスルホンアミド

N-[3-[6-エトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-5-[(1-ピペリジニル)メチル]フロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル]フェニル]メタンスルホンアミド (0.64 g, 1.19 mmol) およびトリエチルアミン (0.496 mL, 3.57 mmol) のテトラヒドロフラン (5 mL) 溶液にメタンスルホンクロリド (0.184 mL, 2.38 mmol) を加え、混合物を 20 分間加熱還流した。反応液を冷却した後飽和炭酸水素ナトリウム水溶液に注ぎ、酢酸エチルで抽出した。抽出液を水洗した後、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 2:1) に供した後、メタノール-ジイソプロピルエーテルから再結晶し、表題化合物 (0.45 g、収率 61%) を得た。

融点 118-119 °C。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.10-1.31 (15H, m), 1.42 (6H, br s), 2.35 (4H, br s), 2.60-2.83 (4H, m), 3.43 (2H, s), 3.55 (6H, s), 4.08 (2H, q, J=7.0 Hz), 7.42 (1H, s), 7.50-7.60 (3H, m)。

合成例132

3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-5-(2-メチルエチル)-1-フェニル-6-フロ[2,3-h]イソキノリノール

3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニル-6-フロ[2,3-h]イソキノリノール (0.30 g, 0.933 mmol)、2-プロパノール (0.357 mL, 4.67 mmol) および濃硫酸 (0.995 mL, 18.7 mmol) の混合物を、55 °C で 1 時間撹拌した。反応液を過剰の飽和炭酸水素ナトリウム水溶液に注ぎ、酢酸エチル抽出した。抽出液を水洗した

後、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー（ヘキサン/酢酸エチル 3:1）に供した後酢酸エチル-ヘキサンから再結晶し、表題化合物（0.18 g、収率 53%）を得た。

非晶質。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.24 (6H, s), 1.27 (6H, s), 1.38 (6H, d, $J=7.2$ Hz), 2.15 (2H, s), 2.70 (2H, s), 3.25-3.46 (1H, m), 7.37 (5H, m)。

【0277】合成例 133

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-5-(1-メチルエチル)-1-フェニルフロ[2,3-h]イソキノリン塩酸塩 10

合成例 114 と同様の方法により、3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-5-(1-メチルエチル)-1-フェニル-6-フロ[2,3-h]イソキノリノールから、表題化合物の遊離塩基を油状物として得た。収率 69%。この遊離塩基を 4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液で塩酸塩にした後、減圧濃縮し、表題化合物を得た。収率 65%。

非晶質。

$^1\text{H NMR}$ ($\text{DMSO}-d_6$) δ 1.25 (6H, s), 1.30 (6H, d, $J=7.0$ Hz), 1.45 (6H, s), 2.12 (2H, s), 3.17 (2H, s), 3.23-3.45 (1H, m), 3.97 (3H, s), 7.52-7.78 (5H, m)。

合成例 134

6-エトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-5-(1-メチルエチル)-1-フェニルフロ[2,3-h]イソキノリン塩酸塩

合成例 114 と同様の方法により、3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-5-(1-メチルエチル)-1-フェニル-6-フロ[2,3-h]イソキノリノールおよびエタノール 30 から、表題化合物の遊離塩基を油状物として得た。収率 40%。この遊離塩基を 4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液で塩酸塩にした後、減圧濃縮し、表題化合物を得た。収率 39%。

非晶質。

$^1\text{H NMR}$ ($\text{DMSO}-d_6$) δ 1.23 (6H, s), 1.32 (6H, d, $J=7.0$ Hz), 1.34 (3H, t, $J=7.0$ Hz), 1.45 (6H, s), 2.11 (2H, s), 3.17 (2H, s), 3.31-3.46 (1H, m), 4.33 (2H, q, $J=7.0$ Hz), 7.52-7.78 (5H, m)。

合成例 135

酢酸 3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-5-(1-メチルエチル)-1-フェニルフロ[2,3-h]イソキノリン-6-イルエステル塩酸塩

合成例 118 と同様の方法により、3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-5-(1-メチルエチル)-1-フェニル-6-フロ[2,3-h]イソキノリノールから、表題化合物の遊離塩基を得た。収率 93%。これを 4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液で塩酸塩にした後、減圧濃縮し、表題化合物を得た。収率 87%。

非晶質。

$^1\text{H NMR}$ ($\text{DMSO}-d_6$) δ 1.19 (6H, s), 1.26 (6H, d, $J=7.0$ Hz), 1.48 (6H, s), 2.17 (2H, s), 2.35 (3H, s), 3.23 (2H, s), 3.35 (1H, septet, $J=7.0$ Hz), 7.60-7.80 (5H, m)。

合成例 136

3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-6-[(2-メチル-2-プロペニル)オキシ]-1-フェニルフロ[2,3-h]イソキノリン塩酸塩

窒素雰囲気下、3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニル-6-フロ[2,3-h]イソキノリノール (0.80 g、2.49 mmol)、3-クロロ-2-メチル-1-プロペン (0.258 mL、2.61 mmol) および炭酸カリウム (0.361 g、2.61 mmol) の N,N -ジメチルホルムアミド (4 mL) 懸濁液を、80 °C で 2 時間攪拌した。反応液に水を加えて、酢酸エチル抽出した。抽出液を水洗した後、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー（ヘキサン/酢酸エチル 9:1）に供し、表題化合物の遊離塩基 (0.93 g、定量的) を油状物として得た。一部を 4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液で塩酸塩にした後、減圧濃縮し、表題化合物を得た。

非晶質。

$^1\text{H NMR}$ ($\text{DMSO}-d_6$) δ 1.23 (6H, s), 1.46 (6H, s), 1.78 (3H, s), 2.17 (2H, s), 3.15 (2H, s), 4.70 (2H, s), 5.02 (1H, s), 5.08 (1H, s), 7.11 (1H, s), 7.61-7.80 (5H, m)。

【0278】合成例 137

3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-5-(2-メチル-2-プロペニル)-1-フェニル-6-フロ[2,3-h]イソキノリノール

窒素雰囲気下、3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-6-[(2-メチル-2-プロペニル)オキシ]-1-フェニルフロ[2,3-h]イソキノリン (0.78 g、2.08 mmol) の N,N -ジエチルアニリン (4 mL) 溶液を、205 °C で 4.5 時間攪拌した。反応液を冷却した後ヘキサンを加え、析出結晶をろ取した。酢酸エチル-ヘキサンから再結晶し、表題化合物 (0.41 g、収率 53%) を得た。

融点 196-198 °C。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.22 (6H, s), 1.28 (6H, s), 1.84 (3H, s), 2.17 (2H, s), 2.59 (2H, s), 3.37 (2H, s), 4.51 (1H, s), 4.80 (1H, s), 7.37 (5H, s)。

合成例 138

3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニル-6-[(2-プロピニル)オキシ]フロ[2,3-h]イソキノリン塩酸塩

窒素雰囲気下、3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニル-6-フロ[2,3-h]イソキノリノール (1.00 g、3.11 mmol)、プロパルギルプロミド (0.305 mL、3.42 mmol)、炭酸カリウム (0.473 g、3.42 mmol) および N,N -ジメチルホルムアミド (10 mL) の混合物を、60 °C で 2 時間攪拌した。反応液に水を加え、酢酸

エチル抽出した。抽出液を水洗した後、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー（ヘキサン/酢酸エチル 1:1）に供し、表題化合物の遊離塩基（1.1 g、定量的）を油状物として得た。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.25 (6H, s), 1.30 (6H, s), 2.19 (2H, s), 2.55 (1H, t, $J=2.4$ Hz), 2.70 (2H, s), 4.83 (2H, d, $J=2.4$ Hz), 6.77 (1H, s), 7.39 (5H, s)。

一部を 4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液で塩酸塩にした後、減圧濃縮し、表題化合物を得た。

非晶質。

$^1\text{H NMR}$ ($\text{DMSO}-d_6$) δ 1.23 (6H, s), 1.46 (6H, s), 2.18 (2H, s), 3.17 (2H, s), 3.76 (1H, s), 5.02 (2H, s), 7.14 (1H, s), 7.62-7.80 (5H, m)。

合成例 139

4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゾイルクロリド塩酸塩

4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)安息香酸塩酸塩 (0.30 g, 0.721 mmol) および塩化チオニル (1 mL) の混合物を、70 °C で 1 時間攪拌した。反応液を減圧濃縮し、表題化合物 (0.30 g、収率 96%) を得た。このものは、これ以上精製せずに次の反応に用いた。

合成例 140

3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゾイルクロリド塩酸塩

合成例 139 と同様の方法により、3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)安息香酸塩酸塩を用いて表題化合物を非晶質として得た。収率 96%。このものは、これ以上精製せずに次の反応に用いた。

合成例 141

N-(4-ピリジニル)-4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンズアミド二塩酸塩

4-アミノピリジン (71.5 mg, 0.760 mmol) およびトリエチルアミン (0.116 mL, 0.829 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (1 mL) 溶液に、氷冷下で 4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゾイルクロリド塩酸塩 (0.30 g, 0.691 mmol) を加え、混合物を室温で 1 時間攪拌した。反応液に飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、酢酸エチル抽出した。抽出液を水洗した後、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー（酢酸エチル/メタノール 19:1）に供し、表題化合物の遊離塩基 (0.31 g、収率 98%) を油状物として得た。これを 4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液で塩酸塩にした後、減圧濃縮し、メタノール-酢酸エチルから再結晶し、表題化合物 (0.29 g、収率 74%) を得た。

融点 194-198 °C。

$^1\text{H NMR}$ ($\text{DMSO}-d_6$) δ 1.24 (6H, s), 1.49 (6H, s), 2.22 (2H, s), 3.20 (2H, s), 3.96 (3H, s), 7.13 (1H, s), 7.84 (2H, d, $J=8.0$ Hz), 8.45 (2H, d, $J=8.0$ Hz), 8.63 (2H, d, $J=7.0$ Hz), 8.82 (2H, d, $J=7.0$ Hz), 12.55 (1H, s)。

【0279】合成例 142

N-(3-ピリジニル)-4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンズアミド二塩酸塩

合成例 141 と同様の方法により、3-アミノピリジンを用いて表題化合物を得た。収率 85%。

非晶質。

$^1\text{H NMR}$ ($\text{DMSO}-d_6$) δ 1.24 (6H, s), 1.49 (6H, s), 2.23 (2H, s), 3.20 (2H, s), 3.96 (3H, s), 7.14 (1H, s), 7.84 (2H, d, $J=8.0$ Hz), 8.08-8.17 (1H, m), 8.46 (2H, d, $J=8.0$ Hz), 8.71 (1H, d, $J=5.4$ Hz), 9.10 (1H, d, $J=7.6$ Hz), 9.56 (1H, s), 12.15 (1H, s)。

合成例 143

N-(2-ピリジニル)-4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンズアミド二塩酸塩

合成例 141 と同様の方法により、2-アミノピリジンを用いて表題化合物を得た。収率 74%。

非晶質。

$^1\text{H NMR}$ ($\text{DMSO}-d_6$) δ 1.24 (6H, s), 1.49 (6H, s), 2.22 (2H, s), 3.20 (2H, s), 3.96 (3H, s), 7.13 (1H, s), 7.38-7.46 (1H, m), 7.83 (2H, d, $J=7.8$ Hz), 7.91-7.99 (1H, m), 8.12-8.20 (1H, m), 8.37 (2H, d, $J=7.8$ Hz), 8.53 (1H, d, $J=4.4$ Hz), 12.04 (1H, s)。

合成例 144

N-(4-ピリジニルメチル)-4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンズアミド二塩酸塩

合成例 141 と同様の方法により、4-(アミノメチル)ピリジンを用いて表題化合物を得た。収率 75%。

融点 220-225 °C (メタノール-酢酸エチル)。

$^1\text{H NMR}$ ($\text{DMSO}-d_6$) δ 1.24 (6H, s), 1.48 (6H, s), 2.22 (2H, s), 3.19 (2H, s), 3.95 (3H, s), 4.77 (2H, d, $J=5.4$ Hz), 7.13 (1H, s), 7.78 (2H, d, $J=8.4$ Hz), 7.98 (2H, d, $J=6.2$ Hz), 8.23 (2H, d, $J=8.4$ Hz), 8.87 (2H, d, $J=6.2$ Hz), 9.96-10.03 (1H, m)。

合成例 145

N-(3-ピリジニルメチル)-4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンズアミド二塩酸塩

合成例 141 と同様の方法により、3-(アミノメチル)ピリジンを用いて表題化合物を得た。定量的。

非晶質。

$^1\text{H NMR}$ ($\text{DMSO}-d_6$) δ 1.23 (6H, s), 1.47 (6H, s), 2.2

2 (2H, s), 3.18 (2H, s), 3.95 (3H, s), 4.70 (2H, d, $J=4.0$ Hz), 7.12 (1H, s), 7.77 (2H, d, $J=8.0$ Hz), 8.01-8.08 (1H, m), 8.22 (2H, d, $J=8.0$ Hz), 8.58 (1H, d, $J=7.4$ Hz), 8.85 (1H, d, $J=5.2$ Hz), 8.95 (1H, s), 9.95-10.04 (1H, m)。

合成例 146

N-(2-ピリジニルメチル)-4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンズアミド二塩酸塩

合成例 141 と同様の方法により、2-(アミノメチル)ピリジンをういて表題化合物を得た。収率 75%。

非晶質。

$^1\text{H NMR}$ (DMSO- d_6) δ 1.24 (6H, s), 1.48 (6H, s), 2.21 (2H, s), 3.19 (2H, s), 3.95 (3H, s), 4.90 (2H, s), 7.13 (1H, s), 7.78 (2H, d, $J=7.2$ Hz), 7.90-8.04 (2H, m), 8.24 (2H, d, $J=7.2$ Hz), 8.46-8.55 (1H, m), 8.85 (1H, d, $J=4.8$ Hz), 10.05 (1H, s)。

【0280】合成例 147

N-[2-(4-ピリジニル)エチル]-4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンズアミド二塩酸塩

合成例 141 と同様の方法により、4-(2-アミノエチル)ピリジンをういて表題化合物を得た。収率 83%。

非晶質。

$^1\text{H NMR}$ (DMSO- d_6) δ 1.23 (6H, s), 1.47 (6H, s), 2.18 (2H, s), 3.16-3.27 (4H, m), 3.65-3.76 (2H, m), 3.95 (3H, s), 7.12 (1H, s), 7.72 (2H, d, $J=7.6$ Hz), 7.96-8.12 (4H, m), 8.84 (2H, d, $J=5.6$ Hz), 9.25 (1H, br s)。

合成例 148

N-(4-ピリジニルメチル)-3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンズアミド

4-(アミノメチル)ピリジン (0.129 mL, 1.27 mmol) およびトリエチルアミン (0.193 mL, 1.38 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (5 mL) 溶液に、氷冷下で 3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゾイルクロリド塩酸塩 (0.50 g, 1.15 mmol) を加え、混合物を氷冷下で 30 分間攪拌した。反応液に飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、酢酸エチル抽出した。抽出液を水洗した後、減圧濃縮した。残渣を酢酸エチル-ジイソプロピルエーテルから再結晶し、表題化合物 (0.32 g, 収率 59%) を得た。

融点 197-198 °C。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl $_3$) δ 1.19 (6H, s), 1.30 (6H, s), 2.18 (2H, s), 2.63 (2H, s), 3.93 (3H, s), 4.59 (2H, d, $J=6.0$ Hz), 6.61 (1H, s), 7.19 (2H, d, $J=5.8$ Hz), 7.41-7.53 (3H, m), 7.93-8.01 (2H, m), 8.51-8.56 (2H, m)。

合成例 149

N-[2-(4-ピリジニル)エチル]-3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンズアミド

合成例 148 と同様の方法により、4-(2-アミノエチル)ピリジンをういて表題化合物を得た。収率 68%。

融点 144-145 °C (酢酸エチル-ジイソプロピルエーテル)。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl $_3$) δ 1.24 (6H, s), 1.30 (6H, s), 2.17 (2H, s), 2.68 (2H, s), 2.91 (2H, t, $J=7.2$ Hz), 3.70 (2H, q, $J=7.2$ Hz), 3.93 (3H, s), 6.62 (1H, s), 6.65 (1H, br s), 7.17 (2H, d, $J=6.2$ Hz), 7.41-7.50 (2H, m), 7.79 (1H, s), 7.81-7.87 (1H, m), 8.51 (2H, d, $J=6.2$ Hz)。

【0281】合成例 150

N-(2-ピリミジニル)-4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンズアミド二塩酸塩

2-アミノピリミジン (72.3 mg, 0.760 mmol) のピリジン (3 mL) 溶液に 4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゾイルクロリド塩酸塩 (0.30 g, 0.691 mmol) を加え、混合物を室温で 2 時間攪拌した。反応液に飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、酢酸エチル抽出した。抽出液を水洗した後、減圧濃縮した。残渣を 4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液で塩酸塩にした後に減圧濃縮し、表題化合物 (0.29 g, 収率 79%) を得た。

非晶質。

$^1\text{H NMR}$ (DMSO- d_6) δ 1.24 (6H, s), 1.48 (6H, s), 2.18 (2H, s), 3.20 (2H, s), 3.97 (3H, s), 7.11 (1H, s), 7.38-7.51 (1H, m), 7.83 (2H, d, $J=8.0$ Hz), 8.50 (2H, d, $J=8.0$ Hz), 8.92-9.98 (2H, m), 11.82 (1H, br s)。

合成例 151

N-ピラジニル-4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンズアミド

アミノピラジン (72.3 mg, 0.760 mmol) のピリジン (3 mL) 溶液に 4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゾイルクロリド塩酸塩 (0.30 g, 0.691 mmol) を加え、混合物を室温で 5 時間攪拌した。反応液に飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、酢酸エチル抽出した。抽出液を水洗した後、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (酢酸エチル/メタノール 19:1) に供し、表題化合物 (0.27 g, 収率 86%) を得た。

非晶質。

$^1\text{H NMR}$ (DMSO- d_6) δ 1.27 (6H, s), 1.32 (6H, s), 2.21 (2H, s), 2.72 (2H, s), 3.93 (3H, s), 6.64 (1H,

s), 7.58 (2H, d, J=8.4 Hz), 7.99 (2H, d, J=8.4 Hz), 8.27-8.33 (1H, m), 8.42 (1H, d, J=2.6 Hz), 8.61 (1H, br s), 9.75 (1H, d, J=1.6 Hz).

合成例 1 5 2

N-(6-クロロ-3-ピリダジニル)-4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンズアミド

合成例 1 5 1 と同様の方法により、3-アミノ-6-クロロピリダジンをを用いて表題化合物を得た。収率 85%。

非晶質。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.27 (6H, s), 1.33 (6H, s), 2.21 (2H, s), 2.71 (2H, s), 3.93 (3H, s), 6.64 (1H, s), 6.74 (1H, d, J=9.2 Hz), 7.25 (1H, d, J=9.2 Hz), 7.59 (2H, d, J=8.4 Hz), 8.00 (2H, d, J=8.4 Hz), 9.18 (1H, br s)。

合成例 1 5 3

N-(4-ピリジニル)-3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンズアミド

4-アミノピリジン (0.119 g, 1.27 mmol) のピリジン (5 mL) 溶液に 3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゾイルクロリド塩酸塩 (0.50 g, 1.15 mmol) を加え、混合物を 50 °C で 1 時間攪拌した。反応液に飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、酢酸エチル抽出した。抽出液を水洗した後、減圧濃縮した。残渣を酢酸エチル-ジイソプロピルエーテルから再結晶し、表題化合物 (0.25 g, 収率 48%) を得た。

融点 175-176 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.27 (6H, s), 1.31 (6H, s), 2.22 (2H, s), 2.71 (2H, s), 3.93 (3H, s), 6.64 (1H, s), 7.48-7.58 (2H, m), 7.72-7.88 (2H, m), 8.00-8.06 (2H, m), 8.48-8.54 (2H, m), 9.71 (1H, br s)。

【0 2 8 2】合成例 1 5 4

N-(3,5-ジクロロ-4-ピリジニル)-3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンズアミド

3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)安息香酸塩酸塩 (2.17 g, 5.22 mmol) および塩化チオニル (2 mL) の混合物を、70 °C で 1 時間攪拌した。反応液を減圧濃縮し、残渣にトルエンを加えて、再び減圧濃縮した。4-アミノ-3,5-ジクロロピリジン (0.50 g, 3.07 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (10 mL) を氷冷し、水素化ナトリウム (66% 油分散物) (0.379 g, 10.4 mmol) を加え、さらに先に調製した酸クロリドを加えた。混合物を室温で 30 分間攪拌した後、氷水に注ぎ、酢酸エチルで抽出した。抽出液を水洗した後、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (酢酸エチル) に供した後、酢酸エチル-ヘキサンから再結晶

し、表題化合物 (0.35 g, 収率 22%) を得た。

融点 227-228 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.21 (6H, s), 1.32 (6H, s), 2.23 (2H, s), 2.66 (2H, s), 3.93 (3H, s), 6.63 (1H, s), 7.52 (1H, t, J=7.8 Hz), 7.69 (1H, t, J=7.8 Hz), 8.00-8.06 (2H, m), 8.57 (2H, s), 9.02 (1H, br s)。

合成例 1 5 5

N-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゾイル]グリシン エチルエステル塩酸塩

3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)安息香酸塩酸塩 (5.00 g, 12.0 mmol)、グリシンエチルエステル塩酸塩 (1.85 g, 13.2 mmol) および 1-ヒドロキシ-1H-ベンゾトリアゾール-水合物 (2.03 g, 13.2 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (30 mL) 溶液にトリエチルアミン (5.86 mL, 42.0 mmol) を加え、さらに 1-エチル-3-(3-ジメチルアミノプロピル)カルボジイミド塩酸塩 (3.00 g, 15.6 mmol) を加えた。混合物を室温で 5 時間攪拌した後、飽和炭酸水素ナトリウム水溶液に注いだ。これを酢酸エチルで抽出した後、抽出液を水洗、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 1:1) に供し、表題化合物の遊離塩基 (5.05 g, 収率 94%) を得た。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.25 (6H, s), 1.30 (3H, t, J=7.2 Hz), 1.31 (6H, s), 2.17 (2H, s), 2.69 (2H, s), 3.93 (3H, s), 4.21-4.30 (4H, m), 6.62 (1H, s), 6.89-6.95 (1H, m), 7.42-7.55 (2H, m), 7.83-7.91 (2H, m)。一部を 4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液で塩酸塩にした後に減圧濃縮し、表題化合物を得た。

非晶質。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.21 (6H, s), 1.22 (3H, t, J=7.8 Hz), 1.47 (6H, s), 2.19 (2H, s), 2.78 (2H, s), 3.95 (3H, s), 4.03 (2H, t, J=6.2 Hz), 4.12 (2H, q, J=7.8 Hz), 7.12 (1H, s), 7.75-7.83 (2H, m), 8.16 (1H, s), 8.22-8.29 (1H, m), 9.28-9.35 (1H, m)。

【0 2 8 3】合成例 1 5 6

N-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゾイル]グリシン塩酸塩

N-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゾイル]グリシン エチルエステル (5.00 g, 11.1 mmol) のエタノール (20 mL) 溶液に 5 M 水酸化ナトリウム水溶液 (5 mL) を加え、混合物を室温で 1 時間攪拌した。反応液に 5 M 塩酸 (7.5 mL) を加えて、減圧濃縮した。残渣にエタノールを加えてろ過し、ろ液を減圧濃縮する操作を 3 回繰り返した。残渣にジイソプロピルエーテルを加えて析出物をろ取、乾燥し、表題化合物 (5.15 g, 収率 98%) を得た。

非晶質。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.23 (6H, s), 1.47 (6H, s), 2.2 1 (2H, s), 3.18 (2H, s), 3.95 (3H, s), 3.96-4.06 (2H, m), 7.12 (1H, s), 7.70-7.82 (2H, m), 8.18-8.2 8 (2H, m), 9.20-9.28 (1H, m)。

合成例 157

N-(2-アミノ-2-オキシエチル)-3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンズアミド

N-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゾイル]グリシン塩酸塩 (0.80 g, 1.69 mmol) および 1-ヒドロキシ-1H-ベンゾトリアゾール-水合物 (0.285 g, 1.86 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (4 mL) 溶液に 1-エチル-3-(3-ジメチルアミノプロピル)カルボジイミド塩酸塩 (0.422 g, 2.20 mmol) を加え、室温で 5 時間攪拌した。これに濃アンモニア水 (1.7 mL) を加え、室温でさらに 1.5 時間攪拌した。反応液に水を加えて、酢酸エチルで抽出した。抽出液を水洗した後、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (酢酸エチルから酢酸エチル/メタノール 19:1) に供し、表題化合物 (0.43 g, 収率 58%) を得た。一部を酢酸エチル-ジイソプロピルエーテルから再結晶した。

融点 141-142 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.23 (6H, s), 1.30 (6H, s), 2.16 (2H, s), 2.67 (2H, s), 3.93 (3H, s), 4.08 (2H, d, J=5.0 Hz), 5.72 (1H, br s), 6.33 (1H, br s), 6.62 (1H, s), 7.43-7.55 (2H, m), 7.62-7.70 (1H, m), 7.89-7.99 (2H, m)。

合成例 158

N-[2-(メチルアミノ)-2-オキシエチル]-3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンズアミド

合成例 157 と同様の方法により、40% メチルアミン/メタノール溶液を用いて表題化合物を得た。収率 40%。

融点 212-213 °C (酢酸エチル-ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.23 (6H, s), 1.30 (6H, s), 2.16 (2H, s), 2.68 (2H, s), 2.83 (3H, d, J=4.8 Hz), 3.93 (3H, s), 4.05 (2H, d, J=4.8 Hz), 6.21 (1H, br s), 6.62 (1H, s), 7.42-7.55 (3H, m), 7.88-7.96 (2H, m)。

合成例 159

N-[2-オキシ-2-(フェニルアミノ)エチル]-3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンズアミド

N-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゾイル]グリシン塩酸塩 (0.80 g, 1.69 mmol) および 1-ヒドロキシ-1H-ベンゾトリアゾール-水合物 (0.285 g, 1.86 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (4 mL) 溶液に、

トリエチルアミン (0.707 mL, 5.07 mmol) およびアニリン (0.170 mL, 1.86 mmol) を加え、さらに 1-エチル-3-(3-ジメチルアミノプロピル)カルボジイミド塩酸塩

(0.422g, 2.20 mmol) を加えて、混合物を室温で 2 時間攪拌した。反応液に飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、酢酸エチル抽出した。抽出液を水洗した後、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 1:1 から酢酸エチル/メタノール 19:1) に供し、表題化合物 (0.30 g, 収率 35%) を得た。

非晶質。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.23 (6H, s), 1.27 (6H, s), 2.1 4 (2H, s), 2.65 (2H, s), 3.93 (3H, s), 4.21 (2H, d, J=5.6 Hz), 6.62 (1H, s), 7.10 (1H, t, J=7.6 Hz), 7.26-7.41 (3H, m), 7.46-7.57 (3H, m), 7.87-7.9 4 (2H, m), 8.06-8.15 (1H, m), 8.90 (1H, s)。

【0284】合成例 160

N-[2-オキシ-2-[(4-ピリジニルメチル)アミノ]エチル]-3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンズアミド
合成例 159 と同様の方法により、4-(アミノメチル)ピリジンをういて表題化合物を得た。収率 62%。

融点 197-198 °C (酢酸エチル-ジイソプロピルエーテル)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.22 (6H, s), 1.29 (6H, s), 2.16 (2H, s), 2.67 (2H, s), 3.93 (3H, s), 4.12 (2H, d, J=5.4 Hz), 4.43 (2H, d, J=6.0 Hz), 6.62 (1H, s), 7.1 1-7.19 (3H, m), 7.41-7.50 (2H, m), 7.65-7.71 (1H, m), 7.84-7.91 (1H, m), 7.97 (1H, s), 8.48-8.55 (2H, m)。

合成例 161

N-[2-オキシ-2-[[2-(4-ピリジニル)エチル]アミノ]エチル]-3-[3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル]ベンズアミド

合成例 159 と同様の方法により、4-(2-アミノエチル)ピリジンをういて表題化合物を得た。収率 82%。

非晶質。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.20 (6H, s), 1.30 (6H, s), 2.17 (2H, s), 2.66 (2H, s), 2.81 (2H, t, J=6.0 Hz), 3.52 (2H, q, J=6.0 Hz), 3.92 (3H, s), 3.97 (2H, d, J=5.4 Hz), 6.61 (1H, s), 6.72-6.78 (1H, m), 7.10 (2H, d, J=6.2 Hz), 7.41-7.50 (2H, m), 7.76-7.81 (1H, m), 7.88-7.94 (1H, m), 7.98 (1H, s), 8.41-8.47 (2H, m)。

合成例 162

N-[2-(3-ピリジニル)エチル]-3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンズアミド

合成例 159 と同様の方法により、3-(3,4,8,9-テトラ

ヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)安息香酸塩酸塩および 3-(2-アミノエチル)ピリジンから、表題化合物を得た。収率 88 %。

非晶質。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.24 (6H, s), 1.30 (6H, s), 2.18 (2H, s), 2.68 (2H, s), 2.87-2.96 (2H, m), 3.69 (2H, q, J=6.6 Hz), 3.93 (3H, s), 6.62 (1H, s), 6.71 (1H, br s), 7.21-7.28 (1H, m), 7.43-7.48 (2H, m), 7.58-7.62 (1H, m), 7.80-7.86 (2H, m), 8.48-8.50 (2H, m)。

合成例 1 6 3

N-[2-(2-ピリジニル)エチル]-3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンズアミド

合成例 1 5 9 と同様の方法により、3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)安息香酸塩酸塩および 2-(2-アミノエチル)ピリジンから、表題化合物を得た。収率 71 %。

非晶質。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.26 (6H, s), 1.27 (6H, s), 2.17 (2H, s), 2.70 (2H, s), 3.09 (2H, t, J=6.2 Hz), 3.85 (2H, q, J=6.2 Hz), 3.94 (3H, s), 6.64 (1H, s), 7.10-7.22 (2H, m), 7.40-7.51 (2H, m), 7.58-7.70 (2H, m), 7.80 (1H, m), 7.84-7.90 (1H, m), 8.42 (1H, d, J=4.4 Hz)。

【0 2 8 5】合成例 1 6 4

N-[3-(4-ピリジニル)プロピル]-3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンズアミド

合成例 1 5 9 と同様の方法により、3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)安息香酸塩酸塩および 4-(3-アミノプロピル)ピリジンから、表題化合物を得た。収率 63 %。

融点 175-176 °C (酢酸エチル-ジイソプロピルエーテル)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.23 (6H, s), 1.29 (6H, s), 1.82-1.99 (2H, m), 2.16 (2H, s), 2.62-2.72 (4H, m), 3.41-3.50 (2H, m), 3.92 (3H, s), 6.60-6.65 (1H, m), 7.13 (2H, d, J=6.0 Hz), 7.43-7.46 (2H, m), 7.83-7.90 (2H, m), 8.50 (2H, d, J=6.0 Hz)。

合成例 1 6 5

N-[3-(3-ピリジニル)プロピル]-3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンズアミド

合成例 1 5 9 と同様の方法により、3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)安息香酸塩酸塩および 3-(3-アミ

ノプロピル)ピリジンから、表題化合物を得た。収率 55 %。

融点 161-162 °C (酢酸エチル-ジイソプロピルエーテル)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.21 (6H, s), 1.29 (6H, s), 1.79-1.95 (2H, m), 2.14-2.18 (2H, m), 2.60-2.69 (4H, m), 3.38-3.49 (2H, m), 3.92 (3H, s), 6.61 (1H, s), 6.81-6.90 (1H, m), 7.18-7.24 (1H, m), 7.41-7.55 (3H, m), 7.86-7.93 (2H, m), 8.42-8.47 (2H, m)。

合成例 1 6 6

N-[3-(1H-イミダゾール-1-イル)プロピル]-3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンズアミド

合成例 1 5 9 と同様の方法により、3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)安息香酸塩酸塩および 1-(3-アミノプロピル)イミダゾールから、表題化合物を得た。収率 70%。

融点 104-106 °C (酢酸エチル-ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.22 (6H, s), 1.30 (6H, s), 2.04 (2H, quintet, J=7.0 Hz), 2.18 (2H, s), 2.68 (2H, s), 3.36-3.47 (2H, m), 3.93 (3H, s), 4.01 (2H, t, J=7.0 Hz), 6.62 (1H, s), 6.90-6.97 (2H, m), 7.05 (1H, s), 7.44-7.50 (3H, m), 7.85-7.90 (2H, m)。

合成例 1 6 7

N-[2-[4-(アミノスルホニル)フェニル]エチル]-3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンズアミド

合成例 1 5 9 と同様の方法により、3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)安息香酸塩酸塩および 4-(2-アミノエチル)ベンゼンスルホンアミドから、表題化合物を得た。収率 85%。

融点 138-139 °C (酢酸エチル-ジイソプロピルエーテル)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.21 (6H, s), 1.28 (6H, s), 2.15 (2H, s), 2.68 (2H, s), 2.91-2.98 (2H, m), 3.63-3.75 (2H, m), 3.93 (3H, s), 5.22 (2H, br s), 6.62 (1H, s), 6.78-6.84 (1H, m), 7.33 (2H, d, J=8.0 Hz), 7.46 (2H, d, J=4.8 Hz), 7.73-7.80 (3H, m), 7.83-7.89 (1H, m)。

【0 2 8 6】合成例 1 6 8

N-(ヘキサヒドロ-2-オキソ-1H-アゼピン-3-イル)-3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンズアミド

合成例 1 5 9 と同様の方法により、3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)安息香酸塩酸塩および 3-アミノヘキサヒドロ-2-アゼピノンから、表題化合物を得た。収率 65%。

融点 187-188 °C (酢酸エチル-ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.25 (3H, s), 1.27 (3H, s), 1.30 (6H, s), 1.50-2.25 (6H, m), 2.16 (2H, s), 2.70 (2H, s), 3.18-3.40 (2H, m), 3.93 (3H, s), 4.68-4.77 (1H, m), 6.41 (1H, br s), 6.62 (1H, s), 7.41-7.49 (2H, m), 7.75-7.80 (1H, m), 7.88-7.96 (2H, m)。

合成例 1 6 9

N-(ヘキサヒドロ-5-オキソ-1,4-チアゼピン-6-イル)-3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンズアミド

合成例 1 5 9 と同様の方法により、3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)安息香酸塩および 6-アミノ-1,4-チアゼピン-5-オンから、表題化合物を得た。収率 51%。

融点 206-207 °C (酢酸エチル-ジイソプロピルエーテル)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.26 (6H, s), 1.29 (6H, s), 2.14 (2H, s), 2.50-2.89 (3H, m), 2.71 (2H, s), 2.87-2.97 (1H, m), 3.58-3.83 (2H, m), 3.93 (3H, s), 5.05-5.13 (1H, m), 6.62 (1H, s), 6.80-6.88 (1H, m), 7.45-7.50 (2H, m), 7.89-7.96 (3H, m)。

合成例 1 7 0

N-[2-(4-ピリジニルアミノ)エチル]-3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンズアミド

合成例 1 5 9 と同様の方法により、3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)安息香酸塩および 4-[(2-アミノエチル)アミノ]ピリジンから、表題化合物を得た。収率 53%。

非晶質。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.22 (6H, s), 1.29 (6H, s), 2.17 (2H, s), 2.66 (2H, s), 3.30-3.39 (2H, m), 3.60-3.70 (2H, m), 3.92 (3H, s), 5.12-5.18 (1H, m), 6.44 (2H, d, J=5.2 Hz), 6.62 (1H, s), 7.38-7.44 (3H, m), 7.82-7.90 (2H, m), 8.14 (2H, d, J=5.2 Hz)。

合成例 1 7 1

N-[2-(2-ピリジニルアミノ)エチル]-3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンズアミド

合成例 1 5 9 と同様の方法により、3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)安息香酸塩および 2-[(2-アミノエチル)アミノ]ピリジンから、表題化合物を得た。収率 33%。

非晶質。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.27 (12H, s), 2.14 (2H, s), 2.71 (2H, s), 3.63 (4H, s), 3.93 (3H, s), 4.91 (1H, br s), 6.40-6.52 (2H, m), 6.64 (1H, s), 7.29-7.39 (1

H, m), 7.43-7.48 (2H, m), 7.84 (1H, s), 7.90-7.99 (2H, m), 8.49 (1H, br s)。

【0 2 8 7】合成例 1 7 2

N-[2-(ジエチルアミノ)エチル]-3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンズアミド二塩酸塩

合成例 1 5 5 と同様の方法により、N,N-ジエチルエチレンジアミンを用いて表題化合物を得た。収率 47%。

非晶質。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.22 (6H, t, J=7.4 Hz), 1.24 (6H, s), 1.48 (6H, s), 2.20 (2H, s), 3.12-3.32 (4H, m), 3.62-3.81 (6H, m), 3.95 (3H, s), 7.12 (1H, s), 7.72-7.81 (2H, m), 8.25-8.34 (2H, m)。

合成例 1 7 3

N-(8-メチル-8-アザビシクロ[3.2.1]オクト-3-イル)-3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンズアミド二塩酸塩

合成例 1 5 5 と同様の方法により、3-アミノ-8-メチル-8-アザビシクロ[3.2.1]オクタンを用いて表題化合物を得た。収率 49%。

非晶質。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.23 (6H, s), 1.43 (6H, s), 2.17-2.80 (14H, m), 2.96-3.22 (2H, m), 3.85 (2H, br s), 3.95 (3H, s), 7.12 (1H, s), 7.72-7.79 (2H, m), 8.14-8.19 (1H, m), 8.27 (1H, s)。

合成例 1 7 4

N-(1-アザビシクロ[2.2.2]オクト-3-イル)-3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンズアミド二塩酸塩

合成例 1 5 5 と同様の方法により、3-アミノ-1-アザビシクロ[2.2.2]オクタンを用いて表題化合物を得た。収率 49%。

非晶質。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.23 (6H, s), 1.48 (6H, s), 1.88-2.38 (7H, m), 3.18-3.83 (8H, m), 3.97 (3H, s), 4.27-4.48 (1H, m), 7.12 (1H, s), 7.70-7.78 (2H, m), 8.22-8.33 (1H, m), 8.43 (1H, s)。

合成例 1 7 5

N-(2-アミノ-2-オキソエチル)-4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンズアミド

合成例 1 5 9 と同様の方法により、4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)安息香酸塩およびグリシニアミド塩酸塩から、表題化合物を得た。収率 31%。

融点 135-136 °C (酢酸エチル-ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.25 (6H, s), 1.31 (6H, s), 2.18 (2H, s), 2.70 (2H, s), 3.92 (3H, s), 4.13 (2H, d, J=5.0 Hz), 5.85 (1H, br s), 6.56-6.65 (2H, m), 7.44

-7.57 (3H, m), 7.86 (2H, d, J=8.0 Hz)。

【0288】合成例176

2-メチル-N-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゾイル]アラニン エチルエステル

3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)安息香酸塩酸塩 (0.80 g, 1.92 mmol)、1-ヒドロキシ-1H-ベンゾトリアゾール-水合物 (0.324 g, 2.11 mmol)、2-アミノイソ酪酸エチル塩酸塩 (0.355 g, 2.11 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (4 mL) 溶液に、トリエチルアミン (0.938 mL, 6.72 mmol) および 1-エチル-3-(3-ジメチルアミノプロピル)カルボジイミド塩酸塩 (0.479 g, 2.50 mmol) を加え、混合物を室温で 2 時間攪拌した。反応液に水を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を水洗した後、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (酢酸エチル/メタノール 1:1) に供した後、ジイソプロピルエーテル-ヘキサンから再結晶し、表題化合物 (0.63 g、収率 67%) を得た。

融点 114-115 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.26 (6H, s), 1.28 (3H, t, J=7.0 Hz), 1.30 (6H, s), 1.67 (6H, s), 2.17 (2H, s), 2.70 (2H, s), 3.93 (3H, s), 4.23 (2H, q, J=7.0 Hz), 6.62 (1H, s), 6.88 (1H, br s), 7.42-7.51 (2H, m), 7.81-7.91 (2H, m)。

合成例177

2-メチル-N-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゾイル]アラニン塩酸塩

2-メチル-N-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゾイル]アラニン エチルエステル (2.60 g, 5.28 mmol) のエタノール (10 mL) 溶液に 1 M 水酸化ナトリウム水溶液 (8.0 mL) を加え、混合物を室温で 12 時間攪拌した。反応液に 1 M 塩酸 (13.5 mL) を加え、減圧濃縮した。残渣にエタノールを加えてろ過し、ろ液を減圧濃縮する操作を 3 回繰り返した。残渣を酢酸エチルから結晶化し、表題化合物 (2.38 g、収率 90%) を得た。

融点 197-201 °C。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.24 (6H, br s), 1.49 (6H, s), 1.53 (6H, s), 2.22-2.30 (2H, m), 3.10-3.22 (2H, m), 3.95 (3H, s), 7.12 (1H, s), 7.65-7.78 (2H, m), 8.16-8.22 (1H, m), 8.30 (1H, s), 8.90 (1H, m)。

合成例178

N-(2-アミノ-1,1-ジメチル-2-オキシエチル)-3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンズアミド

2-メチル-N-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)

ベンゾイル]アラニン塩酸塩 (1.85 g, 3.69 mmol)、1-ヒドロキシ-1H-ベンゾトリアゾール-水合物 (0.622 g, 4.06 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (20 mL) 溶液に 1-エチル-3-(3-ジメチルアミノプロピル)カルボジイミド塩酸塩 (0.920 g, 4.80 mmol) を加え、混合物を室温で 15 分間攪拌した。これに濃アンモニア水 (3.7 mL) を加え、室温でさらに 15 分間攪拌した。反応液に水を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を水洗した後、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (酢酸エチル/ヘキサン 9:1 から酢酸エチル/メタノール 19:1) に供した後、酢酸エチル-ジイソプロピルエーテルから再結晶し、表題化合物 (1.05 g、収率 61%) を得た。

融点 129-131 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.25 (6H, s), 1.31 (6H, s), 1.69 (6H, s), 2.19 (2H, s), 2.70 (2H, s), 3.93 (3H, s), 5.58 (1H, br s), 6.48 (1H, br s), 6.62 (1H, s), 7.11 (1H, s), 7.42-7.48 (2H, m), 7.86-7.90 (2H, m)。

【0289】合成例179

20 N-メチル-3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンズアミド

3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)安息香酸塩酸塩 (0.80 g, 1.92 mmol)、1-ヒドロキシ-1H-ベンゾトリアゾール-水合物 (0.324 g, 2.11 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (4 mL) 溶液に 1-エチル-3-(3-ジメチルアミノプロピル)カルボジイミド塩酸塩 (0.479 g, 2.50 mmol) を加え、室温で 20 分間攪拌した。反応液に 40% メチルアミン/メタノール溶液 (1.0 mL) を加え、混合物を室温でさらに 2 時間攪拌した。反応液に水を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を水洗した後、減圧濃縮した。残渣を酢酸エチル-ジイソプロピルエーテルから再結晶し、表題化合物 (0.39 g、収率 62%) を得た。

融点 206-207 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.24 (6H, s), 1.29 (6H, s), 2.16 (2H, s), 2.67 (2H, s), 2.98 (3H, d, J=4.6 Hz), 3.93 (3H, s), 6.58-6.70 (1H, m), 6.62 (1H, s), 7.40-7.48 (2H, m), 7.78 (1H, s), 7.83-7.90 (1H, m)。

40 [別途合成法] 1-(2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフラン-1-イル)-2-メチル-1-プロパノール (1.13 g, 4.50 mmol)、3-シアノ-N-メチルベンズアミド (0.60 g, 3.75 mmol)、酢酸 (4 mL) およびトルエン (6 mL) の混合物を氷冷し、濃硫酸 (0.519 mL, 9.75 mmol) を加えた。混合物を 80 °C で 1 時間攪拌した後、反応液を室温に戻して水を加えた。これをジエチルエーテルで洗浄した後、水層を濃アンモニア水で塩基性にして酢酸エチルで抽出した。抽出液を水洗した後、減圧濃縮した。残渣を酢酸エチル-ヘキサンから結晶化し、0.79

g を得た。これを酢酸エチルから再結晶し、表題化合物 (0.61 g、収率 42 %) を得た。

融点 202-203 °C。

合成例 180

N-エチル-3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンズアミド

合成例 157 と同様の方法により、3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)安息香酸塩酸塩および 70%エチルアミン水溶液から、表題化合物を得た。収率 58%。

融点 186-187 °C (酢酸エチル-ジイソプロピルエーテル)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.24 (3H, t, J=5.4 Hz), 1.25 (6H, s), 1.30 (6H, s), 2.17 (2H, s), 2.69 (2H, s), 3.41-3.55 (2H, m), 3.93 (3H, s), 6.38-6.45 (1H, m), 6.62 (1H, s), 7.42-7.48 (2H, m), 7.78 (1H, s), 7.85-7.91 (1H, m)。

【0290】合成例 181

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-N-フェニル-1-フロ[2,3-h]イソキノリンアミン

N-[2-(2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフラン)-1,1-ジメチルエチル]-N'-フェニル尿素 (0.68 g、1.85 mmol) のオキシ塩化リン (3 mL) 溶液に五酸化二リン (0.68 g、2.41 mmol) を加え、混合物を 80 °C で 10 分間攪拌した。反応混合物を過剰の飽和炭酸水素ナトリウム水溶液に加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を水洗した後、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 3:2) に供し、表題化合物 (0.34 g、収率 52%) を得た。一部をヘキサン-酢酸エチルから再結晶した。

融点 135-136 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.17 (6H, s), 1.51 (6H, s), 2.79 (2H, s), 3.53 (2H, s), 3.91 (3H, s), 4.59 (1H, br s), 6.52 (1H, s), 6.88-6.93 (2H, m), 6.95-7.04 (1H, m), 7.29-7.37 (2H, m)。

合成例 182

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-N-(4-メトキシフェニル)-3,3,8,8-テトラメチル-1-フロ[2,3-h]イソキノリンアミン

N-[2-(2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフラン)-1,1-ジメチルエチル]-N'-(4-メトキシフェニル)尿素 (1.00 g、2.51 mmol)、オキシ塩化リン (1.92 g、12.6 mmol) およびトルエン (10 mL) の混合物を、室温で 2 時間、さらに 80 °C で 30 分間攪拌した。反応液を過剰の水酸化ナトリウム水溶液に注ぎ、酢酸エチルで抽出した。抽出液を水洗した後、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 2:3) に供し、表題化合物 (0.50 g、収率 52%) を得た。一部をヘキサン-酢酸エチルから再

結晶した。

融点 139-140 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.17 (6H, s), 1.51 (6H, s), 2.78 (2H, s), 3.53 (2H, s), 3.80 (3H, s), 3.90 (3H, s), 4.62 (1H, br s), 6.52 (1H, s), 6.81-6.93 (4H, m)。

合成例 183

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-(1-ピペリジニル)フロ[2,3-h]イソキノリン塩酸塩

合成例 182 と同様の方法により、N-[2-(2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフラン)-1,1-ジメチルエチル]-1-ピペリジンカルボキサミドから表題化合物の遊離塩基を得た。これをエタノールに溶解し、4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液を加えた後、減圧濃縮した。残渣をエタノール-ジエチルエーテルから再結晶し、表題化合物を得た。収率 20%。

融点 137-139 °C。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.22 (6H, s), 1.42 (6H, s), 1.64 (6H, s), 2.86 (2H, s), 3.12 (2H, s), 3.42-3.75 (4H, m), 3.86 (3H, s), 6.96 (1H, s), 9.31 (1H, s)。

【0291】合成例 184

8',9'-ジヒドロ-6'-メトキシ-8',8'-ジメチル-1'-フェニルスピロ[シクロヘキサン-1,3' (4'H)-フロ[2,3-h]イソキノリン]塩酸塩

5-(シクロヘキシリデンメチル)-2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチルベンゾフラン (0.85 g、3.12 mmol) およびベンゾニトリル (0.350 mL、3.43 mmol) の酢酸 (4 mL) 溶液に濃硫酸 (0.333 mL、6.24 mmol) を加え、混合物を 80 °C で 10 分間攪拌した。反応液を水酸化ナトリウム水溶液に加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を水洗した後、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 3:1) に供し、表題化合物の遊離塩基 (0.54 g、収率 46%) を油状物として得た。これをエタノールに溶解し、4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液を加えた後、減圧濃縮した。残渣をエタノール-ジイソプロピルエーテルから沈殿させ、表題化合物 (0.51 g、収率 40%) を得た。

非晶質。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.22 (6H, s), 1.25-1.85 (10H, m), 2.15 (2H, s), 3.31 (2H, s), 3.94 (3H, s), 7.19 (1H, s), 7.58-7.80 (5H, m)。

合成例 185

8',9'-ジヒドロ-6'-メトキシ-1'-(4-メトキシフェニル)-8',8'-ジメチルスピロ[シクロヘキサン-1,3' (4'H)-フロ[2,3-h]イソキノリン]塩酸塩

合成例 184 と同様の方法により、4-メトキシベンゾニトリルを用いて表題化合物を得た。収率 45%。

非晶質。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.25 (6H, s), 1.32-1.80 (10H, m), 2.31 (2H, s), 3.33 (2H, s), 3.88 (3H, s), 3.92

(3H, s), 7.14 (1H, s), 7.16 (2H, d, J=8.6 Hz), 7.55 (2H, d, J=8.6 Hz)。

合成例 186

3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-6-(1-メチルエトキシ)-1-フェニルプロ[2,3-h]イソキノリン塩酸塩

合成例 99 と同様の方法により 3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニル-6-プロ[2,3-h]イソキノリノールおよび 2-ヨードプロパンから表題化合物の遊離塩基を得た。これをヘキサンに溶解し、4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液を加え、減圧濃縮し、ヘキサノー酢酸エチルから結晶化させて表題化合物を得た。収率 71%。

融点 154-155 °C。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.22 (6H, s), 1.33 (6H, d, J = 6.0 Hz), 1.44 (6H, s), 2.15 (2H, s), 3.15 (2H, s), 4.82-4.95 (1H, m), 7.10 (1H, s), 7.62-7.77 (5H, m)。

【0292】合成例 187

6-(シクロペンチルオキシ)-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニルプロ[2,3-h]イソキノリン
合成例 99 と同様の方法により 3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニル-6-プロ[2,3-h]イソキノリノールおよびブロモシクロペンタンから表題化合物を得た。収率 43%。

融点 73-74 °C (ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.24 (6H, s), 1.28 (6H, s), 1.55-2.00 (8H, m), 2.15 (2H, s), 2.66 (2H, s), 4.84-4.92 (1H, m), 6.59 (1H, s), 7.38 (5H, s)。

合成例 188

酢酸 3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニルプロ[2,3-h]イソキノリン-6-イルエステル塩酸塩

3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニル-6-プロ[2,3-h]イソキノリノール (567 mg, 1.76 mmol) のピリジン (2 mL) 溶液に無水酢酸 (2 mL) を加え、室温で 12 時間攪拌した。反応混合物に飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を注ぎ、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸マグネシウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 3:1) に供し、表題化合物の遊離塩基を得た。これを酢酸エチルに溶解し、4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液を加え、減圧濃縮し、ヘキサノー酢酸エチルから結晶化させて表題化合物 (533 mg、収率 76%) を得た。

融点 155-165 °C。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.23 (6H, s), 1.45 (6H, s), 2.23 (2H, s), 2.31 (3H, s), 3.16 (2H, s), 7.22 (1H, s), 7.66-7.80 (5H, m)。

合成例 189

安息香酸 3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニルプロ[2,3-h]イソキノリン-6-イルエステル塩酸塩

合成例 188 と同様の方法によりベンゾイルクロリドを用いて表題化合物を得た。収率 75%。

融点 160-165 °C (酢酸エチル)。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.23 (6H, s), 1.47 (6H, s), 2.28 (2H, s), 3.18 (2H, s), 7.34 (1H, s), 7.60-7.85 (8H, m), 8.14 (2H, d, J = 7.4 Hz)。

【0293】合成例 190

6-ブトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニルプロ[2,3-h]イソキノリン

3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニル-6-プロ[2,3-h]イソキノリノール (495 mg, 1.54 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (5 mL) 溶液に水素化ナトリウム (66% 油分散物) (61 mg, 1.69 mmol) および 1-ヨードブタン (0.19 mL, 1.65 mmol) を順に加え、室温で 2 時間攪拌した。反応混合物を水に注ぎ、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水 (2 回) および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸マグネシウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 5:1 の後 3:1) に供し、ヘキサンから再結晶して表題化合物 (357 mg、収率 61%) を得た。

融点 99-101 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 0.98 (3H, t, J = 7.4 Hz), 1.25 (6H, s), 1.29 (6H, s), 1.39-1.58 (2H, m), 1.68-1.90 (2H, m), 2.17 (2H, s), 2.67 (2H, s), 4.10 (2H, t, J = 7.0 Hz), 6.60 (1H, s), 7.38 (5H, s)。

合成例 191

3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニル-6-プロボキシプロ[2,3-h]イソキノリン塩酸塩

合成例 190 と同様の方法により 1-ヨードプロパンを用いて表題化合物の遊離塩基を得た。これを酢酸エチルに溶解し、4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液を加え、減圧濃縮し、表題化合物を得た。収率 91%。

非晶質。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 0.97 (3H, t, J = 7.3 Hz), 1.23 (6H, s), 1.44 (6H, s), 1.68-1.88 (2H, m), 2.16 (2H, s), 3.15 (2H, s), 4.14 (2H, t, J = 6.8 Hz), 7.10 (1H, s), 7.60-7.80 (5H, m)。

合成例 192

3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニル-6-(フェニルメトキシ)プロ[2,3-h]イソキノリン

合成例 190 と同様の方法によりベンジルブロミドを用いて表題化合物を得た。収率 74%。

融点 129-131 °C (ジエチルエーテル-ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.22 (6H, s), 1.31 (6H, s), 2.18 (2H, s), 2.62 (2H, s), 5.23 (2H, s), 6.60 (1H, s),

7.30-7.48 (10H, m)。

合成例 193

3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニル-6-(2-ピリジニルメトキシ)フロ[2,3-h]イソキノリン二塩酸塩

合成例 190 と同様の方法により 2-(クロロメチル)ピリジン塩酸塩を用いて表題化合物の遊離塩基を得た。これを酢酸エチルに溶解し、4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液を加え、減圧濃縮し、エタノール-酢酸エチルから結晶化させて表題化合物を得た。収率 90%。

融点 170-210 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.33 (6H, s), 1.69 (6H, s), 2.25 (2H, s), 3.05 (2H, s), 5.92 (2H, s), 7.09 (1H, s), 7.57-7.74 (5H, m), 7.85-7.95 (1H, m), 8.20 (1H, d, J = 7.6 Hz), 8.42-8.56 (1H, m), 8.75 (1H, d, J = 4.8 Hz)。

【0294】合成例 194

3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニル-6-(3-ピリジニルメトキシ)フロ[2,3-h]イソキノリン
合成例 190 と同様の方法により 3-(クロロメチル)ピリジン塩酸塩を用いて表題化合物を得た。収率 85%。

融点 112-115 °C (ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.31 (6H, s), 1.32 (6H, s), 2.19 (2H, s), 2.70 (2H, s), 5.26 (2H, s), 6.64 (1H, s), 7.33 (1H, d, J = 7.4, 4.8 Hz), 7.43 (5H, s), 7.80 (1H, dd, J = 7.4, 1.6 Hz), 8.59 (1H, dd, J = 4.8, 1.6 Hz), 8.68 (1H, d, J = 1.6 Hz)。

合成例 195

3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニル-6-(4-ピリジニルメトキシ)フロ[2,3-h]イソキノリン
合成例 190 と同様の方法により 4-(クロロメチル)ピリジン塩酸塩を用いて表題化合物を得た。収率 79%。

融点 122-124 °C (ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.22 (6H, s), 1.32 (6H, s), 2.19 (2H, s), 2.61 (2H, s), 5.25 (2H, s), 6.53 (1H, s), 7.36 (2H, d, J = 6.2 Hz), 7.38 (5H, s), 8.61 (2H, d, J = 6.2 Hz)。

合成例 196

3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニル-6-[(3-フェニル-2-プロペニル)オキシ]フロ[2,3-h]イソキノリン

合成例 190 と同様の方法によりシンナミルクロリドを用いて表題化合物を得た。収率 78%。

融点 121-123 °C (ヘキサノージエチルエーテル)。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.13 (6H, s), 1.21 (6H, s), 2.18 (2H, s), 2.63 (2H, s), 4.78 (2H, d, J = 6.0 Hz), 6.45-6.59 (1H, m), 6.78 (1H, d, J = 16.8 Hz), 6.88 (1H, s), 7.28-7.52 (10H, m)。

【0295】合成例 197

3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニ

ル-6-(3-フェニルプロポキシ)フロ[2,3-h]イソキノリン塩酸塩

合成例 190 と同様の方法により 1-ブロモ-3-フェニルプロパンを用いて表題化合物の遊離塩基を得た。これを酢酸エチルに溶解し、4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液を加え、減圧濃縮し、ヘキサンから結晶化させて表題化合物を得た。収率 89%。

融点 165-180 °C。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.24 (6H, s), 1.45 (6H, s), 2.02-2.16 (2H, m), 2.17 (2H, s), 2.74 (2H, t, J = 8.0 Hz), 3.14 (2H, s), 4.19 (2H, t, J = 6.0 Hz), 7.07 (1H, s), 7.18-7.38 (5H, m), 7.63-7.80 (5H, m), 12.68 (1H, br s)。

合成例 198

3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニル-6-[(5-フェニルペンチル)オキシ]フロ[2,3-h]イソキノリン

合成例 190 と同様の方法により 1-ブロモ-5-フェニルペンタンを用いて表題化合物を得た。収率 79%。

融点 104-106 °C (ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) 1.25 (6H, s), 1.29 (6H, s), 1.45-1.94 (6H, m), 2.17 (2H, s), 2.64 (2H, t, J = 7.8 Hz), 2.67 (2H, s), 4.09 (2H, t, J = 6.8 Hz), 6.58 (1H, s), 7.17-7.35 (5H, m), 7.38 (5H, s)。

合成例 199

炭酸 エチル (3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニルフロ[2,3-h]イソキノリン-6-イル)エステル塩酸塩

合成例 190 と同様の方法によりクロロギ酸エチルを用いて表題化合物の遊離塩基を得た。これを酢酸エチルに溶解し、4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液を加え、減圧濃縮し、ヘキサン-酢酸エチルから結晶化させて表題化合物を得た。収率 71%。

融点 144-147 °C。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.24 (6H, s), 1.29 (3H, t, J = 7.1 Hz), 1.45 (6H, s), 2.25 (2H, s), 3.16 (2H, s), 4.28 (2H, q, J = 7.1 Hz), 7.33 (1H, s), 7.65-7.80 (5H, m)。

合成例 200

3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニル-6-[(1-フェニル-1H-テトラゾール-5-イル)オキシ]フロ[2,3-h]イソキノリン

合成例 190 と同様の方法により 5-クロロ-1-フェニル-1H-テトラゾールを用いて表題化合物を得た。収率 88 %。

融点 191-193 °C (ジエチルエーテル)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.24 (6H, s), 1.27 (6H, s), 2.24 (2H, s), 2.71 (2H, s), 7.09 (1H, s), 7.41 (5H, s), 7.50-7.62 (3H, m), 7.82-7.88 (2H, m)。

【0296】合成例 201

6-(フルオロメトキシ)-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニルプロ[2,3-h]イソキノリン
合成例 190 と同様の方法によりプロモフルオロメタンを用いて表題化合物を得た。収率 75%。

融点 120-122 °C (ヘキサソージエチルエーテル)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.26 (6H, s), 1.31 (6H, s), 2.21 (2H, s), 2.69 (2H, s), 5.80 (2H, d, J = 54.2 Hz), 6.85 (1H, s), 7.40 (5H, s)。

合成例 202

2-[(3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニルプロ[2,3-h]イソキノリン-6-イル)オキシ]メチル]-1H-イソインドール-1,3(2H)-ジオン

合成例 190 と同様の方法によりN-(プロモメチル)フタルイミドを用いて表題化合物を得た。収率 92%。

融点 191-193 °C (ジエチルエーテル)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.20 (6H, s), 1.24 (6H, s), 2.16 (2H, s), 2.62 (2H, s), 5.73 (2H, s), 6.77 (1H, s), 7.38 (5H, s), 7.75-7.79 (2H, m), 7.89-7.94 (2H, m)。

合成例 203

[(3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニルプロ[2,3-h]イソキノリン-6-イル)オキシ]酢酸メチルエステル

合成例 190 と同様の方法によりプロモ酢酸メチルを用いて表題化合物を得た。収率 72%。

融点 82-84 °C (ヘキサソージエチルエーテル)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.24 (6H, s), 1.29 (6H, s), 2.17 (2H, s), 2.65 (2H, s), 3.81 (3H, s), 4.78 (2H, s), 6.57 (1H, s), 7.38 (5H, s)。

合成例 204

2-[(3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニルプロ[2,3-h]イソキノリン-6-イル)オキシ]アセトアミド

[(3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニルプロ[2,3-h]イソキノリン-6-イル)オキシ]酢酸メチルエステル (501 mg, 1.27 mmol) およびシアン化ナトリウム (6.2 mg, 0.127 mmol) の混合物に 5 M アンモニア/メタノール溶液 (7 mL) を加え、封管中、45 °C で 5 時間攪拌した。メタノールを減圧留去し、残渣に水を注ぎ、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸マグネシウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。得られた結晶をジエチルエーテルで洗浄し、表題化合物 (409 mg、収率 85%) を得た。

融点 117-119 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.25 (6H, s), 1.30 (6H, s), 2.20 (2H, s), 2.68 (2H, s), 4.62 (2H, s), 5.63 (1H, br s), 6.63 (1H, s), 6.80 (1H, br s), 7.39 (5H, s)。

【0297】合成例 205

[(3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェ

ニルプロ[2,3-h]イソキノリン-6-イル)オキシ]酢酸塩酸塩

[(3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニルプロ[2,3-h]イソキノリン-6-イル)オキシ]酢酸メチルエステル (1.23 g, 3.13 mmol) のメタノール (6 mL) 溶液に 2 M 水酸化ナトリウム水溶液 (3.13 mL, 6.26 mmol) を加え、室温で 4 時間攪拌した。メタノールを減圧留去し、残渣に水を注ぎ、2 M 塩酸で中和、4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液 (1.17 mL, 4.68 mmol) を加え、減圧濃縮した。残渣をメタノールに溶解し、不溶物をろ過し、母液を減圧濃縮した。同様の操作を 2 回繰り返した後、表題化合物 (1.17 g、収率 90%) を得た。非晶質。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.29 (6H, s), 1.54 (6H, s), 2.18 (2H, s), 2.93 (2H, s), 4.66 (2H, s), 6.66 (1H, s), 7.48-7.70 (5H, m)。

合成例 206

N-メチル-2-[(3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニルプロ[2,3-h]イソキノリン-6-イル)オキシ]アセトアミド塩酸塩

[(3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニルプロ[2,3-h]イソキノリン-6-イル)オキシ]酢酸塩酸塩 (435 mg, 1.05 mmol) の N,N'-ジメチルホルムアミド (4 mL) 溶液に N,N'-カルボニルジイミダゾール (187 mg, 1.15 mmol) を加え、室温で 2 時間攪拌した。メチルアミン塩酸塩 (78 mg, 1.15 mmol) およびトリエチルアミン (0.32 mL, 2.31 mmol) を加え、さらに 5 時間室温で攪拌した。反応混合物に氷水を注ぎ、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で 2 回洗浄、硫酸マグネシウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサソ/酢酸エチル 1:1 の後酢酸エチル) に供し、表題化合物の遊離塩基を得た。これを酢酸エチルに溶解し、4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液を加え、減圧濃縮して表題化合物 (330 mg、収率 73%) を得た。

非晶質。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.24 (6H, s), 1.44 (6H, s), 2.17 (2H, s), 2.66 (3H, d, J = 4.8 Hz), 3.13 (2H, s), 4.72 (2H, s), 6.99 (1H, s), 7.63-7.80 (5H, m), 8.17 (1H, q, J = 4.8 Hz)。

合成例 207

N,N'-ジメチル-2-[(3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニルプロ[2,3-h]イソキノリン-6-イル)オキシ]アセトアミド

[(3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニルプロ[2,3-h]イソキノリン-6-イル)オキシ]酢酸塩酸塩 (604 mg, 1.45 mmol) のテトラヒドロフラン (6 mL) 溶液にトリエチルアミン (0.22 mL, 1.60 mmol) を加え、室温で 3 分間、N,N'-カルボニルジイミダゾール (259 mg, 1.60 mmol) を加え、室温で 2 時間攪拌した。

反応混合物に 2 M ジメチルアミン/テトラヒドロフラン溶液 (0.80 mL, 1.60 mmol) を加え、室温で 1 時間攪拌し、水を注ぎ、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を酢酸エチル-ジエチルエーテルから結晶化させて表題化合物 (422 mg、収率 72%) を得た。

融点 120-140 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.26 (6H, s), 1.29 (6H, s), 2.17 (2H, s), 2.69 (2H, s), 2.99 (3H, s), 3.10 (3H, s), 4.83 (2H, s), 6.67 (1H, s), 7.39 (5H, s)。

【0298】合成例 208

2-[(3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニル-6-フロ[2,3-h]イソキノリン-6-イル)オキシ]エタンアミン

3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニル-6-フロ[2,3-h]イソキノリノール (1.20 g, 3.73 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (6 mL) 溶液に水素化ナトリウム (66% 油分散物) (142 mg, 3.92 mmol) を加え、室温で 15 分間攪拌し、N-(2-ブロモエチル)フタルイミド (949 mg, 3.73 mmol) を加え、室温で 1 時間、続いて 60 °C で 3 時間攪拌した。N-(2-ブロモエチル)フタルイミド (949 mg, 3.73 mmol) および炭酸カリウム (542 mg, 3.92 mmol) を室温で追加し、50 °C で 3 時間攪拌した。反応混合物に水を注ぎ、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で 2 回洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 50:1 の後酢酸エチル) に供し、2-[2-[(3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニル-6-フロ[2,3-h]イソキノリン-6-イル)オキシ]エチル]-1H-イソインドール-1,3(2H)-ジオン (707 mg、収率 38%) を得た。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.21 (6H, s), 1.22 (6H, s), 2.13 (2H, s), 2.62 (2H, s), 4.12 (2H, t, J = 6.4 Hz), 4.39 (2H, t, J = 6.4 Hz), 6.70 (1H, s), 7.35-7.37 (5H, m), 7.70-7.75 (2H, m), 7.84-7.88 (2H, m)。

2-[2-[(3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニル-6-フロ[2,3-h]イソキノリン-6-イル)オキシ]エチル]-1H-イソインドール-1,3(2H)-ジオン (708 mg, 1.42 mmol) を エタノール (7 mL) に溶解し、ヒドラジン-水和物 (0.072 mL, 1.50 mmol) を加え、80 °C で 1.5 時間攪拌した。不溶物をろ取り、ろ液を減圧濃縮した。残渣に希水酸化ナトリウム水溶液を注ぎ、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 3:1 の後酢酸エチル) に供し、ヘキサソ-ジエチルエーテルから結晶化させて表題化合物 (56 mg、収率 11%) を得た。

融点 77-79 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.24 (6H, s), 1.30 (6H, s), 2.18 (2H, s), 2.67 (2H, s), 3.11 (2H, t, J = 5.3 Hz), 4.08-4.18 (2H, m), 6.63 (1H, s), 7.38 (5H, s)。

合成例 209

2-[(3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニル-6-フロ[2,3-h]イソキノリン-6-イル)オキシ]エタノール

3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニル-6-フロ[2,3-h]イソキノリノール (459 mg, 1.43 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (4.5 mL) 溶液に 2-ブロモエタノール (0.11 mL, 1.57 mmol) および炭酸カリウム (217 mg, 1.57 mmol) を加え、60 °C で 36 時間攪拌した。反応混合物に水を注ぎ、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液 (2 回) で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 3:1 の後 1:1) に供し、ヘキサソ-ジエチルエーテルから結晶化させて表題化合物 (366 mg、収率 70%) を得た。

融点 90-92 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.25 (6H, s), 1.30 (6H, s), 2.19 (2H, s), 2.67 (2H, s), 3.92-3.98 (2H, m), 4.21 (2H, t, J = 4.4 Hz), 6.65 (1H, s), 7.39 (5H, s)。

【0299】合成例 210

6-(2-フルオロエトキシ)-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニル-6-フロ[2,3-h]イソキノリン
合成例 209 と同様の方法により 1-ブロモ-2-フルオロエタンを用いて表題化合物を得た。収率 56%。

融点 77-79 °C (ジエチルエーテル-ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.25 (6H, s), 1.30 (6H, s), 2.18 (2H, s), 2.67 (2H, s), 4.29-4.47 (2H, m), 4.64-4.92 (2H, m), 6.65 (1H, s), 7.39 (5H, s)。

合成例 211

ジメチルカルバモチオ酸 0-(3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニル-6-フロ[2,3-h]イソキノリン-6-イル)エステル

合成例 209 と同様の方法によりジメチルチオカルバモイルクロリドを用いて表題化合物を得た。定量的。

非晶質。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.25 (6H, s), 1.27 (6H, s), 2.19 (2H, s), 2.69 (2H, s), 3.34 (3H, s), 3.45 (3H, s), 6.76 (1H, s), 7.35-7.47 (5H, m)。

合成例 212

ジメチルカルバモチオ酸 0-(3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニル-6-フロ[2,3-h]イソキノリン-6-イル)エステル塩酸塩

ジメチルカルバモチオ酸 0-(3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニル-6-フロ[2,3-h]イソキノリン-6-イル)エステル (902 mg, 2.21 mmol) を酢酸エチ

ルに溶解し、4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液 (0.55 mL) を加えた。得られた混合物を減圧濃縮し、得られた結晶をジエチルエーテルで洗浄して表題化合物 (946 mg、収率 96%) を得た。

融点 170-180 °C。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.22 (6H, s), 1.46 (6H, s), 2.2 (2H, s), 3.18 (2H, s), 3.30 (3H, s), 3.36 (3H, s), 7.17 (1H, s), 7.66-7.82 (5H, m)。

合成例 2 1 3

ジメチルカルバモチオ酸 S-(3, 4, 8, 9-テトラヒドロ-3, 3, 8, 8-テトラメチル-1-フェニルプロ[2, 3-h]イソキノリン-6-イル)エステル塩酸塩 10

ジメチルカルバモチオ酸 O-(3, 4, 8, 9-テトラヒドロ-3, 3, 8, 8-テトラメチル-1-フェニルプロ[2, 3-h]イソキノリン-6-イル)エステル (4.92 g, 12.0 mmol) を 190°C で 24 時間攪拌した。反応混合物をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 5:1 の後 3:1) に供し、表題化合物の遊離塩基を得た。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.25 (6H, s), 1.29 (6H, s), 2.21 (2H, s), 2.68 (2H, s), 3.05 (3H, br s), 3.10 (3H, br s), 7.11 (1H, s), 7.40 (5H, s)。

これを酢酸エチルに溶解し、4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液を加え、減圧濃縮し、ヘキサソジエチルエーテルから結晶化させて表題化合物 (404 mg、収率 8.2%) を得た。

融点 146-148 °C。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.23 (6H, s), 1.45 (6H, s), 2.2 (2H, s), 2.94 (3H, s), 3.06 (3H, s), 3.15 (2H, s), 7.40 (1H, s), 7.66-7.77 (5H, s)。

【0300】合成例 2 1 4

3, 4, 8, 9-テトラヒドロ-3, 3, 8, 8-テトラメチル-6-(メチルチオ)-1-フェニルプロ[2, 3-h]イソキノリン塩酸塩

ジメチルカルバモチオ酸 S-(3, 4, 8, 9-テトラヒドロ-3, 3, 8, 8-テトラメチル-1-フェニルプロ[2, 3-h]イソキノリン-6-イル)エステル (539 mg, 1.32 mmol) の 10% 水酸化カリウム水溶液 (5 mL) 溶液を 1 時間加熱還流した。反応混合物に水を注ぎ、2 M 塩酸で中和、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮し、3, 4, 8, 9-テトラヒドロ-3, 3, 8, 8-テトラメチル-1-フェニル-6-フロ[2, 3-h]イソキノリンチオール (434 mg) を得た。これを N,N-ジメチルホルムアミド (5 mL) に溶解し、水素化ナトリウム (66% 油分散物) (57 mg, 1.58 mmol) を加え、室温で 20 分間、氷冷下ヨードメタン (0.098 mL, 1.58 mmol) を加え、室温で 1 時間攪拌した。反応混合物に水を注ぎ、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 10:1 の後 5:1) に供し、表題化合物 50

の遊離塩基を得た。これを酢酸エチルに溶解し、4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液を加え、減圧濃縮し、表題化合物 (287 mg、収率 56%) を得た。

非晶質。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.24 (6H, s), 1.45 (6H, s), 2.2 (2H, s), 2.57 (3H, s), 3.17 (2H, s), 7.20 (1H, s), 7.64-7.80 (5H, m)。

合成例 2 1 5

6-クロロ-3, 4, 8, 9-テトラヒドロ-3, 3, 8, 8-テトラメチル-1-フェニルプロ[2, 3-h]イソキノリン塩酸塩

3, 4, 8, 9-テトラヒドロ-3, 3, 8, 8-テトラメチル-1-フェニル-6-フロ[2, 3-h]イソキノリノール (1.00 g, 3.11 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (1 mL) 溶液にオキシ塩化リン (0.44 mL, 4.67 mmol) を加え、90 °C で 15 時間、続いて 130°C で 3 時間攪拌した。反応混合物を 2 M 水酸化ナトリウム水溶液に注ぎ、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 100:1 の後 30:1) に供し、表題化合物の遊離塩基を得た。これを酢酸エチルに溶解し、4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液を加え、減圧濃縮し、ヘキサソ酢酸エチルから結晶化させて表題化合物 (380 mg、収率 33%) を得た。

融点 165-167 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.36 (6H, s), 1.71 (6H, s), 2.31 (2H, s), 3.01 (2H, s), 7.21 (1H, s), 7.55-7.75 (5H, m)。

【0301】合成例 2 1 6

30 6-クロロ-3, 4, 8, 9-テトラヒドロ-3, 3, 8, 8-テトラメチル-1-[3-(4-ピリジニル)フェニル]プロ[2, 3-h]イソキノリン二塩酸塩

合成例 2 1 5 と同様の方法により 3, 4, 8, 9-テトラヒドロ-3, 3, 8, 8-テトラメチル-1-[3-(4-ピリジニル)フェニル]-6-フロ[2, 3-h]イソキノリノールから表題化合物を得た。収率 30%。

融点 145-155 °C (エタノール-酢酸エチル)。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.27 (6H, s), 1.50 (6H, s), 2.4 (2H, s), 3.17 (2H, s), 7.51 (1H, s), 7.85-7.87 (2H, m), 8.37-8.39 (2H, m), 8.47 (2H, d, J = 6.3 Hz), 9.13 (2H, d, J = 6.3 Hz)。

合成例 2 1 7

3, 4, 8, 9-テトラヒドロ-N, 3, 3, 8, 8-ペンタメチル-1-フェニル-6-フロ[2, 3-h]イソキノリンアミン塩酸塩

3, 4, 8, 9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3, 3, 8, 8-テトラメチル-1-フェニルプロ[2, 3-h]イソキノリン (518 mg, 1.54 mmol) および塩化アンモニウム (165 mg, 3.09 mmol) の混合物に 40% メチルアミン/メタノール溶液 (5 mL) を加え、封管中、150 °C で 15 時間攪拌した。メタノールを減圧留去し、残渣に水を注ぎ、酢酸エチルで 2 回抽

出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸マグネシウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー（ヘキサン/酢酸エチル 3:1 の後ヘキサン/酢酸エチル/トリエチルアミン 25:25:1）に供し、表題化合物の遊離塩基を得た。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.26 (6H, s), 1.30 (6H, s), 2.16 (2H, s), 2.72 (2H, s), 2.93 (3H, s), 6.31 (1H, s), 7.40 (5H, s)。

これを酢酸エチルに溶解し、4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液を加え、減圧濃縮して表題化合物 (376 mg、収率 76%) を得た。

非晶質。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.28 (6H, s), 1.67 (6H, s), 2.19 (2H, s), 2.96 (2H, s), 3.03 (3H, s), 6.35 (1H, s), 7.50-7.70 (5H, m)。

合成例 218

3,4,8,9-テトラヒドロ-N,N,3,3,8,8-ヘキサメチル-1-フェニル-6-フロ[2,3-h]イソキノリンアミン二塩酸塩

3,4,8,9-テトラヒドロ-N,3,3,8,8-ペンタメチル-1-フェニル-6-フロ[2,3-h]イソキノリンアミン (321 mg, 0.865 mmol)、37% ホルムアルデヒド水溶液 (0.14 mL, 1.90 mmol) およびギ酸 (0.16 mL, 4.33 mmol) の混合物を 60 °C で 1.5 時間、100 °C で 1 時間攪拌した。反応混合物を 2 M 水酸化ナトリウム水溶液で中和、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー（ヘキサン/酢酸エチル 100:1 の後 10:1）に供し、表題化合物の遊離塩基を得た。これを酢酸エチルに溶解し、4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液を加え、酢酸エチルから結晶化させて表題化合物 (114 mg、収率 31%) を得た。

融点 105-115 °C。

$^1\text{H NMR}$ ($\text{DMSO}-d_6$) δ 1.22 (6H, s), 1.41 (6H, s), 2.05 (2H, s), 3.05 (2H, s), 3.16 (6H, s), 6.64 (1H, s), 7.53-7.73 (5H, m), 11.69 (1H, br s)。

【0302】合成例 219

N-エチル-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニル-6-フロ[2,3-h]イソキノリンアミン塩酸塩
合成例 217 と同様の方法により 70% エチルアミン水溶液を用いて表題化合物を得た。収率 21%。

非晶質。

$^1\text{H NMR}$ ($\text{DMSO}-d_6$) δ 1.24 (6H, s), 1.40 (6H, s), 1.70 (3H, t, $J = 7.4$ Hz), 2.09 (2H, s), 3.04 (2H, s), 3.26-3.50 (2H, m), 6.59 (1H, s), 7.08 (1H, br s), 7.52-7.84 (5H, m), 11.37 (1H, br s)。

合成例 220

3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニル-6-フロ[2,3-h]イソキノリンアミン

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニルフロ[2,3-h]イソキノリン (3.77 g, 11.2 mmol) および塩化アンモニウム (1.20 g, 22.5 mmol) の混合物に 5 M アンモニア/メタノール溶液 (40 mL) を加え、封管中、150 °C で 24 時間攪拌した。メタノールを減圧留去し、残渣に水を注ぎ、炭酸水素ナトリウムで中和、酢酸エチルで 3 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー（ヘキサン/酢酸エチル 50:1 の後 5:1）に供し、ジエチルエーテルから結晶化させて表題化合物 (1.58 g、収率 44%) を得た。

融点 158-162 °C。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.26 (12H, s), 2.15 (2H, s), 2.63 (2H, s), 6.40 (1H, s), 7.36-7.44 (5H, m)。

合成例 221

N-(3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニルフロ[2,3-h]イソキノリン-6-イル)ホルムアミドギ酸 (3 mL) および無水酢酸 (1 mL) の溶液を室温で 1.5 時間攪拌し、3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニル-6-フロ[2,3-h]イソキノリンアミン (500 mg, 1.56 mmol) を加え、室温で 2 時間攪拌した。反応混合物を 3.5 M 水酸化ナトリウム水溶液に注ぎ、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮して表題化合物 (470 mg、収率 87%) を得た。

非晶質。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.26 (6H, s), 1.29 (6H, s), 2.22 (2H, s), 2.69 (0.6H, s), 2.73 (1.4H, s), 7.40 (6H, s), 8.03 (1H, s), 8.45 (1H, d, $J = 1.4$ Hz)。

合成例 222

N-(3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニルフロ[2,3-h]イソキノリン-6-イル)アセトアミド
3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニル-6-フロ[2,3-h]イソキノリンアミン (542 mg, 1.69 mmol) のピリジン (3 mL) 溶液に無水酢酸 (2 mL) を加え、室温で 12 時間攪拌した。反応混合物に炭酸水素ナトリウム水溶液を注ぎ、酢酸エチルで 3 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸マグネシウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー（ヘキサン/酢酸エチル 5:1）に供し、ヘキサソジエチルエーテルから結晶化させて表題化合物 (445 mg、収率 74%) を得た。

融点 175-180 °C。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.24 (6H, s), 1.28 (6H, s), 2.20 (2H, s), 2.22 (3H, s), 2.71 (2H, s), 7.32 (1H, s), 7.83 (5H, s), 8.04 (1H, br s)。

【0303】合成例 223

N-(3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニルプロ[2,3-h]イソキノリン-6-イル)メタンスルホンアミド

3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニル-6-プロ[2,3-h]イソキノリンアミン (400 mg, 1.25 mmol) およびトリエチルアミン (0.38 mL, 2.74 mmol) のテトラヒドロフラン (5 mL) 溶液に氷冷下メタンスルホンクロリド (0.22 mL, 2.74 mmol) を加え、室温で 2 時間攪拌した。反応混合物に水を注ぎ、1 M 水酸化ナトリウム水溶液で中和、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 5:1 の後 1:1) に供し、ジエチルエーテルから結晶化させて表題化合物 (27 mg, 収率 5.4%) を得た。

融点 175-177 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.25 (6H, s), 1.28 (6H, s), 2.21 (2H, s), 2.70 (2H, s), 3.06 (3H, s), 7.17 (1H, s), 7.39 (5H, s)。

合成例 224

N-(3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニルプロ[2,3-h]イソキノリン-6-イル)プロパンアミド

合成例 30 と同様の方法により 3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニル-6-プロ[2,3-h]イソキノリンアミンおよびプロピオニルクロリドから表題化合物を得た。収率 57%。

融点 129-131 °C (ジエチルエーテル-ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.24 (6H, s), 1.26 (3H, t, J = 7.5 Hz), 1.28 (6H, s), 2.20 (2H, s), 2.44 (2H, q, J = 7.5 Hz), 2.70 (2H, s), 7.31 (1H, s), 7.38 (5H, s), 8.07 (1H, br s)。

合成例 225

(3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニルプロ[2,3-h]イソキノリン-6-イル)カルバミド酸エチルエステル

合成例 30 と同様の方法により 3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニル-6-プロ[2,3-h]イソキノリンアミンおよびクロロギ酸エチルから表題化合物を得た。収率 3.2%。

融点 92-94 °C (ジエチルエーテル-ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.24 (6H, s), 1.27 (6H, s), 1.33 (3H, t, J = 7.1 Hz), 2.19 (2H, s), 2.70 (2H, s), 4.25 (2H, q, J = 7.1 Hz), 6.81 (1H, s), 7.38 (5H, s), 7.70 (1H, br s)。

【0304】合成例 226

N-(3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニルプロ[2,3-h]イソキノリン-6-イル)グリシンエチルエステル

合成例 209 と同様の方法により 3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニル-6-プロ[2,3-h]イソキノリンアミンおよびプロモ酢酸エチルから表題化合物を得た。収率 35%。

融点 79-81 °C (ジエチルエーテル-ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.23 (6H, s), 1.26 (6H, s), 1.31 (3H, t, J = 7.1 Hz), 2.15 (2H, s), 2.64 (2H, s), 3.98 (2H, d, J = 5.8 Hz), 4.27 (2H, q, J = 7.1 Hz), 4.52 (1H, t, J = 5.8 Hz), 6.20 (1H, s), 7.37 (5H, s)。

合成例 227

N-(3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニルプロ[2,3-h]イソキノリン-6-イル)尿素

3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニル-6-プロ[2,3-h]イソキノリンアミン (346 mg, 1.08 mmol) およびシアン酸ナトリウム (140 mg, 2.16 mmol) のトルエン (5 mL) 懸濁液に氷冷下トリフルオロ酢酸 (0.34 mL, 4.43 mmol) を加え、室温で 3 時間攪拌した。反応混合物に 1 M 水酸化ナトリウム水溶液を注ぎ、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 3:1 の後 1:2) に供し、得られた結晶をジエチルエーテルで洗浄して表題化合物 (178 mg, 収率 45%) を得た。

融点 151-153 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.24 (6H, s), 1.26 (6H, s), 2.19 (2H, s), 2.70 (2H, s), 4.85 (2H, br s), 6.72 (1H, s), 7.37 (5H, s), 7.72 (1H, s)。

合成例 228

N-メチル-N'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニルプロ[2,3-h]イソキノリン-6-イル)尿素 3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニル-6-プロ[2,3-h]イソキノリンアミン (485 mg, 1.51 mmol) およびトリエチルアミン (0.23 mL, 1.67 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (6 mL) 溶液に氷冷下クロロギ酸フェニル (0.22 mL, 1.67 mmol) を加え、室温で 4 時間攪拌した。トリエチルアミン (0.12 mL, 0.84 mmol) およびクロロギ酸フェニル (0.11 mL, 0.84 mmol) を追加し、さらに 4 時間室温で攪拌した。反応混合物にメチルアミン塩酸塩 (305 mg, 4.53 mmol) およびトリエチルアミン (0.63 mL, 4.53 mmol) を加え、室温で 15 時間攪拌した後、氷水を注ぎ、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水 (2 回) および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸マグネシウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 3:1 の後 1:1) に供し、ジエチルエーテルから結晶化させて表題化合物 (305 mg, 収率 54%) を得た。

融点 209-211 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.24 (6H, s), 1.25 (6H, s), 2.18 (2H, s), 2.69 (2H, s), 2.86 (3H, d, J = 5.0 Hz), 4.86 (1H, br q, J = 5.0 Hz), 6.47 (1H, s), 7.37 (5H, s), 7.75 (1H, s)。

【0305】合成例 229

2-[(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニルプロ[2,3-h]イソキノリン-5-イル)メチル]-1H-イソインドール-1,3(2H)-ジオン

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニルプロ[2,3-h]イソキノリン (796 mg, 2.37 mmol) を濃硫酸 (3 mL) に溶解し、N-(ヒドロキシメチル)フタルイミド (462 mg, 2.61 mmol) を加え、室温で 2 時間攪拌した。反応混合物に水を注ぎ、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 8:1 の後 5:1) に供し、得られた結晶をジエチルエーテルで洗浄して表題化合物 (506 mg、収率 43%) を得た。

融点 193-195 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.25 (6H, s), 1.28 (6H, s), 2.12 (2H, s), 2.81 (2H, s), 3.96 (3H, s), 4.92 (2H, s), 7.37 (5H, s), 7.69-7.71 (2H, m), 7.81-7.85 (2H, m)。

合成例 230

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニル-5-プロ[2,3-h]イソキノリンメタンアミン

2-[(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニルプロ[2,3-h]イソキノリン-5-イル)メチル]-1H-イソインドール-1,3(2H)-ジオン (6.94g, 14.0 mmol) のエタノール (40 mL) 懸濁液にヒドラジーン水和物 (0.71 mL, 14.7 mmol) を加え、3 時間加熱還流した。反応混合物にジイソプロピルエーテルを注ぎ、析出した結晶をろ取した。ろ液に 1 M 水酸化ナトリウム水溶液と水を加え、有機層を分離、水層を酢酸エチルで抽出した。有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (酢酸エチルの後酢酸エチル/トリエチルアミン 50:1) に供し、ヘキサノージエチルエーテルから結晶化させて表題化合物 (3.46 g、収率 68%) を得た。

融点 140-142 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.26 (6H, s), 1.28 (6H, s), 2.13 (2H, s), 2.71 (2H, s), 3.86 (2H, s), 3.97 (3H, s), 7.38 (5H, s)。

合成例 231

N-[(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニルプロ[2,3-h]イソキノリン-5-イル)メチル]ホルムアミド

合成例 221 と同様の方法により 3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニル-5-プロ[2,3-h]イソキノリンメタンアミンから表題化合物を得た。収率 84%。

融点 205-208 °C (ジエチルエーテル-ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.23 (6H, s), 1.28 (6H, s), 2.14 (2H, s), 2.79 (2H, s), 4.00 (3H, s), 4.53 (2H, d, J = 5.4 Hz), 5.86 (1H, br s), 7.37 (5H, s), 8.17 (1H, s)。

【0306】合成例 232

N-[(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニルプロ[2,3-h]イソキノリン-5-イル)メチル]アセトアミド

合成例 30 と同様の方法により 3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニル-5-プロ[2,3-h]イソキノリンメタンアミンから表題化合物を得た。収率 90%。

融点 164-166 °C (ジエチルエーテル-ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.23 (6H, s), 1.28 (6H, s), 1.97 (3H, s), 2.14 (2H, s), 2.78 (2H, s), 3.99 (3H, s), 4.48 (2H, d, J = 5.6 Hz), 5.74 (1H, br s), 7.38 (5H, s)。

合成例 233

N-[(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニルプロ[2,3-h]イソキノリン-5-イル)メチル]尿素

合成例 227 と同様の方法により 3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニル-5-プロ[2,3-h]イソキノリンメタンアミンから表題化合物を得た。収率 59%。

融点 172-174 °C (ジエチルエーテル-ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.24 (6H, s), 1.27 (1.8H, s), 1.28 (4.2H, s), 1.58 (2H, s), 2.13 (0.6H, s), 2.14 (1.4H, s), 2.77 (2H, s), 3.98 (2.1H, s), 4.00 (0.9H, s), 4.38 (1.4H, d, J = 5.8 Hz), 4.45-4.58 (1.4H, m), 4.46 (0.6H, d, J = 5.8 Hz), 4.80-4.95 (0.6H, m), 7.33-7.38 (5H, m)。

合成例 234

5-ブロモメチル-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニルプロ[2,3-h]イソキノリン

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニルプロ[2,3-h]イソキノリン (7.12 g, 21.2 mmol)、パラホルムアルデヒド (94%) (1.02 g, 31.8 mmol) および臭化ナトリウム (2.51 g, 24.4 mmol) の酢酸 (6.07 mL, 106 mmol) 懸濁液に濃硫酸 (3.39 mL, 63.6 mmol) を加え、90 °C で 15 時間攪拌した。反応混合物に氷水を注ぎ、ジエチルエーテルで洗浄、濃アンモニア水で中和、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナ

トリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー（ヘキサン/酢酸エチル 7:1 の後 5:1）に供し、表題化合物（4.57 g、収率 50%）を得た。

非晶質。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.28 (12H, s), 2.14 (2H, s), 2.71 (2H, s), 4.03 (3H, s), 4.65 (2H, s), 7.38 (5H, s)。

【0307】合成例 235

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-5-(メトキシメチル)-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニルプロ[2,3-h]イソキノリン塩酸塩 10
5-プロモメチル-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニルプロ[2,3-h]イソキノリン (1.84 g, 4.30 mmol) のメタノール (10 mL) 溶液に 28% ナトリウムメトキシド/メタノール溶液 (0.91 mL, 4.73 mmol) を加え、室温で 1 時間、60 °C で 1 時間攪拌した。28% ナトリウムメトキシド/メタノール溶液 (1.82 mL, 9.46 mmol) を追加し、60 °C で 1 時間攪拌した。反応混合物を減圧濃縮し、残渣に水を加えて、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー（ヘキサン/酢酸エチル 7:1）に供し、表題化合物の遊離塩基を得た。これを酢酸エチルに溶解し、4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液 (0.77 mL) を加え、得られた結晶を酢酸エチルで洗浄して表題化合物 (1.16 g、収率 65%) を得た。

融点 143-145 °C。

$^1\text{H NMR}$ ($\text{DMSO}-d_6$) δ 1.26 (6H, s), 1.44 (6H, s), 2.16 (2H, s), 3.15 (2H, s), 3.29 (3H, s), 3.99 (3H, s), 4.50 (2H, s), 7.63-7.66 (5H, m)。

合成例 236

5-(エトキシメチル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニルプロ[2,3-h]イソキノリン塩酸塩
5-プロモメチル-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニルプロ[2,3-h]イソキノリン (374 mg, 0.873 mmol) のエタノール (3 mL) 溶液に酢酸ナトリウム (143 mg, 1.75 mmol) および 2 M 水酸化ナトリウム水溶液 (2 mL) を加え、60 °C で 2 時間、続いて 80 °C で 2 時間攪拌した。反応混合物に氷水を注ぎ、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー（ヘキサン/酢酸エチル 5:1）に供し、表題化合物の遊離塩基を得た。これを酢酸エチルに溶解し、4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液を加え、減圧濃縮し、ジエチルエーテルから結晶化させて表題化合物 (191 mg、収率 51%) を得た。

融点 137-139 °C。

$^1\text{H NMR}$ ($\text{DMSO}-d_6$) δ 1.14 (3H, t, $J = 7.2$ Hz), 1.26 (6H, s), 1.44 (6H, s), 2.16 (2H, s), 3.16 (2H, s), 3.49 (2H, q, $J = 7.2$ Hz), 3.99 (3H, s), 4.54 (2H, s), 7.63-7.78 (5H, m)。

合成例 237

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニル-5-プロ[2,3-h]イソキノリンメタノール 5-プロモメチル-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニルプロ[2,3-h]イソキノリン (289 mg, 0.675 mmol) および炭酸カルシウム (506 mg, 5.06 mmol) の 1,4-ジオキサン (3 mL) および水 (3 mL) 懸濁液を 60 °C で 2 時間攪拌した。反応混合物に水を注ぎ、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー（ヘキサン/酢酸エチル 3:1）に供し、ヘキサノーゼエチルエーテルから結晶化させて表題化合物 (159 mg、収率 65%) を得た。

融点 160-163 °C。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.25 (6H, s), 1.28 (6H, s), 1.97 (1H, t, $J = 6.0$ Hz), 2.14 (2H, s), 2.75 (2H, s), 4.00 (3H, s), 4.74 (2H, d, $J = 6.0$ Hz), 7.38 (5H, s)。

【0308】合成例 238

5-(フルオロメチル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニルプロ[2,3-h]イソキノリン塩酸塩
5-プロモメチル-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニルプロ[2,3-h]イソキノリン (289 mg, 0.675 mmol) のアセトニトリル (5 mL) 溶液にフッ化カリウム (スプレードライ品) (118 mg, 2.02 mmol) および 18-クラウン-6 (534 mg, 2.02 mmol) を加え、80 °C で 7 時間攪拌した。アセトニトリルを減圧留去し、残渣に水を注ぎ、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー（ヘキサン/酢酸エチル 10:1 の後 5:1）に供し、表題化合物の遊離塩基を得た。これを酢酸エチルに溶解し、4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液を加え、ジエチルエーテルから結晶化させて表題化合物 (230 mg、収率 84%) を得た。融点 146-158 °C。

$^1\text{H NMR}$ ($\text{DMSO}-d_6$) δ 1.26 (6H, s), 1.45 (6H, s), 2.15-2.23 (2H, m), 3.22 (2H, s), 4.04 (3H, s), 5.57 (2H, d, $J = 48.0$ Hz), 7.63-7.80 (5H, m)。

合成例 239

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,5,8,8-ペンタメチル-1-フェニルプロ[2,3-h]イソキノリン塩酸塩
5-プロモメチル-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,

3,8,8-テトラメチル-1-フェニルプロ[2,3-h]イソキノリン (290 mg, 0.677 mmol) のクロロベンゼン (3 mL) 溶液に水素化トリブチルすず (0.91 mL, 4.73 mmol) および 2,2'-アゾビス(イソブチロニトリル) (11 mg, 0.067 mmol) を加え、80 °C で 2 時間攪拌した。クロロベンゼンを減圧留去し、残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 10:1) に供し、表題化合物の遊離塩基を得た。これを酢酸エチルに溶解し、4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液を加え、酢酸エチルから結晶化させて表題化合物 (63 mg、収率 24%) を得た。

融点 138-140 °C。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.24 (6H, s), 1.45 (6H, s), 2.12 (2H, s), 2.17 (3H, s), 3.08 (2H, s), 3.99 (3H, s), 7.58-7.76 (5H, m)。

合成例 240

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニル-5-フロ[2,3-h]イソキノリンアセトニトリル

5-プロモメチル-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニルプロ[2,3-h]イソキノリン (947 mg, 2.20 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (9.5 mL) 溶液にシアン化カリウム (143 mg, 2.20 mmol) 水 (2.25 mL) 溶液を加え、室温で 3 時間攪拌した。反応混合物に水を注ぎ、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液でそれぞれ 2 回洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 5:1 の後 3:1) に供し、ヘキサジエチルエーテルから結晶化させて表題化合物 (465 mg、収率 56%) を得た。

融点 95-96 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.28 (6H, s), 1.28 (6H, s), 2.15 (2H, s), 2.68 (2H, s), 3.74 (2H, s), 4.03 (3H, s), 7.38 (5H, s)。

【0309】合成例 241

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニル-5-フロ[2,3-h]イソキノリン酢酸エチルエステル塩酸塩

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニル-5-フロ[2,3-h]イソキノリンアセトニトリル (4.01 g, 10.7 mmol) のエタノール (36 mL) 溶液に氷冷下濃硫酸 (2.34 mL, 43.8 mmol) を加え、60 時間加熱還流した。反応混合物に氷水を注ぎ、濃アンモニア水で中和、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 20:1 の後 5:1) に供し、表題化合物の遊離塩基を得た。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.23 (6H, s), 1.28 (6H, s), 1.28

(3H, t, J = 7.1 Hz), 2.14 (2H, s), 2.59 (2H, s), 3.73 (2H, s), 3.92 (3H, s), 4.18 (2H, q, J = 7.1 Hz), 7.38 (5H, s)。

これを酢酸エチルに溶解し、4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液を加え、減圧濃縮し、表題化合物 (2.58 g、収率 53%) を得た。

非晶質。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.21 (3H, t, J = 7.0 Hz), 1.26 (6H, s), 1.42 (6H, s), 2.17 (2H, s), 3.08 (2H, s), 3.78 (2H, s), 3.96 (3H, s), 4.91 (2H, q, J = 7.0 Hz), 7.63-7.80 (5H, m)。

合成例 242

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニル-5-フロ[2,3-h]イソキノリン酢酸

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニル-5-フロ[2,3-h]イソキノリン酢酸エチルエステル (750 mg, 1.78 mmol) のエタノール (5 mL) 溶液に 5 M 水酸化ナトリウム水溶液 (2 mL) を加え、室温で 5 時間攪拌した。エタノールを減圧留去し、残渣に水を注ぎ、ジイソプロピルエーテルで洗浄した。水層を 2 M 塩酸で pH 3.5 とし、塩化ナトリウムを加え、テトラヒドロフランで 3 回抽出した。合わせた有機層を硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮し、ヘキサジエチルエーテルから結晶化させて表題化合物 (176 mg、収率 25%) を得た。

融点 225-245 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.25 (6H, s), 1.27 (6H, s), 2.13 (2H, s), 2.61 (2H, s), 3.74 (2H, s), 3.94 (3H, s), 7.38 (5H, s)。

合成例 243

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニル-5-フロ[2,3-h]イソキノリンアセトアミド

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニル-5-フロ[2,3-h]イソキノリン酢酸 (499 mg, 1.27 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (5 mL) 溶液に N,N'-カルボニルジイミダゾール (226 mg, 1.40 mmol) を加え、室温で 10 分間攪拌した。粉末化した塩化アンモニウム (75 mg, 1.40 mmol) およびトリエチルアミン (0.20 mL, 1.40 mmol) を加え、室温で 1 時間、60 °C で 4 時間攪拌した。反応混合物に氷水を注ぎ、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液 (2 回) で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。得られた結晶をジエチルエーテルで洗浄して表題化合物 (358 mg、収率 72%) を得た。

融点 171-176 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.27 (6H, s), 1.29 (6H, s), 2.15 (2H, s), 2.74 (2H, s), 3.65 (2H, s), 4.00 (3H, s), 5.22 (1H, br s), 5.80 (1H, br s), 7.40 (5H, s)。

【0310】合成例244

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-N,3,3,8,8-ペンタメチル-1-フェニル-5-フロ[2,3-h]イソキノリンアセトアミド

合成例243と同様の方法によりメチルアミン塩酸塩を用いて表題化合物を得た。収率 73%。

融点 187-190 °C (ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.23 (6H, s), 1.30 (6H, s), 2.15 (2H, s), 2.69 (2H, s), 2.76 (3H, d, J = 5.2 Hz), 3.63 (2H, s), 3.96 (3H, s), 5.63-5.75 (1H, brs), 7.3 10 8 (5H, s)。

合成例245

2-[(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-ヒドロキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニルフロ[2,3-h]イソキノリン-5-イル)メチル]-1H-イソインドール-1,3(2H)-ジオン

合成例229と同様の方法により3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニル-6-フロ[2,3-h]イソキノリノールから表題化合物を得た。収率 16%。融点 239-242 °C (ジエチルエーテル-ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.28 (12H, s), 2.15 (2H, s), 2.98 20 (2H, s), 4.94 (2H, s), 7.35 (5H, s), 7.73-7.77 (2H, m), 7.86-7.91 (2H, m), 8.08 (1H, br s)。

合成例246

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-ヒドロキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニル-5-フロ[2,3-h]イソキノリンメタノール

クロロメチルメチルエーテル (0.052 mL, 0.684 mmol) および塩化アルミニウム (91 mg, 0.684 mmol) の 1,2-ジクロロエタン (2 mL) 溶液に氷冷下 3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニル-6-フロ[2,3-h]イソキノリノール (200 mg, 0.622 mmol) を加え、室温で 5 時間攪拌した。反応混合物を氷水に注ぎ、ジエチルエーテルで洗浄、5 M 水酸化ナトリウム水溶液で中和、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル/トリエチルアミン 25:25:1 の後酢酸エチル/トリエチルアミン 5 0:1) に供し、ヘキサン-酢酸エチルから結晶化させて表題化合物 (31 mg、収率 14%) を得た。

融点 210-230 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.28 (6H, s), 1.32 (6H, s), 2.13 (2H, s), 2.77 (2H, s), 4.84 (2H, s), 7.34-7.44 (5H, m)。

【0311】合成例247

1-(2-ブロモフェニル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン塩酸塩

2-ブロモベンゾニトリル (3.92 g, 21.5 mmol) のトルエン (12 mL) および酢酸 (12 mL) 溶液に氷冷下濃硫酸 50

(2.52 mL, 47.3 mmol)、次いで2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-(2-メチル-1-プロペニル)ベンゾフラン (5.00 g, 21.5 mmol) のトルエン (12 mL) 溶液を加え、80 °Cで 1 時間攪拌した。反応混合物に氷水を注ぎ、水層を分離、濃アンモニア水で中和、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 20:1 の後 10:1) に供し、表題化合物の遊離塩基を得た。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.23 (3H, s), 1.29 (3H, s), 1.33 (3H, s), 1.38 (3H, s), 2.00 (1H, d, J = 16.1 Hz), 2.17 (1H, d, J = 16.1 Hz), 2.68 (1H, d, J = 15.7 Hz), 2.80 (1H, d, J = 15.7 Hz), 3.91 (3H, s), 6.60 (1H, s), 7.17-7.42 (3H, m), 7.56 (1H, d, J = 8.0 Hz)。

これを酢酸エチルに溶解し、4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液を加え、減圧濃縮して表題化合物 (3.27 g、収率 3 4%) を得た。

非晶質。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.21 (3H, s), 1.24 (3H, s), 1.4 7 (3H, s), 1.50 (3H, s), 1.99 (1H, d, J = 16.4 Hz), 2.12 (1H, d, J = 16.4 Hz), 3.11 (1H, d, J = 17. 2 Hz), 3.29 (1H, d, J = 17.2 Hz), 3.95 (3H, s), 7. 14 (1H, s), 7.56-7.68 (3H, m), 7.89-7.93 (1H, m)。

合成例248

1-[3-(2-フランイル)フェニル]-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン

1-(3-ブロモフェニル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン (62 2 mg, 1.50 mmol)、およびトリブチル-2-フランイルすず (590 mg, 1.65 mmol) のテトラヒドロフラン (6 mL) 懸濁液にジクロロビス(トリフェニルホスフィン)パラジウム(II) (53 mg, 0.0750 mmol) およびヨウ化銅(I) (14 mg, 0.0750 mmol) を加え、24 時間加熱還流し、トリブチル-2-フランイルすず (590 mg, 1.65 mmol) を加え、15 時間加熱還流した。不溶物をろ過、ろ液を減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 100:1 の後 10:1) に供し、ジエチルエーテル-ヘキサンから結晶化させて表題化合物 (114 mg、収率 19%) を得た。

融点 126-128 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.27 (6H, s), 1.30 (6H, s), 2.27 (2H, s), 2.71 (2H, s), 3.93 (3H, s), 6.46-6.49 (1H, m), 6.63 (1H, s), 6.68 (1H, d, J = 3.4 Hz), 7.31- 7.47 (3H, m), 7.69-7.74 (2H, m)。

【0312】合成例249

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-[4-(2-ピリジニル)フェニル]フロ[2,3-h]イソキノ

リン

合成例 248 と同様の方法により 1-(4-ブロモフェニル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリンおよびトリブチル-2-ピリジニルすずから表題化合物を得た。収率 50%。

融点 127-129 °C (ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.26 (6H, s), 1.30 (6H, s), 2.32 (2H, s), 2.70 (2H, s), 3.93 (3H, s), 6.62 (1H, s), 7.22-7.30 (1H, m), 7.52 (2H, d, J = 8.4 Hz), 7.76-7.79 (2H, m), 8.04 (2H, d, J = 8.4 Hz), 8.72 (1H, d, J = 4.8 Hz)。

合成例 250

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-[2-(2-ピリジニル)フェニル]フロ[2,3-h]イソキノリン

合成例 248 と同様の方法により 1-(2-ブロモフェニル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリンおよびトリブチル-2-ピリジニルすずから表題化合物を得た。収率 9.5%。

融点 120-122 °C (ヘキサソルジエチルエーテル)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.13 (3H, s), 1.17 (3H, s), 1.25 (3H, s), 1.28 (3H, s), 1.98 (1H, d, J = 16.2 Hz), 2.42 (1H, d, J = 16.2 Hz), 2.64 (2H, s), 3.85 (3H, s), 6.45 (1H, s), 6.99-7.06 (1H, m), 7.35-7.50 (5H, m), 7.65-7.70 (1H, m), 8.41-8.44 (1H, m)。

合成例 251

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-[3-(2-ピリジニル)フェニル]フロ[2,3-h]イソキノリン

合成例 248 と同様の方法によりトリブチル-2-ピリジニルすずを用いて表題化合物を得た。収率 60%。

融点 137-139 °C (ジエチルエーテル-ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.28 (12H, s), 2.28 (2H, s), 2.71 (2H, s), 3.93 (3H, s), 6.63 (1H, s), 7.20-7.25 (1H, m), 7.42-7.55 (2H, m), 7.74-7.77 (2H, m), 8.03-8.07 (2H, m), 8.69 (1H, d, J = 5.0 Hz)。

合成例 252

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-[3-(2-チエニル)フェニル]フロ[2,3-h]イソキノリン

合成例 248 と同様の方法によりトリブチル-2-チエニルすずを用いて表題化合物を得た。収率 37%。

融点 172-175 °C (ジエチルエーテル-ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.28 (6H, s), 1.31 (6H, s), 2.28 (2H, s), 2.72 (2H, s), 3.94 (3H, s), 6.63 (1H, s), 7.06-7.10 (1H, m), 7.29-7.44 (4H, m), 7.62-7.69 (2H, m)。

【0313】合成例 253

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-[3-(5-ピリミジニル)フェニル]フロ[2,3-h]イソキノ

ノリン

ナフタレン (2.20 g, 17.1 mmol) の 1,2-ジメトキシエタン (20 mL) 溶液にナトリウム (431 mg, 18.8 mmol) を加え、室温で 1.5 時間攪拌した。氷冷下クロロトリメチルすず (2.91 g, 14.6 mmol)、その 10 分後に 5-ブロモピリミジン (2.0 g, 12.6 mmol) を加え、室温で 2 時間攪拌した。1,2-ジメトキシエタンを減圧留去し、残渣に水を注ぎ、ジエチルエーテルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水で 2 回および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮し、トリメチル-5-ピリミジニルすず、ナフタレンおよび 5-ブロモピリミジンの混合物を得た。

これを用いて合成例 248 と同様の方法により、表題化合物を得た。収率 32%。融点 141-143 °C (ジエチルエーテル-ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.28 (6H, s), 1.31 (6H, s), 2.25 (2H, s), 2.73 (2H, s), 3.94 (3H, s), 6.64 (1H, s), 7.46-7.67 (4H, m), 8.99 (2H, s), 9.22 (1H, s)。

合成例 254

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-[2-(4-ピリジニル)フェニル]フロ[2,3-h]イソキノリン

1-(2-ブロモフェニル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン (558 mg, 1.35 mmol) および 4-ピリジニルボロン酸 (248 mg, 2.02 mmol) の 1,2-ジメトキシエタン (6 mL) およびエタノール (2 mL) 溶液に炭酸ナトリウム (236 mg, 2.23 mmol) 水 (2 mL) 溶液およびテトラキス(トリフェニルホスフィン)パラジウム(0) (66 mg, 0.0567 mmol) を加え、窒素雰囲気下、80 °C で 24 時間攪拌した。反応混合物に水を注ぎ、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 20:1 の後 3:1) に供し、ジエチルエーテル-ヘキサンから結晶化させて表題化合物 (200 mg、収率 36%) を得た。

融点 187-189 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.09 (3H, s), 1.25 (3H, s), 1.28 (6H, s), 1.94 (1H, d, J = 16.3 Hz), 2.13 (1H, d, J = 16.3 Hz), 2.60 (2H, s), 3.84 (3H, s), 6.44 (1H, s), 7.24 (2H, d, J = 6.2 Hz), 7.36-7.52 (4H, m), 8.44 (2H, d, J = 6.2 Hz)。

合成例 255

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-[4-(4-ピリジニル)フェニル]フロ[2,3-h]イソキノリン二塩酸塩

合成例 254 と同様の方法により 1-(4-ブロモフェニル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリンから表題化合物の遊離塩

10

20

30

40

50

基を得た。これを酢酸エチルに溶解し、4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液を加え、減圧濃縮し、エタノール-酢酸エチルから結晶化させて表題化合物を得た。収率 51%。融点 115-117 °C。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.23 (6H, s), 1.48 (6H, s), 2.70 (2H, s), 3.19 (2H, s), 3.96 (3H, s), 7.13 (1H, s), 7.86 (2H, d, J = 8.4 Hz), 8.27 (2H, d, J = 8.4 Hz), 8.35 (2H, d, J = 6.6 Hz), 8.96 (2H, d, J = 6.6 Hz)。

【0314】合成例 256

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-[3-(3-ピリジニル)フェニル]フロ[2,3-h]イソキノリン

合成例 254 と同様の方法により 1-(3-ブロモフェニル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリンおよび 3-(ジエチルボリル)ピリジンから表題化合物を得た。収率 70%。

融点 116-117 °C (ヘキサン-ジエチルエーテル)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.27 (6H, s), 1.30 (6H, s), 2.25 (2H, s), 2.72 (2H, s), 3.93 (3H, s), 6.63 (1H, s), 7.33-7.63 (5H, m), 7.85-7.93 (1H, m), 8.58-8.61 (1H, m), 8.87 (1H, d, J = 2.6 Hz)。

合成例 257

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-[4-(3-ピリジニル)フェニル]フロ[2,3-h]イソキノリン二塩酸塩

合成例 254 と同様の方法により 1-(4-ブロモフェニル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリンおよび 3-(ジエチルボリル)ピリジンから表題化合物の遊離塩基を得た。これを酢酸エチルに溶解し、4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液を加え、減圧濃縮し、表題化合物を得た。収率 84%。

非晶質。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.22 (6H, s), 1.48 (6H, s), 2.29 (2H, s), 3.19 (2H, s), 3.95 (3H, s), 7.13 (1H, s), 7.82 (2H, d, J = 8.4 Hz), 7.92-7.99 (1H, m), 8.16 (2H, d, J = 8.4 Hz), 8.74 (1H, d, J = 7.8 Hz), 8.87 (1H, d, J = 5.0 Hz), 9.31 (1H, s)。

合成例 258

1-[3-(2-ベンゾフラニル)フェニル]-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン

合成例 254 と同様の方法により 1-(3-ブロモフェニル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリンおよび 2-ベンゾフラニルボロン酸から表題化合物を得た。収率 74%。

融点 160-161 °C (ヘキサン-ジエチルエーテル)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.29 (12H, s), 2.29 (2H, s), 2.32 (2H, s), 3.94 (3H, s), 6.65 (1H, s), 7.07 (1H, s), 7.23-7.33 (2H, m), 7.37-7.61 (4H, m), 7.88-7.9

3 (2H, m)。

【0315】合成例 259

3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-アミン

合成例 254 と同様の方法により 1-(3-ブロモフェニル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリンおよび 4-(1,3,2-ジオキサボリナン-2-イル)アニリンから表題化合物を得た。収率 49%。

融点 224-225 °C (酢酸エチル)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.26 (6H, s), 1.29 (6H, s), 2.26 (2H, s), 2.70 (2H, s), 3.72 (2H, br s), 3.93 (3H, s), 6.62 (1H, s), 6.74 (2H, d, J = 8.8 Hz), 7.30-7.57 (4H, m), 7.43 (2H, d, J = 8.8 Hz)。

合成例 260

N-[3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-イル]アセトアミド

合成例 30 と同様の方法により 3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-アミンから表題化合物を得た。収率 82%。

融点 224-225 °C (ジエチルエーテル-ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.27 (6H, s), 1.29 (6H, s), 2.18 (3H, s), 2.25 (2H, s), 2.71 (2H, s), 3.93 (3H, s), 6.62 (1H, s), 7.32-7.60 (9H, m)。

合成例 261

N-[3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-イル]メタンスルホンアミド

合成例 222 と同様の方法により 3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-アミンおよび メタンスルホンクロリドから表題化合物を得た。収率 81%。

融点 228-230 °C (ジエチルエーテル-ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.30 (12H, s), 2.25 (2H, s), 2.73 (2H, s), 2.89 (3H, s), 3.93 (3H, s), 6.63 (1H, s), 7.22-7.57 (8H, m)。

合成例 262

3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-3-アミン二塩酸塩

合成例 254 と同様の方法により 1-(3-ブロモフェニル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリンおよび 3-アミノフェニルボロン酸水和物から表題化合物の遊離塩基を得た。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.26 (6H, s), 1.30 (6H, s), 2.25 (2H, s), 2.71 (2H, s), 3.72 (2H, br s), 3.93 (3H,

s), 6.62 (1H, s), 6.62-6.70 (1H, m), 6.92 (1H, t, J = 1.8 Hz), 6.96-7.03 (1H, m), 7.20 (1H, t, J = 7.8 Hz), 7.32-7.48 (2H, m), 7.54-7.62 (2H, m)。

これを酢酸エチルに溶解し、4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液を加え、減圧濃縮し、表題化合物を得た。収率 86 %。

非晶質。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.21 (3H, s), 1.25 (3H, s), 1.45 (3H, s), 1.50 (3H, s), 2.17-2.35 (2H, m), 3.08-3.30 (2H, m), 3.95 (3H, s), 7.12 (1H, s), 7.25-7.80 (8H, m)。

【0316】合成例 263

N-[3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-3-イル]アセトアミド

合成例 30 と同様の方法により 3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-3-アミンから表題化合物を得た。収率 64%。

融点 217-218 °C (エタノール)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.26 (6H, s), 1.30 (6H, s), 2.17 (3H, s), 2.25 (2H, s), 2.70 (2H, s), 3.93 (3H, s), 6.62 (1H, s), 7.32-7.66 (9H, m)。

(別途合成法) 合成例 254 と同様の方法により 1-(3-ブロモフェニル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリンおよび 3-アセトアミドベンゼンボロン酸から表題化合物を得た。収率 87%。

合成例 264

2-メチル-N-[3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-3-イル]アラニン エチルエステル塩酸塩

合成例 209 と同様の方法により 3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-3-アミンおよび 2-ブロモイソ酪酸エチルから表題化合物の遊離塩基を得た。これを酢酸エチルに溶解し、4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液を加え、減圧濃縮し、表題化合物を得た。収率 62%。

非晶質。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.07 (3H, t, J = 7.0 Hz), 1.21 (6H, s), 1.48 (12H, s), 2.15-2.32 (2H, m), 3.19 (2H, s), 3.96 (3H, s), 4.07 (2H, q, J = 7.2 Hz), 6.50-7.92 (9H, m), 12.68 (1H, br s)。

合成例 265

N-[3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-3-イル]尿素塩酸塩

合成例 227 と同様の方法により 3'-(3,4,8,9-テトラヒ

ドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-3-アミンから表題化合物の遊離塩基を得た。これを酢酸エチルに溶解し、4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液を加え、減圧濃縮し、表題化合物を得た。収率 76%。

非晶質。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.21 (6H, s), 1.47 (6H, s), 2.27 (2H, s), 3.19 (2H, s), 3.95 (3H, s), 6.00 (2H, br s), 7.12 (1H, s), 7.31-7.98 (8H, m), 8.92 (1H, s), 12.63 (1H, br s)。

【0317】合成例 266

2,2,2-トリフルオロ-N-[3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-3-イル]アセトアミド

合成例 222 と同様の方法により 3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-3-アミンおよび トリフルオロ酢酸無水物から表題化合物を得た。収率 58%。

20 融点 222-224 °C (ジエチルエーテル)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.26 (6H, s), 1.29 (6H, s), 2.23 (2H, s), 2.68 (2H, s), 3.93 (3H, s), 6.62 (1H, s), 7.34-7.69 (8H, m), 8.67 (1H, br s)。

合成例 267

N-[3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-3-イル]メタンスルホンアミド

合成例 222 と同様の方法により 3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-3-アミンおよび メタンスルホンクロリドから表題化合物を得た。収率 54%。

融点 141-143 °C (ジエチルエーテル-酢酸エチル)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.30 (12H, s), 2.24 (2H, s), 2.73 (2H, s), 2.98 (3H, s), 3.94 (3H, s), 6.64 (1H, s), 7.36-7.66 (8H, m)。

合成例 268

N-メチル-N-[3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-3-イル]メタンスルホンアミド塩酸塩

40 合成例 190 と同様の方法により N-[3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-3-イル]メタンスルホンアミドおよび ヨードメタンから表題化合物の遊離塩基を得た。これを酢酸エチルに溶解し、4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液を加え、減圧濃縮し、表題化合物を得た。収率 85%。

非晶質。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.21 (3H, s), 1.25 (3H, s), 1.4

5 (3H, s), 1.51 (3H, s), 2.18-2.37 (2H, m), 2.89 (3H, s), 3.07-3.29 (2H, m), 3.32 (3H, s), 3.95 (3H, s), 7.12 (1H, s), 7.48-7.62 (3H, m), 7.74-7.83 (3H, m), 8.00 (1H, s), 8.08 (1H, d, J = 7.8 Hz)。

合成例 269

α, α -ジメチル-4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼンアセトニトリル

4-シアノベンゼンアセトニトリル (7.70 g, 54.2 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (68 mL) 溶液に氷冷下水素化ナトリウム (66% 油分散物) (4.33 g, 119mmol) を加え、室温で 15 分間攪拌した。氷冷下ヨードメタン (7.43 mL, 119 mmol) を加え、室温で 2 時間攪拌した。反応混合物を氷水に注ぎ、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水 (2 回) および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸マグネシウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 5:1) に供し、得られた結晶をヘキサンで洗浄して 4-シアノ- α, α -ジメチルベンゼンアセトニトリル (4.76 g、収率 52%) を得た。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.75 (6H, s), 7.61 (2H, d, J = 8.6 Hz), 7.71 (2H, d, J = 8.6 Hz)。

これを用いて合成例 17 と同様の方法により表題化合物を得た。収率 7.8%。

融点 122-123 °C (ジイソプロピルエーテル-ヘキサン)。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.25 (6H, s), 1.33 (6H, s), 1.74 (6H, s), 2.22 (2H, s), 2.69 (2H, s), 3.93 (3H, s), 6.62 (1H, s), 7.43 (2H, d, J = 8.8 Hz), 7.50 (2H, d, J = 8.8 Hz)。

【0318】合成例 270

α, α -ジメチル-4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼンアセトアミド

合成例 269 において、カラムクロマトグラフィーでニトリル体を分離後、酢酸エチルで溶出し、得られた結晶をジイソプロピルエーテルで洗浄して表題化合物を得た。収率 9.6%。

融点 180-182 °C。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.25 (6H, s), 1.31 (6H, s), 1.62 (6H, s), 2.21 (2H, s), 2.69 (2H, s), 3.93 (3H, s), 5.17 (2H, br s), 6.62 (1H, s), 7.42 (4H, s)。

合成例 271

α, α -ジメチル-4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼン酢酸 エチルエステル

合成例 241 と同様の方法により α, α -ジメチル-4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼンアセトニトリルから表題化合物を得た。収率 43%。

融点 150-151 °C (ヘキサン)。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.16 (3H, t, J = 7.0 Hz), 1.24 (6H, s), 1.30 (6H, s), 1.57 (6H, s), 2.19 (2H, s), 2.68 (2H, s), 3.92 (3H, s), 4.10 (2H, q, J = 7.0 Hz), 6.60 (1H, s), 7.34 (4H, s)。

合成例 272

N, α, α -トリメチル-4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼンアセトアミド

10 合成例 190 と同様の方法により α, α -ジメチル-4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼンアセトアミドおよびヨードメタンから表題化合物を得た。収率 31%。

融点 160-162 °C (ヘキサン-ジエチルエーテル)。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.25 (6H, s), 1.31 (6H, s), 1.60 (6H, s), 2.20 (2H, s), 2.69 (3H, d, J = 4.6 Hz), 2.69 (2H, s), 3.93 (3H, s), 5.10 (1H, br s), 6.62 (1H, s), 7.39 (4H, s)。

20 合成例 273

N-[2-メチル-2-[4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]プロパノイル]グリシン エチルエステル α, α -ジメチル-4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼンアセトアミド (782 mg, 1.85 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (7 mL) 溶液にプロモ酢酸エチル (0.23 mL, 2.04 mmol) およびカリウム tert-ブトキシド (230 mg, 2.04 mmol) を加え、室温で 2 時間攪拌した。

30 反応混合物に水を注ぎ、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水で 2 回および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 3:1 の後酢酸エチル) に供し、得られた結晶をジエチルエーテル-ヘキサンで洗浄して表題化合物 (63 mg、収率 6.7%) を得た。

融点 133-138 °C。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.24 (6H, s), 1.26 (3H, t, J = 7.1 Hz), 1.32 (6H, s), 1.61 (6H, s), 2.25 (2H, s), 2.68 (2H, s), 3.92 (3H, s), 3.93 (2H, d, J = 5.2 Hz), 4.15 (2H, q, J = 7.1 Hz), 5.67 (1H, br s), 6.61 (1H, s), 7.42 (4H, s)。

【0319】合成例 274

α, α -ジメチル-3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼン酢酸 エチルエステル塩酸塩

合成例 17 と同様の方法により 3-シアノ- α, α -ジメチルベンゼン酢酸 エチルエステルから表題化合物の遊離塩基を得た。

50 $^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.16 (3H, t, J = 7.0 Hz), 1.25 (6

H, br s), 1.30 (6H, s), 1.55 (6H, s), 2.15 (2H, s), 2.70 (2H, s), 3.92 (3H, s), 4.10 (2H, q, J = 7.0 Hz), 6.61 (1H, s), 7.22-7.38 (4H, m)。

これを酢酸エチルに溶解し、4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液を加え、減圧濃縮し、酢酸エチルから結晶化させて表題化合物を得た。収率 12%。

融点 143-145 °C。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.10 (3H, t, J = 7.0 Hz), 1.21 (6H, s), 1.41 (3H, s), 1.45 (3H, s), 1.53 (6H, s), 2.10 (2H, s), 3.14 (2H, s), 3.94 (3H, s), 4.08 (2H, q, J = 7.0 Hz), 7.09 (1H, s), 7.48-7.65 (4H, m)。

合成例 275

α, α-ジメチル-3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼン酢酸 ナトリウム塩

α, α-ジメチル-3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼン酢酸 エチルエステル (370 mg, 0.823mmol)

および α, α-ジメチル-3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼン酢酸 エチルエステル塩酸塩 (1.54 g, 3.17 mmol) のエタノール (8 mL) 溶液に 5 M 水酸化ナトリウム水溶液 (4 mL) を加え、70 °C で 7 時間攪拌した。エタノールを減圧留去後、残渣に水-ジエチルエーテルを加え、析出した結晶をろ取して表題化合物 (423 mg, 収率 24%) を得た。

融点 153-155 °C。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.13 (6H, s), 1.20 (6H, s), 1.34 (6H, s), 2.22 (2H, s), 2.62 (2H, s), 3.80 (3H, s), 6.78 (1H, s), 7.12-7.41 (4H, m)。

合成例 276

α, α-ジメチル-3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼン酢酸

合成例 275 でナトリウム塩をろ過した後の母液を減圧濃縮した。残渣に水を加え、2 M 塩酸で pH 5.5 に調整し、テトラヒドロフランで 2 回抽出した。合わせた有機層を硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮して表題化合物を得た。収率 49%。

非晶質。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.27 (6H, s), 1.32 (6H, br s), 1.47 (6H, s), 2.08 (2H, s), 2.74 (2H, br s), 3.92 (3H, s), 6.60 (1H, s), 7.12-7.37 (4H, m)。

【0320】合成例 277

N, α, α-トリメチル-3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼンアセトアミド塩酸塩

合成例 206 と同様の方法により α, α-ジメチル-3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼン酢酸から表題化合物を得た。収率 55%。

非晶質。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.22-1.50 (18H, m), 2.02-2.24 (2H, m), 2.55 (3H, d, J = 4.4 Hz), 2.97-3.40 (2H, m), 3.94 (3H, s), 7.09 (1H, s), 7.45-7.69 (4H, m), 8.06 (1H, br s)。

合成例 278

α, α-ジメチル-N-(4-ピリジニルメチル)-3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼンアセトアミド二塩酸塩

合成例 206 と同様の方法により α, α-ジメチル-3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼン酢酸および 4-(アミノメチル)ピリジンから表題化合物を得た。収率 49%。

非晶質。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.17 (6H, s), 1.45 (6H, s), 1.60 (6H, s), 2.05-2.25 (2H, m), 3.05-3.30 (2H, m), 3.95 (3H, s), 4.33-4.50 (2H, m), 7.10 (1H, s), 7.49-7.69 (7H, m), 8.48-8.58 (1H, m), 8.68-8.71 (2H, m), 9.05 (1H, brs)。

合成例 279

1-[4-(ブロモメチル)フェニル]-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン

合成例 17 と同様の方法により 4-シアノベンジルブロミドを用いて表題化合物を得た。収率 27%。

非晶質。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.24 (6H, s), 1.32 (6H, s), 2.21 (2H, s), 2.68 (2H, s), 3.92 (3H, s), 4.53 (2H, s), 6.60 (1H, s), 7.34-7.42 (4H, m)。

【0321】合成例 280

4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼンアセトニトリル

合成例 240 と同様の方法により 1-[4-(ブロモメチル)フェニル]-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリンから表題化合物を得た。収率 13%。

融点 182-184 °C (ヘキサン-ジエチルエーテル)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.24 (6H, s), 1.33 (6H, s), 2.21 (2H, s), 2.69 (2H, s), 3.80 (2H, s), 3.93 (3H, s), 6.62 (1H, s), 7.36 (2H, d, J = 8.3 Hz), 8.44 (2H, d, J = 8.3 Hz)。

合成例 281

4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼン酢酸エチルエステル塩酸塩

4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼンアセトニトリル (671 mg, 1.79 mmol) のエタノール (7mL) 溶液に氷冷下濃硫酸 (0.18 mL, 3.58 mmol) を加え、24 時間加熱還流した。反応混合物に氷水を注ぎ、ジイソプロピルエーテルで洗浄、水層を濃アンモニア水で中和、酢酸エチルで2回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 10:1 の後5:1)、さらにシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 3:1) に供し、表題化合物の遊離塩基を得た。これを酢酸エチルに溶解し、4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液を加え、減圧濃縮し、酢酸エチル-エタノールから結晶化させて表題化合物 (406 mg、収率 50%) を得た。

融点 104-106 °C。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.19 (3H, t, J = 7.2 Hz), 1.22 (6H, s), 1.44 (6H, s), 2.20 (2H, s), 3.16 (2H, s), 3.86 (2H, s), 3.94 (3H, s), 4.10 (2H, q, J = 7.2 Hz), 7.10 (1H, s), 7.52-7.62 (4H, m), 12.60 (1H, br s)。

合成例 282

2-[[[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]アミノ]メチレン]-1,3-プロパン二酸 ジエチルエステル 3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼンアミン (1.76 g, 5.03 mmol) のトルエン (3.5 mL) 溶液に 2-(クロロメチレン)マロン酸 ジエチルエステル (1.0 g, 4.84 mmol) およびトリエチルアミン (0.72 mL, 5.18 mmol) を加え、85 °C で 3 時間攪拌した。反応混合物に水を注ぎ、酢酸エチルで2回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 10:1 の後 5:1) に供し、ジエチルエーテル-ヘキサンから結晶化させて表題化合物 (905 mg、収率 36%) を得た。

融点 115-117 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.33 (12H, s), 1.33 (3H, t, J = 7.2 Hz), 1.38 (3H, t, J = 7.2 Hz), 2.24 (2H, s), 2.70 (2H, s), 3.93 (3H, s), 4.25 (2H, q, J = 7.2 Hz), 4.31 (2H, q, J = 7.2 Hz), 6.62 (1H, s), 7.10-7.41 (4H, m), 8.57 (1H, d, J = 13.7 Hz), 11.09 (1H, d, J = 13.7 Hz)。

【0322】合成例 283

N-エチル-3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼンアミン

3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼンアミン (1.21 g, 3.45 mmol) および (Z)-3-ヨード-2-プロペンアミド (654 mg, 3.32 mmol) のトルエン (2.5 mL) 溶液にトリエチルアミン (0.50 mL, 3.55 mmol) を加え、60 °C で 2 時間、80 °C で 6 時間攪拌した。反応混合物を 2 M 塩酸で抽出し、水層を濃アンモニア水で中和、酢酸エチルで2回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 5:1 の後 3:1) に供し、ヘキサンから結晶化させて表題化合物 (178 mg、収率 14%) を得た。

融点 109-111 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.23 (6H, s), 1.24 (3H, t, J = 7.2 Hz), 1.32 (6H, s), 2.35 (2H, s), 2.67 (2H, s), 3.16 (2H, q, J = 7.2 Hz), 3.66 (1H, br s), 3.91 (3H, s), 6.59 (1H, s), 6.63-6.69 (3H, m), 7.11-7.19 (1H, m)。

合成例 284

N-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]-3-ピリジンアミン

3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼンアミン (1.23 g, 3.46 mmol)、3-プロモピリジン (0.32 mL, 3.43 mmol)、ナトリウム tert-ブトキシド (411 mg, 4.81 mmol)、および2,2'-ビス(ジフェニルホスフィノ)-1,1'-ビナフチル (98 mg, 0.141 mmol) のトルエン (30.5 mL) 懸濁液にトリス(ジベンジリデンアセトン)ジバライウム(0) (65 mg, 0.0707 mmol) を加え、110 °C で 24 時間攪拌した。反応混合物に水を注ぎ、酢酸エチルで2回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸マグネシウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 3:1 の後1:1) に供し、ヘキサン-ジエチルエーテルから結晶化させて表題化合物 (796 mg、収率 54%) を得た。

融点 204-205 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.24 (6H, s), 1.34 (6H, s), 2.34 (2H, s), 2.69 (2H, s), 3.92 (3H, s), 5.79 (1H, s), 6.61 (1H, s), 6.97 (1H, d, J = 7.6 Hz), 7.11-7.43 (5H, m), 8.11 (1H, dd, J = 4.8, 1.4 Hz), 8.40 (1H, d, J = 2.8 Hz)。

【0323】合成例 285

N-(3-ピリジニル)-N-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]アセトアミド

N-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]-3

-ピリジニアミン (513 mg, 1.20 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (5 mL) 溶液に氷冷下水素化ナトリウム (66% 油分散物) (57 mg, 1.57 mmol) を加え、減圧下室温で 20 分間攪拌し、氷冷下アセチルクロリド (0.11 mL, 1.50 mmol) を加え、室温で 15 時間攪拌した。反応混合物に氷水を注ぎ、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水 (2 回) および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 1:1 の後 1:2) に供し、原料と表題化合物の混合物を得た。これを再度、同様の反応、後処理を行い、シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 3:1) に供し、ジエチルエーテルから結晶化させて表題化合物 (176 mg、収率 31%) を得た。

融点 157-158 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.23 (6H, s), 1.24 (6H, s), 2.09 (5H, s), 2.68 (2H, s), 3.91 (3H, s), 7.09 (1H, s), 7.25-7.67 (6H, m), 8.45-8.53 (2H, m)。

合成例 286

N-メチル-N-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]-3-ピリジニアミン三塩酸塩

合成例 285 と同様の方法によりヨードメタンを用いて表題化合物の遊離塩基を得た。これを酢酸エチルに溶解し、4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液を加え、減圧濃縮して表題化合物を得た。収率 74%。

非晶質。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.21 (6H, s), 1.46 (6H, s), 2.30 (2H, s), 3.16 (2H, s), 3.43 (3H, s), 3.94 (3H, s), 7.10 (1H, s), 7.45-7.86 (6H, m), 8.27-8.29 (2H, m)。

合成例 287

3-ピリジニル[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]カルバミド酸 エチルエステル二塩酸塩

合成例 190 と同様の方法により N-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]-3-ピリジニアミンおよびクロロギ酸エチルから表題化合物の遊離塩基を得た。これを酢酸エチルに溶解し、4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液を加え、減圧濃縮して表題化合物を得た。収率 29%。

非晶質。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.15 (3H, t, J = 7.0 Hz), 1.19 (6H, s), 1.41 (3H, s), 1.48 (3H, s), 1.98-2.28 (2H, m), 3.00-3.30 (2H, m), 3.93 (3H, s), 4.15 (2H, q, J = 7.0 Hz), 7.09 (1H, s), 7.53-7.74 (5H, m), 7.95 (1H, d, J = 8.0 Hz), 8.52 (1H, d, J = 3.6 Hz), 8.67 (1H, d, J = 2.2 Hz), 12.79 (1H, br s)。

【0324】合成例 288

N-(3-ピリジニル)-N-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]尿素

N-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]-3-ピリジニアミン (336 mg, 0.786 mmol) のテトラヒドロフラン (3 mL) 溶液にイソシアン酸クロロスルホニル (0.075 mL, 0.865 mmol) を加え、室温で 6 時間攪拌した。反応液に酢酸 (1 mL) および水 (0.5 mL) を加え、室温でさらに 3 時間攪拌した。反応混合物を 5 M 水酸化ナトリウム水溶液で中和、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 1:2 の後酢酸エチル) に供し、ヘキサン-酢酸エチルから結晶化させて表題化合物 (177 mg、収率 48%) を得た。

融点 168-169 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.24 (6H, br s), 1.26 (6H, s), 2.14 (2H, s), 2.69 (2H, s), 3.91 (3H, s), 4.74 (2H, br s), 6.60 (1H, s), 7.24-7.31 (2H, m), 7.39-7.53 (3H, m), 7.70-7.78 (1H, m), 8.40 (1H, dd, J = 4.6, 1.3 Hz), 8.49 (1H, d, J = 2.0 Hz)。

合成例 289

N-フェニル-3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼンアミン

1-(3-プロモフェニル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン (517 mg, 1.25 mmol) およびアニリン (0.04 mL, 1.50 mmol) のトルエン (2.5 mL) 溶液に炭酸カルシウム (570 mg, 1.75 mmol)、酢酸パラジウム(II) (8.4 mg, 0.0375 mmol) および 2,2'-ビス(ジフェニルホスフィノ)-1,1'-ビナフチル (35 mg, 0.0563 mmol) を加え、100 °C で 24 時間攪拌した。反応混合物に氷水を注ぎ、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 10:1 の後 3:1) に供し、ジエチルエーテルから結晶化させて表題化合物 (226 mg、収率 42%) を得た。

融点 87-88 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.24 (6H, s), 1.34 (6H, s), 2.36 (2H, s), 2.68 (2H, s), 3.91 (3H, s), 5.74 (1H, s), 6.59 (1H, s), 6.89-7.30 (9H, m)。

合成例 290

N-フェニル-N-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]アセトアミド塩酸塩

N-フェニル-3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼンアミン (494 mg, 1.16 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (2 mL) 溶液にトリエチルアミン (0.18 mL, 1.28 mmol) およびアセチルクロリド (0.086 mL, 1.22 mmol) を加え、室温で 10 時間攪拌した。反応混合物に氷水を注ぎ、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 3:1) に供し、表題化合物の遊離塩基を得た。これを酢酸エチルに溶解し、4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液を加え、減圧濃縮し、表題化合物 (364 mg、収率 62%) を得た。

非晶質。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.56 (6H, s), 1.37 (3H, s), 1.51 (3H, s), 1.95 (3H, s), 2.50 (2H, s), 3.26 (2H, s), 3.93 (3H, s), 7.09 (1H, s), 7.30-7.80 (9H, m), 12.70 (1H, s)。

【0325】合成例 291

1-(3-ブロモフェニル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリノール塩酸塩

1-(3-ブロモフェニル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン (2.00 g, 4.83 mmol) の四塩化炭素 (20 mL) 溶液に N-ブロモスクシンイミド (773 mg, 4.34 mmol) および 2,2'-アゾビス(イソブチロニトリル) (79 mg, 0.483 mmol) を加え、60 °C で 6 時間攪拌した。反応混合物を 2 M 塩酸で 2 回抽出し、合わせた水層を濃アンモニア水で中和、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 5:1 の後 1:2) に供し、表題化合物の遊離塩基を得た。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.25 (3H, s), 1.30 (3H, s), 1.35 (3H, s), 1.36 (3H, s), 2.26 (2H, s), 3.96 (3H, s), 4.48 (1H, s), 6.96 (1H, s), 7.22-7.39 (2H, m), 7.50-7.62 (2H, m)。

これを酢酸エチルに溶解し、4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液を加え、酢酸エチルから結晶化させて表題化合物 (630 mg、収率 31%) を得た。

融点 190-192 °C。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.24 (3H, s), 1.28 (3H, s), 1.34 (3H, s), 1.41 (3H, s), 2.26 (2H, s), 3.97 (3H, s), 4.56 (1H, br s), 6.17 (1H, s), 7.24 (1H, s), 7.59-7.62 (2H, m), 7.95-7.99 (2H, m)。

合成例 292

N-[3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-4-ヒドロキシ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-

イル) [1,1'-ビフェニル]-3-イル]アセトアミド
合成例 254 と同様の方法により 1-(3-プロモフェニル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリノールおよび 3-アセトアミドベンゼンボロン酸から表題化合物を得た。収率 64%。

非晶質。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.25 (3H, s), 1.30 (6H, s), 1.33 (3H, s), 2.18 (3H, s), 2.26 (2H, s), 3.97 (3H, s), 4.45 (1H, s), 6.96 (1H, s), 7.23-7.63 (8H, m), 7.72 (1H, br s)。

合成例 293

N-[3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-4-ヒドロキシ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル) [1,1'-ビフェニル]-3-イル]アセトアミド塩酸塩
合成例 212 と同様の方法により N-[3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-4-ヒドロキシ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル) [1,1'-ビフェニル]-3-イル]アセトアミドから表題化合物を得た。収率 88%。

非晶質。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.21 (6H, s), 1.37 (3H, s), 1.45 (3H, s), 2.07 (3H, s), 2.32 (2H, s), 3.98 (3H, s), 4.61 (1H, br s), 6.18 (1H, br s), 7.26 (1H, s), 7.42-8.06 (8H, m), 10.19 (1H, s), 12.67 (1H, br s)。

【0326】合成例 294

N-[3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル) [1,1'-ビフェニル]-3-イル]アセトアミド

N-[3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-4-ヒドロキシ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル) [1,1'-ビフェニル]-3-イル]アセトアミド (290 mg, 0.598 mmol) のクロロホルム (5 mL) 溶液に二酸化マンガン (1.04 g, 12.0 mmol) を加え、室温で 6 時間攪拌した。無機物をろ取り、ろ液を減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 1:1 の後 1:2) に供し、ヘキサノン/酢酸エチルから結晶化させて表題化合物 (209 mg、収率 72%) を得た。

融点 210-212 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.34 (6H, s), 1.56 (6H, s), 2.20 (3H, s), 2.26 (2H, s), 4.00 (3H, s), 7.27-7.69 (8H, m), 7.84 (1H, s)。

合成例 295

5-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]-2-ピリジンアミン

N-(5-ブロモ-2-ピリジニル)アセトアミド (243 mg, 1.13 mmol) および 3-シアノフェニルボロン酸 (249 mg,

1.70 mmol) の 1,2-ジメトキシエタン (2 mL) およびエタノール (1 mL) 溶液に炭酸ナトリウム (198 mg, 1.86 mmol) の水 (1 mL) 溶液およびテトラキス(トリフェニルホスフィン)パラジウム(0) (55 mg, 0.0475 mmol) を加え、80 °C で 15 時間攪拌した。反応混合物に水を注ぎ、テトラヒドロフランで 2 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。得られた結晶をジエチルエーテルで洗浄し、N-[5-(3-シアノフェニル)-2-ピリジニル]アセトアミド (205 mg, 収率 77%) を得た。

¹H NMR (CDCl₃) δ 2.25 (3H, s), 7.54-7.92 (5H, m), 8.02 (1H, br s), 8.32 (1H, d, J = 8.0 Hz), 8.48 (1H, d, J = 2.2 Hz)。

このものを用いて合成例 17 と同様の方法により表題化合物を得た。収率 11%。

融点 165-168 °C (ジエチルエーテル)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.27 (6H, s), 1.30 (6H, s), 2.26 (2H, s), 2.72 (2H, s), 3.93 (3H, s), 4.50 (2H, s), 6.57 (1H, dd, J = 8.4, 0.8 Hz), 6.63 (1H, s), 7.32-7.56 (4H, m), 7.70 (1H, dd, J = 8.4, 2.4 Hz), 8.34 (1H, d, J = 1.8 Hz)。

合成例 296

N-[5-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]-2-ピリジニル]アセトアミド

合成例 295 のカラムクロマトグラフィーにより得られた 5-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]-2-ピリジニアミンと N-[5-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]-2-ピリジニル]アセトアミドの混合物から合成例 222 と同様の方法により表題化合物を得た。

収率 8.9%。

融点 208-209 °C (ジエチルエーテル)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.27 (6H, s), 1.30 (6H, s), 2.23 (3H, s), 2.26 (2H, s), 2.72 (2H, s), 3.93 (3H, s), 6.63 (1H, s), 7.25 (1H, d, J = 8.4 Hz), 7.38-7.58 (4H, m), 7.91-7.96 (2H, m), 8.51 (1H, d, J = 1.4 Hz)。

【0327】合成例 297

N-[5-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]-2-ピリジニル]メタンスルホンアミド塩酸塩

合成例 222 と同様の方法により 5-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]-2-ピリジニアミンおよびメタンスルホンクロリドから表題化合物の遊離塩基を得た。これを酢酸エチルに溶解し、4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液を加え、減圧濃縮し、表題化合物を得

た。収率 54%。

非晶質。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.21 (6H, s), 1.45 (3H, s), 1.52 (3H, s), 2.26 (2H, s), 3.00-3.40 (5H, m), 3.95 (3H, s), 7.13-7.15 (2H, m), 7.58-7.78 (2H, m), 8.02-8.52 (6H, m)。

合成例 298

6-(エチルチオ)-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニルフロ[2,3-h]イソキノリン塩酸塩

合成例 17 と同様の方法により 7-(エチルチオ)-2,3-ジヒドロ-2,2-ジメチル-5-(2-メチル-1-プロペニル)ベンゾフランおよびベンズニトリルから表題化合物の遊離塩基を得た。これを酢酸エチルに溶解し、4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液を加え、減圧濃縮し、表題化合物を得た。収率 32%。

非晶質。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.23 (6H, s), 1.32 (3H, t, J = 7.5 Hz), 1.45 (6H, s), 2.19 (2H, s), 3.12 (2H, q, J = 7.5 Hz), 3.17 (2H, s), 7.23 (1H, s), 7.63-7.80 (5H, m)。

合成例 299

N-(4-ピリジニルメチル)-4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼンスルホンアミド二塩酸塩

4-(アミノメチル)ピリジン (851 mg, 7.87 mmol) をピリジン (2 mL) に溶解し、氷冷下 4-シアノベンゼンスルホンクロリド (1.75 g, 8.66 mmol) を加え、室温で 2 時間攪拌した。反応混合物に氷冷下 2 M 塩酸を加え、ジエチルエーテルで洗浄した。水層を 5 M 水酸化ナトリウム水溶液で pH 8 とし、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (酢酸エチル) に供し、4-シアノ-N-(4-ピリジニルメチル)ベンゼンスルホンアミド (674 mg, 収率 31%) を得た。

¹H NMR (CDCl₃ + DMSO-d₆ 2 滴) δ 4.12 (2H, d, J = 5.4 Hz), 7.20 (2H, dd, J = 4.4, 1.4 Hz), 7.74-7.80 (2H, m), 7.94-8.00 (2H, m), 8.08 (1H, br s), 8.50 (2H, dd, J = 4.4, 1.8 Hz)。

これを用いて、合成例 17 と同様の方法により表題化合物の遊離塩基を得た。これを酢酸エチルに溶解し、4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液を加え、減圧濃縮し、エタノール-酢酸エチルから結晶化させて表題化合物を得た。収率 18%。

非晶質。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.24 (6H, s), 1.48 (6H, s), 2.16 (2H, s), 3.19 (2H, s), 3.95 (3H, s), 4.34 (2H, d, J = 6.0 Hz), 7.12 (1H, s), 7.83-7.89 (4H, m), 8.08 (2H, d, J = 8.4 Hz), 8.82 (2H, d, J = 6.6 Hz), 9.07 (1H, t, J = 6.0 Hz)。

【0328】合成例300

N-メチル-4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼンスルホンアミド

メチルアミン塩酸塩 (1.05 g, 15.6 mmol) をピリジン (4 mL) に溶解し、氷冷下 4-シアノベンゼンスルホンクロリド (3.30 g, 16.4 mmol) を加え、室温で2 時間攪拌した。反応混合物に氷水を加え、1 M 塩酸で酸性にし、酢酸エチルで2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸マグネシウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 3:1 の後 1:1) に供し、得られた結晶をジエチルエーテルで洗浄して 4-シアノ-N-メチルベンゼンスルホンアミド (1.54g、収率 56%) を得た。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 2.72 (3H, d, $J = 5.2$ Hz), 4.50 (1H, q, $J = 5.2$ Hz), 7.84 (2H, dd, $J = 6.6, 1.8$ Hz), 7.99 (2H, dd, $J = 6.6, 1.8$ Hz)。

これを用いて、合成例 17 と同様の方法により表題化合物を得た。収率 26%。

融点 146-148 °C (メタノール-ジエチルエーテル)。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.26 (6H, s), 1.32 (6H, s), 2.17 (2H, s), 2.65 (3H, d, $J = 5.3$ Hz), 2.71 (2H, s), 3.93 (3H, s), 4.43 (1H, q, $J = 5.3$ Hz), 6.63 (1H, s), 7.57 (2H, d, $J = 8.3$ Hz), 7.89 (2H, d, $J = 8.3$ Hz)。

合成例 301

N-(2-アミノ-2-オキシエチル)-N-メチル-4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼンスルホンアミド

合成例 190 と同様の方法により N-メチル-4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼンスルホンアミド および 2-プロモアセトアミドから表題化合物を得た。収率 35%。

融点 115-117 °C (酢酸エチル-ジエチルエーテル)。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.26 (6H, s), 1.33 (6H, s), 2.14 (2H, s), 2.71 (2H, s), 2.84 (3H, s), 3.63 (2H, s), 3.93 (3H, s), 5.57 (1H, br s), 6.57 (1H, brs), 6.64 (1H, s), 7.62 (2H, d, $J = 8.4$ Hz), 7.84 (2H, d, $J = 8.4$ Hz)。

合成例 302

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-(6-キノリニル)フロ[2,3-h]イソキノリン二塩酸塩
合成例 28 と同様の方法により 6-キノリンカルボニトリルを用いて表題化合物の遊離塩基を得た。これを酢酸エチルに溶解し、4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液を加え、減圧濃縮し、エタノール-酢酸エチルから結晶化させて表題化合物を得た。収率 37%。

融点 182-184 °C。

$^1\text{H NMR}$ ($\text{DMSO}-d_6$) δ 1.17 (6H, s), 1.50 (6H, s), 2.18 (2H, s), 3.05-3.35 (2H, m), 3.87 (3H, s), 7.15 (1H, s), 7.86 (1H, dd, $J = 8.6, 4.4$ Hz), 8.02 (1H, dd, $J = 8.8, 1.8$ Hz), 8.36 (1H, d, $J = 8.8$ Hz), 8.51 (1H, s), 8.78 (1H, d, $J = 8.0$ Hz), 9.21 (1H, dd, $J = 4.4, 1.4$ Hz)。

【0329】合成例 303

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-(7-キノリニル)フロ[2,3-h]イソキノリン

7-キノリンカルボキサミド (1.21 g, 7.03 mmol) のクロロホルム (8 mL) 溶液にオキシ塩化リン (3.28 mL, 35.1 mmol) を滴下し、90 °C で3 時間攪拌した。反応混合物を氷水に注ぎ、濃アンモニア水で中和、酢酸エチルで2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮し、7-キノリンカルボニトリル (984 mg、収率 72%) を得た。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 7.57 (1H, dd, $J = 8.5, 4.1$ Hz), 7.72 (1H, dd, $J = 8.4, 1.4$ Hz), 7.94 (1H, d, $J = 8.4$ Hz), 8.20-8.27 (1H, m), 8.50 (1H, s), 9.06 (1H, d, $J = 4.2, 1.6$ Hz)。

これを用いて、合成例 28 と同様の方法により表題化合物を得た。収率 48%。

融点 172-174 °C (ジエチルエーテル)。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.25 (6H, s), 1.29 (6H, s), 2.19 (2H, s), 2.74 (2H, s), 3.94 (3H, s), 6.65 (1H, s), 7.43 (1H, dd, $J = 8.2, 4.2$ Hz), 7.61 (1H, dd, $J = 8.2, 1.6$ Hz), 7.85 (1H, d, $J = 8.4$ Hz), 8.15-8.21 (2H, m), 8.95 (1H, dd, $J = 4.2, 1.6$ Hz)。

合成例 304

N-メチル-3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼンアミン

合成例 28 と同様の方法により 3-(メチルアミノ)ベンゾニトリルを用いて表題化合物を得た。収率 22%。

融点 105-107 °C (ジエチルエーテル-ヘキサン)。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.24 (6H, s), 1.32 (6H, s), 2.35 (2H, s), 2.68 (2H, s), 2.84 (3H, s), 3.73 (1H, br s), 3.92 (3H, s), 6.59 (1H, s), 6.63-6.70 (3H, m), 7.13-7.21 (1H, m)。

合成例 305

3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,6,8,8-ペンタメチル-1-フェニルフロ[2,3-h]イソキノリン塩酸塩

2,3-ジヒドロ-2,2,7-トリメチル-5-(2-メチル-1-プロペニル)ベンゾフラン (1.02 g, 1.94 mmol) およびベンゾアミド (1.14 g, 9.43 mmol) のトルエン (10 mL) 溶液にオキシ塩化リン (1.10 mL, 11.8 mmol) を加え、60 °C で 2 時間、続いて 90 °C で 3 時間攪拌した。反応混合物を水に注ぎ、水層を分離、5 M 水酸化ナトリウム水溶液で中和、酢酸エチルで2 回抽出した。合わせた有

機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸マグネシウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー（ヘキサン/酢酸エチル 100:1 の後 10:1）に供し、表題化合物の遊離塩基を得た。これをヘキサンに溶解し、4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液を加え、減圧濃縮し、表題化合物（65 mg、収率 3.9%）を得た。

非晶質。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.23 (6H, s), 1.43 (6H, s), 2.19 (2H, s), 2.21 (3H, s), 3.11 (2H, s), 7.16 (1H, s), 7.64-7.80 (5H, m)。

合成例 306

1-(4-シクロヘキシルフェニル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン塩酸塩

合成例 1 と同様の方法により、4-シクロヘキシルベンゾニトリルを用いて表題化合物の遊離塩基を得た。これをエタノールに溶解し、3.3 M 塩化水素/エタノール溶液を加え、減圧下濃縮した。得られた残渣を酢酸エチルから結晶化させて表題化合物を得た。収率 21%。

融点 213-214 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.23-1.54 (12H, m), 1.69-1.96 (10H, m), 2.54-2.68 (1H, m), 2.28 (2H, s), 3.00 (2H, s), 4.01 (3H, s), 6.74 (1H, s), 7.39 (2H, d, J = 8.3Hz), 7.68 (2H, d, J = 8.3Hz)。

【0330】合成例 307

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-(4-フェノキシフェニル)フロ[2,3-h]イソキノリン塩酸塩

合成例 306 と同様の方法により、4-フェノキシベンゾニトリルを用いて表題化合物を得た。収率 19%。

融点 198-199 °C（酢酸エチル-ヘキサン）。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.39 (6H, s), 1.68 (6H, s), 2.40 (2H, s), 3.00 (2H, s), 4.02 (3H, s), 6.74 (1H, s), 7.12 (4H, d, J = 8.7Hz), 7.18-7.26 (1H, m), 7.42 (2H, t, J = 8.2Hz), 7.75 (2H, d, J = 8.7Hz)。

合成例 308

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-(2-ナフチル)フロ[2,3-h]イソキノリン塩酸塩

合成例 306 と同様の方法により、β-ナフトニトリルを用いて表題化合物を得た。収率 37%。

融点 158-160 °C（酢酸エチル）。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.29 (6H, s), 1.73 (6H, br s), 2.27 (2H, s), 3.05 (2H, br s), 4.03 (3H, s), 6.78 (1H, s), 7.56-7.70 (3H, m), 7.90-8.09 (3H, m), 8.49 (1H, s)。

合成例 309

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-[4-(1-ピペリジニル)フェニル]フロ[2,3-h]イソキノリン塩酸塩

合成例 306 と同様の方法により、4-(1-ピペリジニル)ベンゾニトリルを用いて表題化合物を得た。収率 18%。
融点 188-190 °C（酢酸エチル-ヘキサン）。¹H NMR (CDCl₃) δ 1.63 (6H, s), 1.68 (12H, br), 2.58 (2H, s), 2.93 (2H, s), 3.42 (4H, br), 4.00 (3H, s), 6.71 (1H, s), 6.93 (2H, d, J = 8.4Hz), 7.77 (2H, d, J = 8.4Hz)。

合成例 310

2,6-ビス(1,1-ジメチルエチル)-4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェノール塩酸塩

合成例 306 と同様の方法により、3,5-ビス(1,1-ジメチルエチル)-4-ヒドロキシベンゾニトリルを用いて表題化合物を得た。収率 50%。

融点 211-213 °C（酢酸エチル-ヘキサン）。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.50 (18H, s), 1.69 (12H, s), 2.40 (2H, s), 2.98 (2H, s), 4.02 (3H, s), 5.90 (1H, s), 6.74 (1H, s), 7.53 (2H, s)。

【0331】合成例 311

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-(4-メチル-2-フェニル-1H-イミダゾール-5-イル)フロ[2,3-h]イソキノリン塩酸塩

合成例 306 と同様の方法により、4-メチル-2-フェニル-1H-イミダゾール-5-カルボニトリルを用いて表題化合物を得た。収率 5%。

融点 238-240 °C（酢酸エチル）。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.35 (6H, br), 1.65 (6H, br), 2.29 (1H, br), 2.63 (1H, br), 2.71 (3H, br), 3.08 (2H, br), 4.01 (3H, s), 6.70 (1H, s), 7.22 (1H, br), 7.49 (2H, br), 7.90 (2H, br), 8.39 (1H, br)。

合成例 312

6-メチル-3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)-2(1H)-ピリジノン塩酸塩

合成例 306 と同様の方法により、3-シアノ-6-メチル-2(1H)-ピリジノンを用いて表題化合物を得た。収率 53%。

融点 178-180 °C（酢酸エチル）。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.33 (6H, s), 1.51 (6H, s), 1.62 (2H, br), 2.36 (3H, s), 2.58 (2H, br), 3.90 (3H, s), 6.06 (1H, d, J = 7.3Hz), 6.59 (1H, s), 7.72 (1H, d, J = 7.3Hz)。

合成例 313

1-シクロペンチル-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン塩酸塩

合成例 306 と同様の方法により、シクロペンタンカルボニトリルを用いて表題化合物を得た。収率 20%。

融点 197-198 °C（酢酸エチル）。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.57 (6H, s), 1.65 (6H, s), 1.76 (2H, br), 2.05-2.30 (4H, m), 2.44-2.57 (2H, m), 2.

88 (2H, s), 3.20-3.58 (3H, m), 4.00 (3H, s), 6.67 (1H, s)。

【0332】合成例 314

1-(4-エトキシフェニル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン塩酸塩

合成例 306 と同様の方法により、4-エトキシベンゾニトリルを用いて表題化合物を得た。収率 57%。

融点 158-160 °C (酢酸エチル)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.37 (6H, s), 1.46 (3H, t, J = 7.0 Hz), 1.67 (6H, s), 2.41 (2H, s), 2.99 (2H, s), 4.02 (3H, s), 4.14 (2H, q, J = 7.0 Hz), 6.74 (1H, s), 7.04 (2H, br d, J = 6.1 Hz), 7.75 (2H, br d, J = 6.1 Hz)。

合成例 315

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-[4-(1-メチルエトキシ)フェニル]フロ[2,3-h]イソキノリン塩酸塩

合成例 306 と同様の方法により、4-(1-メチルエトキシ)ベンゾニトリルを用いて表題化合物を得た。収率 21 %。

融点 130-132 °C (酢酸エチル)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.38 (6H, s), 1.39 (6H, d, J = 4.6 Hz), 1.66 (6H, s), 2.43 (2H, s), 2.97 (2H, s), 4.01 (3H, s), 4.65-4.75 (1H, m), 6.72 (1H, s), 7.02 (2H, d, J = 8.3 Hz), 7.76 (2H, d, J = 8.3 Hz)。

合成例 316

酢酸 [4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]メチルエステル塩酸塩

合成例 306 と同様の方法により、酢酸 4-シアノベンジルエステルを用いて表題化合物を得た。収率 24%。

融点 184-186 °C (酢酸エチル)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.35 (6H, s), 1.68 (9H, br s), 2.30 (2H, s), 3.05 (2H, br s), 4.02 (3H, s), 4.74 (2H, s), 6.74 (1H, s), 7.59 (4H, br)。

合成例 317

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-1-[4-[2-(4-メトキシフェニル)エトキシ]フェニル]-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン塩酸塩

合成例 306 と同様の方法により、4-[2-(4-メトキシフェニル)エトキシ]ベンゾニトリルを用いて表題化合物を得た。収率 35%。

融点 198-200 °C (酢酸エチル)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.37 (6H, s), 1.66 (6H, s), 2.39 (2H, s), 2.98 (2H, s), 3.07 (2H, t, J = 7.0 Hz), 3.81 (3H, s), 4.01 (3H, s), 4.23 (2H, t, J = 7.0 Hz), 6.72 (1H, s), 6.88 (2H, d, J = 8.6 Hz), 7.03 (2H, d, J = 8.8 Hz), 7.22 (2H, d, J = 8.6 Hz), 7.72 (2H, d, J = 8.8 Hz)。

【0333】合成例 318

1-シクロヘキシル-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン塩酸塩

合成例 306 と同様の方法により、シクロヘキサンカルボニトリルを用いて表題化合物を得た。収率 28%。

融点 210-211 °C (酢酸エチル)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.25-1.40 (2H, m), 1.58 (6H, s), 1.65 (6H, s), 1.69-1.85 (6H, m), 1.96-2.07 (2H, m), 2.58-2.78 (2H, m), 2.88-3.04 (3H, m), 3.99 (3H, s), 6.67 (1H, s)。

合成例 319

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-(2-メチルチアゾール-4-イル)フロ[2,3-h]イソキノリン

合成例 1 と同様の方法により、2-メチルチアゾール-4-カルボニトリルを用いて表題化合物を得た。収率 5%。

融点 127-128 °C (ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.26 (6H, s), 1.37 (6H, s), 2.34 (2H, s), 2.70 (2H, s), 2.74 (3H, s), 3.91 (3H, s), 6.59 (1H, s), 7.37 (1H, s)。

合成例 320

1-(3-フルオロフェニル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン塩酸塩

合成例 306 と同様の方法により、3-フルオロベンゾニトリルを用いて表題化合物を得た。収率 47%。

融点 198-199 °C (酢酸エチル-ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.24 (6H, s), 1.33 (6H, s), 2.24 (2H, s), 2.69 (2H, s), 3.92 (3H, s), 6.62 (1H, s), 7.06-7.18 (3H, m), 7.30-7.41 (1H, m)。

合成例 321

1-(2,4-ジフルオロフェニル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン

合成例 1 と同様の方法により、2,4-ジフルオロベンゾニトリルを用いて表題化合物を得た。収率 45%。

融点 143-144 °C (ヘキサン)。¹H NMR (CDCl₃) δ 1.14 (3H, s), 1.32 (3H, s), 1.38 (3H, s), 1.39 (3H, s), 2.17 (1H, d, J=15.8 Hz), 2.34 (1H, d, J=15.8 Hz), 2.63 (1H, d, J=15.6 Hz), 2.81 (1H, d, J=15.6 Hz), 3.92 (3H, s), 6.60 (1H, s), 6.77-7.00 (2H, m), 7.32-7.43 (1H, m)。

合成例 322

1-(3,5-ジフルオロフェニル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン塩酸塩

合成例 306 と同様の方法により、3,5-ジフルオロベンゾニトリルを用いて表題化合物を得た。収率 42%。

融点 198-199 °C (酢酸エチル-ヘキサノール-ジエチルエーテル)。

^1H NMR (CDCl_3) δ 1.24 (6H, s), 1.36 (6H, s), 2.30 (2H, s), 2.69 (2H, s), 3.93 (3H, s), 6.62 (1H, s), 6.71-6.90 (1H, m), 6.93-6.98 (2H, m)。

【0334】合成例 3 2 3

1-(2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-5-ベンゾフラン-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン

合成例 1 と同様の方法により、7-メトキシ-2,3-ジヒドロ-5-ベンゾフランカルボニトリルを用いて表題化合物を得た。収率 52%。

融点 150-151 °C (ヘキサン)。

^1H NMR (CDCl_3) δ 1.22 (6H, s), 1.34 (6H, s), 2.35 (2H, s), 2.67 (2H, s), 3.23 (2H, t, $J = 8.8\text{Hz}$), 3.85 (3H, s), 3.92 (3H, s), 4.67 (2H, t, $J = 8.8\text{Hz}$), 6.60 (1H, s), 6.75 (1H, s), 6.93 (1H, s)。

合成例 3 2 4

N-[[4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]メチル]メタンスルホンアミド塩酸塩

合成例 3 0 6 と同様の方法により、N-[(4-シアノフェニル)メチル]メタンスルホンアミドを用いて表題化合物を得た。収率 65%。

融点 234-235 °C (酢酸エチル)。

^1H NMR ($\text{DMSO}-d_6$) δ 1.23 (6H, s), 1.45 (6H, s), 2.21 (2H, s), 2.92 (3H, s), 3.17 (2H, s), 3.95 (3H, s), 4.33 (2H, d, $J = 3.8\text{Hz}$), 7.10 (1H, s), 7.61 (4H, s), 7.84 (1H, br)。

合成例 3 2 5

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-1-(6-メトキシ-3-ピリジニル)-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン塩酸塩

合成例 3 0 6 と同様の方法により、6-メトキシ-3-ピリジンカルボニトリルを用いて表題化合物を得た。収率 6%。

非晶質。

^1H NMR (CDCl_3) δ 1.23 (6H, s), 1.35 (6H, s), 2.33 (2H, s), 2.68 (2H, s), 3.93 (3H, s), 3.98 (3H, s), 6.62 (1H, s), 6.77 (1H, dd, $J = 8.4, 0.6\text{Hz}$), 7.63 (1H, dd, $J = 8.4, 2.2\text{Hz}$), 8.19 (1H, d, $J = 2.2\text{Hz}$)。

合成例 3 2 6

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-[3-(1-メチルエトキシ)フェニル]フロ[2,3-h]イソキノリン塩酸塩

合成例 3 0 6 と同様の方法により、3-(1-メチルエトキシ)ベンゾニトリルを用いて表題化合物を主生成物として得た。収率 26%。

融点 191-193 °C (酢酸エチル-ヘキサノ-ジエチルエーテル)。

^1H NMR (CDCl_3) δ 1.24 (6H, s), 1.30-1.33 (12H, m), 2.26 (2H, s), 2.69 (2H, s), 3.92 (3H, s), 4.52-4.

63 (1H, m), 6.60 (1H, s), 6.89-6.96 (3H, m), 7.27 (1H, t, $J = 7.4\text{Hz}$)。

【0335】合成例 3 2 7

3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェノール

合成例 3 2 6 において、表題化合物を副生成物として得た。収率 17%。

融点 208-209 °C (ヘキサン)。

^1H NMR (CDCl_3) δ 1.23 (6H, s), 1.31 (6H, s), 2.28 (2H, s), 2.74 (2H, s), 3.93 (3H, s), 6.61-6.73 (3H, m), 6.85 (1H, t, $J = 2.2\text{Hz}$), 7.09 (1H, t, $J = 7.8\text{Hz}$)。

合成例 3 2 8

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-1-(6-メトキシベンゾチアゾール-2-イル)-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン

合成例 1 と同様の方法により、2-シアノ-6-メトキシベンゾチアゾールを用いて表題化合物を得た。収率 18%。

融点 170-171 °C (酢酸エチル-ヘキサン)。

^1H NMR (CDCl_3) δ 1.27 (6H, s), 1.38 (6H, s), 2.70 (2H, s), 2.79 (2H, s), 3.91 (3H, s), 3.92 (3H, s), 6.61 (1H, s), 7.11 (1H, dd, $J = 9.0, 2.5\text{Hz}$), 7.39 (1H, d, $J = 2.5\text{Hz}$), 7.93 (1H, d, $J = 9.0\text{Hz}$)。

合成例 3 2 9

3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ピリジン 1-オキシド

合成例 1 と同様の方法により、3-シアノピリジン 1-オキシドを用いて表題化合物を得た。収率 27%。

融点 145-146 °C (酢酸エチル-ヘキサノ-ジイソプロピルエーテル)。

^1H NMR (CDCl_3) δ 1.24 (6H, s), 1.37 (6H, s), 2.39 (2H, s), 2.70 (2H, s), 3.93 (3H, s), 6.63 (1H, s), 7.27-7.32 (2H, m), 8.22-8.26 (1H, m), 8.28 (1H, s)。

合成例 3 3 0

1-(6-クロロ-3-ピリジニル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン

合成例 1 と同様の方法により、6-クロロニコチノニトリルを用いて表題化合物を得た。収率 11%。

融点 140-141 °C (ヘキサン)。

^1H NMR (CDCl_3) δ 1.25 (6H, s), 1.36 (6H, s), 2.28 (2H, s), 2.70 (2H, s), 3.93 (3H, s), 6.63 (1H, s), 7.38 (1H, d, $J = 7.8\text{Hz}$), 7.74 (1H, dd, $J = 7.8, 2.2\text{Hz}$), 8.42 (1H, d, $J = 2.0\text{Hz}$)。

合成例 3 3 1

2-[2-オキシ-5-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)-1(2H)-ピリジニル]-4-ピリジンカルボキサミド

1-(6-クロロ-3-ピリジニル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン (1.0 g, 2.7 mmol)、4-ピリジンカルボキサミド 1-オキシド (2.9 g, 21 mmol)、25% 臭化水素/酢酸溶液 (2.0 mL) および酢酸 (6.0 mL) のトルエン (10 mL) 溶液を 30 時間加熱還流した。反応液を室温まで冷却後、反応混合物を水に注いだ。8 M 水酸化ナトリウム水溶液を加えて弱アルカリ性にした後、有機物を酢酸エチルで抽出した。抽出液を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄した後、硫酸ナトリウムで乾燥し、減圧下で溶媒を留去した。得られた残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (クロロホルム/メタノール 100:1 の後 20:1) で精製し、表題化合物 (0.46 g, 収率 48%) を得た。非晶質。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.20 (6H, s), 1.46 (6H, s), 2.65 (2H, s), 2.88 (2H, s), 3.93 (3H, s), 6.03 (1H, br), 6.62 (1H, s), 6.70 (1H, d, $J = 9.2\text{Hz}$), 7.04 (1H, br), 7.61 (1H, dd, $J = 9.2, 2.6\text{Hz}$), 7.79 (1H, d, $J = 5.0\text{Hz}$), 8.08 (1H, d, $J = 2.6\text{Hz}$), 8.28 (1H, s), 8.65 (1H, d, $J = 5.0\text{Hz}$)。

【0336】合成例 332

1-(2-ピリジニル)-5-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)-2(1H)-ピリジノン

合成例 331 と同様の方法により、ピリジン 1-オキシドを用いて表題化合物を得た。収率 47%。

融点 203-204 °C (酢酸エチル-ヘキサン)。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.20 (6H, s), 1.46 (6H, s), 2.65 (2H, s), 2.90 (2H, s), 3.93 (3H, s), 6.62 (1H, s), 6.69 (1H, d, $J = 9.4\text{Hz}$), 7.33 (1H, td, $J = 5.8, 1.2\text{Hz}$), 7.57 (1H, dd, $J = 9.4, 2.6\text{Hz}$), 7.80-7.95 (2H, m), 8.06 (1H, d, $J = 2.2\text{Hz}$), 8.55 (1H, d, $J = 4.2\text{Hz}$)。

合成例 333

1-(4-メチル-2-キノリニル)-5-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)-2(1H)-ピリジノン

合成例 331 と同様の方法により、4-メチルキノリン 1-オキシドを用いて表題化合物を得た。収率 51%。

融点 212-213 °C (酢酸エチル-ヘキサノールジイソプロピルエーテル)。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.21 (6H, s), 1.52 (6H, s), 2.65 (2H, s), 2.76 (3H, s), 2.99 (2H, br s), 3.93 (3H, s), 6.62 (1H, s), 6.74 (1H, d, $J = 8.8\text{Hz}$), 7.57-7.75 (4H, m), 8.00-8.09 (3H, m)。

合成例 334

1-(3-メチル-2-キノリニル)-5-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)-2(1H)-ピリジノン

合成例 331 と同様の方法により、3-メチルキノリン 1

-オキシドを用いて表題化合物を得た。収率 58%。

融点 212-213 °C (酢酸エチル-ヘキサノールジイソプロピルエーテル)。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.11 (3H, s), 1.30 (3H, s), 1.66 (6H, s), 2.42 (3H, s), 2.54-2.69 (2H, m), 2.73 (1H, d, $J = 16.2\text{Hz}$), 3.29 (1H, br d, $J = 16.2\text{Hz}$), 3.90 (3H, s), 6.58 (1H, s), 6.74 (1H, d, $J = 9.4\text{Hz}$), 7.53-7.83 (5H, m), 7.99 (1H, d, $J = 8.0\text{Hz}$), 8.10 (1H, s)。

10 合成例 335

1-(7-メチル-2-キノリニル)-5-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)-2(1H)-ピリジノン

合成例 331 と同様の方法により、7-メチルキノリン 1-オキシドを用いて表題化合物を得た。収率 6%。

融点 232-233 °C (酢酸エチル-ヘキサン)。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.23 (6H, s), 1.58 (6H, s), 2.56 (2H, s), 2.58 (3H, s), 3.01 (2H, s), 3.93 (3H, s), 6.71 (1H, d, $J = 9.4\text{Hz}$), 6.93 (1H, s), 7.44 (1H, d, $J = 8.4, 1.4\text{Hz}$), 7.72-7.88 (4H, m), 8.23 (1H, d, $J = 8.4\text{Hz}$), 8.31 (1H, d, $J = 1.8\text{Hz}$)。

【0337】合成例 336

2-[2-オキシノ-5-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)-1(2H)-ピリジニル]-4-ピリジンカルボン酸 エチルエステル二塩酸塩

合成例 331 と同様の方法により、4-ピリジンカルボン酸 エチルエステル 1-オキシドを用いて表題化合物の遊離塩基を得た。これをエタノールに溶解し、3.3M 塩化水素/エタノール溶液を加え、減圧下濃縮して表題化合物を得た。収率 36%。

非晶質。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.20 (6H, s), 1.42 (3H, t, $J = 7.4\text{Hz}$), 1.46 (6H, s), 2.65 (2H, s), 2.89 (2H, s), 3.93 (3H, s), 4.44 (2H, q, $J = 7.4\text{Hz}$), 6.62 (1H, s), 6.71 (1H, d, $J = 9.3\text{Hz}$), 7.59 (1H, dd, $J = 9.3, 2.4\text{Hz}$), 7.89 (1H, dd, $J = 4.8, 1.4\text{Hz}$), 8.04 (1H, d, $J = 2.4\text{Hz}$), 8.47 (1H, s), 8.67 (1H, d, $J = 4.8\text{Hz}$)。

40 合成例 337

5-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)-2(1H)-ピリジノン

1-(6-クロロ-3-ピリジニル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン (4.0 g, 11 mmol) の 6 M 塩酸 (40 mL) 溶液を 11.5 時間加熱還流した。反応液を室温まで冷却後、8 M 水酸化ナトリウム水溶液を加えてアルカリ性にした後、有機物を酢酸エチルで抽出した。抽出液を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄した後、硫酸ナトリウムで乾燥し、減

圧下で溶媒を留去した。得られた残渣を酢酸エチルヘキサン-ジイソプロピルエーテルから結晶化させて表題化合物 (3.6 g、収率 94%) を得た。

融点 195-196 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.17 (6H, s), 1.38 (6H, s), 2.59 (2H, s), 2.61 (2H, s), 3.91 (3H, s), 6.31 (1H, br), 6.52 (1H, d, J=9.3Hz), 6.58 (1H, s), 7.41 (1H, dd, J=9.3, 2.2Hz), 7.68 (1H, d, J=2.2Hz)。

合成例 3 3 8

1-メチル-5-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)-2(1H)-ピリジノン

5-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)-2(1H)-ピリジノン (1.0 g, 2.8 mmol) と水素化ナトリウム (60%油性, 0.35 g, 8.8 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (10 mL) の溶液を室温で 15 分間攪拌した。反応液にヨードメタン (2.0 mL, 32 mmol) を室温に加え、室温で 9 時間攪拌した。反応液を水に注ぎ、1 M 水酸化ナトリウム水溶液を加えてアルカリ性にした後、有機物を酢酸エチルで抽出した。抽出液を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄した後、硫酸ナトリウムで乾燥し、減圧下で溶媒を留去した。得られた残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/クロロホルム/酢酸エチル 2:1:1 の後 1:2:2) で精製して、粗結晶を得た。得られた粗結晶を酢酸エチルヘキサン-ジイソプロピルエーテルより再結晶し、表題化合物 (0.52 g、収率 50%) を得た。

融点 158-159 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.20 (6H, s), 1.41 (6H, s), 2.61 (2H, s), 2.65 (2H, s), 3.60 (3H, s), 3.93 (3H, s), 6.56 (1H, d, J=9.4Hz), 6.61 (1H, s), 7.33 (1H, dd, J=9.4, 2.6Hz), 7.59 (1H, d, J=2.6Hz)。

【0 3 3 8】合成例 3 3 9

1-(3-ピリジニルメチル)-5-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)-2(1H)-ピリジノン

合成例 3 3 8 と同様の方法により、3-(クロロメチル)ピリジン塩酸塩を用いて表題化合物を得た。収率 38%。

融点 247-248 °C (酢酸エチルヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.19 (6H, s), 1.33 (6H, s), 2.47 (2H, s), 2.64 (2H, s), 3.91 (3H, s), 5.18 (2H, s), 6.60 (1H, s), 6.65 (1H, d, J=9.4Hz), 7.27-7.32 (1H, m), 7.42 (1H, dd, J=9.4, 2.6Hz), 7.51 (1H, d, J=2.2Hz), 7.77 (1H, dd, J=7.6, 1.8Hz), 8.57 (1H, d, J=4.8, 1.4Hz), 8.64 (1H, d, J=2.2Hz)。

合成例 3 4 0

1-(4-ピリジニルメチル)-5-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)-2(1H)-ピリジノン

合成例 3 3 8 と同様の方法により、4-(クロロメチル)ピリジン塩酸塩を用いて表題化合物を得た。収率 63%。

融点 199-200 °C (酢酸エチルヘキサン-ジイソプロピルエーテル)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.19 (6H, s), 1.35 (6H, s), 2.52 (2H, s), 2.64 (2H, s), 3.92 (3H, s), 5.17 (2H, s), 6.61 (1H, s), 6.68 (1H, d, J=9.8Hz), 7.21 (2H, d, J=5.8Hz), 7.45-7.48 (2H, m), 8.59 (2H, d, J=5.8Hz)。

合成例 3 4 1

1-(2-ピリジニルメチル)-5-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)-2(1H)-ピリジノン

合成例 3 3 8 と同様の方法により、2-(クロロメチル)ピリジン塩酸塩を用いて表題化合物を得た。収率 72%。

融点 191-192 °C (酢酸エチルヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.20 (6H, s), 1.35 (6H, s), 2.57 (2H, s), 2.65 (2H, s), 3.92 (3H, s), 5.22 (2H, s), 6.60 (1H, s), 6.61 (1H, d, J=9.0Hz), 7.17-7.27 (1H, m), 7.42 (1H, dd, J=9.2, 2.2Hz), 7.49 (1H, d, J=7.6Hz), 7.67 (1H, dd, J=7.6, 1.8Hz), 7.72 (1H, d, J=2.2Hz), 8.52 (1H, d, J=4.8Hz)。

合成例 3 4 2

1-(2-キノリニルメチル)-5-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)-2(1H)-ピリジノン

合成例 3 3 8 と同様の方法により、2-(クロロメチル)キノリン塩酸塩を用いて表題化合物を得た。収率 54%。

融点 210-211 °C (酢酸エチルヘキサン-ジイソプロピルエーテル)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.19 (6H, s), 1.23 (6H, s), 2.53 (2H, s), 2.64 (2H, s), 3.91 (3H, s), 5.45 (2H, s), 6.59 (1H, s), 6.66 (1H, d, J=9.6Hz), 7.37-7.50 (1H, m), 7.53-7.59 (2H, m), 7.65-7.73 (1H, m), 7.75 (1H, d, J=2.2Hz), 7.81 (1H, d, J=8.0Hz), 7.98 (1H, d, J=8.6Hz), 8.15 (1H, d, J=8.8Hz)。

【0 3 3 9】合成例 3 4 3

1-(フェニルメチル)-5-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)-2(1H)-ピリジノン

合成例 3 3 8 と同様の方法により、ベンジルブロミドを用いて表題化合物を得た。収率 38%。

融点 216-217 °C (酢酸エチルヘキサン-ジイソプロピルエーテル)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.18 (6H, s), 1.30 (6H, s), 2.44 (2H, s), 2.63 (2H, s), 3.91 (3H, s), 5.17 (2H, br s), 6.58 (1H, s), 6.66 (1H, d, J=9.8Hz), 7.32 (5H, s), 7.38-7.43 (2H, m)。

合成例 3 4 4

2-オキソ-5-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,

8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)-1(2H)-ピリジンアセトアミド塩酸塩

5-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)-2(1H)-ピリジノン (1.5 g, 4.3 mmol) と水素化ナトリウム (60%油性, 0.19 g, 4.8 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (10 mL) の溶液を室温で 25 分間攪拌した。反応液に 2-クロロアセトアミド (0.51 g, 5.5 mmol) を室温に加え、室温で 24 時間攪拌した。反応液を水に注ぎ、1 M 水酸化ナトリウム水溶液を加えてアルカリ性にした後、有機物を酢酸エチルで抽出した。抽出液を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄した後、硫酸ナトリウムで乾燥し、減圧下で溶媒を留去した。得られた残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (クロロホルム/メタノール 50:1 の後 20:1) で精製して、粗結晶を得た。得られた粗結晶のエタノール (20 mL) 溶液に 3.3M 塩化水素/エタノール溶液 (5.0 mL, 17 mmol) を加え、室温で 10 分間攪拌した。反応液を減圧下濃縮し、表題化合物 (1.3 g、収率 59%) を得た。

非晶質。

$^1\text{H NMR}$ ($\text{DMSO}-d_6$) δ 1.34 (6H, s), 1.40 (6H, s), 2.78 (2H, br), 3.08 (2H, s), 3.93 (3H, s), 4.60 (2H, br), 6.59 (1H, d, $J=9.5\text{Hz}$), 7.06 (1H, s), 7.73 (1H, dd, $J=9.5, 2.4\text{Hz}$), 7.76 (1H, s), 8.27 (1H, d, $J=2.4\text{Hz}$), 8.33 (1H, s), 12.39 (1H, br)。

合成例 345

2-オキシ-5-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)-1(2H)-ピリジン酢酸 エチルエステル

合成例 338 と同様の方法により、プロモ酢酸エチルを用いて表題化合物を得た。収率 17%。

非晶質。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.20 (6H, s), 1.30 (3H, t, $J=7.4\text{Hz}$), 1.42 (6H, s), 2.65 (2H, s), 2.73 (2H, s), 3.92 (3H, s), 4.25 (2H, q, $J=7.4\text{Hz}$), 4.68 (2H, br), 6.60-6.65 (2H, m), 7.42-7.47 (2H, m)。

合成例 346

2-オキシ-N-(3-ピリジニル)-5-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)-1(2H)-ピリジンアセトアミド

2-オキシ-5-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)-1(2H)-ピリジン酢酸 エチルエステル (1.4 g, 3.2 mmol) と 3-アミノピリジン (0.58 g, 6.2 mmol) のデカリン (10 mL) 溶液をアルゴン雰囲気下 200 °C で 17 時間攪拌した。反応液に 2 M 塩酸を加え、クロロホルムで洗浄した。水溶液に 8 M 水酸化ナトリウム水溶液を加えてアルカリ性にした後、有機物を酢酸エチルで抽出した。抽出液を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄した後、硫酸ナトリウムで乾燥し、減圧下で溶媒を留去した。得

られた残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (酢酸エチル/メタノール 50:1 の後 10:1) で精製して、粗結晶を得た。得られた粗結晶を酢酸エチル-ジイソプロピルエーテルより再結晶し、表題化合物 (0.20 g、収率 13%) を得た。

融点 276-277 °C。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.21 (6H, s), 1.40 (6H, s), 2.66 (4H, s), 3.93 (3H, s), 4.78 (2H, br s), 6.62 (1H, s), 6.71 (1H, d, $J=9.3\text{Hz}$), 7.18-7.27 (1H, m), 7.56 (1H, dd, $J=9.3, 2.6\text{Hz}$), 7.69 (1H, d, $J=2.2\text{Hz}$), 8.04-8.08 (1H, m), 8.33 (1H, dd, $J=4.6, 1.4\text{Hz}$), 8.63 (1H, d, $J=2.6\text{Hz}$), 9.65 (1H, s)。

【0340】合成例 347

N-(2-ヒドロキシエチル)-2-オキシ-5-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)-1(2H)-ピリジンアセトアミド 合成例 346 と同様の方法により、2-アミノエタノールを用いて表題化合物を得た。収率 59%。

融点 133-134 °C (酢酸エチル-ジイソプロピルエーテル)。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.20 (6H, s), 1.42 (6H, s), 2.65 (2H, s), 2.68 (2H, s), 3.41 (2H, m), 3.69 (2H, t, $J=4.8\text{Hz}$), 3.92 (3H, s), 4.64 (2H, s), 6.61 (1H, s), 6.62 (1H, d, $J=7.6\text{Hz}$), 7.37-7.48 (2H, m), 7.63 (1H, d, $J=2.2\text{Hz}$)。

合成例 348

2-オキシ-5-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)-1(2H)-ピリジン酢酸 1,1-ジメチルエチルエステル

合成例 338 と同様の方法により、プロモ酢酸 tert-ブチルを用いて表題化合物を得た。収率 51%。

非晶質。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.20 (6H, s), 1.42 (15H, s), 2.65 (2H, s), 2.72 (2H, s), 3.92 (3H, s), 4.65 (2H, br), 6.61-6.65 (2H, m), 7.40-7.48 (2H, m)。

合成例 349

2-オキシ-5-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)-1(2H)-ピリジン酢酸塩酸塩

2-オキシ-5-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)-1(2H)-ピリジン酢酸 1,1-ジメチルエチルエステル (2.7 g, 5.8 mmol) の 6 M 塩酸 (30 mL) 溶液を 1 時間加熱還流した。室温まで冷却した後、反応液を減圧下濃縮した。得られた残渣をクロロホルム-ジイソプロピルエーテルより結晶化させて表題化合物 (2.5 g、収率 97%) を得た。

融点 231-233 °C (分解)。

$^1\text{H NMR}$ ($\text{DMSO}-d_6$) δ 1.34 (6H, s), 1.39 (6H, s), 2.80 (2H, br), 3.08 (2H, s), 3.94 (3H, s), 4.71 (2H,

s), 6.63 (1H, d, J=9.6Hz), 7.07 (1H, s), 7.76 (1H, dd, J=9.6, 3.0Hz), 8.33 (1H, d, J=3.0Hz), 12.40 (1H, br)。

合成例 350

4-[[2-オキシ-5-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)-1(2H)-ピリジニル]メチル]安息香酸 メチルエステル
合成例 338 と同様の方法により、4-(プロモメチル)安息香酸メチルを用いて表題化合物を得た。収率 62%。

非晶質。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.18 (6H, s), 1.32 (6H, s), 2.47 (2H, s), 2.63 (2H, s), 3.91 (6H, s), 5.22 (2H, br s), 6.60 (1H, s), 6.67 (1H, d, J=9.8Hz), 7.37-7.46 (4H, m), 8.01 (2H, d, J=8.4Hz)。

【0341】合成例 351

N-(2-ヒドロキシエチル)-4-[[2-オキシ-5-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)-1(2H)-ピリジニル]メチル]ベンズアミド塩酸塩

4-[[2-オキシ-5-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)-1(2H)-ピリジニル]メチル]安息香酸 メチルエステル (1.0 g, 2.0 mmol) と 2-アミノエタノール (2.0 mL, 3.3 mmol) のキシレン (10 mL) 溶液を 4 時間加熱還流した。反応液を室温まで冷却した後、溶媒を減圧下留去した。残渣に水を加え、1 M 水酸化ナトリウム水溶液を加えてアルカリ性にした後、有機物を酢酸エチルで抽出した。抽出液を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄した後、硫酸ナトリウムで乾燥し、減圧下で溶媒を留去した。得られた残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (酢酸エチル/メタノール50:1の後20:1) で精製して、粗結晶を得た。得られた粗結晶のエタノール (20 mL) 溶液に 3.3 M 塩化水素/エタノール溶液 (3.0 mL, 1.0 mmol) を加え、室温で10 分間攪拌した。反応液を減圧下濃縮し、得られた残渣をクロロホルム-ジイソプロピルエーテルより結晶化させ、表題化合物 (1.1 g, 収率 96%) を得た。

融点 175-176 °C。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.28 (6H, s), 1.42 (6H, s), 2.66 (2H, s), 3.09 (2H, s), 3.30-3.40 (2H, m), 3.50 (2H, t, J=5.6Hz), 3.93 (3H, s), 5.24 (2H, br), 6.62 (1H, d, J=9.6Hz), 7.07 (1H, s), 7.45 (2H, d, J=8.0Hz), 7.67 (1H, dd, J=9.4, 2.2Hz), 7.88 (2H, d, J=8.0Hz), 8.51-8.57 (2H, m)。

合成例 352

4-[[2-オキシ-5-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)-1(2H)-ピリジニル]メチル]安息香酸塩酸塩

合成例 349 と同様の方法により、4-[[2-オキシ-5-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル

フロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)-1(2H)-ピリジニル]メチル]安息香酸 メチルエステルから表題化合物を得た。収率 62%。

非晶質。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.27 (6H, s), 1.42 (6H, s), 2.65 (2H, s), 3.09 (2H, s), 3.93 (3H, s), 5.30 (2H, br), 6.64 (1H, d, J=9.6Hz), 7.08 (1H, s), 7.49 (2H, d, J=8.4Hz), 7.70 (1H, dd, J=9.6, 2.2Hz), 7.93 (2H, d, J=8.4Hz), 8.58 (1H, d, J=2.2Hz), 12.62 (1H, br)。

合成例 353

4-[[2-オキシ-5-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)-1(2H)-ピリジニル]メチル]ベンズアミド

4-[[2-オキシ-5-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)-1(2H)-ピリジニル]メチル]安息香酸塩酸塩 (1.6g, 3.1 mmol) とオキサリルクロリド (0.75 mL, 8.6 mmol) のテトラヒドロフラン (50 mL) 溶液に N,N-ジメチルホルムアミド (0.1 mL) を室温に加え、反応液を室温で 1 時間攪拌した。反応液を減圧下濃縮乾固した。得られた残渣のテトラヒドロフラン (50 mL) 溶液に 6.3 M アンモニア/エタノール溶液 (30 mL) を室温に加え、反応液を室温で 1 時間攪拌した。反応液を減圧下濃縮し、残渣に水を加え、有機物をクロロホルムで抽出した。抽出液を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄した後、硫酸ナトリウムで乾燥し、減圧下で溶媒を留去した。得られた残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (クロロホルム/メタノール50:1の後20:1) で精製して、粗結晶を得た。得られた粗結晶を酢酸エチルより再結晶し、表題化合物 (0.44 g, 収率 31%) を得た。

融点 262-266 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.18 (6H, s), 1.33 (6H, s), 2.49 (2H, s), 2.63 (2H, s), 3.91 (3H, s), 5.21 (2H, s), 5.64 (1H, br), 6.08 (1H, br), 6.60 (1H, s), 6.66 (1H, d, J=9.0Hz), 7.39-7.47 (4H, m), 7.79 (2H, d, J=8.0Hz)。

【0342】合成例 354

N-メチル-4-[[2-オキシ-5-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)-1(2H)-ピリジニル]メチル]ベンズアミド

合成例 353 と同様の方法により、40% メチルアミン/メタノール溶液を用いて表題化合物を得た。収率 41%。

非晶質。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.18 (6H, s), 1.33 (6H, s), 2.49 (2H, s), 2.63 (2H, s), 3.00 (3H, d, J=5.2Hz), 3.91 (3H, s), 5.20 (2H, br), 6.18 (1H, br), 6.59 (1H, s), 6.65 (1H, d, J=10Hz), 7.36-7.46 (4H, m), 7.73 (2H, d, J=8.0Hz)。

合成例 355

4-[[2-オキシ-5-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)-1(2H)-ピリジニル]メチル]-N-プロピルベンズアミド

合成例 353 と同様の方法により、プロピルアミンを用いて表題化合物を得た。収率 57%。

融点 193-195 °C (酢酸エチル-ヘキサソル-ジイソプロピルエーテル)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 0.97 (3H, t, J=7.2Hz), 1.18 (6H, s), 1.33 (6H, s), 1.55-1.65 (2H, m), 2.48 (2H, s), 2.63 (2H, s), 3.41 (2H, q, J=7.2Hz), 3.91 (3H, s), 5.20 (2H, s), 6.12 (1H, br), 6.59 (1H, s), 6.65 (1H, d, J=9.0Hz), 7.37-7.45 (4H, m), 7.73 (2H, d, J=8.0Hz)。

合成例 356

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-[4-(メチルチオ)フェニル]フロ[2,3-h]イソキノリン塩酸塩

4-(メチルチオ)ベンゾニトリル (0.776 g, 5.20 mmol) のトルエン (5 mL) および酢酸 (5 mL) 溶液に氷冷下濃硫酸 (0.5 mL) を滴下した。氷浴を取り除き、2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-(2-メチル-1-プロペニル)ベンゾフラン (0.929 g, 4.00 mmol) のトルエン (5 mL) 溶液を加え、80 °C で 1 時間攪拌した。反応混合物に氷を加え、水層を濃アンモニア水で中和、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサソル/酢酸エチル 2:1) に供し、表題化合物の遊離塩基を得た。これに 2.8 M 塩化水素/エタノール溶液 (7.4 mL) を加え、減圧濃縮した。残渣をジエチルエーテルから結晶化させ、酢酸エチルから再結晶して表題化合物 (0.72 g、収率 43%) を得た。

融点 137-140 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.37 (6H, s), 1.67 (6H, s), 2.39 (2H, s), 2.55 (3H, s), 3.00 (2H, s), 4.02 (3H, s), 6.74 (1H, s), 7.36 (2H, d, J = 8.2 Hz), 7.68 (2H, d, J = 8.2 Hz)。

【0343】合成例 357

1-(2,3-ジヒドロ-5-ベンゾフラン-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン塩酸塩

合成例 356 と同様の方法により 2,3-ジヒドロ-5-ベンゾフランカルボニトリルを用いて表題化合物を得た。収率 51%。

融点 144-148 °C (酢酸エチル)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.39 (6H, s), 1.65 (6H, s), 2.45 (2H, s), 2.98 (2H, s), 3.36 (2H, t, J = 8.8 Hz), 4.01 (3H, s), 4.72 (2H, t, J = 8.8 Hz), 6.73 (1H, s), 6.86 (1H, d, J = 8.4 Hz), 7.32 (1H, dd, J = 8.4, 1.8 Hz), 7.93 (1H, d, J = 1.8 Hz)。

合成例 358

1-(1,3-ベンゾジオキソール-5-イル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン塩酸塩

合成例 356 と同様の方法により 1,3-ベンゾジオキソール-5-カルボニトリルを用いて表題化合物を得た。収率 44%。

融点 156-160 °C (酢酸エチル)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.39 (6H, s), 1.65 (6H, s), 2.45 (2H, s), 2.99 (2H, s), 4.01 (3H, s), 6.11 (2H, s), 6.73 (1H, s), 6.97 (1H, d, J = 8.0 Hz), 7.17 (1H, br s), 7.27-7.29 (1H, m)。

合成例 359

N,N-ジメチル-4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼンアミン塩酸塩

合成例 356 と同様の方法により 4-(ジメチルアミノ)ベンゾニトリルを用いて表題化合物を得た。収率 24%。

融点 165-168 °C (酢酸エチル-エタノール)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.40 (6H, s), 1.62 (6H, s), 2.58 (2H, s), 2.94 (2H, s), 3.10 (6H, s), 4.01 (3H, s), 6.73 (1H, s), 6.75 (2H, d, J = 9.0 Hz), 7.77 (2H, d, J = 9.0 Hz)。

合成例 360

1-[4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]エタノン塩酸塩

合成例 356 と同様の方法により 4-アセチルベンゾニトリルを用いて表題化合物を得た。収率 29%。

融点 167-170 °C (酢酸エチル-エタノール)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.34 (6H, s), 1.71 (6H, s), 2.21 (2H, s), 2.69 (3H, s), 3.06 (2H, s), 4.03 (3H, s), 6.77 (1H, s), 7.80 (2H, d, J = 8.2 Hz), 8.14 (2H, d, J = 8.2 Hz)。

合成例 361

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-(2-チエニル)フロ[2,3-h]イソキノリン塩酸塩

合成例 356 と同様の方法により 2-チオフェンカルボニトリルを用いて表題化合物を得た。収率 30%。

融点 154-156 °C (酢酸エチル-エタノール)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.41 (6H, s), 1.66 (6H, s), 2.59 (2H, s), 3.00 (2H, s), 4.02 (3H, s), 6.75 (1H, s), 7.29 (1H, br s), 7.82 (1H, d, J = 4.6 Hz), 8.05 (1H, br s)。

【0344】合成例 362

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-[4-(トリフルオロメチル)フェニル]フロ[2,3-h]イソキノリン塩酸塩

合成例 356 と同様の方法により 4-(トリフルオロメチル)ベンゾニトリルを用いて表題化合物を得た。収率 53

10

20

30

40

50

%。

融点 149-151 °C (酢酸エチル)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.35 (6H, s), 1.71 (6H, s), 2.19 (2H, s), 3.05 (2H, s), 4.03 (3H, s), 6.77 (1H, s), 7.84 (4H, s)。

合成例 363

1-(2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフラン-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン塩酸塩

合成例 356 と同様の方法により 2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフランカルボニトリルを用いて表題化合物を得た。収率 38%。

融点 141-143 °C (ジエチルエーテル-酢酸エチル)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.40 (6H, s), 1.56 (6H, s), 1.66 (6H, s), 2.50 (2H, s), 2.97 (2H, s), 3.08 (2H, s), 4.02 (3H, s), 4.06 (3H, s), 6.74 (1H, s), 7.12 (1H, br s), 7.46 (1H, br s)。

合成例 364

ビス[3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-[4-(フェニルチオ)フェニル]フロ[2,3-h]イソキノリン]三塩酸塩

合成例 356 と同様の方法により 4-(フェニルチオ)ベンゾニトリルを用いて表題化合物を得た。収率 48%。

融点 130-132 °C (ジエチルエーテル-酢酸エチル)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.37 (6H, s), 1.67 (6H, s), 2.35 (2H, s), 3.00 (2H, s), 4.01 (3H, s), 6.74 (1H, s), 7.27-7.63 (9H, m)。

合成例 365

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-[4-(1-メチルエチル)フェニル]フロ[2,3-h]イソキノリン塩酸塩

合成例 356 と同様の方法により 4-(1-メチルエチル)ベンゾニトリルを用いて表題化合物を得た。収率 37%。

融点 169-171 °C (酢酸エチル)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.31 (6H, d, J = 6.8 Hz), 1.35 (6H, s), 1.69 (6H, s), 2.29 (2H, s), 2.95-3.08 (1H, m), 3.01 (2H, s), 4.02 (3H, s), 6.75 (1H, s), 7.42 (2H, d, J = 8.4 Hz), 7.69 (2H, d, J = 8.4 Hz)。

【0345】合成例 366

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-(5-メチル-2-チエニル)フロ[2,3-h]イソキノリン塩酸塩

合成例 356 と同様の方法により 5-メチル-2-チオフェンカルボニトリルを用いて表題化合物を得た。収率 12%。

融点 177-179 °C (酢酸エチル)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.39 (6H, s), 1.69 (6H, s), 2.30 (3H, s), 2.32 (2H, s), 3.02 (2H, s), 4.02 (3H, s), 6.73 (1H, s), 7.01 (1H, d, J = 4.8 Hz), 7.60 (1H, d, J = 4.8 Hz)。

合成例 367

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-[4-(トリフルオロメトキシ)フェニル]フロ[2,3-h]イソキノリン塩酸塩

合成例 356 と同様の方法により 4-(トリフルオロメトキシ)ベンゾニトリルを用いて表題化合物を得た。収率 27%。

融点 163-166 °C (酢酸エチル)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.36 (6H, s), 1.70 (6H, s), 2.25 (2H, s), 3.04 (2H, s), 4.03 (3H, s), 6.76 (1H, s), 7.41 (2H, d, J = 8.4 Hz), 7.81 (2H, d, J = 8.4 Hz)。

合成例 368

2-メトキシ-4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェノール

4-ヒドロキシ-3-メトキシベンゾニトリル (0.895 g, 6.00 mmol) のトルエン (5mL) および酢酸 (5 mL) 溶液に氷冷下濃硫酸 (0.6 mL) を滴下した。氷浴を取り除き、2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-(2-メチル-1-プロペニル)ベンゾフラン (1.16 g, 5.00 mmol) のトルエン (5 mL) 溶液を加え、80 °C で 1時間攪拌した。反応混合物に氷を加え、水層を濃アンモニア水で中和、酢酸エチルで 2回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 2:1 の後酢酸エチル) に供し、酢酸エチル-ヘキサンから再結晶して表題化合物 (0.92 g, 収率 48%) を得た。

融点 143-145 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.24 (6H, s), 1.33 (6H, s), 2.32 (2H, s), 2.55 (1H, brs), 2.68 (2H, s), 3.89 (3H, s), 3.92 (3H, s), 6.61 (1H, s), 6.86-6.92 (3H, m)。

合成例 369

1-(3,5-ジクロロ-4-ピリジニル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン

合成例 368 と同様の方法により 3,5-ジクロロ-4-ピリジンカルボニトリルを用いて表題化合物を得た。収率 23%。

融点 147-148 °C (ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.34 (6H, s), 1.35 (6H, s), 2.19 (2H, s), 2.78 (2H, s), 3.92 (3H, s), 6.63 (1H, s), 8.56 (2H, s)。

【0346】合成例 370

1-(2-フラン-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン

合成例 368 と同様の方法により 2-フロニトリルを用いて表題化合物を得た。収率 25%。

融点 125-127 °C (ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.23 (6H, s), 1.41 (6H, s), 2.51 (2H, s), 2.66 (2H, s), 3.92 (3H, s), 6.49 (1H, dd, J = 3.4, 1.8 Hz), 6.58 (1H, s), 6.66 (1H, d, J = 3.4 Hz), 7.48 (1H, d, J = 1.8 Hz)。

合成例 371

2-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェノール

合成例 368 と同様の方法により酢酸 2-シアノフェニルを用いて表題化合物を得た。収率 19%。

融点 186-189 °C (酢酸エチル-ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.22 (6H, s), 1.42 (6H, s), 2.64 (2H, s), 2.74 (2H, s), 3.94 (3H, s), 6.64 (1H, s), 6.75-6.84 (1H, m), 6.98-7.03 (1H, m), 7.24-7.32 (2H, m)。

合成例 372

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-(3-チエニル)フロ[2,3-h]イソキノリン

合成例 368 と同様の方法により 3-チオフェンカルボニトリルを用いて表題化合物を得た。収率 45%。

融点 119-122 °C (ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.23 (6H, s), 1.35 (6H, s), 2.36 (2H, s), 2.67 (2H, s), 3.92 (3H, s), 6.60 (1H, s), 7.11 (1H, dd, J = 5.0, 1.2 Hz), 7.30-7.39 (2H, m)。

合成例 373

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-(3-メチル-2-チエニル)フロ[2,3-h]イソキノリン

合成例 368 と同様の方法により 3-メチル-2-チオフェンカルボニトリルを用いて表題化合物を得た。収率 23 %。

融点 195-197 °C (ヘキサン-酢酸エチル)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.19 (6H, s), 1.40 (6H, s), 2.50 (3H, d, J = 0.8 Hz), 2.63 (2H, s), 2.67 (2H, s), 3.92 (3H, s), 6.59 (1H, s), 6.67-6.69 (1H, m), 6.84 (1H, d, J = 3.6 Hz)。

【0347】合成例 374

1-(2-クロロ-3-ピリジニル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン

合成例 368 と同様の方法により 2-クロロ-3-ピリジンカルボニトリルを用いて表題化合物を得た。収率 29%。

融点 159-160 °C (酢酸エチル-ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.21 (3H, s), 1.30 (3H, s), 1.36 (3H, s), 1.39 (3H, s), 2.03 (1H, d, J = 15.8 Hz), 2.25 (1H, d, J = 15.8 Hz), 2.70 (1H, d, J = 15.8 Hz), 2.81 (1H, d, J = 15.8 Hz), 3.92 (3H, s), 6.62 (1H, s), 7.34 (1H, dd, J = 7.2, 4.8 Hz), 7.69 (1H, dd, J = 7.2, 1.8 Hz), 8.46 (1H, dd, J = 4.8, 1.8 Hz)。

合成例 375

1-(2,6-ジクロロ-4-メチル-3-ピリジニル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン

合成例 368 と同様の方法により 2,6-ジクロロ-4-メチル-3-ピリジンカルボニトリルを用いて表題化合物を得た。収率 25%。

融点 97-101 °C (酢酸エチル-ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.32 (3H, s), 1.33 (3H, s), 1.34 (3H, s), 1.37 (3H, s), 2.02 (1H, d, J = 15.8 Hz), 2.19 (3H, s), 2.32 (1H, d, J = 15.8 Hz), 2.74 (1H, d, J = 15.8 Hz), 2.79 (1H, d, J = 15.8 Hz), 3.92 (3H, s), 6.62 (1H, s), 7.20 (1H, s)。

合成例 376

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-ピラジニルフロ[2,3-h]イソキノリン

合成例 368 と同様の方法によりピラジニルカルボニトリルを用いて表題化合物を得た。収率 6%。

融点 154-155 °C (酢酸エチル-ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.30 (6H, s), 1.34 (6H, s), 2.17 (2H, s), 2.74 (2H, s), 3.92 (3H, s), 6.62 (1H, s), 8.57 (1H, dd, J = 2.6, 1.6 Hz), 8.64 (1H, d, J = 2.6 Hz), 8.87 (1H, d, J = 1.6 Hz)。

合成例 377

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-(4-ニトロフェニル)フロ[2,3-h]イソキノリン

合成例 368 と同様の方法により 4-ニトロベンゾニトリルを用いて表題化合物を得た。収率 42%。

融点 152-153 °C (酢酸エチル-ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.26 (6H, s), 1.33 (6H, s), 2.19 (2H, s), 2.71 (2H, s), 3.93 (3H, s), 6.64 (1H, s), 7.60 (2H, ddd, J = 8.6, 2.2, 1.8 Hz), 8.27 (2H, dd, J = 8.6, 2.2, 1.8 Hz)。

【0348】合成例 378

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-[4-(メチルスルフィニル)フェニル]フロ[2,3-h]イソキノリン

合成例 368 と同様の方法により 4-(メチルスルフィニル)ベンゾニトリルを用いて表題化合物を得た。収率 26 %。

融点 120-121 °C (酢酸エチル-ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.26 (6H, s), 1.32 (6H, s), 2.19 (2H, s), 2.70 (2H, s), 2.72 (3H, s), 3.93 (3H, s), 6.63 (1H, s), 7.58 (2H, d, J = 8.4 Hz), 7.70 (2H, d, J = 8.4 Hz)。

合成例 379

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-[4-(メチルスルホニル)フェニル]フロ[2,3-h]イソキノリン

合成例 368 と同様の方法により 4-(メチルスルホニル

ル)ベンゾニトリルを用いて表題化合物を得た。収率 52 %。

融点 189-190 °C (酢酸エチル-ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.26 (6H, s), 1.33 (6H, s), 2.18 (2H, s), 2.71 (2H, s), 3.04 (3H, s), 3.93 (3H, s), 6.63 (1H, s), 7.63 (2H, d, J = 8.4 Hz), 7.99 (2H, d, J = 8.4 Hz)。

合成例 380

1-(3-フラニル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン

合成例 368 と同様の方法により 3-フロニトリルを用いて表題化合物を得た。収率 31%。

融点 130-131 °C (酢酸エチル-ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.21 (6H, s), 1.40 (6H, s), 2.65 (4H, s), 3.92 (3H, s), 6.46 (1H, dd, J = 1.8, 0.8 Hz), 6.59 (1H, s), 7.44 (1H, dd, J = 1.8, 1.4 Hz), 7.59 (1H, dd, J = 1.4, 0.8 Hz)。

合成例 381

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-(3,4,5-トリメトキシフェニル)フロ[2,3-h]イソキノリン

合成例 368 と同様の方法により 3,4,5-トリメトキシベンゾニトリルを用いて表題化合物を得た。収率 45%。

融点 186-188 °C (酢酸エチル-ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.25 (6H, s), 1.34 (6H, s), 2.34 (2H, s), 2.69 (2H, s), 3.84 (3H, s), 3.86 (6H, s), 3.93 (3H, s), 6.61-6.62 (3H, m)。

【0349】合成例 382

1-[2,2'-ビピリジン]-6-イル-5-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)-2(1H)-ピリジノン

1-[2,2'-ビピリジン]-6-イル-1,6-ジヒドロ-6-オキソ-3-ピリジンカルボニトリル (2.06 g, 7.51 mmol) のトルエン (10 mL) 溶液に、氷冷下濃硫酸 (10 mL) を滴下した。2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-(2-メチル-1-プロペニル)ベンゾフラン (1.45 g, 6.26 mmol) のトルエン (10 mL) 溶液を滴下し、0°C で 10 分間攪拌した。反応混合物に氷を加え、水層を濃アンモニア水で中和、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (1% メタノール/酢酸エチルの後 5%) に供し、酢酸エチル-ヘキサンから再結晶して表題化合物 (0.43 g、収率 17%) を得た。

融点 231-234 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.22 (6H, s), 1.42 (6H, s), 2.66 (2H, s), 2.89 (2H, s), 3.94 (3H, s), 6.62 (1H, s), 6.76 (1H, dd, J = 9.2, 0.6 Hz), 7.32 (1H, ddd, J = 7.2, 4.8, 1.0 Hz), 7.62 (1H, dd, J = 9.2, 2.6 Hz), 7.80 (1H, ddd, J = 8.0, 7.2, 1.0 Hz), 7.91-8.0

2 (2H, m), 8.09 (1H, dd, J = 2.6, 0.6 Hz), 8.28 (1H, dt, J = 8.0, 1.0 Hz), 8.44 (1H, dd, J = 6.6, 2.2 Hz), 8.68 (1H, ddd, J = 4.8, 1.8, 1.0 Hz)。

合成例 383

1-(8-メチル-2-キノリニル)-5-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)-2(1H)-ピリジノン

合成例 382 と同様の方法により 1,6-ジヒドロ-1-(8-メチル-2-キノリニル)-6-オキソ-3-ピリジンカルボニトリルから表題化合物を得た。収率 29%。

融点 182-183 °C (酢酸エチル-ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.22 (6H, s), 1.45 (6H, s), 2.66 (2H, s), 2.74 (3H, s), 2.88 (2H, s), 3.93 (3H, s), 6.62 (1H, s), 6.74 (1H, dd, J = 9.2, 0.8 Hz), 7.47 (1H, dd, J = 7.6, 7.0 Hz), 7.56-7.62 (2H, m), 7.71 (1H, d, J = 7.6 Hz), 7.92 (1H, d, J = 8.8 Hz), 8.14 (1H, dd, J = 2.6, 0.8 Hz), 8.23 (1H, d, J = 8.8 Hz)。

合成例 384

1-(4-メチル-2-ピリジニル)-5-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)-2(1H)-ピリジノン

1,6-ジヒドロ-1-(4-メチル-2-ピリジニル)-6-オキソ-3-ピリジンカルボニトリル (3.22 g, 15.2 mmol) のトルエン (10 mL) 溶液に、氷冷下濃硫酸 (10 mL) を滴下した。2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-(2-メチル-1-プロペニル)ベンゾフラン (2.72 g, 11.7 mmol) のトルエン (10 mL) 溶液を滴下し、室温で 30 分間攪拌した。反応混合物に氷を加え、水層を濃アンモニア水で中和、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (1% メタノール/酢酸エチルの後 5%) に供し、さらに塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 1:1) に供し、酢酸エチル-ヘキサンから再結晶して表題化合物 (1.00 g、収率 19%) を得た。

融点 161-162 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.19 (6H, s), 1.45 (6H, s), 2.44 (3H, s), 2.64 (2H, s), 2.89 (2H, s), 3.92 (3H, s), 6.60 (1H, s), 6.68 (1H, d, J = 9.6 Hz), 7.13 (1H, ddd, J = 5.2, 1.6, 0.8 Hz), 7.55 (1H, dd, J = 9.6, 2.6 Hz), 7.70 (1H, d, J = 1.6 Hz), 8.00 (1H, d, J = 2.6 Hz), 8.38 (1H, d, J = 5.2 Hz)。

【0350】合成例 385

4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ピリジン 1-オキシド

4-シアノピリジン 1-オキシド (1.26 g, 10.0 mmol) のトルエン (5 mL) 溶液に、氷冷下濃硫酸 (5 mL) を滴下

した。2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-(2-メチル-1-プロペニル)ベンゾフラン (1.63 g, 7.00 mmol) のトルエン (5 mL) 溶液を滴下し、0 °C で 30 分間、さらに 80 °C で 30 分間攪拌した。反応混合物に氷を加え、水層を濃アンモニア水で中和、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー(酢酸エチル)に供し、酢酸エチル-ヘキサンから再結晶して表題化合物 (1.33g、収率 54%) を得た。

融点 197-199 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.23 (6H, s), 1.39 (6H, s), 2.41 (2H, s), 2.68 (2H, s), 3.94 (3H, s), 6.64 (1H, s), 7.38 (2H, d, J = 7.0 Hz), 8.25 (2H, d, J = 7.0 Hz)。

合成例 386

4-メチル-1-[4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)-2-ピリジニル]-2(1H)-キノリノン

4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ピリジン 1-オキシド (3.52 g, 10.0 mmol) および 2-クロロ-4-メチルキノリン (3.55 g, 20.0 mmol) のキシレン (30 mL) および酢酸 (6 mL) 溶液に 25% 臭化水素/酢酸溶液 (4 mL) を加え、4 時間加熱還流した。反応混合物に氷水を加え、水層を濃アンモニア水で中和、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー(ヘキサン/酢酸エチル 2:1)に供し、酢酸エチルから再結晶して表題化合物 (2.46 g、収率 50%) を得た。

融点 218-219 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.26 (6H, s), 1.40 (6H, s), 2.51 (3H, d, J = 1.0 Hz), 2.57 (2H, br s), 2.68 (2H, s), 3.91 (3H, s), 6.59 (1H, s), 6.61 (1H, d, J = 1.0 Hz), 6.64 (1H, dd, J = 8.4, 1.2 Hz), 7.17-7.25 (1H, m), 7.29-7.38 (2H, m), 7.61 (1H, dd, J = 5.2, 1.6 Hz), 7.70 (1H, dd, J = 8.0, 1.4 Hz), 8.82 (1H, dd, J = 5.2, 0.8 Hz)。

【0351】合成例 387

1-[4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)-2-ピリジニル]-2(1H)-ピリジノン

4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ピリジン 1-オキシド (5.00 g, 14.2 mmol) および 2-クロロピリジン (16.1 g, 142 mmol) のキシレン (45 mL) および酢酸 (9 mL) 溶液に 25% 臭化水素/酢酸溶液 (6 mL) を加え、8 時間加熱還流した。反応混合物に氷水を加え、水層を濃アンモニア水で中和、酢酸エチルで 2 回抽出し

た。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー(酢酸エチル)、続いて塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー(ヘキサン/酢酸エチル 1:1)に供し、酢酸エチルから再結晶して表題化合物 (1.55 g、収率 25%) を得た。

融点 223-224 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.25 (6H, s), 1.38 (6H, s), 2.54 (2H, br s), 2.69 (2H, s), 3.92 (3H, s), 6.24-6.32 (1H, m), 6.61 (1H, s), 6.61 (1H, ddd, J = 9.2, 1.4, 0.8 Hz), 7.34-7.43 (2H, m), 7.78 (1H, ddd, J = 6.8, 2.2, 0.8 Hz), 7.93 (1H, dd, J = 1.4, 0.6 Hz), 8.61 (1H, dd, J = 5.0, 0.6 Hz)。

合成例 388

4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)-2(1H)-ピリジノン

4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ピリジン 1-オキシド (0.90 g, 2.55 mmol) の無水酢酸 (5 mL) 溶液を 20 時間加熱還流した。反応混合物をメタノール (100 mL) に溶解し、濃アンモニア水 (20 mL) を加えて室温で 30 分間攪拌した。反応溶媒を減圧下で濃縮留去し、残渣に水を加えた。有機物をクロロホルムで抽出し、抽出液を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー(クロロホルムの後 2% メタノール/クロロホルム)に供し、酢酸エチル-ヘキサンから再結晶して表題化合物 (0.52 g、収率 58%) を得た。

融点 232-233 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.24 (6H, s), 1.40 (6H, s), 2.63 (2H, s), 2.69 (2H, s), 3.92 (3H, s), 6.35 (1H, dd, J = 6.6, 1.4 Hz), 6.60 (1H, d, J = 1.4 Hz), 6.61 (1H, s), 7.43 (1H, d, J = 6.6 Hz), 11.42 (1H, br s)。

合成例 389

1-(4-ピリジニルメチル)-4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)-2(1H)-ピリジノン

4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)-2(1H)-ピリジノン (1.06 g, 3.00 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (15 mL) 懸濁液に氷冷下、水素化ナトリウム (60% 油分散物) (0.360g, 9.00 mmol) を加えた後、室温で 30 分間攪拌した。4-(クロロメチル)ピリジン塩酸塩 (0.738 g, 4.50 mmol) を加え、さらに室温で 1 時間攪拌した。反応溶媒を減圧下で濃縮留去し、残渣に水を加えた。有機物を酢酸エチル抽出し、飽和塩化ナトリウム水

溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー（ヘキサン/酢酸エチル 1:1 の後酢酸エチル）に供し、酢酸エチル-ヘキサンから再結晶して、表題化合物（0.41 g、収率 31%）を得た。

融点 171-172 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.24 (6H, s), 1.40 (6H, s), 2.65 (2H, s), 2.67 (2H, s), 3.92 (3H, s), 5.18 (2H, br s), 6.28 (1H, dd, J = 7.0, 1.8 Hz), 6.61 (1H, s), 6.65 (1H, d, J = 1.8 Hz), 7.18 (2H, d, J = 6.0 Hz), 7.32 (1H, d, J = 7.0 Hz), 8.58 (2H, d, J = 6.0 Hz)。

【0352】合成例 390

1-(2-メトキシエチル)-4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)-2(1H)-ピリジノン

合成例 389 と同様の方法により 2-ブromoエチルメチルエーテルを用いて表題化合物を得た。収率 38%。

融点 85-87 °C（ヘキサン-酢酸エチル）。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.23 (6H, s), 1.39 (6H, s), 2.63 (2H, s), 2.67 (2H, s), 3.31 (3H, s), 3.66 (2H, t, J = 5.0 Hz), 3.92 (3H, s), 4.15 (2H, br s), 6.18 (1H, dd, J = 7.0, 1.8 Hz), 6.58 (1H, d, J = 1.8 Hz), 6.60 (1H, s), 7.39 (1H, d, J = 7.0 Hz)。

合成例 391

1-(2-ピリジニルメチル)-4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)-2(1H)-ピリジノン

合成例 389 と同様の方法により 2-(クロロメチル)ピリジン塩酸塩を用いて表題化合物を得た。収率 57%。

融点 165-166 °C（酢酸エチル-ヘキサン）。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.22 (6H, s), 1.38 (6H, s), 2.63 (2H, s), 2.66 (2H, s), 3.91 (3H, s), 5.26 (2H, br s), 6.23 (1H, dd, J = 7.0, 1.8 Hz), 6.58 (1H, d, J = 1.8 Hz), 6.59 (1H, s), 7.18-7.25 (1H, m), 7.42 (1H, d, J = 7.6 Hz), 7.58 (1H, d, J = 7.0 Hz), 7.66 (1H, td, J = 7.6, 1.8 Hz), 8.53 (1H, d, J = 4.8 Hz)。

合成例 392

2-オキソ-4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)-1(2H)-ピリジンアセトアミド

合成例 389 と同様の方法により 2-クロロアセトアミドを用いて表題化合物を主生成物として得た。収率 56%。

融点 251-252 °C（酢酸エチル-メタノール）。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.13 (6H, s), 1.29 (6H, s), 2.61 (4H, s), 3.81 (3H, s), 4.55 (2H, s), 6.14 (1H, dd, J = 7.0, 1.8 Hz), 6.22 (1H, d, J = 1.8 Hz), 6.80 (1H, s), 7.20 (1H, br s), 7.61 (1H, d, J = 7.0 Hz),

7.65 (1H, br s)。

合成例 393

N-(2-アミノ-2-オキソエチル)-2-オキソ-4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)-1(2H)-ピリジンアセトアミド
合成例 392 において、表題化合物を副生成物として得た。収率 10%。

融点 166-168 °C（酢酸エチル）。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.13 (6H, s), 1.29 (6H, s), 2.61 (4H, s), 3.68 (2H, d, J = 5.6 Hz), 3.81 (3H, s), 4.63 (2H, s), 6.19 (1H, dd, J = 6.8, 1.8 Hz), 6.25 (1H, d, J = 1.8 Hz), 6.80 (1H, s), 7.14 (1H, br s), 7.30 (1H, br s), 7.66 (1H, d, J = 6.8 Hz), 8.47 (1H, t, J = 5.6 Hz)。

【0353】合成例 394

1-(3-ピリジニルメチル)-4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)-2(1H)-ピリジノン

合成例 389 と同様の方法により 3-(クロロメチル)ピリジン塩酸塩を用いて表題化合物を得た。収率 56%。

融点 126-128 °C（酢酸エチル-ヘキサン）。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.22 (6H, s), 1.39 (6H, s), 2.63 (2H, s), 2.66 (2H, s), 3.92 (3H, s), 5.19 (2H, br s), 6.25 (1H, dd, J = 6.8, 1.8 Hz), 6.60 (1H, s), 6.62 (1H, d, J = 1.8 Hz), 7.28 (1H, dd, J = 8.0, 4.8 Hz), 7.35 (1H, d, J = 6.8 Hz), 7.72 (1H, d, J = 8.0 Hz), 8.57 (1H, dd, J = 4.8, 1.6 Hz), 8.61 (1H, d, J = 1.6 Hz)。

合成例 395

1-メチル-4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)-2(1H)-ピリジノン

合成例 389 と同様の方法によりヨードメタンを用いて表題化合物を得た。収率 62%。

融点 180-181 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.22 (6H, s), 1.40 (6H, s), 2.64 (2H, s), 2.66 (2H, s), 3.58 (3H, s), 3.92 (3H, s), 6.23 (1H, dd, J = 7.0, 1.8 Hz), 6.58 (1H, d, J = 1.8 Hz), 6.60 (1H, s), 7.33 (1H, d, J = 7.0 Hz)。

合成例 396

1-(2-キノリニルメチル)-4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)-2(1H)-ピリジノン

合成例 389 と同様の方法により 2-(クロロメチル)キノリン塩酸塩を用いて表題化合物を得た。収率 55%。

融点 189-190 °C（酢酸エチル-ヘキサン）。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.22 (6H, s), 1.37 (6H, s), 2.65 (4H, s), 3.91 (3H, s), 5.47 (2H, br s), 6.24 (1H, d, J = 6.8, 1.8 Hz), 6.59 (1H, s), 6.63 (1H, d, J = 1.8 Hz), 7.51 (1H, d, J = 8.4 Hz), 7.49-7.59 (1

H, m), 7.60 (1H, d, J = 6.8 Hz), 7.68-7.77 (1H, m), 7.82 (1H, d, J = 8.4 Hz), 8.03 (1H, d, J = 8.4 Hz), 8.14 (1H, d, J = 8.4 Hz)。

合成例 397

2-[2-[2-オキソ-4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)-1(2H)-ピリジニル]エチル]-1H-イソインドール-1,3(2H)-ジオン

合成例 389 と同様の方法により N-(2-プロモエチル)フタルイミドを用いて表題化合物を得た。収率 14%。

融点 226-228 °C (酢酸エチル-メタノール)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.19 (6H, s), 1.50 (6H, s), 2.65 (2H, s), 2.71 (2H, s), 3.92 (3H, s), 4.13 (2H, br s), 4.26 (2H, br s), 6.15 (1H, dd, J = 7.0, 1.8 Hz), 6.51 (1H, d, J = 1.8 Hz), 6.58 (1H, s), 7.14 (1H, d, J = 7.0 Hz), 7.72-7.84 (4H, m)。

【0354】合成例 398

1-[2-(ジメチルアミノ)エチル]-4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)-2(1H)-ピリジノン

合成例 389 と同様の方法により 2-(ジメチルアミノ)エチルクロリド塩酸塩を用いて表題化合物を得た。収率 9%。

融点 111-113 °C (酢酸エチル-ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.23 (6H, s), 1.38 (6H, s), 2.28 (6H, s), 2.62 (2H, t, J = 6.6 Hz), 2.63 (2H, s), 2.67 (2H, s), 3.92 (3H, s), 4.05 (2H, t, J = 6.6 Hz), 6.19 (1H, dd, J = 7.0, 1.8 Hz), 6.56 (1H, d, J = 1.8 Hz), 6.60 (1H, s), 7.35 (1H, d, J = 7.0 Hz)。

合成例 399

1-(フェニルメチル)-4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)-2(1H)-ピリジノン

合成例 389 と同様の方法によりベンジルブロミドを用いて表題化合物を得た。収率 68%。

融点 170-172 °C (酢酸エチル-ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.22 (6H, s), 1.38 (6H, s), 2.63 (2H, s), 2.66 (2H, s), 3.91 (3H, s), 5.18 (2H, br s), 6.19 (1H, dd, J = 7.0, 1.8 Hz), 6.59 (1H, s), 6.62 (1H, d, J = 1.8 Hz), 7.30-7.33 (6H, m)。

合成例 400

4-[[2-オキソ-4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)-1(2H)-ピリジニル]メチル]安息香酸 メチルエステル

合成例 389 と同様の方法により 4-(プロモメチル)安息香酸 メチルエステルを用いて表題化合物を得た。収率 73%。

融点 193-194 °C (酢酸エチル-ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.23 (6H, s), 1.39 (6H, s), 2.64 (2H, s), 2.67 (2H, s), 3.92 (6H, s), 5.23 (2H, br

s), 6.24 (1H, dd, J = 7.0, 1.8 Hz), 6.60 (1H, s), 6.63 (1H, d, J = 1.8 Hz), 7.32 (1H, d, J = 7.0 Hz), 7.36 (2H, d, J = 8.4 Hz), 8.01 (2H, d, J = 8.4 Hz)。

合成例 401

N-(2-ヒドロキシエチル)-4-[[2-オキソ-4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)-1(2H)-ピリジニル]メチル]ベンズアミド

10 4-[[2-オキソ-4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)-1(2H)-ピリジニル]メチル]安息香酸 メチルエステル (1.32 g, 2.64 mmol) および 2-アミノエタノール (2 mL, 33.1 mmol) のキシレン (10 mL) 溶液を 7 時間加熱還流した。反応混合物に氷水を加え、クロロホルムで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (酢酸エチル/メタノール 19:1 の後 9:1) に供し、酢酸エチル-メタノールから再結晶して表題化合物 (0.81 g, 収率 58%) を得た。

融点 220-222 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.22 (6H, s), 1.40 (6H, s), 2.64 (2H, s), 2.66 (2H, s), 3.48-3.59 (3H, m), 3.76 (2H, t, J = 5.0 Hz), 3.92 (3H, s), 5.18 (2H, brs), 6.26 (1H, dd, J = 7.0, 1.8 Hz), 6.60 (1H, s), 6.63 (1H, d, J = 1.8 Hz), 7.07 (1H, br t, J = 5.5 Hz), 7.30 (2H, d, J = 8.4 Hz), 7.35 (1H, d, J = 7.0 Hz), 7.74 (2H, d, J = 8.4 Hz)。

30 【0355】合成例 402

4-[[2-オキソ-4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)-1(2H)-ピリジニル]メチル]-N-(4-ピリジニル)ベンズアミド

4-[[2-オキソ-4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)-1(2H)-ピリジニル]メチル]安息香酸 メチルエステル (2.78 g, 5.55 mmol) を 1 M 水酸化ナトリウム水溶液 (30 mL) に溶解させ、30 分間加熱還流した。反応液を室温まで冷却後、2 M 塩酸 (30 mL) 加えた。溶媒を減圧下で濃縮留去し、エタノールで希釈した。生じた不溶物を濾過し、エタノールを減圧下で濃縮留去した。この操作を 2 回繰り返すことにより、4-[[2-オキソ-4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)-1(2H)-ピリジニル]メチル]安息香酸塩酸塩 (2.90 g, 定量的) を得た。得られた 4-[[2-オキソ-4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)-1(2H)-ピリジニル]メチル]安息香酸塩酸塩 (1.20 g, 2.29 mmol)、4-アミノピリジン (0.259 g, 2.75 mmol)

ol) および 1-ヒドロキシ-1H-ベンゾトリアゾール-水
和物 (0.701 g, 4.58 mmol) の N,N-ジメチルホルムア
ミド (10 mL) 溶液に、氷冷下 1-エチル-3-(3-ジメチル
アミノプロピル)カルボジイミド塩酸塩 (0.483 g, 2.52
mmol) を加え、同温で 1 時間さらに室温で 30 時間攪
拌した。反応溶媒を減圧下で濃縮留去し、残渣に水酸化
ナトリウム水溶液を注いだ。有機物を酢酸エチルで抽出
し、抽出液を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナ
トリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性
シリカゲルカラムクロマトグラフィー (1% メタノール/
酢酸エチルの後 2%) に供し、酢酸エチル-ヘキサンか
ら結晶化させて表題化合物 (0.15 g, 収率 12%) を得
た。

融点 144-146 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.23 (6H, s), 1.39 (6H, s), 2.63
(2H, s), 2.67 (2H, s), 3.92 (3H, s), 5.20 (2H, br
s), 6.29 (1H, dd, J = 6.8, 1.8 Hz), 6.61 (2H, s),
7.32 (2H, d, J = 8.4 Hz), 7.38 (1H, d, J = 6.8 Hz),
7.70 (2H, dd, J = 4.8, 1.8 Hz), 7.84 (2H, d, J
= 8.4 Hz), 8.51 (2H, dd, J = 4.8, 1.8 Hz), 9.06 (1
H, br s)。

合成例 403

2-オキソ-4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,
8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)-1(2
H)-ピリジン酢酸 1,1-ジメチルエチルエステル

合成例 389 と同様の方法によりブromo酢酸 tert-ブチ
ルを用いて表題化合物を得た。収率 80%。

融点 166-168 °C (ジエチルエーテル-ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.23 (6H, s), 1.40 (6H, s), 1.49
(9H, s), 2.67 (2H, s), 2.68 (2H, s), 3.92 (3H, s),
4.57 (2H, s), 6.25 (1H, dd, J = 7.0, 1.8 Hz), 6.59
(1H, d, J = 1.8 Hz), 6.59 (1H, s), 7.25 (1H, d, J
= 7.0 Hz)。

【0356】合成例 404

2-オキソ-4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,
8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)-1(2
H)-ピリジン酢酸塩酸塩

2-オキソ-4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,
8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)-1(2
H)-ピリジン酢酸 1,1-ジメチルエチルエステル (10.1
g, 21.6 mmol) を 6 M 塩酸 (25 mL) に溶解させ、1 時
間加熱還流した。反応液を室温まで冷却後、反応溶媒を
減圧下で濃縮留去して、表題化合物 (9.60 g, 99%) を
得た。

非晶質。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.41 (6H, s), 1.53 (6H, s), 2.68
(2H, s), 2.98 (2H, s), 3.98 (3H, s), 4.71 (2H, br
s), 6.24 (1H, br s), 6.35 (1H, d, J = 7.0 Hz), 6.7
0 (2H, s), 7.72 (1H, d, J = 7.0 Hz)。

合成例 405

2-オキソ-N-(3-ピリジニル)-4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-
6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノ
リン-1-イル)-1(2H)-ピリジンアセトアミド

2-オキソ-4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,
8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)-1(2
H)-ピリジン酢酸塩酸塩 (1.20 g, 2.68 mmol)、3-アミ
ノピリジン (0.303 g, 3.22 mmol) および 1-ヒドロキ
シ-1H-ベンゾトリアゾール-水和水物 (0.821 g, 5.36 mm
ol) の N,N-ジメチルホルムアミド (10 mL) 溶液に、氷
冷下 1-エチル-3-(3-ジメチルアミノプロピル)カルボジ
イミド塩酸塩 (0.566 g, 2.95 mmol) を加え、同温で 1
時間さらに室温で 3 時間攪拌した。反応溶媒を減圧下
で濃縮留去し、残渣に水酸化ナトリウム水溶液を注い
だ。有機物を酢酸エチルで抽出し、抽出液を飽和塩化ナ
トリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ
過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロ
マトグラフィー (5% メタノール/酢酸エチル) に供し、
酢酸エチル-メタノールから再結晶して表題化合物 (0.
51 g, 収率 39%) を得た。

融点 251-253 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.23 (6H, s), 1.40 (6H, s), 2.63
(2H, s), 2.68 (2H, s), 3.93 (3H, s), 4.80 (2H, br
s), 6.42 (1H, dd, J = 7.0, 1.8 Hz), 6.62 (1H, s),
6.75 (1H, d, J = 1.8 Hz), 7.20 (1H, dd, J = 8.4,
4.6 Hz), 7.52 (1H, d, J = 7.0 Hz), 7.94 (1H, ddd,
J = 8.4, 1.8, 1.4 Hz), 8.31 (1H, dd, J = 4.6, 1.4 Hz),
8.64 (1H, d, J = 1.8 Hz), 9.82 (1H, br s)。

【0357】合成例 406

2-オキソ-N-(5-キノリニル)-4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-
6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノ
リン-1-イル)-1(2H)-ピリジンアセトアミド

合成例 405 と同様の方法により 5-アミノキノリンを
用いて表題化合物を得た。収率 10%。

融点 136-138 °C (酢酸エチル-ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.22 (6H, s), 1.31 (6H, s), 2.59
(2H, s), 2.66 (2H, s), 3.92 (3H, s), 4.89 (2H, br
s), 6.48 (1H, dd, J = 6.8, 1.8 Hz), 6.61 (1H, s),
6.80 (1H, d, J = 1.8 Hz), 7.47 (1H, dd, J = 8.8,
4.0 Hz), 7.58 (1H, d, J = 6.8 Hz), 7.70 (1H, t, J
= 8.4 Hz), 7.93 (1H, d, J = 8.4 Hz), 8.21 (1H, d,
J = 8.8 Hz), 8.47 (1H, d, J = 8.4 Hz), 8.93 (1H, d
d, J = 4.0, 1.2 Hz), 10.21 (1H, br s)。

合成例 407

1-(2-キノリニル)-5-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキ
シ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-
イル)-2(1H)-ピリジノン

1-(6-クロロ-3-ピリジニル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-
メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリ
ン (0.78 g, 2.10 mmol) およびキノリン 1-オキシドー
水和水物 (3.05 g, 21.0 mmol) のトルエン (5 mL) およ

び酢酸 (5 mL) 溶液に 25% 臭化水素/酢酸溶液 (1 mL) を加え、20 時間加熱還流した。反応混合物に氷水を加え、水層を濃アンモニア水で中和、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 2:1) に供し、酢酸エチルから再結晶して表題化合物 (0.41 g、収率 41%) を得た。融点 191-192 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.21 (6H, s), 1.52 (6H, s), 2.65 (2H, s), 2.98 (2H, s), 3.94 (3H, s), 6.62 (1H, s), 6.74 (1H, d, J = 9.2 Hz), 7.55-7.63 (1H, m), 7.64 (1H, dd, J = 9.2, 2.6 Hz), 7.69-7.77 (1H, m), 7.88 (1H, dd, J = 8.0, 1.4 Hz), 7.92 (1H, d, J = 8.8 Hz), 8.04 (1H, dd, J = 8.0, 1.4 Hz), 8.12 (1H, d, J = 2.2 Hz), 8.26 (1H, d, J = 8.8 Hz)。

合成例 408

1-(1-イソキノリニル)-5-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)-2(1H)-ピリジノン

合成例 407 と同様の方法によりイソキノリン 2-オキシドを用いて表題化合物を得た。収率 40%。

融点 147-149 °C (酢酸エチル-ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.16 (3H, s), 1.23 (3H, s), 1.41 (3H, s), 1.55 (3H, s), 2.63 (2H, s), 2.75 (1H, d, J = 16.0 Hz), 3.22 (1H, d, J = 16.0 Hz), 3.90 (3H, s), 6.58 (1H, s), 6.78 (1H, d, J = 9.6 Hz), 7.62-7.80 (6H, m), 7.92 (1H, d, J = 8.4 Hz), 8.46 (1H, d, J = 5.8 Hz)。

【0358】合成例 409

1-[4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)-2-ピリジニル]-2(1H)-キノリノン

4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ピリジン 1-オキシド (0.95 g, 2.7 mmol)、2-クロロキノリン (1.8 g, 11 mmol)、25% 臭化水素/酢酸溶液 (0.7 mL) および酢酸 (6.0 mL) のトルエン (8.8 mL) 溶液を 1 時間加熱還流した。反応液を室温まで冷却後、反応混合物を水に注いだ。濃アンモニア水で弱アルカリ性にした後、有機物を酢酸エチルで抽出した。抽出液を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄した後、硫酸ナトリウムで乾燥し、減圧下で溶媒を留去した。得られた残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (酢酸エチル/ヘキサン 2:1 の後 1:1) で精製して、粗結晶を得た。得られた粗結晶を酢酸エチル-ヘキサンより再結晶し、表題化合物 (0.72 g、収率 56%) を得た。

融点 190-191 °C。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.18 (6H, s), 1.24 (6H, s), 2.51 (2H, s), 2.67 (2H, s), 3.80 (3H, s), 6.48 (1H,

d, J=8.8Hz), 6.68 (1H, d, J=9.6Hz), 6.80 (1H, s), 7.26 (1H, t, J=7.2Hz), 7.40-7.48 (2H, m), 7.64 (1H, dd, J=4.9, 1.6Hz), 7.79 (1H, d, J=7.6Hz), 8.05 (1H, d, J=9.6Hz), 8.80 (1H, d, J=4.9Hz)。

合成例 410

1,6-ジヒドロ-6-オキシノ-1-[4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)-2-ピリジニル]-3-ピリジンカルボキサミド

合成例 409 と同様の方法により、6-クロロニコチンアミドを用いて表題化合物を得た。収率 31%。

非晶質。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.26 (6H, s), 1.38 (6H, s), 2.05 (2H, s), 2.69 (2H, s), 3.93 (3H, s), 6.12 (2H, br), 6.59 (1H, d, J=9.6Hz), 6.62 (1H, s), 7.42 (1H, d, J=5.0Hz), 7.78 (1H, dd, J=9.6, 2.6Hz), 7.90 (1H, s), 8.49 (1H, d, J=2.6Hz), 8.59 (1H, d, J=5.0Hz)。

合成例 411

1-(2-クロロ-4-ピリジニル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン

4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ピリジン 1-オキシド (2.4 g, 6.8 mmol) のオキシ塩化リン (20 mL, 210 mmol) 溶液を 30 分加熱還流した。反応液を室温まで冷却後、氷水に注いだ。水酸化ナトリウム水溶液を加えてアルカリ性にした後、有機物を酢酸エチルで抽出した。抽出液を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄した後、硫酸ナトリウムで乾燥し、減圧下で溶媒を留去した。得られた残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 5:1 の後 3:1) で精製して、粗結晶を得た。得られた粗結晶を酢酸エチル-ヘキサンから再結晶し、主生成物として表題化合物 (0.84 g、収率 33%) を得た。

融点 139-140 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.26 (6H, s), 1.37 (6H, s), 2.30 (2H, s), 2.70 (2H, s), 3.93 (3H, s), 6.64 (1H, s), 7.27 (1H, dd, J=5.2, 0.8Hz), 7.43 (1H, d, J=0.8Hz), 8.44 (1H, d, J=5.2Hz)。

【0359】合成例 412

1-(3-クロロ-4-ピリジニル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン

合成例 411 において、表題化合物を副生成物として得た。収率 8%。

融点 126-128 °C (ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.23 (3H, s), 1.30 (3H, s), 1.35 (3H, s), 1.38 (3H, s), 2.05 (2H, s), 2.69 (1H, d, J = 15.7Hz), 2.80 (1H, d, J = 15.7Hz), 3.92 (3H, s), 6.62 (1H, s), 7.31 (1H, d, J = 4.8Hz), 8.58 (1H,

d, J = 4.8 Hz), 8.63 (1H, s).

合成例 4 1 3

2-[2-オキシ-4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)-1(2H)-ピリジニル]-4-ピリジニルカルボキサミド

1-(2-クロロ-4-ピリジニル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン (1.0 g, 2.7 mmol)、4-ピリジニルカルボキサミド 1-オキシド (2.9 g, 21 mmol)、25% 臭化水素/酢酸溶液 (1.0 mL) および酢酸 (5.6 mL) のキシレン (10 mL) 溶液を 9 時間加熱還流した。反応液を室温まで冷却後、反応混合物を水に注いだ。8 M 水酸化ナトリウム水溶液を加えて弱アルカリ性にした後、有機物を酢酸エチルで抽出した。抽出液を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄した後、硫酸ナトリウムで乾燥し、減圧下で溶媒を留去した。得られた残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (クロロホルム/メタノール 50:1 の後 20:1) で精製して、粗結晶を得た。得られた粗結晶を酢酸エチル-ジイソプロピルエーテルより再結晶し、表題化合物 (0.22 g, 収率 17%) を得た。

融点 174-175 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.26 (6H, s), 1.43 (6H, s), 2.69 (2H, s), 2.76 (2H, s), 3.93 (3H, s), 6.12 (1H, br), 6.43 (1H, d, J=7.3 Hz), 6.63 (1H, s), 6.68 (1H, s), 7.16-7.39 (1H, br), 7.78 (1H, d, J=4.4 Hz), 8.01 (1H, d, J=7.3 Hz), 8.33 (1H, s), 8.67 (1H, d, J=4.4 Hz)。

合成例 4 1 4

1-(2-ピリジニル)-4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)-2(1H)-ピリジノン

合成例 4 1 3 と同様の方法により、ピリジン 1-オキシドを用いて表題化合物を得た。収率 56%。

非晶質。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.25 (6H, s), 1.42 (6H, s), 2.69 (2H, s), 2.78 (2H, s), 3.93 (3H, s), 6.39 (1H, dd, J=7.1, 1.8 Hz), 6.62-6.67 (2H, m), 7.30-7.37 (1H, m), 7.80-7.89 (1H, m), 7.96-8.00 (2H, m), 8.57-8.60 (1H, m)。

合成例 4 1 5

1-(2-キノリニル)-4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)-2(1H)-ピリジノン

合成例 4 1 3 と同様の方法により、キノリン 1-オキシドを用いて表題化合物を得た。収率 24%。

融点 175-176 °C (酢酸エチル-ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.26 (6H, s), 1.44 (6H, s), 2.70 (2H, s), 2.82 (2H, s), 3.94 (3H, s), 6.45 (1H, dd, J=7.4, 1.8 Hz), 6.63 (1H, s), 6.70 (1H, d, J=1.4 Hz), 7.61 (1H, td, J=7.6, 1.2 Hz), 7.77 (1H, td, J=

8.4, 1.4 Hz), 7.90 (1H, d, J=8.4 Hz), 7.99-8.16 (3H, m), 8.27 (1H, d, J=8.8 Hz)。

【0360】合成例 4 1 6

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-1-(4-メトキシフェニル)-3,3-ジメチルフロ[2,3-h]イソキノリン

合成例 1 と同様の方法により、4-アニソニトリルと 2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-5-(2-メチル-1-プロペニル)ベンゾフランから表題化合物を得た。収率 49%。

融点 147-148 °C (酢酸エチル-ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.23 (6H, s), 2.46 (2H, t, J = 8.8 Hz), 2.68 (2H, s), 3.87 (3H, s), 3.93 (3H, s), 4.37 (2H, t, J = 8.8 Hz), 6.61 (1H, s), 6.91 (2H, d, J = 8.7 Hz), 7.34 (2H, d, J = 8.7 Hz)。

合成例 4 1 7

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,9,9-テトラメチル-1-フェニルフロ[2,3-h]イソキノリン

合成例 1 と同様の方法により、ベンゾニトリルと 2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-3,3-ジメチル-5-(2-メチル-1-プロペニル)ベンゾフランから表題化合物を得た。収率 1.4

20 %。

融点 142-143 °C (ヘキサン-ジエチルエーテル)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 0.78 (6H, s), 1.18 (6H, s), 2.61 (2H, s), 3.93 (3H, s), 4.03 (2H, s), 6.65 (1H, s), 7.32-7.44 (5H, m)。

合成例 4 1 8

3,3-ジエチル-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-8,8-ジメチル-1-フェニルフロ[2,3-h]イソキノリン塩酸塩

合成例 3 0 6 と同様の方法により、ベンゾニトリルと 5-(2-エチル-1-ブテニル)-2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチルベンゾフランから表題化合物を得た。収率 36 %。

融点 178-179 °C (酢酸エチル)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.07 (6H, t, J = 7.8 Hz), 1.33 (6H, s), 1.94-2.18 (4H, m), 2.22 (2H, s), 3.07 (2H, s), 4.01 (3H, s), 6.76 (1H, s), 7.57-7.67 (5H, m)。

合成例 4 1 9

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フロ[2,3-h]イソキノリンカルボン酸 メチルエステル

40

合成例 1 と同様の方法により、シアノギ酸メチルを用いて表題化合物を得た。収率 16%。

融点 161-162 °C (クロロホルム-ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.25 (6H, s), 1.49 (6H, s), 2.65 (2H, s), 2.94 (2H, s), 3.91 (3H, s), 3.93 (3H, s), 6.55 (1H, s)。

合成例 4 2 0

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フロ[2,3-h]イソキノリンカルボン酸塩酸塩

50

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル

ル-1-フロ[2,3-h]イソキノリンカルボン酸 メチルエステル (1.49 g, 4.69 mmol) のメタノール (5 mL) 溶液に 5 M 水酸化ナトリウム水溶液を加え、混合物を 60 °C で 5 時間撹拌した。反応液を 5 M 塩酸で酸性にし、減圧濃縮した。残渣にエタノールを加えてろ過し、ろ液を減圧濃縮する操作を 3 回繰り返して、表題化合物 (1.50 g、収率 94%) を得た。

非晶質。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.35 (6H, s), 1.41 (6H, s), 3.02 (2H, s), 3.17 (2H, s), 3.91 (3H, s), 6.99 (1H, s)。

【0361】合成例 4 2 1

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-N-[2-(4-ピリジニル)エチル]-1-フロ[2,3-h]イソキノリンカルボキサミド

合成例 1 5 9 と同様の方法により、3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フロ[2,3-h]イソキノリンカルボン酸塩酸塩および 4-(2-アミノエチル)ピリジンから、表題化合物を得た。収率 42%。

融点 160-161 °C (ジイソプロピルエーテル-ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.15 (6H, s), 1.47 (6H, s), 2.59 (2H, s), 2.93 (2H, t, J=7.0 Hz), 3.02 (2H, s), 3.68 (2H, q, J=7.0 Hz), 3.89 (3H, s), 6.52 (1H, s), 6.93-7.02 (1H, m), 7.22 (2H, d, J=6.0 Hz), 8.55 (2H, d, J=6.0 Hz)。

合成例 4 2 2

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-N-フェニル-1-フロ[2,3-h]イソキノリンカルボキサミド

合成例 1 5 9 と同様の方法により、3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フロ[2,3-h]イソキノリンカルボン酸塩酸塩およびアニリンから、表題化合物を得た。収率 60%。

融点 175-176 °C (酢酸エチル-ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.22 (6H, s), 1.48 (6H, s), 2.63 (2H, s), 3.21 (2H, s), 3.91 (3H, s), 6.55 (1H, s), 7.14 (1H, t, J=7.4 Hz), 7.38 (2H, d, J=7.4 Hz), 7.68 (2H, d, J=7.4 Hz), 8.84 (1H, s)。

合成例 4 2 3

N-(1-アザビシクロ[2.2.2]オクト-3-イル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フロ[2,3-h]イソキノリンカルボキサミド

合成例 1 5 9 と同様の方法により、3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フロ[2,3-h]イソキノリンカルボン酸塩酸塩および 3-アミノ-1-アザビシクロ[2.2.2]オクタンから、表題化合物を得た。収率 60%。

融点 139-142 °C (酢酸エチル-ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.17 (3H, s), 1.19 (3H, s), 1.48

(6H, s), 1.62-1.86 (4H, m), 2.02-2.10 (1H, m), 2.58-2.66 (1H, m), 2.59 (2H, s), 2.80-2.98 (4H, m), 3.14 (2H, s), 3.35-3.49 (1H, m), 3.89 (3H, s), 3.97-4.08 (1H, m), 6.52 (1H, s), 6.96 (1H, d, J=7.2 Hz)。

合成例 4 2 4

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3-ジメチル-1-(2-チエニル)フロ[2,3-h]イソキノリン

合成例 3 6 8 と同様の方法により 2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-5-(2-メチル-1-プロペニル)ベンゾフランおよび 2-チオフェンカルボニトリルを用いて表題化合物を得た。

収率 23%。

融点 122-125 °C (ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.23 (6H, s), 2.67 (2H, s), 2.73 (2H, t, J = 8.6 Hz), 3.93 (3H, s), 4.43 (2H, t, J = 8.6 Hz), 6.60 (1H, s), 7.01-7.09 (2H, m), 7.35 (1H, dd, J = 5.0, 1.4 Hz)。

【0362】合成例 4 2 5

3',4'-ジヒドロ-6'-メトキシ-3',3'-ジメチル-1'-フェニルスピロ[シクロペンタン-1,8'(9'H)-フロ[2,3-h]イソキノリン]

ベンゾニトリル (0.700 g, 6.50 mmol) のトルエン (5 mL) および酢酸 (5 mL) 溶液に氷冷下濃硫酸 (0.6 mL) を滴下した。氷浴を取り除き、7-メトキシ-5-(2-メチル-1-プロペニル)スピロ[ベンゾフラン-2(3H),1'-シクロペンタン] (1.29 g, 5.00 mmol) のトルエン (5 mL) 溶液を加え、80 °C で 1 時間撹拌した。反応混合物に氷を加え、水層を濃アンモニア水で中和、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィ- (ヘキサン/酢酸エチル 10:1) に供し、酢酸エチル-ヘキサンから再結晶して表題化合物 (0.87 g、収率 48%) を得た。

融点 130-131 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.25 (6H, s), 1.43-2.05 (8H, m), 2.32 (2H, s), 2.69 (2H, s), 3.91 (3H, s), 6.60 (1H, s), 7.38 (5H, s)。

合成例 4 2 6

3',4'-ジヒドロ-6'-メトキシ-3',3'-ジメチル-1'-(2-チエニル)スピロ[シクロペンタン-1,8'(9'H)-フロ[2,3-h]イソキノリン]

合成例 4 2 5 と同様の方法により 2-チオフェンカルボニトリルを用いて表題化合物を得た。収率 28%。

融点 142-143 °C (酢酸エチル-ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.22 (6H, s), 1.54-2.10 (8H, m), 2.65 (2H, s), 2.67 (2H, s), 3.92 (3H, s), 6.59 (1H, s), 7.03 (1H, dd, J = 5.0, 3.6 Hz), 7.07 (1H, d, J = 3.6, 1.4 Hz), 7.35 (1H, dd, J = 5.0, 1.4 Hz)。

合成例 4 2 7

4-[3',4'-ジヒドロ-6'-メトキシ-3',3'-ジメチルスピロ[シクロペンタン-1,8'(9'H)-フロ[2,3-h]イソキノリン]-1'-イル]ピリジン 1-オキシド

合成例 4 2 5 と同様の方法により 4-シアノピリジン 1-オキシドを用いて表題化合物を得た。収率 12%。

融点 205-207 °C (酢酸エチル-ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.23 (6H, s), 1.47-2.09 (8H, m), 2.56 (2H, s), 2.67 (2H, s), 3.92 (3H, s), 6.62 (1H, s), 7.39 (2H, d, J = 5.0 Hz), 8.24 (2H, d, J = 5.0 Hz)。

【0363】合成例 4 2 8

8,8-ジエチル-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3-ジメチル-1-フェニルフロ[2,3-h]イソキノリン塩酸塩ベンゾニトリル (0.670 g, 6.50 mmol) のトルエン (5 mL) および酢酸 (5 mL) 溶液に氷冷下濃硫酸 (0.6 mL) を滴下した。氷浴を取り除き、2,2-ジエチル-2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-5-(2-メチル-1-プロペニル)ベンゾフラン (1.30 g, 5.00 mmol) のトルエン (5 mL) 溶液を加え、80 °C で 1 時間攪拌した。反応混合物に氷を加え、水層を濃アンモニア水で中和、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 10:1) に供し、表題化合物の遊離塩基を得た。これに 3.35M 塩化水素/エタノール溶液 (9.61 mL) を加え、減圧濃縮した。残渣をジエチルエーテルから結晶化させ、酢酸エチルから再結晶して表題化合物 (0.69 g, 収率 35%) を得た。

融点 167-169 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 0.78 (6H, t, J = 7.4 Hz), 1.58 (2H, q, J = 7.4 Hz), 1.60 (2H, q, J = 7.4 Hz), 1.70 (6H, s), 2.20 (2H, s), 3.02 (2H, s), 4.02 (3H, s), 6.73 (1H, s), 7.28-7.72 (5H, m)。

合成例 4 2 9

8,8-ジエチル-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3-ジメチル-1-(2-チエニル)フロ[2,3-h]イソキノリン塩酸塩

合成例 4 2 8 と同様の方法により 2-チオフェンカルボニトリルを用いて表題化合物を得た。収率 20%。

融点 152-154 °C (酢酸エチル-ジエチルエーテル)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 0.84 (6H, t, J = 7.4 Hz), 1.60-1.72 (4H, m), 1.66 (6H, s), 2.56 (2H, s), 2.98 (2H, s), 4.02 (3H, s), 6.71 (1H, s), 7.29 (1H, dd, J = 4.8, 3.8 Hz), 7.81 (1H, dd, J = 4.8, 1.2 Hz), 8.06 (1H, dd, J = 3.8, 1.2 Hz)。

合成例 4 3 0

4-(8,8-ジエチル-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3-ジメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ピリジン 1-オキシド塩酸塩

合成例 4 2 8 と同様の方法により 4-シアノピリジン 1-オキシドを用いて表題化合物を得た。収率 4%。

融点 184-186 °C (酢酸エチル)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 0.84 (6H, t, J = 7.4 Hz), 1.60-1.73 (4H, m), 1.67 (6H, s), 2.43 (2H, s), 3.03 (2H, s), 4.04 (3H, s), 6.75 (1H, s), 7.74 (2H, d, J = 6.8 Hz), 8.34 (2H, d, J = 6.8 Hz)。

【0364】合成例 4 3 1

1-(6-メチル-2-キノリニル)-5-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)-2(1H)-ピリジノン

N-[2-(2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフラン)-1,1-ジメチルエチル]-1,6-ジヒドロ-1-(6-メチル-2-キノリニル)-6-オキソ-3-ピリジンカルボキサミド (0.70 g, 1.4 mmol) のオキシ塩化リン (5.0 mL, 54 mmol) 溶液を 4.5 時間加熱還流した。反応液を室温まで冷却後、反応混合物を水に注いだ。8M 水酸化ナトリウム水溶液を加えて弱アルカリ性にした後、有機物を酢酸エチルで抽出した。抽出液を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄した後、硫酸ナトリウムで乾燥し、減圧下で溶媒を留去した。得られた残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 2:1 の後 1:1) で精製して、粗結晶を得た。得られた粗結晶をヘキサソージイソプロピルエーテルより再結晶し、表題化合物 (0.13 g, 収率 19%) を得た。

融点 201-202 °C (ヘキサソージイソプロピルエーテル)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.21 (6H, s), 1.51 (6H, s), 2.56 (3H, s), 2.65 (2H, s), 2.98 (2H, s), 3.94 (3H, s), 6.62 (1H, s), 6.73 (1H, d, J = 9.4 Hz), 7.55 (1H, dd, J = 8.8, 1.8 Hz), 7.61-7.67 (2H, m), 7.87 (1H, d, J = 8.8 Hz), 7.92 (1H, d, J = 8.6 Hz), 8.10 (1H, d, J = 2.6 Hz), 8.16 (1H, d, J = 8.8 Hz)。

合成例 4 3 2

1-(6-クロロ-3-ピリジニル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン

合成例 4 3 1 と同様の方法により、6-クロロ-N-[2-(2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフラン)-1,1-ジメチルエチル]-3-ピリジンカルボキサミドから表題化合物を得た。収率 40%。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.25 (6H, s), 1.36 (6H, s), 2.28 (2H, s), 2.70 (2H, s), 3.93 (3H, s), 6.63 (1H, s), 7.38 (1H, d, J = 7.8 Hz), 7.74 (1H, dd, J = 7.8, 2.2 Hz), 8.42 (1H, d, J = 2.0 Hz)。

合成例 4 3 3

2,2-ジメチルプロパン酸 [5-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]-1H-テトラゾール-1-イル]メチルエステル

3-(1H-テトラゾール-5-イル)ベンゾニトリル (0.587 g, 3.4 mmol) をトルエン (5 mL) および酢酸 (5 mL) に懸濁して、氷冷下で濃硫酸 (0.4 mL)、次いで 1-(2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフラニル)-2-メチル-1-プロパノール (0.751 g, 3.0 mmol) のトルエン溶液を加え、80 °C で 3 時間攪拌した。反応混合物に氷水を加え、さらに炭酸水素ナトリウム水溶液を加えて pH 4 としてテトラヒドロフランで 3 回抽出した。抽出液を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄し、硫酸ナトリウムで乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残留物を N,N-ジメチルホルムアミド (5 mL) に溶かし炭酸カリウム (1.11 g, 8.0 mmol) とピバル酸クロロメチル (1.04 mL, 7.2 mmol) を加えて室温で 18 時間攪拌した。反応混合物に氷水を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。抽出液を塩化ナトリウム水溶液で洗浄し、硫酸ナトリウムで乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残留物をシリカゲルカラムクロマトグラフィーに付し、ヘキサン/酢酸エチル (2:1) で溶出して目的画分を集めて濃縮し、ジエチルエーテル/ヘキサン (1:1) から再結晶して表題化合物 (0.122 g、収率 7.8%) を得た。

融点 134-136 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.22 (9H, s), 1.26 (6H, s), 1.29 (6H, s), 2.25 (2H, s), 2.72 (2H, s), 3.93 (3H, s), 6.52 (2H, s), 6.64 (1H, s), 7.5-8.3 (4H, m)。

【0365】合成例 434

5-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]-1H-テトラゾール-1-酢酸 ナトリウム塩

5-(3-シアノフェニル)-1H-テトラゾール-1-酢酸 メチルエステル (0.730 g, 3.0 mmol) をトルエン (5 mL) および酢酸 (5 mL) に溶かし、氷冷下で濃硫酸 (0.4 mL)、次いで 1-(2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフラニル)-2-メチル-1-プロパノール (0.751 g, 3.0 mmol) のトルエン溶液を加え、80 °C で 4 時間攪拌した。反応混合物に氷水を加え、ジエチルエーテルで洗浄した。水層に炭酸水素ナトリウム水溶液を加えて pH 7 として、ポリスチレンゲル [MCI GEL CHP20P (三菱化成工業製)] を充填したカラムクロマトグラフィーに付し、エタノール/水 (3:7) で溶出して目的画分を集めてエタノールを濃縮して除き、その後凍結乾燥して表題化合物 (0.68 g、収率 47%) を得た。

融点 180 °C。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.17 (6H, s), 1.19 (6H, s), 2.26 (2H, s), 2.67 (2H, s), 3.82 (3H, s), 4.97 (2H, s), 6.83 (1H, s), 7.4-8.2 (4H, m)。

合成例 435

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-8,8-ジメチル-1-フェニルフロ[2,3-h]イソキノリン塩酸塩

N-[2-(2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフラニル)エチル]ベンズアミド (2.93 g, 9.00 mmol)

のキシレン (30 mL) 懸濁液にオキシ塩化リン (3.4 mL, 36 mmol) を加え、5 時間加熱還流後、室温で 15 時間攪拌した。反応混合物を氷冷し、5 M 水酸化ナトリウム水溶液 (35 mL) を加え、氷水 (100 mL) に注いだ。水層をジエチルエーテルで 2 回抽出し、合わせた有機層を 2 M 塩酸で 2 回抽出した。合わせた水層を 5 M 水酸化ナトリウム水溶液で中和し、ジエチルエーテルで 3 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 2:1 の後 1:2) に供し、表題化合物の遊離塩基を得た。これを酢酸エチル (15 mL) に溶解し、4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液 (3 mL) を加え、析出した固体をろ取、ジエチルエーテルで洗浄して表題化合物 (2.10 g、収率 68%) を得た。

融点 213-215 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.36 (6H, s), 2.35 (2H, s), 3.08 (2H, t, J = 7.3 Hz), 3.96-4.08 (2H, m), 4.02 (3H, s), 6.82 (1H, s), 7.54-7.77 (5H, m), 14.50-14.80 (1H, br)。

合成例 436

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,8,8-トリメチル-1-フェニルフロ[2,3-h]イソキノリン

合成例 431 と同様の方法により、N-[2-(2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフラニル)-1-メチルエチル]ベンズアミドから表題化合物を得た。収率 71 %。

融点 133-134 °C (ヘキサン-ジイソプロピルエーテル)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.29 (3H, s), 1.35 (3H, s), 1.47 (3H, d, J=7.0 Hz), 2.17-2.25 (2H, m), 2.44-2.73 (2H, m), 3.47-3.66 (1H, m), 3.92 (3H, s), 6.65 (1H, s), 7.40 (5H, s)。

【0366】合成例 437

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,8,8-トリメチル-1-(4-ピリジニル)フロ[2,3-h]イソキノリン

合成例 431 と同様の方法により、N-[2-(2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフラニル)-1-メチルエチル]-4-ピリジニルカルボキサミドから表題化合物を得た。収率 24%。

融点 135-136 °C (ヘキサン-ジエチルエーテル)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.30 (3H, s), 1.37 (3H, s), 1.47 (3H, d, J=6.8 Hz), 2.19-2.37 (2H, m), 2.45-2.75 (2H, m), 3.51-3.66 (1H, m), 3.93 (3H, s), 6.67 (1H, s), 7.37 (2H, d, J=5.8 Hz), 8.68 (2H, d, J=5.8 Hz)。

合成例 438

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-8,8-ジメチル-1-フェニル-3-フロ[2,3-h]イソキノリンカルボン酸 メチルエステル

α-(ベンゾイルアミノ)-2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-

ジメチル-5-ベンゾフランプロパン酸 メチルエステル (2.81 g, 7.33 mmol) およびオキシ塩化リン (15mL) の混合物を 100 °C で 2.5 時間攪拌した。反応混合物を減圧濃縮し、残渣に氷および酢酸エチルを加えた。得られた混合物を濃アンモニア水で中和、有機層を分離、水層を酢酸エチルで抽出した。合わせた有機層を水で 2 回洗浄、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 2:1、1:1 の後 1:2) に供し、酢酸エチル-ジイソプロピルエーテルから結晶化させて表題化合物 (1.41 g、収率 53%) を得た。

融点 182-184 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.29 (3H, s), 1.35 (3H, s), 2.20 (1H, d, J = 16.3 Hz), 2.31 (1H, d, J = 16.3 Hz), 2.86-3.10 (2H, m), 3.82 (3H, s), 3.93 (3H, s), 4.24 (1H, dd, J = 12.0, 6.6 Hz), 6.69 (1H, s), 7.35-7.51 (5H, m)。

合成例 4 3 9

N-[3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-イル]プロパンアミド

合成例 3 0 と同様の方法により 3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-アミンおよびプロピオニルクロリドから表題化合物を得た。収率 92 %。

融点 176-184 °C (酢酸エチル-ジエチルエーテル)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.20-1.32 (3H, m), 1.27 (6H, s), 1.29 (6H, s), 2.26 (2H, s), 2.40 (2H, q, J = 7.6 Hz), 2.71 (2H, s), 3.93 (3H, s), 6.63 (1H, s), 7.26-7.68 (9H, m)。

【0 3 6 7】合成例 4 4 0

N-[3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-イル]-2,2-ジメチルプロパンアミド

合成例 3 0 と同様の方法により 3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-アミンとトリメチルアセチルクロリドから表題化合物を得た。収率 68 %。

融点 189-193 °C (酢酸エチル-ジエチルエーテル-ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.27 (6H, s), 1.30 (6H, s), 1.34 (9H, s), 2.26 (2H, s), 2.71 (2H, s), 3.93 (3H, s), 6.63 (1H, s), 7.32-7.50 (3H, m), 7.53-7.70 (6H, m)。

合成例 4 4 1

2,2,2-トリフルオロ-N-[3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-イル]アセトアミド

3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラ

メチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-アミン (192 mg, 0.450 mmol) およびトリエチルアミン (82 μL, 0.59 mmol) のテトラヒドロフラン (1 mL) 溶液に、氷冷下無水トリフルオロ酢酸 (70 μL, 0.50 mmol) を滴下し、同温で 10 分間攪拌した。反応混合物に氷および飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウムを通して乾燥、濃縮した。残渣を酢酸エチル-ヘキサンから結晶化させて表題化合物 (222 mg、収率 94%) を得た。

融点 149-154 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.28 (6H, s), 1.32 (6H, br s), 2.02 (2H, s), 2.76 (2H, s), 3.94 (3H, s), 6.65 (1H, s), 7.29-7.59 (8H, m), 8.95-9.20 (1H, m)。

合成例 4 4 2

N-[3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-イル]ベンズアミド

合成例 3 0 と同様の方法により 3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-アミンとベンゾイルクロリドから表題化合物を得た。定量的。

融点 204-207 °C (酢酸エチル-ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.27 (6H, s), 1.30 (6H, s), 2.27 (2H, s), 2.71 (2H, s), 3.93 (3H, s), 6.63 (1H, s), 7.34-7.38 (1H, m), 7.42-7.64 (8H, m), 7.67-7.73 (2H, m), 7.87-7.92 (2H, m), 7.94-8.07 (1H, m)。

合成例 4 4 3

[3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-イル]カルバミン酸 メチルエステル

3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-アミン (192 mg, 0.450 mmol) のテトラヒドロフラン (1 mL) 溶液に炭酸ナトリウム (72 mg, 0.68 mmol) の水 (0.5 mL) 溶液を加え、氷冷下クロロギ酸メチル (43 μL, 0.54 mmol) を滴下、同温で 15 分間攪拌した。反応混合物に水を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を氷および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を酢酸エチル-ジエチルエーテルから結晶化させて表題化合物 (165 mg、収率 76%) を得た。

融点 129-133 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.27 (6H, s), 1.30 (6H, s), 2.26 (2H, s), 2.71 (2H, s), 3.79 (3H, s), 3.93 (3H, s), 6.63 (1H, s), 6.69 (1H, br s), 7.34 (1H, dt, J = 7.7, 1.5 Hz), 7.39-7.49 (3H, m), 7.52-7.63 (4H, m)。

【0 3 6 8】合成例 4 4 4

N-[3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビ

フェニル]-4-イル]ホルムアミド

酸 (0.5 mL) に氷冷下無水酢酸 (0.13 mL、1.4 mmol) を滴下し、同温で 30 分間攪拌した。得られた溶液に 3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-アミン (192 mg、0.450 mmol) を加え、室温で 1.5 時間攪拌した。炭酸水素ナトリウム (1.85 g、22.0 mmol) の水-酢酸エチル懸濁液に反応混合物を滴下し、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を酢酸エチルから結晶化させて表題化合物 (196 mg、収率 96%) を得た。融点 129-133 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.24-1.32 (12H, m), 2.26 (2H, s), 2.73 (2H, s), 3.93 (3H, s), 6.63 (1H, s), 7.05-7.17 (1H, m), 7.32-7.64 (8H, m), 8.36 (0.6H, d, J = 1.8 Hz), 8.72 (0.4H, d, J = 11.2 Hz)。

合成例 4 4 5

2-(アセチルアミノ)-N-[3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-イル]アセトアミド 3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-アミン (171 mg、0.401 mmol)、N-アセチルグリシン (52 mg、0.44 mmol) および 1-ヒドロキシ-1H-ベンゾトリアゾール (68 mg、0.44 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (0.5 mL) 溶液に 1-エチル-3-(3-ジメチルアミノプロピル)カルボジイミド塩酸塩 (100 mg、0.522 mmol) を加え、室温で 16 時間攪拌した。反応混合物に水および飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をクロロホルム-ジエチルエーテルから再結晶して表題化合物 (182 mg、収率 86%) を得た。

融点 218-221 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.28 (6H, s), 1.29 (6H, s), 2.10 (3H, s), 2.52 (2H, s), 2.73 (2H, s), 3.93 (3H, s), 4.08 (2H, d, J = 5.4 Hz), 6.45-6.55 (1H, m), 6.63 (1H, s), 7.31-7.36 (1H, m), 7.43 (1H, t, J = 7.7 Hz), 7.49-7.60 (6H, m), 8.73-8.87 (1H, m)。

合成例 4 4 6

N-メチル-N'-[3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-イル]尿素

3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-アミン (171 mg、0.401 mmol) のクロロホルム (1 mL) 溶液にイソシアン酸メチル (26 μL、0.44 mmol) を滴下し、室温で 3.5 時間攪拌した。反応混合物を

減圧濃縮し、残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (酢酸エチル) に供し、表題化合物 (186 mg、収率 96%) を得た。

非晶質。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.29 (12H, s), 2.25 (2H, s), 2.74 (2H, s), 2.77 (3H, d, J = 4.5 Hz), 3.93 (3H, s), 5.05 (1H, br s), 6.64 (1H, s), 6.98 (1H, br s), 7.25-7.33 (3H, m), 7.38-7.45 (3H, m), 7.49-7.57 (2H, m)。

10 【0369】合成例 4 4 7

4-オキソ-4-[[3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-イル]アミノ]酪酸

3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-アミン (192 mg、0.450 mmol) のテトラヒドロフラン (1 mL) 溶液に無水コハク酸 (45 mg、0.45 mmol) のテトラヒドロフラン (0.5 mL) 溶液を加え、50 °C で 2.5 時間攪拌した。反応混合物を減圧濃縮し、残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (クロロホルムの後、クロロホルム/メタノール 5:1) に供し、表題化合物 (219 mg、収率 92%) を得た。

非晶質。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.26 (6H, s), 1.38 (6H, br s), 2.24 (2H, s), 2.46 (4H, br s), 2.81 (2H, s), 3.94 (3H, s), 6.65 (1H, s), 7.25-7.60 (7H, m), 7.61 (1H, s), 9.45-9.75 (1H, br)。

合成例 4 4 8

N-メチル-N-[3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-イル]アセトアミド

合成例 7 4 と同様の方法により N-[3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-イル]アセトアミドを用いて表題化合物を得た。収率 79%。

非晶質。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.27 (6H, s), 1.30 (6H, s), 1.92 (3H, s), 2.26 (2H, s), 2.71 (2H, s), 3.29 (3H, s), 3.93 (3H, s), 6.63 (1H, s), 7.20-7.30 (2H, m), 7.34 (1H, dt, J = 7.6, 1.5 Hz), 7.48 (1H, t, J = 7.6 Hz), 7.58-7.69 (4H, m)。

合成例 4 4 9

3'-(6-ブトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-アミン

1-(3-ブロモフェニル)-6-ブトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン塩酸塩 (493 mg、1.00 mmol) の 1,2-ジメトキシエタン (3 mL)、エタノール (1.5 mL) および水 (1.5 mL) 溶液に炭酸ナトリウム (265 mg、2.50 mmol)、4-(4,4,

5,5-テトラメチル-1,3,2-ジオキサボロラン-2-イル)アニリン (263 mg, 1.20 mmol) およびテトラキス(トリフェニルホスフィン)パラジウム(0) (24 mg, 0.021 mmol) を加え、窒素雰囲気下 80 °C で 14 時間撹拌した。反応混合物に水を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水洗、0.5 M 塩酸で 2 回抽出した。水層を濃アンモニア水で中和、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 3:1 の後 2:1) に供し、酢酸エチル-ヘキサンから再結晶して表題化合物 (373 mg、収率 80 %) を得た。

融点 148-150 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 0.98 (3H, t, J = 7.3 Hz), 1.26 (6H, s), 1.28 (6H, s), 1.38-1.60 (2H, m), 1.74-1.91 (2H, m), 2.24 (2H, s), 2.68 (2H, s), 3.72 (2H, br s), 4.10 (2H, t, J = 6.9 Hz), 6.61 (1H, s), 6.74 (2H, d, J = 8.4 Hz), 7.25-7.32 (1H, m), 7.35-7.47 (3H, m), 7.51-7.59 (2H, m)。

【0370】合成例 450

N-[3'-(6-ブトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-イル]アセトアミド

合成例 30 と同様の方法により 3'-(6-ブトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-アミンから表題化合物を得た。収率 95%。

融点 202-204 °C (酢酸エチル-ジエチルエーテル)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 0.98 (3H, t, J = 7.4 Hz), 1.28 (12H, s), 1.38-1.59 (2H, m), 1.74-1.91 (2H, m), 2.15 (3H, s), 2.23 (2H, s), 2.70 (2H, s), 4.11 (2H, t, J = 6.8 Hz), 6.62 (1H, s), 7.29-7.60 (8H, m), 7.72 (1H, br s)。

合成例 451

4-アミノ-3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-3-カルボン酸 メチルエステル

1-(3-ブロモフェニル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン (1.66 g, 4.01 mmol)、2-アミノ-5-(4,4,5,5-テトラメチル-1,3,2-ジオキサボロラン-2-イル)安息香酸 メチルエステル (1.22 g, 4.40 mmol)、炭酸ナトリウム (637 mg, 6.01 mmol) およびテトラキス(トリフェニルホスフィン)パラジウム(0) (93 mg, 0.080 mmol) の 1,2-ジメトキシエタン (12 mL)、エタノール (6 mL) および水 (6 mL) 懸濁液を窒素雰囲気下 85 °C で 14 時間撹拌した。反応混合物に水を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム-塩基性シリカゲルを通して乾燥

(酢酸エチルで溶出)、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 3:1) に供した。得られたものを酢酸エチルに溶解し、0.5 M 塩酸で 2 回抽出、濃アンモニア水で中和、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水で 2 回洗浄、減圧濃縮して表題化合物 (1.85 g、収率 95%) を得た。

非晶質。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.27 (6H, s), 1.31 (6H, s), 2.28 (2H, s), 2.71 (2H, s), 3.89 (3H, s), 3.93 (3H, s), 5.79 (2H, br s), 6.63 (1H, s), 6.73 (1H, d, J = 8.4 Hz), 7.32 (1H, dt, J = 7.3, 1.5 Hz), 7.38-7.47 (1H, m), 7.51-7.59 (3H, m), 8.11 (1H, d, J = 2.2 Hz)。

合成例 452

4-(アセチルアミノ)-3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-3-カルボン酸 メチルエステル

4-アミノ-3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-3-カルボン酸 メチルエステル (1.43 g, 2.95 mmol) のピリジン (10 mL) 溶液に氷冷下無水酢酸 (0.28 mL, 3.0 mmol) を滴下し、室温で 10 分間、60 °C で 1 時間撹拌した。同量の無水酢酸を追加し、100 °C で 2 時間撹拌した。反応混合物に水および飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、酢酸エチルで抽出した。合わせた有機層を水で 2 回洗浄、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 4:1 の後 2:1) に供し、酢酸エチル-ヘキサンから再結晶して表題化合物 (1.12 g、収率 72 %) を得た。

融点 116-119 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.27 (6H, s), 1.31 (6H, s), 2.26 (3H, s), 2.27 (2H, s), 2.72 (2H, s), 3.93 (3H, s), 3.95 (3H, s), 6.63 (1H, s), 7.39 (1H, dt, J = 7.3, 1.6 Hz), 7.47 (1H, td, J = 7.3, 1.2 Hz), 7.56-7.64 (2H, m), 7.79 (1H, dd, J = 8.8, 2.4 Hz), 8.26 (1H, d, J = 2.4 Hz), 8.78 (1H, d, J = 8.8 Hz), 11.07 (1H, br s)。

【0371】合成例 453

4-(アセチルアミノ)-3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-3-カルボン酸

4-(アセチルアミノ)-3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-3-カルボン酸 メチルエステル (692 mg, 1.31 mmol) のメタノール (5 mL) 溶液に 5 M 水酸化ナトリウム水溶液 (0.52 mL, 2.6 mmol) を加え、室温で 40 分間撹拌後 10 分間加熱還流した。反

応混合物を減圧濃縮し、水 (2 mL) を加え、2 M 塩酸 (1.3 mL、2.6 mmol) を滴下して中和、析出した粉末をろ取、水およびジエチルエーテルで洗浄して表題化合物 (671 mg、定量的) を得た。

融点 181–186 °C。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.20 (6H, s), 1.22 (6H, s), 2.14 (3H, s), 2.28 (2H, s), 2.76 (2H, s), 3.85 (3H, s), 6.88 (1H, s), 7.38 (1H, d, J = 7.6 Hz), 7.55 (1H, t, J = 7.6 Hz), 7.63 (1H, s), 7.81 (1H, d, J = 7.6 Hz), 7.84–7.93 (1H, m), 8.24 (1H, d, J = 2.2 Hz), 8.55 (1H, d, J = 8.8 Hz), 11.75 (1H, br s)。

合成例 4 5 4

N-[4'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-イル]アセトアミド

1-(4-ブロモフェニル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン塩酸塩 (181 mg、0.402 mmol) および炭酸ナトリウム (149 mg、1.41 mmol) の 1,2-ジメトキシエタン (1.2 mL)、エタノール (0.6 mL) および水 (0.6 mL) 懸濁液に 4'-(4,4,5,5-テトラメチル-1,3,2-ジオキサボロラン-2-イル)アセトアニリド (116 mg、0.444 mmol) およびテトラキス(トリフェニルホスフィン)パラジウム(0) (11 mg、0.0095 mmol) を加え、窒素雰囲気下 85 °C で 15 時間攪拌した。反応混合物に水を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム-塩基性シリカゲルを通して乾燥 (酢酸エチルで溶出)、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 2:1 の後 1:1) に供し、酢酸エチル-ヘキサンから結晶化させて表題化合物 (102 mg、収率 54 %) を得た。

融点 128–132 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.26 (6H, s), 1.33 (6H, s), 2.21 (3H, s), 2.32 (2H, s), 2.70 (2H, s), 3.93 (3H, s), 6.62 (1H, s), 7.23 (1H, br s), 7.46 (2H, d, J = 8.6 Hz), 7.56–7.64 (4H, m), 7.60 (2H, d, J = 8.6 Hz)。

合成例 4 5 5

N-[4'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-3-イル]アセトアミド

合成例 4 5 4 と同様の方法により、3-アセトアミドベンゼンボロン酸を用いて表題化合物を得た。収率 84%。

非晶質。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.27 (6H, s), 1.33 (6H, s), 2.20 (3H, s), 2.31 (2H, s), 2.71 (2H, s), 3.93 (3H, s), 6.63 (1H, s), 7.34–7.66 (8H, m), 7.79 (1H, br s)。

合成例 4 5 6

3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラ

メチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-カルボン酸 エチルエステル

1-(3-プロモフェニル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン (2.81 g、6.78 mmol)、4-(4,4,5,5-テトラメチル-1,3,2-ジオキサボロラン-2-イル)安息香酸 エチルエステル (2.25 g、8.15 mmol)、炭酸ナトリウム (1.08 g、10.2 mmol) およびテトラキス(トリフェニルホスフィン)パラジウム(0) (157 mg、0.136 mmol) の 1,2-ジメトキシエタン (24 mL)、エタノール (12 mL) および水 (12 mL) 懸濁液を窒素雰囲気下 80 °C で 14 時間攪拌した。反応混合物に水を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム-塩基性シリカゲルを通して乾燥 (酢酸エチルで溶出)、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 10:1) に供して表題化合物 (2.87 g、収率 88%) を得た。非晶質。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.27 (6H, s), 1.30 (6H, s), 1.42 (3H, t, J = 7.1 Hz), 2.26 (2H, s), 2.72 (2H, s), 3.93 (3H, s), 4.40 (2H, q, J = 7.1 Hz), 6.63 (1H, s), 7.37–7.54 (2H, m), 7.62–7.71 (4H, m), 8.10 (2H, d, J = 8.4 Hz)。

【0372】合成例 4 5 7

3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-カルボン酸

3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-カルボン酸 エチルエステル (2.74 g、5.67 mmol) のエタノール (15 mL) 溶液に 1 M 水酸化ナトリウム水溶液 (20 mL、20 mmol) を加え、70 °C で 30 分間攪拌した。反応混合物を氷冷し、1 M 塩酸 (20 mL、20 mmol) を加え、塩化ナトリウムを加えて飽和させた後、酢酸エチルで 3 回抽出した。合わせた有機層を硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を酢酸エチル-ジエチルエーテルから結晶化させて表題化合物 (2.26 g、収率 87%) を得た。

融点 161–165 °C。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.17 (6H, s), 1.19 (6H, s), 2.26 (2H, s), 2.67 (2H, s), 3.82 (3H, s), 6.84 (1H, s), 7.40 (1H, d, J = 7.7 Hz), 7.56 (1H, t, J = 7.7 Hz), 7.67 (1H, s), 7.79–7.87 (3H, m), 8.03 (2H, d, J = 8.4 Hz)。

合成例 4 5 8

3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-カルボキサミド

3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェ

ニル]-4-カルボン酸 (365 mg, 0.801 mmol) および 1-ヒドロキシ-1H-ベンゾトリアゾール・アンモニウム塩 (147 mg, 0.966 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (1.5 mL) 懸濁液に 1-エチル-3-(3-ジメチルアミノプロピル)カルボジイミド塩酸塩 (200 mg, 1.04 mmol) を加え、室温で 15 時間攪拌した。反応混合物に水および飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を酢酸エチル-ヘキサンから結晶化させて表題化合物 (286 mg, 収率 79%) を得た。

融点 134-137 °C (分解)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.27 (6H, s), 1.30 (6H, s), 2.25 (2H, s), 2.72 (2H, s), 3.93 (3H, s), 5.50-6.40 (2H, m), 6.63 (1H, s), 7.39-7.54 (2H, m), 7.61-7.63 (2H, m), 7.69 (2H, d, J = 8.5 Hz), 7.88 (2H, d, J = 8.5 Hz)。

合成例 4 5 9

N-メチル-3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-カルボキサミド

3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-カルボン酸 (365 mg, 0.801 mmol)、40%メチルアミン/メタノール溶液 (75 mg, 0.97 mmol) および 1-ヒドロキシ-1H-ベンゾトリアゾール (135 mg, 0.880 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (1.5 mL) 懸濁液に 1-エチル-3-(3-ジメチルアミノプロピル)カルボジイミド塩酸塩 (200 mg, 1.04 mmol) を加え、室温で 20 時間攪拌した。反応混合物に水および飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム-塩基性シリカゲルを通して乾燥 (酢酸エチルで溶出)、減圧濃縮した。残渣を酢酸エチル-ヘキサンから結晶化させて表題化合物 (317 mg, 収率 84%) を得た。

融点 242-244 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.27 (6H, s), 1.30 (6H, s), 2.25 (2H, s), 2.72 (2H, s), 3.04 (3H, d, J = 4.8 Hz), 3.93 (3H, s), 6.15-6.30 (1H, m), 6.63 (1H, s), 7.37-7.53 (2H, m), 7.59-7.70 (2H, m), 7.66 (2H, d, J = 8.4 Hz), 7.82 (2H, d, J = 8.4 Hz)。

【0 3 7 3】合成例 4 6 0

N,N-ジメチル-3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-カルボキサミド

3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-カルボン酸 (365 mg, 0.801 mmol)、2 Mジメチルアミン/テトラヒドロフラン溶液 (0.48 mL, 0.96 mmol) および 1-ヒドロキシ-1H-ベンゾトリアゾール (135 mg, 0.880 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (1.5 mL) 懸濁液に 1-エチル-3-(3-ジメチルアミノプロピル)カルボジイミド塩酸塩 (200 mg, 1.04 mmol) を加え、室温で 17 時間攪拌した。反応混合物に水および飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム-塩基性シリカゲルを通して乾燥 (酢酸エチルで溶出)、減圧濃縮して表題化合物 (319 mg, 収率 83%) を得た。

非晶質。
¹H NMR (CDCl₃) δ 1.27 (6H, s), 1.30 (6H, s), 2.25 (2H, s), 2.71 (2H, s), 3.03 (3H, br s), 3.12 (3H, br s), 3.93 (3H, s), 6.63 (1H, s), 7.36-7.53 (4H, m), 7.58-7.68 (4H, m)。

非晶質。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.27 (6H, s), 1.30 (6H, s), 2.25 (2H, s), 2.71 (2H, s), 3.03 (3H, br s), 3.12 (3H, br s), 3.93 (3H, s), 6.63 (1H, s), 7.36-7.53 (4H, m), 7.58-7.68 (4H, m)。

合成例 4 6 1

N-[3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-ヒドロキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-イル]アセトアミド

1-(3-ブロモフェニル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-6-フロ[2,3-h]イソキノリノール (1.40 g, 3.50 mmol)、4'-(4,4,5,5-テトラメチル-1,3,2-ジオキサボロラン-2-イル)アセトアニリド (1.01 g, 3.87 mmol)、炭酸ナトリウム (927 mg, 8.75 mmol) およびテトラキス(トリフェニルホスフィン)パラジウム(0) (81 mg, 0.070 mmol) の 1,2-ジメトキシエタン (10 mL)、エタノール (5 mL) および水 (5 mL) 懸濁液を、窒素雰囲気下 80 °C で 14 時間攪拌した。反応混合物に水を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム-塩基性シリカゲルを通して乾燥 (酢酸エチルの後酢酸エチル/メタノール 10:1 で溶出)、減圧濃縮、析出した粉末をろ取り、酢酸エチル-ジエチルエーテル混合液で洗浄して表題化合物 (921 mg, 収率 58%) を得た。

融点 185-189 °C。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.14 (6H, s), 1.19 (6H, s), 2.06 (3H, s), 2.23 (2H, s), 2.56 (2H, s), 6.56 (1H, s), 7.29 (1H, d, J = 7.6 Hz), 7.42-7.77 (7H, m), 10.05 (1H, s)。

合成例 4 6 2

トリフルオロメタンスルホン酸 1-[4'-(アセチルアミノ)[1,1'-ビフェニル]-3-イル]-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-6-イルエステル

合成例 9 5 と同様の方法により N-[3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-ヒドロキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-イル]アセトアミドから表題化合物を得た。収率 96%。

非晶質。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.28 (6H, s), 1.29 (6H, s), 2.13-

2.23 (3H, m), 2.30 (2H, s), 2.72 (2H, s), 6.95 (1H, s), 7.29-7.70 (9H, m).

【0374】合成例463

N-[3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-イル]アセトアミド

トリフルオロメタンスルホン酸 1-[4'-(アセチルアミノ)[1,1'-ビフェニル]-3-イル]-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-6-イルエステル (496 mg, 0.846 mmol)、トリエチルアミン (0.35 mL, 2.5 mmol)、酢酸パラジウム(II) (4.7 mg, 0.021 mmol) およびトリフェニルホスフィン (11 mg, 0.042 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (1.5 mL) 溶液にギ酸 (64 μ L, 1.7 mmol) を加え、窒素雰囲気下 60 $^{\circ}$ C で 4 時間攪拌した。反応混合物に水および飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム-塩基性シリカゲルを通して乾燥 (酢酸エチルで溶出)、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 2:1 の後 1:1) に供し、酢酸エチル-ヘキサンから結晶化させて表題化合物 (294 mg, 収率 79%) を得た。

融点 198-200 $^{\circ}$ C。

^1H NMR (CDCl_3) δ 1.26 (6H, s), 1.28 (6H, s), 2.16 (3H, s), 2.24 (2H, s), 2.72 (2H, s), 6.76 (1H, d, J = 7.8 Hz), 6.99 (1H, d, J = 7.8 Hz), 7.35 (1H, d t, J = 7.4, 1.4 Hz), 7.44 (1H, td, J = 7.4, 1.0 Hz), 7.49-7.62 (7H, m)。

合成例464

トリフルオロメタンスルホン酸 1-(3-ブロモフェニル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-6-イルエステル

合成例95と同様の方法により1-(3-ブロモフェニル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-6-フロ[2,3-h]イソキノリン-6-イルから表題化合物を得た。定量的。

ガム状。

^1H NMR (CDCl_3) δ 1.25 (6H, s), 1.34 (6H, s), 2.29 (2H, s), 2.69 (2H, s), 6.95 (1H, s), 7.14-7.38 (2H, m), 7.53-7.60 (2H, m)。

合成例465

3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-アミン

トリフルオロメタンスルホン酸 1-(3-ブロモフェニル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-6-イルエステル (5.13 g, 9.64 mmol)、トリエチルアミン (4.0 mL, 29 mmol)、酢酸パラジウム(II) (54 mg, 0.24 mmol)、およびトリフェニルホスフ

イン (126 mg, 0.480 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (20 mL) 溶液にギ酸 (0.73 mL, 19 mmol) を加え、窒素雰囲気下 65 $^{\circ}$ C で 2 時間攪拌した。反応混合物に水および飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム-塩基性シリカゲルを通して乾燥 (酢酸エチルで溶出)、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 10:1) に供して 1-(3-ブロモフェニル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリンを含む油状物を得た。このものと 4-(4,4,5,5-テトラメチル-1,3,2-ジオキサボロラン-2-イル)アニリン (1.21 g, 5.52 mmol)、炭酸ナトリウム (795 mg, 7.50 mmol)、およびテトラキス(トリフェニルホスフィン)パラジウム(0) (116 mg, 0.100 mmol) を 1,2-ジメトキシエタン (15 mL)、エタノール (7 mL) および水 (7 mL) に懸濁し、窒素雰囲気下 80 $^{\circ}$ C で 15 時間攪拌した。反応混合物に水を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム-塩基性シリカゲルを通して乾燥 (酢酸エチルで溶出)、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 10:1 の後 2:1) に供し、酢酸エチル-ヘキサンから結晶化させて表題化合物 (1.35 g, 収率 35%) を得た。

融点 161-163 $^{\circ}$ C。

^1H NMR (CDCl_3) δ 1.25 (12H, s), 2.24 (2H, s), 2.70 (2H, s), 3.73 (2H, brs), 6.74 (2H, d, J = 8.4 Hz), 6.75 (1H, d, J = 8.0 Hz), 6.98 (1H, d, J = 8.0 Hz), 7.27-7.34 (1H, m), 7.36-7.48 (3H, m), 7.54-7.60 (2H, m)。

【0375】合成例466

2,2,2-トリフルオロ-N-[3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-イル]アセトアミド

合成例441と同様の方法により 3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-アミンから表題化合物を得た。収率 83%。

融点 228-230 $^{\circ}$ C。 (酢酸エチル-ヘキサン)。

^1H NMR (CDCl_3) δ 1.25 (6H, s), 1.30 (6H, s), 2.19 (2H, s), 2.75 (2H, s), 6.78 (1H, d, J = 7.9 Hz), 7.01 (1H, d, J = 7.9 Hz), 7.31-7.62 (8H, m), 8.82 (1H, br s)。

合成例467

4-[[[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]アミノ]カルボニル]安息香酸 メチルエステル

3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼンアミ

ン (2.81 g, 8.02 mmol) およびトリエチルアミン (1.5 mL, 11 mmol) のテトラヒドロフラン (15 mL) 溶液に氷冷下、テレフタル酸モノメチルクロリド (1.91 g, 9.62 mmol) を加え、室温で 10 分間攪拌した。反応混合物に水を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を飽和炭酸水素ナトリウム水溶液、水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム-塩基性シリカゲルを通して乾燥 (酢酸エチルで溶出)、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 2:1 の後 1:1) に供し、酢酸エチル-ジエチルエーテルから再結晶して表題化合物 (3.75 g, 収率 91%) を得た。

融点 156-160 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.16 (6H, br s), 1.33 (6H, s), 2.34 (2H, s), 2.60 (2H, br s), 3.92 (3H, s), 3.96 (3H, s), 6.59 (1H, s), 7.13 (1H, d, J = 7.7 Hz), 7.37 (1H, t, J = 7.7 Hz), 7.56 (1H, t, J = 1.8 Hz), 7.89-7.98 (3H, m), 8.12 (2H, d, J = 7.8 Hz), 8.66 (1H, br s)。

合成例 468

4-[[[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]アミノ]カルボニル]安息香酸塩酸塩

4-[[[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]アミノ]カルボニル]安息香酸 メチルエステル (1.03 g, 2.01 mmol) のメタノール (10 mL) 溶液に 5 M 水酸化ナトリウム水溶液 (0.50 mL, 2.5 mmol) を加え、室温で 1.5 時間攪拌後、1.5 時間加熱還流した。反応混合物を減圧濃縮し、氷冷下、1 M 塩酸 (5.0 mL, 5.0 mmol) を滴下した。飽和塩化ナトリウム水溶液を加え、酢酸エチル-テトラヒドロフラン混合液で 2 回抽出した。合わせた有機層を硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮して表題化合物 (1.06 g, 収率 99%) を得た。

非晶質。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.34 (6H, s), 1.62 (3H, br s), 1.73 (3H, br s), 2.26-2.54 (2H, m), 2.94-3.24 (2H, m), 3.98 (3H, s), 6.72 (1H, s), 7.24 (1H, d, J = 8.1 Hz), 7.47 (1H, t, J = 8.1 Hz), 7.83 (2H, d, J = 8.6 Hz), 7.90 (2H, d, J = 8.6 Hz), 8.25 (1H, s), 8.35 (1H, d, J = 8.1 Hz), 10.01 (1H, brs), 12.88 (1H, br s)。

【0376】合成例 469

N-メチル-N'-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]-1,4-ベンゼンジカルボキサミド

4-[[[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]アミノ]カルボニル]安息香酸塩酸塩 (268 mg, 0.501 mmol)、40% メチルアミン/メタノール溶液 (55 mg, 0.56

mmol) および 1-ヒドロキシ-1H-ベンゾトリアゾール (85 mg, 0.56 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (1 mL) 溶液にトリエチルアミン (0.17 mL, 1.2 mmol) および 1-エチル-3-(3-ジメチルアミノプロピル)カルボジイミド塩酸塩 (125 mg, 0.652 mmol) を加え、室温で 24 時間攪拌した。反応混合物に水を加え、クロロホルム-メタノール混合液で 2 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム-塩基性シリカゲルを通して乾燥 (酢酸エチル/メタノール 10:1 で溶出)、減圧濃縮した。残渣をクロロホルム-メタノール-ジエチルエーテルから再結晶して表題化合物 (215 mg, 収率 84%) を得た。

融点 310-312 °C。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.15 (6H, s), 1.23 (6H, s), 2.33 (2H, br s), 2.64 (2H, s), 2.81 (3H, d, J = 4.5 Hz), 3.82 (3H, s), 6.82 (1H, s), 7.08-7.12 (1H, m), 7.40 (1H, t, J = 8.0 Hz), 7.77-7.81 (1H, m), 7.88-7.94 (1H, m), 7.95 (2H, d, J = 8.3 Hz), 8.04 (2H, d, J = 8.3 Hz), 8.57-8.63 (1H, m), 10.40 (1H, s)。

合成例 470

2-[(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,8,8-トリメチル-1-フェニルフロ[2,3-h]イソキノリン-3-イル)メチル]-1H-イソインドール-1,3(2H)-ジオン

3-(プロモメチル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,8,8-トリメチル-1-フェニルフロ[2,3-h]イソキノリン (2.49 g, 6.01 mmol)、フタルイミドカリウム (90%) (1.86 g, 9.0 mmol) の N,N-ジメチルアセトアミド (25 mL) 懸濁液を窒素雰囲気下、2.5 時間加熱還流した。

反応混合物に水を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水で 2 回洗浄、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 2:1) に供し、酢酸エチル-ヘキサンから結晶化させ、メタノール-アセトン-ヘキサンから再結晶して表題化合物 (1.56 g, 収率 54%) を得た。

融点 121-125 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.19 (3H, s), 1.22 (3H, s), 1.38 (3H, s), 1.97-2.19 (2H, m), 2.81 (1H, d, J = 15.9 Hz), 3.02 (1H, d, J = 15.9 Hz), 3.85 (1H, d, J = 13.6 Hz), 3.86 (3H, s), 3.96 (1H, d, J = 13.6 Hz), 6.54 (1H, s), 7.36-7.52 (5H, m), 7.61-7.80 (4H, m)。

合成例 471

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,8,8-トリメチル-1-フェニル-3-フロ[2,3-h]イソキノリンメタンアミン

2-[(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,8,8-トリメチル-1-フェニルフロ[2,3-h]イソキノリン-3-イル)メチル]-1H-イソインドール-1,3(2H)-ジオン (2.08 g, 4.33 mmol) のエタノール (20 mL) 懸濁液にヒドラジン-水和物 (0.25 mL, 5.2 mmol) を加え、2 時間後と 3 時間後に同量のヒドラジン-水和物を追加しながら 4 時間

加熱還流した。反応混合物に 1 M 水酸化ナトリウム水溶液 (9.0 mL, 9.0 mmol) を加え水で希釈、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水で 2 回洗浄、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (酢酸エチル/メタノール 100:1) に供し、酢酸エチルーヘキサンから再結晶して表題化合物 (823 mg、収率 54%) を得た。

融点 143-145 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.06 (3H, s), 1.29 (3H, s), 1.33 (3H, s), 2.16 (1H, d, J = 16.5 Hz), 2.25 (1H, d, J = 16.5 Hz), 2.49 (1H, d, J = 15.4 Hz), 2.80 (1H, d, J = 12.6 Hz), 2.89 (1H, d, J = 12.6 Hz), 2.93 (1H, d, J = 15.4 Hz), 3.92 (3H, s), 6.63 (1H, s), 7.39 (5H, s)。

【0377】合成例 472

酢酸 (3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-8,8-ジメチル-1-フェニルフロ[2,3-h]イソキノリン-3-イル)メチルエステル

酢酸 2-(ベンゾイルアミノ)-3-(2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフラン)プロピルエステル (3.34 g, 8.40 mmol) のアセトニトリル (65 mL) 懸濁液にオキシ塩化リン (9.4 mL, 0.10 mol) を加え、1.5 時間加熱還流した。反応混合物を氷に注ぎ、氷冷下濃アンモニア水で中和、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水で 2 回洗浄、減圧濃縮した。残渣を酢酸エチルーヘキサンから再結晶して表題化合物 (2.62 g、収率 82%) を得た。

融点 168-169 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.28 (3H, s), 1.36 (3H, s), 2.12 (3H, s), 2.19 (1H, d, J = 8.1 Hz), 2.31 (1H, d, J = 8.1 Hz), 2.52-2.79 (2H, m), 3.54-3.76 (1H, m), 3.93 (3H, s), 4.34 (1H, dd, J = 11.0, 6.6 Hz), 4.54 (1H, dd, J = 11.0, 6.2 Hz), 6.68 (1H, s), 7.42 (5H, s)。

合成例 473

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-8,8-ジメチル-1-フェニルフロ[2,3-h]イソキノリン-3-メタノール

酢酸 (3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-8,8-ジメチル-1-フェニルフロ[2,3-h]イソキノリン-3-イル)メチルエステル (1.00 g, 2.64 mmol) のメタノール (5 mL) およびテトラヒドロフラン (5 mL) 溶液に 5 M 水酸化ナトリウム水溶液 (1.6 mL, 8.0 mmol) を加え、室温で 10 分間攪拌した。反応混合物に水を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水で 2 回洗浄、減圧濃縮した。残渣を酢酸エチルージイソプロピルエーテルから再結晶して表題化合物 (553 mg、収率 62%) を得た。

融点 156-158 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.28 (3H, s), 1.38 (3H, s), 2.21 (1H, d, J = 8.1 Hz), 2.35 (1H, d, J = 8.1 Hz), 2.51-2.70 (2H, m), 2.90-3.15 (1H, br), 3.36-3.57 (1H, s), 3.76 (1H, dd, J = 10.7, 7.7 Hz), 3.87-4.03 (1H, m), 3.93 (3H, s), 6.68 (1H, s), 7.43 (5H, s)。

m), 3.76 (1H, dd, J = 10.7, 7.7 Hz), 3.87-4.03 (1H, m), 3.93 (3H, s), 6.68 (1H, s), 7.43 (5H, s)。

合成例 474

2-[(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-8,8-ジメチル-1-フェニルフロ[2,3-h]イソキノリン-3-イル)メチル]-1H-イソインドール-1,3(2H)-ジオン

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-8,8-ジメチル-1-フェニル-3-フロ[2,3-h]イソキノリンメタノール (793 mg, 2.35 mmol) のピリジン (10 mL) 溶液を氷冷し、メタンスルホンクロリド (0.22 mL, 2.8 mmol) を滴下、同温で 30 分間攪拌、メタンスルホンクロリド (0.04 mL, 0.5 mmol) を追加し、さらに 30 分間攪拌した。反応混合物に水および飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水で 2 回洗浄、減圧濃縮した。残渣にトルエンを加え、再度減圧濃縮してメタンスルホン酸 (3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-8,8-ジメチル-1-フェニルフロ[2,3-h]イソキノリン-3-イル)メチルエステルを得た。

これを N,N-ジメチルホルムアミドに溶解し、フタルイミドカリウム (90%, 725mg, 3.5 mmol) を加え、100 °C で 4.5 時間攪拌した。反応混合物に水を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水で 2 回洗浄、減圧濃縮した。残渣を酢酸エチルージイソプロピルエーテルから結晶化させて表題化合物 (337 mg、収率 31%) を得た。

融点 228-229 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.26 (3H, s), 1.34 (3H, s), 2.18 (1H, d, J = 16.5 Hz), 2.32 (1H, d, J = 16.5 Hz), 2.57-2.75 (2H, m), 3.78-4.15 (2H, m), 3.87 (3H, s), 4.24 (1H, dd, J = 13.2, 5.4 Hz), 6.61 (1H, s), 7.34-7.48 (5H, m), 7.68-7.92 (4H, m)。

【0378】合成例 475

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-8,8-ジメチル-1-フェニル-3-フロ[2,3-h]イソキノリンメタンアミン二塩酸塩

2-[(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-8,8-ジメチル-1-フェニルフロ[2,3-h]イソキノリン-3-イル)メチル]-1H-イソインドール-1,3(2H)-ジオン (350 mg, 0.750 mmol) のエタノール (4 mL) 懸濁液にヒドラジン-水和物 (84 μL, 1.7 mmol) を加え、2.5 時間加熱還流した。反応混合物に 1 M 水酸化ナトリウム水溶液を加え水で希釈、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水で 2 回洗浄、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (酢酸エチルの後酢酸エチル/メタノール 10:1) に供し、3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-8,8-ジメチル-1-フェニル-3-フロ[2,3-h]イソキノリンメタンアミン (164 mg) を非晶質として得た。これを酢酸エチル (2 mL) に溶解し、0.8 M 塩化水素/メタノール溶液 (1.8 mL, 1.4 mmol) を加え、減圧濃縮した。残渣をエタノール-酢酸エチルから結晶化させて表

題化合物 (140 mg、収率 46%) を得た。

融点 192-194 °C。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.22 (3H, s), 1.26 (3H, s), 2.26 (2H, s), 3.05-3.40 (4H, m), 3.80-4.50 (1H, m), 3.94 (3H, s), 7.10 (1H, s), 7.55-7.78 (5H, m), 8.35-8.65 (3H, m)。

合成例 476

N-[3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-2-オキシドフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-3-イル]アセトアミド

合成例 110 と同様の方法により N-[3'-(1,2,3,4,8,9-ヘキサヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-3-イル]アセトアミドから表題化合物を得た。収率 66%。

融点 158-162 °C (メタノール-ジエチルエーテル)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.24 (3H, s), 1.28 (3H, s), 1.51 (6H, s), 2.04 (2H, s), 2.13 (3H, s), 3.09 (2H, s), 3.91 (3H, s), 6.65 (1H, s), 7.27-7.53 (5H, m), 7.56-7.69 (3H, m), 7.69 (1H, br s)。

合成例 477

N-(3,5-ジクロロ-1-オキシド-4-ピリジニル)-3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンズアミド

3-シアノ-N-(3,5-ジクロロ-1-オキシド-4-ピリジニル)ベンズアミド (0.84 g、2.84 mmol)、1-(2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフラン-1-イル)-2-メチル-1-プロパノール (1.07 g、4.26 mmol)、酢酸 (7 mL)

およびトルエン (10 mL) の混合物に濃硫酸 (0.393 mL、7.38 mmol) を加え、混合物を 80 °C で 1 時間攪拌した。反応液を氷冷した後、水を加え、ジエチルエーテルで洗浄した。水層をアンモニア水および 1 M 水酸化ナトリウム水溶液で塩基性にして、ジイソプロピルエーテル-ジエチルエーテル (1:1) で洗浄した。水層を 2 M 塩酸で pH 7 に調整し、酢酸エチルで抽出した。抽出液を飽和食塩水で洗浄した後、無水硫酸マグネシウム乾燥し、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (酢酸エチルから酢酸エチル/メタノール 23:2) に供した後、酢酸エチルから結晶化し、表題化合物 (0.20 g、収率 13%) を得た。

融点 264-266 °C。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.17 (6H, s), 1.22 (6H, s), 2.23 (2H, s), 2.67 (2H, s), 3.82 (3H, s), 6.84 (1H, s), 7.57-7.68 (2H, m), 8.01-8.09 (2H, m), 8.72 (2H, s), 10.58 (1H, br s)。

【0379】合成例 478

N-(2-オキソ-3-ピペリジニル)-3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンズアミド

合成例 159 と同様の方法により、3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]

イソキノリン-1-イル)安息香酸塩および 3-アミノ-3,4,5,6-テトラヒドロ-2(1H)-ピリジノンから、表題化合物を得た。収率 63%。

非晶質。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.23 (3H, s), 1.28 (3H, s), 1.30 (6H, s), 1.58-1.80 (2H, m), 1.88-1.98 (2H, m), 2.18 (2H, s), 2.59-2.72 (3H, m), 3.27-3.38 (2H, m), 3.92 (3H, s), 4.40-4.50 (1H, m), 6.27 (1H, br s), 6.62 (1H, s), 7.33-7.36 (1H, m), 7.43-7.48 (1H, m), 7.88-7.95 (2H, m)。

合成例 479

(S)-N-[ヘキサヒドロ-2-オキソ-1H-アゼピン-3-イル]-3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンズアミド

合成例 159 と同様の方法により、3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)安息香酸塩および (S)-3-アミノヘキサヒドロ-2H-アゼピン-2-オンから、表題化合物を得た。収率 65%。

非晶質。

[α]_D +23.1° (c 1.0、メタノール)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.23 (3H, s), 1.30 (9H, s), 1.51-2.05 (6H, m), 2.16 (2H, s), 2.70 (2H, s), 3.20-3.38 (2H, m), 3.92 (3H, s), 4.68-4.78 (1H, m), 6.53 (1H, br s), 6.62 (1H, s), 7.42-7.51 (2H, m), 7.69-7.73 (1H, m), 7.88-7.92 (2H, m)。

合成例 480

(R)-N-[ヘキサヒドロ-2-オキソ-1H-アゼピン-3-イル]-3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンズアミド

合成例 159 と同様の方法により、3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)安息香酸塩および (R)-3-アミノヘキサヒドロ-2H-アゼピン-2-オンから、表題化合物を得た。収率 33%。

非晶質。

[α]_D -22.5° (c 1.0、メタノール)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.23 (3H, s), 1.30 (9H, s), 1.51-2.25 (6H, m), 2.17 (2H, s), 2.70 (2H, s), 3.20-3.36 (2H, m), 3.92 (3H, s), 4.69-4.78 (1H, m), 6.29 (1H, br s), 6.62 (1H, s), 7.41-7.51 (2H, m), 7.69-7.73 (1H, m), 7.88-7.91 (2H, m)。

【0380】合成例 481

3-(6-エトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)安息香酸メチルエステル

1-(7-エトキシ-2,3-ジヒドロ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフラン-1-イル)-2-メチル-1-プロパノール (15.0 g、56.7 mmol)、3-シアノ安息香酸メチル (9.14 g、56.7 mmol)、酢酸 (80 mL) およびトルエン (100 mL) の混合物に濃硫

酸 (7.86 mL、0.147 mol) を加え、これを 80 °C で 1 時間攪拌した。反応液を氷冷した後水を加え、ジエチルエーテルで洗浄した。水層を氷冷した後、濃アンモニア水で塩基性にして、酢酸エチルで抽出した。抽出液を水洗した後、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 4:1) に供し、表題化合物 (9.00 g、収率 39%) を得た。

非晶質。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.25 (6H, s), 1.29 (6H, s), 1.47 (3H, t, J=7.0 Hz), 2.15 (2H, s), 2.68 (2H, s), 3.9 10 2 (3H, s), 4.18 (2H, q, J=7.0 Hz), 6.62 (1H, s), 7.47 (1H, t, J=8.0 Hz), 7.61 (1H, d, J=8.0 Hz), 8.05 -8.08 (2H, m)。

合成例 4 8 2

3-(6-エトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)安息香酸塩酸塩

3-(6-エトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)安息香酸メチルエステル (8.80 g、21.6 mmol) のメタノール (40 m 20 L) 溶液に 5 M 水酸化ナトリウム水溶液 (12 mL) を加え、混合物を 50 °C で 12 時間攪拌した。反応液を氷冷した後 5 M 塩酸 (17 mL) を加え、減圧濃縮した。残渣にエタノールを加えてろ過し、ろ液を減圧濃縮する操作を 3 回繰り返した。残渣を酢酸エチルから結晶化し、表題化合物 (6.15 g、収率 66%) を得た。

融点 240-243 °C。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.22 (6H, s), 1.37 (3H, t, J=7.0 Hz), 1.46 (6H, s), 2.02-2.25 (2H, m), 3.16 (2H, s), 4.24 (2H, q, J=7.0 Hz), 7.09 (1H, s), 7.76 (1 30 H, t, J=7.8 Hz), 7.86 (1H, d, J=7.8 Hz), 8.16 (1H, s), 8.26 (1H, d, J=7.8 Hz)。

合成例 4 8 3

3-(6-エトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)-N-メチルベンズアミド

3-(6-エトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)安息香酸塩酸塩 (1.00 g、2.33 mmol)、1-ヒドロキシ-1H-ベンゾトリアゾール-水合物 (0.392 g、2.56 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (10 mL) 懸濁液に 1-エチル-3-(3-ジメチルアミノプロピル)カルボジイミド塩酸塩 (0.580 g、3.03 mmol) を加え、混合物を室温で 30 分間攪拌した。これに 40%メチルアミン/メタノール溶液 (1.2 mL) を加え、混合物を室温でさらに 2 時間攪拌した。反応液に水を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を水洗した後、減圧濃縮した。残渣を酢酸エチル-ヘキサンから再結晶化し、表題化合物 (0.80g、収率 84%) を得た。

融点 173-174 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.21 (6H, s), 1.28 (6H, s), 1.47 50

(3H, t, J=7.0 Hz), 2.13 (2H, s), 2.61 (2H, s), 2.9 4 (3H, d, J=5.2 Hz), 4.19 (2H, q, J=7.0 Hz), 6.60 (1H, s), 6.85-6.90 (1H, m), 7.38-7.44 (2H, m), 7.7 7 (1H, d, J=1.2Hz), 7.85-7.90 (1H, m)。

【0381】合成例 4 8 4

N-[2-アミノ-2-オキシエチル]-3-(6-エトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンズアミド

3-(6-エトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)安息香酸塩酸塩 (1.00 g、2.33 mmol) のテトラヒドロフラン (10 mL) 懸濁液にトリエチルアミン (0.810 mL、5.83 mmol) を加え、混合物を室温で 10 分間攪拌した。これを氷冷し、クロロギ酸イソブチル (0.362 mL、2.80mmol) を滴下して、混合物を氷冷下で 45 分間攪拌した。グリシンアミド塩酸塩 (0.386 g、3.50 mmol) を 2 M 水酸化ナトリウム水溶液 (1.75 mL、3.5 mmol) に溶解した液を反応液に加え、混合物を氷冷下で 3 時間攪拌した。反応液に炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を水洗した後、減圧濃縮した。残渣を酢酸エチル-ジエチルエーテルから結晶化し、表題化合物 (0.82 g、収率 75%) を得た。

融点 127-128 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.22 (6H, s), 1.29 (6H, s), 1.47 (3H, t, J=7.0 Hz), 2.14 (2H, s), 2.64 (2H, s), 4.0 5 (2H, d, J=5.0 Hz), 4.18 (2H, q, J=7.0 Hz), 5.81 (1H, br s), 6.40 (1H, br s), 6.61 (1H, s), 7.41-7.50 (2H, m), 7.85-7.99 (3H, m)。

合成例 4 8 5

N-[3-(6-エトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゾイル]-2-メチルアラニン エチルエステル

3-(6-エトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)安息香酸塩酸塩 (2.00 g、4.65 mmol)、1-ヒドロキシ-1H-ベンゾトリアゾール-水合物 (0.784 g、5.12 mmol)、2-アミノイソ酪酸エチル塩酸塩 (1.05 g、6.05 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (20 mL) 溶液にトリエチルアミン (2.59 mL、18.6 mmol) および 1-エチル-3-(3-ジメチルアミノプロピル)カルボジイミド塩酸塩 (1.16 g、6.05 mmol) を加え、混合物を室温で 3 時間攪拌した。反応液に水を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を水洗した後、減圧濃縮した。残渣を酢酸エチル-ヘキサンから再結晶し、表題化合物 (1.82 g、収率 77%) を得た。

融点 155-156 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.24-1.30 (15H, m), 1.47 (3H, t, J=7.0 Hz), 1.66 (6H, s), 2.16 (2H, s), 2.68 (2H, s), 4.13-4.28 (4H, m), 6.61 (1H, s), 6.93 (1H, s), 7.42-7.50 (2H, m), 7.83-7.89 (2H, m)。

合成例 4 8 6

N-[3-(6-エトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゾイル]-2-メチルアラニン塩酸塩

N-[3-(6-エトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゾイル]-2-メチルアラニン エチルエステル (1.25 g, 2.47 mmol) のエタノール (7 mL) 溶液に 5 M 水酸化ナトリウム水溶液 (3.0 mL) を加え、混合物を室温で 3 時間撹拌した。反応液に 5 M 塩酸 (3.7 mL) を加え、減圧濃縮した。残渣にエタノールを加えてろ過し、ろ液を減圧濃縮する操作を 3 回繰り返した。残渣を酢酸エチルから結晶化し、表題化合物 (1.28 g、定量的) を得た。

融点 234-238 °C。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.22 (12H, s), 1.34 (3H, t, J=6.9 Hz), 1.45 (6H, s), 2.19 (2H, s), 2.72 (2H, s), 4.12 (2H, q, J=6.9 Hz), 6.85 (1H, s), 7.51-7.53 (2H, m), 7.92-7.96 (2H, m), 8.61 (1H, s)。

【0382】合成例 487

N-(2-アミノ-1,1-ジメチル-2-オキシエチル)-3-(6-エトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンズアミド

N-[3-(6-エトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゾイル]-2-メチルアラニン塩酸塩 (0.80 g, 1.55 mmol)、1-ヒドロキシ-1H-ベンゾトリアゾール・アンモニウム塩 (0.307 g, 2.02 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (8 mL) 溶液を氷冷し、1-エチル-3-(3-ジメチルアミノプロピル)カルボジイミド塩酸塩 (0.387 g, 2.02 mmol) を加え、氷冷下で 30 分間撹拌した。反応液にトリエチルアミン (0.541 mL, 3.88 mmol) を加え、混合物を室温で 4 時間撹拌した。反応液に少量の水を加え、減圧下で濃縮した。残渣に飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を水洗した後、減圧濃縮した。残渣を酢酸エチル-ヘキサンから結晶化し、表題化合物 (0.50 g、収率 68%) を得た。

融点 204-206 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.25 (6H, s), 1.30 (6H, s), 1.47 (3H, t, J=6.9 Hz), 1.69 (6H, s), 2.17 (2H, s), 2.68 (2H, s), 4.18 (2H, q, J=6.9 Hz), 5.54 (1H, br s), 6.50 (1H, br s), 6.61 (1H, s), 7.07 (1H, s), 7.42-7.49 (2H, m), 7.85-7.89 (2H, m)。

合成例 488

3-(6-エトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼンアミン

1-(7-エトキシ-2,3-ジヒドロ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフラン-2-メチル-1-プロパノール (11.2 g, 42.3 mmol)、3-アミノベンゾニトリル (5.00 g, 42.3 mmol)、酢酸 (60 mL) およびトルエン (75 mL) の混合物を氷冷し、濃硫酸 (6.77 mL, 0.127 mol) を加え、80 °C で 1

時間撹拌した。反応液を室温に戻した後に水を加え、ジエチルエーテルで洗浄した。水層を濃アンモニア水で塩基性にした後、酢酸エチルで抽出した。抽出液を水洗した後、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 2:1) に供し、表題化合物 (8.17 g、収率 53%) を得た。油状物。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.23 (6H, s), 1.32 (6H, s), 1.46 (3H, t, J=7.0 Hz), 2.32 (2H, s), 2.65 (2H, s), 3.70 (2H, br s), 4.16 (2H, q, J=7.0 Hz), 6.58 (1H, s), 6.70-7.21 (4H, m)。

合成例 489

N-[3-(6-エトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]メタンスルホンアミド

3-(6-エトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼンアミン (0.73 g, 2.00 mmol) のピリジン (5 mL) 溶液を氷冷し、メタンスルホンクロリド (0.186 mL, 2.40 mmol) を滴下して、混合物を氷冷下で 1 時間撹拌した。反応液に飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を水洗した後、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (酢酸エチル/メタノール 97:3) に供した後、酢酸エチル-ヘキサンから結晶化し、表題化合物 (0.52 g、収率 59%) を得た。

融点 181-182 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.27 (6H, br s), 1.32 (6H, s), 1.46 (3H, t, J=7.2 Hz), 2.23 (2H, s), 2.71 (2H, s), 2.77 (3H, s), 4.18 (2H, q, J=7.2 Hz), 6.60 (1H, s), 7.08-7.14 (1H, m), 7.22-7.35 (4H, m)。

【0383】合成例 490

N-[3-(6-エトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]-N-(メチルスルホニル)メタンスルホンアミド

合成例 30 と同様の方法により、3-(6-エトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼンアミンおよびメタンスルホンクロリドから、表題化合物を得た。収率 53%。

融点 183-184 °C (酢酸エチル-ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.25 (6H, s), 1.31 (6H, s), 1.46 (3H, t, J=6.9 Hz), 2.23 (2H, br s), 2.68 (2H, s), 3.40 (6H, s), 4.18 (2H, q, J=6.9 Hz), 6.61 (1H, s), 7.29 (1H, t, J=1.5 Hz), 7.35-7.40 (1H, m), 7.52 (1H, t, J=7.8 Hz), 7.61 (1H, dt, J=7.8 Hz, 1.5 Hz)。

合成例 491

N-[3-(6-エトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]-2-(メチルチオ)アセトアミド

合成例 30 と同様の方法により、3-(6-エトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼンアミンおよびクロロアセチルクロリドから、2-クロロ-N-[3-(6-エトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]アセトアミドを得た。これを合成例 38 と同様の方法により、表題化合物に導いた。収率 50%。

融点 162-163 °C (酢酸エチル-ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.24 (6H, s), 1.32 (6H, s), 1.46 (3H, t, J=6.9 Hz), 2.19 (3H, s), 2.28 (2H, s), 2.67 (2H, s), 3.34 (2H, s), 4.18 (2H, q, J=6.9 Hz), 6.60 (1H, s), 7.12 (1H, d, J=7.2 Hz), 7.36 (1H, t, J=7.2 Hz), 7.43 (1H, s), 7.84 (1H, d, J=7.2 Hz), 8.82 (1H, s)。

合成例 492

N-[3-(6-エトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]-2-(メチルスルフィニル)アセトアミド

合成例 39 と同様の方法により、N-[3-(6-エトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]-2-(メチルチオ)アセトアミドから、表題化合物を得た。収率 67%。

融点 114-118 °C (酢酸エチル-ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.13 (6H, s), 1.22 (6H, s), 1.33 (3H, t, J=7.0 Hz), 2.28 (2H, s), 2.62 (2H, s), 2.69 (3H, s), 3.73 (1H, d, J=12.8 Hz), 3.93 (1H, d, J=12.8 Hz), 4.09 (2H, q, J=7.0 Hz), 6.78 (1H, s), 7.06 (1H, d, J=7.6 Hz), 7.32-7.39 (1H, m), 7.61-7.65 (2H, m), 10.40 (1H, s)。

【0384】合成例 493

N-(ヒドロキシメチル)-3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンズアミド

3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンズアミド (0.50 g, 1.32 mmol)、37% ホルマリン (1.07 g, 13.2 mmol) および炭酸カリウム (0.365 g, 2.64 mmol) のアセトニトリル (5 mL) 懸濁液を、60 °C で 3 時間攪拌した後、1 ヶ月放置した。反応液に飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、酢酸エチル抽出した。抽出液を水洗した後、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (酢酸エチル/メタノール 19:1) に供し、表題化合物 (0.40 g、収率 74%) を得た。

非晶質。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.23 (6H, s), 1.29 (6H, s), 2.14 (2H, s), 2.65 (2H, s), 3.93 (3H, s), 4.87 (2H, d, J=6.2 Hz), 6.62 (1H, s), 7.39-7.48 (2H, m), 7.83-7.89 (2H, m), 8.05-8.11 (1H, m)。

合成例 494

N-メチル-3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-4-ヒドロキシ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンズアミド

合成例 291 と同様の方法により、N-メチル-3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンズアミドから表題化合物を得た。収率 35%。

融点 215-216 °C (酢酸エチル)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.25 (6H, s), 1.29 (6H, s), 2.16 (2H, s), 2.95 (3H, d, J=4.4 Hz), 3.95 (3H, s), 4.44 (1H, s), 6.98 (1H, s), 7.18 (1H, br s), 7.42-7.50 (2H, m), 7.81 (1H, s), 7.87-7.91 (1H, m)。

合成例 495

N-メチル-3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-4-オキソフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンズアミド

合成例 294 と同様の方法により、N-メチル-3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-4-ヒドロキシ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンズアミドから表題化合物を得た。収率 45%。

融点 229-231 °C (酢酸エチル-ジイソプロピルエーテル)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.34 (6H, s), 1.52 (6H, s), 2.17 (2H, s), 3.00 (3H, d, J=4.8 Hz), 4.00 (3H, s), 6.36-6.48 (1H, m), 7.44-7.59 (3H, m), 7.78 (1H, s), 7.85-7.91 (1H, m)。

合成例 496

N-(2-アミノ-1,1-ジメチル-2-オキソエチル)-3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-4-ヒドロキシ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンズアミド

合成例 291 と同様の方法により、N-(2-アミノ-1,1-ジメチル-2-オキソエチル)-3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンズアミドから表題化合物を得た。収率 64%。

融点 155-158 °C (酢酸エチル)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.25-1.31 (12H, m), 1.69 (6H, s), 2.20 (2H, s), 3.96 (3H, s), 4.48 (1H, s), 5.82 (1H, br s), 6.77 (1H, br s), 7.03 (1H, s), 7.43-7.52 (3H, m), 7.91 (2H, s)。

合成例 497

N-(2-アミノ-1,1-ジメチル-2-オキソエチル)-3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-4-オキソフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンズアミド

合成例 294 と同様の方法により、N-(2-アミノ-1,1-ジメチル-2-オキソエチル)-3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-4-ヒドロキシ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンズアミドから表題化合物を得た。収率 52%。

381

融点 180-181 °C (酢酸エチル)。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.26 (6H, s), 1.41 (6H, s), 1.45 (6H, s), 2.24 (2H, s), 3.91 (3H, s), 6.85 (1H, br s), 7.19 (1H, br s), 7.47-7.55 (3H, m), 7.90-7.98 (2H, m), 8.29 (1H, br s)。

【0385】合成例 498

3-(プロモメチル)-6-エトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,8,8-トリメチル-1-フェニルプロ[2,3-h]イソキノリン塩酸塩

ベンゾニトリル (20 mL) を -5 °C に冷却し、塩化アルミニウム (2.38 g, 17.9 mmol) を加えて攪拌した。これに 7-エトキシ-2,3-ジヒドロ-2,2-ジメチル-5-(2-メチル-2-プロペニル)ベンゾフラン (2.20 g, 8.93 mmol) を加えた後、直ちに臭素 (0.46 mL, 8.93 mmol) を滴下し、混合物を -5 °C で 1 時間、さらに室温で 3 時間攪拌した。反応液を 1 M 塩酸に注ぎ、ジイソプロピルエーテルで洗浄した。水層を濃アンモニア水で塩基性にして、酢酸エチルで抽出した。抽出液を水洗した後、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 17:3 から 7:3) に供し、3-(プロモメチル)-6-エトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,8,8-トリメチル-1-フェニルプロ[2,3-h]イソキノリン (1.41 g, 収率 37%) を得た。

油状物。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.31 (6H, s), 1.34 (3H, s), 1.47 (3H, t, J=7.2 Hz), 2.18 (2H, s), 2.78 (1H, d, J=15.9 Hz), 2.93 (1H, d, J=15.9 Hz), 3.40 (1H, d, J=9.9 Hz), 3.55 (1H, d, J=9.9 Hz), 4.19 (2H, q, J=7.2 Hz), 6.65 (1H, s), 7.39 (5H, s)。

これを塩酸塩にした後に、ジエチルエーテルから粉末化させ、表題化合物 (1.40g, 7-エトキシ-2,3-ジヒドロ-2,2-ジメチル-5-(2-メチル-2-プロペニル)ベンゾフランからの収率 34%) を得た。一部を酢酸エチルから結晶化した。

融点 156-159 °C。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.22 (3H, s), 1.24 (3H, s), 1.37 (3H, t, J=6.9 Hz), 1.59 (3H, s), 2.17 (2H, s), 3.35 (2H, s), 3.83 (1H, d, J=10.8 Hz), 3.92 (1H, d, J=10.8 Hz), 4.24 (2H, q, J=6.9 Hz), 7.11 (1H, s), 7.59-7.78 (5H, m)。

合成例 499

6-エトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-N,N,3,8,8-ペンタメチル-3-フロ[2,3-h]イソキノリンメタンアミン二塩酸塩 3-(プロモメチル)-6-エトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,8,8-トリメチルフロ[2,3-h]イソキノリン塩酸塩 (0.50 g, 1.08 mmol)、40% メチルアミン水溶液 (2 mL) および N,N-ジメチルアセトアミド (3 mL) の混合物を、封管中、180 °C で 14 時間攪拌した。反応液に飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を水洗した後、減圧濃縮した。残渣をシリカゲル

382

カラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 1:1 からヘキサン/酢酸エチル/トリエチルアミン 92:5:3) に供した後、塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 4:1) に供し、6-エトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-N,N,3,8,8-ペンタメチル-3-フロ[2,3-h]イソキノリンメタンアミン (0.22 g, 収率 52%) を得た。

油状物。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.22-1.32 (9H, m), 1.45 (3H, t, J=7.0 Hz), 2.18 (2H, s), 2.31 (6H, s), 2.35-2.51 (2H, m), 2.64 (1H, d, J=15.6 Hz), 2.97 (1H, d, J=15.6 Hz), 4.17 (2H, q, J=7.0 Hz), 6.62 (1H, s), 7.38 (5H, s)。

これを塩酸塩にした後、酢酸エチルから結晶化し、表題化合物 (0.20 g, 3-(プロモメチル)-6-エトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,8,8-トリメチルフロ[2,3-h]イソキノリン塩酸塩からの収率 40%) を得た。

融点 145-147 °C。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.23 (3H, s), 1.25 (3H, s), 1.38 (3H, t, J=6.9 Hz), 1.54-1.62 (3H, m), 2.11 (1H, d, J=16.2 Hz), 2.28 (1H, d, J=16.2 Hz), 2.91 (6H, s), 3.20 (2H, s), 3.60 (2H, s), 4.23 (2H, q, J=6.9 Hz), 7.03 (1H, s), 7.59-7.69 (5H, m)。

【0386】合成例 500

6-エトキシ-N-エチル-3,4,8,9-テトラヒドロ-N,3,8,8-テトラメチル-3-フロ[2,3-h]イソキノリンメタンアミン二塩酸塩

合成例 499 と同様の方法により、3-(プロモメチル)-6-エトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,8,8-トリメチルフロ[2,3-h]イソキノリン塩酸塩および N-エチルメチルアミンから、表題化合物を得た。収率 33%。

融点 146-149 °C (酢酸エチル)。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.23 (6H, s), 1.27 (3H, t, J=7.4 Hz), 1.38 (3H, t, J=6.8 Hz), 1.58 (3H, s), 2.13 (1H, d, J=16.4 Hz), 2.26 (1H, d, J=16.4 Hz), 2.89 (3H, s), 3.20-3.61 (6H, m), 4.23 (2H, q, J=6.8 Hz), 7.03 (1H, s), 7.60-7.65 (5H, m)。

合成例 501

ジメチルカルバモチオ酸 0-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]エステル塩酸塩

水酸化カリウム (587 mg, 10.5 mmol) の水 (30 mL) - アセトン (30 mL) 溶液に 3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェノール (3.50 g, 9.96 mmol) を加え、室温で 20 分間攪拌した。氷冷下、N,N-ジメチルチオカルバモイルクロリド (1.42 g, 11.5 mmol) を加え、室温で 3 時間攪拌した。アセトンを減圧留去し、1 M 水酸化ナトリウム水溶液を加えて塩基性にし、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を 1M 水酸化ナトリウム

水溶液および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー（ヘキサン/酢酸エチル 5:1 の後 3:1）に供し、表題化合物の遊離塩基を 3.40 g 得た。そのうち 753 mg を酢酸エチルに溶解し、4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液を加え、減圧濃縮し、ジエチルエーテルから粉末化させて表題化合物（745 mg、収率 57%）を得た。

非晶質。

$^1\text{H NMR}$ ($\text{DMSO}-d_6$) δ 1.23 (6H, s), 1.41 (3H, s), 1.47 (3H, s), 2.05-2.75 (2H, m), 3.17 (2H, s), 3.20-3.50 (6H, m), 3.94 (3H, s), 7.09 (1H, s), 7.37-7.54 (3H, m), 7.67-7.74 (1H, m), 12.70 (1H, br s).

合成例 502

2-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェノキシ]アセトアミド

3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェノール (215 mg, 0.612 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (20 mL) 溶液に氷冷下、カリウム tert-ブトキシド (380 mg, 3.37 mmol) を加え、室温で 1 時間攪拌した。2-ブロモアセトアミド (279 mg, 2.02 mmol) を加え、室温で 2 時間攪拌した後、90 °C で 24 時間攪拌した。反応混合物に水を注ぎ、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を 1 M 水酸化ナトリウム水溶液および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー（ヘキサン/酢酸エチル 1:2 の後ヘキサン/酢酸エチル/トリエチルアミン 15:30:1）に供し、ジエチルエーテル-ヘキサンから結晶化させて表題化合物 (130 mg、収率 52%) を得た。

融点 172-174 °C。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.25 (6H, s), 1.32 (6H, s), 2.24 (2H, br s), 2.69 (2H, s), 3.93 (3H, s), 4.53 (2H, s), 5.63 (1H, br s), 6.60 (1H, br s), 6.62 (1H, s), 6.93-7.05 (3H, m), 7.29-7.37 (1H, m)。

【0387】合成例 503

N-メチル-3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼンスルホンアミド塩酸塩

3-シアノ-N-メチルベンゼンスルホンアミド (2.10 g, 10.7 mmol) の酢酸 (10 mL)-トルエン (17 mL) 懸濁液に氷冷下、濃硫酸 (1.2 mL, 22.5 mmol) を滴下し、室温で 1-(2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフラン)-2-メチル-1-プロパノール (3.20 g, 12.8 mmol) を加え、80 °C で 1 時間攪拌した。反応混合物に氷水を注ぎ、ジエチルエーテルで洗浄した。水層を濃アンモニア水で中和し、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸

ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー（ヘキサン/酢酸エチル 1:1 の後ヘキサン/酢酸エチル/トリエチルアミン 25:25:1）に供し、表題化合物の遊離塩基を得た。これを酢酸エチルに溶解し、4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液を加え、減圧濃縮し、エタノール-酢酸エチルから結晶化させて表題化合物 (3.19 g、収率 64%) を得た。

融点 164-167 °C。

$^1\text{H NMR}$ ($\text{DMSO}-d_6$) δ 1.22 (6H, s), 1.46 (6H, br s), 2.13 (2H, s), 2.45 (3H, d, $J = 4.8$ Hz), 3.04-3.30 (3H, m), 3.95 (3H, s), 7.11 (1H, s), 7.76-8.26 (4H, m)。

合成例 504

2-[(メチル)[[(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]スルホニル]アミノ]酢酸 エチルエステル塩酸塩 N-メチル-3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼンスルホンアミド塩酸塩 (900 mg, 1.94 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (9 mL) 溶液に氷冷下、水素化ナトリウム (66%油分散物) (148 mg, 4.07 mmol) を加え、室温で 30 分間攪拌した。氷冷下、プロモ酢酸エチル (0.23 mL, 2.03 mmol) を加え、室温で 5 時間攪拌した。反応混合物に水を注ぎ、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー（ヘキサン/酢酸エチル 3:1）に供し、表題化合物の遊離塩基を得た。これを酢酸エチルに溶解し、4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液を加え、減圧濃縮し、酢酸エチルから結晶化させて表題化合物 (680 mg、収率 64%) を得た。

融点 122-125 °C。

$^1\text{H NMR}$ ($\text{DMSO}-d_6$) δ 1.17 (3H, t, $J = 7.0$ Hz), 1.22 (6H, s), 1.46 (6H, brs), 2.17 (2H, s), 2.87 (3H, s), 3.17 (2H, s), 3.94 (3H, s), 4.06 (2H, q, $J = 7.0$ Hz), 4.12 (2H, s), 7.11 (1H, s), 7.81-7.92 (2H, m), 8.09-8.13 (2H, m)。

【0388】合成例 505

2-[(メチル)[[(3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]スルホニル]アミノ]アセトアミド

2-[(メチル)[[(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]スルホニル]アミノ]酢酸 エチルエステル塩酸塩 (464 mg, 0.842 mmol) のエタノール (1.5 mL) 溶液に 5 M 水酸化ナトリウム水溶液 (1.5 mL) を加え、室温で 1 時間攪拌した。エタノールを減圧留去した後水を加え、5 M 塩酸で pH を 6 とし、酢酸エチル-テトラヒドロフランで 2 回抽出した。合わせた有機層を硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮し、2-[(メチル)[[3

- (3, 4, 8, 9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3, 3, 8, 8-テトラメチルフロ[2, 3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]スルホニル]アミノ]酢酸 (394 mg)を得た。得られた酢酸誘導体 (390 mg) の N,N-ジメチルホルムアミド (2 mL) 溶液に 1-エチル-3-(3-ジメチルアミノプロピル)カルボジイミド塩酸塩 (199 mg, 1.04 mmol) および 1-ヒドロキシ-1H-ベンゾトリアゾール-水合物 (123 mg, 0.802 mmol) を加え、室温で 30 分間攪拌した。氷冷下、濃アンモニア水 (0.5 mL) を加え、同温下 1 時間攪拌した。反応混合物に水を注ぎ、酢酸エチル-テトラヒドロフランで 2 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 3:1) に供し、酢酸エチル-ヘキサンから結晶化させて表題化合物 (55 mg、収率 14%) を得た。

融点 105-107 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.26 (6H, s), 1.33 (6H, s), 2.16 (2H, s), 2.72 (2H, s), 2.86 (3H, s), 3.66 (2H, s), 3.93 (3H, s), 5.58 (1H, br s), 6.58 (1H, brs), 6.6 20 4 (1H, s), 7.59-7.86 (4H, m)。

合成例 506

N-[3-[[[3-(3, 4, 8, 9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3, 3, 8, 8-テトラメチルフロ[2, 3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]スルホニル]アミノ]フェニル]アセトアミド塩酸塩 N-[3-[[[3-(3-シアノフェニル)スルホニル]アミノ]フェニル]アセトアミド (1.39 g, 4.41 mmol) の酢酸 (5 mL) - トルエン (8 mL) 溶液に氷冷下、濃硫酸 (0.52 mL, 9.70 mmol) を滴下し、室温で 1-(2, 3-ジヒドロ-7-メトキシ-2, 2-ジメチル-5-ベンゾフラニル)-2-メチル-1-プロパノール (1.32 g, 5.29 mmol) を加え、60°C で 3 時間攪拌した。反応混合物に氷水を注ぎ、ジエチルエーテルで洗浄した。水層を濃アンモニア水で中和し、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 1:2 の後 1:3) に供し、表題化合物の遊離塩基を得た。これを酢酸エチルに溶解し、4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液を加え、減圧濃縮し、ジエチルエーテルから粉末化させて表題化合物 (815 mg、収率 48%) を得た。

非晶質。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.09 (6H, s), 1.45 (6H, s), 1.7 3-2.00 (2H, m), 1.94 (3H, s), 3.17 (2H, s), 3.93 (3H, s), 6.65-6.78 (1H, m), 7.10-7.13 (3H, m), 7.6 6 (1H, s), 7.80-7.90 (2H, m), 8.05-8.20 (2H, m), 1 0.05 (1H, s), 10.58 (1H, s)。

【0389】合成例 507

2-[[[3-(3, 4, 8, 9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3, 3, 8, 8-テトラメチルフロ[2, 3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル] 50

スルホニル]アミノ]アセトアミド塩酸塩

2-[[[3-(3-シアノフェニル)スルホニル]アミノ]アセトアミド (180 mg, 0.752 mmol) の酢酸 (1 mL) - トルエン (1.6 mL) 懸濁液に氷冷下、濃硫酸 (0.088 mL, 1.65 mmol) を滴下し、室温で 1-(2, 3-ジヒドロ-7-メトキシ-2, 2-ジメチル-5-ベンゾフラニル)-2-メチル-1-プロパノール (226 mg, 0.903 mmol) を加え、60 °C で 2 時間攪拌した。反応混合物に水を注ぎ、ジエチルエーテルで 2 回洗浄した。水層を濃アンモニア水で中和し、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (酢酸エチルの後酢酸エチル/メタノール 10:1) に供し、表題化合物の遊離塩基を得た。これを酢酸エチルに溶解し、4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液を加え、減圧濃縮し、ジエチルエーテルから粉末化させて表題化合物 (189 mg、収率 50%) を得た。

非晶質。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.22 (6H, s), 1.46 (6H, br s), 2.00-2.30 (2H, m), 3.17 (2H, s), 3.30-3.60 (2H, m), 3.94 (3H, s), 7.10 (2H, s), 7.42 (1H, s), 7.80-7.8 7 (2H, m), 8.04 (1H, s), 8.11-8.25 (2H, m)。

合成例 508

N-(ヘキサヒドロ-2-オキソ-1H-アゼピン-3-イル)-3-(3, 4, 8, 9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3, 3, 8, 8-テトラメチルフロ[2, 3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼンスルホンアミド塩酸塩

3-シアノ-N-(ヘキサヒドロ-2-オキソ-1H-アゼピン-3-イル)ベンゼンスルホンアミド (360 mg, 1.23 mmol) の酢酸 (2 mL) - トルエン (3.2 mL) 懸濁液に氷冷下、濃硫酸 (0.14 mL, 2.71 mmol) を滴下し、室温で 5 分間攪拌した。1-(2, 3-ジヒドロ-7-メトキシ-2, 2-ジメチル-5-ベンゾフラニル)-2-メチル-1-プロパノール (369 mg, 1.47 mmol) を加え、65 °C で 3 時間攪拌した。反応混合物に水を注ぎ、ジエチルエーテルで 2 回洗浄した。水層を濃アンモニア水で中和し、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 1:2) に供し、表題化合物の遊離塩基を得た。これを酢酸エチルに溶解し、4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液を加え、減圧濃縮し、ジエチルエーテルから粉末化させて表題化合物 (270 mg、収率 39%) を得た。

非晶質。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.22 (6H, s), 1.44 (3H, s), 1.4 5-1.85 (4H, m), 1.47 (3H, s), 2.00-2.35 (2H, m), 2.90-3.15 (2H, m), 3.16 (2H, s), 3.39-3.45 (2H, m), 3.94 (3H, s), 4.00-4.15 (1H, m), 7.10 (1H, s), 7.65-7.90 (2H, m), 7.82 (2H, br s), 8.03-8.20 (2H,

m)。

合成例 509

ジメチルカルバモチオ酸 S-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]エステル塩酸塩

ジメチルカルバモチオ酸 S-(3-シアノフェニル)エステル (637 mg, 3.09 mmol) の酢酸 (4 mL) - トルエン (6.5 mL) 懸濁液に氷冷下、濃硫酸 (0.36 mL, 6.80 mmol) を滴下し、室温で 1-(2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフラニル)-2-メチル-1-プロパノール (928 mg, 3.71 mmol) を加え、80 °C で 1 時間撹拌した。反応混合物に氷水を注ぎ、ジエチルエーテルで洗浄した。水層を濃アンモニア水で中和し、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 5:1 の後 3:1) に供し、表題化合物の遊離塩基を非晶質として得た。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.24 (6H, s), 1.33 (6H, s), 2.39 (2H, br s), 2.67 (2H, s), 3.03 (6H, br s), 3.91 (3 H, s), 6.59 (1H, s), 7.38-7.58 (4H, m)。

これを酢酸エチルに溶解し、4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液を加え、減圧濃縮し、ジエチルエーテルから粉末化させて表題化合物 (618 mg、収率 42%) を得た。

非晶質。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.23 (6H, s), 1.42 (3H, s), 1.45 (3H, s), 2.13 (1H, br d, J = 15.8 Hz), 2.40-2.60 (1H, m), 2.94 (3H, s), 3.00-3.50 (2H, m), 3.05 (3 H, s), 3.94 (3H, s), 7.09 (1H, s), 7.68-7.80 (4H, m)。

【0390】合成例 510

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-[3-(メチルチオ)フェニル]フロ[2,3-h]イソキノリン塩酸塩

ジメチルカルバモチオ酸 S-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]エステル (1.12 g, 2.55 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (10 mL) 溶液に氷冷下、28% ナトリウムメトキシド/メタノール溶液 (2 mL) を加え、室温で 1 時間撹拌した。反応混合物に氷水を注ぎ、5 M 塩酸で中和し、酢酸エチルで 3 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を N,N-ジメチルホルムアミド (10 mL) に溶解し、水素化ナトリウム (66% 油分散物) (93 mg, 2.55 mmol) を加え、室温で 20 分間撹拌した。氷冷下、ヨードメタン (0.16 mL, 2.55 mmol) を加え、室温で 2 時間撹拌した。反応混合物に水を注ぎ、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性

シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 10:1) に供し、表題化合物の遊離塩基を非晶質として得た。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.25 (6H, s), 1.33 (6H, s), 2.24 (2H, s), 2.49 (3H, s), 2.69 (2H, s), 3.93 (3H, s), 6.61 (1H, s), 7.13-7.31 (4H, m)。

これを酢酸エチルに溶解し、4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液を加え、減圧濃縮し、酢酸エチルから結晶化させて表題化合物 (247 mg、収率 23%) を得た。

融点 130-140 °C。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.24 (6H, s), 1.44 (6H, s), 2.25 (2H, s), 2.55 (3H, s), 3.14 (2H, s), 3.94 (3H, s), 7.09 (1H, s), 7.31-7.35 (1H, m), 7.51-7.63 (3 H, m)。

合成例 511

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-[3-(メチルスルフィニル)フェニル]フロ[2,3-h]イソキノリン塩酸塩

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-[3-(メチルチオ)フェニル]フロ[2,3-h]イソキノリン (288 mg, 0.755 mmol) のメタノール (3.5 mL) 溶液にメタ過ヨウ素酸ナトリウム (404 mg, 1.89 mmol) の水 (2.5 mL) 溶液を加え、室温で 1 時間撹拌した。反応混合物に水を注ぎ、炭酸水素ナトリウムを加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 2:1 の後 1:1) に供し、表題化合物の遊離塩基を得た。これを酢酸エチルに溶解し、4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液を加え、減圧濃縮し、ジエチルエーテルから粉末化させて表題化合物 (257 mg、収率 78%) を得た。

非晶質。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.22 (6H, s), 1.47 (6H, s), 2.15 (2H, s), 2.85 (3H, s), 3.17 (2H, s), 3.94 (3H, s), 7.11 (1H, s), 7.76-8.05 (4H, m)。

合成例 512

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-[3-(メチルスルホニル)フェニル]フロ[2,3-h]イソキノリン塩酸塩

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-[3-(メチルチオ)フェニル]フロ[2,3-h]イソキノリン塩酸塩 (202 mg, 0.483 mmol) のメタノール (3 mL) 溶液にメタ過ヨウ素酸ナトリウム (517 mg, 2.42 mmol) の水 (2 mL) 溶液を加え、60 °C で 4 時間撹拌した。反応混合物に水を注ぎ、炭酸水素ナトリウムを加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 3:1) に

供し、表題化合物の遊離塩基を得た。これを酢酸エチルに溶解し、4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液を加え、減圧濃縮し、エタノール-酢酸エチル-ジイソプロピルエーテルから結晶化させて表題化合物 (171 mg、収率 79%) を得た。

融点 141-145 °C。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.22 (6H, s), 1.47 (6H, s), 2.14 (2H, s), 3.16 (2H, s), 3.34 (3H, s), 3.94 (3H, s), 7.11 (1H, s), 7.86-8.00 (2H, m), 8.23-8.27 (2H, m)。

【0391】合成例 513

2-[[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]チオ]アセトアミド

28% ナトリウムメトキシド/メタノール溶液 (1.43 g, 7.39 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (8 mL) 溶液に氷冷下、ジメチルカルバモチオ酸 S-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]エステル (1.62 g, 3.69 mmol) を加え、室温で 1.5 時間攪拌した。氷冷下、2-ブロモアセトアミド (509 mg, 3.69 mmol) を加え、室温で 30 分間攪拌した。反応混合物に水を注ぎ、酢酸エチル-テトラヒドロフランで 2 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 1:2) に供して非晶質 (1.25 g) を得た。一部 (369mg) を酢酸エチル-ヘキサンから結晶化させて表題化合物 (298 mg、収率 64%) を得た。

融点 118-120 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.27 (6H, s), 1.33 (6H, s), 2.20 (2H, s), 2.71 (2H, s), 3.66 (2H, s), 3.93 (3H, s), 5.44 (1H, br s), 6.62 (1H, s), 6.81 (1H, brs), 7.21-7.43 (4H, m)。

合成例 514

2-[[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]スルフィニル]アセトアミド塩酸塩

2-[[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]チオ]アセトアミド (401 mg, 0.945 mmol) のメタノール (4 mL) 溶液にメタ過ヨウ素酸ナトリウム (655 mg, 3.06 mmol) の水 (2.5 mL) 溶液を加え、室温で 3 時間攪拌した。反応混合物に水を注ぎ、炭酸水素ナトリウムを加えて中和し、酢酸エチルで 3 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 1:3 の後酢酸エチル) に供し、表題化合物の遊離塩基を得た。これを酢酸エチルに溶解し、4 M 塩

化水素/酢酸エチル溶液を加え、減圧濃縮し、ジエチルエーテルから粉末化させて表題化合物 (357 mg、収率 79%) を得た。

非晶質。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.23 (6H, s), 1.47 (6H, s), 2.17 (2H, s), 3.17 (2H, s), 3.80 (1H, br d, J = 13.4 Hz), 3.94 (3H, s), 4.04 (1H, d, J = 13.4 Hz), 7.10 (1H, s), 7.36 (1H, s), 7.75-8.03 (5H, m)。

合成例 515

10 2-[[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]スルホニル]アセトアミド塩酸塩

2-[[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]チオ]アセトアミド (486 mg, 1.14 mmol) のメタノール (6 mL) 溶液にメタ過ヨウ素酸ナトリウム (1.22 g, 5.72 mmol) の水 (4 mL) 溶液を加え、70 °C で 6 時間攪拌した。反応混合物に水を注ぎ、炭酸水素ナトリウムを加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 1:3) に供し、表題化合物の遊離塩基を得た。これを酢酸エチルに溶解し、4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液を加え、減圧濃縮し、ジエチルエーテルから粉末化させて表題化合物 (370 mg、収率 66%) を得た。

非晶質。

30 ¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.21 (6H, s), 1.47 (6H, s), 2.00-2.40 (2H, m), 3.17 (2H, s), 3.94 (3H, s), 4.30-4.60 (2H, m), 7.10 (1H, s), 7.35 (1H, s), 7.80 (1H, s), 7.84-7.98 (2H, m), 8.15-8.19 (2H, m)。

【0392】合成例 516

3-クロロ-N-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]-1-プロパンスルホンアミド

3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼンアミン (729 mg, 2.08 mmol) およびトリエチルアミン (0.32 mL, 2.29 mmol) のテトラヒドロフラン (7 mL) 溶液に 3-クロロプロパンスルホンクロリド (0.25 mL, 2.08 mmol) を氷冷下滴下し、室温で 3 時間攪拌した。反応混合物に氷水を注ぎ、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 2:1 の後ヘキサン/酢酸エチル/トリエチルアミン 25:25:1) に供して油状物 (820 mg) を得た。一部 (520 mg) を酢酸エチル-ヘキサンから結晶化させて表題化合物 (453 mg、収率 70%) を得た。

50 融点 163-165 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.27 (6H, s), 1.33 (6H, s), 2.17-2.31 (2H, m), 2.24 (2H, s), 2.72 (2H, s), 3.12 (2H, t, J = 6.5 Hz), 3.64 (2H, t, J = 6.2 Hz), 3.93 (3H, s), 6.61 (1H, s), 7.12-7.39 (4H, m)。

合成例 517

2-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]イソチアゾリジン 1,1-ジオキソド

3-クロロ-N-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]-1-プロパンスルホンアミド (352 mg, 0.717 mmol) のトルエン (3 mL) 溶液に 1,8-ジアザビシクロ[5.4.0]ウンデク-7-エン (0.11 mL, 0.753 mmol) を加え、110 °C で 1 時間攪拌した。反応混合物に水を注ぎ、1 M 塩酸を加えて中和し、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を酢酸エチル-ジエチルエーテルから結晶化させて表題化合物 (112 mg、収率 34%) を得た。

融点 114-116 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.26 (6H, s), 1.33 (6H, s), 2.30 (2H, s), 2.45-2.60 (2H, m), 2.70 (2H, s), 3.38 (2H, t, J = 7.5 Hz), 3.81 (2H, t, J = 6.6 Hz), 3.92 (3H, s), 6.60 (1H, s), 7.24-7.27 (2H, m), 7.39-7.42 (2H, m)。

合成例 518

N,N-ジメチル-N'-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]スルファミド

3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼンアミン (340 mg, 0.970 mmol) のテトラヒドロフラン (3 mL) 溶液に氷冷下、トリエチルアミン (0.15 mL, 1.07 mmol) および ジメチルスルファモイルクロリド (0.10 mL, 0.970 mmol) を加え、15 時間加熱還流した。反応混合物に水を注ぎ、1 M 水酸化ナトリウム水溶液を加えて塩基性にし、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸マグネシウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 1:2) に供し、ジエチルエーテルから結晶化させて表題化合物 (226 mg、収率 51%) を得た。

融点 134-136 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.25 (6H, s), 1.32 (6H, s), 2.24 (2H, s), 2.70 (2H, s), 2.82 (6H, s), 3.92 (3H, s), 6.61 (1H, s), 7.09-7.13 (2H, m), 7.21-7.36 (2H, m)。

【0393】合成例 519

N-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]-2

-プロペンアミド

3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼンアミン (1.07 g, 3.05 mmol) のテトラヒドロフラン (10 mL) 溶液に氷冷下、トリエチルアミン (0.47 mL, 3.36 mmol) および 3-クロロプロピオニルクロリド (0.31 mL, 3.21 mmol) を加え、同温下 1.5 時間攪拌した。反応混合物に氷水を注ぎ、酢酸エチルで 3 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 1:1 の後ヘキサン/酢酸エチル/メタノール 25:25:1) に供し、ジエチルエーテル-ヘキサンから結晶化させて表題化合物および 3-クロロ-N-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]プロパンアミドの約 1:1 混合物 (1.12 g) を得た。この混合物の N,N-ジメチルホルムアミド (10 mL) 溶液に炭酸カリウム (220 mg, 1.59 mmol) およびヨウ化カリウム (22 mg, 0.133 mmol) を加え、60 °C で 4 時間攪拌した。反応混合物に水を注ぎ、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 3:1) に供し、ジエチルエーテル-ジイソプロピルエーテルから結晶化させて表題化合物 (419 mg、収率 34%) を得た。

融点 188-190 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.25 (6H, s), 1.32 (6H, s), 2.30 (2H, s), 2.68 (2H, s), 3.92 (3H, s), 5.74 (1H, dd, J = 10.0, 1.6 Hz), 6.22 (1H, dd, J = 16.9, 10.0 Hz), 6.41 (1H, dd, J = 16.9, 1.6 Hz), 6.60 (1H, s), 7.07 (1H, d, J = 8.0 Hz), 7.31 (1H, t, J = 8.0 Hz), 7.44 (1H, s), 7.77 (1H, d, J = 8.0 Hz), 7.96 (1H, s)。

合成例 520

4-クロロ-N-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]ブタンアミド

3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼンアミン (1.85 g, 5.28 mmol) のテトラヒドロフラン (15 mL) 溶液に氷冷下、トリエチルアミン (0.81 mL, 5.81 mmol) および 4-クロロブチリルクロリド (0.62 mL, 5.54 mmol) を加え、同温下 1 時間攪拌した。反応混合物に氷水および水酸化ナトリウム水溶液を注ぎ、酢酸エチルで抽出した。有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をジエチルエーテル-ジイソプロピルエーテルから結晶化させて表題化合物 (2.25 g、収率 94%) を得た。

融点 146-148 °C。

¹H-NMR (CDCl₃) δ 1.25 (6H, s), 1.32 (6H, s), 2.10-2.23 (2H, m), 2.30 (2H, s), 2.52 (2H, t, J = 7.1 Hz), 2.69 (2H, s), 3.65 (2H, t, J = 6.0 Hz), 3.92 (3H, s), 6.60 (1H, s), 7.07 (1H, d, J = 7.6 Hz), 7.31 (1H, t, J = 7.6 Hz), 7.45 (1H, s), 7.77 (1H, d, J = 7.6 Hz), 7.78 (1H, s)。

合成例 5 2 1

1-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]-2-ピロリジノン塩酸塩

4-クロロ-N-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]ブタンアミド (1.54 g, 3.38 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (10 mL) 溶液に炭酸カリウム (514 mg, 3.72 mmol) および ヨウ化カリウム (56 mg, 0.38 mmol) を加え、60 °C で 2 時間、80 °C で 5 時間攪拌した。反応混合物に水を注ぎ、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (酢酸エチルの後酢酸エチル/トリエチルアミン 50:1) に供し、表題化合物の遊離塩基を得た。これを酢酸エチルに溶解し、4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液を加え、減圧濃縮し、ジエチルエーテルから粉末化させて表題化合物 (941 mg, 収率 61%) で得た。

非晶質。

¹H-NMR (DMSO-d₆) δ 1.23 (6H, s), 1.44 (6H, s), 2.02-2.15 (2H, m), 2.20-2.40 (2H, m), 2.45-2.60 (2H, m), 3.14 (2H, s), 3.70-4.05 (2H, m), 3.94 (3H, s), 7.09 (1H, s), 7.35 (1H, d, J = 8.0 Hz), 7.60-7.68 (1H, m), 7.90 (1H, s), 7.94 (1H, d, J = 8.0 Hz)。

【0394】合成例 5 2 2

3-クロロ-2,2-ジメチル-N-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]プロパンアミド

3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼンアミン (2.96 g, 8.45 mmol) のテトラヒドロフラン (20 mL) 溶液に氷冷下、トリエチルアミン (1.30 mL, 9.30 mmol) および 3-クロロピバロイルクロリド (1.15 mL, 8.87 mmol) を加え、室温で 30 分間攪拌した。反応混合物に氷水を注ぎ、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を酢酸エチル-ヘキサンから結晶化させて表題化合物 (3.83 g, 収率 97%) を得た。

融点 189-191 °C。

¹H-NMR (CDCl₃) δ 1.24 (6H, s), 1.32 (6H, s), 1.42 (6H, s), 2.31 (2H, s), 2.68 (2H, s), 3.70 (2H, s),

3.92 (3H, s), 6.61 (1H, s), 7.12 (1H, dd, J = 7.6, 1.4 Hz), 7.35 (1H, t, J = 7.6 Hz), 7.48 (1H, t, J = 1.4 Hz), 7.55 (1H, br s), 7.81 (1H, dd, J = 7.6, 1.4 Hz)。

合成例 5 2 3

3,3-ジメチル-1-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]-2-アゼチジノン塩酸塩

3-クロロ-2,2-ジメチル-N-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]プロパンアミド (1.63 g, 3.48 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (15 mL) 溶液に炭酸カリウム (529 mg, 3.83 mmol) およびヨウ化カリウム (58 mg, 0.348 mmol) を加え、70 °C で 3 時間攪拌した。反応混合物に氷水を注ぎ、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 5:1 の後 3:1) に供し、表題化合物の遊離塩基を得た。これを酢酸エチルに溶解し、4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液を加え、減圧濃縮し、酢酸エチル-ジイソプロピルエーテルから結晶化させて表題化合物 (1.50 g, 収率 92%) を得た。

融点 191-193 °C。

¹H-NMR (DMSO-d₆) δ 1.24 (6H, s), 1.32 (6H, s), 1.44 (6H, s), 2.29 (2H, s), 3.14 (2H, s), 3.58 (2H, s), 3.94 (3H, s), 7.09 (1H, s), 7.29-7.31 (1H, m), 7.62-7.64 (3H, m)。

合成例 5 2 4

5-オキソ-N-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]-2-ピロリジンカルボキサミド

D,L-ピログルタミン酸 (3.65 g, 28.3 mmol) のトルエン (16 mL) 溶液に塩化チオニル (2.06 mL, 28.3 mmol) および N,N-ジメチルホルムアミド (1 滴) を加え、50 °C で 40 分間攪拌した。溶媒を減圧留去した後、残渣を N,N-ジメチルホルムアミド (10 mL) に溶解し、氷冷下、3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼンアミン (1.98 g, 5.66 mmol) およびトリエチルアミン (3.94 mL, 28.3 mmol) を加え、室温で 3 時間攪拌した。反応混合物に塩化ナトリウム水溶液を注ぎ、酢酸エチル-テトラヒドロフランで 2 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (酢酸エチルの後酢酸エチル/メタノール 30:1) に供し、酢酸エチル-ヘキサンから結晶化させて表題化合物 (1.57 g, 収率 60%) を得た。

融点 145-147 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.23 (6H, s), 1.31 (6H, s), 2.27 (2H, s), 2.30-2.59 (4H, m), 2.67 (2H, s), 3.92 (3H, s), 4.20-4.30 (1H, m), 6.60 (1H, s), 6.94 (1H, s), 7.09 (1H, d, J = 8.0 Hz), 7.23-7.37 (1H, m), 7.53 (1H, s), 7.74 (1H, d, J = 8.0 Hz), 8.50 (1H, s)。

【0395】合成例 5 2 5

N-メチル-5-オキソ-N-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]-2-ピロリジンカルボキサミド塩酸塩 D,L-ピログルタミン酸 (909 mg, 7.04 mmol) の トルエン (4 mL) 溶液に塩化チオニル (0.51 mL, 7.04 mmol) および N,N-ジメチルホルムアミド (1 滴) を加え、50 °C で 40 分間攪拌した。溶媒を減圧留去し、残渣を N,N-ジメチルホルムアミド (4 mL) に溶解し、氷冷下、N-メチル-3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼンアミン (493 mg, 1.35 mmol) およびトリエチルアミン (0.98 mL, 7.04 mmol) を加え、室温で 3 時間攪拌した。反応混合物に飽和塩化ナトリウム水溶液を注ぎ、酢酸エチル-テトラヒドロフランで 3 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (酢酸エチル) に供し、表題化合物の遊離塩基を得た。これを酢酸エチルに溶解し、4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液を加え、減圧濃縮し、ジエチルエーテルから粉末化させて表題化合物 (516 mg、収率 75%) を得た。

非晶質。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.23 (6H, s), 1.47 (6H, s), 1.90-2.30 (4H, m), 2.19 (2H, s), 3.17 (2H, s), 3.25 (3H, s), 3.94 (3H, s), 4.00-4.15 (1H, m), 7.11 (1H, s), 7.55-7.85 (5H, m)。

合成例 5 2 6

2,6-ジクロロ-N-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]-3-ピロリジンカルボキサミド

2,6-ジクロロニコチン酸 (90%) (188 mg, 0.881 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (2.5 mL) 溶液に、N,N'-カルボニルジイミダゾール (160 mg, 0.989 mmol) を加え、室温で 1 時間攪拌した。3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼンアミン (347 mg, 0.989 mmol) を加え、室温で 1 時間、60 °C で 2 時間、90 °C で 15 時間攪拌した。反応混合物に水を注ぎ、酢酸エチル-テトラヒドロフランで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 2:1 の後 1:1) に供し、酢酸エチル-ヘキサンから結晶

化させて表題化合物 (95 mg、収率 18%) を得た。

融点 130-132 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.23 (6H, s), 1.34 (6H, br s), 2.33 (2H, s), 2.69 (2H, s), 3.93 (3H, s), 6.61 (1H, s), 7.19 (1H, d, J = 7.5 Hz), 7.37-7.43 (2H, m), 7.61 (1H, s), 7.84 (1H, d, J = 7.5 Hz), 8.13 (1H, d, J = 8.0 Hz), 8.56 (1H, s)。

合成例 5 2 7

N-[3-[[[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]アミノ]カルボニル]アミノ]フェニル]アセトアミド塩酸塩

3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼンアミン (327 mg, 0.933 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (3 mL) 溶液に N,N'-カルボニルジイミダゾール (151 mg, 0.933 mmol) を加え、室温で 1 時間攪拌した。3'-アミノアセトアニリド (140 mg, 0.933 mmol) を加え、室温で 3 時間攪拌した。反応混合物に氷水を注ぎ、酢酸エチルで 3 回抽出した。合わせた有機層を減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 1:2、酢酸エチルの後酢酸エチル/メタノール 20:1) に供し、表題化合物の遊離塩基を得た。これを酢酸エチルに溶解し、4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液を加え、減圧濃縮し、ジエチルエーテルから粉末化させて表題化合物 (128 mg、収率 24%) を得た。非晶質。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.24 (6H, s), 1.44 (6H, s), 2.02 (3H, s), 2.18-2.55 (2H, m), 3.15 (2H, br s), 3.94 (3H, s), 7.09 (1H, s), 7.13-7.23 (4H, m), 7.50-7.88 (4H, m), 9.30 (1H, s), 9.59 (1H, s), 9.93 (1H, s)。

【0396】合成例 5 2 8

3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]尿素 3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼンアミン (327 mg, 0.933 mmol) のテトラヒドロフラン (3 mL) 溶液に氷冷下、シアン酸ナトリウム (121 mg, 1.87 mmol) およびトリフルオロ酢酸 (0.36 mL, 4.67 mmol) を加え、室温で 1 時間攪拌した。反応混合物を 1 M 水酸化ナトリウム水溶液で中和し、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (酢酸エチル) に供し、ジイソプロピルエーテルから結晶化させて表題化合物 (303 mg、収率 83%) を得た。

融点 174-176 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.23 (6H, s), 1.32 (6H, s), 2.28 (2H, s), 2.70 (2H, s), 3.93 (3H, s), 4.89 (2H, br

s), 6.60 (1H, s), 6.98 (1H, d, J = 7.6 Hz), 7.25-7.33 (2H, m), 7.49 (1H, d, J = 8.2 Hz), 7.55 (1H, s)。

合成例 529

N-メチル-N'-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]尿素

N-メチル-3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼンアミン (350 mg, 0.960 mmol) のテトラヒドロフラン (3 mL) 溶液に氷冷下、シアン酸ナトリウム (125 mg, 1.92 mmol) およびトリフルオロ酢酸 (0.37 mL, 4.80 mmol) を加え、室温で 1 時間攪拌した。反応混合物を 1 M 水酸化ナトリウム水溶液で中和し、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー(ヘキサン/酢酸エチル 1:2) に供し、酢酸エチル-ヘキサンから結晶化させて表題化合物 (263 mg、収率 67%) を得た。

融点 108-109 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.26 (6H, s), 1.33 (6H, s), 2.22 (2H, s), 2.70 (2H, s), 3.28 (3H, s), 3.93 (3H, s), 4.42 (2H, br s), 6.62 (1H, s), 7.30-7.52 (4H, m)。

合成例 530

N-メチル-N'-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]尿素

3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼンアミン (316 mg, 0.902 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (3 mL) 溶液にクロロ炭酸フェニル (0.11 mL, 0.902 mmol) およびトリエチルアミン (0.13 mL, 0.902 mmol) を加え、室温で 1 時間攪拌した。塩酸メチルアミン (73 mg, 1.08 mmol) およびトリエチルアミン (0.31 mL, 2.26 mmol) を加え、室温で 2 時間、50 °C で 5 時間攪拌した。反応混合物に水を注ぎ、酢酸エチルで 3 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー(酢酸エチルの後酢酸エチル/メタノール 50:1) に供し、酢酸エチル-ジイソプロピルエーテルから結晶化させて表題化合物 (278 mg、収率 76%) を得た。

融点 125-127 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.24 (6H, s), 1.31 (6H, s), 2.29 (2H, s), 2.69 (2H, s), 2.74 (3H, d, J = 4.4 Hz), 3.92 (3H, s), 5.13 (1H, br s), 6.60 (1H, s), 6.95 (1H, d, J = 7.6 Hz), 7.02 (1H, s), 7.21-7.39 (2H, m)。

合成例 531

N-(2-ピリジニル)-N'-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]尿素

3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼンアミン (315 mg, 0.899 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (3 mL) 溶液に氷冷下、トリエチルアミン (0.13 mL, 0.899 mmol) およびクロロ炭酸フェニル (0.11 mL, 0.899 mmol) を加え、室温で 40 分間攪拌した。2-アミノピリジン (93 mg, 0.989 mmol) を加え、室温で 2 時間、60 °C で 2 時間攪拌した。反応混合物に氷水を注ぎ、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー(ヘキサン/酢酸エチル 1:1 の後 1:2) に供し、ジイソプロピルエーテルから結晶化させて表題化合物 (166 mg、収率 39%) を得た。

融点 189-191 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.27 (6H, s), 1.32 (6H, s), 2.35 (2H, s), 2.71 (2H, s), 3.93 (3H, s), 6.62 (1H, s), 6.81 (1H, d, J = 8.0 Hz), 6.91-6.97 (1H, m), 7.09 (1H, d, J = 7.6 Hz), 7.36 (1H, t, J = 8.0 Hz), 7.56-7.66 (2H, m), 7.81 (1H, d, J = 7.6 Hz), 8.25-8.28 (2H, m), 11.91 (1H, s)。

【0397】合成例 532

N-(2-クロロエチル)-N'-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]尿素

3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼンアミン (519 mg, 1.48 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (5 mL) 溶液にイソシアン酸 2-クロロエチル (0.12 mL, 1.48 mmol) を加え、室温で 3 時間攪拌した。反応混合物に塩化ナトリウム水溶液を注ぎ、酢酸エチルで 3 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー(ヘキサン/酢酸エチル 1:1 の後酢酸エチル) に供し、ジエチルエーテルから結晶化させて表題化合物 (477 mg、収率 71%) を得た。

融点 147-150 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.26 (6H, s), 1.32 (6H, s), 2.30 (2H, s), 2.71 (2H, s), 3.45-3.63 (4H, m), 3.92 (3H, s), 5.68 (1H, t, J = 5.2 Hz), 6.60 (1H, s), 6.95 (1H, d, J = 7.8 Hz), 7.20 (1H, s), 7.24 (1H, t, J = 7.8 Hz), 7.42 (1H, d, J = 7.8 Hz), 7.59 (1H, s)。

合成例 533

1-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]-2-イミダゾリジノン

N-(2-クロロエチル)-N'-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]尿素 (351 mg, 0.770 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (3 mL) 溶液に氷冷下、カリウム tert-ブトキシド (86 mg, 0.770 mmol) を加え、室温で 4 時間攪拌した。反応混合物に水を注ぎ、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。得られた結晶をジエチルエーテルで洗浄し、表題化合物 (251 mg、収率 78%) を得た。

融点 225-227 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.24 (6H, s), 1.32 (6H, s), 2.30 (2H, br s), 2.68 (2H, s), 3.57 (2H, t, J = 8.1 Hz), 3.92 (3H, s), 3.99 (2H, t, J = 8.1 Hz), 4.60 (1H, s), 6.60 (1H, s), 7.05 (1H, d, J = 7.8 Hz), 7.35 (1H, t, J = 7.8 Hz), 7.35 (1H, s), 7.80 (1H, d, J = 7.8 Hz)。

合成例 534

N,N'-ジメチル-N-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]スルファミド塩酸塩

2-メチル-2-プロパノール (0.15 mL, 1.57 mmol) のテトラヒドロフラン (3 mL) 溶液に、氷冷下、イソシアン酸クロルスルホニル (0.14 mL, 1.57 mmol) を加え、室温で 30 分間攪拌した。氷冷下、3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼンアミン (500 mg, 1.43 mmol) およびトリエチルアミン (0.24 mL, 1.72 mmol) を加え、室温で 2 時間攪拌した。反応混合物に氷水を注ぎ、酢酸エチル-テトラヒドロフランで 3 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 2:1 の後 1:1) に供し、[[[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]アミノ]スルホニル]カルバミン酸 1,1-ジメチルエチルエステル (510 mg、収率 67%) を結晶として得た。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.27 (6H, s), 1.33 (6H, s), 1.41 (9H, s), 2.22 (2H, s), 2.71 (2H, s), 3.93 (3H, s), 6.62 (1H, s), 7.21-7.41 (4H, m)。

得られたカルバミン酸誘導体 (500 mg, 0.944 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (5 mL) 溶液に氷冷下、水素化ナトリウム (66% 油分散物) (36 mg, 0.991 mmol) を加え、減圧下、室温で 30 分間攪拌した。氷冷下、ヨードメタン (0.06 mL, 0.991 mmol) を加え、同温下、3 時間攪拌した。反応混合物に水を注ぎ、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー

(ヘキサン/酢酸エチル 2:1) に供し、(メチル)[[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]アミノ]スルホニル]カルバミン酸 1,1-ジメチルエチルエステルと (メチル)[[(メチル)[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]アミノ]スルホニル]カルバミン酸 1,1-ジメチルエチルエステルの約 1:1 混合物 (379 mg) を得た。得られた混合物 (370 mg) に 4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液 (3 mL) を加え、室温で 1 時間攪拌した。反応混合物に水を注ぎ、5 M 水酸化ナトリウム水溶液で中和した後、酢酸エチルで抽出した。有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 1:1) に供し、表題化合物の遊離塩基を得た。これを酢酸エチルに溶解し、4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液を加え、減圧濃縮し、ジエチルエーテルから粉末化させて表題化合物 (129 mg、収率 28%) を得た。

非晶質。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.19 (6H, s), 1.40 (3H, s), 1.45 (3H, s), 1.97-2.50 (2H, m), 2.51 (3H, d, J = 4.8 Hz), 3.14 (2H, s), 3.15 (3H, s), 3.91 (3H, s), 7.06 (1H, s), 7.43-7.67 (4H, m)。

【0398】合成例 535

N-メチル-N'-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]スルファミド

合成例 534 において、カラムクロマトグラフィーで N,N'-ジメチル体を分離後、ヘキサン/酢酸エチル 1:2 で溶出し、ジエチルエーテルから結晶化させて表題化合物 (85 mg、収率 21%) を得た。

融点 135-136 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.28 (6H, s), 1.33 (6H, br s), 2.25 (2H, s), 2.60 (3H, s), 2.72 (2H, s), 3.93 (3H, s), 5.86 (1H, br s), 6.62 (1H, s), 7.03-7.14 (2H, m), 7.28-7.39 (2H, m)。

合成例 536

N-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]スルファミド塩酸塩

[[[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]アミノ]スルホニル]カルバミン酸 1,1-ジメチルエチルエステル (539 mg, 1.02 mmol) に 4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液 (3 mL) を加え、室温で 3 時間攪拌した。反応混合物を 5 M 水酸化ナトリウム水溶液で中和し、酢酸エチルで抽出した。有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー

(ヘキサン/酢酸エチル 1:1 の後酢酸エチル) に供し、表題化合物の遊離塩基を得た。これを酢酸エチルに溶解し、4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液を加え、減圧濃縮し、エタノール-ジイソプロピルエーテルから結晶化させて表題化合物 (333 mg、収率 70%) を得た。

融点 191-194 °C。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.22 (6H, s), 1.41 (3H, s), 1.47 (3H, s), 2.00-2.55 (2H, m), 3.00-3.40 (2H, m), 3.94 (3H, s), 7.09 (1H, s), 7.18-7.59 (6H, m), 9.99 (1H, s)。

合成例 5 3 7

5-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]-1,2,5-チアジアゾリジン-2-カルボン酸 1,1-ジメチルエチルエステル 1,1-ジオキシド

[[[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]アミノ]スルホニル]カルバミン酸 1,1-ジメチルエチルエステル (312 mg, 0.589 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (3 mL) 溶液に水素化ナトリウム (66% 油分散物) (45 mg, 1.24 mmol) を加え、室温で 30 分間攪拌した。氷冷下、1,2-ジブromoエタン (0.051 mL, 0.589 mmol) を加え、室温で 3.5 時間攪拌した。反応混合物に水を注ぎ、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 3:1 の後 2:1) に供し、ジイソプロピルエーテルから再結晶して表題化合物 (133 mg、収率 41%) を得た。

融点 157-159 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.24 (6H, s), 1.32 (6H, s), 1.56 (9H, s), 2.26 (2H, brs), 2.69 (2H, s), 3.78-3.85 (2H, m), 3.92 (3H, s), 3.92-3.99 (2H, m), 6.60 (1H, s), 7.32-7.36 (2H, m), 7.44-7.46 (2H, m)。

【0399】合成例 5 3 8

2-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]-1,2,5-チアジアゾリジン 1,1-ジオキシド

5-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]-1,2,5-チアジアゾリジン-2-カルボン酸 1,1-ジメチルエチルエステル 1,1-ジオキシド (1.30 g, 2.34 mmol) に 4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液 (10 mL) を加え、室温で 2 時間攪拌した。反応混合物を 2 M 水酸化ナトリウム水溶液で中和し、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣の結晶をジイソプロピルエーテルで洗浄し、表題化合物 (922 mg、収率 87%) を得た。

融点 145-147 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.32 (12H, s), 2.22 (2H, s), 2.72 (2H, s), 3.18 (2H, brs), 3.64-3.80 (2H, br), 3.93 (3H, s), 6.61 (1H, s), 7.04-7.07 (2H, m), 7.39 (1H, t, J = 7.6 Hz), 7.59 (1H, d, J = 7.6 Hz)。

合成例 5 3 9

[5-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]-1,2,5-チアジアゾリジン-2-アセトアミド 1,1-ジオキシド

2-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]-1,2,5-チアジアゾリジン 1,1-ジオキシド (313 mg, 0.687 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (3 mL) 溶液にカリウム tert-ブトキシド (77 mg, 0.687 mmol) を加え、室温で 30 分間攪拌した。2-ブromoアセトアミド (95 mg, 0.687 mmol) を加え、室温で 2 時間攪拌した後、さらに 2-ブromoアセトアミド (95 mg, 0.687 mmol) を加え、室温で 1 時間攪拌した。反応混合物に水を注ぎ、酢酸エチルで 3 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (酢酸エチル/トリエチルアミン 50:1 の後酢酸エチル/メタノール/トリエチルアミン 50:1:1) に供し、酢酸エチル-ジイソプロピルエーテルから結晶化させて表題化合物 (206mg、収率 59%) を得た。

融点 206-208 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.25 (6H, s), 1.32 (6H, s), 2.26 (2H, br s), 2.69 (2H, s), 3.65 (2H, t, J = 6.6 Hz), 3.85 (2H, s), 3.92 (2H, t, J = 6.6 Hz), 3.92 (3H, s), 5.63 (1H, br s), 6.61 (1H, s), 6.62 (1H, br s), 7.26-7.30 (2H, m), 7.38-7.45 (2H, m)。

合成例 5 4 0

5-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]-1,2,5-チアジアゾリジン-2-酢酸エチルエステル 1,1-ジオキシド

2-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]-1,2,5-チアジアゾリジン 1,1-ジオキシド (1.88g, 4.13 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (15 mL) 溶液にカリウム tert-ブトキシド (695 mg, 6.19 mmol) を加え、室温で 30 分間攪拌した。ブromo酢酸エチル (0.46 mL, 4.13 mmol) を加え、室温で 1 時間攪拌した。反応混合物に水を注ぎ、酢酸エチルで 3 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 3:1 の後 1:1) に供し、ジエチルエーテルから

結晶化させて表題化合物 (583 mg、収率 26%) を得た。
融点 153-155 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.25 (6H, s), 1.31 (3H, t, J = 7.0 Hz), 1.32 (6H, s), 2.27 (2H, s), 2.69 (2H, s), 3.73 (2H, t, J = 6.2 Hz), 3.92 (2H, t, J = 6.2 Hz), 3.92 (5H, s), 4.25 (2H, q, J = 7.0 Hz), 6.60 (1H, s), 7.23-7.27 (2H, m), 7.41-7.43 (2H, m)。

【0400】合成例541

2-[(2-オキソ-3-ピロリジニル)アミノ]-N-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ

10

[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]アセトアミド二塩酸塩
2-クロロ-N-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]アセトアミド (320 mg, 0.750 mmol) のN,N-ジメチルホルムアミド (3 mL) 溶液に D,L-3-アミノ-2-ピロリジノン (83 mg, 0.825 mmol)、炭酸カリウム (114 mg, 0.825 mmol) およびヨウ化カリウム (13 mg, 0.0750 mmol) を加え、60 °Cで1時間攪拌した。反応混合物に塩化ナトリウム水溶液を注ぎ、酢酸エチル-テトラ

20

ヒドロフランで2回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (酢酸エチル/メタノール 10:1 の後

酢酸エチル/メタノール/トリエチルアミン 50:5:1) に供し、表題化合物の遊離塩基を得た。これを酢酸エチルに溶解し、4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液を加え、減圧濃縮し、エタノール-酢酸エチル-ジイソプロピルエーテルから結晶化させて表題化合物 (245 mg、収率 58%) を得た。

融点 181-184 °C。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.24 (6H, s), 1.44 (6H, s), 2.10-2.42 (4H, m), 3.16-3.30 (4H, m), 3.94 (3H, s), 4.01-4.33 (3H, m), 7.10 (1H, s), 7.37 (1H, d, J = 8.0 Hz), 7.65 (1H, t, J = 8.0 Hz), 7.86 (1H, s), 7.87 (1H, d, J = 8.0 Hz), 8.40 (1H, s), 9.40-10.00 (2H, m), 11.32 (1H, s)。

合成例542

2-[アセチル(2-オキソ-3-ピロリジニル)アミノ]-N-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]アセトアミド二塩酸塩

2-クロロ-N-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]アセトアミド (338 mg, 0.792 mmol) のN,N-ジメチルホルムアミド (3 mL) 溶液に D,L-3-アミノ-2-ピロリジノン (87 mg, 0.871 mmol)、炭酸カリウム (120 mg, 0.871 mmol) およびヨウ化カリウム (13 mg, 0.0792 mmol) を加え、60 °Cで2.5時間攪拌した。氷冷下、アセチルクロリド (0.12 mL, 0.174 mmol) および

40

40

40

40

40

40

40

40

40

40

40

40

40

40

40

40

40

40

40

トリエチルアミン (0.36 mL, 2.61 mmol) を加え、室温で2時間攪拌した。反応混合物に水を注ぎ、酢酸エチルで2回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (酢酸エチル/メタノール 50:1 の後 10:1) に供し、表題化合物の遊離塩基を得た。これを酢酸エチルに溶解し、4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液を加え、減圧濃縮し、エタノール-ジイソプロピルエーテルから結晶化させて表題化合物 (167 mg、収率 37%) を得た。融点 197-200 °C。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.22 (6H, s), 1.42 (6H, s), 1.96 (3H, s), 2.05-2.33 (4H, m), 3.10-3.58 (4H, m), 3.94 (3H, s), 4.15-4.81 (3H, m), 7.10 (1H, s), 7.29 (0.5H, d, J = 7.6 Hz), 7.35 (0.5H, d, J = 7.6 Hz), 7.55-7.67 (1H, m), 7.70-8.05 (1H, m), 7.98 (1H, s), 8.12 (0.5H, s), 8.19 (0.5H, s), 10.49 (0.5H, s), 11.23 (0.5H, s)。

合成例543

2-[メチル(2-オキソ-3-ピロリジニル)アミノ]-N-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]アセトアミド

2-[(2-オキソ-3-ピロリジニル)アミノ]-N-[3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]アセトアミド二塩酸塩 (173 mg, 0.307 mmol) のN,N-ジメチルホルムアミド (1.5 mL) 溶液に氷冷下、炭酸カリウム (89 mg, 0.645 mmol) およびヨードメタン (0.021 mL, 0.338 mmol) を加え、室温で2時間攪拌した。反応混合物に飽和塩化ナトリウム水溶液を注ぎ、酢酸エチル-テトラヒドロフランで2回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキササン/酢酸エチル/トリエチルアミン 30:1:1) に供し、酢酸エチル-ジエチルエーテルから結晶化させて表題化合物 (4 mg、収率 3%) を得た。融点 112-114 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.23 (3H, s), 1.27 (3H, s), 1.32 (6H, s), 2.05-2.45 (2H, m), 2.30 (2H, s), 2.50 (3H, s), 2.68 (2H, s), 3.29 (2H, s), 3.32-3.42 (2H, m), 3.55-3.64 (1H, m), 3.92 (3H, s), 5.64 (1H, s), 6.60 (1H, s), 7.07 (1H, d, J = 8.0 Hz), 7.34 (1H, t, J = 8.0 Hz), 7.54 (1H, s), 7.89 (1H, d, J = 8.0 Hz), 9.67 (1H, s)。

【0401】合成例544

3-(6-エトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)安息香酸エチルエステル
3-シアノ安息香酸エチル (27.6 g, 157 mmol) の酢酸

50

50

50

50

50

50

(90 mL)ートルエン (150 mL) 溶液に氷冷下、濃硫酸 (17.6 mL, 330 mmol) を滴下し、室温で 1-(7-エトキシ-2,3-ジヒドロ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフラニル)-2-メチル-1-プロパノール (50.0 g, 189 mmol) を加え、65 °C で 1 時間攪拌した。エタノール (105 mL) を滴下し、75 °C で 40 分間攪拌した。反応混合物に水を注ぎ、有機層を分離し、2 M 塩酸で抽出した。合わせた水層を濃アンモニア水で中和し、酢酸エチルで 2 回抽出した (I)。合わせた有機層を 0.5 M 水酸化ナトリウム水溶液 (I) 、水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をヘキサンから結晶化させて表題化合物 (11.8 g、収率 18%) を得た。

融点 97-100 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.25 (6H, s), 1.30 (6H, s), 1.39 (3H, t, J = 7.1 Hz), 1.47 (3H, t, J = 7.1 Hz), 2.15 (2H, s), 2.68 (2H, s), 4.19 (2H, q, J = 7.1 Hz), 4.38 (2H, q, J = 7.1 Hz), 6.62 (1H, s), 7.47 (1H, ddd, J = 7.5, 7.4, 1.2 Hz), 7.61 (1H, ddd, J = 7.4, 1.8, 1.2 Hz), 8.06-8.10 (2H, m)。

合成例 5 4 5

3-(6-エトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)安息香酸
合成例 5 4 4 における水層を合わせ ((I) および (I I))、5 M 塩酸で中和し、酢酸エチル-テトラヒドロフランで 3 回抽出した。合わせた有機層を減圧濃縮し、酢酸エチルから結晶化させて表題化合物 (2.77 g、収率 5%) を得た。

融点 137-139 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.28 (12H, s), 1.49 (3H, t, J = 7.1 Hz), 2.17 (2H, s), 2.66-3.10 (2H, br), 4.23 (2H, q, J = 7.1 Hz), 6.65 (1H, s), 7.33-7.41 (2H, m), 7.94-7.97 (1H, m), 8.27 (1H, s)。

合成例 5 4 6

3-(6-エトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼンアミン二塩酸塩
3-(6-エトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼンアミン (9.36 g, 25.7 mmol) を酢酸エチルに溶解し、4M 塩化水素/酢酸エチル溶液を加え、減圧濃縮し、エタノール-酢酸エチルから結晶化させて表題化合物 (4.47 g、収率 40%) を得た。

融点 240 °C (分解)。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.26 (6H, s), 1.37 (3H, t, J = 7.0 Hz), 1.42 (6H, s), 2.10-2.55 (2H, m), 3.00-3.30 (2H, m), 4.23 (2H, q, J = 7.0 Hz), 6.99-7.07 (3H, m), 7.19 (1H, d, J = 7.6 Hz), 7.44 (1H, dd, J = 8.2, 7.6 Hz)。

合成例 5 4 7

[[4-[[[3-(6-エトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]アミノ]カルボニル]フェニル]メチル]ホスホン酸 ジエチルエステル塩酸塩

3-(6-エトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼンアミン二塩酸塩 (850 mg, 1.94 mmol) および 4-[(ジエトキシホスフィニル)メチル]安息香酸 (529 mg, 1.94 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (6 mL) 溶液に 1-ヒドロキシ-1H-ベンゾトリアゾール-水和水物 (327 mg, 2.13 mmol)、トリエチルアミン (0.95 mL, 6.79 mmol) および 1-エチル-3-(3-ジメチルアミノプロピル)カルボジイミド塩酸塩 (483 mg, 2.52 mmol) を加え、室温で 7 時間攪拌した。4-[(ジエトキシホスフィニル)メチル]安息香酸 (211 mg, 0.776 mmol) を加え、同条件下、12 時間攪拌した。反応混合物に氷水を注ぎ、酢酸エチルで 3 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 1:1 の後酢酸エチル) に供し、表題化合物の遊離塩基を得た。これを酢酸エチルに溶解し、4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液を加え、減圧濃縮し、エタノール-ジイソプロピルエーテルから結晶化させて表題化合物 (682 mg、収率 54%) を得た。

融点 190-191 °C。

¹H NMR (DMSO-d₆-D₂O (1 滴)) δ 1.18 (6H, t, J = 7.1 Hz), 1.25 (6H, s), 1.38 (3H, t, J = 7.0 Hz), 1.42 (6H, s), 2.20-2.32 (1H, m), 2.40-2.53 (1H, m), 3.00-3.30 (2H, m), 3.35 (2H, d, J = 21.9 Hz), 3.91-4.03 (4H, m), 4.25 (2H, q, J = 7.0 Hz), 7.09 (1H, s), 7.36 (1H, d, J = 7.7 Hz), 7.44 (2H, dd, J = 8.3, 2.3 Hz), 7.64 (1H, t, J = 7.7 Hz), 7.94 (2H, d, J = 8.3 Hz), 8.06 (1H, d, J = 7.7 Hz), 8.09 (1H, s), 10.59 (1H, s)。

【0402】合成例 5 4 8

6-(エチルスルフィニル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニルフロ[2,3-h]イソキノリン 6-(エチルチオ)-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン塩酸塩 (326 mg, 0.811 mmol) のメタノール (3.5 mL) 溶液にメタ過ヨウ素酸ナトリウム (434 mg, 2.03 mmol) の水 (2.5 mL) 溶液を加え、室温で 2 時間攪拌した。反応混合物に水を注ぎ、炭酸水素ナトリウムを加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 5:1) に供し、ジイソプロピルエーテル-ヘキサンから結晶化させて表題化合物 (168 mg、収率 54%) を得た。

50 融点 146-147 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.20-1.30 (15H, m), 2.19 (2H, s), 2.77 (2H, s), 2.82-3.18 (2H, m), 7.41-7.42 (6H, m)。

合成例 5 4 9

3-[3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-6-(プロピルチオ)フロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル]安息香酸エチルエステル

1.57 M n-ブチルリチウム/ヘキサン溶液 (42.3 mL, 66.4 mmol) に N,N,N',N'-テトラメチルエチレンジアミン (10.0 mL, 66.4 mmol) のテトラヒドロフラン (15 mL) 溶液、7-ブロモ-2,3-ジヒドロ-2,2-ジメチル-5-(2-メチル-1-プロペニル)ベンゾフラン (4.68 g, 16.6 mmol) のテトラヒドロフラン (15 mL) 溶液および二硫化 n-ブチル (20 g, 133 mmol) のテトラヒドロフラン (15 mL) 溶液を-78 °Cで順に滴下し、室温まで自然昇温させながら 15 時間攪拌した。反応混合物を飽和塩化アンモニウム水溶液に注ぎ、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸マグネシウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 50:1) に供し、2,3-ジヒドロ-2,2-ジメチル-5-(2-メチル-1-プロペニル)-7-(プロピルチオ)ベンゾフランおよび 2,3-ジヒドロ-2,2-ジメチル-5-(2-メチル-1-プロペニル)ベンゾフランの約 15:2 混合物 (4.11 g) を得た。得られた混合物 (1.01 g) および 3-シアノ安息香酸エチル (601 mg, 3.43 mmol) の酢酸 (2 mL) -トルエン (4.5 mL) 懸濁液に氷冷下、濃硫酸 (0.38 mL, 7.20 mmol) を滴下し、60 °Cで 1 時間攪拌した。エタノール (2.1 mL, 34.9 mmol) を滴下し、同温下、30 分間攪拌した。反応混合物に氷水を注ぎ、炭酸水素ナトリウムで中和し、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 50:1 の後 10:1) に供した後、再度シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 10:1 の後 5:1) に供し、ヘキサンから結晶化させて表題化合物 (136 mg、収率 9%) を得た。母液をヘキサンから結晶化させて表題化合物の 2 番晶 (78 mg、収率 5%) を得た。

融点 83-84 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.05 (3H, t, J = 7.3 Hz), 1.25 (6H, s), 1.29 (6H, s), 1.39 (3H, t, J = 7.2 Hz), 1.64-1.76 (2H, m), 2.16 (2H, s), 2.68 (2H, s), 2.95 (2H, t, J = 7.2 Hz), 4.39 (2H, q, J = 7.2 Hz), 6.92 (1H, s), 7.48 (1H, dd, J = 7.8, 7.2 Hz), 7.62 (1H, d, J = 7.8 Hz), 8.07-8.10 (2H, m)。

合成例 5 5 0

3-[6-(エチルチオ)-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル]安息香酸

イソプロピルエステル

7-(エチルチオ)-2,3-ジヒドロ-2,2-ジメチル-5-(2-メチル-1-プロペニル)ベンゾフラン (811 mg, 3.21 mmol) および 3-シアノ安息香酸イソプロピル (552 mg, 2.92 mmol) の酢酸 (3 mL) -トルエン (6 mL) 懸濁液に氷冷下、濃硫酸 (0.33 mL, 6.13 mmol) を滴下し、70 °Cで 1.5 時間攪拌した。反応混合物に氷水を注ぎ、炭酸水素ナトリウムで中和した後、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 10:1) に供し、ペンタンから結晶化させて表題化合物 (86 mg、収率 7%) を得た。

融点 108-110 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.26 (6H, s), 1.92 (6H, s), 1.34 (3H, t, J = 7.5 Hz), 1.36 (6H, d, J = 6.3 Hz), 2.17 (2H, s), 2.69 (2H, s), 3.00 (2H, q, J = 7.5 Hz), 5.20-5.33 (1H, m), 6.94 (1H, s), 7.48 (1H, t, J = 7.8 Hz), 7.61 (1H, dd, J = 7.8, 1.5 Hz), 8.04 (1H, t, J = 1.5 Hz), 8.09 (1H, dd, J = 7.8, 1.5 Hz)。

【0403】合成例 5 5 1

3-[5-(シアノメチル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル]安息香酸メチルエステル塩酸塩

3-[3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル]安息香酸メチルエステル (4.99 g, 12.7 mmol) の酢酸 (6.5 mL) 溶液にパラホルムアルデヒド (94%) (841 mg, 26.3 mmol)、臭化ナトリウム (2.98 g, 29.0 mmol) および濃硫酸 (2.11 mL, 39.6 mmol) を加え、100 °Cで 11 時間攪拌した。メタノールを 75 °Cで滴下し、同温下で 3 時間攪拌した。反応混合物に水を注ぎ、ジイソプロピルエーテルで洗浄、炭酸水素ナトリウムを加えて中和し、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を 1 M 水酸化ナトリウム水溶液および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 5:1) に供し、3-[5-(プロモメチル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル]安息香酸メチルエステル (1.30 g、収率 21%) を非晶質として得た。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.28 (6H, s), 1.29 (6H, s), 2.12 (2H, s), 2.72 (2H, s), 3.92 (3H, s), 4.05 (3H, s), 4.64 (2H, s), 7.48 (1H, t, J = 7.9 Hz), 7.61 (1H, dd, J = 7.9, 1.6 Hz), 8.06 (1H, d, J = 1.6 Hz), 8.08 (1H, dd, J = 7.9, 1.6 Hz)。得られたプロモ誘導体 (1.30 g, 2.67 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (8 mL) 溶液にシアン化カリウム (174 mg, 2.67 mmol) の水 (2.5 mL) 溶液を加え、室温で 1 時間攪拌した。反

応混合物に氷水を注ぎ、酢酸エチルで2回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー（ヘキサン/酢酸エチル 10:1 の後 5:1）に供し、表題化合物の遊離塩基を得た。これを酢酸エチルに溶解し、4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液を加え、減圧濃縮し、酢酸エチルから結晶化させて表題化合物（926 mg、収率 74%）を得た。

融点 186-188 °C。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.25 (6H, s), 1.45 (6H, s), 2.1 5 (2H, s), 3.19 (2H, s), 3.91 (3H, s), 4.02 (2H, s), 4.07 (3H, s), 7.78 (1H, t, J = 7.6 Hz), 7.89 (1H, d, J = 7.6 Hz), 8.21 (1H, s), 8.28 (1H, d, J = 7.6 Hz)。

合成例 5 5 2

3-[5-(シアノメチル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル]安息香酸塩酸塩

合成例 8 0 と同様の方法により 3-[5-(シアノメチル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル]安息香酸 メチルエステル塩酸塩から表題化合物を得た。定量的。

融点 182-184 °C（アセトン-酢酸エチル）。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.25 (6H, s), 1.45 (6H, s), 2.1 6 (2H, s), 3.19 (2H, s), 4.02 (2H, s), 4.07 (3H, s), 7.75 (1H, t, J = 7.8 Hz), 7.87 (1H, d, J = 7.8 Hz), 8.18 (1H, s), 8.26 (1H, d, J = 7.8 Hz)。

合成例 5 5 3

3-[5-(シアノメチル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル]-N-メチルベンズアミド塩酸塩

3-[5-(シアノメチル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル]安息香酸塩酸塩 (331 mg, 0.728 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (3 mL) 溶液に N,N'-カルボニルジイミダゾール (118mg, 0.728 mmol) を加え、室温で 40 分間攪拌した。トリエチルアミン (0.11 mL, 0.801 mmol) および塩酸メチルアミン (54 mg, 0.801 mmol) を加え、室温で 4 時間攪拌した。反応混合物に氷水を注ぎ、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を 1 M 水酸化ナトリウム水溶液、水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー（ヘキサン/酢酸エチル 1:1）に供し、表題化合物の遊離塩基を得た。これを酢酸エチルに溶解し、4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液を加え、減圧濃縮し、酢酸エチルから結晶化させて表題化合物 (139 mg、収率 41%) を得た。

融点 160-162 °C。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.26 (6H, s), 1.45 (6H, s), 2.1 50

8 (2H, s), 2.81 (3H, d, J = 4.0 Hz), 3.18 (2H, s), 4.02 (2H, s), 4.07 (3H, s), 7.67-7.74 (2H, m), 8.1 2-8.19 (2H, m), 8.77 (1H, br s)。

【0404】合成例 5 5 4

3-[5-(シアノメチル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル]-N-(ヘキサヒドロ-2-オキノ-1H-アゼピン-3-イル)ベンズアミド

3-[5-(シアノメチル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル]安息香酸塩酸塩 (338 mg, 0.743 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (3 mL) 溶液にトリエチルアミン (0.10 mL, 0.743 mmol) および N,N'-カルボニルジイミダゾール (120 mg, 0.743 mmol) を加え、室温で 40 分間攪拌した。3-アミノヘキサヒドロ-2H-アゼピン-2-オン (101 mg, 0.784 mmol) を加え、室温で 4.5 時間攪拌した。反応混合物に氷水を注ぎ、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を 1 M 水酸化ナトリウム水溶液、水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー（ヘキサン/酢酸エチル 1:2）に供し、酢酸エチルから結晶化させて表題化合物 (206 mg、収率 52%) を得た。

融点 130-132 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.28 (12H, s), 1.48-1.70 (2H, m), 1.80-2.30 (4H, m), 2.13 (2H, s), 2.69 (2H, s), 3. 25-3.40 (2H, m), 3.74 (2H, s), 4.04 (3H, s), 4.69-4.77 (1H, m), 6.15 (1H, br s), 7.47-7.49 (2H, m), 7.71 (1H, d, J = 5.6 Hz), 7.88-7.95 (2H, m)。

合成例 5 5 5

N-[3-[5-(シアノメチル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル]ベンゾイル]-2-メチルアラニン エチルエステル 3-[5-(シアノメチル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル]安息香酸塩酸塩 (2.24 g, 4.92 mmol) および 2-アミノイソ酪酸エチル塩酸塩 (907 mg, 5.41 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (10 mL) 溶液に 1-ヒドロキシ-1H-ベンゾトリアゾール-水合物 (829 mg, 5.41 mmol)、トリエチルアミン (2.40 mL, 17.2 mmol) および 1-エチル-3-(3-ジメチルアミノプロピル)カルボジイミド塩酸塩 (1.23 g, 6.40 mmol) を加え、室温で 1.5 時間攪拌した。反応混合物に氷水を注ぎ、酢酸エチルで 3 回抽出した。合わせた有機層を 0.5 M 水酸化ナトリウム水溶液および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー（ヘキサン/酢酸エチル 3:1 の後 2:1）に供し、酢酸エチル-ジエチルエーテルから結晶化させて表題化合物 (1.50 g、収率 57 %) を得た。

融点 126-128 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.29 (3H, t, J = 7.0 Hz), 1.29 (1 2H, s), 1.68 (6H, s), 2.13 (2H, s), 2.69 (2H, s), 3.75 (2H, s), 4.04 (3H, s), 4.24 (2H, q, J = 7.0 Hz), 6.89 (1H, s), 7.46-7.48 (2H, m), 7.81-7.89 (2 H, m)。

【0405】合成例556

N-[3-[5-(シアノメチル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル]ベンゾイル]-2-メチルアラニン塩酸塩

N-[3-[5-(シアノメチル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル]ベンゾイル]-2-メチルアラニン エチルエステル (1.05 g, 1.98 mmol) のエタノール (8 mL) 溶液に 5 M 水酸化ナトリウム水溶液 (2 mL) を加え、室温で 1 時間攪拌した。反応混合物を 5 M 塩酸を加えて酸性にし、溶媒を減圧留去した。残渣をメタノールに溶解し、不溶物をろ取した。ろ液を減圧濃縮し、同様の操作を 3 回繰り返した。残渣をアセトン-酢酸エチルから結晶化させて表題化合物 (1.04 g、収率 97%) を得た。

融点 191-194 °C。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.27 (6H, br s), 1.42 (6H, br s), 1.48 (6H, s), 2.24 (2H, s), 3.05-3.30 (2H, m), 3.95-4.13 (5H, m), 7.65-7.80 (2H, m), 8.18-8.30 (2 H, m), 8.80 (1H, s)。

合成例557

N-(2-アミノ-2-オキシエチル)-3-[5-(シアノメチル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル]ベンズアミド塩酸塩

3-[5-(シアノメチル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル]安息香酸塩酸塩 (1.02 g, 2.24 mmol) およびグリシンアミド塩酸塩 (248 mg, 2.24 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (6mL) 溶液に 1-ヒドロキシ-1H-ベンゾトリアゾール-水合物 (377 mg, 2.46 mmol)、トリエチルアミン (1.09 mL, 7.84 mmol) および 1-エチル-3-(3-ジメチルアミノプロピル)カルボジイミド塩酸塩 (559 mg, 2.91 mmol) を加え、室温で 6時間攪拌した。反応混合物に水を注ぎ、酢酸エチルで 3 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (酢酸エチル/メタノール 100:1) に供し、表題化合物の遊離塩基を得た。これを酢酸エチルに溶解し、4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液を加え、減圧濃縮し、ジエチルエーテルから粉末化させて表題化合物 (425 mg、収率 37%) を得た。

非晶質。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.27 (6H, s), 1.46 (6H, s), 2.2 2 (2H, s), 3.20 (2H, s), 3.85 (2H, d, J = 3.8 Hz), 4.03 (2H, s), 4.08 (3H, s), 7.09 (1H, s), 7.4 7

(1H, s), 7.74-7.80 (2H, m), 8.18-8.25 (2H, m), 8.99 (1H, s)。

合成例558

N-(2-アミノ-1,1-ジメチル-2-オキシエチル)-3-[5-(シアノメチル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル]ベンズアミド

N-[3-[5-(シアノメチル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル]ベンゾイル]-2-メチルアラニン塩酸塩 (521 mg, 0.965 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (5 mL) 溶液に 1-ヒドロキシ-1H-ベンゾトリアゾール・アンモニウム塩 (176 mg, 1.16 mmol) および 1-エチル-3-(3-ジメチルアミノプロピル)カルボジイミド塩酸塩 (240 mg, 1.25 mmol) を加え、室温で 10 分間攪拌した。トリエチルアミン (0.40 mL, 2.90 mmol) を加え、室温で 3 時間攪拌した。反応混合物に氷水を注ぎ、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 1:2 の後酢酸エチル) に供し、酢酸エチル-ジイソプロピルエーテルから結晶化させて表題化合物 (323 mg、収率 67%) を得た。

融点 217-219 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.29 (12H, s), 1.71 (6H, s), 2.14 (2H, s), 2.69 (2H, s), 3.74 (2H, s), 4.04 (3H, s), 5.44 (1H, br s), 6.42 (1H, br s), 7.26-7.27 (1 H, m), 7.47-7.48 (2H, m), 7.84-7.89 (2H, m)。

【0406】合成例559

3-[5-(シアノメチル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル]-N-[1,1-ジメチル-2-オキシ-2-[(2-オキシ-3-ピロリジニル)アミノ]エチル]ベンズアミド

N-[3-[5-(シアノメチル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル]ベンゾイル]-2-メチルアラニン塩酸塩 (444 mg, 0.822 mmol) および D,L-3-アミノ-2-ピロリジノン (82 mg, 0.822 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (4 mL) 溶液に 1-ヒドロキシ-1H-ベンゾトリアゾール-水合物 (138 mg, 0.904 mmol)、トリエチルアミン (0.29 mL, 2.06 mmol) および 1-エチル-3-(3-ジメチルアミノプロピル)カルボジイミド塩酸塩 (205mg, 1.07 mmol) を加え、室温で 6 時間攪拌した。反応混合物に氷水を注ぎ、酢酸エチルで 3 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (酢酸エチル/メタノール 100:1 の後 10:1) に供し、得られた結晶をジイソプロピルエーテルで洗浄し、表題化合物 (157 mg、収率 33%) を得

た。

融点 137-139 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.29 (12H, s), 1.70 (3H, s), 1.72 (3H, s), 1.94-2.08 (1H, m), 2.14 (2H, s), 2.69 (2H, s), 2.70-2.85 (1H, m), 3.16-3.45 (2H, m), 3.75 (2H, s), 4.04 (3H, s), 4.26-4.34 (1H, m), 5.99 (1H, s), 6.91 (1H, d, J = 3.6 Hz), 7.13 (1H, s), 7.44-7.49 (2H, m), 7.87 (2H, s)。

合成例 5 6 0

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニル-5-フロ[2,3-h]イソキノリンカルボキサ

ルデヒド塩酸塩

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-5-フロ[2,3-h]イソキノリンメタノール (1.03 g, 2.82 mmol) のクロロホルム (15 mL) 溶液に二酸化マンガ

ン (4.90 g, 56.4 mmol) を加え、室温で 2 時間、50 °C で 15 時間攪拌した。無機塩をろ取し、ろ液を減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 5:1) に供し、表題化合物の遊離塩基を得た。これを酢酸エチルに溶解し、4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液を加え、減圧濃縮し、酢酸エチル-ヘキサンから結晶化させて表題化合物 (344 mg、収率 31 %) を得た。

融点 136-139 °C。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.29 (6H, s), 1.43 (6H, s), 2.24 (2H, s), 3.40 (2H, s), 4.14 (3H, s), 7.60-7.82 (5H, m), 10.42 (1H, s)。

合成例 5 6 1

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニル-5-フロ[2,3-h]イソキノリンカルボニ

トリル

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニル-5-フロ[2,3-h]イソキノリンカルボキサ

ルデヒド塩酸塩 (116 mg, 0.290 mmol) のギ酸 (1 mL) 溶液に塩酸ヒドロキシルアミン (30 mg, 0.435 mmol) を加え、100 °C で 3 時間攪拌した。反応混合物に水を注ぎ、濃アンモニア水で中和し、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 5:1) に供し、得られた結晶をジソプロピルエーテル-ヘキサンで洗浄し、表題化合物 (55 mg、収率 53%) を得た。

融点 166-168 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.27 (6H, s), 1.30 (6H, s), 2.19 (2H, s), 2.87 (2H, s), 4.13 (3H, s), 7.35-7.43 (5H, m)。

【0407】合成例 5 6 2

3-[5-(シアノメチル)-6-エトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-

イル]安息香酸 エチルエステル塩酸塩

3-(6-エトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)安息香酸 (5.03 g, 12.8 mmol) の酢酸 (10 mL) 溶液にパラホルムアルデヒド (94%) (613 mg, 19.2 mmol)、臭化ナトリウム (2.17 g, 21.1 mmol) および濃硫酸 (1.71 mL, 32.0 mmol) を加え、105 °C で 14 時間攪拌した。さらに、パラホルムアルデヒド (94%) (409 mg, 12.8 mmol)、臭化ナトリウム (1.45 g, 14.1 mmol) および濃硫酸 (0.68 mL, 12.8 mmol) を加え、115 °C で 10 時間攪拌した。反応混合物を 5 M 水酸化ナトリウム水溶液で pH 8 とし、酢酸エチルで抽出した。有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をエタノール (12 mL) に溶解し、氷冷下、塩化チオニル (0.65 mL, 8.94 mmol) を加え、室温で 24 時間攪拌した。溶媒を減圧留去し、残渣に水を加え、炭酸水素ナトリウムで中和した後、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 5:1) に供し、3-[5-(ブロモメチル)-6-エトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル]安息香酸 エチルエステル (170 mg、収率 3%) を油状物として得た。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.27 (6H, s), 1.28 (6H, s), 1.37-1.42 (6H, m), 2.12 (2H, s), 2.77 (2H, s), 4.31 (2H, q, J = 7.1 Hz), 4.39 (2H, q, J = 7.1 Hz), 4.76 (2H, s), 7.48 (1H, t, J = 7.8 Hz), 7.61 (1H, dd, J = 7.8, 1.5 Hz), 8.05-8.07 (1H, m), 8.09 (1H, dt, J = 7.8, 1.5 Hz)。

得られたブromo誘導体 (170 mg, 0.330 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (0.7 mL) 溶液にシアン化ナトリウム (18 mg, 0.362 mmol) の水 (0.5 mL) 溶液を加え、室温で 1 時間、60 °C で 2 時間攪拌した。反応混合物に水を注ぎ、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 3:1) に供し、表題化合物の遊離塩基を得た。これを酢酸エチルに溶解し、4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液を加え、減圧濃縮し、酢酸エチルから結晶化させて表題化合物 (111 mg、収率 68%) を得た。

融点 126-128 °C。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.25 (6H, s), 1.30-1.37 (6H, m), 1.44 (6H, s), 2.16 (2H, s), 3.16 (2H, s), 4.01 (2H, s), 4.33-4.47 (4H, m), 7.73-7.90 (2H, m), 8.18-8.29 (2H, m)。

合成例 5 6 3

(S)-N-(2-オキシ-3-アゼチジニル)-3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]

イソキノリン-1-イル)ベンズアミド

3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)安息香酸塩酸塩 (0.25 g, 0.6 mmol) をN,N-ジメチルホルムアミド (3 mL) に溶かし、N-エチルジイソプロピルアミン (0.104 mL, 0.6 mmol) を加えて 5 分間かき混ぜ、さらにN,N'-カルボニルジイミダゾール (0.107 g, 0.66 mmol) を加えて室温で 30 分間かき混ぜた。反応液に (S)-3-アミノ-2-アゼチジノン (0.057 g, 0.66 mmol) を加えて室温で 15 時間攪拌した。反応液に氷水を加えて酢酸エチルで 2 回抽出した。抽出液を塩化ナトリウム水溶液で洗浄し、硫酸ナトリウムで乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残留物をシリカゲルカラムクロマトグラフィーに付し、酢酸エチル/メタノール/トリエチルアミン (95:5:1) で溶出して目的画分を集めて濃縮して表記化合物 (0.171 g, 収率63%) を得た。ジエチルエーテルから再結晶した。

融点 154-157 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.29 (6H, s), 1.31 (6H, s), 2.16 (2H, s), 2.61 (2H, s), 3.22 (1H, br), 3.60 (1H, t, J=5 Hz), 3.93 (3H, s), 5.10 (1H, br), 6.32 (1H, br), 6.61 (1H, s), 7.4-8.0 (4H, m), 8.03 (1H, br)。

【0408】合成例564

N-(2-オキソ-3-ピロリジニル)-3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンズアミド

3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)安息香酸塩酸塩 (0.25 g, 0.6 mmol) をN,N-ジメチルホルムアミド (3 mL) に溶かし、N-エチルジイソプロピルアミン (0.104 mL, 0.6 mmol) を加えて、続いて N,N'-カルボニルジイミダゾール (0.107 g, 0.66 mmol) を加えて室温で 1 時間かき混ぜた。反応液に 3-アミノ-2-ピロリジノン (0.067 g, 0.66 mmol) を加えて室温で 15 時間攪拌した。反応液に氷水を加えて酢酸エチルで 2 回抽出した。抽出液を塩化ナトリウム水溶液で洗浄し、硫酸ナトリウムで乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残留物をシリカゲルカラムクロマトグラフィーに付し、酢酸エチル/メタノール (10:1) で溶出して目的画分を集めて濃縮して表記化合物 (0.184 g, 収率66%) を得た。ジエチルエーテルから再結晶した。

融点 191-193 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.26 (6H, s), 1.30 (6H, s), 1.7-2.3 (2H, m), 2.15 (2H, s), 2.70 (2H, s), 3.2-3.5 (2H, m), 3.93 (3H, s), 4.62 (1H, br), 6.62 (1H, s), 7.00 (1H, br), 7.4-8.0 (4H, m), 7.70 (1H, br)。

合成例565

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-4,4,8,8-テトラメチル-1-フェニルフロ[2,3-h]イソキノリン

N-[2-(2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベン

ゾフラン-2-メチルプロピル]ベンズアミド (0.269 g, 0.76 mmol) をオキシ塩化リン (3.5 g, 22.8 mmol) に懸濁して、100-105 °C で 2 時間攪拌した。室温まで冷却後、反応混合物を氷冷、攪拌下の炭酸ナトリウム水溶液中に注ぎ、pH 7 として酢酸エチルで 2 回抽出した。抽出液を塩化ナトリウム水溶液で洗浄し、硫酸マグネシウムで乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残留物をシリカゲルカラムクロマトグラフィーに付し、ヘキサン/酢酸エチル/トリエチルアミン (67:33:1) で溶出して目的画分を集めて濃縮して表記化合物 (0.175 g, 収率68%) を得た。ジエチルエーテル/ヘキサン (1:2) から再結晶した。

融点 137-139 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.28 (6H, s), 1.32 (6H, s), 2.26 (2H, s), 3.63 (2H, s), 3.95 (3H, s), 6.79 (1H, s), 7.42 (5H, s)。

合成例566

3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-4,4,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゾニトリル

3-シアノ-N-[2-(2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフラン-2-メチルプロピル]ベンズアミド (0.955 g, 2.52 mmol) をオキシ塩化リン (11.6g, 75.6 mmol) に懸濁して、100-105 °C で 2 時間攪拌した。室温まで冷却後、反応混合物を氷冷、攪拌下の炭酸カリウム水溶液中に注ぎ、pH 7 として酢酸エチルで 2 回抽出した。抽出液を塩化ナトリウム水溶液で洗浄し、硫酸マグネシウムで乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残留物をシリカゲルカラムクロマトグラフィーに付し、ヘキサン/酢酸エチル (3:2) で溶出して目的画分を集めて濃縮して表記化合物 (0.65 g, 収率71%) を得た。ジエチルエーテルから再結晶した。融点 178-180 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.24 (6H, s), 1.27 (6H, s), 2.23 (2H, s), 3.64 (2H, s), 3.96 (3H, s), 6.81 (1H, s), 7.4-7.9 (4H, m)。

【0409】合成例567

3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-4,4,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンズアミド 3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-4,4,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゾニトリル (0.446 g, 1.23 mmol) をメタノール (7 mL) に溶かし、氷冷下で 1 M 水酸化ナトリウム水溶液 (1.97 mL) と 30% 過酸化水素水溶液 (0.28 mL) を加えて室温で 20 時間攪拌した。減圧下メタノールを留去して、残留物を水で薄めて酢酸エチルで 2 回抽出した。抽出液を塩化ナトリウム水溶液で洗浄し、硫酸マグネシウムで乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残留物に酢酸エチルを加えて結晶化させて表記化合物 (0.275 g, 収率59%) を得た。

融点 191-193 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.28 (6H, s), 1.31 (6H, s), 2.24

(2H, s), 3.63 (2H, s), 3.95 (3H, s), 5.85 (1H, br), 6.35 (1H, br), 6.81 (1H, s), 7.4-7.9 (4H, m).

合成例 568

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-4,4,8,8-テトラメチル-1-フロ[2,3-h]イソキノリンカルボン酸 エチルエステル

[2-(2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフラニル)-2-メチルプロピル]アミノ]オキシ酢酸エチル (0.510 g, 0.76 mmol) をオキシ塩化リン (6.72g, 43.8 mmol) に溶かし、100-105 °C で 3 時間攪拌した。室温まで冷却後、反応混合物を氷冷、攪拌下の 2 M 水酸化ナトリウム水溶液 (30 mL) 中に注ぎ、さらに炭酸水素ナトリウムを加えて pH 5 として酢酸エチルで 2 回抽出した。抽出液を塩化ナトリウム水溶液で洗浄し、硫酸ナトリウムで乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残留物をシリカゲルカラムクロマトグラフィーに付し、ヘキサン/酢酸エチル (2:1) で溶出して目的画分を集めて濃縮して表題化合物 (0.286 g、収率68%) を得た。ジエチルエーテル/ヘキサン (1:1) から再結晶した。

融点 117-121 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.23 (6H, s), 1.26 (3H, t, J=7 Hz), 1.49 (6H, s), 2.99 (2H, s), 3.61 (2H, s), 3.94 (3H, s), 4.12 (2H, q, J=7 Hz), 6.75 (1H, s)。

合成例 569

1-(3-ブロモフェニル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-4,4,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン 3-プロモ-N-[2-(2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフラニル)-2-メチルプロピル]ベンズアミド (1.28 g, 2.96 mmol) のトルエン (25 mL) 懸濁液にオキシ塩化リン (3.3 mL, 35 mmol) を加え、3.5 時間加熱還流した。反応混合物を氷水に注ぎ、氷冷下 5 M 水酸化ナトリウム水溶液で中和した。有機層を分離し、水層をトルエンで抽出した。合わせた有機層を水で 2 回洗浄、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 4:1 の後 2:1) に供し、ヘキサンから再結晶して表題化合物 (741 mg、収率 60%) を得た。

融点 127-129 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.26 (6H, s), 1.35 (6H, s), 2.31 (2H, s), 3.63 (2H, s), 3.95 (3H, s), 6.79 (1H, s), 7.28 (1H, t, J = 7.7 Hz), 7.38 (1H, dt, J = 7.7, 1.6 Hz), 7.55 (1H, dt, J = 7.7, 1.6 Hz), 7.61 (1H, t, H = 1.6 Hz)。

【0410】合成例 570

3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-4,4,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-アミン

1-(3-ブロモフェニル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-4,4,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン (607 mg, 1.46 mmol)、4-(4,4,5,5-テトラメチル-1,3,2-ジ

オキサボロラン-2-イル)アニリン (353 mg, 1.61 mmol)、炭酸ナトリウム (388 mg, 3.66 mmol) およびテトラキス(トリフェニルホスフィン)パラジウム(0) (34 mg, 0.029 mmol) の1,2-ジメトキシエタン (4.5 mL)、エタノール (2mL) および水 (1.5 mL) 懸濁液を窒素雰囲気下 80 °C で 14 時間攪拌した。反応混合物に水を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム-塩基性シリカゲルを通して乾燥 (酢酸エチルで溶出)、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 10:1 の後 1:1) に供し、メタノール-ジエチルエーテルから再結晶して表題化合物 (400 mg、収率 64%) を得た。

融点 232-234 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.29 (6H, s), 1.30 (6H, s), 2.34 (2H, s), 3.64 (2H, s), 3.73 (2H, br s), 3.96 (3H, s), 6.74 (2H, d, J = 8.4 Hz), 6.81 (1H, s), 7.32 (1H, dt, J = 7.7, 1.5 Hz), 7.37-7.49 (3H, m), 7.56-7.63 (2H, m)。

20 合成例 571

N-[3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-4,4,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-イル]アセトアミド

合成例 30 と同様の方法により 3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-4,4,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-アミンから表題化合物を得た。収率 57%。

融点 223-227 °C (酢酸エチル-ジエチルエーテル)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.29 (6H, s), 1.31 (6H, s), 2.15-2.21 (3H, m), 2.33 (2H, s), 3.65 (2H, s), 3.96 (3H, s), 6.81 (1H, s), 7.26-7.65 (9H, m)。

合成例 572

1-(3-ブロモフェニル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-4,4,8,8-テトラメチル-6-フロ[2,3-h]イソキノリノール

1-(3-ブロモフェニル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-4,4,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン (4.73 g, 11.4 mmol) に 48% 臭化水素酸 (50 mL) を加え、22 時間加熱還流した。反応混合物を氷冷し、濃アンモニア水で中和、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水で 2 回洗浄、減圧濃縮した。残渣を酢酸エチル-ジエチルエーテルから結晶化させて表題化合物 (3.96 g、収率87%) を得た。

融点 230-235 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.21 (6H, s), 1.32 (6H, s), 2.29 (2H, s), 3.59 (2H, s), 6.74 (1H, s), 7.27 (1H, t, J = 7.8 Hz), 7.40 (1H, dt, J = 7.8, 1.6 Hz), 7.55 (1H, dt, J = 7.8, 1.6 Hz), 7.60 (1H, t, J = 1.6 Hz)。

【0411】合成例 573

3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-ヒドロキシ-4,4,8,8-テ

トラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル][1,1'-ビフェニル]-4-イル]カルバミン酸 フェニルメチルエステル

1-(3-ブロモフェニル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-4,4,8,8-テトラメチル-6-フロ[2,3-h]イソキノリノール (2.40 g, 6.00 mmol)、[4-(4,4,5,5-テトラメチル-1,3,2-ジオキサボロラン-2-イル)フェニル]カルバミン酸 フェニルメチルエステル (2.54 g, 7.19 mmol)、炭酸ナトリウム (1.59 g, 15.0 mmol) およびテトラキス(トリフェニルホスフィン)パラジウム(0) (139 mg, 0.120 mmol) の 1,2-ジメトキシエタン (20 mL)、エタノール (10 mL) および水 (10 mL) 懸濁液を窒素雰囲気下 85 °C で 16 時間攪拌した。反応混合物に酢酸エチルと水を加え、有機層を分離、水層を酢酸エチルで抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム-シリカゲルを通して乾燥 (酢酸エチルで溶出)、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 1:2 の後酢酸エチル) に供し、酢酸エチル-クロロホルムから結晶化させて表題化合物 (2.63 g, 収率 80%) を得た。

融点 161-165 °C。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.15 (6H, s), 1.19 (6H, s), 2.25 (2H, s), 3.48 (2H, s), 5.17 (2H, s), 6.74 (1H, s), 7.31-7.75 (13H, m), 9.74 (1H, s), 9.91 (1H, s)。

合成例 574

[3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-4,4,8,8-テトラメチル-6-[[(トリフルオロメチル)スルホニル]オキシ]フロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル][1,1'-ビフェニル]-4-イル]カルバミン酸 フェニルメチルエステル

合成例 95 と同様の方法により [3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-ヒドロキシ-4,4,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル][1,1'-ビフェニル]-4-イル]カルバミン酸 フェニルメチルエステルから表題化合物を得た。収率 92%。

非晶質。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.28 (6H, s), 1.30 (6H, s), 2.37 (2H, s), 3.70 (2H, s), 5.22 (2H, s), 6.80 (1H, br s), 7.08 (1H, s), 7.31-7.51 (9H, m), 7.57 (2H, d, J = 8.7 Hz), 7.62-7.68 (2H, m)。

合成例 575

[3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-4,4,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル][1,1'-ビフェニル]-4-イル]カルバミン酸 フェニルメチルエステル[3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-4,4,8,8-テトラメチル-6-[[(トリフルオロメチル)スルホニル]オキシ]フロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル][1,1'-ビフェニル]-4-イル]カルバミン酸 フェニルメチルエステル (2.74 g, 4.04 mmol)、トリエチルアミン (1.7 mL, 12 mmol)、酢酸パラジウム(II) (23 mg, 0.10 mmol) およびトリフェニルホスフィン (53 m

g, 0.20 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (8 mL) 溶液にギ酸 (0.30 mL, 8.0 mmol) を加え、窒素雰囲気下 70 °C で 4 時間攪拌した。反応混合物に水および飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水で 2 回洗浄、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 2:1) に供し、酢酸エチル-ジエチルエーテルから結晶化させて表題化合物 (1.72 g, 収率 80%) を得た。

10 融点 126-129 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.27 (6H, s), 1.28 (6H, s), 2.32 (2H, s), 3.68 (2H, s), 5.22 (2H, s), 6.77 (1H, br s), 6.83 (1H, d, J = 8.4 Hz), 7.19 (1H, d, J = 8.4 Hz), 7.31-7.50 (9H, m), 7.55-7.68 (4H, m)。

【0412】合成例 576

3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-4,4,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル][1,1'-ビフェニル]-4-アミン二臭化水素塩

[3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-4,4,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル][1,1'-ビフェニル]-4-イル]カルバミン酸 フェニルメチルエステル (1.90g, 3.58 mmol) のクロロホルム (20 mL) 溶液に 25% 臭化水素酸/酢酸溶液 (7 mL) を加え、室温で 3 時間攪拌した。反応混合物を減圧濃縮し、残渣にジエチルエーテルを加え固体をろ取して表題化合物 (1.97 g, 99%) を得た。融点 206-210 °C。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.21 (3H, s), 1.25 (3H, s), 1.37 (6H, s), 2.25-2.50 (2H, m), 3.70-3.90 (2H, m), 7.15-7.32 (2H, m), 7.27 (1H, d, J = 8.4 Hz), 7.50 (1H, d, J = 8.4 Hz), 7.62-7.70 (1H, m), 7.72-7.85 (3H, m), 8.05-8.07 (1H, m), 8.08 (1H, d, J = 7.8 Hz)。

合成例 577

N-[3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-4,4,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル][1,1'-ビフェニル]-4-イル]アセトアミド

3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-4,4,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル][1,1'-ビフェニル]-4-アミン二臭化水素塩 (279 mg, 0.500 mmol) のテトラヒドロフラン (1 mL) 懸濁液に炭酸ナトリウム (185 mg, 1.75 mmol) の水 (1mL) 溶液を加えた。得られた混合物を氷冷し、アセチルクロリド (46 μL, 0.65mmol) を滴下し、同温で 15 分間攪拌した。反応混合物に水を加え、クロロホルムで 2 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を酢酸エチル-ジエチルエーテルから結晶化させて表題化合物 (149 mg, 68%) を得た。

融点 246-249 °C。

50 ¹H NMR (CDCl₃) δ 1.27 (6H, s), 1.29 (6H, s), 2.19

421

(3H, s), 2.32 (2H, s), 3.68 (2H, s), 6.83 (1H, d, J = 8.1 Hz), 7.19 (1H, d, J = 8.1 Hz), 7.36-7.43 (2H, m), 7.47 (1H, t, J = 7.5 Hz), 7.57 (4H, s), 7.61-7.68 (2H, m)。

合成例 578

N-[3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-4,4,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-イル]プロパンアミド

合成例 577 と同様の方法によりプロピオニルクロリドを用いて表題化合物を得た。収率 56%。

融点 215-218 °C (酢酸エチル-ジエチルエーテル)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.23-1.31 (3H, m), 1.27 (6H, s), 1.29 (6H, s), 2.32 (2H, s), 2.41 (2H, q, J = 7.5 Hz), 3.68 (2H, s), 6.83 (1H, d, J = 8.1 Hz), 7.19 (1H, d, J = 8.1 Hz), 7.20-7.27 (1H, m), 7.37-7.42 (1H, m), 7.47 (1H, t, J = 7.5 Hz), 7.59 (4H, s), 7.62-7.68 (2H, m)。

【0413】合成例 579

N-[3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-4,4,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-イル]ホルムアミド

ギ酸 (0.5 mL) に氷冷下無水酢酸 (0.14 mL, 1.5 mmol) を滴下し、同温で 1.5 時間攪拌した。得られた溶液を、3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-4,4,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-アミン二臭化水素塩 (279 mg, 0.500 mmol) およびギ酸ナトリウム (75 mg, 1.1 mmol) のギ酸 (0.5 mL) 溶液に滴下し、室温で 1.5 時間攪拌した。炭酸水素ナトリウム (3.1 g, 37 mmol) の水-酢酸エチル懸濁液に反応混合物を滴下し有機層を分離、水層を酢酸エチルで抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を酢酸エチル-ヘキサンから結晶化させて表題化合物 (147 mg, 収率 69%) を得た。

融点 197-199 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.27 (6H, s), 1.29 (6H, s), 2.32 (2H, s), 3.69 (2H, s), 6.84 (1H, d, J = 8.4 Hz), 7.13 (1H, d, J = 8.7 Hz), 7.20 (1H, d, J = 8.4 Hz), 7.38-7.69 (8H, m), 8.38 (0.55H, d, J = 1.8 Hz), 8.73 (0.45H, d, J = 11.1 Hz)。

合成例 580

3'-(6-ヒドロキシ-4,4,8,8-テトラメチル-3,4,8,9-テトラヒドロフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-カルボン酸 エチルエステル

合成例 461 と同様の方法により 1-(3-ブロモフェニル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-4,4,8,8-テトラメチル-6-フロ[2,3-h]イソキノリノールおよび 4-(4,4,5,5-テトラメチル-1,3,2-ジオキサボロラン-2-イル)安息香酸 エチルエステルから表題化合物を得た。収率 52%。

融点 214-217 °C (酢酸エチル-ジエチルエーテル)。

422

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.21 (6H, s), 1.28 (6H, s), 1.41 (3H, t, J = 7.2 Hz), 2.32 (2H, s), 3.60 (2H, s), 4.40 (2H, q, J = 7.2 Hz), 6.73 (1H, s), 7.38-7.54 (2H, m), 7.63-7.77 (2H, m), 7.68 (2H, d, J = 8.4 Hz), 8.09 (2H, d, J = 8.4 Hz)。

合成例 581

3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-4,4,8,8-テトラメチル-6-[[(トリフルオロメチル)スルホニル]オキシ]フロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-カルボン酸 エチルエステル

合成例 95 と同様の方法により 3'-(6-ヒドロキシ-4,4,8,8-テトラメチル-3,4,8,9-テトラヒドロフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-カルボン酸 エチルエステルから表題化合物を得た。収率 97%。

融点 147-149 °C (酢酸エチル-ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.29 (6H, s), 1.31 (6H, s), 1.42 (3H, t, J = 7.2 Hz), 2.38 (2H, s), 3.72 (2H, br s), 4.41 (2H, q, J = 7.2 Hz), 7.10 (1H, s), 7.42-7.48 (1H, m), 7.50-7.57 (1H, m), 7.67-7.76 (4H, m), 8.12 (2H, d, J = 8.1 Hz)。

合成例 582

3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-4,4,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-カルボン酸 エチルエステル

合成例 575 と同様の方法により 3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-4,4,8,8-テトラメチル-6-[[(トリフルオロメチル)スルホニル]オキシ]フロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-カルボン酸 エチルエステルから表題化合物を得た。収率 75%。

融点 144-149 °C (ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.28 (6H, s), 1.29 (6H, s), 1.42 (3H, t, J = 7.1 Hz), 2.32 (2H, s), 3.69 (2H, s), 4.40 (2H, q, J = 7.1 Hz), 6.84 (1H, d, J = 8.4 Hz), 7.20 (1H, d, J = 8.4 Hz), 7.47 (1H, dt, J = 7.6, 1.7 Hz), 7.52 (1H, td, J = 7.6, 0.6 Hz), 7.67-7.76 (4H, m), 8.08-8.13 (2H, m)。

【0414】合成例 583

3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-4,4,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-カルボン酸

3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-4,4,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-カルボン酸 エチルエステル (1.30 g, 2.87 mmol) のエタノール (15 mL) 懸濁液に 1 M 水酸化ナトリウム水溶液 (10 mL) を加え、70 °C で 45 分間攪拌した。反応混合物を氷冷し、1 M 塩酸 (10 mL) を滴下し、クロロホルムで 2 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、少量のメタノールを加えた後硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をクロロホルム-酢酸エチルから結晶化させて表題化合物 (1.19

g、収率 97%) を得た。

融点 286-291 °C。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.19 (6H, s), 1.21 (6H, s), 2.28 (2H, s), 3.58 (2H, s), 6.86 (1H, d, J = 8.3 Hz), 7.24 (1H, d, J = 8.3 Hz), 7.44 (1H, dt, J = 7.6, 1.4 Hz), 7.58 (1H, t, J = 7.6 Hz), 7.74 (1H, t, J = 1.4 Hz), 7.87-7.88 (3H, m), 8.03 (2H, d, J = 8.4 Hz), 12.80-13.05 (1H, br)。

合成例 5 8 4

3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-4,4,8,8-テトラメチルフロ [2,3-h]イソキノリン-1-イル) [1,1'-ビフェニル]-4-カルボキサミド

3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-4,4,8,8-テトラメチルフロ [2,3-h]イソキノリン-1-イル) [1,1'-ビフェニル]-4-カルボン酸 (213 mg, 0.501 mmol) および 1-ヒドロキシ-1H-ベンゾトリアゾール・アンモニウム塩 (92 mg, 0.60 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (1 mL) 懸濁液に 1-エチル-3-(3-ジメチルアミノプロピル)カルボジイミド塩酸塩 (125 mg, 0.652 mmol) を加え、室温で 15 時間攪拌した。得られた混合物にトリエチルアミン (0.16 mL, 1.1 mmol) を加え、室温で 2 時間攪拌した。反応混合物に水を加え、酢酸エチル-テトラヒドロフラン混合液で 2 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム-塩基性シリカゲルを通して乾燥 (酢酸エチルで溶出)、減圧濃縮した。得られた固体を酢酸エチル-ヘキサンで洗浄して表題化合物 (89.5 mg、収率 42%) を得た。

融点 284-296 °C。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.19 (6H, s), 1.21 (6H, s), 2.29 (2H, s), 3.58 (2H, s), 6.86 (1H, d, J = 8.1 Hz), 7.24 (1H, d, J = 8.1 Hz), 7.36-7.45 (2H, m), 7.57 (1H, t, J = 7.7 Hz), 7.73 (1H, t, J = 1.5 Hz), 7.79 (2H, d, J = 8.6 Hz), 7.81-7.87 (1H, m), 7.97 (2H, d, J = 8.6 Hz), 8.04 (1H, br s)。

合成例 5 8 5

N-メチル-3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-4,4,8,8-テトラメチルフロ [2,3-h]イソキノリン-1-イル) [1,1'-ビフェニル]-4-カルボキサミド

合成例 4 5 9 と同様の方法により 3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-4,4,8,8-テトラメチルフロ [2,3-h]イソキノリン-1-イル) [1,1'-ビフェニル]-4-カルボン酸から表題化合物を得た。収率 70%。

融点 242-244 °C (酢酸エチル-ヘキサン)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.27 (6H, s), 1.29 (6H, s), 2.32 (2H, s), 3.05 (3H, d, J = 4.8 Hz), 3.69 (2H, s), 6.15-6.25 (1H, m), 6.84 (1H, d, J = 8.4 Hz), 7.20 (1H, d, J = 8.4 Hz), 7.46 (1H, dt, J = 7.7, 1.5 Hz), 7.47-7.54 (1H, m), 7.66-7.74 (4H, m), 7.83 (2H, d, J = 8.4 Hz)。

【0415】合成例 5 8 6

3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-6-(プロピルチオ)フロ [2,3-h]イソキノリン-1-イル)安息香酸合成例 5 4 9 において得られた 2,3-ジヒドロ-2,2-ジメチル-5-(2-メチル-1-プロペニル)-7-(プロピルチオ)ベンゾフランおよび 2,3-ジヒドロ-2,2-ジメチル-5-(2-メチル-1-プロペニル)ベンゾフランの約 15:2 混合物 (3.10 g) および 3-シアノ安息香酸イソプロピル (1.83 g, 9.65 mmol) の酢酸 (6 mL)-トルエン (13 mL) 溶液に氷冷下、濃硫酸 (1.80 mL, 33.7 mmol) を滴下し、60 °C で 1.5 時間攪拌した。イソプロピルアルコール (11.7 mL) を滴下し、5 時間加熱還流した。反応混合物に氷水を注ぎ、炭酸水素ナトリウムで中和した後、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を N,N-ジメチルホルムアミド (20 mL) に溶解し、炭酸カリウム (668 mg, 4.83 mmol) および 2-ヨードプロパン (0.48 mL, 4.83 mmol) を加え、室温で 15 時間攪拌した。反応混合物に水を注ぎ、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 10:1 の後 5:1) に供し、3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-6-プロピルチオフロ [2,3-h]イソキノリン-1-イル)安息香酸 1-メチルエチルエステル (1.00 g、収率 22%) を油状物として得た。得られたエステル誘導体 (1.00 g, 2.15 mmol) をメタノール (4 mL) に溶解し、5 M 水酸化ナトリウム水溶液 (2 mL) を加え、室温で 15 時間攪拌した。反応混合物を 5 M 塩酸を用いて pH 4.5 とし、塩化ナトリウムを加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸マグネシウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を酢酸エチル-ジイソプロピルエーテルから結晶化させて表題化合物 (153 mg、収率 17%) を得た。

融点 206-208 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.11 (3H, t, J = 7.5 Hz), 1.25 (6H, s), 1.51 (3H, s), 1.74-1.86 (2H, m), 1.91 (3H, s), 2.05-2.17 (2H, m), 2.83-3.04 (1H, m), 3.04 (2H, t, J = 7.2 Hz), 3.30-3.50 (1H, m), 6.97 (1H, s), 7.60-7.72 (2H, m), 8.00 (1H, d, J = 7.5 Hz), 8.12 (1H, d, J = 7.8 Hz)。

合成例 5 8 7

N-(2-アミノ-1,1-ジメチル-2-オキシエチル)-3-(3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-6-(プロピルチオ)フロ [2,3-h]イソキノリン-1-イル)安息香酸 (703 mg, 1.66 mmol) および 2-アミノ-2-メチルプロパンアミド塩酸塩 (254 mg, 1.83 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (4 mL) 溶液に 1-ヒドロキシ-1H-ベンゾト

リアゾール-水和物 (280 mg, 1.83 mmol)、トリエチルアミン (0.58 mL, 4.15 mmol) および 1-エチル-3-(3-ジメチルアミノプロピル)カルボジイミド塩酸塩 (414 mg, 2.16 mmol) を加え、室温で 4 時間攪拌した。反応混合物に水を注ぎ、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 1:2 の後酢酸エチル) に供し、得られた結晶をジイソプロピルエーテルで洗浄し、表題化合物 (47 8 mg、収率 57%) を得た。

融点 195-197 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.05 (3H, t, J = 7.2 Hz), 1.25 (6H, s), 1.30 (6H, s), 1.62-1.78 (2H, m), 1.71 (6H, s), 2.17 (2H, s), 2.68 (2H, s), 2.95 (2H, t, J = 7.3 Hz), 5.49 (1H, br s), 6.43 (1H, br s), 6.92 (1H, s), 6.96 (1H, s), 7.43-7.52 (2H, m), 7.85-7.89 (2H, m)。

合成例 588

3,4,8,9-テトラヒドロ-5,6-ジメトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-1-フェニルフロ[2,3-h]イソキノリン塩酸塩 20
2,3-ジヒドロ-6,7-ジメトキシ-2,2-ジメチル-5-(2-メチル-1-プロペニル)ベンゾフラン (220 mg, 0.839 mmol)

および ベンゾニトリル (0.086 mL, 0.839 mmol) の酢酸 (0.4 mL) - トルエン (1 mL) 溶液に氷冷下、濃硫酸 (0.11 mL, 2.10 mmol) を滴下し、80 °C で 40 分間攪拌した。反応混合物に氷水を注ぎ、ジイソプロピルエーテルで洗浄した。水層を濃アンモニア水で中和し、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 10:1 の後 5:1) に供し、表題化合物の遊離塩基を得た。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.25 (6H, s), 1.29 (6H, s), 2.13 (2H, s), 2.69 (2H, s), 3.83 (3H, s), 3.99 (3H, s), 7.38 (5H, s)。

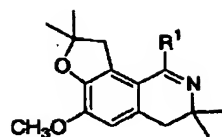
これを酢酸エチルに溶解し、4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液を加え、減圧濃縮し、酢酸エチル-ジイソプロピルエーテルから結晶化させて表題化合物 (6 mg、収率 2%) を得た。

融点 155-157 °C。

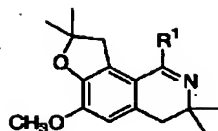
上記の合成例 1 ~ 588 で製造された化合物を以下の表 1 ~ 表 40 に示す。

【0416】

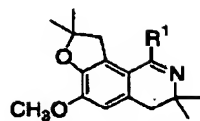
【表 1】



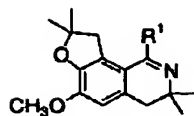
合成例	R¹	付加物	合成例	R¹	付加物
1		-	11		HCl
2		-	12		HCl
3		-	13		HCl
4		-	14	CH₃	-
5		-	15		-
6		-	16		HCl
7		-	17		-
8		-	18		-
9		-	19		-
10		-	20		-



合成例	R ¹	付加物	合成例	R ¹	付加物
21		-	34		-
24		-	35		-
25		-	36		-
27		-	37		-
28		-	38		-
29		2HCl	39		-
30		-	40		-
31		-	41		-
32		-	42		-
33		-	43		-



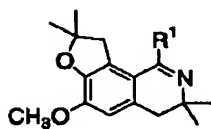
合成例	R ¹	付加物	合成例	R ¹	付加物
44		-	52		-
45		-	53		-
46		-	54		3HCl
47		-	55		-
48		-	56		-
49		-	57		HCl
50		-	58		-
51		-	59		-



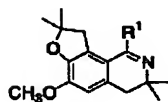
合成例	R ¹	付加物	合成例	R ¹	付加物
60		-	68		HCl
61		-	69		-
62		-	70		HCl
63		-	71		-
64		2HCl	72		-
65		-	73		-
66		-	74		-
67		-	75		-

【0420】

【表5】



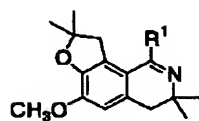
合成例	R ¹	付加物	合成例	R ¹	付加物
76		-	85		-
77		-	86		-
78		-	88		HCl
79		-	89		HCl
80		HCl	90		-
81		HCl	123		-
83		-	139		HCl
84		-	140		HCl



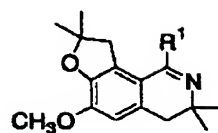
実験例	R ¹	付加物	実験例	R ¹	付加物
141		2HCl	149		-
142		2HCl	150		2HCl
143		2HCl	151		-
144		2HCl	152		-
145		2HCl	153		-
146		2HCl	154		-
147		2HCl	155		HCl
148		-	156		HCl

【0422】

【表7】



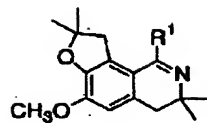
合成例	R ¹	付加物	合成例	R ¹	付加物
157		-	167		-
158		-	168		-
159		-	169		-
160		-	170		-
161		-	171		-
162		-	172		2HCl
163		-	173		2HCl
164		-	174		2HCl
165		-	175		-
166		-			



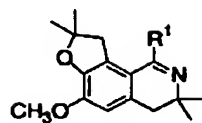
合成例	R ¹	付加物	合成例	R ¹	付加物
176		-	248		-
177		HCl	249		-
178		-	250		-
179		-	251		-
180		-	252		-
181		-	253		-
182		-	254		-
183		HCl	255		2HCl
247		HCl	256		-

【0424】

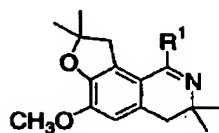
【表9】



合成例	R ¹	付加物	合成例	R ¹	付加物
257		2HCl	266		-
258		-	267		-
259		-	268		HCl
260		-	269		-
261		-	270		-
262		2HCl	271		-
263		-	272		-
264		HCl	273		-
265		HCl	274		HCl



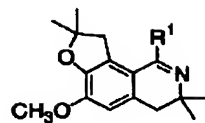
合成例	R ¹	付加物	合成例	R ¹	付加物
275		-	284		-
276		-	285		-
277		HCl	286		3HCl
278		2HCl	287		2HCl
279		-	288		-
280		-	289		-
281		HCl	290		HCl
282		-	295		-
283		-	296		-



合成例	R ¹	付加物	合成例	R ¹	付加物
297		HCl	308		HCl
299		2HCl	309		HCl
300		-	310		HCl
301		-	311		HCl
302		2HCl	312		HCl
303		-	313		HCl
304		-	314		HCl
306		HCl	315		HCl
307		HCl	316		HCl

【0427】

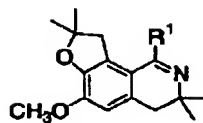
【表12】



合成例	R ¹	付加物	合成例	R ¹	付加物
317		HCl	326		HCl
318		HCl	327		-
319		-	328		-
320		HCl	329		-
321		-	330		-
322		HCl	331		-
323		-	332		-
324		HCl	333		-
325		HCl	334		-

【0428】

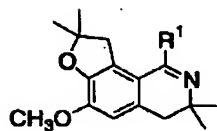
【表13】



合成例	R ¹	付加物	合成例	R ¹	付加物
335		-	345		-
336		2HCl	346		-
337		-	347		-
338		-	348		-
339		-	349		HCl
340		-	350		-
341		-	351		HCl
342		-	352		HCl
343		-	353		-
344		HCl	354		-

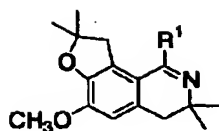
【0429】

【表14】

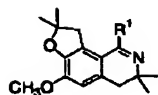


合成例	R ¹	付加物
355		-
356		HCl
357		HCl
358		HCl
359		HCl
360		HCl
361		HCl
362		HCl
363		HCl
364		1.5HCl

合成例	R ¹	付加物
365		HCl
366		HCl
367		HCl
368		-
369		-
370		-
371		-
372		-
373		-
374		-



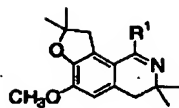
合成例	R ¹	付加物	合成例	R ¹	付加物
375		-	385		-
376		-	386		-
377		-	387		-
378		-	388		-
379		-	389		-
380		-	390		-
381		-	391		-
382		-	392		-
383		-	393		-
384		-	394		-



合成例	R ¹	付加物	合成例	R ¹	付加物
395		-	404		HCl
396		-	405		-
397		-	406		-
398		-	407		-
399		-	408		-
400		-	409		-
401		-	410		-
402		-	411		-
403		-	412		-

【0432】

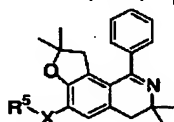
【表17】



合成例	R ¹	付加物	合成例	R ¹	付加物
413		-	422		-
414		-	423		-
415		-	431		-
419	-CO ₂ CH ₃	-	432		-
420	-CO ₂ H	HCl	433		-
421		-	434		-

【0433】

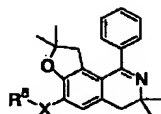
* * 【表18】



合成例	R ⁵	X	付加物	合成例	R ⁵	X	付加物
22	-C ₂ H ₅	O	-	186	-C ₃ H ₇	O	HCl
91	-H	O	HBr	187		O	-
92	-H	O	-	188	-COCH ₃	O	HCl
95	-SO ₂ CF ₃	O	-	189		O	HCl
96	-SO ₂ CF ₃	O	HCl	190	-C ₄ H ₉	O	-
97	-H	結合手	HCl	191	-C ₃ H ₇	O	HCl
107	-C ₂ H ₅	O	HCl	192		O	-
136		O	HCl	193		O	2HCl
138		O	HCl	194		O	-

【0434】

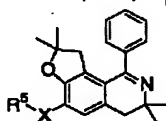
50 【表19】



合成例	R ⁵	X	付加物	合成例	R ⁵	X	付加物
195		O	-	204	-CH ₂ CONH ₂	O	-
196		O	-	205	-CH ₂ CO ₂ H	O	HCl
197		O	HCl	206	-CH ₂ CONHCH ₃	O	HCl
198		O	-	207	-CH ₂ CON(CH ₃) ₂	O	-
199	-CO ₂ C ₂ H ₅	O	HCl	208	-CH ₂ CH ₂ NH ₂	O	-
200		O	-	209	-CH ₂ CH ₂ OH	O	-
201	-CH ₂ F	O	-	210	-CH ₂ CH ₂ F	O	-
202		O	-	211		O	-
203	-CH ₂ CO ₂ CH ₃	O	-	212		O	HCl

【0435】

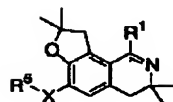
* * 【表20】



合成例	R ⁵	X	付加物	合成例	R ⁵	X	付加物
213		S	HCl	223	-SO ₂ CH ₃	NH	-
214	-CH ₃	S	HCl	224	-COC ₂ H ₅	NH	-
215	-Cl	結合手	HCl	225	-CO ₂ C ₂ H ₅	NH	-
217	-CH ₃	NH	HCl	226	-CH ₂ CO ₂ C ₂ H ₅	NH	-
218	-CH ₃	NCH ₃	2HCl	227	-CONH ₂	NH	-
219	-C ₂ H ₅	NH	HCl	228	-CONHCH ₃	NH	-
220	-H	NH	-	298	-C ₂ H ₅	S	HCl
221	-CHO	NH	-	305	-CH ₃	結合手	HCl
222	-COCH ₃	NH	-				

【0436】

【表21】

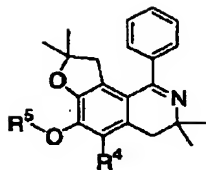


合成例	R ¹	R ⁵	X	付加物
23		-C ₂ H ₅	O	-
26		-C ₂ H ₅	O	-
82		-C ₂ H ₅	O	HCl
87		-C ₂ H ₅	O	-
93		-H	O	HBr
94		-H	O	-
98		-H	O	-
99		-C ₃ H ₇	O	-
100		-CH ₂ CONH ₂ O		-

合成例	R ¹	R ⁵	X	付加物
101		-C ₂ H ₅	O	-
102		-C ₂ H ₅	O	HCl
103		-C ₄ H ₉	O	-
104		-C ₄ H ₉	O	HCl
105		-C ₄ H ₉	O	-
106		-C ₂ H ₅	O	-
124		-H	O	-
216		-Cl		結合手 2HCl

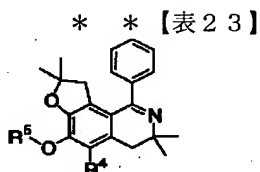
【0437】

【表22】



合成例	R ⁴	R ⁵	付加物	合成例	R ⁴	R ⁵	付加物
113	-CH ₂ N(CH ₃) ₂	-H	-	122		-COCH ₃	2HCl
114	-CH ₂ N(CH ₃) ₂	-CH ₃	-	132	-C ₃ H ₇	-H	-
115	-CH ₂ N ⁺ (CH ₃) ₃ I ⁻	-CH ₃	-	133	-C ₃ H ₇	-CH ₃	HCl
116		-CH ₃	HCl	134	-C ₃ H ₇	-C ₂ H ₅	HCl
117	-CH ₂ N(CH ₃) ₂	-C ₂ H ₅	-	135	-C ₃ H ₇	-COCH ₃	HCl
118	-CH ₂ N(CH ₃) ₂	-COCH ₃	-	137		-H	-
119		-H	-	229		-CH ₃	-
120		-CH ₃	2HCl	230	-CH ₂ NH ₂	-CH ₃	-
121		-C ₂ H ₅	-				

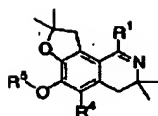
【0438】



合成例	R ⁴	R ⁵	付加物	合成例	R ⁴	R ⁵	付加物
231		-CH ₃	-	239	-CH ₃	-CH ₃	HCl
232		-CH ₃	-	240	-CH ₂ CN	-CH ₃	-
233		-CH ₃	-	241	-CH ₂ CO ₂ C ₂ H ₅	-CH ₃	HCl
234	-CH ₂ Br	-CH ₃	-	242	-CH ₂ CO ₂ H	-CH ₃	-
235	-CH ₂ OCH ₃	-CH ₃	HCl	243	-CH ₂ CONH ₂	-CH ₃	-
236	-CH ₂ OC ₂ H ₅	-CH ₃	HCl	244	-CH ₂ CONHCH ₃	-CH ₃	-
237	-CH ₂ OH	-CH ₃	-	245		-H	-
238	-CH ₂ F	-CH ₃	HCl	246	-CH ₂ OH	-H	-

【0439】

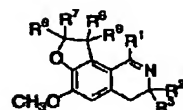
50 【表24】



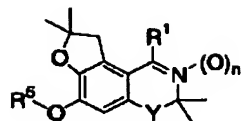
合成例	R ¹	R ⁴	R ⁵	付加物	合成例	R ¹	R ⁴	R ⁵	付加物
125			-H	-	129			-C ₂ H ₅	-
126			-C ₂ H ₅	-	130			-C ₂ H ₅	-
127			-C ₂ H ₅	-	131			-C ₂ H ₅	-
128			-C ₂ H ₅	-					

【0440】

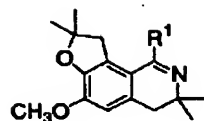
【表25】



合成例	R ¹	R ²	R ³	R ⁴	R ⁵	R ⁶	R ⁸	R ⁹	付加物
109		-CH ₂ Br	-CH ₃	-CH ₃	-CH ₃	-H	-H	-	-
184		-(CH ₂) ₅ -	-CH ₃	-CH ₃	-CH ₃	-H	-H	-	HCl
185		-(CH ₂) ₅ -	-CH ₃	-CH ₃	-CH ₃	-H	-H	-	HCl
416		-CH ₃	-CH ₃	-H	-H	-H	-H	-	-
417		-CH ₃	-CH ₃	-H	-H	-CH ₃	-CH ₃	-	-
418		-C ₂ H ₅	-C ₂ H ₅	-CH ₃	-CH ₃	-H	-H	-	HCl
424		-CH ₃	-CH ₃	-H	-H	-H	-H	-	-
425		-CH ₃	-CH ₃	-(CH ₂) ₄ -	-	-H	-H	-	-
426		-CH ₃	-CH ₃	-(CH ₂) ₄ -	-	-H	-H	-	-
427		-CH ₃	-CH ₃	-(CH ₂) ₄ -	-	-H	-H	-	-
428		-CH ₃	-CH ₃	-C ₂ H ₅	-C ₂ H ₅	-H	-H	-	HCl
429		-CH ₃	-CH ₃	-C ₂ H ₅	-C ₂ H ₅	-H	-H	-	HCl
430		-CH ₃	-CH ₃	-C ₂ H ₅	-C ₂ H ₅	-H	-H	-	HCl
435		-H	-H	-CH ₃	-CH ₃	-H	-H	-	HCl
436		-CH ₃	-H	-CH ₃	-CH ₃	-H	-H	-	-
437		-CH ₃	-H	-CH ₃	-CH ₃	-H	-H	-	-
438		-CO ₂ CH ₃	-H	-CH ₃	-CH ₃	-H	-H	-	-



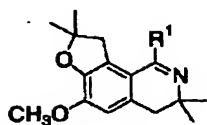
合成例	R ¹	R ⁵	Y	n	付加物
108		-CH ₃	-CH(OH)-	0	-
110		-C ₂ H ₅	-CH ₂ -	1	-
111		-CH ₃	-CH ₂ -	1	-
112		-C ₂ H ₅	-CH ₂ -	1	-
291		-CH ₃	-CH(OH)-	0	HCl
292		-CH ₃	-CH(OH)-	0	-
293		-CH ₃	-CH(OH)-	0	HCl
294		-CH ₃	-C(=O)-	0	-



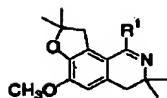
合成例	R ¹	付加物	合成例	R ¹	付加物
439		-	447		-
440		-	448		-
441		-	451		-
442		-	452		-
443		-	453		-
444		-	454		-
445		-	455		-
446		-	456		-

【0443】

【表28】



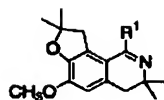
合成例	R ¹	付加物	合成例	R ¹	付加物
457		-	478		-
458		-	479		-
459		-	480		-
460		-	493		-
467		-	501		HCl
468		HCl	502		-
469		-	503		HCl
477		-	504		HCl



合成例	R ¹	付加物	合成例	R ¹	付加物
505		-	513		-
506		HCl	514		HCl
507		HCl	515		HCl
508		HCl	516		-
509		HCl	517		-
510		HCl	518		-
511		HCl	519		-
512		HCl	520		-

【0445】

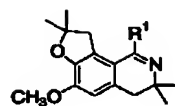
【表30】



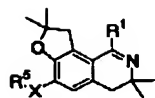
合成例	R ¹	付加物	合成例	R ¹	付加物
521		HCl	529		-
522		-	530		-
523		HCl	531		-
524		-	532		-
525		HCl	533		-
526		-	534		HCl
527		HCl	535		-
528		-	536		HCl

【0446】

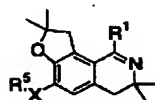
【表31】



合成例	R ¹	付加物
537		-
538		-
539		-
540		-
541		2HCl
542		HCl
543		-
563		-
564		-



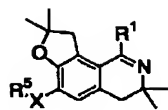
合成例	R ¹	R ⁵	X	付加物
449		-C ₄ H ₉	O	-
450		-C ₄ H ₉	O	-
481		-H	O	-
462		-SO ₂ CF ₃	O	-
463		-H	結合手	-
464		-SO ₂ CF ₃	O	-
485		-H	結合手	-
466		-H	結合手	-
481		-C ₂ H ₅	O	-
482		-C ₂ H ₅	O	HCl



合成例	R ¹	R ⁵	X	付加物
483		-C ₂ H ₅	O	-
484		-C ₂ H ₅	O	-
485		-C ₂ H ₅	O	-
486		-C ₂ H ₅	O	HCl
487		-C ₂ H ₅	O	-
488		-C ₂ H ₅	O	-
489		-C ₂ H ₅	O	-
490		-C ₂ H ₅	O	-
491		-C ₂ H ₅	O	-
492		-C ₂ H ₅	O	-

【0449】

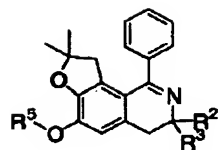
【表34】



合成例	R ¹	R ⁵	X	付加物
544		-C ₂ H ₅	O	-
545		-C ₂ H ₅	O	-
546		-C ₂ H ₅	O	2HCl
547		-C ₂ H ₅	O	HCl
548		-C ₂ H ₅	S ⁺ (-O)	-
549		- ⁿ C ₃ H ₇	S	-
550		-C ₂ H ₅	S	-
586		- ⁿ C ₃ H ₇	S	-
587		- ⁿ C ₃ H ₇	S	-

【0450】

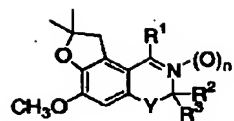
【表35】



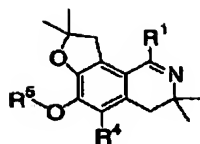
合成例	R ²	R ³	R ⁵	付加物
470		-CH ₃	-CH ₃	-
471		-CH ₃	-CH ₃	-
472		-H	-CH ₃	-
473		-H	-CH ₃	-
474		-H	-CH ₃	-
475		-H	-CH ₃	2HCl
498		-CH ₃	-C ₂ H ₅	HCl
499		-CH ₃	-C ₂ H ₅	2HCl
500		-CH ₃	-C ₂ H ₅	2HCl

【0451】

【表36】



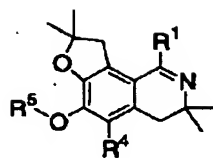
合成例	R ¹	R ²	R ³	Y	n	付加物
476		-CH ₃	-CH ₃	-CH ₂ -	1	-
494		-CH ₃	-CH ₃	-CH(OH)-	0	-
495		-CH ₃	-CH ₃	-C(=O)-	0	-
496		-CH ₃	-CH ₃	-CH(OH)-	0	-
497		-CH ₃	-CH ₃	-C(=O)-	0	-
565		-H	-H	-C(CH ₃) ₂ -	0	-
566		-H	-H	-C(CH ₃) ₂ -	0	-
567		-H	-H	-C(CH ₃) ₂ -	0	-
568	-CO ₂ C ₂ H ₅	-H	-H	-C(CH ₃) ₂ -	0	-
569		-H	-H	-C(CH ₃) ₂ -	0	-
570		-H	-H	-C(CH ₃) ₂ -	0	-
571		-H	-H	-C(CH ₃) ₂ -	0	-



合成例	R ¹	R ⁴	R ⁵	付加物
551		-CH ₂ CN	-CH ₃	HCl
552		-CH ₂ CN	-CH ₃	HCl
553		-CH ₂ CN	-CH ₃	HCl
554		-CH ₂ CN	-CH ₃	-
555		-CH ₂ CN	-CH ₃	-
556		-CH ₂ CN	-CH ₃	HCl
557		-CH ₂ CN	-CH ₃	HCl

【0453】

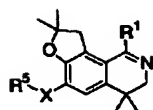
【表38】



合成例	R ¹	R ⁴	R ⁵	付加物
558		-CH ₂ CN	-CH ₃	-
559		-CH ₂ CN	-CH ₃	-
560		-CHO	-CH ₃	HCl
561		-CN	-CH ₃	-
562		-CH ₂ CN	-C ₂ H ₅	HCl
588		-OCH ₃	-CH ₃	HCl

【0454】

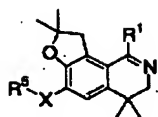
【表39】



合成例	R ¹	R ⁵	X	付加物
572		-H	O	-
573		-H	O	-
574		-SO ₂ CF ₃	O	-
575		-H	結合基	-
576		-H	結合基	2HBr
577		-H	結合基	-
578		-H	結合基	-

【0455】

【表40】



合成例	R ¹	R ⁵	X	付加物
579		-H	結合手	-
580		-H	O	-
581		-SO ₂ CF ₃	O	-
582		-H	結合手	-
583		-H	結合手	-
584		-H	結合手	-
585		-H	結合手	-

【0456】参考例140

安息香酸 5-プロモ-2-メトキシフェニルエステル
グアヤコール (125 g、1.01 mol) のピリジン (300 mL)
溶液を氷冷し、窒素雰囲気下ベンゾイルクロリド (149
g、1.06 mol) を 30 分間かけて滴下、同温で 30 分間
攪拌した。反応混合物に水を加え、酢酸エチルで 2 回抽
出した。合わせた有機層を水、2 M 塩酸 (2 回)、およ
び水で洗浄、濃縮して安息香酸 2-メトキシフェニルエ
ステル (234 g) を固体として得た。この 229 g を酢酸
(700 mL) に溶解し、15 °C で臭素 (176 g、1.10 mol)
の酢酸 (100 mL) 溶液を 1.5 時間かけて滴下、室温で
15.5 時間攪拌した。得られた混合物に臭素 (24 g、0.1
5 mol) の酢酸 (10 mL) 溶液を 10 分かけて滴下し、室
温で 8 時間攪拌した。反応混合物を減圧濃縮し、酢酸
エチルと飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、有機層
を分離、水層を酢酸エチルで抽出した。合わせた有機層
を水洗、減圧濃縮して表題化合物 (267 g、収率 89%)
を得た。

融点 74-78 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 3.80 (3H, s), 6.89 (1H, d, J = 8.
6 Hz), 7.32 (1H, d, J = 2.5 Hz), 7.36 (1H, dd, J =

30 8.6, 2.5 Hz), 7.46-7.56 (2H, m), 7.59-7.70 (1H, m),
8.16-8.24 (2H, m)。

参考例 141

5-プロモ-2-メトキシフェノール

安息香酸 5-プロモ-2-メトキシフェニルエステル (261
g、0.850 mol) のテトラヒドロフラン (100 mL)/メタノ
ール (100 mL) 懸濁液に 5 M 水酸化ナトリウム水溶液
(350 mL、1.75 mol) を加え、室温で 1 時間攪拌した。
反応混合物を 2 M 塩酸 (500 mL、1.00 mol) で酸性に
し、炭酸水素ナトリウム (10 g、0.12 mol) を加えて中
和した。得られた混合物を酢酸エチル/ヘキサン (1:1)
混合液で 2 回抽出した。合わせた有機層を水洗、減圧濃
縮した。残渣をヘキサンから再結晶して表題化合物 (14
8 g、収率 86%) を得た。

融点 66-67 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 3.88 (3H, s), 5.65 (1H, br s), 6.
71 (1H, d, J = 8.5 Hz), 6.97 (1H, dd, J = 8.5, 2.5
Hz), 7.07 (1H, d, J = 2.5 Hz)。

【0457】参考例142

2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-4-ベンゾフラ
ンカルボキサリデヒド

50

5-ブromo-2-メトキシフェノール (102 g, 0.502 mol) の N,N-ジメチルホルムアミド (400 mL) 溶液に 3-クロロ-2-メチル-1-プロペン (55 mL, 0.56 mol) および炭酸カリウム (83.3 g, 0.603 mol) を加え、窒素雰囲気下 75 °C で 2.5 時間攪拌した。反応混合物に水を加え、ヘキサン/酢酸エチル (1:1) 混合液で 2 回抽出した。合わせた有機層を水で 2 回洗浄、活性炭処理、ろ過、減圧濃縮して 4-ブromo-1-メトキシ-2-[(2-メチル-2-プロペニル)オキシ]ベンゼン (130 g) を油状物として得た。これを N,N-ジエチルアニリン (100 mL) に溶解し、窒素雰囲気下 200 °C で 5.5 時間攪拌した。反応混合物をジイソプロピルエーテルに溶解し、1 M 塩酸 (2 回) および水で洗浄、活性炭処理、ろ過、減圧濃縮して 3-ブromo-6-メトキシ-2-(2-メチル-2-プロペニル)フェノール (129 g) を油状物として得た。これをエタノール (200 mL) に溶解し、濃塩酸 (50 mL) のエタノール (50 mL) 溶液を加え、2.5 時間加熱還流した。反応混合物を減圧濃縮し、ヘキサンを加え、水層を分離した。有機層を水、1 M 水酸化ナトリウム水溶液 (3 回)、水で洗浄、活性炭処理、ろ過、減圧濃縮して 4-ブromo-2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチルベンゾフラン (113 g) を油状物として得た。この 1.37 g をテトラヒドロフラン (15 mL) に溶解し、窒素雰囲気下 -78 °C に冷却、1.6 M n-ブチルリチウム/ヘキサン溶液 (4.0 mL, 6.4 mmol) を滴下し、同温で 10 分間攪拌した。得られた混合物に N,N-ジメチルホルムアミド (1.2 mL, 15 mmol) を滴下し、-78 °C で 30 分間、室温で 30 分間攪拌した。反応混合物を飽和塩化アンモニウム水溶液に注ぎ、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸マグネシウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 20:1) に供し、酢酸エチル-ヘキサンから再結晶して表題化合物 (741 mg, 収率 59%) を得た。

融点 89-90 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.54 (6H, s), 3.39 (2H, s), 3.96 (3H, s), 6.88 (1H, d, J = 8.4 Hz), 7.31 (1H, d, J = 8.4 Hz), 9.90 (1H, s)。

参考例 143

2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-4-(2-メチル-1-プロペニル)ベンゾフラン

2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-4-ベンゾフランカルボキサルデヒド (10.4 g, 50.4 mmol) およびイソプロピルトリフェニルホスホニウムヨージド (23.8 g, 55.1 mmol) のテトラヒドロフラン (100 mL) 懸濁液に水素化ナトリウム (66% 油分散物) (1.99 g, 55 mmol) を加え、1 時間加熱還流した。反応混合物を飽和塩化アンモニウム水溶液に注ぎ、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸マグネシウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮し

た。残渣にヘキサン/酢酸エチル (4:1) 混合物を加え、不溶物をろ過、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 100:1 の後 10:1) に供し、表題化合物 (11.0 g, 収率 94%) を得た。

油状物。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.51 (6H, s), 1.81 (3H, d, J = 1.1 Hz), 1.87 (3H, d, J = 1.1 Hz), 2.94 (2H, s), 3.86 (3H, s), 6.03 (1H, s), 6.70 (2H, s)。

【0458】合成例 589

1,2,8,9-テトラヒドロ-4-メトキシ-2,2,8,8-テトラメチル-6-フェニルフロ[3,2-f]イソキノリン

2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-4-(2-メチル-1-プロペニル)ベンゾフラン (2.09 g, 9.00 mmol) およびベンズニトリル (1.21 g, 11.7 mmol) の酢酸 (3 mL) 溶液に 10 °C で濃硫酸 (1.2 mL) を滴下し、同温で 30 分間攪拌した。反応混合物を氷水に注ぎ、ジイソプロピルエーテルで洗浄した。水層を 5 M 水酸化ナトリウム水溶液で塩基性にし、テトラヒドロフラン/ジイソプロピルエーテル (1:1) 混合液で 2 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を酢酸エチル-ジイソプロピルエーテルから再結晶して表題化合物 (1.37 g, 収率 45%) を得た。

融点 128-129 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.28 (6H, s), 1.57 (6H, s), 2.59 (2H, s), 3.01 (2H, s), 3.69 (3H, s), 6.62 (1H, s), 7.36-7.45 (3H, m), 7.49-7.60 (2H, m)。

合成例 590

1,2,8,9-テトラヒドロ-2,2,8,8-テトラメチル-6-フェニルフロ[3,2-f]イソキノリン-4-オール

1,2,8,9-テトラヒドロ-4-メトキシ-2,2,8,8-テトラメチル-6-フェニルフロ[3,2-f]イソキノリン (3.70 g, 11.0 mmol) の 48% 臭化水素酸 (25 mL) 溶液を 13 時間加熱還流した。冷後、反応混合物を濃アンモニア水で中和し、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。析出した結晶をジイソプロピルエーテルで洗浄し、エタノール-酢酸エチルから再結晶して表題化合物 (2.17 g, 収率 61%) を得た。

軟化点 187 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.25 (6H, s), 1.54 (6H, s), 2.53 (2H, s), 3.00 (2H, s), 6.56 (1H, s), 7.30-7.33 (3H, m), 7.43-7.50 (2H, m)。

【0459】合成例 591

4-エトキシ-1,2,8,9-テトラヒドロ-2,2,8,8-テトラメチル-6-フェニルフロ[3,2-f]イソキノリン

1,2,8,9-テトラヒドロ-2,2,8,8-テトラメチル-6-フェニルフロ[3,2-f]イソキノリン-4-オール (638 mg, 1.99 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (6 mL) 溶液にヨ-

ドエタン (0.19 mL, 2.4 mmol) および水素化ナトリウム (66% 油分散物) (87 mg, 2.4 mmol) を加え、室温で 1 時間攪拌した。反応混合物に氷水を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸マグネシウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 20:1 の後 10:1) に供し、ヘキサンから結晶化させて表題化合物 (4.65 mg、収率 67%) を得た。

融点 120-122 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.29 (6H, s), 1.32 (3H, t, J = 7.0 Hz), 1.57 (6H, s), 2.60 (2H, s), 3.00 (2H, s), 3.93 (2H, q, J = 7.0 Hz), 6.63 (1H, s), 7.39-7.42 (3H, m), 7.52-7.57 (2H, m)。

合成例 592

3-(1, 2, 8, 9-テトラヒドロ-4-メトキシ-2, 2, 8, 8-テトラメチルフロ[3, 2-f]イソキノリン-6-イル)ベンゼンアミン
N-(3-シアノフェニル)-2, 2, 2-トリフルオロアセトアミド (5.89 g, 27.5 mmol) のトルエン (25 mL) および酢酸 (12 mL) 懸濁液を氷冷し、濃硫酸 (3.0 mL)、次いで 2, 3-ジヒドロ-7-メトキシ-2, 2-ジメチル-4-(2-メチル-1-プロペニル)ベンゾフラン (5.81 g, 25.0 mmol) のトルエン (25 mL) 溶液を滴下、80 °C で 1 時間攪拌した。得られた混合物に同温でエタノール (20 mL) を滴下し、1 時間攪拌した。反応混合物を氷冷し、水を加え、濃アンモニア水で中和、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水で 2 回洗浄、減圧濃縮した。残渣をエタノール (30 mL) に懸濁し、2 M 水酸化ナトリウム水溶液 (30 mL, 60 mmol) を加え、1 時間加熱還流した。不溶物をろ過し、ろ液を減圧濃縮した。残渣を酢酸エチルに溶解し、水で 2 回洗浄、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 3:1 の後 1:1) に供し、酢酸エチル-ヘキサンから結晶化させて表題化合物 (4.47 g、収率 51%) を得た。

融点 163-165 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.26 (6H, s), 1.56 (6H, s), 2.58 (2H, s), 3.00 (2H, s), 3.20-4.00 (2H, br), 3.71 (3H, s), 6.68-6.76 (1H, m), 6.69 (1H, s), 6.84-6.92 (2H, m), 7.17 (1H, t, J = 7.7 Hz)。

【0460】合成例 593

N-[3-(1, 2, 8, 9-テトラヒドロ-4-メトキシ-2, 2, 8, 8-テトラメチルフロ[3, 2-f]イソキノリン-6-イル)フェニル]-4-ピリジンカルボキサミド

3-(1, 2, 8, 9-テトラヒドロ-4-メトキシ-2, 2, 8, 8-テトラメチルフロ[3, 2-f]イソキノリン-6-イル)ベンゼンアミン (701 mg, 2.00 mmol) および 4-ジメチルアミノピリジン (611 mg, 5.00 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (10 mL) 溶液にイソニコチノイルクロリド塩酸塩 (7

12 mg, 4.00 mmol) を加え、室温で 20 分間攪拌した。反応混合物に水および飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水で 2 回洗浄、減圧濃縮した。残渣をエタノール-ジエチルエーテルから再結晶して表題化合物 (800 mg、収率 88%) を得た。

融点 247-249 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.21 (6H, s), 1.57 (6H, s), 2.51 (2H, s), 3.00 (2H, s), 3.73 (3H, s), 6.68 (1H, s), 7.25-7.33 (1H, m), 7.42 (1H, t, J = 7.9 Hz), 7.66 (2H, d, J = 6.2 Hz), 7.74 (1H, t, J = 1.7 Hz), 7.90-7.98 (1H, m), 8.73 (1H, br s), 8.76 (2H, d, J = 6.2 Hz)。

合成例 594

N-[3-(1, 2, 8, 9-テトラヒドロ-4-メトキシ-2, 2, 8, 8-テトラメチルフロ[3, 2-f]イソキノリン-6-イル)フェニル]メタンスルホンアミド

3-(1, 2, 8, 9-テトラヒドロ-4-メトキシ-2, 2, 8, 8-テトラメチルフロ[3, 2-f]イソキノリン-6-イル)ベンゼンアミン (2.11 g, 6.02 mmol) のピリジン (15 mL) 溶液に、氷冷下メタンスルホンクロリド (0.51 mL, 6.6 mmol) を滴下し、同温で 20 分間攪拌した。反応混合物に水および飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水で 2 回洗浄、減圧濃縮した。残渣をトルエンに溶解し、減圧濃縮した後、酢酸エチル-ジエチルエーテルから結晶化させて表題化合物 (2.28 g、収率 88%) を得た。

融点 211-215 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.34 (6H, s), 1.58 (6H, s), 2.60-2.81 (5H, m), 3.02 (2H, s), 3.73 (3H, s), 6.66 (1H, s), 7.21-7.44 (3H, m), 7.53 (1H, br s)。

【0461】合成例 595

3-[(メチルスルホニル)[3-(1, 2, 8, 9-テトラヒドロ-4-メトキシ-2, 2, 8, 8-テトラメチルフロ[3, 2-f]イソキノリン-6-イル)フェニル]アミノ]プロパンスルホンアミド

3-クロロ-1-プロパンスルホンアミド (788 mg, 5.00 mmol) のトルエン (10 mL) 懸濁液に N,N-ジメチルホルムアミドジメチルアセタール (0.73 mL, 5.5 mmol) を加え、60 °C で 30 分間攪拌した。反応混合物を減圧濃縮して 3-クロロ-N-[(ジメチルアミノ)メチレン]-1-プロパンスルホンアミドを含む混合物 (1.15 g) を得た。この混合物 600 mg、N-[3-(1, 2, 8, 9-テトラヒドロ-4-メトキシ-2, 2, 8, 8-テトラメチルフロ[3, 2-f]イソキノリン-6-イル)フェニル]メタンスルホンアミド (806 mg, 1.88 mmol) およびヨウ化ナトリウム (282 mg, 1.88 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (4 mL) 懸濁液に水素化ナトリウム (66% 油分散物) (89 mg, 2.4 mmol) を加え、室温で 10 分間、80 °C で 4 時間攪拌した。反応混合物を飽和塩化アンモニウム水溶液に注ぎ、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水で 2 回洗浄、減圧

濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー（ヘキサン/酢酸エチル 1:1 の後酢酸エチル）に供し、N-[(ジメチルアミノ)メチレン]-3-[(メチルスルホニル)[3-(1,2,8,9-テトラヒドロ-4-メトキシ-2,2,8,8-テトラメチルフロ[3,2-f]イソキノリン-6-イル)フェニル]アミノ]プロパンスルホンアミド (1.05 g) を非晶質として得た。これを 2 M 塩酸に溶解し、40 分間加熱還流した。反応混合物を飽和炭酸水素ナトリウム水溶液で中和、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を酢酸エチル-ヘキサンから結晶化させて表題化合物 (820 mg、収率 79%) を得た。

融点 165-167 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.29 (6H, s), 1.57 (6H, s), 1.89-2.05 (2H, m), 2.59 (2H, s), 2.96 (3H, s), 3.01 (2H, s), 3.21 (2H, t, J = 7.3 Hz), 3.73 (3H, s), 3.91 (2H, t, J = 6.6 Hz), 5.38 (2H, br s), 6.62 (1H, s), 7.39-7.56 (3H, m), 7.57-7.61 (1H, m)。

合成例 596

6-(3-ブロモフェニル)-1,2,8,9-テトラヒドロ-4-メトキシ-2,2,8,8-テトラメチルフロ[3,2-f]イソキノリン 3-ブロモベンズニトリル (4.47 g、24.6 mmol) および 2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-4-(2-メチル-1-プロペニル)ベンゾフラン (5.70 g、24.5 mmol) のトルエン (20 mL) 溶液を 85 °C に加熱し、濃硫酸 (3.0 mL、56 mmol) の酢酸 (10 mL) 溶液を滴下、同温で 1 時間攪拌した。反応混合物に水を加え、ジイソプロピルエーテルで洗浄した。有機層を 2 M 塩酸で抽出した。合わせた水層を氷冷し、濃アンモニア水で中和、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水で 2 回洗浄、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー（ヘキサン/酢酸エチル 10:1）に供し、ヘキサンから結晶化させて表題化合物 (2.88 g、収率 28%) を得た。

融点 128-130 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.27 (6H, s), 1.57 (6H, s), 2.58 (2H, s), 3.01 (2H, s), 3.71 (3H, s), 6.56 (1H, s), 7.27 (1H, t, J = 7.8 Hz), 7.46 (1H, dt, J = 7.8, 1.3 Hz), 7.54 (1H, ddd, J = 7.8, 2.0, 1.1 Hz), 7.72 (1H, t, J = 1.7 Hz)。

【0462】合成例 597

1,2,8,9-テトラヒドロ-4-メトキシ-2,2,8,8-テトラメチル-6-[3-(4-ピリジニル)フェニル]フロ[3,2-f]イソキノリン 6-(3-ブロモフェニル)-1,2,8,9-テトラヒドロ-4-メトキシ-2,2,8,8-テトラメチルフロ[3,2-f]イソキノリン (3.34 g、8.06 mmol) および 4-ピリジニルボロン酸 (1.49 g、12.1 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (20 mL) 懸濁液に炭酸ナトリウム (1.41 g、13.3 mmol) の水

(10 mL) 溶液およびテトラキス(トリフェニルホスフィン)パラジウム(0) (466 mg, 0.403 mmol) を加え、窒素雰囲気下、120 °C で 6 時間攪拌した。反応混合物に水を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水で 2 回洗浄、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー（ヘキサン/酢酸エチル 10:1 の後 2:1）に供し、酢酸エチル-ヘキサンから結晶化させて表題化合物 (1.95 g、収率 59%) を得た。融点 125-127 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.30 (6H, s), 1.58 (6H, s), 2.62 (2H, s), 3.03 (2H, s), 3.69 (3H, s), 6.62 (1H, s), 7.48-7.57 (1H, m), 7.55 (2H, d, J = 6.2 Hz), 7.61 (1H, dt, J = 7.6, 1.7 Hz), 7.69 (1H, dt, J = 7.4, 1.7 Hz), 7.83 (1H, t, J = 1.7 Hz), 8.66 (2H, d, J = 6.2 Hz)。

合成例 598

1,2,8,9-テトラヒドロ-2,2,8,8-テトラメチル-6-[3-(4-ピリジニル)フェニル]フロ[3,2-f]イソキノリン-4-オール

1,2,8,9-テトラヒドロ-4-メトキシ-2,2,8,8-テトラメチル-6-[3-(4-ピリジニル)フェニル]フロ[3,2-f]イソキノリン (1.11 g、2.69 mmol) に 48% 臭化水素酸 (13 mL) を加え、105 °C で 17 時間攪拌した。反応混合物を氷冷し、濃アンモニア水で中和、酢酸エチル-テトラヒドロフラン混合液で 2 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、活性炭処理、ろ過、減圧濃縮した。残渣をエタノール-ジエチルエーテルから再結晶して表題化合物 (766 mg、収率 71%) を得た。

融点 221-223 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.29 (6H, s), 1.56 (6H, s), 2.59 (2H, s), 3.02 (2H, s), 6.60 (1H, s), 7.35 (2H, d, J = 6.2 Hz), 7.45-7.54 (1H, m), 7.57-7.68 (3H, m), 8.44 (2H, d, J = 6.2 Hz)。

【0463】合成例 599

1,2,8,9-テトラヒドロ-2,2,8,8-テトラメチル-4-[2-(2-ピリジニル)エトキシ]-6-[3-(4-ピリジニル)フェニル]フロ[3,2-f]イソキノリン

1,2,8,9-テトラヒドロ-2,2,8,8-テトラメチル-6-[3-(4-ピリジニル)フェニル]フロ[3,2-f]イソキノリン-4-オール (598 mg、1.50 mmol)、2-(2-ヒドロキシエチル)ピリジン (277 mg、2.25 mmol) およびトリフェニルホスフィン (787 mg、3.00 mmol) のテトラヒドロフラン (6 mL) 溶液に氷冷下、アゾジカルボン酸ジイソプロピル (0.59 mL、3.0 mmol) を滴下、室温で 30 分間、60 °C で 1 時間攪拌した。得られた混合物に 2-(2-ヒドロキシエチル)ピリジン (0.17 mL、1.5 mmol)、トリフェニルホスフィン (394 mg、1.50 mmol) およびアゾジカルボン酸ジイソプロピル (0.30 mL、1.5 mmol) を追加し、60 °C で 1.5 時間攪拌した。反応混合物を氷冷し、1 M

塩酸で酸性にし、酢酸エチルで2回洗浄した。水層を濃アンモニア水で中和、酢酸エチルで2回抽出した。合わせた有機層を1 M 水酸化ナトリウム水溶液(2回)および水で洗浄、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー(ヘキサン/酢酸エチル 10:1、5:1、3:1 の後 1:1)に供し、ジエチルエーテル-ヘキサンから再結晶して表題化合物(348mg、収率 46%)を得た。

融点 110-113 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.29 (6H, s), 1.56 (6H, s), 2.60 (2H, s), 3.00 (2H, s), 3.17 (2H, t, J = 7.0 Hz), 4.28 (2H, t, J = 7.0 Hz), 6.66 (1H, s), 7.06 (1H, dd, J = 7.6, 4.9, 1.2 Hz), 7.11-7.17 (1H, m), 7.45-7.61 (5H, m), 7.67 (1H, dt, J = 7.0, 1.9 Hz), 7.78-7.81 (1H, m), 8.45 (1H, ddd, J = 5.0, 1.9, 0.9 Hz), 8.63 (2H, d, J = 6.2 Hz)。

合成例 600

N-[3'-(1,2,8,9-テトラヒドロ-4-メトキシ-2,2,8,8-テトラメチルフロ[3,2-f]イソキノリン-6-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-イル]アセトアミド

6-(3-ブロモフェニル)-1,2,8,9-テトラヒドロ-4-メトキシ-2,2,8,8-テトラメチルフロ[3,2-f]イソキノリン (207 mg、0.500 mmol)、4'-(4,4,5,5-テトラメチル-1,3,2-ジオキサボロラン-2-イル)アセトアニリド (144 mg、0.551 mmol)、炭酸ナトリウム (133 mg、1.25 mmol) およびテトラキス(トリフェニルホスフィン)パラジウム(0) (12 mg、0.010 mmol) の 1,2-ジメトキシエタン (1.5 mL)、エタノール (0.8 mL) および水 (0.8 mL) 懸濁液を、窒素雰囲気下 85 °C で 16 時間攪拌した。反応混合物に水を加え、酢酸エチルで2回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム-塩基性シリカゲルを通して乾燥(酢酸エチルで溶出)、減圧濃縮した。残渣を酢酸エチル-ヘキサンから結晶化させて表題化合物(218 mg、収率 93%)を得た。

融点 231-234 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.31 (6H, s), 1.58 (6H, s), 2.13 (3H, s), 2.63 (2H, s), 3.03 (2H, s), 3.69 (3H, s), 6.67 (1H, s), 7.40-7.61 (7H, m), 7.68-7.76 (2H, m)。

【0464】合成例 601

6-(3-ブロモフェニル)-1,2,8,9-テトラヒドロ-2,2,8,8-テトラメチルフロ[3,2-f]イソキノリン-4-オール

6-(3-ブロモフェニル)-1,2,8,9-テトラヒドロ-4-メトキシ-2,2,8,8-テトラメチルフロ[3,2-f]イソキノリン (2.08 g、5.02 mmol) に 48% 臭化水素酸 (30 mL) を加え、105 °C で 14.5 時間攪拌した。反応混合物を氷冷し、濃アンモニア水で中和、クロロホルムで2回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残

渣をエタノールから再結晶して表題化合物 (1.09 g、収率 54%) を得た。

融点 236-239 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.24 (6H, s), 1.54 (6H, s), 2.54 (2H, s), 3.00 (2H, s), 5.60-5.80 (1H, br), 6.50 (1H, s), 7.19 (1H, t, J = 7.8 Hz), 7.33-7.38 (1H, m), 7.43-7.48 (1H, m), 7.61 (1H, t, J = 1.7 Hz)。

合成例 602

N-[3'-(1,2,8,9-テトラヒドロ-4-ヒドロキシ-2,2,8,8-テトラメチルフロ[3,2-f]イソキノリン-6-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-イル]アセトアミド

6-(3-ブロモフェニル)-1,2,8,9-テトラヒドロ-2,2,8,8-テトラメチルフロ[3,2-f]イソキノリン-4-オール (1.00 g、2.50 mmol)、4'-(4,4,5,5-テトラメチル-1,3,2-ジオキサボロラン-2-イル)アセトアニリド (718 mg、2.75 mmol)、炭酸ナトリウム (662 mg、6.25 mmol) およびテトラキス(トリフェニルホスフィン)パラジウム(0) (58 mg、0.050 mmol) の 1,2-ジメトキシエタン (12 mL)、エタノール (6 mL) および水 (6 mL) 懸濁液を、窒素雰囲気下 85 °C で 21 時間攪拌した。反応混合物に水を加え、酢酸エチルで2回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム-塩基性シリカゲルを通して乾燥(酢酸エチルで溶出)、減圧濃縮した。残渣を酢酸エチルから結晶化させて表題化合物 (1.12 g、収率 99%) を得た。

融点 272-275 °C。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.17 (6H, s), 1.46 (6H, s), 2.06 (3H, s), 2.52 (2H, s), 2.99 (2H, s), 6.58 (1H, s), 7.37-7.44 (1H, m), 7.51 (1H, t, J = 7.7 Hz), 7.59-7.72 (6H, m), 9.03 (1H, s), 10.04 (1H, s)。

【0465】合成例 603

トリフルオロメタンスルホン酸 6-[4'-(アセチルアミノ)[1,1'-ビフェニル]-3-イル]-1,2,8,9-テトラヒドロ-2,2,8,8-テトラメチルフロ[3,2-f]イソキノリン-4-イルエステル

N-[3'-(1,2,8,9-テトラヒドロ-4-ヒドロキシ-2,2,8,8-テトラメチルフロ[3,2-f]イソキノリン-6-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-イル]アセトアミド (546 mg、1.20 mmol) のピリジン (6 mL) 溶液に氷冷下トリフルオロメタンスルホン酸無水物 (0.51 mL、3.0 mmol) を滴下し、同温で 15 分間攪拌した。反応混合物に水および飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、酢酸エチルで2回抽出した。合わせた有機層を水で2回洗浄、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー(ヘキサン/酢酸エチル 5:1、2:1 の後 1:1)に供し、酢酸エチル-ヘキサンから結晶化させて表題化合物 (595 mg、収率 85%) を得た。

融点 233-235 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.31 (6H, s), 1.58 (6H, s), 2.18 (3H, s), 2.65 (2H, s), 3.07 (2H, s), 7.02 (1H, s),

7.32 (1H, br s), 7.34-7.51 (2H, m), 7.57 (4H, s), 7.60-7.65 (1H, m), 7.69-7.71 (1H, m)。

合成例 604

N-[3'-(1,2,8,9-テトラヒドロ-2,2,8,8-テトラメチルフロ[3,2-f]イソキノリン-6-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-イル]アセトアミド

トリフルオロメタンスルホン酸 6-[4'-(アセチルアミノ)[1,1'-ビフェニル]-3-イル]-1,2,8,9-テトラヒドロ-2,2,8,8-テトラメチルフロ[3,2-f]イソキノリン-4-イルエステル (470 mg, 0.801 mmol)、トリエチルアミン (0.34 mL, 2.4 mmol)、酢酸パラジウム (II) (4.5 mg, 0.020 mmol) およびトリフェニルホスフィン (10.5 mg, 0.0400 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (1.5 mL) 溶液にギ酸 (60 μ L, 1.6 mmol) を加え、窒素雰囲気下 70 $^{\circ}$ C で 4.5 時間攪拌した。反応混合物に水および飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、酢酸エチルで 2 回抽

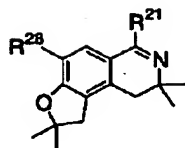
出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム-塩基性シリカゲルを通して乾燥 (酢酸エチルで溶出)、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 1:1 の後 1:2) に供し、酢酸エチル-ヘキサンから結晶化させて表題化合物 (340 mg, 収率 97%) を得た。

融点 140-152 $^{\circ}$ C。

^1H NMR (CDCl_3) δ 1.31 (6H, s), 1.53 (6H, s), 2.17 (3H, s), 2.67 (2H, s), 2.99 (2H, s), 6.53 (1H, d, J = 8.1 Hz), 7.04 (1H, d, J = 8.1 Hz), 7.40-7.49 (3H, m), 7.54 (4H, s), 7.55-7.62 (1H, m), 7.66-7.69 (1H, m)。

【0466】上記の合成例 589~604 で製造された化合物を以下の表 41 に示す。

【表 41】



合成例	R ²¹	R ²⁸	合成例	R ²¹	R ²⁸
589		CH ₃ O-	597		CH ₃ O-
590		HO-	598		HO-
591		C ₂ H ₅ O-	599		
592		CH ₃ O-	600		CH ₃ O-
593		CH ₃ O-	601		HO-
594		CH ₃ O-	602		HO-
595		CH ₃ O-	603		CF ₃ SO ₃ ⁻
596		CH ₃ O-	604		H-

【0467】

実施例 1

(1) 合成例 1 の化合物

10.0mg

(2) 乳糖

60.0mg

(3) コーンスターチ

35.0mg

(4) ゼラチン

3.0mg

(5) ステアリン酸マグネシウム

2.0mg

合成例 1 で得られた化合物 10.0mg と乳糖 60.0mg およびコーンスターチ 35.0mg の混合物を 10% ゼラチン水溶液 0.03ml (ゼラチンとして 3.0mg) を用い、1mm メッシュの篩を通して顆粒化した後、40℃ で乾燥し再び篩過した。かくして得られた顆粒をステアリン酸*

* マグネシウム 2.0mg と混合し、圧縮した。得られた中心錠を、蔗糖、二酸化チタン、タルクおよびアラビアゴムの水懸液による糖衣でコーティングした。コーティングが施された錠剤をミツロウで艶出してコート錠を得た。

実施例 2

(1) 合成例 1 の化合物

10.0mg

(2) 乳糖

70.0mg

513

514

(3) コーンスターチ

50.0mg

(4) 可溶性デンプン

7.0mg

(5) ステアリン酸マグネシウム

3.0mg

合成例1で得られた化合物10.0mgとステアリン酸マグネシウム3.0mgを可溶性デンプンの水溶液0.07ml(可溶性デンプンとして7.0mg)で顆粒化した後、乾*

* 乾燥し、乳糖7.0mgおよびコーンスターチ50.0mgと混合した。混合物を圧縮して錠剤を得た。

実施例3

(1) 合成例11の化合物

5.0mg

(2) 食塩

20.0mg

(3) 蒸留水

全量2mlとする

合成例11で得られた化合物5.0mgおよび食塩20.0mgを蒸留水に溶解させ、水を加えて全量2.0mlとした。溶液をろ過し、無菌条件下に2mlのアンプルに充填した。アンプルを滅菌した後、密封し注射用溶液を得た。

※ 直径1.5mmのパンチングスクリーンで解砕して整粒末とした。この整粒末3927gをとり、これにクロスカルメロースナトリウム210gとステアリン酸マグネシウム63gを加え、タンブラー混合機で混合して打錠用顆粒とする。この顆粒を打錠機で直径6.5mmの枠を用いて重量300mgで打錠し裸錠とした。得られた裸錠はドリアコーターコーティング機中でヒドロキシプロピルメチルセルロース2910(TC-5)とマクロゴール6000を溶解、酸化チタン、三二酸化鉄を分散した液を噴霧し、1錠当たり100mgを含有する下記処方フィルム錠、約13500錠を得た。

【0468】実施例4

流動層造粒乾燥機(FD-5S, (株)パウレック)中で合成例1で得られた化合物1500g、乳糖2025gおよびトウモロコシデンプン556.5gを均一に混合後、機内でヒドロキシプロピルセルロース126gを20溶解した水溶液を噴霧して造粒し、ついで流動層造粒乾燥機中で乾燥した。得られた造粒物をパワーミルを用い※

錠剤処方:

組 成	配合量 (mg)
(1) 合成例1の化合物	100.0
(2) 乳糖	135.0
(3) トウモロコシデンプン	37.1
(4) クロスカルメロースナトリウム	15.0
(5) ヒドロキシプロピルセルロース	8.4
(6) ステアリン酸マグネシウム	4.5
合計 (裸錠)	300.0

フィルム錠処方:

(1) 裸錠	300.0
(フィルム成分)	
(2) ヒドロキシプロピルメチルセルロース2910	7.485
(3) マクロゴール6000	1.5
(4) 酸化チタン	1.0
(5) 三二酸化鉄	0.015
合計	310.0

実施例5

実施例4に記載の方法に準じて合成例1で得られた化合★

40★物を1錠当たり、25mg含有する下記処方のフィルム錠約13500錠を得た。

錠剤処方:

組 成	配合量 (mg)
(1) 合成例1の化合物	25.0
(2) 乳糖	210.0
(3) トウモロコシデンプン	37.1
(4) クロスカルメロースナトリウム	15.0
(5) ヒドロキシプロピルセルロース	8.4
(6) ステアリン酸マグネシウム	4.5
合計 (裸錠)	300.0

515

516

フィルム錠処方：

(1)裸錠	300.0
(フィルム成分)	
(2)ヒドロキシプロピルメチルセルロース 2910	7.485
(3)マクロゴール 6000	1.5
(4)酸化チタン	1.0
(5)三二酸化鉄	0.015
合計	310.0

【0469】実施例 6

*物を1錠当たり、5mg 含有する下記処方のフィルム

実施例 4 に記載の方法に準じて合成例 1 で得られた化合*10 錠約 13500 錠を得た。

錠剤処方：

組 成	配合量 (mg)
(1)合成例 1 の化合物	5.0
(2)乳糖	230.0
(3)トウモロコシデンプン	37.1
(4)クロスカルメロースナトリウム	15.0
(5)ヒドロキシプロピルセルロース	8.4
(6)ステアリン酸マグネシウム	4.5
合計 (裸錠)	300.0

フィルム錠処方：

(1)裸錠	300.0
(フィルム成分)	
(2)ヒドロキシプロピルメチルセルロース 2910	7.485
(3)マクロゴール 6000	1.5
(4)酸化チタン	1.0
(5)三二酸化鉄	0.015
合計	310.0

実施例 7

※物を1錠当たり、1mg 含有する下記処方のフィルム

実施例 4 に記載の方法に準じて合成例 1 で得られた化合※ 錠約 13500 錠を得た。

錠剤処方：

組 成	配合量 (mg)
(1)合成例 1 の化合物	1.0
(2)乳糖	234.0
(3)トウモロコシデンプン	37.1
(4)クロスカルメロースナトリウム	15.0
(5)ヒドロキシプロピルセルロース	8.4
(6)ステアリン酸マグネシウム	4.5
合計 (裸錠)	300.0

フィルム錠処方：

(1)裸錠	300.0
(フィルム成分)	
(2)ヒドロキシプロピルメチルセルロース 2910	7.485
(3)マクロゴール 6000	1.5
(4)酸化チタン	1.0
(5)三二酸化鉄	0.015
合計	310.0

実施例 8

白色ワセリン	40 g	セスキオレイン酸ソルビタン	5 g
セタノール	10 g	ラウロモクロゴールド	0.5 g
サラシミツロウ	5 g	パラオキシ安息香酸メチル	0.1 g
		50 パラオキシ安息香酸プロピル	0.1 g

精製水

適量

上記組成からなる局方吸水軟膏 (100 g) を予め 70 °C に加熱して、その溶液中に合成例 1 で得られた化合物 1 g をメタノール 20 ml に加熱して溶解した溶液を加えた。同温度で 10 分間加熱混合し、残存するメタノールを除き、室温まで冷却して吸水軟膏を得た。

【0470】参考例 144

2,3-ジヒドロ-2,2-ジメチル-5-(2-メチル-1-プロペニル)-7-(メチルチオ)ベンゾフラン

1.64 M ブチルリチウム/ペンタン溶液 (10.9 mL, 17.8 mmol) に -78 °C で N,N,N',N'-テトラメチルエチレンジアミン (2.7 mL, 18 mmol) のテトラヒドロフラン (3.5 mL) 溶液、7-ブロモ-2,3-ジヒドロ-2,2-ジメチル-5-(2-メチル-1-プロペニル)ベンゾフラン (1.00 g, 3.56 mmol) のテトラヒドロフラン (3.5 mL) 溶液およびジメチルジスルフィド (3.2 mL, 36 mmol) のテトラヒドロフラン (3.5 mL) 溶液を滴下した。得られた混合物を徐々に室温まで昇温させた後、15 時間攪拌した。反応混合物を飽和塩化アンモニウム水溶液に注ぎ、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸マグネシウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサンの後ヘキサン/酢酸エチル 50:1) に供し、表題化合物 (280 mg、収率 32%) を得た。

油状物。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.51 (6H, s), 1.85 (3H, d, J = 1.2 Hz), 1.87 (3H, d, J = 1.2 Hz), 2.44 (3H, s), 3.01 (2H, s), 6.17 (1H, s), 6.87 (1H, s), 6.91-6.95 (1H, m)。

参考例 145

1-(3-ブロモフェニル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-6-(メチルチオ)フロ[2,3-h]イソキノリン 2,3-ジヒドロ-2,2-ジメチル-5-(2-メチル-1-プロペニル)-7-(メチルチオ)ベンゾフラン (305 mg、1.23 mmol) および 3-ブロモベンズニトリル (224 mg、1.23 mmol) のトルエン (1 mL) および酢酸 (0.5 mL) 溶液に濃硫酸 (0.20 mL、3.8 mmol) を加え、85 °C で 1.5 時間攪拌した。反応混合物に水を加え、氷冷下、濃アンモニア水で中和、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水で 2 回洗浄、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 15:1 の後 5:1) に供して表題化合物 (276 mg、収率 52%) を得た。

非晶質。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.24 (6H, s), 1.33 (6H, s), 2.23 (2H, s), 2.50 (3H, s), 2.66-2.69 (2H, m), 6.85 (1H, s), 7.23-7.30 (1H, m), 7.33 (1H, dt, J = 7.7, 1.4 Hz), 7.53 (1H, ddd, J = 7.1, 2.1, 1.2 Hz), 7.56-7.59 (1H, m)。

参考例 146

2-ブロモ-4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼンアミン

1-(2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフラン-2-メチル-1-プロパノール (1.25 g、4.99 mmol) および 4-アミノ-3-ブロモベンズニトリル (985 g、5.00 mmol) のトルエン (4 mL) および酢酸 (2 mL) 懸濁液に濃硫酸 (0.80 mL、15 mmol) を加え、85 °C で 2 時間攪拌した。反応混合物に水を加え、酢酸エチルで洗浄した。洗浄液を 0.5 M 塩酸で抽出し、合わせた水層を氷冷下濃アンモニア水で中和、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水で 2 回洗浄、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 3:1) に供し、酢酸エチル-ヘキサンから結晶化させて表題化合物 (1.11 g、収率 52%) を得た。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.21 (6H, s), 1.31 (6H, s), 2.39 (2H, s), 2.62-2.66 (2H, m), 3.92 (3H, s), 4.19 (2H, br s), 6.59 (1H, s), 6.76 (1H, d, J = 8.1 Hz), 7.17 (1H, dd, J = 8.1, 1.8 Hz), 7.51 (1H, d, J = 1.8 Hz)。

【0471】参考例 147

1-(3-ブロモフェニル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-4,6-ジメトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン 1-(3-ブロモフェニル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン (1.45 g、3.50 mmol) および N-ブロモスクシンイミド (623 mg、3.50 mmol) の四塩化炭素 (10 mL) 懸濁液に 2,2'-アゾビス(イソブチロニトリル) (12 mg、0.073 mmol) を加え、70 °C で 2 時間攪拌した。反応混合物に飽和炭酸水素ナトリウム水溶液および酢酸エチルを加えてデカンテーション、残渣をメタノールに溶解し、合わせた有機層を室温で 30 分間攪拌した。得られた混合物の有機層を分離、水層を酢酸エチルで抽出した。合わせた有機層を水で洗浄、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 5:1 の後 3:1) に供し、表題化合物 (491 mg、収率 32%) を得た。

非晶質。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.11 (3H, s), 1.33 (3H, s), 1.38 (3H, s), 1.39 (3H, s), 2.22 (1H, d, J = 16.4 Hz), 2.30 (1H, d, J = 16.4 Hz), 3.41 (3H, s), 3.90 (1H, s), 3.97 (3H, s), 6.78 (1H, s), 7.23-7.30 (1H, m), 7.36 (1H, br d, J = 7.8 Hz), 7.53 (1H, ddd, J = 7.8, 2.0, 1.2 Hz), 7.59 (1H, br s)。

参考例 148

1-(3-ブロモフェニル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-4-オール

1-(3-ブロモフェニル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキ

シ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン (1.45 g, 3.50 mmol) および N-ブロモスクシンイミド (741 mg, 4.16 mmol) の四塩化炭素 (10 mL) 懸濁液に、2,2'-アゾビス(イソブチロニトリル) (12 mg, 0.073 mmol) を加え、70 °C で 3 時間攪拌した。反応混合物に 2 M 水酸化ナトリウム水溶液 (5 mL) を加え、室温で 16 時間攪拌した。有機層を分離、水層をジクロロメタンで抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をテトラヒドロフラン (15 mL) に溶解し、5 M 水酸化ナトリウム水溶液 (2 mL) を加え、2 時間加熱還流した。反応混合物に水を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水で洗浄、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 5:1、3:1 の後 1:1) に供し、表題化合物 (826 mg、収率 55%) を得た。

非晶質。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.25 (3H, s), 1.30 (3H, s), 1.35 (3H, s), 1.36 (3H, s), 2.26 (2H, s), 3.96 (3H, s), 4.48 (1H, d, J = 5.4 Hz), 6.96 (1H, s), 7.28 (1H, t, J = 7.7 Hz), 7.36 (1H, dt, J = 7.7, 1.4 Hz), 7.54 (1H, ddd, J = 7.7, 2.0, 1.4 Hz), 7.60 (1H, t, J = 1.7 Hz)。

参考例 149

[2-ブロモ-4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]オキシ酢酸メチルエステル
3-ブロモ-4-ヒドロキシベンズニトリル (1.98 g, 10.0 mmol) のトルエン (10 mL) および酢酸 (5 mL) 懸濁液に濃硫酸 (1.5 mL, 28 mmol) および 1-(2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフランニル)-2-メチル-1-プロパノール (2.51 g, 10.0 mmol) を加え、85 °C で 1.5 時間攪拌した。反応混合物に水を加え、ジイソプロピルエーテルで洗浄した。水層を氷冷下濃アンモニア水で中和、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (酢酸エチルの後酢酸エチル:メタノール 10:1) に供し、2-ブロモ-4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェノールを含む混合物 (2.29 g) を非晶質として得た。この 1.75 g とプロモ酢酸メチル (0.68 mL, 7.2 mL) を N,N-ジメチルホルムアミド (20 mL) に溶解し、炭酸カリウム (1.33 g, 9.62 mmol) を加え、窒素雰囲気下室温で 1.5 時間攪拌した。反応混合物に水を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水で 2 回洗浄、減圧濃縮した。残渣をクロロホルム-テトラヒドロフラン-酢酸エチルに懸濁、不溶物をろ過後、ろ液を減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 2:1) に供し、酢酸エチル-ジエチルエーテルから再結晶して表題化合物 (923 mg、収率 18%) を得た。

ル 2:1) に供し、酢酸エチル-ジエチルエーテルから再結晶して表題化合物 (923 mg、収率 18%) を得た。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.23 (6H, s), 1.35 (6H, s), 2.28 (2H, s), 2.67 (2H, s), 3.81 (3H, s), 3.92 (3H, s), 4.75 (2H, s), 6.61 (1H, s), 6.82 (1H, d, J = 8.5 Hz), 7.32 (1H, dd, J = 8.5, 1.9 Hz), 7.64 (1H, d, J = 1.9 Hz)。

【0472】参考例 150

1-(2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-5-ベンゾフランニル)-2-メチル-1-プロパノール

0.75 M イソプロピルマグネシウムブロミド/テトラヒドロフラン溶液 (10 mL, 7.5 mmol) に、氷冷下 2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-5-ベンゾフランカルボキサルデヒド (1.21 g, 6.79 mmol) のテトラヒドロフラン (5 mL) 溶液を滴下し、室温で 30 分間攪拌した。反応混合物に水を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸マグネシウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をジイソプロピルエーテル-ヘキサンから再結晶して表題化合物 (963 mg、収率 64%) を得た。

¹H NMR (CDCl₃) δ 0.78 (3H, d, J = 6.6 Hz), 1.03 (3H, d, J = 6.6 Hz), 1.78 (1H, d, J = 2.9 Hz), 1.84-2.01 (1H, m), 3.22 (2H, t, J = 8.7 Hz), 3.87 (3H, s), 4.25 (1H, dd, J = 7.4, 2.9 Hz), 4.63 (2H, t, J = 8.7 Hz), 6.70-6.73 (1H, m), 6.76-6.79 (1H, m)。

参考例 151

3-(2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフランニル)-2-[(トリフェニルホスホラニリデン)アミノ]-2-プロペン酸 メチルエステル

アジ化ナトリウム (3.90 g, 60.0 mmol) のジメチルスルホキシド (50 mL) 懸濁液にプロモ酢酸メチル (4.73 mL, 50.0 mmol) を滴下し、室温で 10 分間、85 °C で 40 分間攪拌した。反応混合物に氷と水を加え、ジエチルエーテルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸マグネシウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮してアジド酢酸メチルを含む油状物を得た。これと 2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフランカルボキサルデヒド (2.07 g, 10.0 mmol) を混合し、-30 °C に冷却した 28% ナトリウムメトキシド/メタノール溶液 (7.72 g, 40 mmol) のメタノール (25 mL) に滴下、ゆっくり -10 °C まで昇温させ、同温で 2.5 時間、室温で 1 時間攪拌した。反応混合物を氷水に注ぎ、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸マグネシウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮して2-アジド-3-(2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフランニル)-2-プロペン酸 メチルエステルを含む固体 (2.10 g) を得た。これをジクロロメタン (20 mL) に溶解し、トリフェニルホスフィン (1.80 g, 6.86 mmol) のジクロロメタン (10 mL) 溶液を滴下し、室温で 12

時間攪拌した。反応混合物を減圧濃縮し、残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー（ヘキサン/酢酸エチル 2:1）に供し、酢酸エチル-ジイソプロピルエーテル-ヘキサンから結晶化させて表題化合物（2.90 g、収率 54%）を得た。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.50 (6H, s), 2.96 (2H, s), 3.37 (3H, s), 3.56 (3H, s), 6.74 (1H, d, $J = 6.8$ Hz), 7.30-7.57 (10H, m), 7.63-7.77 (7H, m)。

参考例 152

4-ブromo-2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフランカルボキサルデヒド

2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフランカルボキサルデヒド（2.00 g、9.70 mmol）の酢酸（15 mL）溶液に冷却しながら臭素（1.00 mL、19.4 mmol）を滴下し、得られた混合物を室温で 15 分間静置した。反応混合物に水を加え、ろ過した。得られた結晶を酢酸エチル-テトラヒドロフラン混合液に加熱溶解し、10% チオ硫酸ナトリウム水溶液および水で 2 回洗浄、減圧濃縮した。残渣を酢酸エチル-ジイソプロピルエーテルから再結晶して表題化合物（1.39 g、収率 50%）を得た。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.58 (6H, s), 3.12 (2H, s), 3.91 (3H, s), 7.34 (1H, s), 10.17 (1H, s)。

【0473】参考例 153

4-ブromo-5-(ジメトキシメチル)-2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチルベンゾフラン

4-ブromo-2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフランカルボキサルデヒド（1.90 g、6.66 mmol）

およびオルトギ酸トリメチル（1.6 mL、15 mmol）のメタノール（10 mL）およびテトラヒドロフラン（5 mL）懸濁液に

p-トルエンスルホン酸一水和物（64 mg、0.34 mmol）を加え、室温で 71 時間攪拌した。反応混合物に

28% ナトリウムメトキシド/メタノール溶液（0.1 mL）を加え、減圧濃縮した。残渣を酢酸エチルに溶解し、水で 2 回洗浄、減圧濃縮した。残渣にヘキサンを加え、不溶物をろ過、ろ液を減圧濃縮して表題化合物（2.16 g、収率 98%）を得た。

油状物。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.53 (6H, s), 3.06 (2H, s), 3.41 (6H, s), 3.88 (3H, s), 5.48 (1H, s), 7.02 (1H, s)。

参考例 154

3-ブromo-N-メトキシ-N-メチルベンズアミド

炭酸ナトリウム（9.64 g、91.0 mmol）のテトラヒドロフラン（20 mL）および水（30 mL）溶液に N,O-ジメチルヒドロキシルアミン塩酸塩（3.55 g、36.4 mmol）を加え、得られた混合物に氷冷下、3-ブromoベンゾイルクロリド（3.8 mL、28.8 mmol）を滴下、同温で 10 分間攪拌した。反応混合物に水を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水で 2 回洗浄、減圧濃縮して表題化合物（7.06 g、定量的）を得た。

油状物。

油状物。

油状物。

油状物。

油状物。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 3.36 (3H, s), 3.56 (3H, s), 7.29 (1H, t, $J = 7.9$ Hz), 7.56-7.65 (2H, m), 7.83 (1H, t, $J = 1.7$ Hz)。

参考例 155

4-(3-ブromoベンゾイル)-2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフランカルボキサルデヒド

4-ブromo-5-(ジメトキシメチル)-2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチルベンゾフラン（2.16 g、6.52 mmol）のテトラヒドロフラン（15 mL）溶液に窒素雰囲気下、

78 °C で 1.6 M ブチルリチウム/ヘキサン溶液（4.5 mL、7.2 mmol）を滴下、同温で 20 分間攪拌した。得られた混合物に 3-ブromo-N-メトキシ-N-メチルベンズアミド（1.91 g、7.82 mmol）のテトラヒドロフラン（10 mL）溶液を滴下、同温で 30 分間攪拌した。反応混合物に飽和塩化アンモニウム水溶液（50 mL）を加え、室温に昇温、水を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水で洗浄、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー（ヘキサン/酢酸エチル 10:1 の後 3:1）に供し、（3-ブromoフェニル）[5-(ジメトキシメチル)-2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-4-ベンゾフラニル]メタノールを含む油状物を得た。

これを酢酸エチル（10 mL）に溶解し、1 M 塩酸（5 mL）を加え、室温で 1 時間攪拌した。水層を分離、有機層を飽和炭酸水素ナトリウム水溶液および水で 2 回洗浄、減圧濃縮した。残渣をジエチルエーテル-ヘキサンから結晶化させて表題化合物（1.22 g、収率 48%）を得た。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.52 (6H, s), 2.87 (2H, s), 4.02 (3H, s), 7.33 (1H, t, $J = 7.9$ Hz), 7.39 (1H, s), 7.64-7.74 (2H, m), 7.92 (1H, t, $J = 1.9$ Hz), 9.71 (1H, s)。

これを酢酸エチル（10 mL）に溶解し、1 M 塩酸（5 mL）を加え、室温で 1 時間攪拌した。水層を分離、有機層を飽和炭酸水素ナトリウム水溶液および水で 2 回洗浄、減圧濃縮した。残渣をジエチルエーテル-ヘキサンから結晶化させて表題化合物（1.22 g、収率 48%）を得た。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.52 (6H, s), 2.87 (2H, s), 4.02 (3H, s), 7.33 (1H, t, $J = 7.9$ Hz), 7.39 (1H, s), 7.64-7.74 (2H, m), 7.92 (1H, t, $J = 1.9$ Hz), 9.71 (1H, s)。

これを酢酸エチル（10 mL）に溶解し、1 M 塩酸（5 mL）を加え、室温で 1 時間攪拌した。水層を分離、有機層を飽和炭酸水素ナトリウム水溶液および水で 2 回洗浄、減圧濃縮した。残渣をジエチルエーテル-ヘキサンから結晶化させて表題化合物（1.22 g、収率 48%）を得た。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.52 (6H, s), 2.87 (2H, s), 4.02 (3H, s), 7.33 (1H, t, $J = 7.9$ Hz), 7.39 (1H, s), 7.64-7.74 (2H, m), 7.92 (1H, t, $J = 1.9$ Hz), 9.71 (1H, s)。

これを酢酸エチル（10 mL）に溶解し、1 M 塩酸（5 mL）を加え、室温で 1 時間攪拌した。水層を分離、有機層を飽和炭酸水素ナトリウム水溶液および水で 2 回洗浄、減圧濃縮した。残渣をジエチルエーテル-ヘキサンから結晶化させて表題化合物（1.22 g、収率 48%）を得た。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.52 (6H, s), 2.87 (2H, s), 4.02 (3H, s), 7.33 (1H, t, $J = 7.9$ Hz), 7.39 (1H, s), 7.64-7.74 (2H, m), 7.92 (1H, t, $J = 1.9$ Hz), 9.71 (1H, s)。

これを酢酸エチル（10 mL）に溶解し、1 M 塩酸（5 mL）を加え、室温で 1 時間攪拌した。水層を分離、有機層を飽和炭酸水素ナトリウム水溶液および水で 2 回洗浄、減圧濃縮した。残渣をジエチルエーテル-ヘキサンから結晶化させて表題化合物（1.22 g、収率 48%）を得た。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.52 (6H, s), 2.87 (2H, s), 4.02 (3H, s), 7.33 (1H, t, $J = 7.9$ Hz), 7.39 (1H, s), 7.64-7.74 (2H, m), 7.92 (1H, t, $J = 1.9$ Hz), 9.71 (1H, s)。

これを酢酸エチル（10 mL）に溶解し、1 M 塩酸（5 mL）を加え、室温で 1 時間攪拌した。水層を分離、有機層を飽和炭酸水素ナトリウム水溶液および水で 2 回洗浄、減圧濃縮した。残渣をジエチルエーテル-ヘキサンから結晶化させて表題化合物（1.22 g、収率 48%）を得た。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.52 (6H, s), 2.87 (2H, s), 4.02 (3H, s), 7.33 (1H, t, $J = 7.9$ Hz), 7.39 (1H, s), 7.64-7.74 (2H, m), 7.92 (1H, t, $J = 1.9$ Hz), 9.71 (1H, s)。

これを酢酸エチル（10 mL）に溶解し、1 M 塩酸（5 mL）を加え、室温で 1 時間攪拌した。水層を分離、有機層を飽和炭酸水素ナトリウム水溶液および水で 2 回洗浄、減圧濃縮した。残渣をジエチルエーテル-ヘキサンから結晶化させて表題化合物（1.22 g、収率 48%）を得た。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.52 (6H, s), 2.87 (2H, s), 4.02 (3H, s), 7.33 (1H, t, $J = 7.9$ Hz), 7.39 (1H, s), 7.64-7.74 (2H, m), 7.92 (1H, t, $J = 1.9$ Hz), 9.71 (1H, s)。

これを酢酸エチル（10 mL）に溶解し、1 M 塩酸（5 mL）を加え、室温で 1 時間攪拌した。水層を分離、有機層を飽和炭酸水素ナトリウム水溶液および水で 2 回洗浄、減圧濃縮した。残渣をジエチルエーテル-ヘキサンから結晶化させて表題化合物（1.22 g、収率 48%）を得た。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.52 (6H, s), 2.87 (2H, s), 4.02 (3H, s), 7.33 (1H, t, $J = 7.9$ Hz), 7.39 (1H, s), 7.64-7.74 (2H, m), 7.92 (1H, t, $J = 1.9$ Hz), 9.71 (1H, s)。

これを酢酸エチル（10 mL）に溶解し、1 M 塩酸（5 mL）を加え、室温で 1 時間攪拌した。水層を分離、有機層を飽和炭酸水素ナトリウム水溶液および水で 2 回洗浄、減圧濃縮した。残渣をジエチルエーテル-ヘキサンから結晶化させて表題化合物（1.22 g、収率 48%）を得た。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.52 (6H, s), 2.87 (2H, s), 4.02 (3H, s), 7.33 (1H, t, $J = 7.9$ Hz), 7.39 (1H, s), 7.64-7.74 (2H, m), 7.92 (1H, t, $J = 1.9$ Hz), 9.71 (1H, s)。

これを酢酸エチル（10 mL）に溶解し、1 M 塩酸（5 mL）を加え、室温で 1 時間攪拌した。水層を分離、有機層を飽和炭酸水素ナトリウム水溶液および水で 2 回洗浄、減圧濃縮した。残渣をジエチルエーテル-ヘキサンから結晶化させて表題化合物（1.22 g、収率 48%）を得た。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.52 (6H, s), 2.87 (2H, s), 4.02 (3H, s), 7.33 (1H, t, $J = 7.9$ Hz), 7.39 (1H, s), 7.64-7.74 (2H, m), 7.92 (1H, t, $J = 1.9$ Hz), 9.71 (1H, s)。

これを酢酸エチル（10 mL）に溶解し、1 M 塩酸（5 mL）を加え、室温で 1 時間攪拌した。水層を分離、有機層を飽和炭酸水素ナトリウム水溶液および水で 2 回洗浄、減圧濃縮した。残渣をジエチルエーテル-ヘキサンから結晶化させて表題化合物（1.22 g、収率 48%）を得た。

題化合物 (1.02 g、収率 72%) を得た。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.47 (6H, s), 2.79 (2H, s), 3.75 (3H, s), 3.99 (3H, s), 6.74 (1H, s), 7.34 (1H, t, $J = 7.7$ Hz), 7.65 (1H, dt, $J = 7.7, 1.3$ Hz), 7.68-7.74 (1H, m), 7.70 (1H, s), 7.93 (1H, t, $J = 1.8$ Hz)。

参考例 157

2-ヨード-1,4-ベンゼンジカルボン酸 1-メチルエステル 2-アミノテレフタル酸 1-メチルエステル (25.6 g, 0.131 mol) の水 (50 mL) 懸濁液に氷冷下濃塩酸 (100 mL) の水 (50 mL) 溶液およびトルエン (1 mL) を加えた。得られた混合物に、氷冷下亜硝酸ナトリウム (9.96 g, 0.144 mol) の水 (60 mL) 溶液を 20 分間かけて滴下、同温で 20 分間攪拌した。反応混合物にアミド硫酸 (1.39 g, 14.3 mmol) を加えて過剰の亜硝酸ナトリウムを分解した。ヨウ化ナトリウム (32.7 g, 0.197 mol) の水 (250 mL) 溶液を氷冷し、上記で調製した混合物を 50 分間かけて滴下、同温で 30 分間攪拌した。反応混合物を酢酸エチルで 2 回抽出し、合わせた有機層を二亜硫酸ナトリウム (13.2 g, 69.4 mmol) の水 (100 mL) 溶液および水 (2 回) で洗浄、溶媒の大部分を減圧留去し、濃縮物をジイソプロピルエーテルに懸濁、ろ過、結晶をジイソプロピルエーテルで洗浄して表題化合物 (14.8 g、収率 37%) を得た。さらに母液から同様の操作を行うことにより表題化合物 (15.5 g、収率 39%) を得た。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 3.98 (3H, s), 7.82 (1H, d, $J = 7.9$ Hz), 8.12 (1H, dd, $J = 7.9, 1.6$ Hz), 8.69 (1H, d, $J = 1.6$ Hz)。

参考例 158

4-(アミノカルボニル)-2-ヨード安息香酸 メチルエステル

2-ヨード-1,4-ベンゼンジカルボン酸 1-メチルエステル (20.3 g, 66.3 mmol) および 1-ヒドロキシ-1H-ベンゾトリアゾール-水合物 (10.6 g, 69.7 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (70 mL) 溶液に、1-エチル-3-(3-ジメチルアミノプロピル)カルボジイミド塩酸塩 (14.0 g, 73.0 mmol) を加え、室温で 1 時間攪拌した。反応混合物に水を加え、酢酸エチルで 4 回抽出した。合わせた有機層を飽和炭酸水素ナトリウム水溶液および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム-シリカゲルを通して乾燥 (酢酸エチルで溶出)、溶媒の大部分を減圧留去し、濃縮物をジイソプロピルエーテルに懸濁、ろ過、結晶をジイソプロピルエーテルで洗浄して表題化合物 (17.6 g、収率 87%) を得た。

$^1\text{H NMR}$ ($\text{DMSO}-d_6$) δ 3.87 (3H, s), 7.64 (1H, br s), 7.76 (1H, d, $J = 7.8$ Hz), 7.95 (1H, dd, $J = 7.8, 1.7$ Hz), 8.20 (1H, br s), 8.43 (1H, d, $J = 1.7$ Hz)。

【0475】参考例 159

4-シアノ-2-ヨード安息香酸 メチルエステル

4-(アミノカルボニル)-2-ヨード安息香酸 メチルエステル (18.3 g, 60.0 mmol) およびトリエチルアミン (9.2 mL, 66 mmol) のテトラヒドロフラン (90 mL) 懸濁液に、氷冷下トリフルオロ酢酸無水物 (9.3 mL, 66 mmol) を 5 分間かけて滴下、同温で 20 分間攪拌した。反応混合物に水を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水で 2 回洗浄、減圧濃縮した。残渣を酢酸エチル-ヘキサンから再結晶して表題化合物 (10.2 g、収率 59%) を得た。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 3.97 (3H, s), 7.70 (1H, dd, $J = 8.0, 1.5$ Hz), 7.85 (1H, d, $J = 8.0$ Hz), 8.26 (1H, d, $J = 1.5$ Hz)。

参考例 160

2-ヨード-4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)安息香酸 メチルエステル

2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル- α -(1-メチルエチル)-5-ベンゾフランメタノール (5.51 g, 22.0 mmol) および 4-シアノ-2-ヨード安息香酸 メチルエステル (5.74 g, 20.0 mmol) のトルエン (20 mL) および酢酸 (10 mL) 懸濁液に濃硫酸 (3.0 mL, 56 mmol) を加え、85 °C で 2 時間攪拌した。得られた混合物に 65 °C でメタノール (10 mL) を滴下し、同温で 1 時間攪拌した。反応混合物を炭酸水素ナトリウム (14.1 g, 0.168 mol) の酢酸エチル懸濁液に滴下し、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水で 2 回洗浄、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 20:1 の後 10:1) に供し、ジイソプロピルエーテル-ヘキサンから結晶化させて表題化合物 (2.07 g、収率 20%) を得た。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.24 (6H, s), 1.36 (6H, s), 2.26 (2H, s), 2.68 (2H, s), 3.93 (3H, s), 3.96 (3H, s), 6.62 (1H, s), 7.47 (1H, dd, $J = 7.9, 1.6$ Hz), 7.86 (1H, d, $J = 7.9$ Hz), 8.04 (1H, d, $J = 1.6$ Hz)。

参考例 161

2,3-ジヒドロ-7-メトキシ- $\alpha, \alpha, 2, 2$ -テトラメチル-5-ベンゾフランエタンアミン塩酸塩

2,3-ジヒドロ-7-メトキシ- $\alpha, \alpha, 2, 2$ -テトラメチル-5-ベンゾフランアセトアミド (15.4 g, 58.4 mmol) のテトラヒドロフラン (150 mL) 溶液に氷冷下水素化リチウムアルミニウム (80%) (5.55 g, 0.12 mol) を加え、1 時間加熱還流した。反応混合物を氷冷し、ハーフローパーセル (商品名) (23 g) を加え、酢酸エチル (100 mL) を滴下した。得られた混合物に同温で水 (6 mL) を滴下、さらに酢酸エチル (100 mL) および水 (2 mL) を加え、室温で 10 分間攪拌した。得られた混合物をろ過し、ろ液を減圧濃縮して 2,3-ジヒドロ-7-メトキシ- $\alpha, \alpha, 2, 2$ -テトラメチル-5-ベンゾフランエタンアミンを油状物として得た。これを酢酸エチル (150 mL) に溶解

し、1.3 M 塩化水素/メタノール溶液 (67 mL, 87 mmol) を加えた。得られた混合物を減圧濃縮し、残渣を酢酸エチル-ジイソプロピルエーテルから結晶化させて表題化合物 (12.9 g、収率 77%) を得た。

$^1\text{H NMR}$ ($\text{DMSO}-d_6$) δ 1.32 (6H, s), 1.40 (6H, s), 2.98 (4H, s), 3.77 (3H, s), 6.80 (2H, s), 7.82 (3H, br s)。

【0476】参考例 162

4-[[2-[(2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフラン-2-メチルプロピル)アミノ]カルボニル]-2-ヨード安息香酸 メチルエステル

2,3-ジヒドロ-7-メトキシ- α, α , 2,2-テトラメチル-5-ベンゾフランエタンアミン塩酸塩 (5.00 g, 17.5 mmol)、2-ヨード-1,4-ベンゼンジカルボン酸 1-メチルエステル (5.89 g, 19.2 mmol)、1-ヒドロキシ-1H-ベンゾトリアゾール-水合物 (2.95 g, 19.3 mmol) および 1-エチル-3-(3-ジメチルアミノプロピル)カルボジイミド塩酸塩 (4.36 g, 22.7 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (20 mL) 溶液に、氷冷下トリエチルアミン (6.2 mL, 44 mmol) を滴下し、室温で 1.5 時間攪拌した。反応混合物に水を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム-シリカゲルを通して乾燥 (酢酸エチルで溶出)、減圧濃縮した。残渣を酢酸エチル-ジイソプロピルエーテルから結晶化させて表題化合物 (7.17 g、収率 76%) を得た。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.38 (6H, s), 1.53 (6H, s), 3.06 (2H, s), 3.58 (2H, d, $J = 6.0$ Hz), 3.89 (3H, s), 3.93 (3H, s), 5.70-5.78 (1H, m), 6.74 (1H, d, $J = 1.8$ Hz), 6.78-6.81 (1H, m), 7.59 (1H, dd, $J = 8.0, 1.6$ Hz), 7.77 (1H, d, $J = 8.0$ Hz), 8.15 (1H, d, $J = 1.6$ Hz)。

参考例 163

2-ヨード-4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-4,4,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)安息香酸 メチルエステル

4-[[2-[(2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフラン-2-メチルプロピル)アミノ]カルボニル]-2-ヨード安息香酸 メチルエステル (8.28 g, 15.4 mmol) のトルエン (120 mL) 溶液にオキシ塩化リン (17.3 mL, 0.186 mol) を加え、100 °C で 10 時間攪拌した。反応混合物を氷水に注ぎ、氷冷下濃アンモニア水 (70 mL) を加え、同温でしばらく攪拌した。得られた混合物の有機層を分離、水層を酢酸エチルで抽出した。合わせた有機層を水で 2 回洗浄、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 5:1 の後 2:1) に供し、酢酸エチル-ジイソプロピルエーテルから結晶化させて表題化合物 (5.03 g、収率 63%) を得た。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.26 (6H, s), 1.36 (6H, s), 2.31

(2H, s), 3.63 (2H, s), 3.95 (3H, s), 3.96 (3H, s), 6.79 (1H, s), 7.56 (1H, dd, $J = 7.8, 1.7$ Hz), 7.86 (1H, d, $J = 7.8$ Hz), 8.08 (1H, d, $J = 1.7$ Hz)。

参考例 164

N-メチル-4-(4,4,5,5-テトラメチル-1,3,2-ジオキサボロラン-2-イル)ベンズアミド

4-(4,4,5,5-テトラメチル-1,3,2-ジオキサボロラン-2-イル)安息香酸 (993 mg, 4.00 mmol) および 1-ヒドロキシ-1H-ベンゾトリアゾール-水合物 (674 mg, 4.40 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (6 mL) 溶液に 1-エチル-3-(3-ジメチルアミノプロピル)カルボジイミド塩酸塩 (997 mg, 5.20 mmol) を加え、室温で 5 分間攪拌した。得られた混合物に 40% メチルアミン/メタノール溶液 (0.68 g, 8.8 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (0.5 mL) 溶液を水浴上で滴下し、室温で 40 分間攪拌した。反応混合物に水を加え、酢酸エチルで 3 回抽出した。合わせた有機層を飽和炭酸水素ナトリウム水溶液および水 (2 回) で洗浄、減圧濃縮した。残渣を酢酸エチル-ジイソプロピルエーテルから結晶化させて表題化合物 (286 mg、収率 27%) を得た。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.36 (12H, s), 3.02 (3H, d, $J = 4.8$ Hz), 6.10-6.30 (1H, m), 7.75 (2H, d, $J = 8.6$ Hz), 7.86 (2H, d, $J = 8.6$ Hz)。

【0477】参考例 165

4-ブromo-2-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼンアミン

2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル- α -(1-メチルエチル)-5-ベンゾフランメタノール (5.00 g, 20.0 mmol) および 2-アミノ-5-ブromoベンズニトリル (3.92 g, 19.9 mmol) のトルエン (15 mL) および酢酸 (10 mL) 懸濁液に濃硫酸 (4.0 mL, 75 mmol) を加え、85 °C で 2 時間攪拌した。得られた混合物にエタノール (15 mL) を滴下し、同温で 45 分間攪拌した。反応混合物に水を加え、炭酸水素ナトリウムで中和、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水で 2 回洗浄、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 5:1 の後 2:1) に供し、さらにシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 4:1、2:1 の後 1:1) に供し、酢酸エチル-ジエチルエーテルから結晶化させて表題化合物 (510 mg、収率 6%) を得た。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.10 (3H, br s), 1.38 (9H, br s), 2.40 (2H, s), 2.45-2.85 (2H, m), 3.92 (3H, s), 4.57 (2H, br s), 6.59 (1H, s), 6.60 (1H, d, $J = 8.4$ Hz), 7.15 (1H, d, $J = 2.3$ Hz), 7.20 (1H, dd, $J = 8.4, 2.3$ Hz)。

参考例 166

5-(アセチルアミノ)-2-ブromo安息香酸 メチルエステル
2-ブromo-5-ニトロ安息香酸 メチルエステル (5.26 g,

20.2 mmol) のメタノール (80 mL) 懸濁液に塩化すず(I) (19.2 g, 0.101 mol) を加え、70 °C で 40 分間攪拌した。反応混合物を氷冷し、濃アンモニア水を加えて中和、酢酸エチルに懸濁後ろ過した。ろ液に水を加え、減圧濃縮し、残渣を酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水で洗浄、減圧濃縮して 5-アミノ-2-プロモ安息香酸メチルエステル (4.27 g、収率 92%) を得た。油状物。

¹H NMR (CDCl₃) δ 3.78 (2H, br s), 3.90 (3H, s), 6.64 (1H, dd, J = 8.2, 2.9 Hz), 7.09 (1H, d, J = 2.9 Hz), 7.37 (1H, d, J = 8.6 Hz)。

5-アミノ-2-プロモ安息香酸 メチルエステル (4.27 g, 18.5 mmol) およびトリエチルアミン (3.4 mL, 24 mmol) のテトラヒドロフラン (40 mL) 溶液に氷冷下アセチルクロリド (1.5 mL, 21 mmol) を滴下し、同温で 15 分間攪拌した。反応混合物に水を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水で 2 回洗浄、活性炭処理、ろ過、減圧濃縮した。残渣を酢酸エチル-ジイソプロピルエーテルから結晶化させて表題化合物 (2.82 g、収率 56%) を得た。

¹H NMR (CDCl₃) δ 2.19 (3H, s), 3.93 (3H, s), 7.34 (1H, br s), 7.59 (1H, d, J = 8.6 Hz), 7.63 (1H, dd, J = 8.6, 2.3 Hz), 7.91 (1H, d, J = 2.3 Hz)。

参考例 167

5-(プロモメチル)-1-(3-プロモフェニル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン

1-(3-プロモフェニル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン (1.47 g, 3.55 mmol)、パラホルムアルデヒド (94%) (170 mg, 5.32 mmol) および臭化ナトリウム (603 mg, 5.86 mmol) の酢酸 (1.02 mL, 17.8 mmol) 懸濁液に濃硫酸 (0.57 mL, 10.7 mmol) を加え、100 °C で 20 時間攪拌した。冷後、反応混合物に氷水を加え、濃アンモニア水で中和、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 10:1) に供し、表題化合物 (673 mg、収率 37%) を得た。

非晶質。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.27 (6H, s), 1.32 (6H, s), 2.19 (2H, s), 2.70 (2H, s), 4.05 (3H, s), 4.63 (2H, s), 7.26-7.35 (2H, m), 7.50-7.56 (2H, m)。

【0478】参考例 168

1-(3-プロモフェニル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-5-アセトニトリル

5-(プロモメチル)-1-(3-プロモフェニル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン (670 mg, 1.32 mmol) の N,N-ジメチル

ホルムアミド (7 mL) 溶液にシアン化ナトリウム (65 mg, 1.32 mmol) の水 (2 mL) 溶液を加え、室温で 2 時間攪拌した。反応混合物に水を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 10:1) に供し、ヘキサンから結晶化させて表題化合物 (131 mg、収率 49%) を得た。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.28 (6H, s), 1.32 (6H, s), 2.20 (2H, s), 2.68 (2H, s), 3.73 (2H, s), 4.05 (3H, s), 7.25-7.36 (2H, m), 7.50-7.57 (2H, m)。

参考例 169

2-プロモ-4-(6-エトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェノール

7-エトキシ-2,3-ジヒドロ-2,2-ジメチル-α-(1-メチルエチル)-5-ベンゾフランメタノール (5.81 g, 22.0 mmol) および 3-プロモ-4-ヒドロキシベンズニトリル (3.96 g, 20.0 mmol) のトルエン (20 mL) および酢酸 (10 mL) 懸濁液に濃硫酸 (3.0 mL, 56 mmol) を加え、85 °C で 2.5 時間攪拌した。反応混合物に水を加え、酢酸エチルで洗浄した。有機層を 1 M 塩酸で 2 回、2 M 塩酸で 1 回抽出した。合わせた水層を氷冷下濃アンモニア水で中和、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 2:1 の後 酢酸エチル) に供し、固体をジイソプロピルエーテル-ヘキサン混合液で洗浄して表題化合物 (4.35 g、収率 49%) を得た。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.32 (12H, s), 1.47 (3H, t, J = 7.2 Hz), 2.28 (2H, s), 2.73 (2H, s), 4.19 (2H, q, J = 7.2 Hz), 6.60 (1H, s), 6.69 (1H, d, J = 8.1 Hz), 7.05 (1H, dd, J = 8.1, 2.0 Hz), 7.36 (1H, d, J = 2.0 Hz)。

【0479】実施例 9

N-[3'-(6-エトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-イル]アセトアミド

1-(3-プロモフェニル)-6-エトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン塩酸塩 (465 mg, 1.00 mmol) の 1,2-ジメトキシエタン (3 mL) およびエタノール (1.5 mL) 溶液に炭酸ナトリウム (265 mg, 2.50 mmol) の水 (1.5 mL) 溶液、4'-(4,4,5,5-テトラメチル-1,3,2-ジオキサボロラン-2-イル)アセトアニリド (314 mg, 1.20 mmol) およびテトラキス(トリフェニルホスフィン)パラジウム(0) (24 mg, 0.021 mmol) を加え、窒素雰囲気下 85 °C で 14 時間攪拌した。反応混合物に水を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合

わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム-塩基性シリカゲルを通して乾燥（酢酸エチルで溶出）、減圧濃縮した。残渣を酢酸エチル-ヘキサンから結晶化させて表題化合物（462 mg、収率 96%）を得た。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.28 (6H, s), 1.29 (6H, s), 1.47 (3H, t, $J = 7.0$ Hz), 2.15 (3H, s), 2.24 (2H, s), 2.70 (2H, s), 4.19 (2H, q, $J = 7.0$ Hz), 6.62 (1H, s), 7.31-7.35 (1H, m), 7.43 (1H, t, $J = 7.7$ Hz), 7.47-7.66 (7H, m)。

実施例 10

N-[3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-6-(メチルチオ)フロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-イル]アセトアミド

1-(3-ブロモフェニル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-6-(メチルチオ)フロ[2,3-h]イソキノリン (273 mg、0.634 mmol)、4'-(4,4,5,5-テトラメチル-1,3,2-ジオキサボロラン-2-イル)アセトアニリド (199 mg、0.762 mmol)、炭酸ナトリウム (168 mg、1.59 mmol)

およびテトラキス(トリフェニルホスフィン)パラジウム(0) (37 mg、0.032 mmol) の 1,2-ジメトキシエタン (2 mL)、エタノール (1 mL) および水 (1 mL) の懸濁液を窒素雰囲気下 85 °C で 15 時間攪拌した。反応混合物に水を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム-塩基性シリカゲルを通して乾燥（酢酸エチルで溶出）、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー（ヘキサン/酢酸エチル 1:1）に供し、酢酸エチル-ヘキサンから結晶化させて表題化合物 (204 mg、収率 66%) を得た。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.27 (6H, s), 1.29 (6H, s), 2.18 (3H, s), 2.25 (2H, s), 2.50 (3H, s), 2.71 (2H, s), 6.87 (1H, s), 7.32-7.37 (1H, m), 7.40 (1H, br s), 7.44 (1H, t, $J = 7.6$ Hz), 7.50-7.58 (5H, m), 7.59 (1H, dt, $J = 7.6, 1.5$ Hz)。

実施例 11

N-[2'-アミノ-5'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-イル]アセトアミド

2-ブロモ-4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼンアミン (430 mg、1.00 mmol)、4'-(4,4,5,5-テトラメチル-1,3,2-ジオキサボロラン-2-イル)アセトアニリド (288 mg、1.10 mmol)、炭酸ナトリウム (266 mg、2.51 mmol) およびテトラキス(トリフェニルホスフィン)パラジウム(0) (23 mg、0.020 mmol) の 1,2-ジメトキシエタン (3 mL)、エタノール (1.5 mL) および水 (1.5 mL) の懸濁液を窒素雰囲気下 85 °C で 16 時間攪拌した。反応混合物に水を加え、酢酸エチル/テトラヒドロフラン(1:1) 混合液で 2 回抽出した。合わせた有機層を

水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム-塩基性シリカゲルを通して乾燥（酢酸エチルで溶出）減圧濃縮した。残渣をメタノール-酢酸エチルから再結晶して表題化合物 (260 mg、収率 54%) を得た。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.08 (6H, s), 1.25 (6H, s), 2.06 (3H, s), 2.48 (2H, s), 2.56 (2H, s), 3.79 (3H, s), 4.97-5.03 (2H, m), 6.70-6.78 (2H, m), 6.94 (1H, d, $J = 2.0$ Hz), 7.07 (1H, dd, $J = 8.1, 2.0$ Hz), 7.32 (2H, d, $J = 8.6$ Hz), 7.64 (2H, d, $J = 8.6$ Hz), 9.98 (1H, br s)。

【0480】実施例 12

N-[3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-4,6-ジメトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-イル]アセトアミド

1-(3-ブロモフェニル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-4,6-ジメトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン (371 mg、0.835 mmol)、4'-(4,4,5,5-テトラメチル-1,3,2-ジオキサボロラン-2-イル)アセトアニリド (262 mg、1.00 mmol)、炭酸ナトリウム (222 mg、2.09 mmol)

およびテトラキス(トリフェニルホスフィン)パラジウム(0) (20 mg、0.017 mmol) の 1,2-ジメトキシエタン (3 mL)、エタノール (1.5 mL) および水 (1.5 mL) の懸濁液を窒素雰囲気下 85 °C で 15 時間攪拌した。反応混合物に水を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム-塩基性シリカゲルを通して乾燥（酢酸エチルで溶出）、減圧濃縮した。残渣を酢酸エチル-ヘキサンから結晶化させて表題化合物 (367 mg、収率 88%) を得た。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.16 (3H, s), 1.29 (3H, s), 1.33 (3H, s), 1.43 (3H, s), 2.15 (3H, s), 2.24 (1H, d, $J = 16.5$ Hz), 2.32 (1H, d, $J = 16.5$ Hz), 3.44 (3H, s), 3.93 (1H, s), 3.98 (3H, s), 6.80 (1H, s), 7.32-7.76 (9H, m)。

実施例 13

N-[3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-4-ヒドロキシ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-イル]アセトアミド

1-(3-ブロモフェニル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-4-オール (820 mg、1.91 mmol)、4'-(4,4,5,5-テトラメチル-1,3,2-ジオキサボロラン-2-イル)アセトアニリド (598 mg、2.29 mmol)、炭酸ナトリウム (505 mg、4.76 mmol) およびテトラキス(トリフェニルホスフィン)パラジウム(0) (44 mg、0.038 mmol) の 1,2-ジメトキシエタン (7 mL)、エタノール (3.5 mL) および水 (3.5 mL) の懸濁液を窒素雰囲気下 85 °C で 14 時間攪拌した。反応混合物に水を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水で 2 回洗浄、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー（ヘキサン/酢

酸エチル 1:1 の後酢酸エチル) に供し、酢酸エチル-ジエチルエーテルから結晶化させて表題化合物 (550 mg、収率 59%) を得た。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.24 (3H, s), 1.30 (6H, s), 1.34 (3H, s), 1.85 (1H, d, J = 6.5 Hz), 2.18 (3H, s), 2.28 (2H, s), 3.97 (3H, s), 4.50 (1H, d, J = 6.5 Hz), 6.97 (1H, s), 7.33-7.38 (1H, m), 7.45 (1H, t, J = 7.5 Hz), 7.45-7.62 (7H, m)。

実施例 14

N-[3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-4-オキソフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-イル]アセトアミド

N-[3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-4-ヒドロキシ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-イル]アセトアミド (300 mg、0.619 mmol)、酸化マンガン(IV) (化学処理品) (75%) (538 mg、4.6 mmol) のクロロホルム (3 mL) 懸濁液を室温で 3 時間、40 °C で 18 時間攪拌した。反応混合物をろ過し、ろ液を減圧濃縮した。残渣を酢酸エチル-ジエチルエーテルから結晶化させて表題化合物 (270 mg、90%) を得た。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.34 (6H, br s), 1.56 (6H, s), 2.19 (3H, s), 2.22-2.30 (2H, m), 4.00 (3H, s), 7.29-7.33 (1H, m), 7.35-7.42 (1H, m), 7.48-7.66 (8H, m)。

【0481】実施例 15

N-[3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチル-6-フェニルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-イル]アセトアミド

トリフルオロメタンスルホン酸 1-[4'-(アセチルアミノ)[1,1'-ビフェニル]-3-イル]-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-6-イルエステル (294 mg、0.501 mmol)、フェニルボロン酸 (85 mg、0.70 mmol)、酢酸パラジウム(II) (2.3 mg、0.010 mmol)、[1,1'-ビフェニル]-2-イルジシクロヘキシルホスフィン (7.5 mg、0.021 mmol) およびナトリウム tert-ブトキシド (68 mg、0.71 mmol) のトルエン (1 mL) 懸濁液を窒素雰囲気下 80 °C で 24 時間攪拌した。反応混合物に水を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム-塩基性シリカゲルを通して乾燥 (酢酸エチルで溶出)、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 1:1) に供して表題化合物 (184 mg、収率 71%) を得た。

非晶質。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.28 (6H, s), 1.32 (6H, s), 2.14 (3H, s), 2.29 (2H, s), 2.78 (2H, s), 7.17 (1H, s), 7.29-7.78 (14H, m)。

実施例 16

[2-(4-アミノフェニル)-4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]オキシ酢酸メチルエステル

[2-ブロモ-4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]オキシ酢酸メチルエステル (804 mg、1.60 mmol)、4'-(4,4,5,5-テトラメチル-1,3,2-ジオキサボロラン-2-イル)アセトアニリド (460 mg、1.76 mmol)、炭酸ナトリウム (424 mg、4.00 mmol) およびテトラキス(トリフェニルホスフィン)パラジウム(0) (37 mg、0.032 mmol) の 1,2-ジメトキシエタン (6 mL) および水 (3 mL) の懸濁液を窒素雰囲気下 85 °C で 16 時間攪拌した。反応混合物に水を加え、酢酸エチルで洗浄、水層をろ過した。ろ液を 1 M 塩酸で中和し、テトラヒドロフランで 3 回、クロロホルムで 2 回抽出した。合わせた有機層を減圧濃縮し、残渣をクロロホルムに溶解、飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をメタノール (4 mL) に溶解し、0.8 M 塩化水素/メタノール溶液 (4 mL) を加え、減圧濃縮した。残渣にメタノールおよび酢酸エチルを加え、不溶物をろ過、減圧濃縮した。再度同様の操作を行って[2-[4-(アセチルアミノ)フェニル]-4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]オキシ酢酸塩酸塩を含む混合物を非晶質として得た。これをメタノール (15 mL) に溶解し、氷冷下塩化チオニル (0.14 mL) をゆっくり滴下、室温で 48 時間攪拌した。反応混合物を減圧濃縮し、炭酸水素ナトリウムの水および酢酸エチル懸濁液に滴下して中和、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水で洗浄、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 3:1、2:1 の後 1:1) に供し、表題化合物 (447 mg、収率 54%) を得た。

非晶質。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.23 (6H, s), 1.32 (6H, s), 2.32 (2H, s), 2.67 (2H, s), 3.70 (2H, br s), 3.77 (3H, s), 3.91 (3H, s), 4.62 (2H, s), 6.60 (1H, s), 6.71 (2H, d, J = 8.7 Hz), 6.86 (1H, d, J = 8.7 Hz), 7.26-7.30 (1H, m), 7.32 (1H, d, J = 2.1 Hz), 7.41 (2H, d, J = 8.7 Hz)。

実施例 17

N-[2'-ヒドロキシ-5'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-イル]アセトアミド

1-(2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフラン-2-メチル-1-プロパノール (2.51 g、10.0 mmol) および 3-ブロモ-4-ヒドロキシベンズニトリル (1.98 g、10.0 mmol) のトルエン (10 mL) および酢酸 (5 mL) 懸濁液に濃硫酸 (1.5 mL、28 mmol) を加え、85 °C で 2 時間攪拌した。反応混合物に水を加え、酢酸エチ

ルで洗浄した。有機層を 1 M 塩酸で抽出し、合わせた水層を氷冷下濃アンモニア水で中和、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー（酢酸エチルの後酢酸エチル/メタノール 10:1）に供し、2-ブromo-4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェノールを含む混合物を非晶質として得た。これと 4'-(4,4,5,5-テトラメチル-1,3,2-ジオキサボロラン-2-イル)アセトアニリド (1.69 g, 6.47 mmol)、炭酸ナトリウム (1.43 g, 13.5 mmol) およびテトラキス(トリフェニルホスフィン)パラジウム(0) (125 mg, 0.108 mmol) を 1,2-ジメトキシエタン (20 mL) および水 (10 mL) に懸濁し、窒素雰囲気下 85 °C で 16 時間攪拌した。反応混合物に水と酢酸エチルを加え、ハーフロースーパーセル（商品名）を通してろ過、有機層を分離、水層を酢酸エチルで抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を酢酸エチル-ヘキサンから結晶化させて表題化合物 (994mg、収率 21%) を得た。

¹H NMR(DMSO-d₆) δ 1.11 (6H, s), 1.23 (6H, s), 2.05 (3H, s), 2.39 (2H, s), 2.60 (2H, s), 3.80 (3H, s), 6.79 (1H, s), 6.94 (1H, dd, J = 8.3, 1.5 Hz), 7.14 (1H, dd, J = 8.3, 2.2 Hz), 7.19 (1H, d, J = 2.2 Hz), 7.46 (2H, d, J = 8.7 Hz), 7.59 (2H, d, J = 8.7 Hz), 9.79 (1H, s), 9.97 (1H, s)。

【0482】実施例 18

[2-[4-(アセチルアミノ)フェニル]-4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]オキシ酢酸エチルエステル

N-[2'-ヒドロキシ-5'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-イル]アセトアミド (243 mg, 0.501 mmol) およびブromo酢酸メチル (57 μL, 0.60 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (0.5 mL) 溶液に炭酸カリウム (90 mg, 0.65 mmol) を加え、室温で 2 時間攪拌した。反応混合物に酢酸エチルと水を加え、有機層を分離、水層を酢酸エチルで抽出した。合わせた有機層を水で洗浄、減圧濃縮した。残渣を酢酸エチル-ジエチルエーテルから結晶化させて表題化合物 (232 mg、収率 83%) を得た。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.24 (6H, s), 1.33 (6H, s), 2.17 (3H, s), 2.33 (2H, s), 2.68 (2H, s), 3.77 (3H, s), 3.92 (3H, s), 4.64 (2H, s), 6.61 (1H, s), 6.87 (1H, d, J = 8.4 Hz), 7.30-7.37 (3H, m), 7.50-7.58 (4H, m)。

実施例 19

[2-[4-(アセチルアミノ)フェニル]-4-(3,4,8,9-テトラ

ヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]オキシ酢酸

[2-[4-(アセチルアミノ)フェニル]-4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェニル]オキシ酢酸メチルエステル (120 mg, 0.216 mmol) のメタノール (0.5 mL) 懸濁液に 5 M 水酸化ナトリウム水溶液 (88 μL, 0.44 mmol) を加え、室温で 35 分間攪拌した。反応混合物に 1 M 塩酸 (0.44 mL, 0.44 mmol) を加え、クロロホルムで 3 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウムを通して乾燥、減圧濃縮した。残渣をクロロホルム-ジエチルエーテルから結晶化させて表題化合物 (101 mg、収率 86%) を得た。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.14 (6H, s), 1.23 (6H, s), 2.05 (3H, s), 2.37 (2H, s), 2.65 (2H, br s), 3.82 (3H, s), 4.77 (2H, s), 6.82 (1H, s), 7.02 (1H, d, J = 8.4 Hz), 7.24-7.31 (2H, m), 7.51 (2H, d, J = 8.7 Hz), 7.61 (2H, d, J = 8.7 Hz), 9.99 (1H, s)。

実施例 20

N-[3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3-ジメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-イル]アセトアミド

1-(2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-5-ベンゾフラン-2-メチル-1-プロパノール (667 mg, 3.00 mmol) および 3-ブromoベンゾニトリル (546 mg, 3.00 mmol) のトルエン (2 mL) および酢酸 (1 mL) 溶液に濃硫酸 (0.48 mL, 9.0 mmol) を加え、85 °C で 1 時間攪拌した。反応混合物に水を加え、氷冷下濃アンモニア水で中和、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水で 2 回洗浄、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー（ヘキサン/酢酸エチル 5:1）に供し、1-(3-ブromoフェニル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3-ジメチルフロ[2,3-h]イソキノリンを含む混合物を油状物として得た。これと 4'-(4,4,5,5-テトラメチル-1,3,2-ジオキサボロラン-2-イル)アセトアニリド (653 mg, 6.26 mmol)、炭酸ナトリウム (663 mg, 6.26 mmol) およびテトラキス(トリフェニルホスフィン)パラジウム(0) (58 mg, 0.050 mmol) の 1,2-ジメトキシエタン (6 mL)、エタノール (3 mL) および水 (3 mL) の懸濁液を窒素雰囲気下 85 °C で 16 時間攪拌した。反応混合物に水を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム-塩基性シリカゲルを通して乾燥（酢酸エチルで溶出）、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲル（ヘキサン/酢酸エチル 1:1 の後 1:3）に供し、酢酸エチル-ヘキサンから結晶化させて表題化合物 (522 mg、収率 39%) を得た。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.28 (6H, s), 2.16 (3H, s), 2.43 (2H, t, J = 8.6 Hz), 2.73 (2H, s), 3.93 (3H, s), 4.34 (2H, t, J = 8.6 Hz), 6.63 (1H, s), 7.33 (1H, d

t, J = 7.5, 1.4 Hz), 7.44 (1H, t, J = 7.5 Hz), 7.49-7.60 (7H, m).

【0483】実施例 2 1

N-[2-ブromo-3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-イル]アセトアミド

N-[3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-イル]アセトアミド (1.64 g, 3.50 mmol) および N-ブromosuccinimide (623 mg, 3.50 mmol) の四塩化炭素 (10 mL) 懸濁液に 2,2'-アゾビス(イソブチロニトリル) (12 mg, 0.073 mmol) を加え、2.5 時間加熱還流した。反応混合物に酢酸エチルを加え、残渣を少量のメタノールで溶解、合わせた有機層を飽和炭酸水素ナトリウム水溶液で中和、有機層を分離、水層を酢酸エチルで抽出した。合わせた有機層を減圧濃縮し、残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 5:1、1:1 の後 1:3) に供し、ジエチルエーテル-ヘキサンから結晶化させて表題化合物 (243 mg, 収率 13%) を得た。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.27 (6H, s), 1.31 (6H, s), 2.24 (2H, s), 2.27 (3H, s), 2.71 (2H, s), 3.93 (3H, s), 6.63 (1H, s), 7.38 (1H, dt, J = 7.8, 1.4 Hz), 7.46 (1H, t, J = 7.8 Hz), 7.54-7.61 (3H, m), 7.64 (1H, br s), 7.79 (1H, d, J = 2.4 Hz), 8.40 (1H, d, J = 8.1 Hz)。

実施例 2 2

N-[3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-イル]ベンゼンアセトアミド

3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-アミン (171 mg, 0.401 mmol) およびトリエチルアミン (67 μL, 0.48 mmol) のテトラヒドロフラン (1 mL) 溶液に、氷冷下フェニルアセチルクロリド (59 μL, 0.45 mmol) を滴下し、同温で 10 分間攪拌した。反応混合物に水および飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウムを通して乾燥、減圧濃縮した。残渣を酢酸エチル-ヘキサンから結晶化させて表題化合物 (198 mg, 収率 91%) を得た。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.26 (6H, s), 1.29 (6H, s), 2.24 (2H, s), 2.71 (2H, s), 3.76 (2H, s), 3.92 (3H, s), 6.62 (1H, s), 7.18 (1H, br s), 7.32-7.59 (13H, m)。

実施例 2 3

N-[3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-2-オキシドフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-イル]アセトアミド

N-[3'-(1,2,3,4,8,9-ヘキサヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-イル]アセトアミド (425 mg, 0.903 mmol) のメタノール (4 mL) 溶液にタングステン(VI)酸ナトリウム二水和物 (60 mg, 0.18 mmol) の水 (0.8 mL) 溶液を加えた。得られた溶液を氷冷し、30%過酸化水素水 (0.31 g, 2.7 mmol) を滴下、室温で 15 時間攪拌した。得られた混合物に 30% 過酸化水素水 (0.10 g, 0.88 mmol) を加え、室温で 8 時間攪拌した。反応混合物に水を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水で 2 回洗浄、減圧濃縮した。残渣を酢酸エチル-ジエチルエーテルから結晶化させて表題化合物 (295 mg, 収率 67%) を得た。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.23 (3H, br s), 1.28 (3H, br s), 1.51 (3H, br s), 1.52 (3H, br s), 2.01 (1H, d, J = 15.9 Hz), 2.05-2.14 (1H, m), 2.14 (3H, s), 3.06 (1H, d, J = 15.6 Hz), 3.13 (1H, d, J = 15.6 Hz), 3.92 (3H, s), 6.65 (1H, s), 7.36-7.41 (1H, m), 7.41-7.53 (5H, m), 7.56 (1H, dt, J = 7.7, 1.7 Hz), 7.58-7.61 (1H, m), 7.75 (1H, br s)。

【0484】実施例 2 4

8,9-ジヒドロ-6-メトキシ-8,8-ジメチル-1-フェニルフロ[2,3-h]イソキノリン

3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-8,8-ジメチル-1-フェニルフロ[2,3-h]イソキノリン塩酸塩 (516 mg, 1.50 mmol) を水 (5 mL) に溶解し、1 M 水酸化ナトリウム水溶液を加えて中和、ジイソプロピルエーテルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水で洗浄、減圧濃縮した。残渣をデカヒドロナフタレン (3 mL) に溶解し、10% パラジウム/炭素 (50% 含水品) (0.10 g) を加え、窒素雰囲気下、180 °C で 2.5 時間攪拌した。反応混合物に酢酸エチルを加え、触媒をろ過、ろ液を減圧濃縮した。残渣を酢酸エチル-ジイソプロピルエーテルから再結晶して表題化合物 (288 mg, 収率 63%) を得た。

融点 166-167 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.39 (6H, s), 2.49 (2H, s), 4.04 (3H, s), 7.08 (1H, s), 7.37-7.50 (5H, m), 7.54 (1H, d, J = 5.6 Hz), 8.38 (1H, d, J = 5.6 Hz)。

実施例 2 5

8,9-ジヒドロ-6-メトキシ-3,8,8-トリメチル-1-フェニルフロ[2,3-h]イソキノリン

3,4,8,9-ジヒドロ-6-メトキシ-3,8,8-トリメチル-1-フェニルフロ[2,3-h]イソキノリン (0.81 g, 2.5 mmol) と 10% パラジウム/炭素 (0.94 g) のデカヒドロナフタレン (10 mL) の混合物を 200 °C で 19 時間攪拌した。反応液を室温まで冷却した後、2 M 塩酸水と酢酸エチルを加えた。水層を酢酸エチルで洗浄した後、8 M 水酸化ナトリウム水溶液を加えアルカリ性にした。有機物をジエチルエーテルで抽出した。抽出液を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄した後、硫酸ナトリウムで乾燥し、減圧

下で溶媒を留去した。得られた残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー（ヘキサン/酢酸エチル 5:1 の後 2:1）で精製して、粗結晶を得た。得られた粗結晶をヘキサノージェチルエーテルより再結晶し、表題化合物（0.28 g、収率 35%）を得た。

融点 141-142 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.37 (6H, s), 2.43 (2H, s), 2.66 (3H, s), 4.02 (3H, s), 6.99 (1H, s), 7.39-7.43 (6H, m)。

実施例 26

8,9-ジヒドロ-6-メトキシ-8,8-ジメチル-1-フェニルフロ[2,3-h]イソキノリン-3-カルボン酸 メチルエステル 3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-8,8-ジメチル-1-フェニルフロ[2,3-h]イソキノリン-3-カルボン酸 メチルエステル (1.43 g、3.91 mmol) のキシレン (10 mL) 懸濁液に 10% パラジウム/炭素 (50% 含水晶) (0.30 g) を加え、窒素雰囲気下 7 時間加熱還流した。反応混合物にクロロホルムを加え、触媒をろ過、ろ液を減圧濃縮した。残渣にジエチルエーテルを加え、結晶をろ取して表題化合物 (903 mg、収率 64%) を得た。

融点 225-227 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.39 (6H, s), 2.45 (2H, s), 4.01 (3H, s), 4.06 (3H, s), 7.23 (1H, s), 7.38-7.49 (5H, m), 8.50 (1H, s)。

【0485】実施例 27

8,9-ジヒドロ-6-メトキシ-8,8-ジメチル-1-フェニルフロ[2,3-h]イソキノリン-3-カルボン酸
8,9-ジヒドロ-6-メトキシ-8,8-ジメチル-1-フェニルフロ[2,3-h]イソキノリン-3-カルボン酸 メチルエステル (922 mg、2.54 mmol) のメタノール (5 mL) 懸濁液に 2 M 水酸化ナトリウム水溶液 (5.0 mL、10 mmol) を加え、室温で 15 時間、80 °C で 5 分間攪拌した。反応混合物に 1 M 塩酸 (10.0 mL、10.0 mmol) を加え、析出した結晶をろ取、水およびジエチルエーテルで洗浄して表題化合物 (860 mg、収率 97%) を得た。

融点 256-258 °C (分解)。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.41 (6H, s), 2.51 (2H, s), 4.08 (3H, s), 7.27 (1H, s), 7.38-7.57 (5H, m), 8.53 (1H, s)。

実施例 28

8,9-ジヒドロ-6-メトキシ-8,8-ジメチル-1-フェニルフロ[2,3-h]イソキノリン-3-カルボキサミド
8,9-ジヒドロ-6-メトキシ-8,8-ジメチル-1-フェニルフロ[2,3-h]イソキノリン-3-カルボン酸 (1.06 g、3.03 mmol) および 1-ヒドロキシ-1H-ベンゾトリアゾール・アンモニウム塩 (554 mg、3.64 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (5 mL) 溶液に氷冷下 1-エチル-3-(3-ジメチルアミノプロピル)カルボジイミド塩酸塩 (756 mg、3.94 mmol) を加え、室温で 16 時間攪拌した。反応混合物に水および飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、ク

ロロホルムで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を酢酸エチル-ジエチルエーテルから再結晶を 2 回行って表題化合物 (725 mg、収率 67%) を得た。

融点 232-238 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.40 (6H, s), 2.49 (2H, s), 4.06 (3H, s), 5.56 (1H, brs), 7.23 (1H, s), 7.38-7.55 (5H, m), 8.00 (1H, br s), 8.51 (1H, s)。

10 実施例 29

8,9-ジヒドロ-6-メトキシ-N,N,8,8-テトラメチル-1-フェニルフロ[2,3-h]イソキノリン-3-カルボキサミド
8,9-ジヒドロ-6-メトキシ-8,8-ジメチル-1-フェニルフロ[2,3-h]イソキノリン-3-カルボン酸 (1.06 g、3.03 mmol) および 1-ヒドロキシ-1H-ベンゾトリアゾール・水和物 (511 mg、3.34 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (5 mL) 懸濁液に 2 M ジメチルアミン/テトラヒドロフラン溶液 (1.8 mL、3.6 mmol) を加え、氷冷下 1-エチル-3-(3-ジメチルアミノプロピル)カルボジイミド塩酸塩 (756 mg、3.94 mmol) を加え、室温で 15 時間攪拌した。反応混合物に水および飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水で 2 回洗浄、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー（ヘキサン/酢酸エチル 1:1 の後 1:3）に供し、酢酸エチル-ジエチルエーテルから結晶化させて表題化合物 (915 mg、収率 80%) を得た。

融点 204-208 °C。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.39 (6H, s), 2.48 (2H, s), 3.13 (3H, s), 3.17 (3H, s), 4.05 (3H, s), 7.13 (1H, s), 7.35-7.50 (5H, m), 7.98 (1H, s)。

【0486】実施例 30

8,9-ジヒドロ-6-メトキシ-8,8-ジメチル-1-フェニル-N-(4-ピリジニル)フロ[2,3-h]イソキノリン-3-カルボキサミド
8,9-ジヒドロ-6-メトキシ-8,8-ジメチル-1-フェニルフロ[2,3-h]イソキノリン-3-カルボン酸 (364 mg、1.04 mmol) に塩化チオニル (1 mL) をゆっくり加え、15 分間加熱還流した。反応混合物を減圧濃縮し、トルエンを加え、再度減圧濃縮し、残渣をトルエン (1 mL) に懸濁した。この懸濁液を 4-アミノピリジン (147 mg、1.56 mmol) および炭酸水素ナトリウム (524 mg、6.24 mmol) のテトラヒドロフラン (5 mL) および水 (5 mL) 懸濁液に加え、室温で 2 時間攪拌した。反応混合物に水を加え、クロロホルムで 3 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー（ヘキサン/酢酸エチル 2:1）に供し、クロロホルム-ジエチルエーテルから再結晶して表題化合物 (108 mg、収率 24%) を得た。

^1H NMR (CDCl_3) δ 1.41 (6H, s), 2.49 (2H, s), 4.08 (3H, s), 7.28 (1H, s), 7.41-7.59 (5H, m), 7.71 (2H, d, $J = 6.2$ Hz), 8.53 (2H, d, $J = 6.2$ Hz), 8.59 (1H, s), 10.28 (1H, br s)。

実施例 3 1

8,9-ジヒドロ-6-メトキシ-8,8-ジメチル-1-フェニルフロ[2,3-h]イソキノリン-3-メタノール
3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-8,8-ジメチル-1-フェニルフロ[2,3-h]イソキノリン-3-メタノール (351 mg、1.04 mmol) のデカヒドロナフタレン (3 mL) 懸濁液に 10% パラジウム/炭素 (50% 含水品) (70 mg) を加え、窒素雰囲気下 180°C で 2.5 時間攪拌した。反応混合物に酢酸エチルを加え、触媒をろ過、ろ液を減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 3:1、1:1 の後 1:3) に供し、酢酸エチル-ヘキサンから結晶化させて表題化合物 (133 mg、収率 38%) を得た。

^1H NMR (CDCl_3) δ 1.38 (6H, s), 2.46 (2H, s), 3.30-3.45 (1H, br), 4.03 (3H, s), 4.86 (2H, br s), 7.06 (1H, s), 7.37-7.51 (5H, m), 7.52 (1H, s)。

(別途合成法) 8,9-ジヒドロ-6-メトキシ-8,8-ジメチル-1-フェニルフロ[2,3-h]イソキノリン-3-カルボン酸メチルエステル (1.82 g、5.01 mmol) のテトラヒドロフラン (30 mL) 懸濁液に -10 °C で 70% ジヒドロビス(2-メトキシエトキシ)アルミン酸ナトリウム/トルエン溶液 (2.9 mL、10 mmol) を滴下し、同温で 20 分間攪拌した。反応混合物にメタノール (5 mL) および 2 M 水酸化ナトリウム水溶液 (15 mL) を滴下、室温に昇温させた。有機層を分離し、水層を酢酸エチルで抽出した。合わせた有機層を水で 2 回洗浄、減圧濃縮した。残渣を酢酸エチル-ヘキサンから結晶化させて表題化合物 (1.41 g、収率 84%) を得た。

実施例 3 2

N-エチル-N-[(8,9-ジヒドロ-6-メトキシ-8,8-ジメチル-1-フェニルフロ[2,3-h]イソキノリン-3-イル)メチル]エタンアミン

8,9-ジヒドロ-6-メトキシ-8,8-ジメチル-1-フェニルフロ[2,3-h]イソキノリン-3-メタノール (336 mg、1.00 mmol) およびトリフェニルホスフィン (263 mg、1.00 mmol) のアセトニトリル (2 mL) 懸濁液に、ジエチルアミン (0.21 mL、2.0 mmol) および四塩化炭素 (0.15 mL、1.6 mmol) を加え、1.5 時間加熱還流した。反応混合物に 10% 酢酸水溶液およびジエチルエーテルを加え、水層を分離、有機層を 10% 酢酸水溶液で抽出した。合わせた水層を濃アンモニア水で中和、酢酸エチルで抽出した。有機層を減圧濃縮し、残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 3:1) に供し、酢酸エチル-ヘキサンから結晶化させて表題化合物 (154 mg、収率 39%) を得た。

^1H NMR (CDCl_3) δ 1.11 (6H, t, $J = 7.1$ Hz), 1.37 (6

H, s), 2.44 (2H, s), 2.67 (4H, q, $J = 7.1$ Hz), 3.89 (2H, s), 4.02 (3H, s), 7.08 (1H, s), 7.37-7.48 (5H, m), 7.73 (1H, s)。

【0487】実施例 3 3

3-(クロロメチル)-8,9-ジヒドロ-6-メトキシ-8,8-ジメチル-1-フェニルフロ[2,3-h]イソキノリン塩酸塩
8,9-ジヒドロ-6-メトキシ-8,8-ジメチル-1-フェニルフロ[2,3-h]イソキノリン-3-メタノール (2.47 g、7.36 mmol) の 1,2-ジクロロエタン (25 mL) 溶液に塩化チオニル (5.4 mL、74 mmol) を滴下し、室温で 2 時間攪拌した。反応混合物を減圧濃縮し、固体をジエチルエーテルで洗浄して表題化合物 (2.84 g、収率 99%) を得た。

^1H NMR (CDCl_3) δ 1.41 (6H, s), 2.49 (2H, s), 4.14 (3H, s), 5.43 (2H, s), 7.31 (1H, s), 7.49-7.72 (5H, m), 8.10 (1H, s)。

実施例 3 4

2-[(8,9-ジヒドロ-6-メトキシ-8,8-ジメチル-1-フェニルフロ[2,3-h]イソキノリン-3-イル)メチル]-1H-イソインドール-1,3(2H)-ジオン

3-(クロロメチル)-8,9-ジヒドロ-6-メトキシ-8,8-ジメチル-1-フェニルフロ[2,3-h]イソキノリン塩酸塩 (2.60 g、6.66 mmol) および臭化テトラブチルアンモニウム (215 mg、0.667 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (25 mL) 溶液に炭酸カリウム (1.39 g、10.1 mmol) およびフタルイミドカリウム (90%) (2.06 g、10.0 mmol) を加え、室温で 24 時間攪拌した。反応混合物に水を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水で 2 回洗浄、減圧濃縮した。残渣を酢酸エチル-ジエチルエーテルから結晶化させて表題化合物 (2.38 g、収率 77%) を得た。

^1H NMR (CDCl_3) δ 1.35 (6H, s), 2.43 (2H, s), 3.96 (3H, s), 5.18 (2H, s), 6.97 (1H, s), 7.32 (1H, s), 7.35-7.48 (5H, m), 7.71-7.82 (2H, m), 7.88-7.97 (2H, m)。

実施例 3 5

8,9-ジヒドロ-6-メトキシ-8,8-ジメチル-1-フェニルフロ[2,3-h]イソキノリン-3-メタンアミン

2-[(8,9-ジヒドロ-6-メトキシ-8,8-ジメチル-1-フェニルフロ[2,3-h]イソキノリン-3-イル)メチル]-1H-イソインドール-1,3(2H)-ジオン (2.15 g、4.63 mmol) のエタノール (25 mL) 懸濁液にヒドラジン-水和物 (0.52 mL、11 mmol) を加え、2.5 時間加熱還流した。反応混合物に 1 M 水酸化ナトリウム水溶液 (25 mL) を加え、水で希釈、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水で 2 回洗浄、減圧濃縮した。残渣を酢酸エチル-ヘキサンから結晶化させて表題化合物 (1.33 g、収率 86%) を得た。

^1H NMR (CDCl_3) δ 1.37 (6H, s), 2.44 (2H, s), 4.03 (3H, s), 4.08 (2H, s), 7.06 (1H, s), 7.35-7.49 (5H, m), 7.53 (1H, s)。

【0488】実施例 36

8,9-ジヒドロ-6-メトキシ-N,N,8,8-テトラメチル-1-フェニルプロ[2,3-h]イソキノリン-3-メタンアミン
8,9-ジヒドロ-6-メトキシ-8,8-ジメチル-1-フェニルプロ[2,3-h]イソキノリン-3-メタンアミン (400 mg、1.20 mmol) のギ酸 (1.5 mL) 溶液に 37% ホルムアルデヒド水溶液 (0.20 mL、2.7 mmol) を滴下し、100 °C で 2 時間攪拌した。反応混合物を減圧濃縮し、2 M 水酸化ナトリウム水溶液で中和、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水で 2 回洗浄、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 3:1) に供し、酢酸エチル-ヘキサンから結晶化させて表題化合物 (176 mg、収率 40%) を得た。
¹H NMR (CDCl₃) δ 1.37 (6H, s), 2.37 (6H, s), 2.44 (2H, s), 3.75 (2H, s), 4.02 (3H, s), 7.06 (1H, s), 7.35-7.47 (5H, m), 7.64 (1H, s)。

実施例 37

1-[4-(アセチルアミノ)フェニル]-8,9-ジヒドロ-6-メトキシ-8,8-ジメチルプロ[2,3-h]イソキノリン-3-カルボン酸 メチルエステル
3-(2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフラニル)-2-[(トリフェニルホスホラニリデン)アミノ]-2-プロペン酸 メチルエステル (2.40 g、4.46 mmol) および 4-(アセチルアミノ)ベンズアルデヒド (1.09 g、6.68 mmol) のニトロベンゼン (40 mL) 溶液を窒素雰囲気下 170 °C で 23 時間攪拌した。反応混合物を減圧濃縮し、残渣を酢酸エチルに溶解、2 M 塩酸で 2 回抽出した。合わせた水層をジイソプロピルエーテルで洗浄、濃アンモニア水で中和、クロロホルム-メタノール混合液で 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣に酢酸エチル-ジイソプロピルエーテルを加えて結晶化させて表題化合物 (291 mg、収率 16%) を得た。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.31 (6H, s), 2.10 (3H, s), 2.52 (2H, s), 3.88 (3H, s), 3.96 (3H, s), 7.33 (2H, d, J = 8.4 Hz), 7.68 (1H, s), 7.72 (2H, d, J = 8.4 Hz), 8.51 (1H, s), 10.31 (1H, s)。

実施例 38

1-(3-ブロモフェニル)-8,9-ジヒドロ-6-メトキシ-8,8-ジメチルプロ[2,3-h]イソキノリン-3-カルボン酸 メチルエステル
2-アジド-3-[4-(3-ブロモベンゾイル)-2,3-ジヒドロ-7-メトキシ-2,2-ジメチル-5-ベンゾフラニル]-2-プロペン酸 メチルエステル (878 mg、1.81 mmol) のトルエン (18 mL) 溶液に亜リン酸トリエチル (0.34 mL、2.0 mmol) を加え、室温で 3 時間、50 °C で 30 分間攪拌した。得られた混合物に亜リン酸トリエチル (0.10 mL、0.58 mmol) を加え、50 °C で 1.5 時間攪拌した。反応混合物を減圧濃縮し、クロロホルム-ジエチルエーテルから再

結晶して表題化合物 (614 mg、収率 77%) を得た。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.42 (6H, br s), 2.50 (2H, s), 4.01 (3H, s), 4.06 (3H, s), 7.23 (1H, s), 7.25-7.37 (2H, m), 7.58-7.64 (2H, m), 8.50 (1H, s)。

【0489】実施例 39

1-(3-アミノフェニル)-8,9-ジヒドロ-6-メトキシ-8,8-ジメチルプロ[2,3-h]イソキノリン-3-カルボン酸 メチルエステル
1-(3-ブロモフェニル)-8,9-ジヒドロ-6-メトキシ-8,8-ジメチルプロ[2,3-h]イソキノリン-3-カルボン酸 メチルエステル (664 mg、1.50 mmol)、ベンゾフェノンイミン (327 mg、1.80 mmol)、トリス(ジベンジリデンアセトン)ニパラジウム (14 mg、0.015 mmol)、2,2'-ビス(ジフェニルホスフィノ)-1,1'-ビナフチル (28 mg、0.045 mmol) およびナトリウム tert-ブトキシド (202 mg、2.10 mmol) のトルエン (3 mL) 懸濁液を窒素雰囲気下 80 °C で 3 時間攪拌した。反応混合物に氷水を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をテトラヒドロフラン (15 mL) に溶解し、2 M 塩酸 (1 mL) を加え、室温で 10 分間攪拌した。反応混合物に水を加え、飽和炭酸水素ナトリウム水溶液で中和、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を 1 M 塩酸で抽出し、抽出液を濃アンモニア水で中和、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水で洗浄、減圧濃縮し、得られた結晶をジエチルエーテルで洗浄して表題化合物 (180 mg、収率 32%) を得た。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.40 (3H, s), 1.43 (3H, s), 2.54 (1H, d, J = 16.3 Hz), 2.70 (1H, d, J = 16.3 Hz), 3.75 (2H, br s), 4.00 (3H, s), 4.06 (3H, s), 6.71-6.81 (3H, m), 7.15-7.26 (2H, m), 8.48 (1H, s)。

実施例 40

1-(4'-アミノ[1,1'-ビフェニル]-3-イル)-8,9-ジヒドロ-6-メトキシ-8,8-ジメチルプロ[2,3-h]イソキノリン-3-カルボン酸 メチルエステル

1-(3-ブロモフェニル)-8,9-ジヒドロ-6-メトキシ-8,8-ジメチルプロ[2,3-h]イソキノリン-3-カルボン酸 メチルエステル (443 mg、1.00 mmol)、4'-(4,4,5,5-テトラメチル-1,3,2-ジオキサボロラン-2-イル)アニリン (263 mg、1.20 mmol)、炭酸ナトリウム (159 mg、1.50 mmol) およびテトラキス(トリフェニルホスフィン)パラジウム(0) (24 mg、0.021 mmol) の 1,2-ジメトキシエタン (4 mL) および水 (1.5 mL) の懸濁液を窒素雰囲気下 80 °C で 14 時間攪拌した。反応混合物に水を加え、クロロホルムで 3 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム-塩基性シリカゲルを通して乾燥 (ヘキサン/酢酸エチル 1:1 の後 1:2 で溶出)、減圧濃縮した。残渣をクロロホルム-酢酸エチルから再結晶して表題化合物 (317 mg、収率 70

%)を得た。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.36 (3H, s), 1.39 (3H, s), 2.53 (2H, s), 3.74 (2H, brs), 4.01 (3H, s), 4.06 (3H, s), 6.75 (2H, d, J = 8.8 Hz), 7.23 (1H, s), 7.32 (1H, dt, J = 7.3, 3.0 Hz), 7.42-7.51 (3H, m), 7.58 (1H, t, J = 3.0 Hz), 7.63 (1H, dt, J = 7.9, 3.0 Hz), 8.51 (1H, s)。

実施例 4 1

1-[4'-(アセチルアミノ)[1,1'-ビフェニル]-3-イル]-8,9-ジヒドロ-6-メトキシ-8,8-ジメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-3-カルボン酸 メチルエステル

1-(4'-アミノ[1,1'-ビフェニル]-3-イル)-8,9-ジヒドロ-6-メトキシ-8,8-ジメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-3-カルボン酸 メチルエステル (200 mg, 0.440 mmol) のテトラヒドロフラン (1 mL) およびクロロホルム (3 mL) 溶液に水浴上でトリエチルアミン (80 μL, 0.57 mmol) およびアセチルクロリド (38 μL, 0.53 mmol) を滴下し、10 分間攪拌した。反応混合物に水および飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、クロロホルムで 2 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣をクロロホルム-酢酸エチル-ジエチルエーテルから結晶化させて表題化合物 (191 mg, 収率 87%) を得た。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.35 (3H, s), 1.40 (3H, s), 2.08 (3H, s), 2.45 (1H, d, J = 16.3 Hz), 2.58 (1H, d, J = 16.3 Hz), 4.00 (3H, s), 4.07 (3H, s), 7.24-7.63 (9H, m), 8.36 (1H, br s), 8.54 (1H, s)。

【0490】実施例 4 2

1-(3-ブロモフェニル)-8,9-ジヒドロ-6-メトキシ-8,8-ジメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-3-メタノール

1-(3-ブロモフェニル)-8,9-ジヒドロ-6-メトキシ-8,8-ジメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-3-カルボン酸 メチルエステル (1.11 g, 2.51 mmol) のテトラヒドロフラン (15 mL) 懸濁液に -5 °C で 70% ジヒドロビス(2-メトキシエトキシ)アルミン酸ナトリウム/トルエン溶液 (1.5 mL, 5.3 mmol) を滴下、同温で 15 分間攪拌した。反応混合物にメタノール (2.5 mL) および 2 M 水酸化ナトリウム水溶液 (7.5 mL) を加え、室温に昇温した。得られた混合物に酢酸エチルを加え、水層を分離、有機層を水で 2 回洗浄、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 2:1、1:1 の後 1:2) に供し、酢酸エチル-ジエチルエーテルから結晶化させて表題化合物 (688 mg, 収率 66%) を得た。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.41 (3H, s), 1.42 (3H, s), 2.51 (2H, s), 3.25 (1H, t, J = 5.3 Hz), 4.04 (3H, s), 4.86 (2H, d, J = 5.3 Hz), 7.07 (1H, s), 7.33-7.40 (2H, m), 7.54-7.65 (3H, m)。

実施例 4 3

1-(3-ブロモフェニル)-3-(クロロメチル)-8,9-ジヒドロ-6-メトキシ-8,8-ジメチル-1-フェニルフロ[2,3-h]イソキノリン塩酸塩

1-(3-ブロモフェニル)-8,9-ジヒドロ-6-メトキシ-8,8-ジメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-3-メタノール (4.74 g, 11.4 mmol) の 1,2-ジクロロエタン (35 mL) 懸濁液に水浴上で塩化チオニル (4.2 mL, 58 mmol) を滴下、室温で 50 分間攪拌した。反応混合物を減圧濃縮し、残渣を 1,2-ジクロロエタン-ジエチルエーテルから結晶化させて表題化合物 (5.27 g, 収率 99%) を得た。
¹H NMR (CDCl₃) δ 1.42 (3H, s), 1.50 (3H, s), 2.44 (1H, d, J = 16.5 Hz), 2.63 (1H, d, J = 16.5 Hz), 4.16 (3H, s), 5.42 (2H, s), 7.33 (1H, s), 7.45-7.67 (3H, m), 7.76-7.84 (1H, m), 8.14 (1H, s)。

実施例 4 4

2-[[1-(3-ブロモフェニル)-8,9-ジヒドロ-6-メトキシ-8,8-ジメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-3-イル]メチル]-1H-イソインドール-1,3(2H)-ジオン

1-(3-ブロモフェニル)-3-(クロロメチル)-8,9-ジヒドロ-6-メトキシ-8,8-ジメチル-1-フェニルフロ[2,3-h]イソキノリン塩酸塩 (5.02 g, 10.7 mmol) および臭化テトラブチルアンモニウム (345 mg, 1.07 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (40 mL) 溶液に炭酸カリウム (2.2 g, 16.1 mmol) およびフタルイミドカリウム (90%) (3.31 g, 16.1 mmol) を加え、室温で 14 時間攪拌した。反応混合物に酢酸エチルおよび水を加え、有機層を分離、水層を酢酸エチルで抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム-シリカゲルを通して乾燥 (酢酸エチルで溶出) 減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 3:1 の後 2:1) に供し、アセトン-ジエチルエーテルから再結晶して表題化合物 (4.27 g, 収率 73%) を得た。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.39 (6H, br s), 2.48 (2H, s), 3.97 (3H, s), 5.17 (2H, s), 6.98 (1H, s), 7.28-7.44 (3H, m), 7.55-7.63 (2H, m), 7.72-7.82 (2H, m), 7.88-7.98 (2H, m)。

【0491】実施例 4 5

1-(3-ブロモフェニル)-8,9-ジヒドロ-6-メトキシ-8,8-ジメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-3-メタンアミン

2-[[1-(3-ブロモフェニル)-8,9-ジヒドロ-6-メトキシ-8,8-ジメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-3-イル]メチル]-1H-イソインドール-1,3(2H)-ジオン (4.69 g, 8.63 mmol) のエタノール (50 mL) 懸濁液にヒドラジン-水和物 (0.97 mL, 20 mmol) を加え、2 時間加熱還流した。反応混合物に 1 M 水酸化ナトリウム水溶液 (20 mL) を加え、水で希釈、酢酸エチルで 3 回抽出した。合わせた有機層を水で 2 回洗浄、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (酢酸エチルの後酢酸エチル/メタノール 10:1) に供し、酢酸エチル-ヘキ

サンから結晶化させて表題化合物 (2.70 g、収率 76%) を得た。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.41 (6H, br s), 2.49 (2H, s), 4.03 (3H, s), 4.08 (2H, s), 7.06 (1H, s), 7.28-7.39 (2H, m), 7.55 (1H, s), 7.56-7.63 (2H, m)。

実施例 4 6

[[1-(3-ブロモフェニル)-8,9-ジヒドロ-6-メトキシ-8,8-ジメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-3-イル]メチル]カルバミン酸 1,1-ジメチルエチルエステル

1-(3-ブロモフェニル)-8,9-ジヒドロ-6-メトキシ-8,8-ジメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-3-メタンアミン (2.28 g、5.52 mmol) の酢酸エチル (10 mL) 溶液に氷冷下、二炭酸ジ-tert-ブチル (1.33 g、6.09 mmol) の酢酸エチル (2 mL) 溶液の約半量を加え、室温に昇温、発泡後、残りの溶液を加えた。得られた混合物を室温で 5 分間攪拌し、減圧濃縮した。残渣を酢酸エチル-ヘキサンから結晶化させて表題化合物 (2.74 g、収率 97%) を得た。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.41 (6H, br s), 1.47 (9H, s), 2.49 (2H, s), 4.03 (3H, s), 4.53 (2H, d, $J = 5.4$ Hz), 5.30-5.50 (1H, br), 7.06 (1H, s), 7.32-7.40 (2H, m), 7.52-7.65 (3H, m)。

実施例 4 7

[[1-(3-アミノフェニル)-8,9-ジヒドロ-6-メトキシ-8,8-ジメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-3-イル]メチル]カルバミン酸 1,1-ジメチルエチルエステル

[[1-(3-ブロモフェニル)-8,9-ジヒドロ-6-メトキシ-8,8-ジメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-3-イル]メチル]カルバミン酸 1,1-ジメチルエチルエステル (2.60 g、5.06 mmol)、ベンゾフェノンイミン (1.10 g、6.07 mmol)、トリス(ジベンジリデンアセトン)ニパラジウム (116 mg、0.127 mmol)、2,2'-ビス(ジフェニルホスフィノ)-1,1'-ビナフチル (237 mg、0.381 mmol) およびナトリウム tert-ブトキシド (681 mg、7.09 mmol) のトルエン (10 mL) 懸濁液を窒素雰囲気下 80°C で 14 時間攪拌した。反応混合物に水を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水で洗浄、ろ過、減圧濃縮した。残渣をテトラヒドロフラン (50 mL) に溶解し、氷冷下 1 M 塩酸 (10 mL) を加え、同温で 40 分間攪拌した。反応混合物に水を加え、飽和炭酸水素ナトリウム水溶液で中和、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水で洗浄、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 3:1 の後 1:1) に供し、酢酸エチル-ヘキサンから結晶化させて表題化合物 (1.28 g、収率 56%) を得た。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.34 (3H, br s), 1.40 (3H, br s), 1.47 (9H, s), 2.52 (1H, d, $J = 16.3$ Hz), 2.66 (1H, d, $J = 16.3$ Hz), 3.76 (2H, br s), 4.02 (3H, s), 4.52 (2H, d, $J = 6.0$ Hz), 5.35-5.53 (1H, br), 6.70-6.81 (3H, m), 7.04 (1H, s), 7.18-7.28 (1H, m),

7.51 (1H, s)。

【0492】実施例 4 8

[[4-[[[3-[3-[[[1,1-ジメチルエトキシ]カルボニル]アミノ]メチル]-8,9-ジヒドロ-6-メトキシ-8,8-ジメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル]フェニル]アミノ]カルボニル]フェニル]メチル]ホスホン酸 ジエチルエステル

[[1-(3-アミノフェニル)-8,9-ジヒドロ-6-メトキシ-8,8-ジメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-3-イル]メチル]カルバミン酸 1,1-ジメチルエチルエステル (1.00 g、2.22 mmol)、4-[(ジエトキシホスフィニル)メチル]安息香酸 (666 mg、2.45 mmol) および 1-ヒドロキシ-1H-ベンゾトリアゾール-水和水物 (375 mg、2.45 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (10 mL) 溶液に 1-エチル-3-(3-ジメチルアミノプロピル)カルボジイミド塩酸塩 (554 mg、2.89 mmol) およびトリエチルアミン (0.35 mL、2.5 mmol) を加え、室温で 24 時間攪拌した。反応混合物に水および飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水で 2 回洗浄、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 1:1 の後酢酸エチル) に供し、表題化合物 (1.49 g、収率 95%) を得た。

非晶質。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.24 (6H, t, $J = 7.0$ Hz), 1.39 (3H, br s), 1.40 (3H, brs), 1.42 (9H, s), 2.56 (1H, d, $J = 16.3$ Hz), 2.65 (1H, d, $J = 16.3$ Hz), 2.20 (2H, d, $J = 22.0$ Hz), 3.93-4.10 (4H, m), 4.03 (3H, s), 4.50 (2H, d, $J = 6.0$ Hz), 5.38-5.51 (1H, m), 7.05 (1H, s), 7.16 (1H, d, $J = 7.8$ Hz), 7.35-7.50 (3H, m), 7.53 (1H, s), 7.62 (1H, t, $J = 1.6$ Hz), 7.80-7.92 (3H, m), 8.25 (1H, br s)。

実施例 4 9

[[4-[[[3-[3-(アミノメチル)-8,9-ジヒドロ-6-メトキシ-8,8-ジメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル]フェニル]アミノ]カルボニル]フェニル]メチル]ホスホン酸 ジエチルエステル

[[4-[[[3-[3-[[[1,1-ジメチルエトキシ]カルボニル]アミノ]メチル]-8,9-ジヒドロ-6-メトキシ-8,8-ジメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル]フェニル]アミノ]カルボニル]フェニル]メチル]ホスホン酸 ジエチルエステル (1.05 g、1.49 mmol) のエタノール (5 mL) および酢酸エチル (20 mL) 溶液に 4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液 (1.1 mL) を加え、3 時間加熱還流した。得られた混合物に 4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液 (0.4 mL) を加え、さらに 4 時間加熱還流した。反応混合物を減圧濃縮し、残渣に水を加え、飽和炭酸水素ナトリウム水溶液で中和、クロロホルムで 2 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲル

カラムクロマトグラフィー（クロロホルム/メタノール 10:1）に供し、酢酸エチルーヘキサンから結晶化させて表題化合物（718 mg、収率 80%）を得た。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.25 (6H, s), 1.39 (3H, s), 1.41 (3H, s), 2.62 (2H, s), 3.21 (2H, d, $J = 22.0$ Hz), 3.94-4.10 (4H, m), 4.03 (3H, s), 4.07 (2H, s), 7.05 (1H, s), 7.14-7.21 (1H, m), 7.37-7.51 (3H, m), 7.53 (1H, s), 7.65 (1H, t, $J = 1.9$ Hz), 7.79-7.91 (3H, m), 8.10 (1H, br s)。

実施例 5 0

4'-(アセチルアミノ)-5-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-2-カルボン酸 メチルエステル

2-ヨード-4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)安息香酸 メチルエステル (182 mg, 0.350 mmol)、4'-(4,4,5,5-テトラメチル-1,3,2-ジオキサボロラン-2-イル)アセトアニリド (183mg, 0.701 mmol)、ジクロロビス(トリフェニルホスフィン)パラジウム(II) (25mg, 0.036 mmol) および炭酸セシウム (228 mg, 0.700 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (1 mL) 懸濁液を窒素雰囲気下 80 °C で 2 時間撹拌した。反応混合物に水を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム塩基性シリカゲルを通して乾燥（酢酸エチルで溶出）、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー（ヘキサン/酢酸エチル 2:1 の後 1:1）に供し、メタノール-ジエチルエーテルから再結晶して表題化合物 (113 mg、収率 61%) を得た。

$^1\text{H NMR}$ ($\text{DMSO}-d_6$) δ 1.14 (6H, s), 1.22 (6H, s), 2.06 (3H, s), 2.31 (2H, s), 2.64 (2H, s), 3.64 (3H, s), 3.81 (3H, s), 6.83 (1H, s), 7.23 (2H, d, $J = 8.4$ Hz), 7.31 (1H, s), 7.43 (1H, d, $J = 7.7$ Hz), 7.62 (2H, d, $J = 8.4$ Hz), 7.79 (1H, d, $J = 7.7$ Hz), 10.03 (1H, br s)。

【0493】実施例 5 1

4'-(アセチルアミノ)-5-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-2-カルボン酸

4'-(アセチルアミノ)-5-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-2-カルボン酸 メチルエステル (1.12 g, 2.13 mmol) のメタノール (10 mL) 懸濁液に 5 M 水酸化ナトリウム水溶液 (0.86 mL, 4.3 mmol) を加え、65 °C で 1 時間撹拌後、2.5 時間加熱還流した。得られた混合物に 5 M 水酸化ナトリウム水溶液 (0.22 mL, 1.1 mmol) を加え、1.5 時間加熱還流した。反応混合物に氷冷下、1 M 塩酸 (5.4 mL) を加え、析出した結晶をろ取、冷水で洗浄して表題化合物 (884 mg、

収率 81%) を得た。

$^1\text{H NMR}$ ($\text{DMSO}-d_6$) δ 1.14 (6H, s), 1.22 (6H, s), 2.05 (3H, s), 2.32 (2H, s), 2.63 (2H, s), 3.80 (3H, s), 6.81 (1H, s), 7.24 (2H, d, $J = 8.3$ Hz), 7.25 (1H, d, $J = 1.6$ Hz), 7.39 (1H, dd, $J = 8.0, 1.6$ Hz), 7.59 (2H, d, $J = 8.3$ Hz), 7.76 (1H, d, $J = 8.0$ Hz), 10.00 (1H, s), 12.70-13.00 (1H, br)。

実施例 5 2

4'-(アセチルアミノ)-5-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-2-カルボキサミド

4'-(アセチルアミノ)-5-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-2-カルボン酸 (692 mg, 1.35 mmol)、1-ヒドロキシ-1H-ベンゾトリアゾール・アンモニウム塩 (216 mg, 1.42 mmol) および 1-エチル-3-(3-ジメチルアミノプロピル)カルボジイミド塩酸塩 (285 mg, 1.49 mmol) を N,N-ジメチルホルムアミド (2 mL) に溶解し、この混合物を室温で 1.5 時間撹拌した。反応混合物に水を加え、析出した固体をろ過、水およびジエチルエーテルで洗浄した。ろ液を酢酸エチルで 2 回抽出し、合わせた有機層を水で 2 回洗浄、減圧濃縮した。残渣と上記で得られた固体を合わせてメタノール-ジエチルエーテルから再結晶して表題化合物 (496 mg、収率 72%) を得た。

$^1\text{H NMR}$ ($\text{DMSO}-d_6$) δ 1.13 (6H, s), 1.23 (6H, s), 2.05 (3H, s), 2.36 (2H, s), 2.63 (2H, s), 3.81 (3H, s), 6.82 (1H, s), 7.26 (1H, d, $J = 1.6$ Hz), 7.33 (2H, d, $J = 8.6$ Hz), 7.33-7.37 (1H, m), 7.34 (1H, dd, $J = 8.0, 1.6$ Hz), 7.46 (1H, d, $J = 8.0$ Hz), 7.59 (2H, d, $J = 8.6$ Hz), 7.63 (1H, br s), 10.01 (1H, s)。

実施例 5 3

4'-(アセチルアミノ)-5-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-2-カルボキサミド塩酸塩

4'-(アセチルアミノ)-5-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-2-カルボキサミド (67 mg, 0.13 mmol) のメタノール (1 mL) 懸濁液に 1.3 M 塩化水素/メタノール溶液 (0.15 mL, 0.20 mmol) を加えて撹拌した。得られた溶液を減圧濃縮して表題化合物 (71 mg、定量的) を得た。

非晶質。

$^1\text{H NMR}$ ($\text{DMSO}-d_6$) δ 1.23 (3H, br s), 1.29 (3H, br s), 1.42 (3H, br s), 1.47 (3H, br s), 2.06 (3H, s), 2.29 (1H, d, $J = 13.8$ Hz), 2.34-2.44 (1H, m), 3.12 (1H, d, $J = 15.0$ Hz), 3.20 (1H, d, $J = 15.0$ Hz), 3.94 (3H, s), 7.09 (1H, s), 7.42 (2H, d, $J = 8.7$ Hz), 7.559 (1H, br s), 7.561 (1H, dd, $J = 7.8,$

1.5 Hz), 7.60-7.66 (4H, m), 7.81 (1H, br s), 10.09 (1H, br s), 12.50-12.65 (1H, br).

【0494】実施例54

N-[2'-シアノ-5'-(テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチル-3,4,8,9フロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-イル]アセトアミド

4'-(アセチルアミノ)-5-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-2-カルボキサミド (435 mg, 0.850 mmol) およびトリエチルアミン (0.14 mL, 1.0 mmol) のテトラヒドロフラン (2 mL) 懸濁液に、氷冷下トリフルオロ酢酸無水物 (0.14 mL, 0.99 mmol) を滴下、同温で 1.5 時間攪拌した。得られた混合物にトリエチルアミン (0.14 mL, 1.0 mmol) およびトリフルオロ酢酸無水物 (0.14 mL, 0.99 mmol) を滴下し、氷冷下で 2 時間、室温で 4.5 時間攪拌した。反応混合物に水と 1 M 水酸化ナトリウム水溶液 (3 mL, 3 mmol) を加え、5 分間攪拌し、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水で 2 回洗浄、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (酢酸エチル) に供し、酢酸エチル-ジエチルエーテルから結晶化させて表題化合物 (300 mg, 収率 72%) を得た。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.26 (6H, s), 1.35 (6H, s), 2.20 (3H, s), 2.27 (2H, s), 2.70 (2H, s), 3.93 (3H, s), 6.63 (1H, s), 7.37 (1H, br s), 7.48 (1H, dd, J = 7.9, 1.7 Hz), 7.49-7.55 (3H, m), 7.64 (2H, d, J = 9.0 Hz), 7.79 (1H, d, J = 7.9 Hz)。

実施例55

4'-(アセチルアミノ)-5-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-4,4,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-2-カルボン酸 メチルエステル
2-ヨード-4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-4,4,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)安息香酸 メチルエステル (1.56 g, 3.00 mmol)、4'-(4,4,5,5-テトラメチル-1,3,2-ジオキサボロラン-2-イル)アセトアニリド (1.33g, 5.09 mmol)、ジクロロビス(トリフェニルホスフィン)パラジウム(II) (211 mg, 0.302 mmol) および炭酸セシウム (1.96 g, 6.02 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (9 mL) 懸濁液を窒素雰囲気下 80 °C で 3.5 時間攪拌した。反応混合物に酢酸エチルと水を加え、有機層を分離、水層を酢酸エチルで抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム-塩基性シリカゲルを通して乾燥 (酢酸エチルで溶出)、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 2:1、1:1、酢酸エチルの後、酢酸エチル/メタノール 10:1) に供し、酢酸エチル-ジエチルエーテルから結晶化させて表題化合物 (1.00 g, 収率 63%) を得た。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.27 (6H, s), 1.33 (6H, s), 2.18

(3H, s), 2.35 (2H, s), 3.64 (2H, s), 3.69 (3H, s), 3.94 (3H, s), 6.79 (1H, s), 7.25 (2H, d, J = 8.6 Hz), 7.31 (1H, br s), 7.42 (1H, d, J = 1.7 Hz), 7.47 (1H, dd, J = 7.9, 1.7 Hz), 7.52 (2H, d, J = 8.6 Hz), 7.88 (1H, d, J = 7.9 Hz)。

実施例56

4'-(アセチルアミノ)-5-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-4,4,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-2-カルボン酸

4'-(アセチルアミノ)-5-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-4,4,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-2-カルボン酸 メチルエステル (790 mg, 1.50 mmol) のメタノール (5 mL) 懸濁液に 5 M 水酸化ナトリウム水溶液 (0.78 mL, 3.9 mmol) を加え、1.5 時間加熱還流した。反応混合物を氷冷し、1 M 塩酸 (3.9 mL) を加え、析出した結晶をろ取、水洗して表題化合物 (709 mg, 収率 92%) を得た。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.19 (6H, s), 1.22 (6H, s), 2.06 (3H, s), 2.34 (2H, s), 3.52 (2H, s), 3.85 (3H, s), 6.91 (1H, s), 7.27 (2H, d, J = 8.4 Hz), 7.31 (1H, d, J = 1.5 Hz), 7.43 (1H, dd, J = 7.8, 1.5 Hz), 7.60 (2H, d, J = 8.4 Hz), 7.78 (1H, d, J = 7.8 Hz), 10.03 (1H, s), 12.70-12.97 (1H, br)。

【0495】実施例57

4'-(アセチルアミノ)-5-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-4,4,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-2-カルボン酸塩酸塩

4'-(アセチルアミノ)-5-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-4,4,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-2-カルボン酸 (708 mg, 1.38 mmol) のメタノール (7 mL) およびクロロホルム (3 mL) 懸濁液に 1.3M 塩化水素/メタノール溶液 (1.6 mL, 2.1 mmol) を加え、減圧濃縮した。残渣をメタノール-ジエチルエーテルから結晶化させて表題化合物 (715 mg, 収率 94%) を得た。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.22 (3H, br s), 1.30 (3H, br s), 1.33 (3H, br s), 1.38 (3H, br s), 2.07 (3H, s), 2.25-2.50 (2H, m), 3.60-3.80 (2H, m), 4.00 (3H, s), 7.16 (1H, s), 7.38 (2H, d, J = 8.4 Hz), 7.64-7.72 (3H, m), 7.74 (1H, s), 7.91 (1H, d, J = 7.8 Hz), 10.13 (1H, br s)。

実施例58

4'-[(メチルアミノ)カルボニル]-5-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-4,4,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-2-カルボン酸 メチルエステル

2-ヨード-4-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-4,4,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)安息香酸 メチルエステル (520 mg, 1.00 mmol)、N-メチル-4-(4,4,5,5-テトラメチル-1,3,2-ジオキサボロラン-2-

イル)ベンズアミド(314 mg, 1.20 mmol)、ジクロロビス(トリフェニルホスフィン)パラジウム(II)(70 mg, 0.10 mmol) および炭酸セシウム(652 mg, 2.00 mmol)のN,N-ジメチルホルムアミド(3.5 mL)懸濁液を窒素雰囲気下100℃で4時間攪拌した。反応混合物に氷水を加え、酢酸エチルで2回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム-塩基性シリカゲルを通して乾燥(酢酸エチルで溶出)、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー(ヘキサン/酢酸エチル1:1の後1:3)に供し、酢酸エチル-ヘキサンから結晶化させて表題化合物(429 mg、収率81%)を得た。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.27 (6H, s), 1.34 (6H, s), 2.35 (2H, s), 3.04 (3H, d, $J = 4.8$ Hz), 3.65 (2H, s), 3.67 (3H, s), 3.95 (3H, s), 6.16-6.26 (1H, m), 6.80 (1H, s), 7.37 (2H, d, $J = 8.4$ Hz), 7.45 (1H, d, $J = 1.4$ Hz), 7.53 (1H, dd, $J = 7.9, 1.4$ Hz), 7.79 (2H, d, $J = 8.4$ Hz), 7.96 (1H, d, $J = 7.8$ Hz)。

実施例59

4'-[(メチルアミノ)カルボニル]-5-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-4,4,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-2-カルボン酸 4'-[(メチルアミノ)カルボニル]-5-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-4,4,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-2-カルボン酸メチルエステル(264 mg, 0.501 mmol)のメタノール(1 mL)懸濁液に5 M水酸化ナトリウム水溶液(0.26 mL, 1.3 mmol)を加え、100℃で50分間攪拌した。反応混合物に1 M塩酸(1.3 mL, 1.3 mmol)を加え、析出した結晶をろ取、水洗して表題化合物(236 mg、収率92%)を得た。

$^1\text{H NMR}$ ($\text{DMSO}-d_6$) δ 1.19 (6H, s), 1.23 (6H, s), 2.34 (2H, s), 2.80 (3H, d, $J = 4.5$ Hz), 3.52 (2H, s), 3.84 (3H, s), 6.91 (1H, s), 7.33 (1H, d, $J = 1.7$ Hz), 7.42 (2H, d, $J = 8.3$ Hz), 7.50 (1H, dd, $J = 8.0, 1.7$ Hz), 7.857 (2H, d, $J = 8.3$ Hz), 7.862 (1H, d, $J = 8.0$ Hz), 8.74 (1H, q, $J = 4.5$ Hz), 12.98 (1H, br s)。

【0496】実施例60

3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-オール

1-(3-ブロモフェニル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン(829 mg, 2.00 mmol)、4-(4,4,5,5-テトラメチル-1,3,2-ジオキサボロラン-2-イル)フェノール(484 mg, 2.20 mmol)、炭酸ナトリウム(276 mg, 2.60 mmol)およびテトラキス(トリフェニルホスフィン)パラジウム(0)(47 mg, 0.041 mmol)の1,2-ジメトキシエタン(4 mL)、エタノール(2 mL)および水(2 mL)懸濁液を窒素雰囲気

下85℃で16時間攪拌した。反応混合物に水を加え、酢酸エチルおよびクロロホルムで抽出した。合わせた有機層にメタノールおよびクロロホルムを加え、加熱後不溶物をろ過、ろ液を減圧濃縮した。残渣をクロロホルムに溶解し、水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム-塩基性シリカゲルを通して乾燥(酢酸エチルで溶出)、減圧濃縮した。残渣を酢酸エチル-ジエチルエーテルから結晶化させて表題化合物(755 mg、収率88%)を得た。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.30 (6H, s), 1.36 (3H, br s), 1.64 (3H, br s), 2.25 (2H, s), 2.76 (2H, br s), 3.94 (3H, s), 6.64 (1H, s), 6.70 (2H, d, $J = 8.1$ Hz), 7.16-7.25 (3H, m), 7.33-7.40 (1H, m), 7.46-7.52 (2H, m)。

実施例61

[[3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-イル]オキシ]酢酸メチルエステル

3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-オール(641 mg, 1.50 mmol)およびプロモ酢酸メチル(0.17 mL, 1.8 mmol)のN,N-ジメチルホルムアミド(3 mL)溶液に炭酸カリウム(270 mg, 1.95 mmol)を加え、室温で76時間攪拌した。反応混合物に水を加え、酢酸エチルで2回抽出した。合わせた有機層を水で2回洗浄、減圧濃縮して表題化合物(729 mg、収率97%)を得た。

非晶質。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.26 (6H, s), 1.29 (6H, s), 2.25 (2H, s), 2.70 (2H, s), 3.81 (3H, s), 3.92 (3H, s), 4.67 (2H, s), 6.61 (1H, s), 6.95 (2H, d, $J = 8.7$ Hz), 7.32 (1H, dt, $J = 7.5, 1.4$ Hz), 7.42 (1H, td, $J = 7.5, 1.4$ Hz), 7.50-7.57 (4H, m)。

実施例62

[[3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-イル]オキシ]酢酸

[[3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-イル]オキシ]酢酸メチルエステル(700 mg, 1.40 mmol)のメタノール(3 mL)溶液に5 M水酸化ナトリウム水溶液(0.70 mL, 3.5 mmol)を加え、80℃で15分間攪拌した。反応混合物を氷冷し、1 M塩酸(3.5 mL, 3.5 mmol)を加え、クロロホルムで2回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮して表題化合物(640 mg、収率94%)を得た。

非晶質。

$^1\text{H NMR}$ ($\text{DMSO}-d_6$) δ 1.19 (12H, s), 2.26 (2H, s), 2.71 (2H, s), 3.83 (3H, s), 4.71 (2H, s), 6.85 (1H,

s), 7.00 (2H, s, J = 8.7 Hz), 7.30 (1H, d, J = 7.8 Hz), 7.49 (1H, t, J = 7.8 Hz), 7.56 (1H, s), 7.62 (2H, d, J = 8.7 Hz), 7.72 (1H, d, J = 7.8 Hz), 12.70-13.30 (1H, br)。

【0497】実施例 6 3

N-メチル-2-[[3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-イル]オキシ]アセトアミド [[3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-イル]オキシ]酢酸 (270 mg, 0.556 mmol)、1-ヒドロキシ-1H-ベンゾトリアゾール-水合物 (94 mg, 0.61 mmol) および 40% メチルアミン/メタノール溶液 (86 mg, 1.1 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (1.5 mL) 溶液に 1-エチル-3-(3-ジメチルアミノプロピル)カルボジイミド塩酸塩 (139 mg, 0.725 mmol) を加え、室温で 68 時間攪拌した。反応混合物に水および飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム-塩基性シリカゲルを通して乾燥 (酢酸エチルで溶出)、減圧濃縮した。残渣を酢酸エチル-ヘキサンから結晶化させて表題化合物 (155 mg、収率 56%) を得た。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.26 (6H, s), 1.29 (6H, s), 2.25 (2H, s), 2.70 (2H, s), 2.92 (3H, d, J = 4.8 Hz), 3.92 (3H, s), 4.53 (2H, s), 6.52-6.66 (1H, m), 6.61 (1H, s), 6.96 (2H, d, J = 7.8 Hz), 7.34 (1H, dt, J = 7.5, 1.5 Hz), 7.39-7.46 (1H, m), 7.52-7.58 (4H, m)。

実施例 6 4

4-(アセチルアミノ)-3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-2-カルボン酸 メチルエステル

5-(アセチルアミノ)-2-ブロモ安息香酸 メチルエステル (3.40 g, 12.5 mmol)、トリエチルアミン (5.3 mL, 38 mmol)、ヨウ化テトラエチルアンモニウム (321mg, 1.25 mmol) および [1,1'-ビス(ジフェニルホスフィノ)フェロセン]ジクロロパラジウム(II)・ジクロロメタン錯体 (1.02 g, 1.25 mmol) の 1,4-ジオキサン (30 mL) 懸濁液に 4,4,5,5'-テトラメチル-1,3,2-ジオキサボロラン (4.6 mL, 32 mmol) を滴下し、窒素雰囲気下 85 °C で 21 時間攪拌した。反応混合物に氷冷下水を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム-シリカゲルを通して乾燥 (酢酸エチルで溶出)、減圧濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 2:1 の後 1:1) に供し、酢酸エチル-ジエチルエーテルから結晶化させて 5-(アセチルアミノ)-2-(4,4,5,5'-テトラメチル-1,3,2-ジオキサボロラン

-2-イル)安息香酸 メチルエステルを含む混合物 (1.64 g) を得た。この混合物 (1.00 g) と、1-(3-ブロモフェニル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン (663 mg, 1.60 mmol)、炭酸ナトリウム (424 mg, 4.00 mmol) およびテトラキス(トリフェニルホスフィン)パラジウム(0) (185 mg, 0.160 mmol) の 1,2-ジメトキシエタン (8 mL) および水 (4 mL) 懸濁液を窒素雰囲気下 85 °C で 16 時間攪拌した。反応混合物に水を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム-塩基性シリカゲルを通して乾燥 (酢酸エチルで溶出)、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー (ヘキサン/酢酸エチル 2:1 の後 1:2) に供し、酢酸エチル-ジエチルエーテルから結晶化させて表題化合物 (264 mg、収率 31%) を得た。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.29 (6H, br s), 1.33 (6H, s), 2.07 (3H, s), 2.36 (2H, br s), 2.73 (2H, s), 3.62 (3H, s), 3.92 (3H, s), 6.61 (1H, s), 7.17 (1H, d, J = 8.4 Hz), 7.22 (1H, t, J = 1.4 Hz), 7.25-7.33 (2H, m), 7.35-7.41 (1H, m), 7.75 (1H, dd, J = 8.4, 2.3 Hz), 7.86 (1H, d, J = 2.3 Hz), 8.26 (1H, br s)。

実施例 6 5

4-(アセチルアミノ)-3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-2-カルボン酸

実施例 6 4 において、反応後の水層を合わせ、5 M 塩酸で弱酸性にし、飽和炭酸水素ナトリウム水溶液で中和、クロロホルムで 2 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム-シリカゲルを通して乾燥 (クロロホルムの後クロロホルム/メタノール 5:1 で溶出)、減圧濃縮した。残渣をメタノールに溶解し、活性炭処理、ろ過、減圧濃縮した。得られた残渣をメタノール-ジエチルエーテルから結晶化させて表題化合物 (134 mg、収率 16%) を得た。

¹H NMR (DMSO-d₆) δ 1.14 (6H, s), 1.19 (6H, s), 2.07 (3H, s), 2.26 (2H, s), 2.64 (2H, s), 3.79 (3H, s), 6.78 (1H, s), 7.19 (1H, t, J = 1.7 Hz), 7.25-7.32 (3H, s), 7.40 (1H, t, J = 7.4 Hz), 7.74 (1H, dd, J = 8.6, 2.2 Hz); 8.00 (1H, d, J = 2.2 Hz), 10.16 (1H, s)。

【0498】実施例 6 6

N-[4'-アミノ-3'-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-4-イル]アセトアミド

4-ブロモ-2-(3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)ベンゼンアミン (215 mg, 0.501 mmol)、4'-(4,4,5,5'-テトラメチル-1,3,2-ジオキサボロラン-2-イル)アセトアニリド (157 mg, 0.601 mmol)、炭酸ナトリウム (133 m

g、1.25 mmol) およびテトラキス(トリフェニルホスフィン)パラジウム(0) (29 mg, 0.025 mmol) の 1,2-ジメトキシエタン (1.5 mL)、エタノール (0.7 mL) および水 (0.7 mL) 懸濁液を窒素雰囲気下 85℃で 14 時間攪拌した。反応混合物に水を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム-塩基性シリカゲルを通して乾燥(酢酸エチルで溶出)、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー(ヘキサン/酢酸エチル 1:5 の後酢酸エチル)に供し、酢酸エチル-ジエチルエーテルから結晶化させて表題化合物 (89 mg、収率 37%) を得た。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.11 (3H, br s), 1.26 (3H, br s), 1.30 (3H, br s), 1.44 (3H, br s), 2.17 (3H, s), 2.30-2.46 (2H, m), 2.58 (1H, br d, J = 15.0 Hz), 2.80 (1H, br d, J = 15.0 Hz), 3.92 (3H, s), 4.56 (2H, br s), 6.59 (1H, s), 6.77 (1H, d, J = 8.4 Hz), 7.14 (1H, br s), 7.23 (1H, d, J = 2.1 Hz), 7.36 (1H, dd, J = 8.4, 2.1 Hz), 7.41 (2H, d, J = 8.7 Hz), 7.46 (2H, d, J = 8.7 Hz)。

実施例 67

N-[3'-[5-(シアノメチル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル][1,1'-ビフェニル]-4-イル]アセトアミド 1-(3-ブロモフェニル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-5-アセトニトリル (1.05 g, 2.32 mmol)、4'-(4,4,5,5-テトラメチル-1,3,2-ジオキサボロラン-2-イル)アセトアニリド (665 mg, 2.55 mmol)、炭酸ナトリウム (614 mg, 5.79 mmol) およびテトラキス(トリフェニルホスフィン)パラジウム(0) (134 mg, 0.116 mmol) の 1,2-ジメトキシエタン (8 mL) および水 (4 mL) 懸濁液を窒素雰囲気下 85℃で 16 時間攪拌した。反応混合物に水を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム-塩基性シリカゲルを通して乾燥(酢酸エチルで溶出)、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー(ヘキサン/酢酸エチル 5:1、2:1 の後 1:1)に供して表題化合物 (1.07 g、収率 91%) を得た。

非晶質。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.27 (6H, s), 1.31 (6H, s), 2.17 (3H, s), 2.21 (2H, s), 2.71 (2H, s), 3.75 (2H, s), 4.04 (3H, s), 7.32 (1H, d, J = 7.6 Hz), 7.44 (1H, t, J = 7.6 Hz), 7.45-7.62 (7H, m)。

実施例 68

1-(4'-アミノ[1,1'-ビフェニル]-3-イル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-5-酢酸エチルエステル

N-[3'-[5-(シアノメチル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メ

トキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル][1,1'-ビフェニル]-4-イル]アセトアミド (992 mg, 1.95 mmol) のエタノール (8 mL) 溶液に濃硫酸 (0.42 mL, 7.9 mmol) を滴下し、117 時間加熱還流した。反応混合物に氷水を加え、炭酸水素ナトリウム (2.0 g, 24 mmol) の酢酸エチル懸濁液に滴下、水で希釈し酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム-塩基性シリカゲルを通して乾燥(酢酸エチルで溶出)、減圧濃縮した。残渣をエタノール (8 mL) に溶解し、濃硫酸 (0.83 mL, 16 mmol) を滴下し、48 時間加熱還流した。反応混合物に氷水を加え、炭酸水素ナトリウム (4.0 g, 48 mmol) の酢酸エチル懸濁液に滴下、水で希釈し酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカラムクロマトグラフィー(ヘキサン/酢酸エチル 3:1 の後 1:1)に供して表題化合物 (778 mg、収率 78%) を得た。

非晶質。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.24-1.31 (3H, m), 1.25 (6H, s), 1.26 (6H, s), 2.20 (2H, s), 2.61 (2H, s), 3.74 (4H, s), 3.92 (3H, s), 4.19 (2H, q, J = 6.2 Hz), 6.75 (2H, d, J = 8.6 Hz), 7.29 (1H, dt, J = 7.6, 1.5 Hz), 7.37-7.44 (1H, m), 7.44 (2H, d, J = 8.6 Hz), 7.52-7.58 (2H, m)。

【0499】実施例 69

1-[4'-(アセチルアミノ)[1,1'-ビフェニル]-3-イル]-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-5-酢酸エチルエステル

1-(4'-アミノ[1,1'-ビフェニル]-3-イル)-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-5-酢酸エチルエステル (648 mg, 1.26 mmol) およびトリエチルアミン (0.21 mL, 1.5 mmol) のテトラヒドロフラン (8 mL) 溶液に氷冷下アセチルクロリド (0.10 mL, 1.4 mmol) を滴下し、同温で 10 分間攪拌した。反応混合物に水および飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水で 2 回洗浄、減圧濃縮して表題化合物 (683 mg、収率 98%) を得た。

40 非晶質。

¹H NMR (CDCl₃) δ 1.27 (12H, s), 1.28 (3H, t, J = 7.1 Hz), 2.15 (3H, s), 2.20 (2H, s), 2.62 (2H, s), 3.74 (2H, s), 3.92 (3H, s), 4.18 (2H, q, J = 7.1 Hz), 7.29-7.34 (1H, m), 7.41 (1H, t, J = 7.7 Hz), 7.47-7.58 (6H, m), 7.62 (1H, br s)。

実施例 70

1-[4'-(アセチルアミノ)[1,1'-ビフェニル]-3-イル]-3,4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-5-酢酸

50 1-[4'-(アセチルアミノ)[1,1'-ビフェニル]-3-イル]-3,

4,8,9-テトラヒドロ-6-メトキシ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-5-酢酸 エチルエステル (538 mg, 0.970 mmol) のメタノール (2 mL) 溶液に 5 M 水酸化ナトリウム水溶液 (0.48 mL, 2.4 mmol) を加え、45 分間加熱還流した。反応混合物に水を加え、ジエチルエーテルで洗浄、有機層を水で 3 回抽出した。合わせた水層に 1M 塩酸 (2.4 mL, 2.4 mmol) を加え、クロロホルムで 3 回抽出した。合わせた有機層を飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮して表題化合物 (393 mg、収率 77%) を得た。

非晶質。

$^1\text{H NMR}$ ($\text{DMSO}-d_6$) δ 1.14 (6H, s), 1.22 (6H, s), 2.06 (3H, s), 2.24 (2H, s), 2.55 (2H, br s), 3.63 (2H, s), 3.80 (3H, s), 7.28 (1H, d, $J = 7.8$ Hz), 7.47 (1H, t, $J = 7.8$ Hz), 7.54 (1H, s), 7.62 (2H, d, $J = 9.2$ Hz), 7.67 (2H, d, $J = 9.2$ Hz), 7.71 (1H, d, $J = 7.8$ Hz), 10.04 (1H, s), 12.32 (1H, s)。

実施例 7 1

1-[4'-(アセチルアミノ)-5-(6-エトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-3-カルボン酸

1-[4'-(アセチルアミノ)-5-(6-エトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-3-カルボン酸 メチルエステル (75 mg, 0.15 mmol) のメタノール (0.3 mL) 懸濁液に 5 M 水酸化ナトリウム水溶液 (76 μL , 0.38 mmol) を加え、80 $^{\circ}\text{C}$ で 40 分間攪拌した。反応混合物に 1 M 塩酸 (0.38 mL, 0.38 mmol) を加え、析出物をろ取、水洗して表題化合物 (56 mg、収率 77%) を得た。

$^1\text{H NMR}$ ($\text{DMSO}-d_6$) δ 1.27 (3H, s), 1.31 (3H, s), 2.06 (3H, s), 2.22-2.60 (2H, m), 3.98 (3H, s), 7.38 (1H, d, $J = 7.5$ Hz), 7.57 (1H, d, $J = 7.5$ Hz), 7.65-7.74 (5H, m), 7.80-7.84 (1H, m), 8.56 (1H, s), 10.06 (1H, s)。

【0500】実施例 7 2

N-[5'-(6-エトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)-2'-ヒドロキシ[1,1'-ビフェニル]-4-イル]アセトアミド

2-ブロモ-4-(6-エトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)フェノール (1.01 g, 2.27 mmol)、4'-(4,4,5,5-テトラメチル-1,3,2-ジオキサボロラン-2-イル)アセトアニリド (712 mg, 2.73 mmol)、テトラキス(トリフェニルホスフィン)パラジウム(0) (52 mg, 0.0454 mmol)、炭酸ナトリウム (313 mg, 2.95 mmol) の 1,2-ジメトキシエタン (5 mL) および水 (2.5 mL) 懸濁液を窒素雰囲気下 80 $^{\circ}\text{C}$ で 15 時間攪拌した。冷後、反応混合物に水を加え、酢酸エチルで 2 回抽出した。合わせた有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮した。残渣を塩基性シリカゲルカ

ラムクロマトグラフィー (酢酸エチル/メタノール 50:1 の後 10:1) に供し、減圧濃縮した。残渣を酢酸エチルから結晶化させて表題化合物 (422 mg、収率 37%) を得た。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.26 (6H, s), 1.32 (6H, s), 1.46 (3H, t, $J = 6.9$ Hz), 2.13 (3H, s), 2.33 (2H, s), 2.68 (2H, s), 4.18 (2H, q, $J = 6.9$ Hz), 6.59 (1H, s), 6.70 (1H, d, $J = 8.1$ Hz), 7.00 (1H, dd, $J = 8.1, 2.0$ Hz), 7.26-7.35 (5H, m), 8.20 (1H, s)。

実施例 7 3

[[4'-(アセチルアミノ)-5-(6-エトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-2-イル]オキシ]酢酸 1,1-ジメチルエチルエステル

N-[5'-(6-エトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)-2'-ヒドロキシ[1,1'-ビフェニル]-4-イル]アセトアミド (340 mg, 0.682 mmol) の N,N-ジメチルホルムアミド (3 mL) 溶液にブロモ酢酸 tert-ブチル (0.11 mL, 0.750 mmol) および炭酸カリウム (104 mg, 0.750 mmol) を加え、室温で 15 時間攪拌した。反応混合物に水を加え、酢酸エチルで抽出した。有機層を水および飽和塩化ナトリウム水溶液で洗浄、硫酸ナトリウム上で乾燥、ろ過、減圧濃縮し、表題化合物 (468 mg、定量的) を得た。

非晶質。

$^1\text{H NMR}$ (CDCl_3) δ 1.29 (6H, s), 1.32 (6H, s), 1.47 (3H, t, $J = 7.0$ Hz), 1.48 (9H, s), 2.17 (3H, s), 2.33 (2H, s), 2.71 (2H, s), 4.19 (2H, q, $J = 7.0$ Hz), 4.52 (2H, s), 6.61 (1H, s), 6.85 (1H, d, $J = 8.5$ Hz), 7.36 (1H, s), 7.38 (1H, d, $J = 8.5$ Hz), 7.54 (4H, s), 7.65 (1H, br s)。

実施例 7 4

[[4'-(アセチルアミノ)-5-(6-エトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-2-イル]オキシ]酢酸塩酸塩

[[4'-(アセチルアミノ)-5-(6-エトキシ-3,4,8,9-テトラヒドロ-3,3,8,8-テトラメチルフロ[2,3-h]イソキノリン-1-イル)[1,1'-ビフェニル]-2-イル]オキシ]酢酸 1,1-ジメチルエチルエステル (410 mg, 0.669 mmol) の 4 M

塩化水素/酢酸エチル溶液 (3 mL) を室温で 3 時間攪拌した。溶媒を減圧留去し、残渣に水を加え、5 M 水酸化ナトリウム水溶液を用いてアルカリ性にした。酢酸エチル-ジエチルエーテルで洗浄し、5 M 塩酸で酸性にして減圧濃縮した。残渣にメタノールを加え、不溶物をろ過によって除去し、ろ液を減圧濃縮した。同様の操作を 3 回繰り返し、ジエチルエーテルを用いて粉末化した。得られた粉末に 4 M 塩化水素/酢酸エチル溶液 (1.5 mL) を加え、室温で 3 時間攪拌した。溶媒を減圧留去し、表題化合物 (468 mg、収率 44%) を得た。

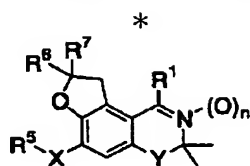
非晶質。

$^1\text{H NMR}$ (DMSO-d_6) δ 1.27-1.41 (15H, m), 2.06 (3H, s), 2.40 (2H, s), 3.09 (2H, s), 4.22 (2H, q, $J = 6.8$ Hz), 4.92 (2H, s), 7.07 (1H, s), 7.22 (1H, d, $J = 6.8$ Hz), 7.50-7.69 (6H, m), 10.12 (1H, s), 12.28 (1H, br s).

* 上記の実施例 9～74 で合成された化合物を以下の表 4 2～4 8 に示す。

【0501】

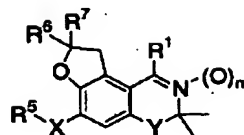
【表 4 2】



実施例	R ¹	R ⁵	R ⁶	R ⁷	X	Y	n	付加物
9		-C ₂ H ₅	-CH ₃	-CH ₃	O	-CH ₂ -	0	-
10		-CH ₃	-CH ₃	-CH ₃	S	-CH ₂ -	0	-
11		-CH ₃	-CH ₃	-CH ₃	O	-CH ₂ -	0	-
12		-CH ₃	-CH ₃	-CH ₃	O	-CH(OCH ₃)-	0	-
13		-CH ₃	-CH ₃	-CH ₃	O	-CH(OH)-	0	-
14		-CH ₃	-CH ₃	-CH ₃	O	-C(=O)-	0	-
15		-C ₆ H ₅	-CH ₃	-CH ₃	結合手	-CH ₂ -	0	-
16		-CH ₃	-CH ₃	-CH ₃	O	-CH ₂ -	0	-

【0502】

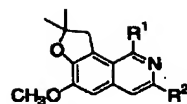
【表 4 3】



実施例	R ¹	R ⁶	R ⁶	R ⁷	X	Y	n	付加物
17		-CH ₃	-CH ₃	-CH ₃	O	-CH ₂ -	0	-
18		-CH ₃	-CH ₃	-CH ₃	O	-CH ₂ -	0	-
19		-CH ₃	-CH ₃	-CH ₃	O	-CH ₂ -	0	-
20		-CH ₃	-H	-H	O	-CH ₂ -	0	-
21		-CH ₃	-CH ₃	-CH ₃	O	-CH ₂ -	0	-
22		-CH ₃	-CH ₃	-CH ₃	O	-CH ₂ -	0	-
23		-CH ₃	-CH ₃	-CH ₃	O	-CH ₂ -	1	-

【0503】

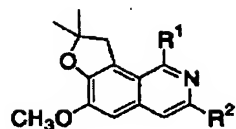
【表44】



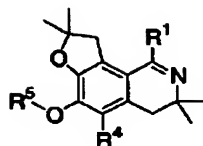
実施例	R ¹	R ²	付加物	実施例	R ¹	R ²	付加物
24		-H	-	32		-CH ₂ N(C ₂ H ₅) ₂	-
25		-CH ₃	-	33		-CH ₂ Cl	HCl
26		-CO ₂ CH ₃	-	34			-
27		-CO ₂ H	-	35		-CH ₂ NH ₂	-
28		-CONH ₂	-	36		-CH ₂ N(CH ₃) ₂	-
29		-CON(CH ₃) ₂	-	37		-CO ₂ CH ₃	-
30			-	38		-CO ₂ CH ₃	-
31		-CH ₂ OH	-	39		-CO ₂ CH ₃	-

【0504】

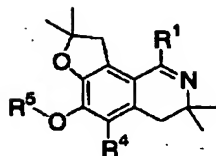
【表 45】



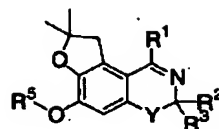
実施例	R ¹	R ²	付加物
40		-CO ₂ CH ₃	-
41		-CO ₂ CH ₃	-
42		-CH ₂ OH	-
43		-CH ₂ Cl	HCl
44			-
45		-CH ₂ NH ₂	-
46			-
47			-
48			-
49		-CH ₂ NH ₂	-
71		-CO ₂ H	-



実施例	R ¹	R ⁴	R ⁵	付加物
50		-H	-CH ₃	-
51		-H	-CH ₃	-
52		-H	-CH ₃	-
53		-H	-CH ₃	HCl
54		-H	-CH ₃	-
60		-H	-CH ₃	-
61		-H	-CH ₃	-
62		-H	-CH ₃	-
63		-H	-CH ₃	-



実施例	R ¹	R ⁴	R ⁵	付加物
64		-H	-CH ₃	-
65		-H	-CH ₃	-
66		-H	-CH ₃	-
67		-CH ₂ CN	-CH ₃	-
68		-CH ₂ CO ₂ C ₂ H ₅	-CH ₃	-
69		-CH ₂ CO ₂ C ₂ H ₅	-CH ₃	-
70		-CH ₂ CO ₂ H	-CH ₃	-



実施例	R ¹	R ²	R ³	R ⁵	Y	付加物
55		-H	-H	-CH ₃	-C(CH ₃) ₂ -	-
56		-H	-H	-CH ₃	-C(CH ₃) ₂ -	-
57		-H	-H	-CH ₃	-C(CH ₃) ₂ -	HCl
58		-H	-H	-CH ₃	-C(CH ₃) ₂ -	-
59		-H	-H	-CH ₃	-C(CH ₃) ₂ -	-
72		-CH ₃	-CH ₃	-C ₂ H ₅	-CH ₂ -	-
73		-CH ₃	-CH ₃	-C ₂ H ₅	-CH ₂ -	-
74		-CH ₃	-CH ₃	-C ₂ H ₅	-CH ₂ -	HCl

【0508】試験例1

(1) Tat およびRev 発現ベクターの構築

RNAzol B (TEL-TEST) を用いて抽出したHIV-1 JR-FL株感染細胞の全RNAを鋳型にランダムな6塩基からなるオリゴDNA (GIBCO BRL) をプライマーにして逆転写反応を行い1st strand cDNAを合成した。逆転写反応にはSuperscript First-strand Synthesis System for RT-PCR kit (GIBCO BRL) を使用した。その1st strandcDNA を鋳型にPCRを行いtat, revのcDNAを増幅した。PCRはGeneAmp PCR system2400 (Applied Biosystems) を使用して94℃で2分間処理した後、94℃で1分間、60℃で1分間、72℃で2分間の反応を30サイクル行い、最後に72℃で5分間反応させた。酵素はTAKARA ExTaq (宝酒造) を使用し、ta

tのクローニングにはプライマーセット 5' - ccgaattcattggagccagtagatcctagc -3' (プライマー1、配列番号：1) と5' - caggatccctattcttttagttcctgactc -3' (プライマー2、配列番号：2) を、revのクローニングにはプライマーセット 5' - ccgaattcatggcaggaagaagcggagac -3' (プライマー3、配列番号：3) と5' - caggatccttatagcaaagccctttccaagccctg -3' (プライマー4、配列番号：4) を使用した。プライマー配列は登録されているHIV-1 JR-FLの塩基配列 (Genbank登録番号：U63632) を参考に決定した。増幅した配列をアガロースゲル電気泳動し、約0.5kbのDNA断片を回収した。その後、断片を制限酵素EcoRI (宝酒造) と制限酵素BamHI (宝酒造) で消化して、pBluescriptベクター (Str

atagene) のEcoRI/BamHI部位に組み込んだ後大腸菌HB101のコンピテントセル (宝酒造) を形質転換することでプラスミドpBS-tatおよびpBS-revを得た。pBS-tatおよびpBS-revのシーケンスを確認した後、制限酵素EcoRIと制限酵素BamHIで消化してその断片をpSG5ベクター (Stratagene) のEcoRI/BamHI部位に組み込んで、プラスミドpSG5-tatおよびpSG5-revを得た。

(2) Env 発現ベクターの構築

DNAエクストラクターキット (和光純薬) を用いて抽出したHIV-1 JR-FL株感染細胞のゲノムDNAを鋳型にPCRを行いenvのcDNAを増幅した。PCRはGeneAmp PCR system 2400 (Applied Biosystems) を使用して94℃で2分間処理した後、94℃で1分間、60℃で1分間、72℃で2分間の反応を30サイクル行い、最後に72℃で5分間反応させた。

酵素はTAKARA ExTaq (宝酒造) を使用し、プライマーセット 5' - ccgaattcatgagagtgaaggggatcaggaagagt -3' (プライマー5、配列番号: 5) と5' - caggatccttatagcaaacgaccttccaagccctg -3' (プライマー6、配列番号: 6) を使用した。プライマー配列は登録されているHIV-1 JR-FLの塩基配列 (Genbank登録番号: U63632) を参考に決定した。増幅した配列をアガロースゲル電気泳動し、約2.6kbのDNA断片を回収した。その後、断片を制限酵素EcoRI (宝酒造) と制限酵素BamHI (宝酒造) で消化して、pSG322ベクターのEcoRI/BamHI部位に組み込んだ後大腸菌HB101のコンピテントセル (宝酒造) を形質転換することでプラスミドpSG322-envを得た。pSG322ベクターはpSG5ベクター (Stratagene) にpBR322 (宝酒造) の複製起点を組み込むことによって作製した。

(3) レポーター細胞の作製
まず、pGL3-BasicVector (Promega) のBamHI部位とSalI部位との間にネオマイシン耐性遺伝子を導入したpGL3-Basic neoを作製した。次に、HIV-1のLTR配列約220 bpをpGL3-Basic neoのXhoIとHindIII部位間に連結し、大腸菌JM109のコンピテントセル (宝酒造) を形質転換することでプラスミドpLTR-Lucを得た。また、pMSRa neo (W000/44756、特開2000-281685) より作製したpMSRa puroのMluI部位とNotI部位の間に、pCKR5 (W099/32100、特開2000-128782) よりPCRで増幅して得たCCR5遺伝子を連結し、大腸菌JM109のコンピテントセル (宝酒造) を形質転換することでプラスミドpMSRa puro-CCR5を得た。急性リンパ芽球性白血病細胞であるMOLT-4 (AT

CC) をセルカルチャーフラスコ 150 cm² (コースター) で培養し、PBSで1回洗浄後、PBSで懸濁した。Cuvette (0.4cm electrode gap, Bio-Rad, #165-2088) 内に1×10⁷ cells のMOLT-4と10 μgのpLTR-Lucとを混和し、エレクトロポレーション (Bio-Rad Gene-Pulser, 電圧0.25 kV、キャパシタンス960 μF) でDNAを導入した。その後、選択培地(10%FCS, 500 μg/mL ジェネティシン (GIBCO BRL) を含むRPMI 1640培地) にて培養し、ジェネティシン耐性株の取得した。これらのジェネティシン耐性株を100 nMホルボールミリステートアセテート (和光純薬) を含む選択培地にて20時間刺激したのち、ピッケージン2.0 (和光純薬) を添加し、マルチラベルカウンター (ARVO SX, ワラックベルトールドジャパン) で測定して、発光量の高いMOLT-4/LTR-lucを得た。次に、このMOLT-4/LTR-lucをセルカルチャーフラスコ 150 cm² (コースター) で培養し、PBSで1回洗浄後、PBSで懸濁した。Cuvette (0.4cm electrode gap, Bio-Rad, #165-2088) 内に1×10⁷ cells のMOLT-4/LTR-lucと10 μgのpMSRa puro-CCR5とを混和し、エレクトロポレーション (Bio-Rad Gene-Pulser, 電圧0.25 kV、キャパシタンス960 μF) でDNAを導入した。その後、選択培地 (10%FCS, 0.5 μg/mL ピューロマイシンを含むRPMI 1640培地) にて培養し、MOLT-4 /LTR-luc-CCR5株の取得した。

(4) エントリー阻害作用の測定

10% 牛胎児血清と10 mM HEPES (pH7.0) を含むDMEM 培地で培養したHEK293細胞 (ATCC) にEffectene (QIAGEN) を使ってpSG5-tatとpSG322-envとpSG5-revを導入し、その細胞を1日間培養した。その一方で、MOLT-4 /LTR-luc-CCR5を50 μLのRPMI 1640培地 (10% 牛胎児血清と10 mM HEPES (pH7.0) を含む) で96ウェルOPAQUEプレート (コースター) にて2日間培養した後、上記のトランスフェクションしたHEK293細胞と希釈した化合物を添加した。24時間培養後、各ウェルにピッケージン2.0 (和光純薬) を添加して、発光量をマルチラベルカウンター (ARVO SX, Wallac) にて測定した。化合物無添加の発光量を100%、化合物無添加で且つトランスフェクションしたHEK293細胞も加えない場合の発光量を0%とし、阻害率を算出した。結果を表49に示す。

【0509】

【表49】

化合物番号	エントリー阻害作用 (IC ₅₀ , nM)
合成例 260	26
合成例 444	22
合成例 445	12
合成例 459	7.5
合成例 570	22
合成例 579	44
実施例 10	14
実施例 17	22
実施例 23	8.7

【0510】

10* <210> 3

【発明の効果】本発明のエントリー阻害剤は、優れたエントリー阻害作用を有しており、HIV感染症およびAIDSなどの予防・治療剤として有用である。

【0511】

【配列表】

<110> Takeda Chemical Industries, Ltd.

<120> Entry inhibitor

<130> B02305

<150> JP2001-290675

<151> 2001-09-25

<160> 6

<210> 1

<211> 29

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<400> 1

ccgaattcat ggagccagta gatcctagc

<210> 2

<211> 29

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<400> 2

caggatccct attctttagt tcctgactc

<211> 29

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<400> 3

ccgaattcat ggcaggaaga agcggagac

<210> 4

<211> 35

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<400> 4

caggatcctt atagcaaagc cttttccaag ccctg

<210> 5

<211> 35

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<400> 5

ccgaattcat gagagtgaag gggatcagga agagt

<210> 6

<211> 35

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<400> 6

caggatcctt atagcaaagc cttttccaag ccctg

20

30

29

29

*

29

35

35

35

フロントページの続き

(51) Int. Cl.⁷

識別記号

F I

ターマコード (参考)

A 6 1 K 31/55

A 6 1 K 31/55

A 6 1 P 31/18

A 6 1 P 31/18

43/00

1 2 3

43/00

1 2 3

(72) 発明者 飯澤 祐史

京都府向日市寺戸町殿長31番地20

F ターム (参考) 4C050 AA01 AA08 BB07 CC16 EE01

FF02 FF05 GG01 HH02 HH03

HH04

4C086 AA01 AA02 AA03 CB22 MA04

MA16 MA35 MA52 MA55 NA14

NA15 ZB33 ZC55

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☐ BLACK BORDERS
- ☐ IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- ☐ FADED TEXT OR DRAWING
- ☐ BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING
- ☐ SKEWED/SLANTED IMAGES
- ☐ COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS
- ☐ GRAY SCALE DOCUMENTS
- ☐ LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT
- ☒ REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY
- ☐ OTHER: _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.